新潟県埋蔵文化財調査報告書 第73集

磐越自動車道関係発掘調査報告書

上ノ平遺跡Ｃ地点

１９９６

新　潟　県　教　育　委　員　会

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

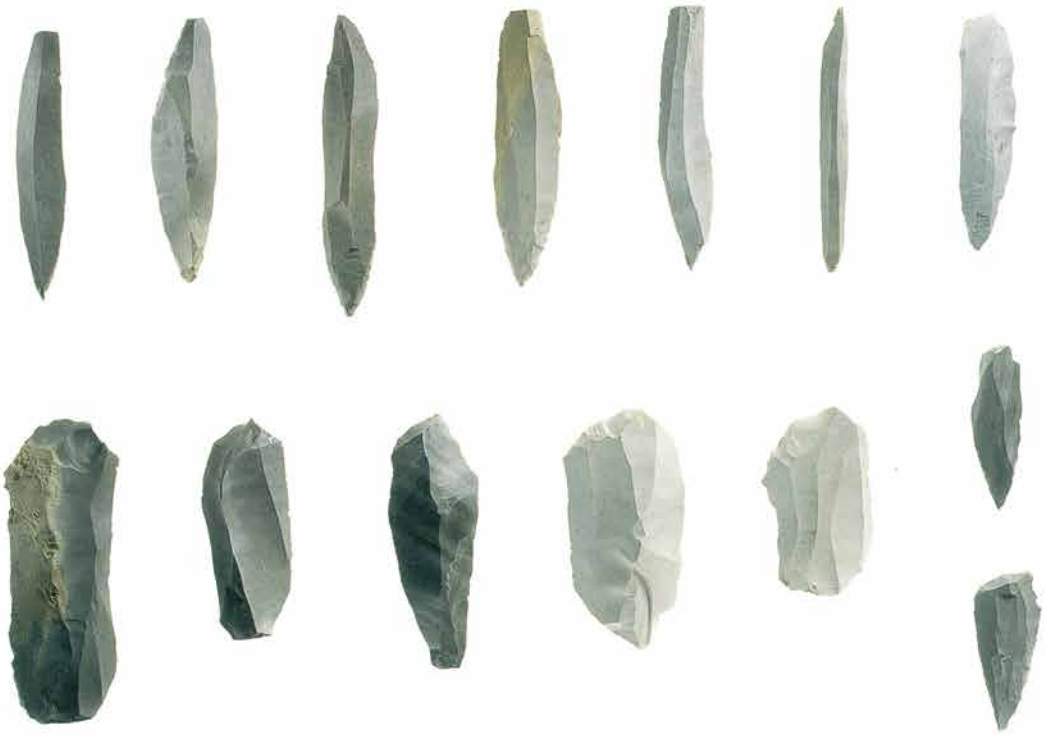
磐越自動車道関係発掘調査報告書

上ノ平遺跡Ｃ地点

１９９６

新　潟　県　教　育　委　員　会

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団



上：旧石器時代のナイフ形石器・彫刻刀形石器
下：縄文時代草創期の尖頭器・接合資料
撮影：小川忠博氏

序

平成９年度に全線開通予定の磐越自動車道は、福島県いわき市と本県新潟市を結ぶ高速自動車道で、太平洋側と日本海側とが結ばれるとともに常磐・東北・北陸自動車道とも連結され、地域の発展には多大の役割を果たすものと期待されております。

新潟県教育委員会では、磐越自動車道の建設に先だって数多くの遺跡の発掘調査を行ってまいりました。本書は磐越自動車道阿賀野川サービスエリアの建設に伴う上ノ平遺跡Ｃ地点の発掘調査報告書です。この遺跡では旧石器時代から中世までのさまざまな遺構、遺物が発見されました。旧石器時代および縄文時代草創期の調査は、同じ阿賀野川サービスエリアの上ノ平遺跡Ａ地点、吉ケ沢遺跡Ｂ地点とあわせて、県内でも初めての大規模な面積の調査であり、当時の人間行動復元のためのきわめて貴重な情報を得ることができました。また、縄文時代前期の遺構・遺物は当時の一時的なキャンプ地の姿を示すものとして注目されます。中世のものと思われる焼土坑群は、山間地の利用形態を示す資料となるものと思われます。

今回の調査成果が、旧石器時代、縄文時代を初めとした考古学研究のための資料として広く活用されるとともに、県民の方々が埋蔵文化財に対する理解と認識を深める契機となれば幸いです。

最後に、本調査に参加された地元の方々、ならびに多大なご協力とご援助を賜った三川村・津川町・安田町教育委員会、日本道路公団新潟建設局、同津川工事事務所に対して厚くお礼申し上げます。

平成８年３月

新潟県教育委員会
教育長　平野清明

例　　言

1　本報告書は新潟県東蒲原郡三川村大字上戸谷渡字上ノ山6270ほかに所在する上ノ平遺跡C地点の発掘調査記録である。発掘調査は磐越自動車道の建設に伴い、新潟県が日本道路公団から受託して実施したものである。

2　発掘調査は平成3年度は調査主体である新潟県教育委員会が、平成4・5年度は財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団(以下、埋文事業団)に調査を委託して実施した。

3　整理および報告書作成にかかる作業は平成7年度に実施し、埋文事業団職員、埋文事業団作業員がこれにあたった。ただし、接合資料の実測用写真の撮影は、小川忠博氏に委託した。

4　出土遺物と調査にかかる資料は全て新潟県教育委員会が保管している。遺物の注記記号は「上ノ平C」として遺物番号、遺物によっては出土地点・層位を併記した。

5　石器石材については、新潟県教育センター地学研究室の河内一男氏にご教示を賜った。

6　文中の註は全て脚註とした。また、引用文献は著者および発行年(西暦)を文中に〔　〕で示し、巻末に一括して著者、発行年、論文名、出典などを掲載した。

7　本書の執筆、編集は沢田　敦(埋文事業団文化財調査員)が担当した。ただし、第Ⅸ章は株式会社古環境研究所に委託した。

8　発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々から多大なご教示・助言を賜った。厚くお礼申し上げる。(敬称略、五十音順)

阿部朝衛、石川恵美子、荒木繁雄、岡村道雄、小熊博史、小野　昭、織笠　昭、小林　克、桜井美枝、菅沼　亘、須藤隆司、諏訪間順、関口博史、高尾好之、高橋春栄、田中耕作、谷　和隆、立木宏明、津島秀章、堤　　隆、中島庄一、中村由克、西井幸雄、比田井民子、藤塚　明、藤原妃敏、本田秀生、増子正三、本橋恵美子、柳田俊雄、山川史子、吉井雅勇、渡辺哲也、三川村教育委員会、津川町教育委員会、安田町教育委員会

9　本遺跡の調査成果については『現地説明会資料』『財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団平成4年度年報』『財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団平成5年度年報』『埋文にいがた』などの埋文事業団刊行物の他に、下記の刊行物でその内容を紹介したが、本書の記載内容がこれらに優先する。

沢田　敦　1992「新潟県三川村上ノ平遺跡の調査」『第5回長野県旧石器文化交流会－発表要旨－』pp. 42～46

沢田　敦　1992「新潟県三川村上ノ平遺跡の調査」『第6回東北日本の旧石器文化を語る会　予稿集』pp. 16～18

沢田　敦　1993「三川村上ノ平遺跡の調査―旧石器を中心として―」『新潟県考古学会第5回大会研究発表会発表要旨』pp. 6～9

沢田　敦・飯坂盛泰　1993「新潟県三川村上ノ平遺跡・吉ケ沢遺跡の調査」『第7回東北日本の旧石器文化を語る会　予稿集』pp. 17～20

凡　　例

1　石器実測図では磨擦痕、敲打痕（ツブレ）、節理面を下図のとおり表現した。

2　旧石器時代、縄文時代草創期の実測図番号の後に遺物番号を（　）内に記した。

3　石器実測図の白抜きの剥離面は後世のものである。

4　旧石器時代、縄文時代草創期遺物観察表における器種の略記号は以下のとおりである。

KN……ナイフ形石器	BU……彫刻刀形石器	PO……尖頭器
BF……両面加工石器	RF……二次加工ある剥片(石刃)	BP……彫刻刀形石器母型
CO……石核	BL……石刃	FL……剥片
BS……彫刻刀削片	CH……チップ	PB……礫

5　旧石器時代、縄文時代草創期遺物観察表における石器石材で岩石名すべてを表記できないものは以下のとおり略した。

珪頁……珪質頁岩	凝灰……凝灰岩	チャ……チャート	流紋……流紋岩
鉄石……鉄石英	粘板……粘板岩	黒曜……黒曜石	花崗……花崗岩
安山……安山岩	無斑……無斑晶質安山岩		

6　土色・土器胎土・母岩の色調の表記は、農林水産省農林水産会議・財団法人日本色彩研究所監修『新版　標準土色帳』によった。

7　遺物観察表の北南・西東は大グリッド内での平面座標である。座標原点となる大グリッド杭は当該グリッドの北西隅に位置する。

目　　次

第Ⅰ章　序　　言

1　調査に至る経緯 …… 1

第Ⅱ章　遺跡の環境

1　旧石器時代 …… 2

2　縄文時代 …… 2

第Ⅲ章　調査の概要

1　第1次調査 …… 4

A　調査方法 …… 4
B　調査経過 …… 4
C　調査体制 …… 4

2　第2次調査 …… 5

A　調査方法 …… 5
B　調査経過 …… 7
C　調査体制 …… 8

3　整理作業 …… 8

A　方　　法 …… 8
B　経過と体制 …… 9

第Ⅳ章　遺跡の概要

1　基本層序 …… 10

2　遺跡の概要 …… 12

A　旧石器時代 …… 12
B　縄文時代草創期 …… 12
C　縄文時代(草創期を除く) …… 13
D　歴史時代 …… 13

第Ⅴ章　旧石器時代の調査

1　遺　構 …… 14
2　遺　物 …… 15
A　分　類 …… 15
B　石器各説 …… 20
C　母岩別資料 …… 32
D　接合資料 …… 35
E　ふるい選別資料 …… 36

第Ⅵ章　縄文時代草創期の調査

1　遺　構 …… 51
2　遺　物 …… 52
A　分　類 …… 52
B　石器各説 …… 52
C　母岩別資料 …… 55
D　接合資料 …… 56

第Ⅶ章　縄文時代（草創期を除く）の調査

1　遺物の出土状況 …… 77
2　遺　構 …… 77
3　遺　物 …… 78
A　土　器 …… 78
B　石　器 …… 81

第 Ⅷ 章　歴史時代の調査

1　遺　　構 …… 92

A　土　　坑 …… 92
B　ピ　ッ　ト …… 96

2　遺　　物 …… 97

A　砥　　石 …… 97

第 Ⅸ 章　自然科学分析

1　上ノ平遺跡Ｃ地点出土炭化材の樹種同定 …… 98

A　試料と方法 …… 98
B　結　　果 …… 98

2　放射性炭素年代測定 …… 99

第 Ⅹ 章　ま　と　め

1　旧石器時代の石器について …… 100

A　石器製作技術 …… 100
B　神山型彫刻刀における刃部再生と形態変化 …… 103
C　石器群の編年的位置づけ …… 105

2　縄文時代草創期の石器について …… 106

A　接合資料から見た石器製作技術 …… 106
B　石器群の編年的位置づけ …… 108

3　縄文時代前期末の上ノ平遺跡Ｃ地点 …… 109

4　歴史時代の焼土坑について …… 110

《要　　約》 …… 111

《引用・参考文献》 …… 112

挿　図　目　次

第１図　周辺の遺跡 …… 3
第２図　グリッド設定図 …… 5
第３図　土層柱状図 …… 11
第４図　ブロック毎標高別遺物出土点数 …… 16
第５図　旧石器分類図 …… 18
第６図　石器属性計測基準 …… 21
第７図　縄文時代草創期接合資料１模式図 …… 57
第８図　縄文時代草創期接合資料２個体１模式図 …… 57
第９図　縄文時代草創期接合資料２個体２模式図 …… 57
第10図　縄文時代草創期接合資料３模式図 …… 58
第11図　縄文時代草創期接合資料４模式図 …… 59
第12図　縄文時代草創期接合資料５個体１模式図 …… 59
第13図　縄文時代草創期接合資料５個体２模式図 …… 60
第14図　縄文時代草創期接合資料７模式図 …… 60
第15図　縄文時代草創期接合資料８模式図 …… 60
第16図　縄文石器主要器種の実測展開方法と部位名称、計測基準 …… 88
第17図　土坑形態分類図 …… 92
第18図　石刃の剝離長幅散布図 …… 101
第19図　石刃打面幅厚散布図 …… 101
第20図　石刃剝離角ヒストグラム …… 101
第21図　石刃幅厚散布図 …… 101
第22図　ナイフ形石器幅厚散布図 …… 101
第23図　彫刻刀形石器幅厚散布図 …… 101
第24図　ナイフ形石器・彫刻刀形石器基部加工角度ヒストグラム …… 102
第25図　接合資料６における刃部再生による形態変化 …… 103
第26図　彫刻刀削片の主要剝離面と石器背面・主要剝離面のなす角の補角ヒストグラム …… 104
第27図　彫刻刀削片の主要剝離面と石器背面・主要剝離面のなす角の補角相関図 …… 104
第28図　彫刻刀形石器の刃部再生工程模式図 …… 104
第29図　接合資料１剝片の剝離長幅散布図 …… 107
第30図　接合資料１剝片の打面幅厚散布図 …… 107
第31図　接合資料３剝片の剝離長幅散布図 …… 107
第32図　接合資料３剝片の打面幅厚散布図 …… 107
第33図　接合資料４剝片の剝離長幅散布図 …… 107
第34図　接合資料４剝片の打面幅厚散布図 …… 107

表　目　次

第１表　周辺の遺跡 …… 3
第２表　グリッド基準杭の国土座標 …… 5
第３表　ブロック毎層位別出土点数 …… 16
第４表　旧石器時代石器組成表 …… 20
第５表　旧石器時代石材組成表 …… 20
第６表　ブロック３ａ石器組成表 …… 22
第７表　ブロック３ａ石材組成表 …… 22
第８表　ブロック３ｂ石器組成表 …… 23
第９表　ブロック３ｂ石材組成表 …… 23
第10表　ブロック４石器組成表 …… 24
第11表　ブロック４石材組成表 …… 24
第12表　ブロック５石器組成表 …… 26
第13表　ブロック５石材組成表 …… 26
第14表　ブロック７ａ石器組成表 …… 28
第15表　ブロック７ａ石材組成表 …… 28
第16表　ブロック７ｂ石器組成表 …… 29
第17表　ブロック７ｂ石材組成表 …… 29
第18表　ブロック８石器組成表 …… 31
第19表　ブロック８石材組成表 …… 31
第20表　旧石器時代の各母岩の特徴 …… 33
第21表　旧石器時代各母岩の石器点数と分類 …… 34
第22表　旧石器時代各母岩のブロック別出土点数 …… 34
第23表　ブロック３ａ・３ｂふるい選別資料出土点数 …… 37
第24表　ブロック５ふるい選別資料出土点数 …… 38
第25表　ブロック３ａ出土石器観察表(1) …… 39
第26表　ブロック３ａ出土石器観察表(2) …… 40
第27表　ブロック３ｂ出土石器観察表(1) …… 40
第28表　ブロック３ｂ出土石器観察表(2) …… 41
第29表　ブロック４出土石器観察表 …… 41
第30表　ブロック５出土石器観察表(1) …… 42
第31表　ブロック５出土石器観察表(2) …… 43
第32表　ブロック５出土石器観察表(3) …… 44
第33表　ブロック７ａ出土石器観察表(1) …… 44
第34表　ブロック７ａ出土石器観察表(2) …… 45
第35表　ブロック７ａ出土石器観察表(3) …… 46

第36表　ブロック７ｂ出土石器観察表 …… 46
第37表　ブロック８出土石器観察表 …… 46
第38表　ブロック外出土石器観察表 …… 47
第39表　ナイフ形石器観察表 …… 47
第40表　彫刻刀形石器観察表(1) …… 48
第41表　彫刻刀形石器観察表(2) …… 49
第42表　石刃観察表 …… 50
第43表　縄文時代草創期石器組成表 …… 53
第44表　縄文時代草創期石材組成表 …… 53
第45表　ブロック１石器組成表 …… 53
第46表　ブロック１石材組成表 …… 53
第47表　ブロック６石器組成表 …… 54
第48表　ブロック６石材組成表 …… 54
第49表　ブロック９石器組成表 …… 54
第50表　ブロック９石材組成表 …… 54
第51表　ブロック10石器組成表 …… 54
第52表　ブロック10・11石材組成表 …… 54
第53表　ブロック11石器組成表 …… 54
第54表　縄文時代草創期の各母岩の特徴 …… 56
第55表　縄文時代草創期各母岩の石器点数と分類 …… 56
第56表　縄文時代草創期各母岩のブロック別出土点数 …… 56
第57表　ブロック１出土石器観察表(1) …… 61
第58表　ブロック１出土石器観察表(2) …… 62
第59表　ブロック１出土石器観察表(3) …… 63
第60表　ブロック１出土石器観察表(4) …… 64
第61表　ブロック１出土石器観察表(5) …… 65
第62表　ブロック１出土石器観察表(6) …… 66
第63表　ブロック１出土石器観察表(7) …… 67
第64表　ブロック１出土石器観察表(8) …… 68
第65表　ブロック１出土石器観察表(9) …… 69
第66表　ブロック１出土石器観察表(10) …… 70
第67表　ブロック１出土石器観察表(11) …… 71
第68表　ブロック６出土石器観察表 …… 72
第69表　ブロック９出土石器観察表(1) …… 73
第70表　ブロック９出土石器観察表(2) …… 74
第71表　ブロック10出土石器観察表 …… 75
第72表　ブロック11出土石器観察表 …… 75
第73表　接合資料１剝片観察表 …… 75

第74表　接合資料２剥片観察表 …… 75
第75表　接合資料３剥片観察表 …… 76
第76表　接合資料４剥片観察表 …… 76
第77表　接合資料７剥片観察表 …… 76
第78表　接合資料８剥片観察表 …… 76
第79表　不定形石器細分基準 …… 83
第80表　縄文時代の石器、器種・石材組成表 …… 84
第81表　縄文土器観察表 …… 89
第82表　縄文時代の石器観察表(1) …… 90
第83表　縄文時代の石器観察表(2) …… 91
第84表　歴史時代の土坑観察表 …… 97
第85表　樹種同定結果 …… 99
第86表　放射性炭素年代測定の試料と方法 …… 99
第87表　放射性炭素年代測定結果 …… 99
第88表　完形石刃の形態分類 …… 99
第89表　彫刻刀面刃部再生時の削片の数と割合 …… 105

図　版　目　次

図　面

巻頭カラー図版　旧石器時代のナイフ形石器・彫刻刀形石器　縄文時代草創期の尖頭器・接合資料
図版１　阿賀野川サービスエリア予定地内発掘調査範囲図
図版２　遺跡全体図(1)
図版３　遺跡全体図(2)
図版４　旧石器時代・縄文時代草創期発掘調査区図
図版５　ブロック３a遺物分布図
図版６　ブロック３b遺物分布図
図版７　ブロック４遺物分布図
図版８　ブロック５遺物分布図
図版９　ブロック７a遺物分布図
図版10　ブロック７b遺物分布図
図版11　ブロック８遺物分布図
図版12　ブロック３a出土石器実測図
図版13　ブロック３a出土石器実測図
図版14　ブロック３a出土石器実測図
図版15　ブロック３a出土石器実測図
図版16　ブロック３a・３b出土石器実測図
図版17　ブロック３b出土石器実測図

図版18　ブロック４出土石器実測図
図版19　ブロック４・５出土石器実測図
図版20　ブロック５出土石器実測図
図版21　ブロック５出土石器実測図
図版22　ブロック５出土石器実測図
図版23　ブロック５・７a出土石器実測図
図版24　ブロック７a出土石器実測図
図版25　ブロック７a出土石器実測図
図版26　ブロック７a・７b出土石器実測図
図版27　ブロック７b出土石器実測図
図版28　ブロック８出土石器実測図
図版29　ブロック８・ブロック外出土石器実測図
図版30　ブロック外出土・表面採集石器実測図
図版31　表面採集石器・接合資料実測図
図版32　接合資料実測図
図版33　接合資料実測図
図版34　接合資料実測図
図版35　接合資料実測図
図版36　旧石器時代母岩１～６遺物分布図
図版37　旧石器時代母岩７～12遺物分布図
図版38　旧石器時代母岩13～18遺物分布図
図版39　旧石器時代母岩19～24遺物分布図
図版40　旧石器時代母岩25～30遺物分布図
図版41　旧石器時代母岩31～35・単独母岩遺物布図
図版42　ブロック１遺物分布図
図版43　ブロック６遺物分布図
図版44　ブロック９遺物分布図
図版45　ブロック10・11遺物分布図
図版46　縄文草創期の石器実測図
図版47　縄文草創期の石器実測図
図版48　縄文草創期の石器実測図
図版49　縄文時代草創期母岩１遺物分布図
図版50　縄文時代草創期母岩２・３遺物分布図
図版51　縄文時代草創期母岩４遺物分布図
図版52　縄文時代草創期母岩５遺物分布図
図版53　縄文時代草創期母岩６～10遺物分布図
図版54　縄文時代草創期接合資料１模式図
図版55　縄文時代草創期接合資料１実測図

図版56　縄文時代草創期接合資料１石器実測図
図版57　縄文時代草創期接合資料１石器実測図
図版58　縄文時代草創期接合資料１石器実測図
図版59　縄文時代草創期接合資料１石器実測図
図版60　縄文時代草創期接合資料１石器実測図
図版61　縄文時代草創期母岩１石器実測図
図版62　縄文時代草創期接合資料２実測図
図版63　縄文時代草創期接合資料２個体１実測図
図版64　縄文時代草創期接合資料２個体１石器実測図
図版65　縄文時代草創期接合資料２個体２実測図
図版66　縄文時代草創期接合資料３実測図
図版67　縄文時代草創期接合資料３模式図
図版68　縄文時代草創期接合資料３石器実測図
図版69　縄文時代草創期接合資料３石器実測図
図版70　縄文時代草創期接合資料３石器実測図
図版71　縄文時代草創期接合資料４実測図
図版72　縄文時代草創期接合資料４（その１）実測図
図版73　縄文時代草創期接合資料４（その１）模式図
図版74　縄文時代草創期接合資料４（その２）実測図
図版75　縄文時代草創期接合資料４（その２）模式図
図版76　縄文時代草創期接合資料４石器実測図
図版77　縄文時代草創期接合資料４石器実測図
図版78　縄文時代草創期接合資料４石器実測図
図版79　縄文時代草創期接合資料４・母岩４石器実測図
図版80　縄文時代草創期接合資料５実測図
図版81　縄文時代草創期接合資料５個体１実測図
図版82　縄文時代草創期接合資料５個体１石器実測図
図版83　縄文時代草創期接合資料５個体２実測図
図版84　縄文時代草創期接合資料５個体２石器実測図
図版85　縄文時代草創期接合資料５個体２・接合資料６実測図
図版86　縄文時代草創期母岩５・６石器実測図
図版87　縄文時代草創期接合資料７実測図
図版88　縄文時代草創期接合資料８実測図
図版89　縄文時代草創期母岩外石刃・剝片実測図
図版90　縄文時代の遺物分布図
図版91　縄文時代の遺構実測図
図版92　縄文土器実測図・拓本
図版93　縄文土器実測図・拓本

図版94　縄文土器実測図・拓本
図版95　縄文時代の石器実測図(西地区)
図版96　縄文時代の石器実測図(西地区)
図版97　縄文時代の石器実測図(西地区)
図版98　縄文時代の石器実測図(西地区)
図版99　縄文時代の石器実測図(西地区)
図版100　縄文時代の石器実測図(西地区)
図版101　縄文時代の石器実測図(西地区)
図版102　縄文時代の石器実測図(西地区)
図版103　縄文時代の石器実測図(西地区・東地区)
図版104　縄文時代の石器実測図(東地区)
図版105　縄文時代の石器実測図(東地区)
図版106　縄文時代の石器実測図(東地区)
図版107　縄文時代の石器実測図(東地区)
図版108　縄文時代の石器実測図(東地区)・歴史時代の砥石実測図
図版109　歴史時代の土坑実測図
図版110　歴史時代の土坑実測図
図版111　歴史時代の土坑実測図
図版112　歴史時代の土坑実測図
図版113　歴史時代の土坑実測図
図版114　ピット実測図

写　真

図版115　1．遺跡遠景　2．遺跡遠景　3．上ノ平遺跡Ｃ地点遠景　4．吉ケ沢遺跡Ｂ地点遠景
図版116　1．遺跡空撮写真　2．遺跡遠景　3．ブロック３a・３b遺物出土状況　4．基本層序
5．彫刻刀形石器出土状況　6．ブロック５遺物出土状況　7．ブロック５遺物出土状況
図版117　1．ブロック４遺物出土状況　2．ブロック７a遺物出土状況　3．ブロック７b遺物出土状況
図版118　1．彫刻刀形石器出土状況　2．ブロック８遺物出土状況　3．石刃出土状況　4．東地区完掘状況
図版119　1．ブロック１Ⅱa層遺物出土状況　2．ブロック１遺物出土状況　3．ブロック１遺物出土状
図版120　1．ブロック１遺物出土状況　2．ブロック６遺物出土状況　3．ブロック９遺物出土状況
4．ブロック６尖頭器出土状況
図版121　1．西地区縄文時代の遺物出土状況　2．西地区縄文時代の遺物出土状況
3．西地区南斜面遺物出土状況　4．西地区南斜面遺物出土状況
図版122　1．SI１検出状況　2．SI１完掘状況　3．SI１土層断面　4．SI１ Pit１断面
5．SI Pit２断面　6．SI Pit３断面
図版123　1．Pit 15土器出土状況　2．東地区新崎式土器出土状況　3．１号集石遺構　4．２号集石遺構
5．３号集石遺構

図版124　1．SK 1 土層完掘　2．SK 1 土層断面　3．SK 2 完掘　4．SK 2 土層断面　5．SK 4 完掘
6．SK 4 土層断面　7．SK 6 完掘　8．SK 6 土層断面　9．SK 7 完掘　10．SK 7 土層断面
図版125　1．SK 14完掘　2．SK 14土層断面　3．SK 17完掘　4．SK 17土層断面　5．SK 18完掘
6．SK 18土層断面　7．SK 21完掘　8．SK 21土層断面　9．SK 24完掘　10．SK 24土層断面
図版126　1．SK 20完掘　2．SK 20土層断面　3．SK 22完掘　4．SK 22土層断面　5．SK 23完掘
6．SK 23土層断面　7．SK 25完掘　8．SK 25土層断面　9．SK 19完掘　10．SK 19土層断面
図版127　1．SK 26完掘　2．SK 26土層断面　3．SK 28完掘　4．SK 28土層断面　5．SK 32完掘
6．SK 32土層断面　7．SK 29完掘　8．SK 29土層断面　9．SK 37完掘　10．SK 37土層断面
図版128　1．SK 50完掘　2．SK 50土層断面　3．SK 30完掘　4．SK 30土層断面　5．SK 51完掘
6．SK 51土層断面　7．SK 52完掘　8．SK 52土層断面　9．SK 31完掘　10．SK 31土層断面
図版129　1．SK 33完掘　2．SK 33土層断面　3．SK 34完掘　4．SK 34土層断面　5．SK 35完掘
6．SK 35土層断面　7．SK 38完掘　8．SK 38土層断面　9．SK 39完掘　10．SK 39土層断面
図版130　1．SK 41完掘　2．SK 41土層断面　3．SK 42完掘　4．SK 42土層断面　5．SK 43完掘
6．SK 43土層断面　7．SK 46完掘　8．SK 46土層断面　9．SK 44完掘　10．SK 44土層断面
図版131　1．SK 45完掘　2．SK 45土層断面　3．Pit 1 完掘　4．Pit 1 土層断面　5．Pit 2 完掘
6．Pit 2 土層断面　7．Pit 4 完掘　8．Pit 4 土層断面　9．Pit 9 完掘　10．Pit 9 土層断面
図版132　ブロック 3 a 出土石器
図版133　ブロック 3 a 出土石器
図版134　ブロック 3 a 出土石器・ブロック 3 b 出土石器
図版135　ブロック 3 b 出土石器・ブロック 4 出土石器
図版136　ブロック 4 出土石器・ブロック 5 出土石器
図版137　ブロック 5 出土石器
図版138　ブロック 5 出土石器
図版139　ブロック 5 出土石器・ブロック 7 a 出土石器
図版140　ブロック 7 a 出土石器
図版141　ブロック 7 a 出土石器・ブロック 7 b 出土石器
図版142　ブロック 7 b 出土石器・ブロック 8 出土石器
図版143　ブロック外出土石器・表面採集石器
図版144　表面採集石器・接合資料 1 ・接合資料 2 ・接合資料 3
図版145　接合資料 4 ・接合資料 5 ・接合資料 6 ・接合資料 7
図版146　接合資料 8 ・接合資料 9 ・接合資料10・接合資料11・接合資料12
図版147　縄文時代草創期のトゥール
図版148　縄文時代草創期のトゥール・石核
図版149　縄文時代草創期接合資料 1
図版150　縄文時代草創期接合資料 1
図版151　縄文時代草創期接合資料 1
図版152　縄文時代草創期接合資料 1
図版153　縄文時代草創期接合資料 1 ・母岩 1

図版154　縄文時代草創期母岩１・接合資料２・接合資料２個体１
図版155　縄文時代草創期接合資料２個体１・接合資料２個体２・母岩２
図版156　縄文時代草創期接合資料３
図版157　縄文時代草創期接合資料３・母岩３
図版158　縄文時代草創期接合資料４
図版159　縄文時代草創期接合資料４
図版160　縄文時代草創期接合資料４
図版161　縄文時代草創期接合資料４・母岩４
図版162　縄文時代草創期接合資料５・接合資料５個体１
図版163　縄文時代草創期接合資料５・接合資料５個体２
図版164　縄文時代草創期接合資料５個体２・接合資料６・母岩５・母岩６
図版165　縄文時代草創期接合資料７・母岩７・接合資料８・母岩外
図版166　縄文時代草創期母岩外・縄文時代の石器(西地区)
図版167　縄文土器
図版168　縄文土器
図版169　縄文時代の石器(西地区)
図版170　縄文時代の石器(西地区)
図版171　縄文時代の石器(西地区)
図版172　縄文時代の石器(西地区)
図版173　縄文時代の石器(西地区・東地区)
図版174　縄文時代の石器(東地区)
図版175　縄文時代の石器(東地区)
図版176　縄文時代の石器(東地区)・歴史時代の砥石
図版177　上ノ平遺跡Ｃ地点出土炭化材の顕微鏡写真

第Ⅰ章　序　　言

磐越自動車道は福島県いわき市を起点として常磐自動車道から分岐し、郡山市で東北縦貫自動車道と連結、さらに会津若松市を経て新潟市で北陸自動車道と結ばれる総延長212㎞の高速道路である。この高速道路の完成によって、阿武隈山系および奥羽山脈を越え太平洋側と日本海側の生活圏が直結されることにより、沿線地域の産業、経済、文化の交流が促進されることが期待されている。

1　調査に至る経緯

磐越自動車道の新潟～津川間は昭和53年12月に基本計画が決定され、昭和57年１月に建設大臣から日本道路公団新潟建設局(以下道路公団)に調査の開始指示が出された。昭和59年８月道路公団は新潟県教育委員会(以下県教委)に対して、新潟～津川間の計画路線内およびその周辺の分布調査を依頼した。県教委はこれを受けて、同年10月に周知の遺跡の分布調査結果および平野部や段丘上には未周知の遺跡が存在する可能性があり、引き続いて分布調査および第１次調査を実施する必要性があることを回答した。

昭和60年２月には、新潟～津川間の工事施工命令が、建設大臣から道路公団に出された。道路公団は、県教委の行った分布調査の結果を考慮して、法線の再検討を行い、赤坂山遺跡をはずすなど、路線の計画変更を行っている。同年３月には新津～安田間、11月には安田～津川間、翌年８月には新潟～新津間の最終的な路線を発表した。

これに伴い、埋蔵文化財遺跡分布調査が昭和62年11月24～27日に県教委によって実施された。この時点では阿賀野川サービスエリア[1)](以下阿賀野川SA)予定地内では遺物は発見できなかったが、地形上遺跡の存在する可能性があるので、第１次調査を行う必要がある旨を道路公団に伝えた。その後、平成元年３月６～７日に磐越自動車道津川工事事務所管内発掘予定地の踏査が行われた。当時の上ノ平遺跡の状況は畑地および杉の植林地で遺物は採集できなかったが、踏査の結果この遺跡は阿賀野川の河岸段丘上に立地し、より上流部ではこうした河岸段丘面上に多くの縄文時代の遺跡が立地しており、ここでも遺跡の存在する可能性があること、そして何より、小林弘氏、高橋春栄氏らの研究者によって阿賀野川SA予定地内およびその周辺で旧石器時代の遺物が採集されていることから〔小林・高橋1988〕、今後第１次調査を行うという方針をもって、道路公団と協議を行った。

これらのことを受けて、平成２年11月19日～12月７日には阿賀野川SA予定地内の第１次調査が実施された。その結果、円形土坑などの遺構や磨石類、剝片などの遺物が得られた。このことから、東西に走る谷の北側の段丘面を上ノ平遺跡(A・B・C地点)、南側の段丘面を吉ヶ沢遺跡(A・B地点)と命名した。

1) 上ノ平遺跡A地点の報告書では三川サービスエリアとしていたが、その後阿賀野川サービスエリアに名称が変更された。

第Ⅱ章　遺跡の環境

遺跡周辺の環境については、すでに上ノ平遺跡A地点(以下A地点)の報告書で詳述した〔沢田ほか1994〕。したがって、重複を避けるため本報告書ではA地点報告書刊行以降に調査が行われた周辺の旧石器時代、縄文時代の遺跡についてのみ述べることにする。

1　旧石器時代

安田町上野林J遺跡は1992年に安田町教育委員会によって発掘調査が行われ、台形様石器、石核、剝片などが出土した。石器群の内容から姶良Tn火山灰降灰以前の石器群と考えられる〔田中・増子ほか1994〕。同じ安田町の円山遺跡では財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団(以下埋文事業団)が北陸自動車道建設のための土取りに伴い発掘調査を行い、東山型ナイフ形石器、エンドスクレイパーなどを組成するいわゆる東山石器群を調査した〔高橋1995〕。

2．縄文時代

磐越自動車道建設に伴い、阿賀野川中流域で数多くの縄文時代の遺跡が調査された。

三川村蟹沢・上城遺跡は平成5年度に発掘調査が行われ、密度はあまり高くはなかったものの、縄文時代後期の南三十稲場式期の遺構、遺物が得られた〔佐藤ほか1995〕。同村牧ノ沢遺跡も平成5年度に発掘調査が行われ、土坑20基や縄文土器が得られた〔滝沢ほか1995〕。津川町大坂上道遺跡、猿額遺跡、中棚遺跡は平成4・5年度に調査が行われ、前期末、中期前葉、後期中葉を中心に遺構、遺物が出土した〔滝沢ほか1995〕。特に、猿額遺跡では前期末葉の大木5～6式の土器が比較的まとまって出土した。

上川村北野遺跡は沼沢火山の噴火に伴うと考えられる洪水砂層(以下沼沢火山灰層)の上下から遺構、遺物が出土した〔高橋1995〕。上層からは中期末～後期初頭の集落跡、中期前葉、中葉の住居跡、フラスコ状土坑群が検出され、下層からは前期末の集落跡、早期後半の土器などが出土した。遺構、遺物の密度の高さから、上層、下層ともに当該期、当地域における拠点的集落であった可能性が高い。同村七堀道下遺跡は平成6年度に埋文事業団によって発掘調査が行われ、やはり沼沢火山灰層の上下から遺構、遺物が出土した。上層からは中期前葉、末、後期中葉の土器、石器が出土し、下層からは土器は出土しなかったものの、18点の石器が出土した〔飯坂1994〕。同村上小島遺跡は平成7年度に埋文事業団によって発掘調査が行われ、縄文時代早期を中心とした遺構、遺物が得られた。

同村キンカ杉遺跡は平成5・6年度に村教育委員会によって発掘調査が行われ、中期中葉のフラスコ状土坑群と多量の遺物が得られたという。同村大谷原遺跡は平成6・7年に村教育委員会によって発掘調査が行われ早期中葉、中期初頭の遺構、遺物が得られた。特に、早期中葉は竪穴住居跡、土坑などが検出された。

No.	遺跡	時期(遺物)	No.	遺跡	時期(遺物)	No.	遺跡	時期(遺物)	No.	遺跡	時期(遺物)	No.	遺跡	時期(遺物)	No.	遺跡	時期(遺物)
1	上小山中	縄文	24	花田	平安	47	上野林F	縄文	70	丸山	縄文	93	渡場赤坂A	縄文
2	金クソ沢	製鉄跡	25	家浦A	平安	48	上野林G	縄文	71	保田新割	縄文	94	渡場赤坂B	縄文中期
3	鶴渕室	町	26	家浦B	室町	49	上野林H	縄文	72	中峯下	縄文	95	馬下稲場	縄文後期
4	大室	縄文	27	成田屋敷		50	岩野A	平安	73	蔵敷林	縄文	96	馬下	縄文
5	下里A	旧石器	28	家浦	室町	51	岩野B	縄文中期	74	五輪敷沢窯跡	平安	97	竹林	縄文
6	下里B	縄文	29	横峰A	縄文晩期	52	下篭田	室町	75	用水林	縄文	98	小栗山	縄文中期
7	川端A	縄文	30	横峰B	縄文中期	53	家裏	縄文	76	山下A	弥生中期	99	切畑	縄文前期
8	川端B	縄文後期	31	横峰C	縄文中・後期	54	家添	縄文	77	山下B	平安	100	幅	縄文中期
9	大室堤下	縄文中期	32	横峰D	旧石器	55	石仏野	先土器	78	八百刈	平安	101	薬師平	縄文中期
10	山王田	平安	33	小山崎	縄文後期	56	篭田中山	縄文	79	北郷	室町	102	大蔵	縄文中・後期
11	王ヶ峯	縄文前期	34	行塚	縄文中期	57	後興野		80	新割	縄文中期・平安	103	殿屋敷	縄文中期
12	貝喰	縄文	35	中道	縄文中・後期	58	宮ノ越	鎌倉・平安	81	徳正寺	縄文中期	104	大平	石斧
13	十二神		36	藤堂	縄文中・後期	59	門前	室町	82	野中	縄文中・後期	105	堂田	縄文中・後期
14	風吹沢	縄文中期	37	物見山	弥生中期	60	雲雀田	古墳	83	不動院	製鉄跡	106	中ノ蟹沢	縄文
15	貝喰平	縄文中期	38	山ノ下	縄文中・後期	61	大平	旧石器	84	鶏子沢	縄文	107	蟹沢	縄文
16	布依徒塚	縄文	39	二本松	縄文	62	大日ヶ原Ⅰ		85	円山	縄文前・中期	108	上城	縄文後期
17	村杉	縄文中期～	40	手城山	縄文	63	大日ヶ原Ⅱ	縄文中期	86	萩野	縄文中期	109	中峰	縄文
18	薬師平A		41	手代山製鉄跡	平安	64	滝山	室町	87	官林	縄文	110	五十島	縄文中期
19	B		42	上野林A	縄文中期	65	日除平	縄文	88	赤坂山	縄文	111	西岩谷	縄文後期・平安
20	徘沢		43	上野林B	縄文中期	66	中山	縄文中期	89	赤坂山B		112	新山	縄文
21	上ノ山	縄文中期・平安	44	上野林C	平安	67	ツベタ	縄文中・後期	90	寺坂山	中世	113	蔵田	縄文
22	新明野	室町	45	上野林D	縄文	68	ツベタB	平安	91	赤坂山中世窯跡				
23	内山王	室町	46	上野林E	縄文	69	吉ヶ沢平	縄文	92	六野瀬	縄文中期～平安			

第1図・第1表　周辺の遺跡

（国土地理院発行 平成3年「新津」平成4年「津川」1:50,000原図）

第Ⅲ章　調査の概要

既に述べたように阿賀野川SA予定地内の第1次調査は平成2年に行われた。この結果を受けて、平成3年に第2次調査を行ったが、この調査により上ノ平遺跡C地点、吉ケ沢遺跡B地点の調査範囲が大きく拡大することになり、平成4・5年に継続して調査が行われた。この時の範囲拡大の経緯は上ノ平遺跡A地点の報告書に詳しく述べられている。ここでは平成3年以降の調査を第2次調査として、A地点報告書との重複を避けるため、第2次調査については平成4年以降の調査を中心に説明する。

1　第1次調査

A　調査方法

調査対象面積は56,400㎡で、対象範囲の全面に対して調査を行った。この時点で遺跡の状況は畑地と山林であったので、調査は畑地についてはバックホーを用いて、山林は人力で行った。トレンチはバックホーが2×5m、人力掘削が1×1mで183か所を任意に設定した。確認調査面積は上段で723㎡であった。

B　調査経過

5か所のトレンチから遺構が検出され、21か所のトレンチから剝片などの石器を中心に遺物が出土した。この結果から、東西に走る谷の北側では段丘面東端の10,300㎡、段丘面中央の1,020㎡、段丘西端の900㎡で第2次調査が必要と判断され、それぞれ上ノ平遺跡A地点・B地点・C地点と命名された。谷の南側では段丘面東端の800㎡、段丘面西端900㎡で第2次調査が必要とされ、それぞれ吉ケ沢遺跡A地点・B地点と命名された。

C　調査体制

調査主体	新潟県教育委員会(教育長　堀川徹夫)	
管　理	大島圭己	(新潟県教育庁文化行政課長)
	吉倉長幸	(〃　課長補佐)
指　導	横山勝栄	(〃　埋蔵文化財第1係長)
	本間信昭	(〃　埋蔵文化財第2係長)
庶　務	藤田守彦	(〃　主事)
担　当	山本　肇	(〃　主任)
	藤巻正信	(〃　主任)
	関　洋介	(〃　文化財専門員)

2　第2次調査

A　調査方法

(1)　グリッドの設定

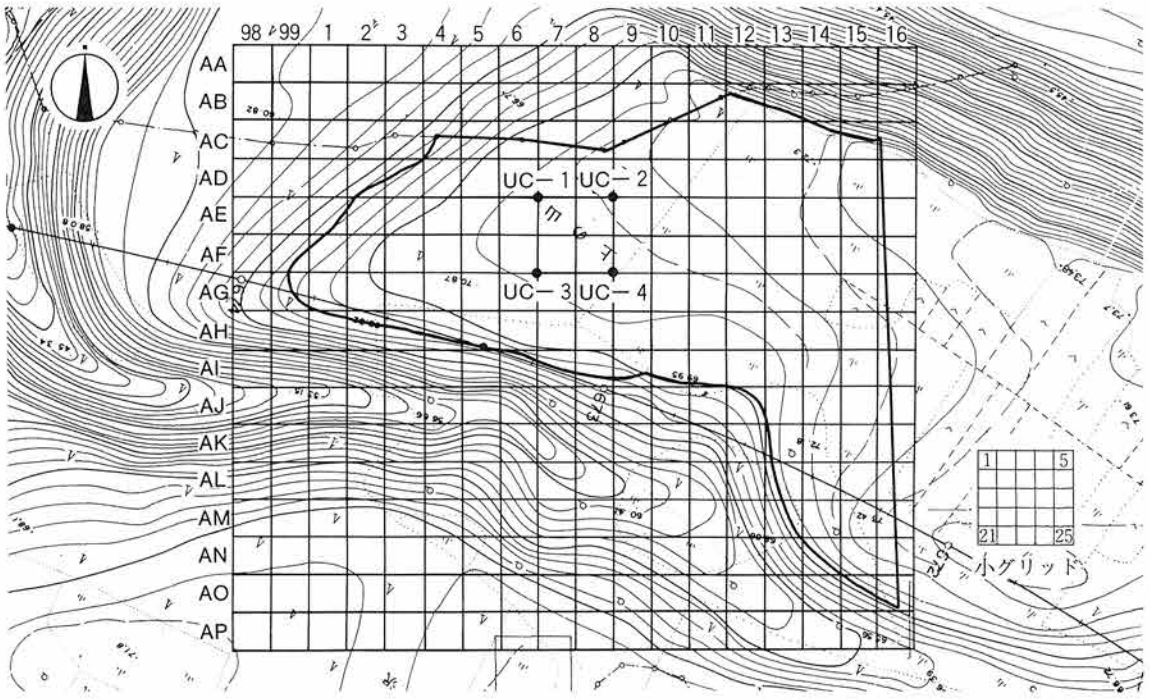
平成3年の発掘調査で範囲を大幅に拡張する必要があることが判明したため、平成4年度の発掘調査では範囲の拡大に伴いグリッド名称を大きく変更した。グリッド名称変更の経緯については既にA地点報告書の中で触れられているが、重要事項であると思われるのでここでもう一度説明することにする。

グリッドの基点となるのは平成3年に設定されたUC－1～4であり、その国土座標上の位置は第2表に示したとおりである。グリッドの基準線はUC－1～4をそれぞれ結んで延長したものであり、真の東西南北方向に合わせてある。10mグリッドを大グリッドとし、平成3年度は北から南へローマ数字でⅠ、Ⅱ、Ⅲ……とあらわし、西から東へアルファベットでA、B、C……とあらわした。それぞれ、UC－1はM－Ⅳ、UC－2はO－Ⅳ、UC－3はM－Ⅵ、UC－4はO－Ⅵになった。大グリッドはさらに5行5列に25の小グリッドに分割され、西から東、北から南に向かって1、2、3……23、24、25と呼称した。したがって、北西隅が1、北東隅が5、南西隅が21、南東隅が25である。小グリッドまでの呼称はA－Ⅱ－5のようになる。

平成4年度の調査では発掘区を拡張する必要が出てきたため、グリッドの呼称方法も見直すこととした。

第2表　グリッド基準杭の国土座標

旧杭名	新杭名	国土座標
UC－1	AE7	(192882.545, 72302.366)
UC－2	AE9	(192882.545, 72322.366)
UC－3	AG7	(192862.545, 72302.366)
UC－4	AG9	(192862.545, 72322.366)



第2図　グリッド設定図

グリッドの基点と基準線は平成3年度のものをそのまま継承し、北から南へアルファベットでAA、AB……AZ、BA、BB……と、西から東へアラビア数字で1、2、3……とあらわした。そして、A地点とC地点を同一座標上で調査できるように、UC－1(M－Ⅳ)をAE7、UC－2(O－Ⅳ)をAE9、UC－3(M－Ⅵ)をAG7、UC－4(O－Ⅵ)をAG9とした。平成3年と同様に、大グリッドはさらに5行5列に25の小グリッドに分割され、西から東、北から南に向かって1、2、3……23、24、25と呼称した。したがって、北西隅が1、北東隅が5、南西隅が21、南東隅が25である。小グリッドまでの呼称はAE9－15のようになる。

(2) 調査方法

まず、表土除去をバックホーを用いて行ったが、第1次調査によって遺物集中地点のあることがわかっている範囲については人力で表土除去を行った。表土除去の後、南北基準線の10・12ライン、東西基準線のAGラインに土層観察用のベルトを残して人力で包含層除去を行った。この時点ですでに判明していた遺物集中地点の範囲についてはより詳細な調査が必要なため、包含層除去の範囲から除外した。また、包含層除去で旧石器時代の遺物が複数出土した範囲についても遺物集中地点の可能性があるため、その時点で包含層除去をやめた。

遺構検出は基本層のⅡb層の上面とⅢ層の上面で包含層除去と並行して行った。上ノ平遺跡C地点で検出されることが予想された遺構の多くは、歴史時代の焼土坑で縄文時代の包含層であるⅡa層を切って掘り込まれており、本来遺構検出はⅡa層上面で行う必要がある。しかし、Ⅱa層上面で遺構を検出して調査したA地点での調査成果から、①遺構密度が低い、②Ⅱa層上面から掘り込まれている焼土坑は焼け面の存在、埋土の特徴から明らかに縄文時代以前の遺構と区別できる、③焼土坑の埋土上層から遺物が出土した例がない、ことが判明していたのでⅡb層以下で遺構確認を行った。したがって、縄文時代の遺構と歴史時代の焼土坑を同一確認面上で調査したことになる。確認した遺構は全て半截、土層断面写真撮影・実測、完掘、完掘写真撮影・実測を行った。ただし、集石遺構は写真撮影・平面図作成の後、半截、土層断面写真撮影・実測を行った。実測は、集石遺構の平面図、断面図を1/10、それ以外の遺構は1/20で行った。

旧石器時代、縄文時代草創期の遺物集中地点の発掘は移植ごて、小ジョレンを用いて行い、可能な限り微細な遺物の検出に努めた。一回の掘り下げは5㎝とし、一回ごとに炭化物の集中、焼土や遺構の有無を確認しながら、掘り下げを繰り返した。掘り下げは2回連続して遺物が出土しないことを基準として、やめることにした。結果として、各遺物集中地点とも基本層のⅤ層中位まで掘り下げた。出土遺物は柱で残し、出土状況写真撮影後取り上げた。なお、遺物は集中地点であるないにかかわらず、全て座標、標高、出土層位を台帳に記録して取り上げた。遺物番号は、集中地点出土遺物は集中地点ごとの通し番号、それ以外の遺物はその全体での通し番号とした。なお、調査はほぼ全面同時進行で行ったため、集中地点以外から出土した遺物は10ライン以西(以下西地区)は1からの通し番号、以東(以下東地区)は1001からの通し番号とした。また、ブロック3・5については微細遺物の検出のため、ふるい選別を行った。ふるい選別はブロックの範囲を50㎝グリッドに分割し、各グリッドの一回掘り下げ分づつを土嚢袋にサンプリングした後、水洗選別した。したがって、1つの取り上げ単位はおよそ12,500ccである。ふるい選別用土壌サンプルの採集はⅢ層上面から2回行った。したがって、悉皆採集ではないが、A地点でのふるい選別の結果から、微細遺物の分布等はある程度実態を反映していると考えている。

包含層発掘の終了後、より下層の遺物の有無を確認するため、2×2m(Ⅶ層上面まで)と2×4m(Ⅲ層上面まで)のトレンチを設定し深掘を行った(図版4)。

B　調 査 経 過

平成４・５年の調査について記す。

(1)　平成４年度の調査

調査期間：平成４年４月22日～７月22日

当初、平成４年度の調査はＡ地点調査班とは別の調査班が行うことになっていたのであるが、遺跡東側の2,500㎡について道路公団から工事工程上早期の引き渡しを要請されたので、Ａ地点調査班が同時並行で行うことになった。

上記の2,500㎡について４月22日から表土除去を行い、この後、遺構確認・発掘を行った。この範囲では、土坑９基、ピット４基を検出しこれを調査した。その後、旧石器時代の確認調査を行い、ブロック５を検出した。ブロック５の調査を終了し、平成４年度の調査が終了したのは７月22日であった。

(2)　平成５年の調査

調査期間：平成５年４月12日～８月24日

平成５年の調査は、上ノ平遺跡Ｃ地点と中峰遺跡、吉ケ沢遺跡Ｂ地点にそれぞれ別の調査班が入り並行して行う予定であったが、道路公団からの上ノ平遺跡Ｃ地点の早期引き渡しの要請により、中峰遺跡の調査終了後、中峰遺跡・吉ケ沢遺跡Ｂ地点の調査班の応援を得て発掘することとなった。

４月12日器材を搬入し、まず表土除去を行った。表土除去は５月７日に終了し、引き続き包含層発掘に入った。５月中旬から中峰遺跡班の作業員も加わり60名を越える作業員で発掘作業を行った。この後、主に発掘区の西地区を本来の上ノ平遺跡Ｃ地点調査班が調査を行い、東地区を中峰遺跡・吉ケ沢遺跡Ｂ地点調査班が調査を行った。両地区では主体となる時期が異なるため以下は西地区と東地区に分けて経過を説明する。

西地区では、５月７日から包含層発掘を行った。遺物は主に縄文時代前期末の土器、石器が出土した。また、調査区南側の斜面からも遺物が出土し、ここで予想以上に手間取ってしまった。６月中旬以降、遺構精査・発掘、遺物集中地点の調査を並行して行った。検出された遺構は、歴史時代の焼土坑、縄文時代のピットなどである。また、大型の両面加工尖頭器の存在などから、西地区のブロックが縄文時代草創期のものであることも明らかとなった。また、７月に入って、AG５区に焼土をまばらに含む土層が分布していることがわかり、遺構の存在が予想されることから慎重に遺構確認を行い、SI１を検出した。７月中旬以降はブロック１の調査、SI１の調査を行い、また、旧石器時代の深掘トレンチの発掘を行った。

東地区では、５月中旬から包含層発掘を行い、５月下旬から並行して遺構確認・発掘を行った。検出された遺構は、歴史時代の焼土坑、縄文時代の集石遺構などである。また、包含層発掘では縄文時代中期前葉と思われる土器、石器のほかに旧石器時代の遺物が集中して出土する地点があることがわかり、第１次調査で確認されたもの以外にも遺物集中地点があることが判明した。６月下旬から旧石器時代の遺物集中地点の調査に入りブロック８・３・４・７・９の順で調査を行った。調査の結果、ブロック３～８はナイフ形石器をブロック９は尖頭器を出土することが判明した。また、７月上旬以降可能なところから旧石器時代の深掘トレンチの発掘を行った。

以上の経過で発掘調査は進行し、全ての調査が終了したのは８月24日であった。

C 調査体制

(1) 平成4年

調査主体　新潟県教育委員会(教育長　本間栄三郎)
調　　査　財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団(理事長　本間栄三郎)
管　　理　藍原直木　(事務局長)
　　渡辺耕吉　(総務課長)
　　茂田井信彦(調査課長)
指　　導　戸根与八郎(調査課調査第1係長)
担　　当　沢田　敦　(　〃　専門員)
職　　員　中沢　毅　(　〃　主任)
　　関　洋介　(　〃　専門員)
　　飯坂盛泰　(　〃　専門員)
　　山田　昇　(　〃　嘱託)
　　小池右子　(　〃　嘱託)
庶　　務　藤田守彦　(総務課主事)

(2) 平成5年

調査主体　新潟県教育委員会(教育長　本間栄三郎)
調　　査　財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団(理事長　本間栄三郎)
管　　理　藍原直木　(事務局長)
　　渡辺耕吉　(総務課長)
　　茂田井信彦(調査課長)
指　　導　藤巻正信　(調査課調査第1係長)
担　　当　飯坂盛泰　(　〃　専門員)
職　　員　大川原英智(　〃　主任)
　　中沢　毅　(　〃　主任)
　　沢田　敦　(　〃　専門員)
　　小池右子　(　〃　嘱託)
　　大杉真実　(　〃　嘱託)
庶　　務　藤田守彦　(総務課主事)

3 整理作業

A 方　　法

出土遺物の大部分は石器で、旧石器時代・縄文時代草創期のものが多い。石器はまず水洗、注記を行い、

その後、遺物台帳を作成した。この遺物台帳は報告書の観察表になるものでこの時点で所属時期の決定、分類、計測を行った。作成した台帳はコンピューターに入力し、台帳管理などを行った。実測は旧石器時代、縄文時代草創期のトゥールは全点行うことを原則とし、その他の石刃、剥片、削片や縄文時代の遺物は選んで実測した。実測は、主に作業員が簡易実測器〔鈴木・高橋1992〕を使用して行ったが、石器の稜線、リング、フィッシャーの記入は調査員が行った。石器実測は点数が多かったこともあり最も多くの時間を要した。石器接合は実測と並行して行ったが、特に縄文時代草創期で良好な接合資料が得られたこともあり、この作業に約4カ月を費やした。土器は、平箱で約3箱とそれほど多くなかった。接合、復元の後、作業員が実測、採拓したものを調査員が点検・修正した。

図面は台帳作成、点検・修正を行った後、遺跡全体図などの作成、トレース、レイアウトを行った。

B　経過と体制

(1)　経　　過

出土遺物の水洗、注記、図面・写真の整理・台帳作成、遺構カード作成は基本的に発掘調査と並行して行い、残ったものは調査終了後、埋文事業団曽和分室で行った。

本格的に整理作業が始まったのは平成6年12月からである。平成6年12月～平成7年3月までは調査員2名で行ったが、平成4年4月以降は調査員1名で行った。他に、作業員約5名が調査員を補佐した。

まず、平成7年1～2月は遺物台帳作成を主に行い、これと並行して縄文土器の接合、石器実測、石器接合作業を行い、縄文土器接合はこれを終了した。石器接合は主に作業員が中心となって行い、7月までこれを行った。石器実測は作業員が稜線を実測し、調査員がチェック、リング・フィッシャー入れを行い、途中5月に調査員が発掘調査に出るなどの中断もあったものの、10月25日にこれを終了した。遺物実測図のトレースは実測作業と並行して8月から11月中旬まで行った。12月以降図版・挿図作成および原稿執筆を行った。

(2)　体　　制

指　導　藤巻正信（調査課調査第1係長）
担　当　沢田　敦（　〃　文化財調査員）
職　員　山田　昇（　〃　嘱託・平成6年12月～7年3月）

第Ⅳ章　遺跡の概要

1　基本層序(第3図)

遺跡の基本層序はA地点と基本的に同じである〔沢田ほか1994〕。Ⅰ層は表土で、縄文時代の包含層であるⅡa層の堆積は薄く、段丘面上では合わせて30～40cmである。焼土坑がⅡa層上面で確認できることから、Ⅱa層の年代的な下限が中世であることがわかる。ただし、Ⅱa層上面は後世の耕作等で削平されている。Ⅱb層はいわゆる漸移層であるが、縄文時代前期末の遺物がⅡb層と全く区別できない層から出土した。また、竪穴住居跡であるSI1の埋土もⅡb層との識別がきわめて困難であった。こうしたことを考え合わせると、本遺跡では土層の堆積速度が極めて遅いため、黒色土の発達が極端に悪く、縄文時代の包含層であっても褐色を呈しているものと考えられる。したがって、Ⅱb層の年代的な下限は縄文時代前期まで下るものと思われる。

Ⅲ～Ⅴ層がいわゆるローム層で層厚は約1mである。縄文時代草創期の遺物は表土からⅣ層にかけて出土し、旧石器時代の遺物は表土からⅤ層にかけて出土した。どちらにも礫群を伴うブロックがなかったため、推定はA地点ほど確実ではないが、遺物の出土状況から縄文時代草創期の生活面はⅡb層からⅢ層にかけて、旧石器時代の生活面はⅢ層の中にあったと考えている。ただし、両者は地点を違えて出土し、全体に土層の堆積が薄いため層位的な上下の根拠は不十分である。A地点〔沢田ほか1994〕、吉ケ沢遺跡B地点(未報告)で火山灰分析を行ったこともあり、本遺跡では火山灰分析は行わなかったが、A地点での分析結果ではⅤ層上部が姶良Tn火山灰(AT)、Ⅲ層上部が浅間—草津黄色軽石(AS－YPk)の降灰層準に推定されている。Ⅵ層は砂・岩片混じりのローム層で何らかの水の影響を受けていると思われる。A地点での植物珪酸体分析でⅥ層から植物珪酸体が全く検出されなかったことから、水成堆積である可能性が高い。Ⅶ層以下は砂礫層でこの層以下は明らかに水成層である。

本遺跡のある段丘面上には微小な起伏が認められるがⅢ層以下のローム層はこの起伏に沿って堆積しているので、これらの起伏が旧石器時代には確実に存在していたことがわかる。

本遺跡の基本層の特徴は以下のとおりである。

Ⅰ層：表土。

Ⅱa層：黒褐色シルト。層厚約10～30cmで、縄文時代の包含層である。

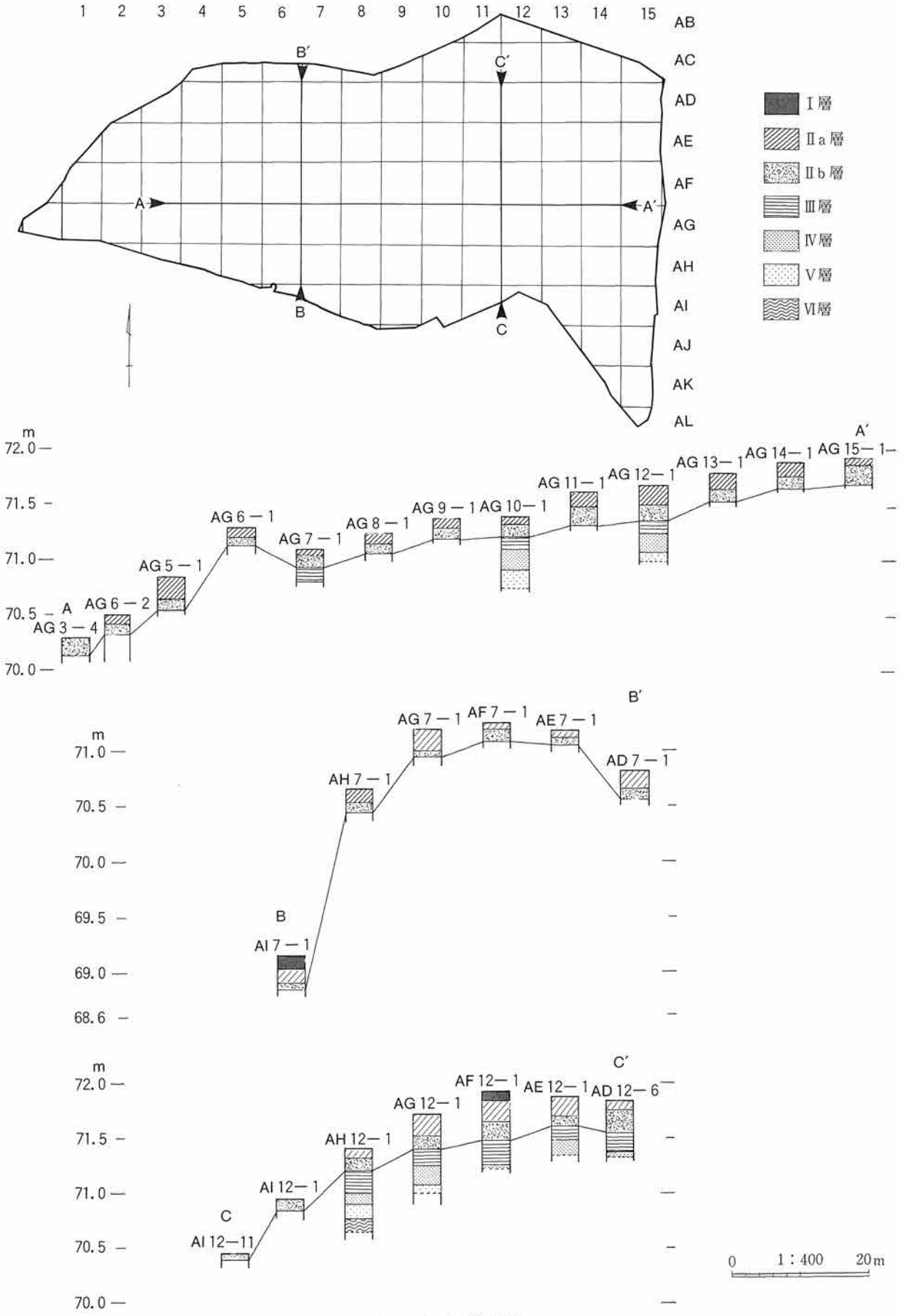
Ⅱb層：褐色粘土。層厚約10～20cmである。黒色土とローム層の漸移層である。

Ⅲ層：黄褐色粘土。層厚約15cmで、旧石器時代の生活面はこの層の中にあると考えられる。

Ⅳ層：明褐色粘土。層厚は約15cmである。ローム層の中では最も粘性が強く、色調が赤みを帯びている。径5mm程度の白色土粒を含む。

Ⅴ層：明褐色粘土で層厚約15cm。Ⅳ・Ⅵ層よりも淡い色調を呈し、白色土粒の含有量も少ない。A地点での火山灰分析の結果によれば本層上部が姶良Tn火山灰(AT)の降灰層準である。

Ⅵ層：明黄褐色粘土。しまりはローム層中で最も強い。径1cm以下の岩片を含む。層厚は30cm程度で、A地点に比べると薄い。


1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15
AB AC AD AE AF AG AH AI AJ AK AL
A A′ B B′ C C′
Ⅰ層 Ⅱa層 Ⅱb層 Ⅲ層 Ⅳ層 Ⅴ層 Ⅵ層
m
72.0 71.5 71.0 70.5 70.0
AG 3－4 AG 6－2 AG 5－1 AG 6－1 AG 7－1 AG 8－1 AG 9－1 AG 10－1 AG 11－1 AG 12－1 AG 13－1 AG 14－1 AG 15－1
71.0 70.5 70.0 69.5 69.0 68.6
AI 7－1 AH 7－1 AG 7－1 AF 7－1 AE 7－1 AD 7－1
72.0 71.5 71.0 70.5 70.0
AI 12－11 AI 12－1 AH 12－1 AG 12－1 AF 12－1 AE 12－1 AD 12－6
0 1：400 20m

第3図　土層柱状図

2　遺跡の概要

上ノ平遺跡C地点では旧石器時代の遺物集中地点7か所、縄文時代草創期の遺物集中地点5か所、縄文時代の竪穴住居跡1棟、ピット1基、集石遺構3基、歴史時代のものと思われる土坑47基、その他の遺構14基を検出した。遺物は旧石器時代の石器、礫など694点、縄文時代草創期の石器、礫など924点、草創期以外の縄文時代の遺物が735点、その他の遺物3点である。

以下、本遺跡の概要を時代ごとに述べる。

A　旧石器時代

旧石器時代の遺物集中地点は7か所で、それぞれブロック3a・3b・4・5・7a・7b・8と呼称する。これらのブロックは東地区で検出され、南北約30m×東西40mの範囲に収まる。母岩の共有関係が認められることから、これら7か所のブロックは同時期に形成されたものと思われる。それぞれのブロックはその大きさと遺物点数から、比較的大型で数十～百数十点の遺物で構成されるものと、小型で20～30点で構成されるものとに分類できる。ブロック3a・5・7aが前者で、7b・4・8が後者にあたる。3bは両者の中間の規模を持つ。いずれも、遺物の密度は低く散漫な分布を示す。遺物は、最大80cmの上下差を持って出土しているが、いずれのブロックも遺物の出土ピークからⅢ層中に生活面があると考えている。A地点での火山灰分析によればⅤ層上部に姶良Tn火山灰層の降灰層準があると考えられる。C地点の基本層序は基本的にA地点とおなじであるので、C地点の旧石器時代のブロック群は姶良Tn火山灰降灰以降のものであると考える。

出土遺物は、ナイフ形石器、彫刻刀形石器、石刃、彫刻刀削片などで、石核は出土しなかった。ナイフ形石器は杉久保型、彫刻刀形石器は神山型を主体としている。また、石刃が多く出土するものの石刃石核が出土しない点、石刃以外の剥片が極めて少ない点、彫刻刀削片が多い点を出土石器群の特徴とすることができ、これらの特徴はA地点出土石器群の特徴と非常によく似ている。

B　縄文時代草創期

縄文時代草創期の遺物集中地点は5か所で、ブロック1・6・9・10・11と呼称する。これらの内、ブロック1・6・10・11の間では母岩の共有が認められるので、これらは同時に形成されたものと思われる。これら4か所のブロックは西地区で検出されており、ブロック6はブロック1の西約14mに、ブロック10はブロック1の北東約22mに、ブロック11は南西約16mに位置している。ブロック9はほかのブロックと母岩の共有関係がなく時期が異なるものと考えている。検出された場所もAH11区でほかの3ブロックから離れている。

ブロック1は多量の剥片類と石核が出土したこと、これらの間に接合関係が認められたことから、剥片生産を主体とした石器製作が主に行われていたことがわかる。ブロック6はブロック1に比べて遺物点数も少ないが、石器製作が行われていたと思われる。ブロック10・11は大型の石刃や剥片を主体としており、母岩の共有関係からブロック1から持ち出された、あるいは廃棄されたものと考えている。ブロック9はチップを主体としており、トゥール製作に関連するブロックと考えられる。尖頭器が3点出土しており、旧石器時代の終末から縄文時代草創期のものであろう。

C　縄文時代(草創期を除く)

縄文時代の遺構は竪穴住居跡１棟、ピット１基、集石遺構３基である。これらの遺構の内、竪穴住居跡、ピットは西地区から検出され、周辺から出土した土器から縄文時代前期末のものであると考えられる。

竪穴住居跡は壁の一部と柱穴、地床炉の一部を検出したのみであったが、径５～６ｍの隅丸方形を呈するものと思われる。壁は北側のみで検出しただけであったが内側に周溝がめぐっていた。柱穴は４本であった。ピットは縄文前期末の土器を出土するものである。集石遺構は東地区で検出され、１号集石遺構の近くで新崎式の土器片がまとまって出土したことから中期前葉のものであると考える。３基とも集石下の土坑は検出されず、いずれの集石遺構でも礫が被熱していた。

西地区から土器234点、石器368点、礫13点が出土した。土器の大部分が縄文時代前期末の土器であることから、石器も基本的にこの時期のものと思われる。石器は、石鏃、篦状石器、両極剝離痕ある石器、不定形石器、石核などである。東地区から出土した遺物は土器片数十点、石器82点、礫43点で、土器で時期のわかるものは先の新崎式の破片のみである。したがって、出土石器も中期前葉のものが主体を占めるものと思われる。石器は、石匙、篦状石器、打製石斧、磨製石斧、不定形石器、石核などである。

D　歴史時代

時期不明の土坑が47基検出された。これらの大部分は埋土に炭化物・焼土片を多量に含み、底面や側面に焼け面を持つものもある。また、ほぼ円形の平面形を持ち上端の直径は１～２ｍである。地面に穴を掘った後、火を焚いた遺構であると考えられるが、中には床を張った後に火を焚いているものもある。明らかに縄文時代の包含層を切って掘り込まれていることや平安時代の遺物が包含層から出土していることからＡ地点ではこれらの焼土坑は平安時代のもので〔沢田ほか1994〕、その性格を炭焼きのための土坑と推定した。今回、これらの土坑の内４基で放射性炭素年代測定を行い、その結果からこれらの土坑の所属時期は主に中世であるという結果が得られた(第Ⅸ章参照)。

第Ⅴ章　旧石器時代の調査

1　遺　　構

上ノ平遺跡C地点で検出された旧石器時代の遺構は7か所の遺物集中地点(以下ブロック)のみである。これらのブロックは調査区の東地区AE～AG・11～15の範囲に分布している。ブロックの名称は発掘時のものをそのまま用いたが、発掘当初1つのブロックと認識していたブロック3と7は調査の進展によって、それぞれ2か所のブロックに分けられることがわかったため、ブロック3a・3b・7a・7bとした。

これらのブロックは、比較的大型で100点を越える遺物によって構成されているブロック3a・5・7aと比較的小型で二十数点前後の遺物によって構成されているブロック4・7b・8と両者の中間の規模を持つブロック3bとに分類できそうである。

ブロック3a(図版5)

AE11グリッド南東隅を中心にAE12、AG11・12にも分布が広がり、石器174点と礫2点で構成されている。遺物はⅡa層からⅤ層にかけて約70cmの上下差を持って出土しているが、Ⅲ層から出土したものが最も多く当時の生活面はⅢ層中にあるものと思われる。平面的には約6m四方の範囲から遺物がまばらに出土している。遺物密度はあまり高くない。

ブロック3b(図版6)

AE10・11、AF10・11に位置し、石器99点、礫1点で構成されている。遺物はⅡa層からⅤ層にかけて約60cmの上下差を持って出土している。出土層位を見てもⅡa層から出土したものが最も多く、原位置から大きくはずれた遺物が多い。標高別の出土石器点数グラフの標高71.55～71.599mにみられるピークはこうしたⅡa層出土石器によるものであり、差し引いて考える必要がある。むしろ、標高71.3m付近のピークを生活面と関連づけて考えるべきであろう。したがって、平面的には約6m四方の範囲から遺物がまばらに出土しているものの、Ⅲ層以下から出土した石器はAE11－21・22、AF11－1・2に集中しており、ブロック3bの本来の分布域を示しているものと考える。

ブロック4(図版7)

AE13・14に位置し、石器24点、礫2点で構成されている。遺物はⅡa層からⅤ層にかけて約60cmの上下差を持って出土しているが、Ⅲ層から出土したものが最も多い。平面的には約4m四方の範囲から遺物がまばらに出土している。遺物密度は極めて低い。

ブロック5(図版8)

AF15に位置し、石器191点、礫5点で構成されている。遺物はⅡb層からⅤ層にかけて約80cmの上下差を持って出土しているが、Ⅱa層が削平されていたので、実際の上下差はさらに大きい。Ⅲ層からⅣ層にかけて出土したものが最も多く、生活面はⅢ層下部からⅣ層上部に存在するものと考える。平面的には約6m四方の範囲から遺物が出土しているが、特に遺物が多いのはAF15－8を中心とした。約3m四方の範囲である。遺物の密度は今回検出した旧石器時代のブロックの中では最も高いが、これは主ににチップ検出率の高さによる。

ブロック７a(図版９)

AG 11・12に位置し、石器94点、礫１点で構成されている。遺物はⅡａ層からⅤ層にかけて約70㎝の上下差を持って出土しているが、Ⅲ層から出土したものが最も多い。したがって、当時の生活面はⅢ層中にあったものと考える。平面的には東西約８ｍ、南北５ｍの範囲から遺物がまばらに出土し、特に遺物の密度の高い部分は認められない。

ブロック７b(図版10)

AF、AG 11に位置するが、特にAG 11－３付近でまとまって出土している。石器26点で構成される。遺物は約80㎝の上下差を持って出土しているが、Ⅲ層からⅣ層にかけて出土したものが多い。生活面もこの付近にあるものと考える。遺物密度は極めて低く、小型で遺物の少ないブロックのあり方を示している。

ブロック８(図版11)

AE 12に位置するが、遺物の分布は極めて散漫で、中ではAE 12－12・13にわずかにまとまりが見られる。石器26点で構成される。遺物は約70㎝の上下差を持って出土しているがⅡb～Ⅳ層から出土したものが多い。ほかのブロック同様Ⅲ層中に生活面があったものと思われる。

2　遺　　物

A　分　　類

(1)　分類、記述の方針

A 地点の報告書〔沢田ほか1994〕および本報告書作成にあたっては出土石器群の内容をできるだけ詳しくかつ明示的に記述することを整理の基本方針とした。ところで、石器に限らず分類とは連続的なものを分節化し言語化する行為であって、その過程と結果は分類の主体者に依存している。したがって、出土石器群の内容の記述といえどもそれが観察者の主観から離れた客観的なものであることはありえないし、分類という行為は対象物が本来持っている実体を抽出するものではない。このように分類という行為が本質的に持っている恣意性を認めた上で、ここでは本報告書における石器記述の方針を提示する。

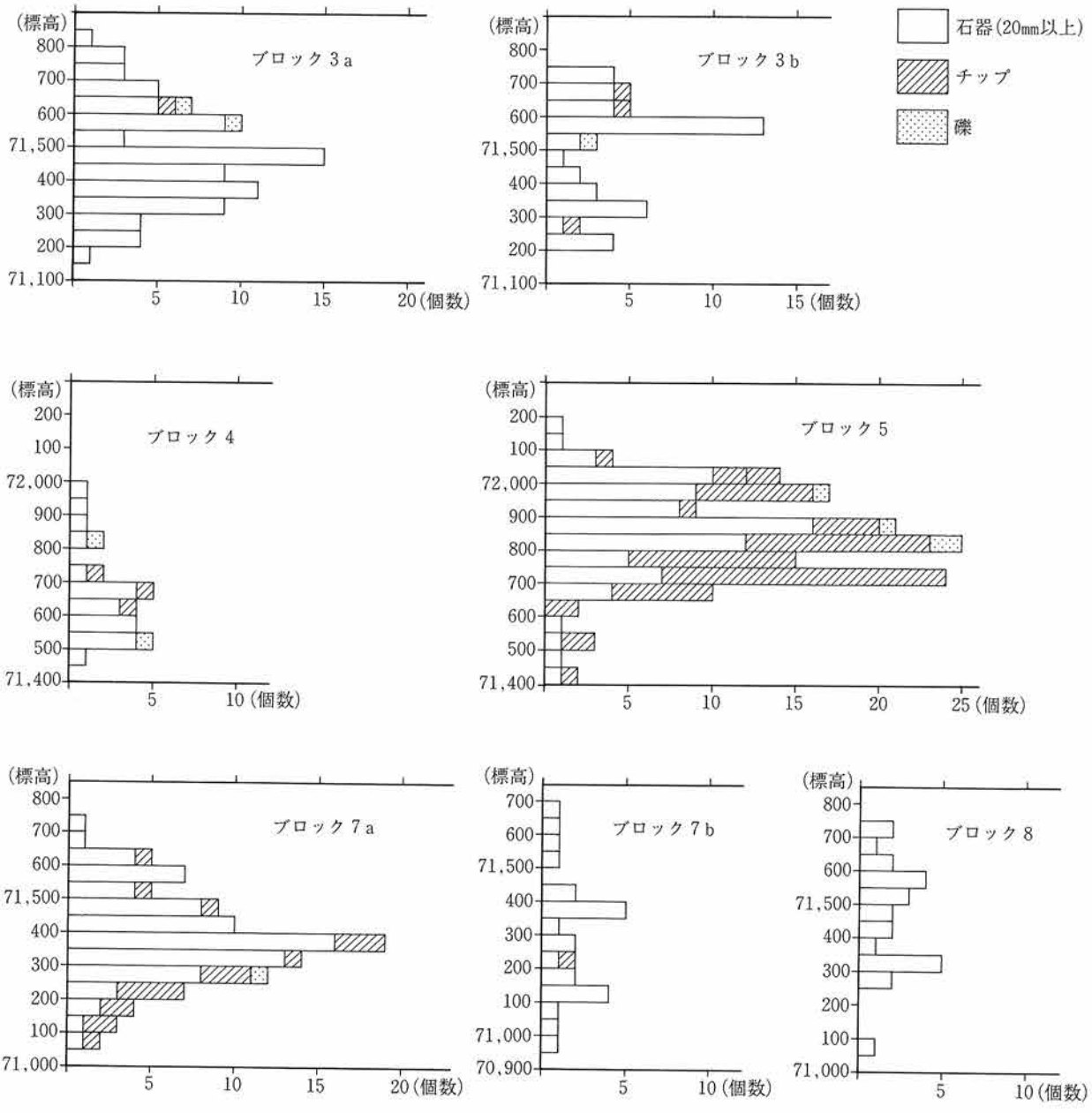
本報告書では石器の分類、記述を石器製作技術に基づいた形態学的な視点、いわゆる技術形態学に基づいて行う〔山中1979〕。したがって、石器を分類した結果に対して直接的に機能的な解釈を与えることはできず、本報告書で用いる器種という概念には本来的に機能的な意味は付加しない。石器が道具である以上その機能・用途を明らかにすることの重要性はいうまでもないが、現在行われている機能推定の多くは石器の形態と機能との相関関係の存在を前提として推定するものである。もちろん、これらの間には何らかの関係が存在していることが一般的には想定可能なわけだが、これらの相関関係は石器の形態と使用痕や石器の出土状況など石器の機能を直接反映する情報との照合によって検討されるべき問題であり、前提というよりは検討対象というべきものである。

出土石器はまずその製作技術の特徴、形態などからナイフ形石器、彫刻刀形石器などの各種トゥール、石刃、剥片など剥片類、彫刻刀削片、チップなどに器種分類した。分類に際しては従来の分類を可能な限り生かすようにした。今日行われている石器の分類・名称は、結局のところこれまでの研究の蓄積の結果である。分類者である我々がこうした研究の流れの中にいて、分析者間での情報のやりとり、認識の共有

第3表　旧石器時代ブロック層位別出土点数

計	石器
	チップ
	礫

ブロック / 層位	3a		3b		4		5		7a		7b		8	
Ⅰ													1	1
														0
														0
Ⅱa	17	17	26	24	6	6			14	13	3	3	3	3
		0		2		0				1		0		0
		1		0		0				0		0		0
Ⅱb	17	15	6	5	7	4	5	4	24	22	5	5	6	6
		1		0		2		1		2		0		0
		1		1		1		0		0		0		0
Ⅲ	31	30	10	10	9	7	71	47	34	27	9	8	7	7
		1		0		1		20		7		1		0
		0		0		1		4		0		0		0
Ⅳ	16	16	6	5	3	3	71	27	17	8	7	7	6	6
		0		1		0		42		8		0		0
		0		0		0		2		1		0		0
Ⅴ	4	4	1	1	1	1	3	1	4	3	2	2	1	1
		0		0		0		2		1		0		0
		0		0		0		0		0		0		0
計	85		49		26		不明1 151		不明1・かくらん1 95		26		不明1 24	



第4図　ブロック毎標高別遺物出土点数

化においてこれらが機能している以上、これを完全に否定してしまうことは好ましくないし、生産的でもない。本報告書における石器整理が石器群の内容の記述を第１の方針としているのであるから、現時点で分析者間で「共通言語」として受け入れられている分類・用語を使用すべきであろう。もちろん、このことは分類・用語を今後とも現在のまま固定化することを主張するものではない。これらが用いられる研究史的な背景を整理したり、新たな分析結果を盛り込んだりすることによって、分類・用語に対して修正を加えてゆく必要があるだろうし、ときには分類体系そのものもを見直すことも必要であろう〔仙庭1994〕。しかし、こうした修正も基本的にはこれまでの分類との対応関係を明らかにした上で行う必要があると考える。

(2)　分　　類(第５図)

出土石器は、ナイフ形石器、彫刻刀形石器、彫刻刀形石器母型、二次加工ある剥片(石刃)、石刃、剥片、彫刻刀削片、チップの各器種に分類し、このうち、ナイフ形石器、彫刻刀形石器、石刃をさらに細分した。

ナイフ形石器

剥片または石刃の一部に刃つぶし状の二次加工が施され形が整えられた石器をナイフ形石器とする。したがって、二次加工が施されずに残された素材剥片(石刃)の鋭い縁辺を刃部と認定する。ただし、本遺跡で出土しているナイフ形石器は基部加工の杉久保型を主体としているので、こうした概念規定が有効かどうかは疑問であり、検討は今後の課題である。今回は、基本的にＡ地点の報告書における分類を踏襲してⅠ～Ⅴ類に分類した〔沢田ほか1994〕。

Ⅰ類：基部に二次加工が施されたもので打面を残さないもの。さらに、基部の主要剥離面に背面からの二次加工が認められるものをⅠａ類、認められないものをⅠｂ類とする。さらに、先端部が遺存するものは二次加工の有無によって細分し、先端側縁に二次加工の認められるものをⅠａ－１類、認められないものをⅠａ－２類とした。

Ⅱ類：基部に二次加工が施されたもので打面を残すもの。さらに、基部の主要剥離面に二次加工が認められるものをⅡａ類、認められないものをⅡｂ類とする。Ⅰ類と同様に先端部の二次加工の有無でさらに細分した。

Ⅲ類：石刃などの先端部のみに二次加工が認められるもの。また、基部側を欠損し、基部の二次加工の有無が不明のものもⅢ類に含めた。

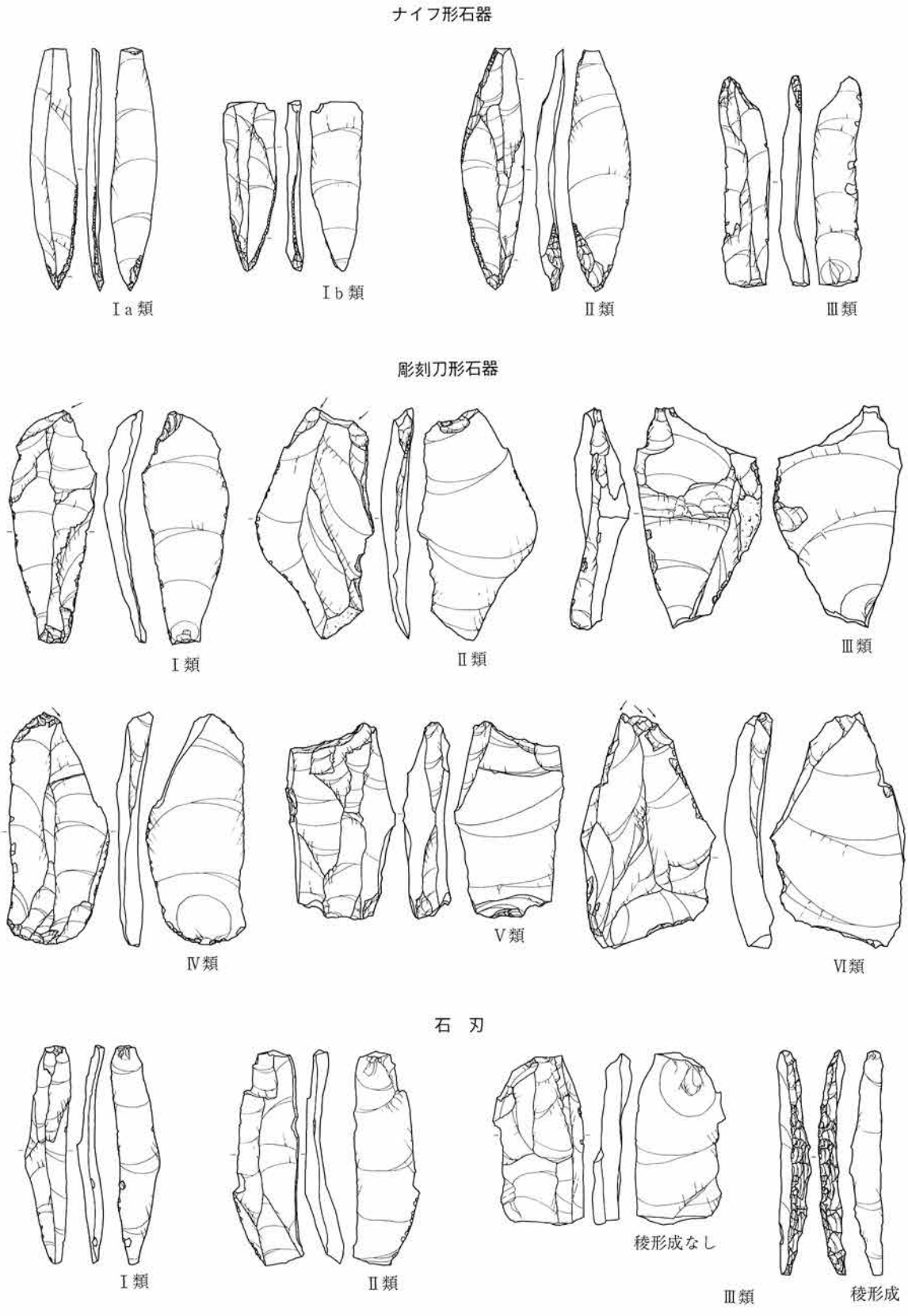
Ⅳ類：一側縁の全部あるいは大部分とその反対側縁の基部に二次加工が認められ、いわゆる二側縁加工のナイフ形石器となるもの。

Ⅴ類：その他のナイフ形石器

ところで本遺跡出土の彫刻刀形石器には一見ナイフ形石器と区別できない基部加工が施されているものがある。したがって、先端を欠損し基部のみが遺存した石器はナイフ形石器か彫刻刀形石器なのかを厳密に認識することはできない。ここでは、これらの石器を暫定的にナイフ形石器として扱うことにする。

彫刻刀形石器

石刃または剥片の縁辺に沿ってこれを取り込むような細長い一枚の二次加工剥離面を樋状剥離とし、これが認められた石器を彫刻刀形石器とする。また、この樋状剥離を彫刻刀面、その打面を彫刻刀打面と呼ぶ。彫刻刀面が素材の縁辺でなく背面に作出された場合、素材の縁辺が取り込まれないので厳密には樋状剥離とすることができないが、彫刻刀打面作出が認められた場合はこれも彫刻刀面とした。彫刻刀面が単


ナイフ形石器
Ⅰa類
Ⅰb類
Ⅱ類
Ⅲ類
彫刻刀形石器
Ⅰ類
Ⅱ類
Ⅲ類
Ⅳ類
Ⅴ類
Ⅵ類
石　刃
Ⅰ類
Ⅱ類
稜形成なし
Ⅲ類
稜形成

第5図　旧石器分類図

数、複数であるとにかかわらず、ある一連の手順によって彫刻刀面打面、彫刻刀面が作出されている範囲を刃部と呼び、その作出とくに彫刻刀打面作出方法によってⅠ～Ⅴ類に分類した。したがって、一点の石器に複数の刃部があるときにはそれらが併記されることになる。また、基部加工の認められるものをａ類、認められないものをｂ類とし、Ⅰａ類、Ⅰｂ類のように表記する。

Ⅰ類：素材の端部に背面から主要剥離面に対して加えられた調整を打面として、肩ないし背面に彫刻刀面が作出されたもの。いわゆる典型的な神山型彫刻刀形石器(以下、神山型彫刻刀)がこれにあたる。

Ⅱ類：素材を断ち切るように加えられた主要剥離面への連続的な二次加工を打面として、左右両側縁や背面に彫刻刀面が作出されたもの。

Ⅲ類：素材の折断面を打面として彫刻刀面が作出されたもの。彫刻刀面は主に両側縁に作出される。

Ⅳ類：素材の端部に主要剥離面から背面に対して加えられた調整を打面として、肩ないし背面に彫刻刀面が作出されたもの。

Ⅴ類：素材を断ち切るように加えられた背面への二次加工を彫刻刀打面とするもの。

Ⅵ類：彫刻刀面を打面として樋状剥離が加えられ新たな彫刻刀面が作出されたもの。

Ⅶ類：その他の彫刻刀面。

石器の分類では最も新しい調整・加工を分類基準とするという原則に従えば、彫刻刀面がその他の調整に切られているものは彫刻刀形石器には分類できない。しかし、Ａ地点や今回報告する接合資料の中に樋状剥離とその他の調整を繰り返しながら刃部再生を行うものが認められる。そこで、そのような石器はナイフ形石器、エンドスクレイパーなどの明らかに他のトゥールに器種替えされている場合を除いて彫刻刀形石器に分類した。

彫刻刀形石器母型

彫刻刀面が認められないものの、形態や施されている調整がその後の彫刻刀面作出を意図していると考えられる石器を彫刻刀形石器母型とした。具体的には、彫刻刀打面の作出、樋状剥離をスムースに施すための整形を意図したと思われる調整の存在を基準とした。

二次加工ある剥片(石刃)

剥片ないし石刃の一部に不規則な二次加工が加えられた石器を二次加工ある剥片(石刃)とする。ただし、実際の資料認定はナイフ形石器、彫刻刀形石器などの定型的なトゥールに分類できないトゥールに対してこの名称を与えている。出土点数も少ないため、これ以上の細分は行わなかった。

石刃

剥離長が剥離幅のほぼ２倍以上で、両側縁と背面の稜線が平行する剥片を石刃とする。背面構成によってⅠ～Ⅲ類に分類した。ただし、この分類は完形の石刃にのみ行った。

Ⅰ類：背面が全て主要剥離面とおなじ方向の剥離面によって構成されるもの。

Ⅱ類：背面が主要剥離面と同じ方向および逆方向の剥離面によって構成されるもの。

Ⅲ類：背面に主要剥離面と直交する方向の剥離面を含むもの。

なお、背面に打点の残る横方向の剥離面が認められたり、打点を残さないものの連続した横方向の剥離面が認められ、これをいわゆる石刃技法の稜形成による剥離面と判断できる場合は、この石刃を稜形成石刃として観察表に記載した。稜形成痕の判断は破損した石刃に対しても行い、上記の特徴が認められた場合は全て稜形成石刃とした。

剥片・チップ

折断面、微細な剥離痕、破損などを除いた最終剥離面がポジティヴな石器で、石刃および彫刻刀削片を除き最大長20㎜以上のものを剥片、20㎜以下のものをチップとする。また、このポジティヴな最終剥離面を主要剥離面と呼ぶ。

彫刻刀削片

剥離面の観察から樋状剥離によって生じたと判断された剥片類を彫刻刀削片とする。彫刻刀形石器の素材の主要剥離面(以下、素材主要剥離面)をその一部に持っていることが主な認定基準である。

B 石器各説

出土石器の各説はブロック出土石器、ブロック外出土石器、接合資料の順に行う。出土石器の石器組成は第4表、石材組成は第5表で示したとおりである。各説で用いる石器部位等の名称の基準は第6図のとおりである。観察表は出土地点のわかる遺物全点を提示した。また遺物属性表は、ナイフ形石器、彫刻刀形石器、完形石刃のうち計測可能なものについて全点掲載した。観察表、属性表の計測基準は第6図のとおりである。本文、観察表の遺物番号は発掘調査の遺物取り上げの際につけたものである。

(1) ブロック3a出土石器(図版12～16、写真図版132～134)

石器は手掘り85点、ふるい90点の175点出土した。石器組成は第6表、石材組成は第7表に示したとおりである。

ナイフ形石器(1～5、実測図番号以下同じ)　6点出土しており、小破片のB3－91(遺物番号、以下ブロック番号は省略)を除く5点を図示した。全てⅠ類で、94がⅠa類、126・132がⅠa－1類、30・41がⅠb類である。石材は全て珪質頁岩である。また、基部腹面に認められる調整は、いずれも背面への基部加工より新しい。132は、先端に樋状剥離とツブレ状の微小剥離痕が認められる。この石器が彫刻刀形石器である可能性も否定できないが、衝撃剥離の可能性が高い〔御堂島1991〕。

彫刻刀形石器(6～24)　21点出土した。143は石刃先端にわずかに施された主要剥離面への二次加工を打面として樋状剥離が1条左肩に施されて、基部両側縁に連続的な背面加工が施されている。基部の折れ面は横方向からのものである。Ⅰa類、珪質頁岩製。46は焼けはじけによって彫刻刀打面の作出方法はわか

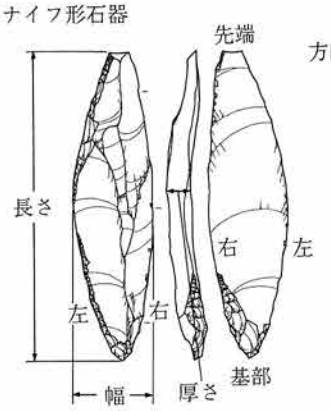
第4表　旧石器時代の石器組成

	ナイフ	彫刻刀	その他	石刃	剥片	彫削片	チップ	礫	計
3a	6	21	1	33	2	42	69	2	176
3b	4	8	1	18	6	17	45	1	100
4	3	6		6	3	3	3	2	26
5	5	15		20	4	47	100	5	196
7a	6	19	2	19	4	25	19	1	95
7b	4	8	1	9		3	1		26
8	4	4		12		6			26
外	4	4		14	7	3			32
表　採	6	10		2		2			20
計	42	95	5	130	29	148	237	11	697

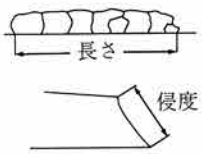
第5表　旧石器石材組成表

石　材	石器			礫	計
	手掘り	ふるい	B外・表採		
珪質頁岩	393	147	36		577
頁　岩	17		9		26
玉　髄	27	26	1		54
凝灰岩	5	3	2	5	15
チャート	2	7	1		10
黒曜石		2			2
鉄石英		1	1		2
流紋岩	1	2	2		5
安山岩	1				1
花崗岩				2	2
砂　岩				2	2
粘板岩				1	1
合　計	446	188	52	11	697

ナイフ形石器



二次加工
方向　D：主要剥離面を打面とした背面への加工
V：背面を打面とした主要剥離面への加工
DV、VD：両面への二次加工の順序



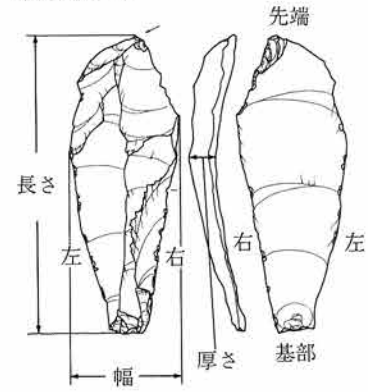
5°毎の刻みの入った計測板を使用

先端角

打面
有：素材打面を残す
無：素材打面を取り去る

ナイフ形石器折れ
方向 V：主要剥離面からの折れ
D：背面からの折れ
末端 H：ヒンジ状にめくれた末端
打点、折れ面の打点の有無

彫刻刀形石器



刃部位置　打：素材の打面側
先：素材の先端側

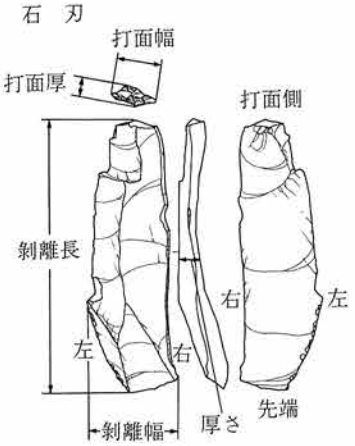
基部加工：計測方法はナイフ形石器と同じ

完形
完：完形品
空欄：破損あり

彫刻刀面数：数字の前の＋は彫刻刀面に先行する調整あり

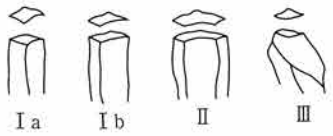
彫刻刀面打面
腹調　：背面から主要剥離面への調整
腹調 t：背面から主要剥離面への素材を断ち切る調整
背調　：主要剥離面から背面への調整
背調 t：主要剥離面から背面への素材を断ち切る調整
折：折断面（V・D・両極は折断方向）
無：無調整打面

石　刃



打面形状

打点位置

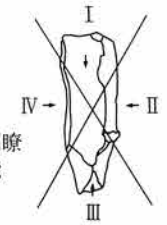


バルブ形状

打点径

不明：打点不明瞭
空欄：計測不能

背面構成



○：該当する背面あり
空欄：該当する背面なし

打面の種類
調整：調整打面、打点のある複数の剥離面で構成される
単剥：単剥離面打面、１枚の剥離面で構成される
複剥：複剥離面打面、打点のない複数の剥離面で構成される
自然面：自然面打面、打面の全部が自然面
節理面：節理面打面、打面の全部が節理面

頭部調整
○：頭部調整あり
空欄：頭部調整なし

剥離角

第６図　石器属性計測基準

らないが、削片との接合によりⅠ類であることがわかった。基部側を折れによって欠損するものの、両側縁に主要剝離面への二次加工が認められるⅠa類である。珪質頁岩製である。43は稜形成石刃を素材としたⅠ類の彫刻刀形石器で左右に彫刻刀面が作出されている。107は先端側にⅣ類の刃部、基部にⅥ類の刃部を持つ彫刻刀形石器である。先端側の彫刻刀面は右肩背面への連続的な二次加工を打面として1条作出され、基部の彫刻刀面は右側縁からの器体を横断する折れ面状の樋状剝離を打面として左右両側縁に作出され、主要剝離面側に傾いている。珪質頁岩製である。96は石刃の先端左肩の連続的な背面加工を打面として右側縁に彫刻刀面が作出されたⅣ類の彫刻刀形石器で珪質頁岩製である。彫刻刀面から背面に荒屋型彫刻刀に特徴的なフラットグレーバー状剝離〔綿貫・堤1987〕によく似た調整が加えられている。34は左肩に1条の彫刻刀面を持つⅠ類の彫刻刀形石器であるが、右側縁には彫刻刀打面に切られる古い樋状剝離が残っている。珪質頁岩製である。37は両端が切断された石刃を素材としており、先端側の折断面から右側縁の主要剝離面側にⅢ類の彫刻刀面が作出されている。また、左側縁主要剝離面側にはステップ状で連続した大型の微小剝離痕が認められる。珪質頁岩製。89・134は珪質頁岩製のⅠ類の彫刻刀形石器である。89・134とも石刃先端右肩の主要剝離面への調整を打面として左肩に彫刻刀面が作出されている。89には彫刻刀面より新しい背面への調整が認められ、134には彫刻刀面に先行する連続的な背面への調整が認められる。134は背面からの折断面によって基部側を欠損する。142は石刃先端の左肩に一条の彫刻刀面が作出されているが、彫刻刀面が右肩の背面加工に切られるため彫刻刀打面の作出方法は不明である。先端および両側縁には微小剝離痕が認められる。珪質頁岩製である。45は玉髄製のⅠ類の彫刻刀形石器である。77は玉髄製の厚手の石刃を素材とし、先端を断ち切るようにノッチ状に背面調整した後、これを打面として左側縁に彫刻刀面が作出されている。Ⅴ類であるが、ノッチ状の背面調整に切られた主要剝離面への加

第6表　ブロック3a石器組成表

母岩No.	ナイフ	彫刻刀	その他	石刃	剝片	彫削片	チップ	礫	計
1	1	3		1		1			6
3		1		1					2
6	1			1					2
7		1							1
8				2	0				2
10		1							1
12				1					1
13				1					1
15	1								1
17				1					1
19						2			2
20		1		1					2
21		1				1			2
22		1							1
23		1		1					2
24		1							1
25		1		2					3
28		1				1			2
29		1							1
30		1							1
31		1							1
単　独		1		1					2
母岩外	3	4	1	19	2	14	2	2	47
ふるい						23	67		90
合　計	6	21	1	33	2	42	69	2	176

第7表　ブロック3a石材組成表

石材名	石器		礫	合　計
	手掘り	ふるい		
珪質頁岩	71	70		141
頁　岩	7			7
玉　髄	5	16		21
凝灰岩	1		1	2
チャート		2		2
流紋岩		2		2
砂　岩			1	1
合　計	84	90	2	176

工も認められる。72は珪質頁岩製のⅣ類の彫刻刀形石器である。右側縁の全部と左側縁の基部側に背面調整が施され、基部主要剝離面への調整も認められる。この右肩への背面調整を打面として左肩に彫刻刀面が作出されている。彫刻刀面に先行する背面加工が左肩に認められる。42は珪質頁岩製のⅠ類である。130は珪質頁岩の石刃の両端にⅦ類の刃部が作出されている。基部側は右側縁から、先端側は石刃先端からいずれも彫刻刀打面を作出することなしに樋状剝離が施されている。33は頁岩製の石刃の先端に刃部が認められる。Ⅰ類の刃部で、彫刻刀面に先行する背面調整が残っている。基部右側縁にはこの調整に切られる折れ面があり、そこには微小剝離痕も認められる。95もⅦ類の彫刻刀で右側縁から無調整で樋状剝離が施されている。珪質頁岩製である。128は石刃先端の連続的な背面加工によって彫刻刀面の打点側が切られているため、彫刻刀打面作出方法は不明である。全体的な形状から見るとⅠ類の可能性が高い。珪質頁岩製で、基部にはナイフ形石器と区別のつかない調整が認められる。

彫刻刀形石器母型(17)　145はⅠa類の彫刻刀形石器の母型であろう。珪質頁岩製である。

石刃(25～44)　石刃は33点出土し、このうち20点を図示した。石材は珪質頁岩28点、頁岩２点、凝灰岩１点、玉髄２点である。完形の石刃はⅠ類の86、Ⅱ類の22・85、Ⅲ類の23・100のみである。100の右側縁の横からの剝離は石核調整痕であると思われるが稜形成の可能性も否定できない。20の背面左側縁付近の剝離面は主要剝離面に切られており、二次加工ではなく稜形成痕である。

彫刻刀形石器削片(45～55)　19点出土し、このうち11点を図示した。石材は珪質頁岩が18点、頁岩が１点である。88は彫刻刀形石器の95と接合しているが、削片にも彫刻刀打面作出を示す調整はない。31・35・40・70・76・104・109・131はいずれも素材主要剝離面への調整を打面として、左肩に作出された樋状剝離によるもので、Ⅰ類の彫刻刀面作出時のものである。99は素材主要剝離面を取り込んでおらず、背面に作出された彫刻刀面からのものと思われる。

(2)　ブロック３b出土石器(図版16・17、写真図版135)

手掘り47点、ふるい52点、計99点の石器と礫１点が出土した。石器組成は第８表、石材組成等は第９表に示したとおりである。

ナイフ形石器(56～59)　出土した４点全てを図示した。石材は10が玉髄、このほかの３点は珪質頁岩である。151は両側縁の背面と左側縁の主要剝離面への調整によって基部を整形したものである。先端を背面からの折れで欠損しているが、基部・先端とも尖っていたものと思われ、典型的な杉久保型ナイフである。

第８表　ブロック３b石器組成表

母岩No.	ナイフ	彫刻刀	その他	石刃	剝片	彫削片	チップ	礫	計
4		1		1	2				4
7	1			3					4
14				1		1			2
17				1					1
20	1	1		1		1			4
22		1		1		1			3
27				2					2
29	1	1				2			4
30				1					1
単　独	1	2							3
母岩外		2	1	8	4	2	3	1	21
ふるい						10	42		52
合　計	4	8	1	18	6	17	45	1	100

第９表　ブロック３b石材組成表

石材名	石器		礫	合　計
	手掘り	ふるい		
珪質頁岩	34	35		69
頁　岩	3			3
玉　髄	8	9		17
凝灰岩		3	1	4
チャート	1	2		3
黒曜石		2		2
鉄石英		1		1
流紋岩	1			1
合　計	47	52	1	100

先端の折れは衝撃剥離の可能性が高い。Ⅰa類である。10は基部両側縁を背面加工によって調整したⅠb類で、器形が三日月形を呈するものである。114は焼けはじけによって先端側を大きく欠損するⅠa類である。115もⅠa類であるが、基部背面への加工はほかの2点ほど顕著ではない。素材石刃も先端ほど幅の広いやや不整形のものであったようである。3点のⅠa類の基部主要剥離面への調整は、いずれも背面への調整より新しい。

彫刻刀形石器(60～66)　8点出土したうち、小破片の62を除く7点を図示した。150は珪質頁岩製のⅠ類である。先端右の主要剥離面と逆方向からの剥離面も彫刻刀面の可能性があるが、主要剥離面との切り合いが明確でなく彫刻刀面とは認定しなかった。9も珪質頁岩製で基部左側縁の主要剥離面に調整があり、Ⅰa類である。47は玉髄製のⅠ類であるが、基部側を新しい破損で大きく失っている。53・111とも珪質頁岩製のⅠ類で、52は折れと焼けはじけによって器体下半と左側縁を、111は折れによって基部側をそれぞれ欠損している。111には彫刻刀面を切る背面への調整と右側縁に顕著な微小剥離痕が認められる。124は玉髄製の厚手の石刃の先端をエンドスクレイパー状に調整した後、その先端主要剥離面に剥離を施し、さらにこの剥離面を打面として右肩に1条の彫刻刀面を作出している。ここでは主要剥離面への加工を樋状剥離とみなしⅢ類としておくが、これを彫刻刀打面作出のための調整とみなせばⅠ類のバリエーションとなる。15は素材の先端を切り取るような背面への調整を打面として右側縁に樋状剥離が施されたⅤ類である。珪質頁岩製。

石刃(67～75)　18点出土したうち、9点を図示した。石材は珪質頁岩が14点、玉髄が3点、流紋岩が1点である。完形品はⅡ類の71、Ⅲ類の123である。123の横方向の剥離面は石核の底面であり、稜形成痕ではない。116は背面に稜形成痕を持つ。

彫刻刀削片(76～81)　手掘り出土7点のうち6点を図示した。117が頁岩、118が玉髄の他は珪質頁岩製である。54と64が右側縁の樋状剥離で生じたと考えられるが、これ以外は左肩ないし左側縁から剥離されたものである。また、打面が観察可能であった59・117・120は全て素材主要剥離面への調整を打面としている。

(3)　ブロック4出土石器(図版18・19、写真図版135・136)

24点の石器と2点の礫が出土した。石器組成は第10表、石材組成は第11表に示したとおりである。

ナイフ形石器(82～84)　出土した3点全てを図示した。石材は5が玉髄で、25・26が珪質頁岩である。5

第10表　ブロック4石器組成表

母岩No.	ナイフ	彫刻刀	その他	石刃	剥片	彫削片	チップ	礫	計
1		1							1
2		1							1
10	1								1
16		2							2
19		1							1
22						1			1
23	1								1
26					1		1		2
31				1					1
単　独	1								1
母岩外		1		5	2	2	2	2	14
合　計	3	6	0	6	3	3	3	2	26

第11表　ブロック4石材組成表

石材名	石　器	礫	合　計
珪質頁岩	22		22
玉　髄	1		1
擬灰岩	1		1
花崗岩		2	2
合　計	24	2	26

は右側縁全体に背面への調整が施されているが、基部側を主要剥離面からの折れで欠損しているので基部調整の状況を知ることができない。一側縁加工ないし二側縁加工のナイフ形石器かもしれない。25は小型のⅠb－1類の完形品である。基部から背面の稜線への階段状の剥離は基部主要剥離面からの折断面ないし二次加工が回り込んだものである。26は主に先端の右側縁に調整が施されたものである。左側縁にもわずかに調整が認められ、この調整に切られた小さな樋状剥離も認められる。彫刻刀形石器あるいはA地点の報告書で錐形石器としたものと同じタイプの石器である可能性もあるが、今回はナイフ形石器に分類した。

彫刻刀形石器(85～90)　出土した6点全てを図示した。石材は全て珪質頁岩である。23は石刃の先端左肩の背面にノッチ状に施された調整を打面として右肩に比較的大きな1条の樋状剥離が施されており、Ⅳ類とした。また、この樋状剥離に切られた古い彫刻刀面が4条右側縁に認められる。19は基部側を新しい折れ面で欠損するⅠ類である。両側縁に連続する背面調整は彫刻刀面、彫刻刀打面に切られている。3は素材石刃の先端側左肩に右側縁の樋状剥離を打面として樋状剥離を加えて彫刻刀面を作出したもので、基部には両側縁の背面への調整が認められる。Ⅵa類である。24は両端に彫刻刀面を持つ。先端側の彫刻刀面は典型的なⅠ類で樋状剥離に先行する背面への調整も認められる。基部側は右側縁の樋状剥離を打面として左肩に4状の樋状剥離が施され彫刻刀面が作出されるⅥ類の刃部である。13も両端に彫刻刀面を持つ。先端側の刃部は、左肩の主要剥離面に対して施された調整を打面として右側縁に彫刻刀面が作出されるⅠ類の刃部で、彫刻刀面と主要剥離面がほぼ直角になる。基部側の彫刻刀面は折れ面を打面として右側縁に樋状剥離が施されたもので、Ⅲ類にあたる。両端の彫刻刀面の切り合いは前者の方が新しい。20は先端にⅠ類の刃部が作出されたもので樋状剥離に先行する背面への調整も認められる。基部も錯交剥離によって整形されており、この石器はⅠa類に分類される。

石刃(91～94)　6点出土したうちの4点を図示した。石材は全て珪質頁岩である。完形品はⅡ類の14、10、Ⅰ類の15の3点である。14・15は先端をわずかに欠損するが分類、計測に影響を与えるほどのものではないので完形品とみなした。10は先端に石核の底面を取り込んでおり、背面先端付近の剥離痕は底面からの調整と考え稜形成痕とはみなさなかった。

彫刻刀削片(95～97)　出土した3点全てを図示した。石材は全て珪質頁岩である。1・17は左肩ないし側縁、8は右側縁から剥離されたものである。打面が観察可能な1・8とも主要剥離面への調整を打面としていない。17もその形状からⅠ類、Ⅱ類の樋状剥離で生じた可能性は低く、ブロック4から出土した削片がこの遺跡では例外的なもので構成されていることがわかる。

(4)　ブロック5出土石器(図版19～23、写真図版136～139)

ブロック5からは、手掘り145点、ふるい46点の計191点の石器と5点の礫が出土した。石器組成は第12表、石材組成は第13表に示したとおりである。

ナイフ形石器(98～100)　5点出土しているが小破片の46・88の2点を除く3点を図示した。石材は73が玉髄の他は4点とも珪質頁岩である。81はⅡa－1類で、基部調整は錯交剥離による。左側縁は基部と先端の調整が連続しかかっており、二側縁調整のナイフ形石器に近似した形態である。先端を主要剥離面からの折れでわずかに欠損し、先端左側縁の刃部に微小剥離痕が認められる。73・87は破片資料で全体の形を知ることができない。87は先端部の破片資料である。73は先端、基部のいずれかは不明であるが、本遺跡やA地点では素材石刃の打面側をナイフ形石器の先端側とする例が確認されていないことから基部の

第12表　ブロック５石器組成表

母岩No.	ナイフ	彫刻刀	その他	石刃	剝片	彫削片	チップ	礫	計
1	1			1		1	1		4
3	1								1
6		1							1
7				1	1				2
9				2					2
11				1					1
12		1							1
13	1					1			2
14				1		1			2
18				2					2
21		1				2			3
22		2				1			3
26		1			1	1	1		4
27		1							1
29				1			2		3
32		1				1			2
34		1							1
単　独		1		3					4
母岩外	2	5		8	2	28	61	5	112
ふるい						11	35		46
合　計	5	15	0	20	4	47	100	5	196

第13表　ブロック５石材組成表

石材名	石器		礫	合　計
	手掘り	ふるい		
珪質頁岩	137	42	1	180
頁　岩	4			4
玉　髄	4	1		5
擬灰岩			3	4
チャート		3		3
流紋岩				0
砂　岩			1	1
合　計	145	46	5	196

可能性が高い。

彫刻刀形石器(101～115)　出土した15点全てを図示した。石材は玉髄の57を除いて全て珪質頁岩である。51は両端に彫刻刀面を持ち、先端側にⅠ類、基部にⅦ類の彫刻刀刃部が作出されている。基部の刃部は素材の側縁から彫刻刀打面作出を行わずに樋状剝離を主要剝離面側に施すもので、樋状剝離に先行する背面への調整が認められる。97も両端に彫刻刀刃部を持つが、いずれもⅠ類である。先端側の彫刻刀面はその後の主要剝離面への調整に打点付近を切られている。基部の彫刻刀面と主要剝離面との稜線には顕著な線状痕と磨耗が認められる。線状痕が稜線とほぼ直交していることからこの刃部がWhittlingないしScrapingに使用されたことがわかる〔梶原・阿子島1981〕。70は幅広で大型の石刃の先端側にⅠ類の刃部が作出されたもので、彫刻刀削片18・31との良好な接合資料がある(図版33)。57は石刃の先端左側縁に無調整で樋状剝離の施されたⅦ類でブロック５唯一の玉髄製のものである。先端には微細な折れ面と剝離痕が認められ、これらは彫刻刀打面作出のためのものかもしれないが、使用痕ないし偶発剝離〔西秋1994〕の可能性も否定できないので彫刻刀打面とはみなさなかった。82は70と同様な幅広の石刃を素材とし、先端にⅠ類の刃部が作出されたもので、やはり彫刻刀削片40、Ｂ８－８との良好な接合資料がある(図版32)。両側縁に比較的顕著な微小剝離痕が認められる。10も幅広の石刃ないし剝片を素材として先端にⅠ類の刃部が作出されたものである。図示しなかったが彫刻刀打面作出時のチップが接合している。右側縁主要剝離面に鋸歯状の調整が施されている。47は両端に彫刻刀刃部を持ち先端側がⅠ類、基部側がⅦ類の刃部である。Ⅰ類の刃部には彫刻刀面より新しい背面への調整がわずかに認められる。Ⅶ類の刃部は右側縁から未調整で樋状剝離を施したものである。９は石刃を素材として先端右肩にⅠ類の刃部が作出されたものである。彫刻刀面に先行する背面への調整が認められる。45は石刃打面側の主要剝離面への調整を打面として左肩に２条、右側縁に１条の彫刻刀面を作出したⅠ類の彫刻刀形石器である。基部側は左からの折れによって欠損しておりこの折れ面も彫刻刀面の可能性があるが、打点付近が発掘時の破損によって壊されており不明である。左側縁にはかなり多くの微小剝離痕が見られる。69・198は石刃の先端左肩にⅠ類の刃部を作出

した彫刻刀形石器である。69は３条の彫刻刀面を持ち、基部左側縁に背面加工による調整が、両側縁に微小剥離痕が認められる。198は４条の彫刻刀面を持ち、基部側を節理折れで欠損している。１・30は基部調整のある彫刻刀形石器で先端左肩に彫刻刀面が作出されている。両者とも彫刻刀面の打点付近を背面への調整で切られており、彫刻刀打面作出方法を正確に知ることはできないが、先端右主要剥離面にノッチ状の調整がありⅠ類であると考えている。特に30は基部加工と先端の彫刻刀刃部が連続しており、五泉市薬師堂遺跡の菅沼による彫刻刀形石器Ⅱａ類〔菅沼1992〕、秋田県協和町米ケ森遺跡で荒屋型彫刻刀形石器類似品とされたⅢ類〔富樫1977〕にきわめてよく似ている。12は石刃先端にⅠ類の刃部が作出された彫刻刀形石器である。彫刻刀面が器体を横断するように作出されているが、打面と器体の角度が原因であろう。彫刻刀面に先行する背面調整と左側縁に微小剥離痕が認められる。77は素材打面側の左側縁に加えられた樋状剥離を打面として右側縁に彫刻刀面が作出されており、左側縁に４条、右側縁に３条の彫刻刀面が認められる。両側縁とも樋状剥離に先行する背面調整が認められる。左側の彫刻刀面と背面との稜線には大型のステップフレイキングが背面側にのみ連続しており、この稜線が刃部として Whittling ないし Scraping に利用された可能性が高いことを示している。

石刃(116～128)　20点出土したうちの13点を図示した。石材は珪質頁岩が18点、頁岩１点、玉髄が１点である。完形品はⅡ類の41、Ⅲ類の42・44、Ⅰ類の95の４点である。54は大型の石刃で完形品ではないもののⅡ類の可能性が高い。８・118・119も完形品ではないものの依存率の高い比較的形の整った石刃で８、85はⅠ類、80はⅡ類の可能性が高い。44は入念な稜形成が行われた石刃で、稜形成調整の打面であった背面左の剥離面がポジティヴなので石核は剥片素材であろう。５＋48は折断面で接合したが、５は右側縁、48は両側縁に微小剥離痕が認められ、切断後それぞれが使用されたことを示している。

彫刻刀削片(129～153)　47点出土し、25点を図示した。石材は全て珪質頁岩である。18・31は彫刻刀形石器70と、74は77と、193は69との接合資料が得られた。また、図示したものでは34・50・138が右肩ないし右側縁から剥離された他は全て左側から剥離されたものである。

(5)　ブロック７ａ出土石器(図版23～26、写真図版139～141)

ブロック７ａからは、94点の石器と１点の礫が出土し、石器組成は第14表、石材組成は第15表に示した。

ナイフ形石器(154～159)　出土した６点全てを図示した。石材は全て珪質頁岩である。51はⅠａ－１類の完形品で、先端につぶれと樋状剥離、右側縁に微小剥離痕が認められる。特に先端のつぶれと樋状剥離は衝撃剥離の可能性がある。30・41・50・71はいずれもⅠａ類で先端側を折れで欠損している。こうしたあり方もナイフ形石器が主に槍先などの刺突具として使用されたことを示していると考える。また、背面加工のない50を除き51を含めた４点の基部主要剥離面への調整はいずれも背面加工後に施されている。

彫刻刀形石器(160～178)　出土した19点のうち小破片の124を除く18点を図示した。石材は珪質頁岩17点、玉髄２点である。15は石刃の両端に刃部を作出したものである。先端はⅠ類の刃部で彫刻刀面より新しい背面調整が認められる。打面側は無調整の右側縁から樋状剥離が施されている。この樋状剥離は横方向からの折れ面の可能性もあるが、明確な打点が認められたことから樋状剥離とした。85は石刃先端の左肩にⅠ類の刃部が作出されたものである。彫刻刀面に見られる鋸歯状の剥離は発掘時の破損で調整ではない。右側縁先端よりにタール状の付着物、基部左側縁に微細な調整が認められる。20は石刃の両端にⅠ類の刃部が作出されている。基部側の刃部にみられる背面への調整は樋状剥離よりも新しい。８は玉髄の石刃先端に４条の樋状剥離を施しⅠ類の刃部を作出したものでＢ３－103と折れ面で接合している。67は石刃の

第14表　ブロック７ａ石器組成表

母岩No.	ナイフ	彫刻刀	その他	石刃	剝片	彫削片	チップ	礫	計
1		1		1		1			3
2	2								2
3		1				1			2
4		2							2
7		1				1			2
8	1								1
10		2							2
11						1			1
13		1	1	1					3
14				2		1			3
16		1		1					2
19		2							2
20		2			1		1		4
24				1					1
27		1							1
29						1			1
31		1		1					2
33	2			1					3
35						1			1
単　独				2					2
母岩外	1	4	1	9	3	18	18	1	55
合　計	6	19	2	19	4	25	19	1	95

第15表　ブロック７ａ石材組成表

石　材　名	石　　器	礫	合　　計
珪質頁岩	83		83
頁　　岩	2		2
玉　　髄	6		6
擬　灰　岩	2		2
安　山　岩	1		1
粘　板　岩		1	1
合　　計	94	1	95

先端にⅠ類の刃部を持つ彫刻刀形石器で基部側を主要剝離面からの折れで欠損している。樋状剝離は４条施されている。18はⅠ類の刃部の先端である。樋状剝離が器体自身を横断してしまい下半が失われている。66は石刃先端の左肩に彫刻刀刃部を作出し、基部調整の施された彫刻刀である。刃部には樋状剝離に先行する背面への調整も認められる。基部にも樋状剝離が認められるが、これはしばしばナイフ形石器の基部調整などにも認められるもので彫刻刀面とはみなさなかった。78は石刃の基部側にⅠ類の彫刻刀刃部が作出されたものである。彫刻刀打面付近に大きな焼けはじけがあるが、主要剝離面への調整による彫刻刀打面をかろうじて確認できた。88は石刃先端の右側縁から横断するように施された樋状剝離を打面として右側縁に１条、主要剝離面に１条の樋状剝離が加えられたⅥ類である。左側縁の主要剝離面には小さな剝離が連続している。52は厚手の石刃を素材として両端に彫刻刀面が作出されている。素材基部側は主要剝離面に加えられた平坦な剝離を打面としてノッチ状に素材を断ち切る連続的な背面調整を施し、これを彫刻刀打面として右側縁主要剝離面側に樋状剝離を加えている。Ⅴ類に分類した。素材先端側は素材を断ち切るように主要剝離面に施された調整を打面として背面に１条の樋状剝離が施されている。また、背面中央と右側縁に彫刻刀打面に切られた古い樋状剝離が残っており、彫刻刀面作出が最低でも２回行われていたことがわかる。49は玉髄製の石刃の先端にⅠ類の彫刻刀面が作出されたもので、被熱している。右側縁に微小剝離痕が認められる。87は薄手の石刃の先端にⅠ類の刃部を作出したもので、一見ナイフ形石器と区別のつかない基部調整が施されている。折れたナイフ形石器から器種替えされた可能性がある。86も石刃の先端にⅠ類の刃部が作出されたもので、左側縁基部側に鋸歯状の調整が認められる。彫刻刀面の縁辺には背面側に集中した微小剝離痕が認められる。57は石刃の両端に刃部が作出されている。先端側の刃部は右肩に施された背面調整を打面として左肩に樋状剝離の加えられたⅣ類で、彫刻刀面縁辺に微小剝離痕が認められる。基部側には器体を横断するようなⅠ類の刃部が作出されている。92は石刃先端の右肩に施された樋状剝離を打面として左肩に樋状剝離が施されて彫刻刀面が作出されたⅥ類で、左右両側縁に連続す

る小剥離痕が認められる。25は石刃を素材とし、先端側にV類、基部側にⅣ類の刃部が作出されたものである。先端側は素材を断ち切るようなゆるいノッチ状の背面調整を打面として左右両側縁に樋状剥離が施されている。基部側は、左側縁の連続的な調整を打面にして右側縁に斜めに彫刻刀面が作出されている。右側縁における彫刻刀面同士、左側縁における基部側の調整と先端側の樋状剥離の切り合いはいずれも先端側の方が新しい。12は剥片ないし石刃の打面側の両側縁に彫刻刀面の作出されている彫刻刀形石器である。右側縁は側縁に沿って施された樋状剥離を打面として彫刻刀面が作出されている。また、左側縁は素材の打面から無調整で施されている。先端側の左縁辺にはエンドスクレイパー状の背面加工とこれより新しい主要剥離面へのノッチ状の調整が認められる。132は、幅広の石刃の先端に器体を切断するような調整を施し、これを打面として左側縁主要剥離面側に樋状剥離を加えて彫刻刀面が作出されたもので、V類に分類した。基部は左側縁の主要剥離面への調整と右側縁の主要剥離面と背面への調整とによって舌部を作り出すように整形されている。右側縁の調整は主要剥離面への調整の後に、背面に加えられておりナイフ形石器の基部加工とは明らかに異なる。

二次加工ある石刃(179)　出土した2点のうち、63の1点を図示した。もう一点の32は小破片なので除外した。石材はいずれも珪質頁岩である。63は石刃の折れ面に背面から連続的な調整が施されたものである。右側縁側に微小剥離痕が認められる。

石刃(180～187)　出土した19点(接合の結果18点)のうち9点(接合の結果8点)を図示した。石材は珪質頁岩17点(接合の結果16点)、頁岩1点、玉髄1点である。完形品はⅠ類の24、Ⅲ類の3＋5である。また、36は先端を、4は打面側を欠損しているものの遺存率は高く、いずれもⅠ類の可能性が高い。完形の3＋5は背面に稜形成痕をとどめている。

彫刻刀削片(188～202)　25点出土したうち15点を図示した。石材は25点全て珪質頁岩である。図示した中では、9・10・123の3点のみが素材の右肩ないし右側縁から剥離されたもので、他は全て左側から剥離されたものである。25点のうち打面を観察できた18点中17点が素材主要剥離面への調整を打面としており、Ⅰ類ないしⅡ類の彫刻刀面作出時に生じたものである。また、61はB3－153と接合した。

(6)　ブロック7b出土石器(図版26・27、写真図版141・142)

ブロック7bからは、26点の石器が出土した。石器組成は第16表、石材組成は第17表のとおりである。

ナイフ形石器(203～206)　出土した4点全てを図示した。116は珪質頁岩の石刃を素材としたIa－1類で

第16表　ブロック7b石器組成表

母岩No.	ナイフ	彫刻刀	その他	石刃	剥片	彫削片	チップ	礫	計
4		1							1
6		1							1
11	1			2					3
13	1	1							2
15		2		1					3
19				1					1
20		1							1
28				1					1
29						1			1
31		2							2
単　独	1								1
母岩外	1		1	4		2	1		9
合　計	4	8	1	9	0	3	1	0	26

第17表　ブロック7b石材組成表

石材名	石　器	礫	合　計
珪質頁岩	22		22
玉　髄	2		2
擬灰岩	1		1
チャート	1		1
合　計	26	0	26

ある。先端を背面からの折れで欠損するが、右側縁に先端加工が一部残っている。基部主要剝離面の調整は背面加工よりも新しい。107・114・117の3点は先端のみが遺存しているもので、石材は107がチャート、114が珪質頁岩、117が玉髄である。107は先端左の背面側に、114は先端左の背面側と右の主要剝離面に調整が認められ、いずれもⅢ類である。117は先端にも微細な加工が認められるが、左側縁基部側にも調整が認められⅠ類と考えられる。

彫刻刀形石器(207～213)　出土した8点のうち7点を図示した。石材は111の玉髄を除いて全て珪質頁岩である。110は石刃の先端右肩の主要剝離面への調整を彫刻刀打面として左肩の縁辺から背面にかけて4条の樋状剝離が施され彫刻刀面の作出されたⅠ類である。左肩には樋状剝離に先行する背面調整が、左側縁には微小剝離痕が認められる。111は石刃の先端にⅠ類の刃部が作出されたもので、素材打面側を焼けはじけによって欠損する。108は厚手で幅広の石刃先端の左側縁に作出された樋状剝離を打面として右肩に刃部の作出されたⅢ類の彫刻刀である。両側縁には比較的大型の微小剝離痕がまばらに分布し、基部側を主要剝離面からの折れによって欠損している。103は石刃の打面側にノッチ状に背面加工を施して作出した尖頭部から1条の樋状剝離が主要剝離面側に施された彫刻刀でⅤ類に分類した。基部側も同様な尖頭部が作出されているがここには樋状剝離が見られずに先端に微小剝離痕が認められた。先端側の樋状剝離が使用痕であるとするならばこの石器は錐形石器に分類されるべきかもしれないが、ここでは樋状剝離を優先する。120は石刃の打面側に刃部が作出されているが、焼けはじけにより彫刻刀打面作出方法を検討することができないので分類不能である。118は石刃の先端にⅠ類の刃部が作出されたものである。115も石刃の先端にⅠ類の刃部が作出された彫刻刀である。彫刻刀打面は右肩の主要剝離面に施された1枚の剝離面で、これを打面として器体を横断するような樋状剝離が施されている。基部調整はナイフ形石器のものと一見区別できず、折れたナイフ形石器から器種替えされたものかもしれない。

彫刻刀形石器母型(214)　82はⅠ類の彫刻刀形石器の母型と思われる。石刃先端の右肩の主要剝離面と両肩の背面に連続的な調整が施されている。両者の切り合いは背面への調整の方が新しい。

石刃(215～219)　出土した9点のうち5点を図示した。石材は9点全て珪質頁岩である。完形品はⅠ類の105・126、Ⅱ類の102で、102と105は接合する。また、104は背面に稜形成痕をとどめている。

彫刻刀削片(220・221)　3点出土しているが、図示したのは2点である。石材は3点とも珪質頁岩である。112はⅠ類の彫刻刀面作出時のものである。113は上半を欠損している。

(7)　ブロック8出土石器(図版28・29、写真図版142)

ブロック8からは26点の石器が出土した。石器組成は第18表、石材組成は第19表のとおりである。

ナイフ形石器(226～225)　出土した4点全て図示した。石材は全て珪質頁岩である。5・13・16はいずれもⅠa－1類で、先端を折れで欠損する。また、3点とも基部主要剝離面への調整の方が背面への調整より新しい。6は背面調整のみで基部が整形されたⅠb類で先端側を不規則な折れで欠損している。

彫刻刀形石器(226～229)　出土した4点全て図示した。石材は全て珪質頁岩製である。20は石刃の先端にⅠ類の刃部が作出された彫刻刀形石器である。19も石刃先端にⅠ類の刃部が作出されたもので、左肩の縁辺から背面にかけて4条の彫刻刀面が作出されている。基部側を背面からの折れで欠損する。15は石刃の先端にⅠ類の刃部が作出されたもので、彫刻刀面よりも新しい背面への調整が認められる。彫刻刀削片4・7との間で良好な接合資料が得られた。22も石刃の先端にⅠ類の刃部を作出するもので左肩の縁辺から背面にかけて2条の彫刻刀面が作出されている。

第18表　ブロック８石器組成表

母岩No.	ナイフ	彫刻刀	その他	石刃	剝片	彫削片	チップ	礫	計
3						1			1
5	2								2
18				1					1
20				1					1
23		1		1					2
26						1			1
27		1				2			3
33				1					1
単　独	2	1							3
母岩外		1		8		2			11
合　計	4	4	0	12	0	6	0	0	26

第19表　ブロック８石材組成表

石　材　名	石　器	礫	合　計
珪質頁岩	24		24
頁　岩	1		1
玉　髄	1		1
合　計	26	0	26

石刃(230～234)　出土した12点のうち５点を図示した。石材は珪質頁岩10点、頁岩１点、玉髄１点である。完形品は２・27の２点で全てⅡ類である。また、３＋12、26は依存率が高くそれぞれⅠ類、Ⅱ類であると考えられる。25は背面に稜形成痕をとどめている。

彫刻刀削片(235～240)　出土した６点全てを図示した。石材は６点全て珪質頁岩である。また、６点とも左肩ないし左側縁に作出されたⅠ類の刃部作出時に生じたものである。８が彫刻刀形石器Ｂ５－82、彫刻刀削片Ｂ５－40と４、７が彫刻刀形石器15と接合する。

(8)　ブロック外出土石器(図版30、写真図版143)

ブロック外出土石器で確実に旧石器と判断できる石器は32点である。

ナイフ形石器(241～244)　４点出土した。198はAE５区、113はAH５区からの出土で旧石器時代のブロック群からは大きく離れている。198はチャート製のやや不整形な石刃を素材としたⅠb－１類である。基部両側縁と先端左に背面への調整が認められる。113は珪質頁岩の石刃を素材としている。背面側は基部の両側縁と先端左に、主要剝離面側は左側縁全部と右側縁の基部とほか一部に調整が施されている。ほぼ全周に調整が施されていることになり、本遺跡で出土したナイフ形石器の中では特異な存在である。1098はAF12区からの出土で、珪質頁岩の石刃を素材としたⅠb類である。背面からの折れで先端側を欠損する。212は頁岩製の石刃を素材とし先端と基部の両側縁に調整が施されている。

彫刻刀形石器(245～247)　４点出土した。611はAG８区、191はAE５区、1087はAF11区からの出土である。611は珪質頁岩の石刃を素材としたⅡ類の彫刻刀形石器で、素材先端の左肩を断ち切るような主要剝離面への調整を彫刻刀打面として左側縁と背面に彫刻刀面が作出されている。左側縁には不規則な二次加工が施されている。1087はⅠ類の彫刻刀刃部作出時の彫刻刀削片を素材とした彫刻刀形石器である。素材先端の主要剝離面から無調整で樋状剝離が施されている。Ⅶ類に分類でき、石材は珪質頁岩である。191は珪質頁岩のやや不整形な石刃の打面側の主要剝離面に断ち切るような調整が施され、これを打面として両側縁に樋状剝離が施されたⅡ類の彫刻刀形石器である。

石刃(248)　出土した14点のうち、１点図示した。1080はAF11区から出土した珪質頁岩製の石刃である。

彫刻刀削片(249～251)　３点出土した。641はAF７区からの出土でチャート製である。Ⅰ類の彫刻刀刃部作出時のものと思われる。背面にはこの彫刻刀削片の剝離に先行する調整が認められる。1200はAF12からの出土で、Ⅰ類の刃部作出時のものである。やはり削片剝離に先行する調整が認められる。珪質頁岩製である。369はAD５区からの出土である。珪質頁岩製で、Ⅲ類の刃部作出時のものと思われる。

(9) 表面採集石器(図版30・31、写真図版143・144)

表面採集した石器のうち確実に旧石器時代の石器と判断したのは20点で14点を図示した。

ナイフ形石器(252～256)　5点図示した。252(実測図番号以下同じ)は玉髄製のⅠb－1類である。253はⅠa－1類、254はⅢ類、255はⅠb類、256はⅠa－1類でいずれも珪質頁岩製である。Ⅰa－1類の2点の基部主要剝離面への調整はいずれも背面加工よりも新しい。

彫刻刀形石器(257～266)　9点図示した。全て珪質頁岩製である。257は石刃打面側の背面右肩への調整を彫刻刀打面として左側縁に彫刻刀面が作出されたⅣ類である。258は石刃先端の左肩にⅠ類の刃部を作出したもので、樋状剝離に先行する背面への調整が認められる。右側縁主要剝離面に平坦な調整が認められるが、左側縁主要剝離面の連続的な剝離は発掘時の破損である。259は石刃打面側の右肩に主要剝離面への調整が施され、これを打面として左肩に彫刻刀面が作出されている。石器基部の右側縁に連続的な調整が認められる。260は石刃の先端側にⅠ類の刃部を作出したもので、両側縁の主要剝離面に連続的な調整が認められる。261は石刃を素材とし、先端側左肩の背面調整を彫刻刀打面とするものでⅣ類である。263は石刃の先端側にⅠ類の刃部を作出したもので、樋状剝離は4条施されている。262は石刃の打面側の背面調整を打面として右側縁に樋状剝離が施されたもので、Ⅴ類にあたる。下半部は回り込んだ樋状剝離によって欠損している。264は石刃の先端に右下がりの背面加工が施されたものである。エンドスクレイパーの可能性もあるが、確実ではないものの左側縁の背面加工に切られた小剝離が樋状剝離と考えられることから彫刻刀形石器としておきたい。

C　母岩別資料

上ノ平遺跡C地点出土石器群は珪質頁岩を主体とし接合資料も少ない。そこでA地点出土石器群同様、主に母岩の共有関係からブロックの同時性を検討することを目的として母岩の識別を行った。したがって、母岩の識別の不確実な資料はたとえ同一母岩の可能性があっても識別不能とした。

(1) 母岩の識別と分類

上ノ平遺跡C地点の手掘り出土石器のうち175点を35母岩に分類した。また、明らかに単独母岩資料と考えられる石器が12点ある。各母岩の特徴を第20表、出土点数と母岩の分類を第21表に示した。母岩の識別は、色調、模様、自然面の特徴、粒度、光沢などを参考にして行った。出土石器には灰白色の極細粒緻密で光沢を有する母岩が多く、特にチップ、彫刻刀削片ではこれらを識別することは困難であった。

A地点同様、遺跡内で行われた石器製作の工程によって各母岩をⅠ～Ⅲに分類した。

Ⅰ類：遺跡内で石刃生産およびトゥールの製作・刃部再生が行われた痕跡を持つもの。石刃生産の痕跡は、石刃、各種調整剝片、チップの多出、接合資料の存在を基準とし、トゥールの製作・刃部再生は彫刻刀削片、チップの出土を基準とした。

Ⅱ類：遺跡内でトゥールの製作または刃部再生が行われた痕跡を持つもの。

Ⅲ類：遺跡内で石器製作が行われた痕跡を持たず、トゥールが搬入されたと思われるもの。

この結果、35の母岩はⅡ類13母岩、Ⅲ類22母岩で、単独母岩資料12点もⅢ類と考えられることから、Ⅲ類は34母岩あることになる。Ⅰ類の母岩は存在しなかった。ただし、サンプリングエラーや削片・チップにおける母岩識別率が特に低いことを考慮すると。Ⅱ類の割合が低く見積もられているかもしれない。し

第20表　各母岩の特徴（旧石器）

母岩No.	岩石名	色調	粒度	光沢	特徴	自然面の特徴
1	珪質頁岩	灰白色	極細	中	白色の斑点状の模様	浅黄色で表面なめらか
2	珪質頁岩	灰白色	極細	中		
3	珪質頁岩	灰白色	極細	中	白色の斑点状の模様	浅黄色で表面なめらか
4	珪質頁岩	灰白色	極細	強	にぶい赤褐色の墨流し状の模様	
5	珪質頁岩	灰白色	細	中	明黄褐色の夾雑物	
6	珪質頁岩	灰白色	細	弱	縞模様	
7	珪質頁岩	灰白色	細	中	黒色粒子を含む	
8	珪質頁岩	灰白色	細	弱	黒色粒子を含む	
9	珪質頁岩	灰黄褐色	細	中		灰白色で表面なめらか
10	珪質頁岩	褐灰色	極細	中		
11	珪質頁岩	褐灰色	中	弱	縞模様	
12	玉髄	灰白色	細	弱	灰黄褐色の模様	
13	珪質頁岩	黄灰色	細	弱	黄褐色の斑点状のしみ	灰黄色
14	珪質頁岩	灰白色	細	弱	にぶい赤褐色の縞模様	浅黄色で表面なめらか
15	珪質頁岩	黄灰色	細	弱		
16	珪質頁岩	灰黄褐色	極細	強	褐灰色の墨流し状の模様	明黄褐色で表面凹凸あり
17	玉髄	にぶい褐色	細	弱	明青灰色・灰白色の縞模様	
18	珪質頁岩	褐灰色	中	弱		
19	珪質頁岩	褐灰色	中	弱	縞模様、黄橙色の粒子多量に含む	にぶい黄橙で表面は細かな凹凸あり
20	玉髄	青灰色	細	弱	白色の粒子、焼けたもの灰白色	
21	珪質頁岩	灰白色	中	弱	白色部分と灰色部分あり	
22	珪質頁岩	灰色	細	中	縞模様	
23	珪質頁岩	褐灰色	極細	中	淡黄色の部分がある	
24	珪質頁岩	黄灰色	極細	中	黒褐色の斑点、網目状の模様	
25	珪質頁岩	黄灰色	細	中	淡黄色の粒子	
26	珪質頁岩	灰色・黄灰色	細	弱	縞模様	
27	珪質頁岩	灰白色	細	強	やや色の濃い部分有り	
28	珪質頁岩	灰褐色	極細	強		にぶい黄橙色
29	珪質頁岩	灰白色	細	中	縞模様	褐灰色でなめらか
30	玉髄	暗褐色	細	強	白色の模様	
31	珪質頁岩	灰黄褐色	極細	中	斑状の模様	
32	珪質頁岩	褐灰色	細	弱		淡黄色
33	珪質頁岩	灰白色	極細	中		
34	珪質頁岩	にぶい黄橙色	中	弱		明黄褐色表面なめらか
35	珪質頁岩	灰白色	極細	中	褐灰色の模様	

かし、もし仮に識別不能資料の中に同一母岩資料があったとしても、石刃生産が行われていたとは考えられず、Ⅰ類の母岩が存在しない点については大きく変更される可能性は低いと考える。

(2)　ブロック間での共有状況

母岩別資料の出土状況を図版36～41に、ブロック別出土点数を第22表に示した。ブロック3aから8まで順に36点、25点、11点、35点、38点、16点、12点で母岩が識別され、全てのブロックの間で母岩の共有関係が認められる。したがって、上ノ平遺跡C地点の7か所の旧石器時代のブロックは母岩の共有レベルでの同時性が検証された。点数が少ないこともあり、母岩の共有関係における特定ブロック同士の強い結びつきは認められない。各母岩とも各ブロックに散在しているように見える。

D　接合資料（図版31～35、写真図版144～146）

石刃の折れ面での接合などを除いた12例を提示する。

第21表　各母岩の出土点数と分類

母岩No.	ナイフ	彫刻刀	その他	石刃	剥片	剥御片	チップ	計	分類
1	2	5		3		3	1	14	Ⅱ
2	2	1						3	Ⅲ
3	1	2		1		1		5	Ⅱ
4		4		1	2			7	Ⅲ
5	2							2	Ⅲ
6	1	2		1				4	Ⅲ
7	1	2		4	1	1		9	Ⅱ
8	1			1	1			3	Ⅲ
9				2				2	Ⅲ
10	1	3						4	Ⅲ
11	1			3		1		5	Ⅱ
12		1		1				2	Ⅲ
13	2	2	1	2		1		8	Ⅱ
14				4		3		7	Ⅱ
15	1	2		1				4	Ⅲ
16		3		1				4	Ⅲ
17				2				2	Ⅲ
18				3				3	Ⅲ
19		3		1		2		6	Ⅱ
20	1	5		3	1	1	1	12	Ⅱ
21		2				3		5	Ⅱ
22		4		1		3		8	Ⅱ
23	1	2		2				5	Ⅲ
24		1		1				2	Ⅲ
25		1		2				3	Ⅲ
26		1			2	2	2	7	Ⅱ
27		3		2	2			7	Ⅲ
28		1				2		3	Ⅱ
29	1	2		1	4		2	10	Ⅱ
30		1		1				2	Ⅲ
31		4		2				6	Ⅲ
32		1			1			2	Ⅲ
33	2			2				4	Ⅲ
34		1				1		2	Ⅲ
35						2		2	Ⅲ
単独	5	5		2				12	Ⅲ
計	25	64	1	50	15	26	6	187	

第22表　各母岩のブロック別出土点数

母岩No.	3a	3b	4	5	7a	7b	8	外	計
1	6		1	4	3				14
2			1		2				3
3	1			1	2		1		5
4		4			2	1			7
5							2		2
6	2			1		1			4
7	1	4		2	2				9
8	2				1				3
9				2					2
10	1		1		2				4
11				1	1	3			5
12	1			1					2
13	1			2	3	2			8
14		2		2	3				7
15	1					3			4
16			2		2				4
17	1	1							2
18				2			1		3
19	2		1		2	1			6
20	2	4			4	1	1		12
21	2			3					5
22	1	3	1	3					8
23	2		1				2		5
24	1				1				2
25	3								3
26			2	4			1		7
27		2		1	1		3		7
28	2					1			3
29	1	4		3	1	1			10
30	1	1							2
31	1		1		2	2			6
32				2					2
33					3		1		4
34				1				1	2
35					1			1	2
計	36	25	11	35	38	16	12	2	175

接合資料1（B3－47＋B3－118）

母岩20の彫刻刀形石器B3－47と削片B3－118の接合資料である。接合距離は2.4mであるが、B3－47はⅡa層からの出土で新しい破損を受けており信頼できる数字ではない。削片B3－118の剝離によって石刃端部にⅠ類の彫刻刀面が作出されているが、削片の打面側と彫刻刀形石器基部側は欠損している。彫刻刀形石器の欠損は新しいものである。

接合資料2（B3－95＋AE11·25－b①＋B3－88）

母岩21における彫刻刀形石器と削片2点の接合資料である。削片のうち1点はふるい選別で得られた。接合距離はB3－95とB3－88の間で1.6mで、AE11・25も両者の間に位置する。石刃先端の右側縁から打面作出が行われずに2点の削片が剝離され彫刻刀面が作出されている。これに先行する彫刻刀面があることから、この接合資料は刃部再生を示していると考えられ、刃部が石刃の長軸方向に後退していることがわかる。

接合資料3（B3－40＋B3－46＋B7－81）

母岩28における彫刻刀形石器B3－46、削片B3－40、石刃B7－81の接合資料である。接合距離はB3－40とB3－46で5.8m、B3－40とB7－81で17.2mである。B3－46とB3－40の接合は彫刻刀形石器の刃部再生を、B3－46とB7－81の接合は石刃剝離を示す。B7－81は打面側を折れで欠損する石刃であるが、その形態から石刃の打面は折れ面からかなり遠いものと思われる。B3－46の素材となった石刃はB7－81以前に剝離されたものであるから、その打面がB3－46よりも近いということはありえない。途中折断などによる調整が行われていないとすれば、B3－46とB3－40で示される一連の刃部再生によって石刃の長さが大きく減少していることがわかる。

接合資料4（B5－82＋B5－40＋B8－8）

母岩26における彫刻刀形石器と削片2点の接合資料である。接合距離はB8－8とB5－40で32.8m、B5－40とB5－82で1.2mである。この接合資料も彫刻刀における刃部が石刃の長軸方向に後退してゆく刃部再生を示していると考えられる。これに先行する彫刻刀面が存在し、B8－8の先端でも素材石刃が十分に厚いことから、この接合資料以前にも刃部再生が繰り返され、素材石刃の長さがかなり減少していた可能性が高い。この接合資料は1枚目の削片がブロック8から、2枚目の削片と彫刻刀形石器がブロック5から出土しているおり、B8－8剝離後彫刻刀形石器がブロック5に移動したと考える。

接合資料5（B5－77＋B5－74）

母岩22における彫刻刀形石器B5－77と削片B5－74の接合資料で、接合距離は1.2mである。樋状剝離を打面として削片B5－74が剝離され、新たな彫刻刀面が作出される刃部再生を示す接合資料である。削片の剝離に先行する背面への調整が認められる。

接合資料6（B5－70＋B5－18＋B5－31）

母岩21における彫刻刀形石器B5－70と削片B5－18・B5－31の接合資料である。接合距離はB5－18とB5－31で2.5m、B5－18とB5－70で0.6mである。接合資料2や4と同様、素材石刃の長軸方向に後退する刃部再生を示す接合資料である。B5－31とB5－18の彫刻刀打面は同一ではなく、打面作出と樋状剝離がくり返されていたことがわかる。

接合資料7（B5－69＋B5－193）

母岩32における彫刻刀形石器B5－69と削片B5－193の接合資料で接合距離は2.2mである。彫刻刀形石器の先端左肩に削片が接合しており、Ⅰ類の彫刻刀刃部の再生を示している。

接合資料8（B7－105＋B7－102）

母岩11における石刃同士の接合資料で接合距離は2.1mである。2点の石刃の打面の高さが違っており、B7－102の剝離からB7－105の剝離の間に打面再生が行われたことがわかる。しかし、この遺跡では同一母岩の打面再生剝片や砕片など石刃生産に伴う遺物が出土していないことから、この2点の石刃は他の遺跡で剝離されたものが持ち込まれたと考える。

接合資料9（B5－51＋B5－66）

母岩7における彫刻刀形石器B5－51と削片B5－66との接合資料で、Ⅰ類の彫刻刀の刃部再生を示す。B5－66の背面には先行する彫刻刀面が残るが、この彫刻刀面を打面として、彫刻刀形石器背面に連続的な調整が施されている。また、刃部再生が石刃の長軸方向に後退するように進行していたものと思われる。

接合資料10（B7－87＋B7－27）

母岩7における彫刻刀形石器B8－87と削片B7－27の接合資料で接合距離は3.1mである。B7－87は

その形態から破損したナイフ形石器から器種替えされた可能性を既に指摘したが、この接合資料からはこれを証明することができなかった。削片Ｂ７－27には背面への調整が認められる。

接合資料11(表採16＋Ｂ７－61)

母岩35における彫刻刀削片同士の接合資料である。彫刻刀形石器本体は出土せず、遺跡外に持ち出されたことを示している。Ｂ７－61剥離と表採16の剥離の間には少なくとも一回の樋状剥離と背面調整が行われている。Ｂ７－61に先行する背面調整も認められ、背面調整と樋状剥離を繰り返しながら、Ⅰ類の彫刻刀刃部の再生が行われたことがわかる。また、この接合資料でも接合資料２・４・６・９同様石刃の長軸方向に刃部が後退しているようである。

接合資料12(Ｂ８－15＋Ｂ８－７＋Ｂ８－４)

母岩27における彫刻刀形石器Ｂ８－15と削片Ｂ８－７・Ｂ８－４の接合資料である。接合距離はＢ８－４とＢ８－７で1.1ｍ、Ｂ８－７とＢ８－15で3.0ｍである。Ⅰ類の彫刻刀刃部の再生を示す接合資料と考えられる。彫刻刀形石器の左肩に施された背面調整はＢ８－7の剥離以後のものであり、この調整以降の樋状剥離は認められない。彫刻刀面や削片の背面にしばしば認められるこうした調整がいつも樋状剥離の直前に行われるわけではないことをこの接合資料は示している。

Ｅ　ふるい選別資料

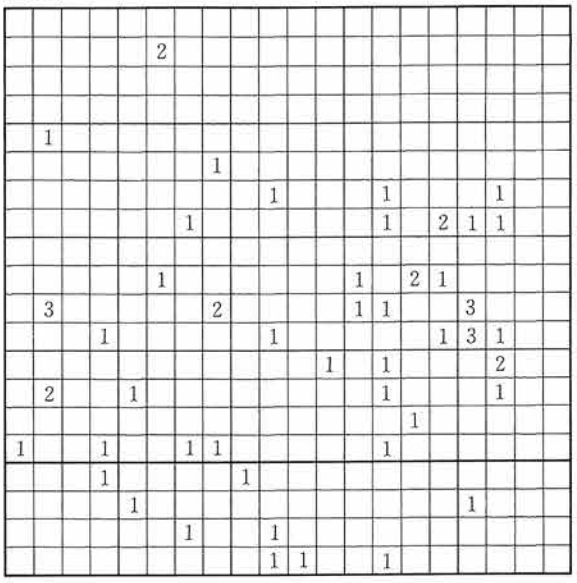
ブロック３ａ・３ｂ・５では微細遺物の回収を目的として、土壌のふるい水洗を行った。土壌を採集した範囲は、ブロック３ａ・３ｂがＡＥ11－６～25・ＡＦ11－１～５、ブロック５がＡＦ15全体である。この範囲を50㎝グリッドに分割し土壌採集を行った。また、土壌採集は調査期間などから限定して行わざるをえず、Ａ地点でのふるい選別の結果を参考にして、遺物の埋没後の移動が少なく比較的出土点数の多いと思われるⅢ層上面から５㎝ずつ２回行った。これはⅢ層のほぼ全てをサンプリングしたことになる。したがって、今回のふるい選別は悉皆採集をめざすというよりはサンプリングエラーの程度を検討する意味あいが強い。使用したフルイは３㎜メッシュである。これは今回のふるい選別の主な目的が、Ａ地点同様彫刻刀削片の回収を目的としているためである。

ブロック３ａ・３ｂからチップ109点、彫刻刀削片33点、合計142点、ブロック５からチップ35点、彫刻刀削片11点、合計46点の遺物が得られた。ブロック３ａ・３ｂではⅢ層からチップ１点、彫刻刀削片11点、ブロック５ではチップ20点、彫刻刀削片22点を手掘りの遺構精査で検出している。これらを比較するとブロック３ａ・３ｂとブロック５の間で手掘り調査の精度に大きな差が見られる。いずれのブロックでも遺構精査におけるトゥールや石刃の見落としは認められなかったものの、比較的調査精度の高いブロック５でも彫刻刀削片の３分の１を見落としていることになり、手掘り調査における微細遺物の回収には限界があることを示している。

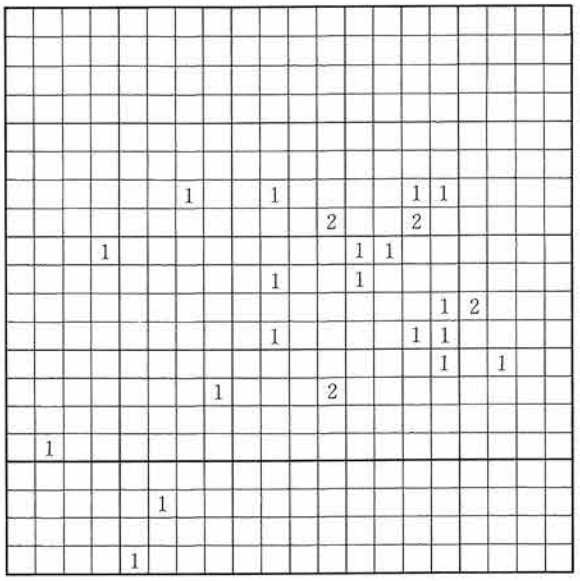
ふるい選別資料のグリッド別出土状況を第23・24表に示した。ブロック３ａのＡＥ11－13・14・18・19で多量の彫刻刀削片が出土しており、この周辺で彫刻刀形石器を使用した活動が盛んに行われていたものと思われる。ブロック５でもＡＦ15－８付近に彫刻刀削片がわずかながらまとまっている。

第23表　ブロック３a・３bふるい選別資料出土点数

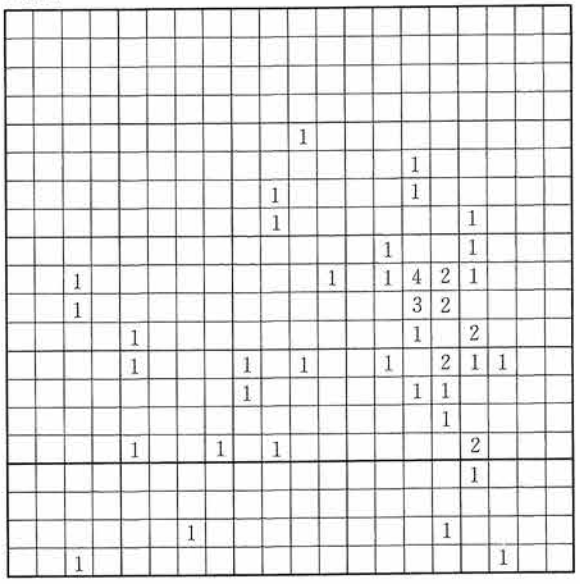
１回目　チップ



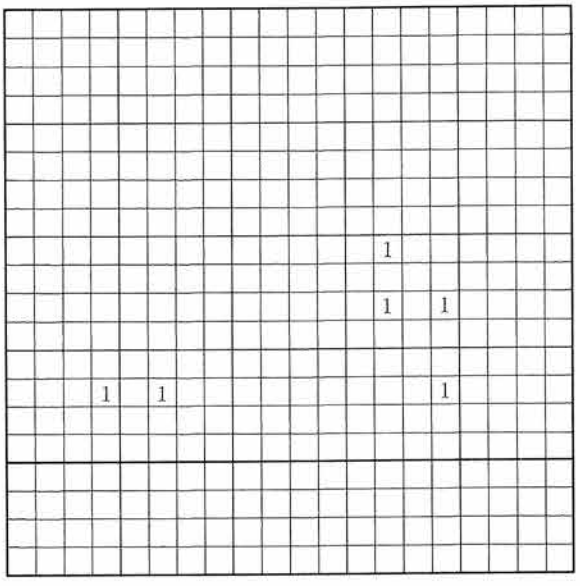
１回目　彫刻刀削片



２回目　チップ



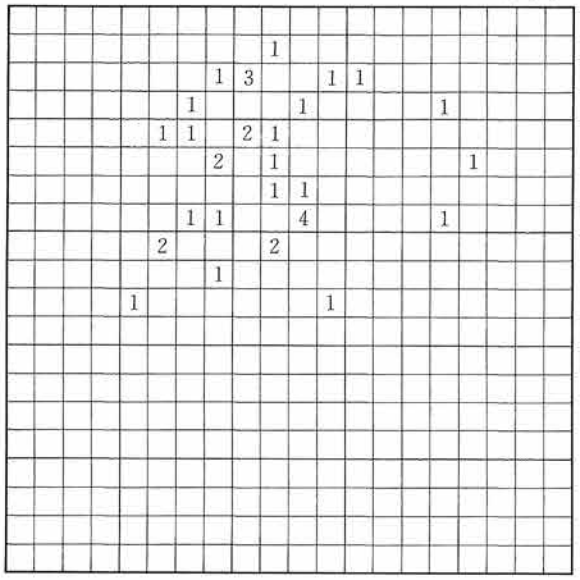
２回目　彫刻刀削片



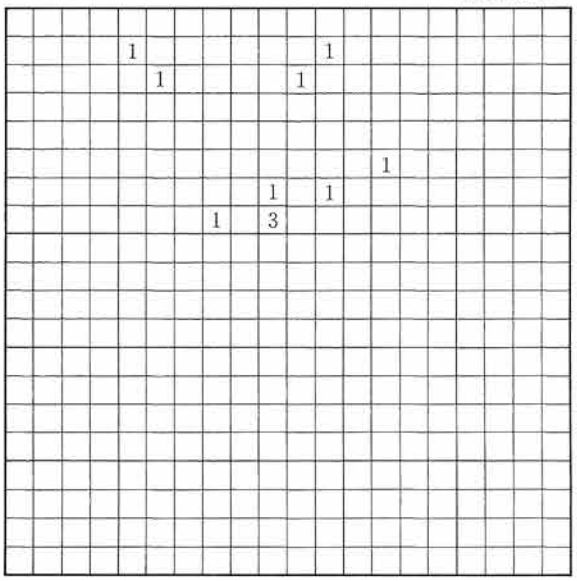
	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15
AE 11	16	16	17	18	19
	21	22	23	24	25
AF 11	1	2	3	4	5

第24表　ブロック５ふるい選別資料出土点数

チップ



彫刻刀削片



AF 15

1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20
21	22	23	24	25

第25表　ブロック３ａ出土石器観察表(1)

遺物No.	図No.	大グリッド	北南	西東	層	標　高	分類	最大長	最大幅	厚さ	重量(g)	石材	母岩	被熱	破損	備　　考
18	34	ＡＥ11	680	565	Ⅱａ	71.617	ＢＬ	62.8	33.4	7.1	9.93	珪質		有	破損	
19		ＡＥ11	638	609	Ⅱｂ	71.606	ＢＬ	22.5	21.7	4.6	1.75	珪質		無	破損	
20	30	ＡＥ11	637	640	Ⅱｂ	71.483	ＢＬ	51.3	16.3	4.9	4.08	珪質	単	無	破損	稜形成
21		ＡＥ11	587	657	Ⅱａ	71.719	ＢＬ	23.9	16.7	2.8	0.90	珪質		無	破損	
22	28	ＡＥ11	578	688	Ⅲ	71.476	ＢＬ	51.8	13.6	3.3	3.07	珪質	1	無	完形	
23	38	ＡＥ11	636	711	Ⅱｂ	71.480	ＢＬ	45.5	10.4	3.4	1.63	珪質		無	完形	
24		ＡＥ11	540	705	Ⅱａ	71.739	ＢＬ	24.1	14.5	4.4	1.39	珪質		無	完形	
26	41	ＡＥ11	618	767		71.649	ＢＬ	45.4	27.9	7.2	9.49	珪質	単	無	破損	
27		ＡＥ11	595	792		71.569	ＢＬ	53.3	15.6	4.9	3.77	珪質		無	破損	
29	48	ＡＥ11	464	876	Ⅱｂ	71.581	ＢＳ	24.6	5.8	2.8	0.27	珪質		無	完形	
30	5	ＡＥ11	559	919	Ⅱｂ	71.560	ＫＮ	32.9	17.3	3.4	1.54	珪質		無	破損	
31	51	ＡＥ11	645	810	Ⅱｂ	71.485	ＢＳ	25.3	17.2	5.7	1.80	珪質	1	無	完形	
32	29	ＡＥ11	696	662	Ⅲ	71.478	ＢＬ	60.9	13.9	4.2	2.57	珪質		無	破損	
33	22	ＡＥ11	643	789		71.598	ＢＵ	42.3	23.4	6.6	6.97	頁岩		無	破損	
34	11	ＡＥ11	667	809	Ⅱａ	71.638	ＢＵ	39.7	28.4	7.1	7.07	珪質	単	無	破損	
35	49	ＡＥ11	696	793	Ⅲ	71.517	ＢＳ	30.5	6.7	2.8	0.40	珪質		無	完形	
36	33	ＡＥ11	744	906	Ⅱａ	71.683	ＢＬ	66.7	33.1	5.8	10.10	珪質	25	有	破損	
37	12	ＡＥ11	705	768	Ⅱｂ	71.517	ＢＵ	39.9	31.2	10.7	10.70	珪質	7	無	破損	稜形成
38		ＡＥ11	722	878	Ⅱａ	73.000	ＦＬ	40.6	17.4	3.5	1.92	頁岩		有	破損	
40	45	ＡＥ11	735	827	Ⅱａ	71.791	ＢＳ	23.2	9.9	3.9	0.64	珪質	28	無	完形	
41	3	ＡＥ11	733	807	Ⅱａ	71.667	ＫＮ	55.5	16.9	3.9	4.53	珪質	6	無	破損	
42	20	ＡＥ11	747	743	Ⅱｂ	71.592	ＢＵ	67.4	32.1	4.5	11.70	珪質	24	無	完形	
43	8	ＡＦ11	31	829	Ⅱａ	71.826	ＢＵ	45.8	22.3	11.0	10.10	珪質	29	無	破損	稜形成
44		ＡＦ11	105	821	Ⅱａ	71.782	ＢＬ	42.3	23.0	3.3	2.88	珪質	6	無	破損	
45	16	ＡＥ11	984	755	Ⅱｂ	71.591	ＢＵ	42.5	23.5	3.7	4.02	玉髄	30	無	完形	
46	6	ＡＦ11	178	684	Ⅱａ	71.670	ＢＵ	42.7	22.3	6.0	6.30	珪質	28	有	破損	
67		ＡＦ11	189	580	Ⅱｂ	71.576	ＰＢ	93.0	82.5	55.9	413.80	砂岩		無	完形	
69		ＡＤ11	988	673	Ⅱａ	71.639	ＰＢ	77.5	33.2	23.5	45.30	凝灰		無	完形	
70	47	ＡＥ11	733	862	Ⅱｂ	71.586	ＢＳ	17.5	12.8	3.1	0.72	珪質		無	破損	
72	19	ＡＥ11	501	594	Ⅳ	71.315	ＢＵ	70.3	25.6	4.8	8.82	珪質		無	完形	
73		ＡＥ11	588	639	Ⅳ	71.318	ＢＳ	13.8	9.7	6.6	0.64	珪質	19	無	破損	
74	27	ＡＥ11	665	540	Ⅲ	71.347	ＢＬ	71.2	27.7	5.3	8.29	珪質	23	無	完形	
75	31	ＡＥ11	609	700	Ⅳ	71.333	ＢＬ	85.1	22.2	6.2	9.31	珪質	34	無	破損	
76	54	ＡＥ11	613	719	Ⅳ	71.340	ＢＳ	17.3	7.8	2.2	0.31	珪質		無	完形	
77	18	ＡＥ11	830	31	Ⅴ	71.228	ＢＵ	78.3	42.6	12.7	38.96	玉髄	20	無	完形	
80		ＡＥ11	606	890	Ⅴ	71.255	ＢＬ	43.4	15.2	2.7	1.16	珪質		無	破損	
82	35	ＡＥ11	317	971	Ⅱａ	71.546	ＢＬ	97.5	76.7	16.2	130.80	凝灰		無	完形	
83		ＡＥ11	598	945	Ⅲ	74.498	ＲＢ	74.7	43.8	13.4	28.60	頁岩		無	破損	
84	42	ＡＥ12	518	33	Ⅱｂ	71.590	ＢＬ	50.6	33.5	5.7	7.50	玉髄	12	無	破損	
85	43	ＡＥ12	522	50	Ⅱｂ	71.644	ＢＬ	30.9	22.8	3.3	1.84	珪質	8	無	完形	
86	44	ＡＥ12	578	43	Ⅱｂ	71.592	ＢＬ	31.7	15.6	4.1	1.83	珪質	8	無	完形	
87	39	ＡＥ12	673	11	Ⅳ	71.357	ＢＬ	31.0	28.4	6.3	5.50	珪質	3	無	破損	
88	55	ＡＥ12	743	44	Ⅲ	71.465	ＢＳ	18.6	6.1	2.4	0.27	珪質	21	無	完形	
89	13	ＡＥ12	743	15	Ⅲ	71.466	ＢＵ	99.8	27.7	6.4	14.70	頁岩		無	完形	
90		ＡＥ11	765	995	Ⅱｂ	71.655	ＢＬ	25.2	22.0	4.0	1.72	頁岩		無	破損	
91		ＡＥ11	744	972	Ⅲ	71.437	ＢＵ	18.5	17.1	3.6	1.18	珪質		無	破損	
92		ＡＥ11	768	948	Ⅲ	71.395	ＫＮ	5.7	7.7	2.5	0.22	珪質		無	破損	
93	25	ＡＥ11	683	915	Ⅲ	71.437	ＢＬ	60.2	50.6	7.9	21.70	珪質		有	破損	
94	1	ＡＥ11	694	900	Ⅲ	71.439	ＫＮ	79.4	17.3	4.1	6.44	珪質	15	無	破損	
95	23	ＡＥ11	708	890	Ⅲ	71.455	ＢＵ	74.7	36.1	6.9	17.10	珪質	21	無	破損	
96	10	ＡＥ11	725	892	Ⅲ	71.418	ＢＵ	76.5	34.7	6.7	18.70	珪質	1	無	完形	
97		ＡＥ11	698	875	Ⅲ	71.473	ＢＳ	10.3	4.9	2.8	0.12	頁岩		有	完形	
98		ＡＥ11	710	885	Ⅳ	71.318	ＢＬ	11.9	6.7	1.3	0.10	珪質		無	破損	
99	53	ＡＥ11	711	858	Ⅲ	71.377	ＢＳ	14.8	11.1	2.9	0.50	珪質		無	完形	
100	26	ＡＥ11	701	805	Ⅲ	71.358	ＢＬ	79.6	21.4	6.5	9.46	珪質	25	無	完形	
101		ＡＥ11	678	760	Ⅳ	71.377	ＢＳ	15.8	3.4	1.2	0.06	珪質		無	完形	
102		ＡＥ11	690	757	Ⅳ	71.355	ＢＳ	10.1	4.6	1.2	0.06	珪質		無	破損	
103	40	ＡＥ11	704	756	Ⅳ	71.348	ＢＵ	50.0	26.9	4.6	6.98	玉髄	20	無	破損	
104	52	ＡＥ11	709	761	Ⅲ	71.443	ＢＳ	30.7	10.9	3.8	1.55	珪質		無	完形	
105		ＡＥ11	743	781	Ⅲ	71.416	ＣＨ	15.7	13.8	2.5	0.32	珪質		有	破損	

第26表　ブロック３ａ出土石器観察表(2)

遺物No.	図No.	大グリッド	北南	西東	層	標　高	分類	最大長	最大幅	厚さ	重量(g)	石材	母岩	被熱	破損	備　　考
106	36	AE11	743	756	Ⅲ	71.295	BL	101.6	66.2	11.8	55.5	珪頁		無	破損	
107	9	AE11	760	780	Ⅲ	71.426	BU	59.4	25.6	12.5	13.0	珪頁	10	無	完形	
108		AE11	695	729	Ⅲ	71.400	BU	17.5	10.2	5.9	0.94	珪頁	23	無	破損	
109	50	AE11	705	739	Ⅲ	71.342	BS	22.0	8.3	4.7	0.76	珪頁	19	無	完形	
125		AE11	829	595	Ⅳ	71.247	BL	28.5	12.8	1.8	0.46	珪頁		無	破損	
126	4	AE11	785	691	Ⅲ	71.420	KN	89.6	8.8	5.6	3.36	珪頁		無	完形	
127		AE11	894	679	Ⅳ	71.385	BL	23.6	19.4	2.8	1.24	珪頁		無	破損	
128	24	AE11	819	687	Ⅳ	71.370	BU	45.4	15.1	3.3	2.75	珪頁	1	無	完形	
129		AE11	772	704	Ⅳ	71.268	BL	26.4	16.7	4.7	1.47	珪頁	13	無	破損	
130	21	AE11	998	715	Ⅳ	71.357	BU	49.4	20.3	4.0	8.60	珪頁	1	無	完形	
131	46	AE11	856	750	Ⅴ	71.167	BS	27.5	21.5	10.5	3.54	珪頁		無	完形	
132	2	AE11	804	765	Ⅳ	71.255	KN	64.0	15.2	4.0	4.29	珪頁	1	無	完形	
133		AE11	826	745	Ⅳ	71.244	BL	53.3	15.8	2.7	2.44	珪頁		無	破損	
134	14	AE11	822	777	Ⅲ	71.322	BU	65.3	56.3	9.7	28.1	珪頁	3	無	破損	
135		AE11	892	862	Ⅲ	71.370	BS	12.7	8.3	2.0	0.13	珪頁		無	破損	
136		AE11	838	877	Ⅲ	71.394	BL	38.7	24.6	3.0	1.80	珪頁		無	破損	
137		AE11	816	875	Ⅴ	71.215	BS	10.2	3.8	0.9	0.04	珪頁		無	破損	
138	32	AE11	835	911	Ⅲ	71.458	BL	63.9	37.1	12.6	19.6	玉髄	17	無	破損	
139		AE11	813	924	Ⅲ	71.447	BS	10.9	5.0	1.6	0.10	珪頁		無	破損	
140		AE11	821	959	Ⅲ	71.498	BS	12.1	6.9	0.8	0.09	珪頁		無	完形	
141		AE11	808	961	Ⅱb	71.628	CH	17.7	13.1	2.5	0.63	珪頁		有	破損	
142	15	AE11	895	971	Ⅲ	71.472	BU	67.1	26.0	8.1	13.0	珪頁	25	無	破損	
143	7	AE11	943	975	Ⅲ	71.463	BU	63.0	27.3	6.2	9.42	珪頁	22	無	破損	
144		AE11	972	999	Ⅱb	71.652	FL	21.9	19.9	3.6	1.43	珪頁		有	破損	
145	17	AE12	938	37	Ⅱa	71.760	BP	37.8	17.8	5.1	3.63	珪頁		無	完形	
149	37						BL	91.0	25.4	8.1	17.5	珪頁	22	無	破損	

第27表　ブロック３ｂ出土石器観察表(1)

遺物No.	図No.	大グリッド	北南	西東	層	標　高	分類	最大長	最大幅	厚さ	重量(g)	石材	母岩	被熱	破損	備　　考
1		AE11	657	403	Ⅱb	71.515	PB	23.9	21.8	3.9	2.13	凝灰		無	完形	
2		AE11	664	350	Ⅱa	71.605	BL	29.2	27.3	5.9	3.1	珪頁		無	破損	
3		AE11	683	328	Ⅱa	71.610	CH	11.3	7.8	2.1	0.15	珪頁		無	完形	
4		AE11	661	309	Ⅱa	71.694	RF	20.9	16.4	3.3	0.9	珪頁		無	破損	
5		AE11	590	365	Ⅱa	71.550	FL	37.7	19.7	8.8	3.24	珪頁		無	破損	
8	71	AE11	606	225	Ⅱa	71.713	BL	47.2	27.8	3.7	4.7	珪頁		無	破損	
9	61	AE11	641	224	Ⅱa	71.720	BU	45.6	24.0	5.3	6.56	珪頁		有	破損	
10	58	AE11	577	105	Ⅱa	71.519	KN	42.6	12.4	4.2	2.23	玉髄		無	完形	
12		AE11	640	119	Ⅱa	71.632	BL	43.2	24.8	6.4	7.65	珪頁		無	完形	
13		AE10	727	854	Ⅱa	71.584	BL	31.1	15.0	4.0	1.27	珪頁		無	破損	
15	66	AE10	696	970	Ⅱa	71.579	BU	46.4	31.8	15.1	21.0	頁岩	単	無	完形	
16	70	AE11	888	159	Ⅲ	71.412	BL	52.4	12.4	3.6	2.86	珪頁	7	無	完形	
17		AE10	646	810	Ⅱa	71.676	CH	12.5	11.3	2.3	0.3	玉髄		無	完形	
47	64	AF11	94	487	Ⅱa	71.692	BU	28.6	22.6	4.7	2.72	玉髄	20	無	破損	
48		AF11	303	331	Ⅱb	71.545	BL	23.1	17.2	2.1	0.83	玉髄	20	有	破損	
49		AF11	220	399	Ⅱb	71.583	BL	24.1	21.0	3.0	1.34	珪頁		無	破損	
50		AF11	147	390	Ⅱb	71.567	FL	24.0	16.9	5.0	2.35	珪頁		有	破損	
51		AE11	986	499	Ⅱa	71.598	FL	20.5	9.1	1.9	0.27	珪頁	4	有	破損	
52		AE11	973	398	Ⅱa	71.593	FL	42.6	22.3	3.5	1.92	珪頁	4	有	破損	
53	65	AF11	87	367	Ⅱa	71.680	BU	27.1	18.3	4.6	2.15	珪頁	4	有	破損	
54	76	AF11	108	372	Ⅱa	71.576	BL	67.7	16.0	6.2	5.88	珪頁	27	無	破損	
55	68	AF11	66	270	Ⅱa	71.696	BL	36.5	25.6	5.6	5.66	珪頁	14	無	破損	
57		AF11	156	136	Ⅱa	71.598	FL	22.9	21.0	8.6	3.57	チャ		有	破損	
58	74	AF11	95	92	Ⅱb	71.551	BL	62.1	26.4	6.0	10.5	珪頁	27	無	破損	
59	80	AF11	85	49	Ⅱa	71.625	BS	19.3	7.6	3.3	0.33	珪頁	29	無	完形	
60	75	AF11	19	92	Ⅱa	71.640	BL	31.0	30.7	9.4	8.28	珪頁		有	破損	
61		AF11	20	62	Ⅱa	71.582	BS	15.4	7.7	1.6	0.14	珪頁		無	完形	
62		AF10	10	925	Ⅱb	71.576	BU	12.3	11.5	2.4	0.3	珪頁		無	破損	
63		AE11	141	141	Ⅱa	71.710	BL	33.0	24.4	4.6	2.82	流紋		無	破損	
64	78	AE11	115	180	Ⅱa	71.726	BS	35.2	8.1	5.3	1.85	珪頁	14	無	破損	
71	69	AE11	616	253	Ⅲ	71.402	BL	41.9	21.0	5.9	3.9	珪頁		無	完形	
79		AE11	880	489	Ⅴ	71.242	BS	12.6	7.8	1.7	0.15	珪頁	29	無	完形	
110	73	AE11	802	86	Ⅲ	71.332	BL	35.3	20.4	3.6	1.86	珪頁	7	無	破損	

第28表　ブロック３ｂ出土石器観察表(2)

遺物No.	図No.	大グリッド	北南	西東	層	標　高	分類	最大長	最大幅	厚さ	重量(g)	石材	母岩	被熱	破損	備　　考
111	63	ＡＥ11	875	144	Ⅲ	71.347	ＢＵ	79.3	24.7	9.4	16.2	珪頁	29	無	破損	
112		ＡＥ11	938	111	Ⅲ	71.335	ＦＬ	19.7	8.1	2.6	0.33	頁岩		有	破損	
114	56	ＡＥ11	850	207	Ⅲ	71.327	ＫＮ	43.5	19.9	4.5	3.02	珪頁	29	有	破損	
115	59	ＡＥ11	923	247	Ⅳ	71.225	ＫＮ	54.0	16.5	4.9	3.15	珪頁	単	無	破損	稜形成
116	72	ＡＥ11	975	235	Ⅳ	71.223	ＢＬ	119.3	47.3	12.8	51.3	玉髄	17	無	破損	
117	79	ＡＦ11	48	187	Ⅲ	71.356	ＢＳ	22.2	7.3	3.3	0.51	頁岩		無	破損	
118	81	ＡＦ11	59	249	Ⅳ	71.277	ＢＳ	20.4	6.7	2.3	0.27	玉髄	20	無	破損	
119		ＡＦ11	87	305	Ⅳ	71.205	ＢＬ	49.1	18.1	4.1	3.09	珪頁	7	無	破損	
120	77	ＡＦ11	30	300	Ⅲ	71.372	ＢＳ	37.5	10.9	3.3	1.11	珪頁	22	無	完形	
121		ＡＥ11	971	365	Ⅳ	71.325	ＢＬ	18.9	17.3	3.1	0.73	珪頁	4	有	破損	
122		ＡＥ11	813	375	Ⅳ	71.292	ＣＨ	15.1	10.2	3.6	0.64	珪頁		無	完形	
123	67	ＡＦ11	11	420	Ⅲ	71.356	ＢＬ	63.1	27.4	7.4	9.47	玉髄	30	無	完形	
124	62	ＡＦ11	73	450	Ⅲ	71.345	ＢＵ	93.8	29.3	8.1	32.2	玉髄	単	無	完形	
150	60						ＢＵ	76.8	27.8	6.7	13.6	珪頁	22	無	完形	
151	57						ＫＮ	80.6	14.9	3.8	4.25	珪頁	7	無	破損	

第29表　ブロック４出土石器観察表

遺物No.	図No.	大グリッド	北南	西東	層	標　高	分類	最大長	最大幅	厚さ	重量(g)	石材	母岩	被熱	破損	備　　考
1	95	ＡＥ13	864	953	Ⅲ	71.713	ＢＳ	16.9	9.6	1.6	0.24	珪頁		無	完形	
2		ＡＥ13	911	989	Ⅱａ	71.877	ＢＬ	22.4	11.0	1.8	0.32	珪頁		有	破損	
3	87	ＡＥ13	900	901	Ⅲ	71.675	ＢＵ	45.8	15.0	6.3	3.86	珪頁	16	無	破損	
4		ＡＥ13	876	761		71.528	ＰＢ	116.9	83.0	47.0	432.8	花崗		有	完形	
5	82	ＡＥ13	758	635	Ⅲ	71.530	ＫＮ	35.6	15.0	6.0	2.84	玉髄	単	無	破損	
6		ＡＥ13	984	914	Ⅱｂ	71.725	ＣＨ	19.9	11.3	3.4	0.71	珪頁		無	破損	
7		ＡＥ13	995	817	Ⅳ	71.555	ＦＬ	45.0	31.3	10.7	16.2	珪頁		無	破損	
8	96	ＡＦ13	47	925	Ⅲ	71.625	ＢＳ	26.0	7.0	2.1	0.51	珪頁		無	完形	
9		ＡＥ13	992	796	Ⅲ	71.556	ＢＬ	81.4	15.1	3.3	3.91	珪頁		無	破損	
10	94	ＡＦ13	47	881	Ⅲ	71.595	ＢＬ	97.3	28.1	12.2	20.1	珪頁		無	完形	
11	93	ＡＦ13	35	855	Ⅳ	71.523	ＢＬ	99.7	36.7	9.4	30.9	珪頁		無	破損	
12		ＡＦ13	78	882	Ⅲ	71.636	ＣＨ	16.1	9.8	2.3	0.32	珪頁		無	完形	
13	89	ＡＦ13	14	781	Ⅴ	71.461	ＢＵ	72.7	40.7	16.3	40.3	珪頁	16	無	完形	
14	92	ＡＦ13	104	731	Ⅱａ	71.909	ＢＬ	76.6	21.9	10.7	12.3	珪頁		無	完形	
15	91	ＡＦ13	81	656	Ⅲ	71.650	ＢＬ	43.3	18.0	3.9	2.89	珪頁	31	無	破損	
16		ＡＦ13	35	627	Ⅱｂ	71.692	ＦＬ	22.6	7.3	1.5	0.19	珪頁	26	無	破損	
17	97	ＡＦ13	74	614	Ⅳ	71.542	ＢＳ	20.8	11.2	3.3	0.7	珪頁	22	無	破損	
18		ＡＦ13	283	922	Ⅱｂ	71.815	ＰＢ	140.6	125.2	41.6	1002.5	花崗		有	破損	
19	86	ＡＦ13	197	813	Ⅱａ	71.804	ＢＵ	30.7	23.6	4.1	2.65	珪頁	2	無	破損	
20	90	ＡＦ13	372	799	Ⅱａ	71.951	ＢＵ	56.3	18.5	9.3	8.86	珪頁		有	破損	
21		ＡＦ13	385	665	Ⅱｂ	71.637	ＦＬ	29.5	14.9	5.7	2.44	凝灰		無	破損	
22		ＡＦ13	109	772	Ⅱｂ	71.681	ＣＨ	17.9	12.8	3.2	0.47	珪頁	26	無	破損	
23	85	ＡＥ13	805	790	Ⅱａ	71.624	ＢＵ	54.5	34.2	14.0	25.4	珪頁	19	無	完形	
24	88	ＡＥ13	795	865	Ⅱｂ	71.554	ＢＵ	72.1	35.7	14.4	32.1	珪頁	1	無	完形	
25	84	ＡＥ13	845	780	Ⅱａ	71.684	ＫＮ	47.8	11.6	5.0	2.62	珪頁	10	無	完形	
26	83	ＡＥ13	900	860	Ⅱｂ	71.519	ＫＮ	69.7	17.6	5.7	6.05	珪頁	23	無	完形	

第30表　ブロック５出土石器観察表(1)

遺物No.	図No.	大グリッド	北南	西東	層	標　高	分類	最大長	最大幅	厚さ	重量(g)	石材	母岩	被熱	破損	備　　考
1	112	AF15	265	440	Ⅱb	72.005	BU	49.7	15.6	5.3	4.3	珪頁	22	無	完形	
2		AF15	387	490	Ⅱb	72.000	CH	18.1	9.1	2.5	0.44	珪頁		無	破損	
3		AF15	355	432	Ⅲ	71.952	CH	8.0	6.1	0.3	0.02	珪頁		無	破損	
4	140	AF15	320	570	Ⅲ	71.932	BS	17.3	7.3	3.6	0.42	珪頁		無	完形	
5	127	AF15	250	528	Ⅲ	72.000	BL	49.9	19.0	3.2	2.9	珪頁	単	無	破損	
6		AF15	300	527	Ⅲ	71.992	PB	37.0	21.0	17.0	12.1	珪頁		無	破損	
7		AF15	295	225	Ⅲ	72.021	BL	23.6	9.3	2.36	0.49	珪頁		無	完形	
8	120	AF15	220	497	Ⅲ	71.917	BL	82.9	21.8	5.7	11.6	珪頁	29	無	破損	
9	108	AF15	554	420	Ⅲ	71.884	BU	61.1	32.6	7.2	13.2	珪頁	34	無	完形	
10	106	AF15	337	570	Ⅲ	71.951	BU	66.6	59.5	10.8	39.6	珪頁	1	無	完形	
11		AF15	525	373	Ⅲ	71.952	CH	15.5	19.4	1.2	0.21	珪頁		無	完形	
12	114	AF15	569	354	Ⅲ	71.995	BU	58.3	31.2	9.2	12.6	珪頁	6	無	破損	
13	128	AF15	480	500	Ⅲ	71.967	BL	41.2	24.5	7.1	7.43	珪頁		無	破損	
14	132	AF15	455	570	Ⅲ	71.938	BS	27.0	11.4	3.2	1.04	珪頁		無	完形	
15		AF15	440	608	Ⅲ	72.018	BS	18.0	10.1	2.1	0.26	珪頁		有	破損	
16		AF15	428	380	Ⅲ	71.870	CH	8.6	7.3	1.5	0.08	珪頁		無	完形	
17		AF15	380	530	Ⅲ	72.030	PB	37.0	22.9	12.6	6.67	砂岩		有	破損	
18	133	AF15	280	570	Ⅲ	71.965	BS	29.5	12.9	6.1	1.99	珪頁	21	無	完形	
20		AF15	210	193	Ⅲ	71.986	FL	19.4	15.1	2.4	0.45	珪頁	26	無	破損	
21		AF15	277	205	Ⅲ	71.938	BL	32.5	15.1	43.1	1.34	珪頁		無	破損	
22	117	AF15	512	237	Ⅲ	71.843	BL	44.5	26.1	5.8	5.32	珪頁	9	無	破損	
23	150	AF15	426	245	Ⅲ	71.875	BS	24.2	11.8	2.7	0.62	珪頁		無	完形	
24		AF15	320	370	Ⅲ	71.951	CH	6.3	4.3	1.1	0.02	珪頁		無	完形	
25		AF15	270	362	Ⅲ	71.951	CH	6.1	6.0	1.7	0.04	珪頁		無	完形	
26		AF15	272	333	Ⅲ	71.883	CH	5.6	4.6	2.0	0.03	珪頁		無	完形	
27		AF15	320	298	Ⅲ	71.918	CH	7.1	5.4	0.6	0.02	珪頁		無	完形	
28		AF15	310	292	Ⅳ	71.838	CH	7.0	4.4	1.0	0.03	珪頁		無	完形	
29		AF15	150	52	Ⅲ	71.958	CH	15.7	11.3	2.6	0.35	玉髄		無	破損	
30	113	AF15	145	510	Ⅲ	71.945	BU	49.1	20.8	4.1	5.15	珪頁		無	完形	
31	130	AF15	75	545	Ⅲ	72.095	BS	57.4	18.2	7.1	53.7	珪頁	21	無	完形	
32		AF15	50	410	Ⅲ	71.965	CH	14.0	11.5	1.7	0.22	珪頁	29	無	完形	
34	151	AF15	140	473	Ⅲ	72.068	BS	23.9	10.8	2.6	0.9	珪頁		無	完形	
35	126	AF15	195	325	Ⅲ	71.880	BL	53.6	25.1	3.3	6.08	珪頁	11	無	破損	
36	131	AF15	312	197	Ⅲ	71.829	CH	9.4	3.2	2.6	0.05	珪頁		有	破損	
37		AF15	311	247	Ⅲ	71.846	CH	8.2	6.4	9.0	0.05	珪頁		無	完形	
38	142	AF15	310	215	Ⅲ	71.860	BS	17.1	4.6	2.3	0.16	珪頁		無	完形	
39		AF15	305	280	Ⅲ	71.914	BS	34.2	14.3	6.0	2.59	珪頁		無	破損	
40	148	AF15	328	432	Ⅲ	71.885	BS	21.2	10.9	4.4	0.74	珪頁	26	無	完形	
41	119	AF15	155	430	Ⅲ	71.933	BL	70.9	16.4	3.8	3.96	頁岩	18	無	完形	
42	125	AF15	85	455	Ⅲ	72.005	BL	32.2	12.2	3.9	1.45	珪頁	14	無	完形	
43	118	AF15	12	600	Ⅲ	71.955	BL	33.0	25.3	6.9	4.48	珪頁	7	無	破損	
44	123	AF15	350	540	Ⅲ	71.918	BL	73.8	10.6	5.9	3.72	珪頁		無	破損	
45	109	AF15	405	550	Ⅱb	72.003	BU	62.0	30.5	5.4	11.8	珪頁	27	無	完形	
46		AF15	180	670	Ⅲ	72.010	KN	4.9	12.0	1.9	0.34	珪頁		無	破損	
47	107	AF15	180	700	Ⅲ	72.015	BU	51.0	25.0	6.6	7.75	珪頁		無	完形	
48	127	AF15	20	690	Ⅱb	72.156	BL	56.2	34.6	6.7		珪頁	単	無	破損	
49	136	AF15	186	780	Ⅲ	72.037	BS	42.7	7.5	4.3	1.25	珪頁	13	無	完形	
50	137	AF15	60	175	Ⅲ	72.004	BS	23.8	9.8	2.2	0.42	珪頁		無	破損	
51	101	AF15	351	203	Ⅲ	71.894	BU	61.8	32.7	6.8	13.9	珪頁	7	無	完形	
52		AF15	320	730	Ⅲ	72.090	CH	8.3	6.2	1.3	0.07	珪頁		無	完形	
53	134	AF15	340	660	Ⅲ	72.065	BS	46.8	8.1	3.2	1.37	珪頁	14	無	完形	
54	116	AF15	173	720	Ⅲ	71.935	BL	129.1	55.0	9.3	43.0	珪頁	1	無	破損	
55	147	AF15	237	223	Ⅳ	71.799	BS	20.4	6.5	3.1	0.24	珪頁		無	完形	
56		AF15	322	260	Ⅳ	71.770	CH	15.8	11.9	1.8	0.33	珪頁		無	完形	
57	104	AF15	246	250	Ⅳ	71.776	BU	65.6	17.5	5.9	6.73	玉髄	12	無	完形	
58		AF15	194	431	Ⅲ	71.876	BS	6.3	3.4	0.5	0.01	珪頁		無	完形	
59		AF15	343	450	Ⅲ	71.837	CH	13.7	10.5	3.2	0.44	珪頁		無	完形	
60		AF15	130	470	Ⅲ	71.857	CH	9.2	5.9	0.9	0.05	珪頁		無	完形	
61		AF15	395	458	Ⅲ	71.842	CH	7.8	6.8	0.8	0.04	珪頁		無	破損	
62	149	AF15	248	525	Ⅲ	71.967	BS	22.0	6.5	2.2	0.19	珪頁		無	完形	

第31表　ブロック５出土石器観察表(2)

遺物No.	図No.	大グリッド	北南	西東	層	標　高	分類	最大長	最大幅	厚さ	重量(g)	石材	母岩	被熱	破損	備　　考
63		AF15	448	433	Ⅲ	71.818	CH	8.3	6.7	1.1	0.05	珪質		有	破損	
64	138	AF15	496	436	Ⅳ	71.815	BS	21.2	11.2	4.0	0.8	珪質		無	破損	
65	144	AF15	426	55	Ⅲ	71.870	BS	30.7	7.0	2.9	0.43	珪質		無	完形	
66	139	AF15	443	640	Ⅲ	71.891	BS	25.3	8.9	5.2	1.06	珪質	7	無	完形	
67	152	AF15	492	644	Ⅲ	71.867	BS	29.8	10.5	3.1	0.71	珪質		無	完形	
68		AF15	268	36	Ⅲ	71.885	CH	14.2	13.6	1.9	0.3	珪質		無	完形	
69	110	AF15	230	540	Ⅲ	71.865	BU	92.0	39.2	8.9	33.4	珪質	32	無	完形	
70	103	AF15	320	692	Ⅲ	71.898	BU	75.0	44.3	7.9	28.9	珪質	21	無	完形	
71		AF15	50	530	Ⅲ	71.856	BS	9.7	3.3	0.9	0.02	珪質		無	完形	
72	153	AF15	90	530	Ⅲ	71.851	BS	23.3	6.5	4.0	0.42	珪質	1	無	破損	
73	100	AF15	253	580	Ⅲ	71.830	KN	15.3	9.6	4.3	0.5	玉髄		無	破損	
74	143	AF15	254	570	Ⅳ	71.820	BS	39.7	11.7	3.9	1.82	珪質	22	無	破損	
75		AF15	310	530	Ⅳ	71.817	BS	28.4	12.9	5.8	1.9	珪質		有	破損	
76		AF15	370	603	Ⅳ	71.836	CH	3.7	2.8	0.4	0.01	珪質		無	破損	
77	115	AF15	377	570	Ⅲ	71.850	BU	76.8	44.0	11.1	38.1	珪質	22	無	完形	
78		AF15	420	540	Ⅲ	71.849	BL	24.9	16.3	2.0	0.82	珪質		無	破損	
79		AF15	445	525	Ⅳ	71.811	BS	16.6	4.3	3.2	0.23	珪質		無	破損	
80	121	AF15	320	496	Ⅳ	71.808	BL	82.9	19.9	5.0	6.39	頁岩	18	無	破損	
81	98	AF15	280	491	Ⅳ	71.999	KN	79.2	20.5	6.6	10.2	珪質	3	無	破損	
82	105	AF15	230	497	Ⅳ	71.799	BU	59.7	42.2	6.6	29.5	珪質	26	無	完形	
83	141	AF15	284	440	Ⅳ	71.827	BS	15.9	7.8	2.4	0.35	珪質		無	完形	
84	135	AF15	74	400	Ⅳ	71.827	BS	19.5	9.6	3.3	0.55	珪質		無	完形	
85	122	AF15	230	400	Ⅳ	71.806	BL	84.6	23.6	9.6	14.1	珪質		無	破損	
86		AF15	456	284	Ⅳ	71.750	CH	9.6	6.3	3.3	0.2	珪質		有	破損	
87	99	AF15	253	758	Ⅳ	71.845	KN	34.1	17.3	1.8	1.22	珪質	13	無	破損	
88		AF15	308	545	Ⅳ	71.776	KN	13.0	9.4	1.9	0.22	珪質		無	破損	
89		AF15	382	432	Ⅳ	71.768	CH	14.4	12.7	2.8	0.41	珪質		無	完形	
90		AF15	283	520	Ⅳ	71.835	CH	5.4	3.2	0.7	0.01	珪質		無	完形	
91		AF15	360	524	Ⅳ	71.778	CH	6.6	3.6	0.7	0.02	珪質		無	完形	
92		AF15	335	524	Ⅳ	71.759	CH	14.6	9.4	2.3	0.27	珪質		無	破損	
93		AF15	395	300	Ⅳ	71.720	CH	14.4	8.0	1.8	0.23	珪質	1	無	完形	
94		AF15	344	487	Ⅳ	71.794	CH	6.1	3.3	6.0	0.02	珪質		無	破損	
95	124	AF15	356	360	Ⅳ	71.710	BL	48.3	29.3	2.7	4.82	玉髄	単	無	完形	
96		AF15	357	500	Ⅳ	71.750	CH	4.9	4.4	0.4	0.02	珪質		無	破損	
97	102	AF15	342	330	Ⅳ	71.705	BU	70.4	22.4	7.1	13.2	珪質		無	完形	
98		AF15	288	400	Ⅳ	71.715	BS	14.2	7.1	1.1	0.15	珪質		無	完形	
99		AF15	356	416	Ⅳ	71.777	CH	5.7	3.0	0.9	0.02	珪質		無	完形	
100		AF15	368	390	Ⅳ	71.720	CH	12.5	7.4	1.0	0.11	珪質		有	破損	
101		AF15	302	328	Ⅳ	71.684	CH	9.5	73.1	1.3	0.1	珪質		無	完形	
102		AF15	205	758	Ⅳ	71.828	CH	10.3	7.4	2.7	0.16	頁岩		無	破損	
132	129	AF15	708	70	Ⅳ	71.749	BS	16.6	7.0	4.1	0.26	珪質		無	完形	
133	146	AF15	378	500	Ⅳ	71.737	BS	40.4	13.9	8.4	1.97	珪質		無	完形	
134		AF15	210	429	Ⅳ	71.750	CH	16.7	11.7	2.6	0.48	珪質	29	無	完形	
135		AF15	232	490	Ⅳ	71.740	CH	5.9	1.3	1.0	0.01	珪質		無	破損	
136		AF15	330	512	Ⅳ	71.808	PB	49.6	46.1	20.1	36.4	凝灰		無	完形	
137		AF15	264	510	Ⅲ	71.835	PB	80.2	31.8	12.2	19.1	凝灰		無	完形	
138		AF15	261	532	Ⅳ	71.865	PB	72.4	63.1	9.8	25.6	凝灰		無	破損	
139		AF15	56	554	Ⅳ	71.835	CH	18.8	4.4	1.6	0.1	頁岩		無	破損	
141		AF15	330	530	Ⅳ	71.750	CH	6.8	6.2	1.3	0.06	珪質		無	破損	
142		AF15	322	507	Ⅳ	71.698	CH	5.3	2.9	0.6	0.02	珪質		無	完形	
143		AF15	319	504	Ⅳ	71.716	CH	5.3	2.5	1.3	0.03	珪質		無	破損	
144		AF15	306	503	Ⅳ	71.715	CH	3.0	1.0	0.3	0.01	珪質		無	破損	
145		AF15	320	199	Ⅳ	71.730	CH	3.5	1.3	0.5	0.01	珪質		無	破損	
146		AF15	321	194	Ⅵ	71.715	CH	2.4	1.4	0.3	0.01	珪質		無	完形	
147		AF15	318	191	Ⅳ	71.723	CH	1.6	1.5	0.2	0.01	珪質		無	完形	
148		AF15	312	187	Ⅳ	71.732	CH	2.6	2.5	0.6	0.01	珪質		無	完形	
149		AF15	297	171	Ⅳ	71.711	CH	6.9	2.8	0.9	0.03	珪質		無	破損	
150		AF15	385	462	Ⅳ	71.722	CH	13.1	9.9	2.4	0.26	珪質		無	完形	
151		AF15	213	572	Ⅳ	71.730	CH	11.2	6.9	1.0	0.1	珪質		無	完形	
152		AF15	378	462	Ⅳ	71.702	CH	13.4	7.3	2.9	0.25	頁岩		無	破損	
153		AF15	344	482	Ⅳ	71.710	CH	9.6	7.7	1.6	0.09	珪質		無	完形	

第32表　ブロック５出土石器観察表(3)

遺物No.	図No.	大グリッド	北南	西東	層	標　高	分類	最大長	最大幅	厚さ	重量(g)	石材	母岩	被熱	破損	備　　考
154		AF15	348	472	Ⅳ	71.693	CH	5.6	35.0	0.6	0.02	珪質		無	完形	
155		AF15	313	485	Ⅳ	71.706	CH	1.8	1.4	0.2	0.01	珪質		無	完形	
156		AF15	264	548	Ⅳ	71.700	CH	10.1	6.8	1.2	0.09	珪質		無	完形	
157		AF15	298	784	Ⅳ	71.716	BL	46.1	20.3	4.2	2.75	珪質	9	有	破損	
158		AF15	334	476	Ⅳ	71.700	BS	6.6	2.1	2.1	0.01	珪質		無	完形	
159		AF15	285	492	Ⅳ	71.695	CH	3.3	2.7	1.1	0.02	珪質		無	完形	
160		AF15	291	456	Ⅳ	71.710	CH	5.1	3.0	0.4	0.01	珪質		無	破損	
161		AF15	279	387	Ⅳ	71.658	FL	25.8	6.8	2.2	0.46	珪質		無	完形	
162		AF15	313	489	Ⅳ	71.686	CH	4.7	4.4	0.7	0.02	珪質		無	完形	
163		AF15	208	475	Ⅳ	71.678	CH	18.5	11.1	2.1	0.35	珪質		有	破損	
164		AF15	274	536	Ⅳ	71.676	BL	22.3	8.1	1.6	0.33	珪質		無	完形	
170		AF15	258	598	Ⅳ	71.668	FL	30.4	20.5	2.2	1.66	珪質		無	破損	
171		AF15	364	586	Ⅳ	71.655	BS	13.1	8.7	2.2	0.17	珪質		無	破損	
172		AF15	320	505	Ⅳ	71.625	CH	10.0	7.2	1.3	0.07	珪質		無	完形	
174		AF15	344	425	Ⅳ	71.587	BL	14.6	9.4	2.2	0.27	珪質		無	破損	
178		AF15	227	502	Ⅳ	71.524	CH	17.2	12.4	2.1	0.53	珪質	26	無	完形	
184		AF15	254	496	Ⅳ	71.518	BS	11.1	3.0	1.4	0.04	珪質		無	破損	
185		AF15	274	459	Ⅳ	71.505	CH	5.9	4.5	0.2	0.02	珪質		無	完形	
187		AF15	338	390	Ⅴ	71.475	CH	14.0	9.2	2.5	0.25	珪質		無	完形	
188		AF15	304	648	Ⅴ	71.425	BS	11.7	7.9	1.0	0.09	珪質		無	完形	
189		AF15	519	446	Ⅴ	71.410	CH	12.6	9.2	2.4	0.25	珪質		無	完形	
190		AF15	403	602	Ⅲ	72.050	CH	3.3	2.8	0.5	0.01	珪質		有	破損	
191		AF15	200	603	Ⅲ	71.995	CH	7.6	6.8	0.9	0.06	珪質		無	完形	
192		AF15	391	400	Ⅲ	71.925	BS	10.1	3.7	2.8	0.04	珪質		無	完形	
193	145	AF15	395	388	Ⅲ	71.850	BS	17.6	9.7	3.0	0.5	珪質	32	無	完形	
194		AF15	392	418	Ⅲ	71.848	CH	10.5	9.9	1.1	0.09	珪質		無	破損	
195		AF15	198	397	Ⅳ	71.625	CH	7.3	6.4	1.1	0.04	珪質		無	完形	
197		AF15	790	195	Ⅱb	72.109	FL	28.6	17.9	4.7	1.64	珪質		無	完形	
198	111						BU	81.4	31.4	7.9	17.3	珪質	単	無	完形	

第33表　ブロック７a出土石器観察表(1)

遺物No.	図No.	大グリッド	北南	西東	層	標　高	分類	最大長	最大幅	厚さ	重量(g)	石材	母岩	被熱	破損	備　　考
1	191	AG12	21	594	Ⅲ	71.346	BS	29.6	9.4	7.1	1.3	珪質	1	無	完形	
2		AG12	793	552	Ⅳ	71.289	PB	24.9	18.4	2.5	1.46	粘板		有	破損	
3	185	AG12	57	533	Ⅲ	71.394	BL	36.8	16.8	4.4	3.31	珪質	14	無	破損	稜形成
4	180	AG12	46	497	Ⅲ	71.390	BL	87.3	23.0	6.1	16.3	珪質	13	無	破損	
5	185	AG12	99	534	Ⅱb	71.496	BL	39.3	19.3	7.0	3.34	珪質	14	無	破損	稜形成
8	163	AG12	225	524	Ⅲ	71.312	BU	53.7	21.7	8.3	9.2	玉髄	20	無	破損	
9	198	AG12	264	483	Ⅳ	71.302	BS	18.7	4.5	2.9	0.18	珪質	14	無	破損	
10	202	AG12	202	454	Ⅲ	71.362	BS	31.8	11.6	5.5	1.47	珪質	11	無	破損	
12	177	AG12	118	438	Ⅴ	71.700	BU	41.4	38.0	8.9	14.3	珪質	16	無	完形	
13		AG12	66	444	Ⅲ	71.355	CH	14.1	8.0	2.4	0.25	珪質		無	破損	
14		AG12	41	378	Ⅲ	71.357	CH	8.1	5.8	0.6	0.04	珪質		無	完形	
15	160	AG12	82	366	Ⅱa	71.620	BU	48.3	24.2	6.2	5.39	珪質		無	破損	
16		AG12	96	396	Ⅲ	71.478	BL	28.2	16.7	3.1	1.57	玉髄		有	破損	
17		AG12	122	335	Ⅲ	71.356	CH	12.7	5.3	1.5	0.08	珪質		無	完形	
18	167	AG12	224	402	Ⅱb	71.508	BU	23.8	16.4	4.0	1.65	珪質	10	無	破損	
19		AG12	223	391	Ⅱb	71.525	CH	13.6	9.7	1.7	0.18	珪質		無	完形	
20	162	AG12	194	342	Ⅳ	71.346	BU	63.3	40.1	8.7	20.0	珪質		無	完形	
21		AG12	380	407	Ⅳ	71.226	CH	10.5	10.0	1.6	0.13	珪質		有	破損	
24	187	AG12	39	150	Ⅲ	71.384	BL	79.2	21.6	5.1	9.36	珪質		無	完形	
25		AG12	19	86	Ⅱb	71.418	BU	40.2	18.5	5.9	5.9	珪質	10	無	完形	
26		AG12	998	74	Ⅴ	71.141	BS	11.4	4.3	1.4	0.06	珪質		無	完形	
27	197	AG12	21	76	Ⅲ	71.335	BS	18.4	5.7	4.5	0.26	珪質	7	無	完形	
28		AG12	45	18	Ⅲ	71.380	BL	39.4	10.5	4.4	1.55	珪質		無	破損	
29		AG12	75	49	Ⅳ	71.206	CH	17.4	7.5	2.6	0.35	珪質		無	破損	
30	157	AG12	96	86	Ⅳ	71.173	KN	25.6	10.7	2.6	0.76	珪質	33	無	破損	
31		AG12	56	124	Ⅲ	71.347	BL	48.8	13.0	3.0	1.8	珪質		無	破損	
32		AG12	67	145	Ⅱb	71.466	RF	21.2	17.1	3.3	1.29	珪質		有	破損	
33		AG12	136	85	Ⅲ	71.288	FL	23.6	12.8	1.7	0.66	玉髄		無	完形	
34		AG12	139	80	Ⅲ	71.285	CH	7.1	5.7	0.7	0.03	凝灰		無	破損	
35		AG12	124	151	Ⅳ	71.186	CH	14.0	9.0	2.2	0.27	珪質		無	破損	

第34表　ブロック７ａ出土石器観察表(2)

遺物No.	図No.	大グリッド	北南	西東	層	標　高	分類	最大長	最大幅	厚さ	重量(g)	石材	母岩	被熱	破損	備　　考
36	181	AG12	141	153	Ⅱb	71.393	BL	76.3	24	5.8	11.6	珪質	16	無	破損	
37		AG12	98	188	Ⅲ	71.338	BL	9.6	9.3	2.8	0.16	珪質		無	破損	
38		AG12	165	162	Ⅱb	71.412	BS	7.7	5.8	3.3	0.05	珪質		無	破損	
39		AG12	112	203	Ⅳ	71.130	CH	6.6	5.9	1.3	0.03	珪質		無	完形	
40		AG12	81	205	Ⅴ	71.087	CH	8.9	4.7	1.0	0.05	珪質		無	破損	
41	159	AG12	195	220	Ⅱa	71.477	KN	49.5	20.2	6.4	6.5	珪質	2	無	破損	
42	194	AG12	210	232	Ⅱa	71.635	BS	14.8	11.7	4.9	0.43	珪質		無	完形	
43	184	AG12	232	164	Ⅲ	71.362	BL	62.9	32.5	7.2	8.2	珪質	単	無	破損	
44		AG12	234	153	Ⅱa	71.637	BL	15.2	13.3	2.8	0.44	珪質		無	破損	
45		AG12	216	142	Ⅱa	71.629	CH	13.1	7.3	1.7	0.12	珪質		無	完形	
46		AG12	204	137	Ⅱa	71.589	BL	25.9	12.6	3.6	0.9	珪質		無	破損	
47		AG12	212	101	b	71.451	CH	5.8	2.4	0.5	0.01	珪質		無	破損	
48		AG12	205	100	Ⅱb	71.463	BS	15.1	6.6	4.0	0.27	珪質		無	完形	
49	171	AG12	200	86	Ⅱb	71.511	BU	65.2	20.8	5.3	9.87	玉髄	20	有	完形	
50	156	AG12	204	70	Ⅲ	71.285	KN	18.2	11.1	3.5	0.57	珪質	2	無	破損	
51	154	AG12	301	362	Ⅲ	71.299	KN	90.3	19.8	7.5	9.4	珪質		無	完形	
52	170	AG12	319	365	Ⅲ	71.325	BU	64.4	35.8	12.8	34.1	珪質	19	無	完形	
53		AG12	320	352	Ⅲ	71.294	CH	19.7	13.3	2.9	0.43	玉髄	20	無	完形	
54	186	AG12	351	340	Ⅱb	71.434	BL	34.6	13.7	3.4	1.52	珪質		無	破損	
55		AG12	348	354	Ⅱb	71.430	BS	15.1	6.4	4.4	0.18	珪質		無	破損	
57	176	AG12	506	237	Ⅱb	71.439	BU	46.6	25.4	6.4	7.8	珪質	13	無	破損	
58		AG12	423	269	Ⅱb	71.370	BS	13.6	9.3	3.3	0.25	珪質		無	完形	
59		AG12	470	200	Ⅲ	71.269	BS	13.0	7.6	4.7	0.18	珪質		無	破損	
60	182	AG12	342	245	Ⅱb	71.515	BL	46.8	35.8	5.5	11.2	珪質	24	無	破損	
61	199	AG12	333	226	Ⅳ	71.184	BS	26.0	10.4	7.4	1.22	珪質	35	無	完形	
62		AG12	114	302	Ⅱa	71.596	FL	26.8	16.5	8.2	2.54	玉髄	20	有	破損	
63	179	AG12	102	303	Ⅱb	71.469	RB	543.9	30.1	6.6	1.8	珪質	13	無	完形	
64		AG12	61	241	Ⅱb	71.449	FL	26.1	17.0	2.7	1.01	凝灰		無	破損	
65		AG12	72	238	Ⅳ	71.337	CH	16.2	9.3	2.3	0.36	珪質		無	破損	
66	165	AG12	70	250	Ⅳ	71.225	BU	82.6	20.8	5.3	10.4	珪質	19	有	完形	
67	164	AG12	278	262	Ⅲ	71.326	BU	65.8	34.3	7.8	13.0	珪質		無	破損	
68	158	AG12	274	218	Ⅲ	71.335	KN	33.5	20.4	3.6	1.59	珪質	8	無	破損	
69		AG12	265	239	Ⅲ	71.282	BS	13.8	5.2	1.7	0.13	珪質		無	破損	
70	201	AG12	218	304	Ⅳ	71.238	BS	21.6	13.0	6.9	0.8	珪質		有	破損	
71	155	AG12	213	287	Ⅱa	71.557	KN	48.0	17.7	3.3	3.27	珪質	33	無	破損	
72		AG12	136	25	Ⅲ	71.400	BS	13.7	37.0	1.6	0.07	珪質		無	破損	
73	193	AG12	142	17	Ⅳ	71.286	BS	24.3	6.3	4.6	0.57	珪質	29	無	完形	
74	200	AG11	24	994	Ⅱa	71.665	BS	16.7	9.5	7.4	0.66	珪質		無	完形	
76		AG12	838	82	Ⅳ	71.178	CH	12.9	10.6	1.4	0.16	頁岩		無	破損	
77		AG11	67	964	Ⅲ	71.295	CH	9.9	7.5	1.0	0.07	珪質		無	完形	
78	166	AG11	104	891	Ⅱa	71.572	BU	30.7	22.9	4.9	2.73	珪質	4	有	破損	
79		AG11	59	849	Ⅳ	71.245	CH	9.0	5.3	1.1	0.06	珪質		無	完形	
85	161	AG12	277	152	Ⅲ	71.200	BU	80.7	30.9	7.1	20.4	珪質	31	無	完形	
86	173	AG12	314	160	Ⅳ	71.282	BU	60.4	32.3	6.8	13.7	珪質	27	無	完形	
87	172	AG12	328	67	Ⅲ	71.488	BU	62.1	21.4	4.2	5.3	珪質	7	無	完形	
88	169	AG12	359	89	Ⅱb	71.477	BU	33.0	22.3	5.5	3.94	珪質	4	無	破損	
89	192	AG12	348	33	Ⅱb	71.358	BS	26.7	20.5	8.6	2.89	珪質	3	無	完形	
90	189	AG12	358	31	Ⅲ	71.355	BS	21.0	6.5	5.0	0.36	珪質		無	完形	
91		AG12	381	37	Ⅲ	71.368	BL	22.0	15.0	3.0	0.78	珪質		無	破損	
92		AG12	368	55	Ⅲ	71.432	BU	48.1	17.2	6.9	4.99	珪質	3	無	完形	
93	195	AG12	430	122	Ⅱa	71.303	BS	21.8	7.1	5.1	0.46	珪質		無	完形	
94	190	AG12	448	140	Ⅲ	71.337	BS	37.2	8.8	6.9	0.82	珪質		有	完形	
95		AG11	315	965	Ⅱb	71.392	FL	40.8	24.8	4.1	3.74	安山		有	完形	
96	196	AG11	310	971	Ⅱb	71.386	BS	24.5	9.8	5.9	0.59	珪質		無	完形	
99		AG11	518	907	Ⅱb	71.208	CH	18.1	5.5	2.0	0.44	珪質		無	完形	
100		AG11	353	940	Ⅳ	71.514	BL	42.5	20.4	4.7	2.55	珪質	1	無	破損	
123	188	AG11	192	997	Ⅱa	71.695	BS	30.7	12.8	4.8	1.73	珪質		有	破損	
124	168	AG12	201	10	Ⅱa	71.616	BU	21.9	13.3	4.4	0.98	珪質		有	破損	
126	183	AG12	108	301	撹乱		BL	78.4	36.8	9.5	20.2	頁岩		無	完形	
127		AG12	239	148	Ⅱb	71.386	BS	36.0	6.4	5.8	1.33	珪質		無	完形	
128		AG12	198	103	Ⅲ	71.293	BL	83.3	27.4	8.1	15.2	珪質		無	破損	

第35表　ブロック７ａ出土石器観察表(3)

遺物No.	図No.	大グリッド	北南	西東	層	標　高	分類	最大長	最大幅	厚さ	重量(g)	石材	母岩	被熱	破損	備　　考
129		AG12	305	139	Ⅳ	71.107	CH	9.3	6.4	1.9	0.09	珪質		無	破損	
130		AG12			Ⅴ	71.085	RS	9.0	4.2	1.7	0.06	珪質		無	完形	
132	178	AG11	600	519	Ⅱb	71.440	BU	76.2	45.6	8.0	27.6	珪質	1	無	完形	
133							BL	53.7	13.9	4.6	2.45	珪質	33	無	破損	

第36表　ブロック７ｂ出土石器観察表

遺物No.	図No.	大グリッド	北南	西東	層	標　高	分類	最大長	最大幅	厚さ	重量(g)	石材	母岩	被熱	破損	備　　考
80		AF11	944	778	Ⅱb	71.390	BL	29.5	20.1	4.3	1.65	珪質	15	無	破損	
81		AG11	451	787	Ⅱb	71.430	BL	56.3	18.8	7.3	6.15	珪質	28	無	破損	
82	213	AG11	324	725	Ⅲ	71.340	BU	28.3	22.0	5.6	3.41	珪質	4	無	破損	
101		AF11	830	284	Ⅳ	71.137	BL	63.7	41.2	9.4	20.6	珪質	19	無	破損	
102	217	AF11	834	287	Ⅳ	71.128	BL	118.3	28.5	8.2	32.1	珪質	11	無	完形	
103	210	AF11	849	313	Ⅴ	71.037	BU	45.1	33.0	6.7	8.8	珪質	31	無	完形	
104	215	AF11	949	333	Ⅳ	71.168	BL	96.2	36.1	10.0	32.8	珪質		無	破損	稜形成
105	218	AF11	95	426	Ⅲ	71.194	BL	117.7	30.6	10.2	25.2	珪質	11	無	完形	
106		AF11	970	475	Ⅲ	71.223	CH	10.9	7.0	2.4	0.1	珪質		無	完形	
107	204	AF11	889	583	Ⅳ	71.115	KN	39.0	20.5	5.0	2.84	チャ	単	無	破損	
108	209	AF11	949	577	Ⅳ	71.148	BU	103.5	46.9	10.0	50.9	珪質	13	無	破損	
109	216	AG11	5	507	Ⅱb	71.398	BL	43.5	27.1	5.4	5.68	珪質		無	破損	
110	207	AG11	2	491	Ⅲ	71.305	BU	52.5	33.9	6.0	13.2	珪質	31	無	破損	
111	208	AG11	58	439	Ⅲ	71.265	BU	41.8	17.7	4.9	3.23	玉髄	20	有	破損	
112	221	AG11	122	434	Ⅴ	70.977	BS	16.0	10.1	3.8	0.57	珪質	29	無	完形	
113	220	AG11	44	534	Ⅳ	71.200	BS	35.6	8.1	6.2	1.39	珪質		有	破損	
114	206	AG11	133	508	Ⅱb	71.396	RB	39.6	18.8	3.8	2.24	珪質	11	無	破損	
115	214	AG11	53	583	Ⅳ	71.066	BU	58.5	17.9	5.3	5.02	珪質	15	無	破損	
116	203	AG11	83	625	Ⅲ	71.373	KN	70.8	18.5	4.9	6.38	珪質	13	無	破損	
117	205	AG11	109	612	Ⅲ	71.355	KN	40.2	14.8	4.3	2.29	玉髄	単	無	破損	
118	212	AG11	101	654	Ⅱa	71.605	BU	38.5	15.5	3.6	1.52	珪質	15	無	破損	
119		AG11	106	661	Ⅱa	71.547	BL	27.0	20.4	5.0	1.29	珪質		無	破損	
120	211	AG11	288	460	Ⅱb	71.428	BU	47.0	24.1	8.3	8.5	珪質	6	有	破損	
121		AG12	213	6	Ⅱa	71.575	RF	40.1	28.1	6.4	5.48	凝灰		有	完形	
125		AG11	104	662	Ⅲ	71.292	BS	16.5	9.6	5.4	0.4	珪質		無	完形	
131		AF11	857	228	Ⅲ	71.396	BL	68.4	29.9	7.7	13.2	珪質		無	破損	

第37表　ブロック８出土石器観察表

遺物No.	図No.	大グリッド	北南	西東	層	標　高	分類	最大長	最大幅	厚さ	重量(g)	石材	母岩	被熱	破損	備　　考
1	237	AE12	380	661	Ⅲ	71.508	BS	21.2	6.5	4.6	0.59	珪質		無	完形	
2	232	AE12	433	495	Ⅳ	71.310	BL	71.6	15.3	5.5	3.92	頁岩	18	無	完形	
3	230	AE12	423	498	Ⅱb	71.495	BL	73.2	46.4	7.4	31.8	珪質	21	無	破損	
4	240	AE12	532	495	Ⅲ	71.409	BS	22.9	14.6	2.8	0.84	珪質	27	無	完形	
5	222	AE12	544	468	Ⅳ	71.257	KN	83.2	21.8	4.2	7.21	珪質	単	無	破損	
6	224	AE12	580	580	Ⅱb	71.559	KN	43.5	19.0	3.6	3.03	珪質	単	無	破損	
7	239	AE12	521	602	Ⅱb	71.575	BS	22.9	19.1	4.8	1.31	珪質	27	無	完形	
8	236	AE12	542	478	Ⅱa	71.666	BS	51.7	20.1	6.8	5.8	珪質	26	無	完形	
9	235	AE12	755	546	Ⅱa	71.323	BS	28.7	13.7	4.6	1.32	珪質	3	無	破損	
10	238	AE12	709	540		71.723	BS	30.1	9.7	4.8	1.2	珪質		無	完形	
11		AE12	570	385	Ⅳ	71.349	BL	38.6	13.7	3.8	1.68	珪質		無	破損	
12	230	AE12	562	376	Ⅳ	71.344	BL	73.0	51.6	5.6	21.8	珪質	21	無	破損	
13	225	AE12	476	413	Ⅲ	71.459	KN	69.1	18.0	4.9	4.43	珪質	5	無	破損	
15	228	AE12	545	298	Ⅱb	71.596	BU	57.1	35.2	8.5	19.7	珪質	27	無	完形	
16	223	AE12	515	329	Ⅱb	71.610	KN	61.9	19.2	3.8	4.4	珪質	5	無	破損	
17		AE12	430	324	Ⅲ	71.336	BL	66.8	12.6	3.2	2.78	珪質	33	無	破損	
18		AE12	485	171	Ⅱb	71.628	BL	26.3	11.2	2.9	0.84	珪質		無	破損	
19	227	AE12	608	115	Ⅲ	71.417	BU	42.3	27.7	7.5	8.21	珪質		無	破損	
20	226	AE12	715	58	Ⅲ	71.502	BU	19.9	14.5	5.8	1.41	珪質	23	無	破損	
21		AE12	605	612	Ⅲ	71.548	BL	21.2	10.3	2.8	0.7	珪質		無	破損	
22	229	AE12	790	490	Ⅱ	71.579	BU	66.4	27.1	8.0	15.7	珪質		無	完形	
23		AE12	860	170	Ⅰ	71.739	BL	73.1	17.3	6.5	6.03	珪質		無	破損	
24							BL	39.0	33.5	9.0	9.57	珪質		無	破損	
25	233	AE12	694	798	Ⅳ	71.252	BL	83.7	30.1	13.0	25.0	珪質		無	破損	稜形成
26	231	AE12	689	908	Ⅳ	71.398	BL	105.4	24.0	11.0	20.9	玉髄	20	有	完形	
27	234	AE12	795	695	Ⅴ	71.08	BL	33.5	27.8	6.1	3.73	珪質	23	無	破損	

第38表　ブロック外出土石器観察表

遺物No.	図No.	大グリッド	北南	西東	層	標　高	分類	最大長	最大幅	厚さ	重量(g)	石材	母岩	被熱	破損	備　　考
113	244	AH5	485	994	Ⅱa	69.566	KN	80.8	26.5	6.0	11.3	珪質		無	破損	
191	247	AE5	310	594	Ⅱb	70.730	BU	76.1	39.7	7.5	18.9	珪質		無	完形	
198	241	AE5	134	698	Ⅱb	70.633	KN	69.1	19.5	3.0	3.5	流紋		無	完形	
212	243	AD5	873	598	Ⅱa	70.476	KN	38.3	14.5	3.2	1.59	頁岩		無	完形	
369	251	AD5	847	380	Ⅱb	70.149	BS	51.2	29.2	12.9	10.5	珪質		無	完形	
611	245	AG8	44	574	Ⅱb	71.249	BU	86.9	34.5	5.4	21.6	頁岩		無	完形	
641	249	AF7	920	805	Ⅱb	71.200	BS	46.3	21.3	10.3	8.1	鉄石		無	破損	
1080	248	AF11	636	839	Ⅱa	71.657	BL	90.2	23.8	5.6	11.4	珪質		無	破損	
1087	246	AF11	891	162	Ⅲ	71.390	BU	61.3	27.1	12.1	15.3	珪質		無	完形	
1200	250	AF12	489	22	Ⅱb	71.603	BS	34.6	15.0	6.7	3.07	珪質		無	破損	

第39表　ナイフ形石器属性表

遺物番号	図番号	長さ	幅	分　類	二　次　加　工（方向　長さ・侵度・角度）				打面	先端角	折れ			完形	備考
					基　部　左	基　部　右	先　端　左	先　端　右			方向	末端	打点		
B3－94	1	80.0	17.0	Ⅰa	DV 38.1 2.4 75	D 34.8 4.4 80			無		D		有		
B3－132	2	64.5	15.5	Ⅰa－1	DV 30.7 4.3 70	D 31.9 3.0 75		VD 10.7 4.1 60	無	75				完	
B3－41	3	55.0	17.0	Ⅰa－2	D 18.4 4.7 80	D 32.3 2.7 90			無		V		無		
B3－126	4	80.0	9.5	Ⅰa－1	D 5.8 1.5 65	D 8.6 2.8 75			無	35				完	
B3－30	5	22.5	16.5	Ⅰa－2	D 20.4 1.5 60	D 33.2 2.0 60			無		V		無		
B3－114	56	43.5	20.0	Ⅰa	DV 30.5 4.2 80	D 31.9 3.0 75			無						
B3－151	57	80.5	15.5	Ⅰa	DV 9.8 2.7 65	D 36.3 3.0 75			無		D		無		
B3－10	58	42.5	11.5	Ⅰb	D 18.6 3.8 80	D 9.6 2.1 85			無						
B3－115	59	53.5	15.5	Ⅰa	DV 17.5 4.0 75				無		V		無		
B4－5	82	36.0	15.0		D ? 5.2 75					75	V	H	無		
B4－26	83	69.5	16.5	Ⅲ			D 6.3 2.6 70	D 14.2 2.7 75		90				完	
B4－25	84	48.0	11.5	Ⅰb－1	D 11.6 2.2 60	D 10.1 1.7 65	D 18.2 3.9 80		無	50				完	
B5－81	98	79.5	20.5	Ⅰa－1	DV 35.8 3.2 80	V 22.8 5.9 105	D 38.5 5.8 70		有		V		無	完	
B5－87	99	34.0	16.5	Ⅲ				D 17.7 1.3 55		55	D		有		
B5－73	100	14.5	10.5	Ⅰb	D ? 3.1 70	D ? 3.8 80									
B7－51	154	91.0	18.5	Ⅰa－1	DV 29.3 5.7 70	DV 25.2 4.4 75			無	70				完	
B7－71	155	48.5	17.5	Ⅰa	DV 27.7 4.7 60	D 15.4 4.4 7.5			無		D		無		
B7－50	156	18.5	11.5	Ⅰa	V 14.1 2.4 80	V ? 2.8 80			無		V		無		
B7－30	157	15.5	10.5	Ⅰa	D 17.8 2.1 70	DV 16.1 3.3 75			無		D		無		
B7－68	158	31.5	18.5	Ⅰa				D 13.7 1.0 75			D		有		
B7－41	159	49.0	19.0	Ⅰa	DV 42.2 5.0 85	DV 42.9 4.4 80			無						
B7－116	203	71.0	18.5	Ⅰa－1	DV 19.9 1.9 85	DV 27.2 2.4 80			無						
B7－107	204	38.5	15.5	Ⅲ			D 13.2 2.2 75				D		無		
B7－117	205	40.0	14.0	Ⅰ	D ? 2.0 85					55	D		無		
B7－114	206	39.5	18.5	Ⅲ			D 22.7 1.4 70	DV 12.2 2.9 55		90	V		有		
B8－5	222	83.5	21.0	Ⅰa－1	DV 32.4 4.3 80	DV 29.0 4.7 80			無		D		無		
B8－16	223	52.0	16.5	Ⅰa－1	DV ? 2.2 85	D ? 2.8 70					V		無		
B8－6	224	43.0	19.0	Ⅰb	DV 26.6 2.2 85	D 37.2 2.7 75			無		V		無		
B8－13	225	69.5	15.5	Ⅰa－1	DV 24.4 4.3 80	DV 20.2 3.6 80			無		D		無		
B外－198	241	69.5	19.0	Ⅰb－1	D 14.6 3.8 85	D 15.3 3.2 60	D 6.3 1.9 85		無	60				完	
B外－1198	242	37.5	15.5	Ⅰb	D 32.1 1.4 75	D 27.0 3.2 75			無		D		無		
B外－212	243	38.1	14.0		D 16.7 3.5 65	D 18.7 3.8 75	D 4.2 0.7 65	D 3.8 0.7 70	無	75				完	
B外－113	244	80.5	21.0	Ⅳ	VD 30.8 5.5 90	VD 80.9 7.8 80	VD 30.1 5.2 75		無		V		有		
表採1	252	50.0	14.5	Ⅰb－1	D 20.1 4.2 80	D 20.9 5.1 85	D 16.0 3.3 85		無	75				完	
表採2	253	65.5	15.5	Ⅰa－1	DV 23.4 2.6 70	D 17.0 3.2 80	D 14.8 2.2 75		無	55				完	
表採3	254	49.5	16.5	Ⅲ			D 19.1 1.3 70			50					
表採4	255	49.0	14.5	Ⅰb－1	D 28.8 2.4 75	D 19.5 2.8 85			無		D				
表採5	256	52.5	18.5	Ⅰa	DV 27.5 8.2 80	V 43.7 4.4 80			無		右		無		

第40表　彫刻刀形石器属性表(1)

遺物番号	図番号	長さ	幅	分類	位置	彫刻刀面数			彫刻刀面刃角			彫刀面打面	基部加工		打面	備考
						左	右	中	左	右	中		左	右		
B3－46	6	42.5	22.5	I	基	2			85							
B3－143	7	62.5	26.5	Ia	末	1			75			腹調	D ? 5.6 65	D ? 3.9 80		
B3－43	8	45.0	20.5	I	末	2	1		75	60		腹調				
B3－107	9	60.0	25.5	VI	末	1	4		125			樋状				
				IV	基	1			60			背調				
B3－96	10	77.0	33.0	IV	末		1			105		背調				
B3－34	11	39.0	23.5	I	基	1			50			腹調				
B3－37	12	36.5	24.5	III	末		1			85		切断面				
B3－89	13	90.0	27.5	I	末	+1			45			腹調				
B3－134	14	60.5	49.0	I	末	+1			65			腹調				
B3－142	15	67.5	25.0		末	1			55			無				
B3－45	16	41.5	19.5	I	末	2			65			腹調				
B3－145	17	38.5	17.5	母型	末								DV ? 5.6 65	D ? 3.9 65		
B3－77	18	78.5	37.5	V	末	1			55			腹調				
B3－72	19	69.5	26.0	IV	末	+2			60			背調	DV 43.2 5.0 85	DV 40.1 2.7 70	無	
B3－42	20	68.5	32.0	I	末	3			50			腹調				
B3－130	21	48.0	19.5	VII	末	2			105			無				
				VII	基	4			80			無				
B3－33	22	42.0	22.0	I	末											
B3－95	23	72.0	30.5	VII	末			+2			75	無調整				
B3－128	24	46.0	15.5		末											
B3－150	60	77.0	27.5	I	末	1			55			腹調				
B3－9	61	45.5	23.5	Ia	末	2			60			腹調	V ? 3.6 75			
B3－124	62	90.0	28.0	III	末	+1	+1		120	115		無／樋				
B3－111	63	78.5	20.5	I	基	+1			50			腹調				
B3－47	64	18.5	22.5	I	末	1			80			腹調				
B3－53	65	25.5	16.5	I	末	3						腹調				
B3－15	66	46.0	28.5	V	末		1			90		背調	D 17.5 6.7 85		有	
B3－108		17.0	11.5	IV	末	1			70			背調				
B4－23	85	52.5	39.0	IV	末		1		70			背調				
B4－19	86	27.0	23.0	I	末	+1			75			腹調				
B4－3	87	46.5	14.0	VIa	基	4	1		40	50		樋／	D 21.5 3.5 65	D 19.5 4.7 85		
B4－24	88	72.5	36.5	I	末	1			50			腹調				
				VI	基	1	4		75	95		樋状				
B4－13	89	73.0	42.0		末	1			35			折断面				
					基		1		100			腹調 t				
B4－20	90	56.5	18.5	I	末			+2				腹調	V ? 3.7 80	DV ? 4.6 80	無	
B5－51	101	60.5	29.5	VII	末	+4						無				
				I	基	1			95			腹調				
B5－97	102	71.0	22.0	I	末	5			120			腹調				
				I	基	1			75			腹調				
B5－70	103	74.5	39.0	I	末	4			55			腹調				
B5－57	104	66.0	16.5	VII	末	1			90			無				
B5－82	105	59.5	41.5	I	末	5			100			腹調				
B5－10	106	61.5	58.5	I	末	2			45			腹調	D 16.2 5.4 70	V 40.9 4.7 70	有	
B5－47	107	51.0	25.0	I	末	+2			75			腹調				
				VII	基	1	1			90		無				
B5－9	108	60.0	25.5	I	末		+1		75			腹調				
B5－45	109	62.0	26.0	I	基	2			70			腹調				
B5－69	110	91.5	34.5	I	末	3			40			腹調	D 19.0 4.4 95		有	
B5－198	111			I	末	4			55			腹調				
B5－1	112	50.5	16.0	I	末	+1			65			腹調	D 21.5 3.0 70	D 21.8 3.9 75	無	

第41表　彫刻刀形石器属性表(2)

遺物番号	図番号	長さ	幅	分類	位置	彫刻刀面数			彫刻刀面刃角			彫刻刀面打面	基部加工		打面	備考
						左	右	中	左	右	中		左	右		
B5－30	113	48.5	20.5	Ⅰ	末	+1						腹調	DV 40.4 3.5 70	DV 39.3 3.4 55	無	
B5－12	114	57.5	26.5	Ⅰ	末	+2			40			腹調				
B5－77	115	76.5	44.5	Ⅵ	末	+4	+3		90			樋状	D 19.3 7.2 85		有	
B7－15	160	47.0	19.0	Ⅰ	末	+1			65			腹調				
B7－85	161	80.5	27.0	Ⅰ	末	+1			50			腹調				
B7－20	162	63.5	40.5	Ⅰ	末	+1			55			腹調				
				Ⅰ	基	4			40			腹調				
B7－8	163	98.0	25.5	Ⅰ	末	4			70			腹調				
B7－67	164	63.5	30.0	Ⅰ	末	4			50			腹調				
B7－66	165	82.5	21.5	Ⅰ	末	+1			50			腹調	DV 27.6 4.0 70	D 20.1 3.5 80	無	
B7－78	166	29.0	18.5	Ⅰ	末	1			50			腹調				
B7－18	167	23.5	15.5	Ⅰ	末	1			80			腹調				
B7－88	169	22.5	19.0	Ⅵ	末	1	1		55			樋状				
B7－52	170	64.0	35.5	Ⅱ	末	1						腹調				
				Ⅴ	基		1			125		背調				
B7－49	171	65.5	21.0	Ⅰ	末	1			60			腹調				
B7－87	172	63.0	21.0	Ⅰ	末	3			65			腹調	DV 34.7 2.8 60	D 34.7 4.6 65	有	
B7－86	173	60.0	30.0	Ⅰ	末	2			55			腹調	D 30.4 3.6 65		有	
B7－25	174	40.5	18.0	Ⅴ	末	1	1		125	90		背調 t				
				Ⅳ	基	1			75			背調				
B7－92	175	48.0	17.5	Ⅵ	末	1	1		75	90		樋状				
B7－57	176	46.5	23.0	Ⅳ	末	1			75			背調				
				Ⅰ	基	1			85			腹調				
B7－12	177	40.5	36.5	Ⅶ	基	+2	+5		45	90		無／樋				
B7－132	178	75.5	41.0	Ⅴ	末		3		80			背調 t	V 21.8 7.0 85	VD 30.2 3.7 90	有	
B7－110	207	52.5	34.0	Ⅰ	末	+1		3	60			腹調				
B7－111	208	41.0	14.5	Ⅰ	末	2			75			腹調				
B7－108	209	103.5	43.0	Ⅲ	末	2	+2		60	85		樋状				
B7－103	210	45.5	33.5	Ⅴ	基	1			45			背調 t				
B7－120	211	46.5	23.0		末	1			110							
B7－118	212	38.5	13.5	Ⅰ	末	1			60			腹調				
B7－82	213	28.5	19.5	Ⅰ	末			+1				腹調				
B7－115	214	58.5	17.5	Ⅰ	末	1			75			腹調	D 25.2 2.9 75	D 30.2 3.7 75	有	
B8－20	226	19.5	13.0	Ⅰ	末	1			70			腹調				
B8－19	227	40.6	27.5	Ⅰ	末	4						腹調				
B8－15	228	57.5	33.5	Ⅰ	末	+1			55			腹調				
B8－22	229	66.5	26.5	Ⅰ	末	2			50			腹調				
B外－661	245	87.0	34.0	Ⅱ	末	+2			50			腹調 t				
B外－1087	246	62.0	27.0	Ⅶ	末	1			105			無				
B外－191	247	76.5	39.0	Ⅱ	基	1	1		60	50		腹調 t				
B外－638		39.0	21.0	Ⅰ	末	1			55			腹調				
表採6	257	390	18.5	Ⅳ	基	1			60			背調				
表採7	258	45.5	26.0	Ⅰ	末	1			55			腹調				
表採8	259	49.5	20.5	Ⅰ	基	1			50			腹調				
表採9	260	47.0	26.5	Ⅰ	末	1			60			腹調				
表採10	261	43.3	27.7	Ⅰ	末	3			75			腹調				
表採11	262	37.0	19.0	Ⅰ	基	2			55			腹調				
表採12	263	31.0	26.5	Ⅰ	末	1	2		85			腹調				
表採13	264	45.5	22.5		末											
表採14	265	39.0	33.0	Ⅴ	基		2			75		背調 t				
表採15	266	50.9	32.2	Ⅳ	末		1		95			背調				

第42表　石刃観察表

遺物番号	図番号	剥離長	剥離幅	分類	打面 幅	打面 厚さ	打面 種類	打面 形状	打点 位置	打点 径	バルブ形状	背面構成 Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	自	節	頭部調整	剥離角	備考
B3－93	25				16.1	5.8	調整	平坦	Ⅱ	不明	S	○							104	
B3－74	27				10.4	3.0	調整	平坦	Ⅰa	1.7	S	○		○				○	104	
B3－22	28	52.0	19.3	Ⅱ				点状	Ⅰa		S	○		○						
B3－32	29				3.5	1.6	調整	平坦	Ⅱ		S	○							90	
B3－20	30				9.1	4.5	調整	平坦	Ⅰa	不明	S	○			○	○			106	
B3－75	31				6.6	3.5	調整	凹	Ⅰa	不明	S	○							102	
B3－36	33				5.7	2.7	調整	平坦	Ⅰa	不明	S	○		○	○				92	
B3－18	34				16.4	6.8	調整	平坦	Ⅰb	1.4	S	○			○				82	稜形成
B3－82	35				15.6	6.8	複剥	平坦	Ⅰb	不明	S	○			○				96	
B3－23	38	45.8	10.7	Ⅲ	1.6	1.9	調整	点状	Ⅰa			○			○					
B3－87	39				18.8	7.54	調整	山型	Ⅱ	不明	F	○						○	83	
B3－26	41				9.8	4.8	調整	平坦	Ⅰa		S	○					○		95	
B3－84	42				15.8	5.8	調整	山型	Ⅱ	不明	S	○	○	○					75	
B3－85	43	26.3	20.4	Ⅱ			剥離	平坦	Ⅱ	不明	S	○		○					101	
B3－86	44	31.0	14.6	Ⅰ	9.8	5.5	調整	凸	Ⅰa	1.3	S	○							93	
B3－123	67	62.1	33.6	Ⅲ	2.0	1.0	剥離	平坦	Ⅰa		S	○			○					
B3－55	68				12.2	4.1	調整	凸	Ⅱ	不明	S	○					○	○	99	
B3－71	69	41.5	15.2	Ⅱ	5.9	3.4	剥離	平坦	Ⅱ	不明	S	○		○					92	
B3－16	70				5.8	2.6	剥離	平坦	Ⅱ	不明	F	○							86	
B3－8	71				17.3	5.3	調整	凸	Ⅱ	不明	S	○							90	
B3－110	73				6.0	1.8	調整	平坦	Ⅰa	不明	S	○							99	
B3－58	74				4.2	1.5	複剥	平坦	Ⅰa	不明	S	○								
B3－60	75				12.3	14.4	調整	山型	Ⅱ	不明	S	○							123	
B3－12					13.7	4.2	自然	平坦	Ⅲ	不明			○						101	
B3－24		22.3	20.3	Ⅲ				点状	Ⅲ		S	○	○		○					
B4－15	91	43.6	17.6	Ⅰ	14.5	6.9	調整	山型	Ⅰa	不明	S	○							111	
B4－14	92	76.5	22.5	Ⅱ	13.0	3.7	剥離	凸	Ⅱ		S	○		○					89	
B4－11	93				6.6	2.2	剥離	平坦	Ⅱ		F	○							89	
B5－22	117				3.7	1.5		平坦	Ⅰa		S	○	○			○			95	
B5－43	118				12.0	5.5	調整	凸	Ⅰb	不明	D	○							94	
B5－41	119	71.2	16.5	Ⅱ	4.3	0.7	剥離	平坦	Ⅰa		S	○		○				○		
B5－80	121				6.7	1.4	調整	平坦	Ⅱ		S	○		○				○	94	
B5－85	122				4.4	1.4	剥離	平坦	Ⅱ	1.1	S	○				○		○	114	
B5－44	123	74.0	11.5	Ⅲ				点状	Ⅰa		S	○		○	○					稜形成
B5－95	124	48.5	25.5	Ⅰ	4.3	1.4	剥離	平坦	Ⅰa		D	○						○	112	
B5－42	125	32.5	12.0	Ⅲ	2.1	1.2	剥離	平坦	Ⅰa		S	○	○							
B5－13	128				12.3	7.8	調整	平坦	Ⅱ	1.3	S	○							109	
B7－36	181				11.5	3.5	調整	山型	Ⅱ		S	○							91	
B7－126	183	78.5	35.1	Ⅰ	17.6	8.9	調整	凸	Ⅰa	不明	S	○					○		102	
B7－43	184				22.8	6.8	調整	山型	Ⅱ		S	○							96	
B7－3＋5	185	73.5	18.5	Ⅱ	7.7	4.5	調整	平坦	Ⅰa	不明	S	○		○	○	○		○	88	
B7－24	187	79.5	22.5	Ⅰ	16.5	5.1	調整	凸	Ⅰb	不明	S	○							96	
B7－104	215				15.7	4.2	調整	山型	Ⅱ	不明	D	○	○		○				98	
B7－109	216				6.5	1.4	剥離	平坦	Ⅱ		D	○								
B7－102	217	118.5	28.5	Ⅱ	8.8	4.4	調整	平坦	Ⅰb	不明	D	○		○					93	
B7－105	218	117.0	41.5	Ⅰ	13.2	3.9	調整	凸	Ⅱ	1.8	S	○							89	
B7－101					18.6	5.5	調整	凸	Ⅰb		S	○	○						95	
B8－3＋12	230				17.8	9.4	剥離	凹	Ⅰa	不明	S	○							94	
B8－2	232	71.4	16.6	Ⅱ	6.0	2.5	剥離	平坦	Ⅰa	0.9	S	○		○					89	
B8－27	234	105.2	22.0	Ⅱ	7.4	4.1	調整	凹	Ⅰa	1.1	S	○		○					101	
B外－1089					9.8	4.4	調整	山型	Ⅱ	不明	S	○							94	

第Ⅵ章　縄文時代草創期の調査

1　遺　　構

上ノ平遺跡Ｃ地点で検出された縄文時代草創期の遺構は５か所の遺物集中地点(以下ブロック)である。これらのブロックは西地区のAD～AH－５～８の範囲に分布するブロック１・６・10・11、東地区のAH11にあるブロック９である。ブロックの名称は発掘時のものをそのまま用いたが、ブロック11は遺物整理の段階で新たに設定したものである。西地区の４か所のブロックの間では母岩の共有関係、接合資料が認められ、これらは同時に形成されたと考える。一方、ブロック９とその他のブロックとの間にこうした関係は認められない。

ブロック１(図版42)

AF６・７の南寄りに位置し、石器661点、礫１点の多量の遺物で構成され、剥片、チップが多く、接合資料が存在することから、剥片生産を中心とした石器製作が行われていたと考える。遺物は南北10ｍ、東西８ｍの範囲に分布するが、特にAF６－10・15、AF７－６・11の径３ｍの範囲に集中する。ここが、剥片生産の場であった可能性が高い。遺物は、約70㎝の上下差を持って出土したが、Ⅱａ～Ⅲ層から出土したものが多く、大型の剥片類や石核はⅢ層から出土したことから、生活面はⅢ層上部にあると考える。

このような遺物の出土状況から縄文時代草創期のブロックは旧石器時代のものよりも層位的に上位にあるというのが発掘時からの所見であったが、本遺跡ではⅢ層の層厚が10～15㎝であることを考慮すると必ずしも明確であるとはいえない。

ブロック６(図版43)

AF、AG－５に位置し、石器57点で構成される。出土遺物の大半が母岩６の剥片であることから、母岩６の剥片生産を中心とした場であったと考える。南北５ｍ、東西６ｍの範囲に分布するが、AF５－22・23付近の南北３ｍ、東西2.5ｍの範囲にまとまりがある。遺物は約50㎝の上下差を持って出土しているが、Ⅱｂ層から出土したものが多く、出土遺物の下限はⅢ層である。

ブロック９(図版44)

AH12の北側に位置し、石器120点、礫１点で構成される。出土遺物の大半がチップで、石器製作によって形成されたものと思われる。遺物は約50㎝の上下差を持って出土したが、Ⅱｂ層から出土したものが多い。平面形は径２ｍのほぼ円形を呈すると思われるが、南半分は平成３年の確認トレンチに切られていた。

ブロック10(図版45)

AD８に位置し、石器７点で構成される。遺物は約50㎝の上下差を持って南北４ｍ、東西２ｍの範囲から出土したが、その密度は極めて低い。出土層位はⅢ層のものが大半である。

ブロック11(図版45)

AH６に位置し、石器５点で構成される。AH６－７杭の北で４点、その北東約３ｍで１点出土している。遺物の上下差は約20㎝と少なく。出土層位はⅡａ層が１点、Ⅱｂ層が４点である。

2 遺　物

上ノ平遺跡C地点から出土した縄文時代草創期のものと考えられる遺物は石器だけである。

A 分　類

縄文時代草創期の石器は、尖頭器(未成品を含む)、彫刻刀形石器、二次加工ある剥片、石刃、両面加工石器、石核、剥片、チップに分類した。これらの石器はいずれも少量の出土であり、これ以上の細分は行わなかった。また、彫刻刀形石器、二次加工ある剥片、石刃、剥片、チップの定義は旧石器時代の石器と同じであり、ここでの説明は省略する。

尖頭器

剥片や礫を素材とし、連続的な加工によって尖頭部が作出され、平面形が木葉形、柳葉形などを呈する石器を尖頭器とする。

両面加工石器

厚手の剥片や扁平な礫を素材とし、表裏両面のほぼ全体に渡る加工によってある一定の形状に仕上げられた石器を両面加工石器と呼ぶ。石核との区別が問題となるが、ここでは剥離面の規則性を重視し、平面形が楕円形で断面形がレンズ状ないしD字状のものを両面加工石器とした。

石核

最終剥離面がネガティヴな剥離面で、その大きさ、規則性などから刃部を作出するための調整と判断されなかった石器を石核とする。

B 石 器 各 説

(1) 石器各説の方針

ブロック1・6・10・11から出土した石器は後述する母岩の共有状況、石器の接合関係などから同時期に形成されたものであることは確実である。また、トゥールの割合が少ない。そこで、まずトゥールと石核をブロックごとに説明し、母岩別資料の概要を説明した後、接合資料を説明する。剥片は接合資料のものを中心に図示した。

遺物観察表にはブロック出土石器を掲載した。また、剥片属性表は接合した剥片で計測可能なものを掲載した。観察表、属性表の計測基準は第5図のとおりである。遺物番号は発掘調査の遺物取り上げの際につけたものである。縄文時代草創期の石器組成は第43表、石材組成は第44表のとおりである。

(2) ブロック1出土石器(図版47・48、写真図版147・148)

ブロック1からは石器660点、礫1点が出土した。石器組成は第45表、石材組成は第46表のとおりである。

尖頭器(4・5・6、実測番号以下同じ)　未成品を含め3点出土した。B1－312(遺物番号、以下ブロック番号省略)は両面加工の尖頭器で、石材は黒曜石である。夾雑物を原因とする折れで先端側を欠損するが、完形時は細身の木葉形を呈していたものと思われる。基部側には樋状剥離が認められ、使用等による欠損であろう。616は錯交剥離によって調整されたもので珪質頁岩製である。剥片を素材とし、左側縁の主要

第43表　縄文時代草創期石器組成表

ブロックNo.	尖頭器	彫刻刀	両面加	その他	石核	石刃	剥片	チップ	礫	計
1	3	1		5	7	34	497	113	1	661
6	1		1			2	32	21		57
9	3						14	103	1	121
10						2	5			7
11						3	2			5
外	1					6	9			16
表採等							45	12		57
計	8	1	1	5	7	47	604	249	2	924

第44表　縄文時代草創期石材組成表

石材部	石器	礫	合計
珪質頁岩	292		292
頁岩	608		608
玉髄	2		2
流紋岩	3		3
凝灰岩	9		9
鉄石英	2		2
無斑晶質安山岩	1		1
黒曜石	1		1
チャート	2		2
砂岩	1		1
粘板岩		1	1
花崗岩		1	
合計	922	2	924

第45表　ブロック１石器組成表

母岩No.	尖頭器	彫刻刀	その他	石核	石刃	剥片	チップ	礫	計
1			1		7	103	16		127
2					1	32	9		42
3					10	98	37		145
4			1		6	95	11		113
5	1		1	3	3	75	19		102
6									0
7				1	3	13	2		19
8				1	1	1			3
9					2	15	1		18
10					1	1			2
単独	2	1				1			4
母岩外			2	2		63	17	1	85
計	3	1	5	7	34	497	113	1	661

第46表　ブロック１石材組成表

石材名	石器	礫	合計
珪質頁岩	111		111
頁岩	534		534
玉髄	2		2
流紋岩	1		1
凝灰岩	7		6
鉄石英	2		2
黒曜石	1		1
チャート	1		1
砂岩	1		1
粘板岩		1	1
合計	661	1	661

剝離面と右側縁の背面にブランティング状の調整が施され、小型で木葉形の器形に仕上げられている。調整は両側縁の縁辺のみに認められ、素材の背面、主要剝離面、打面を残している。679は凝灰岩製の尖頭器未成品である。背面左側縁に自然面を残した剝片を素材とし、背面右側縁基部側と主要剝離面の両側縁に調整が施されている。基部側半分を背面からの折れ面で欠損するが、この折れ面は製作時に生じたものであろう。

彫刻刀形石器(７)　１点出土した。325はチャートの石刃を素材とし、両端に刃部が作出されている。先端側は先端左の背面への二次加工を打面として右側縁に２条の樋状剝離が施され刃部が作出されている。彫刻刀面と主要剝離面のなす角がほぼ直角で彫刻刀面と背面との稜線には顕著な微小剝離痕が認められる。基部側の刃部は、左１条、右２条と両側縁に樋状剝離が施され彫刻刀面が作出されている。これらの彫刻刀面を切る素材を切断するような背面へのノッチ状の調整が認められるが、新たな樋状剝離のための打面かもしれない。

二次加工ある剝片(石刃)(８～10)　５点出土し、３点図示した。169は小型の石刃を素材として左側縁打面側と先端の主要剝離面に調整が施されている。被熱しており、左側縁先端の背面を焼けはじけで欠損する。頁岩製である。485は珪質頁岩の石核を素材とし、最終剝離面の末端側に施された調整によって厚手のスクレイパー状の刃部が作出されている。544は背面と側面に節理面・自然面を残す厚手の剝片を素材とし、主要剝離面の右側縁に平坦で連続的な調整が施されている。施されている調整が尖頭器の調整に似ているため、尖頭器の未成品である可能性もあるが、調整が部分的にしか認められず両面加工でもないことから、

尖頭器には分類しなかった。頁岩製である。

石核(11～13)　7点出土し、3点図示した。522は両面体を母型とする石刃石核である。上端に打面調整を施しながら石刃が生産されており、生産工程を示す良好な接合資料が存在する。頁岩製である。533は断面D字形の両面加工石器の可能性もあるが、実測図正面に示した縦長の剥片(石刃と呼んでもよいかもしれない)が連続的に剥離された痕跡が認められるため、石核とした。後述するように剥離工程を示す良好な接合資料が存在する。珪質頁岩製である。541は珪質頁岩製であり、節理面が多く認められていることから、分割礫ないし大型の剥片を素材とするものと思われる。節理面を打面として打面転移・作業面転移を頻繁に行いながら、幅広や縦長の剥片が剥離され、甲高な亀甲状を呈する石核である。打面調整等も認められない。剥片剥離を示す接合資料が存在する。632は珪質頁岩製の石核で分割礫ないし剥片を素材とし、作業面の周縁で打面を横方向に移動させながら剥片が剥離され、その裏面に節理面を大きく残している。

(3)　ブロック6出土石器(図版46・48、写真図版147・148)

ブロック6からは57点の石器が出土し、石器組成は第47表、石材組成は第48表のとおりである。

尖頭器(1)　60は長さ27.0cmと極めて大型で柳葉形を呈する両面加工の尖頭器である。石材は流状構造を持った無斑晶質安山岩で表面は風化が著しい。きわめて大型の石器でありながら厚さは1cmにみたず非常に高度な製作技術をうかがうことができる。また、同一母岩資料は他に全く出土しておらず、完成品で搬入されたことは確実である。基部側を折れ面でわずかに欠損している。

両面加工石器(15)　1点出土した。34は珪質頁岩製の両面加工石器で片面に自然面を残している。左側縁には削片状の剥片を剥離した痕跡が認められ、その後この剥離面の打面を取り去るような剥離が施され

第47表　ブロック6石器組成表

母岩No.	尖頭器	彫刻刀	ナイフ	両面加	石核	石刃	剥片	チップ	礫	計
1							1			1
3							1			1
4							6			6
5						1	1			2
6				1			23	21		45
単　独	1					1				2
計	1	0	0	1	0	2	32	21	0	57

第48表　ブロック6石材組成表

石材名	石　器
珪質頁岩	48
頁　　岩	8
無斑晶質	1
合　　計	57

第49表　ブロック9石器組成表

母岩No.	尖頭器	剥片	チップ	礫	計
11	2	7	49		58
12		5	40		45
母岩外			17	1	18
	2	12	106	1	121

第50表　ブロック9石材組成表

石材名	石器	礫	計
珪質頁岩	118		118
頁　　岩	1		1
チャート	1		1
花崗岩		1	1
合　　計	120	1	121

第51表　ブロック10石器組成表

母岩No.	石刃	剥片	計
1	1	4	5
4		1	1
8	1		1
計	2	5	7

第52表　ブロック10・11石材組成表

石材名	ブロック10	ブロック11
頁　岩	7	5
合　計	7	5

第53表　ブロック11石器組成表

母岩No.	石刃	剥片	計
1	2	1	3
母岩外	1	1	2
計	3	2	5

ている。

(4)　ブロック９出土石器(図版46、写真図版147)

ブロック９からは120点の石器が出土し、石器組成は第49表、石材組成は第50表のとおりである。

尖頭器(２)　出土した２点は同一母岩の破片資料で、同一個体の可能性が高い。最も大きい破片である22を図示する。22は両面加工の尖頭器の破片で、石材は珪質頁岩である。形状から大型で木葉形の尖頭器の一部と思われるが、ごく一部の破片資料であり確実ではない。

(5)　ブロック外出土石器(図版46、写真図版147)

尖頭器(３)　流紋岩の横長剥片の周辺に平坦な両面加工で調整が施されたものである。調整は周縁のみであり素材の背面・主要剥離面を大きく残し、周縁を全周しない。したがって、両面加工の尖頭器の未成品であると考える。

C　母岩別資料

(1)　母岩の識別と分類

草創期の石器はやや粗粒の頁岩や珪質頁岩を主体とし、模様などから母岩識別の容易なものが多かった。特に、遺跡内で石器製作が行われていると思われる母岩１～８は、１母岩あたりの資料数も多い。手掘り作業で出土した石器のうち748点を12の母岩に識別した。また、明らかに単独母岩資料と考えられる石器が７点ある。これ以外は、小破片であること焼けていることなどから母岩の識別に不確実さが伴う。母岩１～３は母岩の特徴が極めて似ており、特に小さい石器では母岩の識別が困難であったが、それぞれの接合資料と個々の石器を比較して母岩の識別を行った。各母岩の特徴は第54表、出土点数と母岩の分類を第55表に示した。母岩の識別は、色調、模様、自然面の特徴、粒度、光沢などを参考にして行った。また、遺跡内で行われた石器製作の工程によって各母岩をⅠ～Ⅲに分類した。分類の内容、認定基準は前章で示した旧石器の場合と同じである。

その結果、12の母岩はⅠ類10母岩、Ⅱ類２母岩であり、母岩別資料748点のうち636点がⅠ類の母岩に帰属している。一方、単独母岩資料７点はⅢ類と考えられ、その多くはトゥールである。こうしてみると、縄文時代草創期の石器は大部分が剥片剥離を中心とした石器製作活動で生じたものと考えられ、わずかに搬入されたトゥールが伴うというあり方を示していることがわかる。

(2)　ブロック間での共有状況

母岩１・３・４・５・８のブロック間での共有関係から、ブロック１・６・10・11は母岩の共有レベルでの同時性が検証された(第56表)。ブロック１は母岩１～10の母岩別資料748点のうち575点を占め、次項に示す接合資料からも、ここが剥片剥離を中心とした石器製作の場であったことを示している。ブロック６は出土石器のほとんどが母岩６の資料で占められ、剥片等が多く出土していることから母岩６の剥片剥離の場であるといえよう。一方、ブロック10・11は石器の出土点数は少ない。しかも、出土石器における母岩別資料の全てがブロック１と母岩の共有関係を持つことを考慮すると、ブロック１から持ち出された石器が使用などの過程をへて廃棄ないし遺棄された場と考えられる。

第54表　各母岩の特徴（草創期）

母岩No.	岩石名	色　調	粒度	光沢	特　徴	自然面の特徴
S1	頁　岩	灰白色	粗	なし	灰色の斑点状の模様	にぶい黄褐色で表面やめらか
S2	頁　岩	灰白色	粗	なし	灰色の斑点状の模様・にぶい黄褐色のしみ	にぶい黄褐色・灰色で2～3㎜単位の凹凸
S3	頁　岩	灰白色	粗	なし	灰色の斑点状の模様	にぶい黄色・灰白色でややなめらか
S4	頁　岩	灰オリーブ	中	なし	灰色の筋状の模様がわずかに入る	浅黄色でなめらかだが3～10㎜の窪み、青灰色岩片
S5	珪質頁岩	灰色・灰白色	細	弱	暗灰色の筋状の模様	暗灰色でなめらか、灰白色でなめらか
S6	頁　岩	灰白色	細	弱		浅黄褐色でなめらか
S7	頁　岩	灰白色	中	なし	暗赤褐色の筋状の模様	
S8	頁　岩	灰白色	粗	なし	灰色の斑点状の模様	
S9	頁　岩	灰白色	粗	なし		
S10	頁　岩	褐灰色	粗	なし		
S11	珪質頁岩	灰黄褐色	細	中	暗褐色の模様が入る	
S12	珪質頁岩	にぶい黄橙	中	なし	褐灰色の模様が入る	

第55表　各母岩の出土点数と分類

母岩No.	尖頭	彫刻刀	両面加	その他	石核	石刃	剝片	チップ	計	分類
S1				1		10	109	16	136	Ⅰ
S2						1	33	9	43	Ⅰ
S3						10	104	38	152	Ⅰ
S4				1		7	96	11	115	Ⅰ
S5	1			1	3	3	75	19	102	Ⅰ
S6			1				23	21	45	Ⅰ
S7					1	3	13	2	19	Ⅰ
S8					1	1	2		4	Ⅰ
S9						2	15	1	18	Ⅰ
S10						2	1		3	Ⅰ
S11	2						9	49	58	Ⅱ
S12							5	40	45	Ⅱ
単　独	3	1				2	1		7	Ⅲ
計	7	1	1	3	5	40	486	205	748	

第56表　各母岩のブロック別出土点数

母岩No.	1	6	9	10	11	外	計
S1	127	1		5	3		136
S2	42						42
S3	146	1				1	147
S4	113	6		1			120
S5	102	2					104
S6		45					45
S7	19						19
S8	3			1			4
S9	18						18
S10	2					1	3
S11			59				58
S12			46				45
単独母岩	4	2			1		7
計	575	57	105	7	2	2	748

D　接合資料

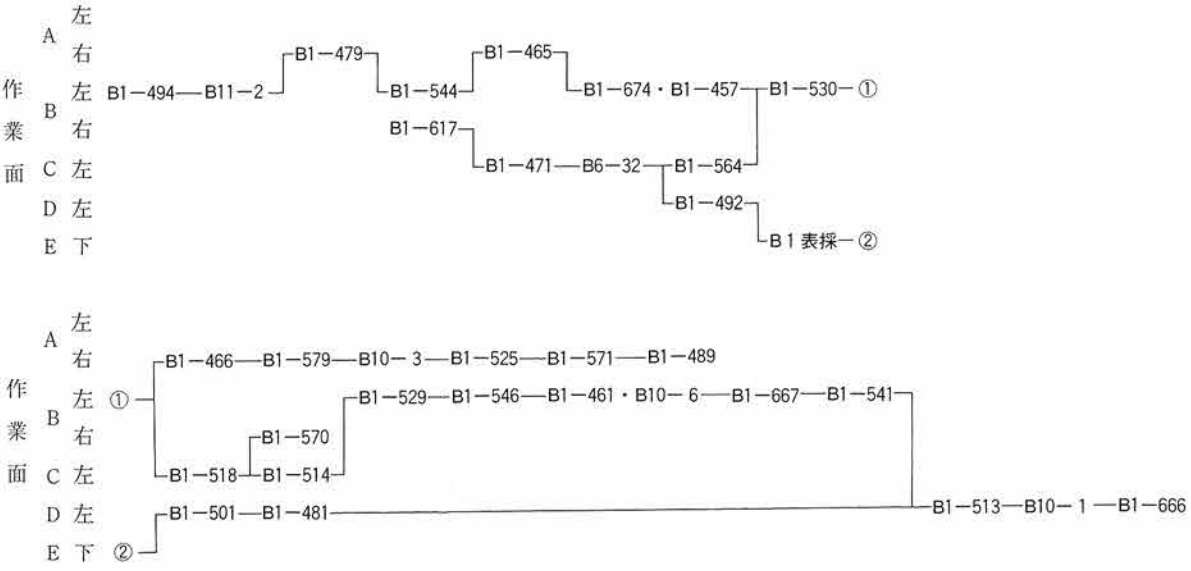
7母岩で9例の接合資料が得られたが、このうち主な7例を説明する。なお、模式図中のアルファベットは作業面を、上下左右は作業面における剝片剝離の打面の位置を示している。

接合資料1（図版54～60、写真図版149～153）

母岩1における剝片32点、二次加工ある剝片1点からなり、原石の形状がほぼ復元できる接合資料である。原石は30.4×11.5×11.4㎝の四角柱状の礫で、下半部を除いて大半が復元された。B面に図示した側面は節理面、これ以外の側面は自然面からなる。接合した剝片の大部分はこの自然面、節理面を除去する際に生じたもので、石核は出土しなかったので遺跡外に搬出されたと考える。

自然面・節理面の除去はまずA・B・C面で行われた。B1－617からB1－546までは稜線3に沿って、片面につき1～3回の剝離を繰り返しながら、B面とC面の上半部の自然面・節理面が除去され、B1－494からB1－530まで稜線2に沿ってほぼ交互剝離でA・B面下半部の自然面・節理面が除去されている。また、B6－32に後続して、E面の自然面除去も行われている。この段階で生じた剝片は、比較的横長で厚手のものが多い。背面は自然面・節理面および主要剝離面と同一方向の剝離面で構成されていることが多く、複剝離面打面を持ち、バルブが発達している。接合資料の後半は、おもにB面左側を作業面としてやや打面を固定しながら剝片剝離が行われている。これらの剝離は、打面が固定的であること、剝

片の形状が整ってきていること、これらの剥片の中にブロック10に搬出されているものがあることから、自然面・節理面除去に続く工程と考えられ、生じた剥片の中で形状の適したものが選択され使用されていると思われる。あるいは、目的的な剥片を剥離する段階といえるのかもしれない。実際、生じた剥片の中に縦長のものや打面調整のあるものも存在する。中心部分は石核あるいはその母型として搬出されたと考えるが、その形態は角柱状で長さ25cmを越える大型の両面体であった可能性が高い。

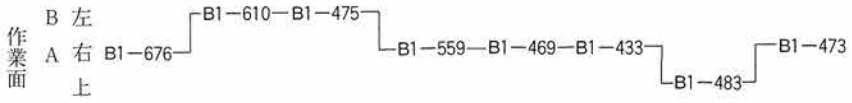


第7図　縄文時代草創期接合資料1模式図

接合資料2（図版62、写真図版154）

母岩2の剥片11点からなる接合資料で、節理面で2個体に分割された後、それぞれの個体で剥片剥離が行われている。個体1・2とも剥片は自然面および主要剥離面と同一方向の剥離面で背面が構成されているものが多い。また、石核は出土しておらず、遺跡外に搬出されたものと思われる。

個体1（図版63・64、写真図版154・155）　8点の剥片で構成されている。B1－64からB1－433まで稜線1に沿って片面につき数回の剥離がA面とB面に繰り返され自然面・節理面が除去されている。この後、A面では上下からB1－483・473が剥離された。最終的には、これらの剥離による両面加工で仕上げられた石核が遺跡外に搬出されたと考えられる。



第8図　縄文時代草創期接合資料2個体1模式図

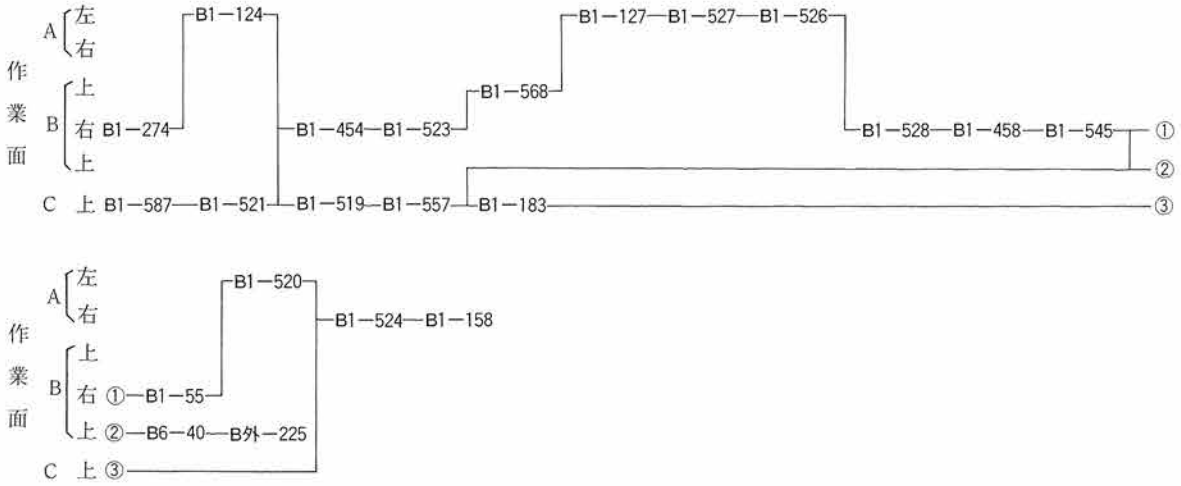
個体2（図版65、写真図版155）　3点の剥片で構成されている。分割による節理面を作業面とする3枚の剥片が接合したが、石核は出土しておらず遺跡外に搬出されたものと思われる。

作業面　A上　B1－460——B1－61——B1－477

第9図　縄文時代草創期接合資料2個体2模式図

接合資料3（図版66～70、写真図版156・157）

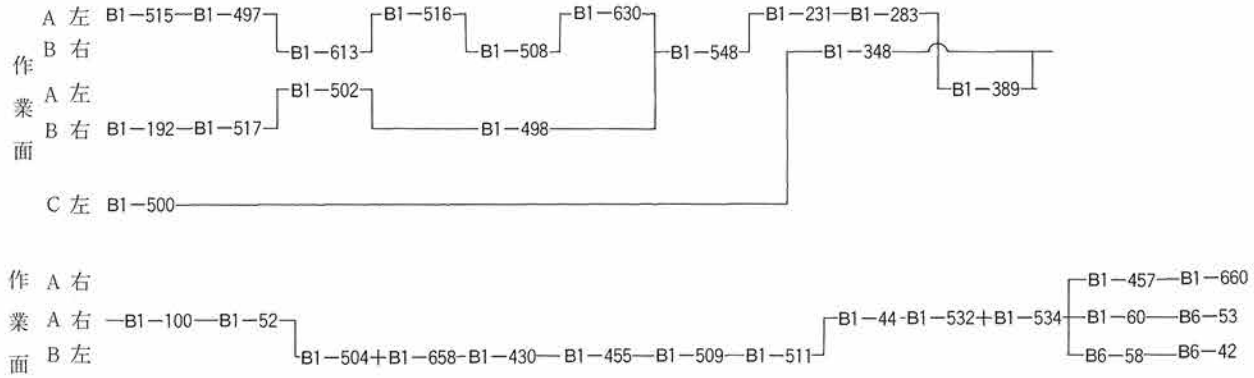
母岩3の剥片22点で構成される接合資料である。原石の形状がほぼ復元でき、16.6×13.4×9.4cmの亜角礫であった。稜線1に沿って片面につき1～数回の剥離を繰り返しながら、A面左半部、B面右半部の自然面が除去されている。この自然面除去が終了した段階での石核の稜線1の形状は石刃技法における稜形成された稜線に類似するものであったと思われる。この工程で生じた剥片は、横長で複数の剥離面による打面、背面に自然面および主要剥離面と同じ方向の剥離面を持ち、バルブが発達しているものが多い。B1－454は調整打面であり、この工程の初期の段階でも打面調整による剥離のコントロールが行われていた可能性がある。また、A面右半部は稜線2からの剥離によって自然面が除去され、B面左には上面を打面とした稜線3に沿った縦長の剥片B外－225・B1－640が剥離されている。C面は上方からの連続的な数回の剥離によって自然面除去が行われているが、剥離面の切り合いからA・B面における自然面除去のいずれかの段階に挿入されて行われたようである。中心部分は石核あるいは母型として遺跡外に搬出されたと考えるが、その形態は1面に自然面を残して両面加工された石核で、石核整形と稜形成の終了した石刃石核に類似したものであろう。



第10図　縄文時代草創期接合資料3模式図

接合資料4（図版71～79、写真図版158－161）

母岩4の剥片33点で構成されている接合資料である。原石の形状がほぼ復元でき、23.6×17.6×8.0cmの扁平な円礫であった。原石右縁辺の稜線2に沿った交互剥離によってB1－515とB1－192～B1－389が剥離され、A・B面の縁辺付近の自然面除去が行われた（図版72・73）。また、左側縁のB1－500も同様の工程で剥離されたものであろう。この段階で生じる剥片は、横長で背面の大部分が自然面に覆われているものが多く、打面は単・複剥離面のものが大部分であるが、初期の段階で剥離されたB1－613・516は自然面打面である。B1－348以降はA・B面の中央付近の自然面除去および石核整形が行われ（図版74・75）、稜線1に沿って片面1～数回が剥離を交互に繰り返される。生じた剥片は、主要剥離面と同一方向の剥離面と自然面で背面の構成されているものが主体である。中心部分は石核あるいは母型として搬出されたと思われ、その形態は一部に扁平な円礫の縁辺を残した扁平な両面体であったと考える。

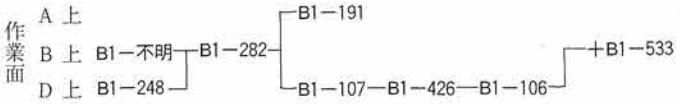


第11図　縄文時代草創期接合資料４模式図

接合資料５（図版80、写真図版162）

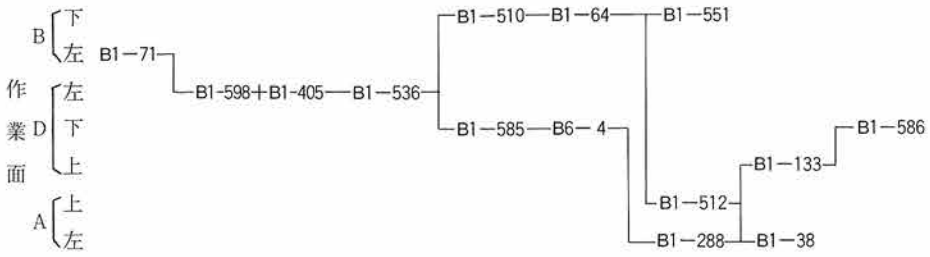
母岩５の剥片22点（接合の結果21点）と石核１点で構成される接合資料であり、節理面で分割された後、それぞれの個体で剥片剥離が行われている。

個体１（図版81・82、写真図版162）　個体１は、剥片７点、石核１点で構成されている。まず、Ｂ面を作業面、分割による節理面であるＤ面を打面として数点の剥片が剥離された後、Ａ面とＤ面を作業面として剥片剥離が行われた。Ａ面には１点、Ｄ面には３点の剥片が接合している。Ａ面の作業面の打面はＤ面に、Ｄ面の作業面の打面はＣ面に固定されており打面転移は認められない。石核の作業面の観察からＡ面からは整った縦長剥片（石刃といってもいいかもしれない）が、Ｄ面からはやや幅広な縦長剥片が連続的に剥離されていたと思われる。接合する剥片が少ないことから遺跡外へ搬出された可能性が高い。



第12図　縄文時代草創期接合資料５個体１模式図

個体２（図版83～85、写真図版163・164）　個体２は剥片15点（接合の結果14点）で構成されている。主に石核調整にかかわる剥片剥離を示す接合資料であると考えられるが、節理面が多く認められるため、不規則な剥離が多くその解釈を困難にしている。Ｂ面ではその上下を打面として４枚の剥片が接合している。生じた剥片は節理面を含む不整形なものが多い。一方、Ｄ・Ｅ面を作業面としてＢ１－71～38の剥片が剥離されている。打面転移が頻繁に行われ、剥片はやはり節理を含む不整形なものが多い。一方、Ｄ面を作業面とするＢ１－538・Ｂ６－４は節理も少なく比較的形も整っている。特にＢ６－４は分類上は石刃であり、ブロック６に搬出されている。これは、原石のこのあたりに節理が少なかったためで、特に調整等によって剥離がコントロールされていたわけではなく形状の整った石核調整剥片が搬出され、あるいは使用されていたかもしれないことを示す事例であろう。これらの、剥片剥離の順序はＢ１－71～536が最も古く、その後、Ｂ面とＤ面を作業面とする剥片剥離、Ｂ１－288・38の順で剥離されたことがわかる。最後にＦ面を作業面としてＢ１－113・586が剥離された。個体２の中心部分は出土しておらず石核あるいはその母型として遺跡外へ搬出されたと考える。



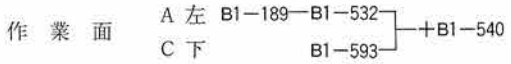
第13図　縄文時代草創期接合資料５個体２模式図

接合資料６（図版85、写真図版164）

母岩５の剥片２点(接合の結果１点)と不定形石器１点で構成される接合資料である。剥片Ｂ１－209＋Ｂ１－560が不定形石器Ｂ１－485と接合し、接合面はＢ１－209＋Ｂ１－560の主要剥離面となっており、Ｂ１－485は石核素材の不定形石器である。Ｂ１－209＋Ｂ１－560の打面は節理による同時割れで欠損しており、またＢ１－209とＢ１－560への分割も節理による同時割れによるものである。

接合資料７（図版87、写真図版165）

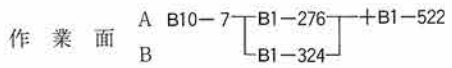
母岩７の剥片３点、石核１点で構成される接合資料である。それぞれの剥片が石核に接合しているが、連続した剥離工程を示すような接合は認められない。石核の観察からも剥片剥離は打面転移、作業面転移の頻繁なものであったことがうかがえる。



第14図　縄文時代草創期接合資料７模式図

接合資料８（図版88、写真図版165）

母岩８の石刃１点、剥片２点、石核１点で構成される石刃剥離の工程を示す接合資料である。石刃B10－７が剥離された後、打面調整剥片Ｂ１－276と石核調整剥片Ｂ１－324が剥離されている。さらにこの後に、Ｂ１－276とそれに後続する１回の剥離で調整された打面から石刃１点が剥離されている。石核は断面がＤ字形を呈する両面体を母型とするもので、石核の裏面には大型の剥離による整形痕が認められる。接合資料１～４で遺跡外に搬出された石核の形状を示している可能性が高い。石質そのものも母岩１～３に似ているが接合関係は認められなかった。



第15図　縄文時代草創期接合資料８模式図

第57表　ブロック１出土石器観察表(1)

遺物No.	図No.	大グリッド	北南	西東	層	標　高	分類	最大長	最大幅	厚さ	重量(g)	石材	母岩	被熱	破損	備　　考
1		ＡＦ６	320	372	Ⅱｂ	70.991	ＦＬ	21.3	8.8	3.9	0.48	頁岩	3	無	破損	
2		ＡＦ６	413	423	Ⅱｂ	71.037	ＣＨ	15.8	10.8	2.0	0.24	頁岩		無	破損	
3		ＡＦ６	340	540	Ⅱｂ	71.089	ＦＬ	26.7	18.4	4.1	1.61	頁岩	5	無	破損	
4		ＡＦ６	350	585	Ⅱａ	71.158	ＦＬ	31.6	23.2	5.1	3.51	頁岩	4	無	破損	
5		ＡＦ６	110	710	Ⅱｂ	71.133	ＦＬ	21.0	15.7	3.6	0.99	凝灰	7	無	破損	
6		ＡＦ６	170	725	Ⅱｂ	71.163	ＣＨ	13.0	10.9	2.0	0.25	頁岩		無	破損	
7		ＡＦ６	237	755	Ⅱｂ	71.158	ＦＬ	31.5	22.3	4.2	2.93	珪頁	5	無	破損	
8		ＡＦ６	380	672	Ⅱｂ	71.091	ＦＬ	36.5	25.9	6.3	4.82	頁岩	1	無	破損	
9		ＡＦ６	382	690	Ⅱｂ	71.096	ＦＬ	42.6	32.7	8.8	10.2	頁岩	1	無	完形	
10		ＡＦ６	450	632	Ⅱａ	71.100	ＣＨ	15.7	7.9	3.5	0.34	頁岩	2	無	破損	
11		ＡＦ６	451	655	Ⅱａ	71.099	ＣＨ	13.1	9.7	2.8	0.2	頁岩	3	無	破損	
12		ＡＦ６	457	687	Ⅱａ	71.130	ＦＬ	23.9	17.2	3.7	1.26	頁岩	3	無	破損	
13		ＡＦ６	466	653	Ⅱａ	71.098	ＦＬ	24.3	14.1	4.7	1.54	頁岩	3	無	破損	
14		ＡＦ６	473	673	Ⅱａ	71.123	ＣＨ	13.2	12.6	1.6	0.19	頁岩	1	無	破損	
15		ＡＦ６	478	677	Ⅱａ	71.128	ＦＬ	20.4	12.7	2.4	0.52	頁岩	3	無	破損	
16		ＡＦ６	486	580	Ⅱａ	71.161	ＣＨ	17.7	14.5	1.4	0.33	頁岩	5	無	破損	
17		ＡＦ６	500	510	Ⅱａ	71.163	ＣＨ	19.5	13.5	2.7	0.55	頁岩		無	破損	
18		ＡＦ６	490	72	Ⅱａ	71.071	ＦＬ	25.6	15.9	4.7	1.33	頁岩	3	無	破損	
19		ＡＦ６	646	175	Ⅱｂ	70.951	ＦＬ	26.1	17.0	4.9	1.37	頁岩	3	有	破損	
20		ＡＦ６	530	522	Ⅱａ	71.155	ＣＨ	17.6	8.3	5.3	0.44	頁岩	3	無	破損	
21		ＡＦ６	600	503	Ⅱｂ	70.958	ＣＨ	12.6	10.0	1.6	0.16	頁岩		無	破損	
22		ＡＦ６	547	554	Ⅱａ	71.158	ＦＬ	41.8	25.7	8.9	6.25	頁岩		無	破損	
23		ＡＦ６	538	576	Ⅱａ	71.130	ＦＬ	39.6	22.7	5.7	4.13	頁岩	3	無	破損	
24		ＡＦ６	554	607	Ⅱａ	71.153	ＦＬ	25.4	14.7	5.7	1.41	頁岩		無	破損	
25		ＡＦ６	569	597	Ⅱａ	71.149	ＣＨ	15.9	8.8	2.8	0.35	頁岩	3	無	完形	
26		ＡＦ６	561	615	Ⅱａ	71.115	ＣＨ	11.6	9.7	1.7	0.16	頁岩	3	無	破損	
27		ＡＦ６	587	591	Ⅱａ	71.063	ＦＬ	34.2	16.9	4.1	2.87	珪頁	5	無	破損	
28		ＡＦ６	509	654	Ⅱａ	71.131	ＦＬ	23.0	20.5	4.0	1.32	頁岩		有	完形	
29		ＡＦ６	537	673	Ⅱａ	71.166	ＣＨ	14.5	11.3	2.4	0.2	頁岩	3	無	破損	
30		ＡＦ６	504	667	Ⅱｂ	71.066	ＦＬ	91.6	63.2	25.5	105.0	頁岩	4	無	完形	
31		ＡＦ６	498	694	Ⅱａ	71.116	ＦＬ	20.7	13.8	3.8	0.66	頁岩	4	無	破損	
32		ＡＦ６	503	704	Ⅱｂ	71.069	ＣＨ	13.2	10.0	1.9	0.21	頁岩	2	無	完形	
33		ＡＦ６	514	693	Ⅱｂ	71.093	ＦＬ	27.8	21.0	5.2	2.2	頁岩	4	無	完形	
34		ＡＦ６	578	703	Ⅱａ	71.114	ＦＬ	28.8	14.2	3.7	0.88	頁岩	3	有	破損	
35		ＡＦ６	580	715	Ⅱａ	71.127	ＣＨ	18.4	12.6	2.5	0.39	頁岩		無	破損	
36		ＡＦ６	606	695	Ⅱａ	71.188	ＦＬ	43.0	15.9	7.9	3.91	頁岩		無	破損	
37		ＡＦ６	609	682	Ⅱａ	71.187	ＣＨ	11.2	6.5	1.6	0.12	珪頁	5	無	破損	
38	156	ＡＦ６	620	642	Ⅱａ	71.207	ＦＬ	73.2	48.7	15.9	48.7	珪頁	5	無	完形	
39		ＡＦ６	180	607	Ⅱｂ	71.106	ＦＬ	28.9	15.4	6.0	1.61	珪頁	7	無	破損	
40		ＡＦ６	575	652	Ⅱａ	71.205	ＣＨ	9.0	8.4	1.1	0.09	頁岩	1	有	破損	
41		ＡＦ６	583	692	Ⅱａ	71.184	ＣＨ	14.8	10.2	2.1	0.32	頁岩	4	無	破損	
42		ＡＦ６	61	809	Ⅱｂ	71.109	ＦＬ	51.4	29.3	6.8	8.66	頁岩		無	破損	
43		ＡＦ６	6	873	Ⅱａ	71.158	ＦＬ	21.0	13.0	3.2	0.72	頁岩		無	破損	
44		ＡＦ６	135	880	Ⅱｂ	71.145	ＦＬ	26.5	14.0	4.5	1.29	頁岩		無	完形	
45		ＡＦ６	135	933	Ⅱｂ	71.136	ＦＬ	46.7	26.1	10.5	9.41	頁岩	3	無	破損	
46		ＡＦ６	133	943	Ⅱｂ	71.135	ＦＬ	20.6	12.9	3.9	1.09	頁岩	3	無	破損	
47		ＡＦ６	144	970	Ⅱｂ	71.130	ＣＨ	18.4	12.3	4.9	0.75	流紋	3	無	破損	
48		ＡＦ６	145	939	Ⅱｂ	71.122	ＣＨ	9.5	3.5	1.2	0.04	頁岩	4	無	破損	
49		ＡＦ６	165	938	Ⅱｂ	71.110	ＣＨ	6.3	4.8	0.7	0.03	頁岩	1	無	破損	
50		ＡＦ６	100	942	Ⅱａ	71.259	ＣＨ	18.3	9.7	3.1	0.51	頁岩	5	無	破損	
52	1	ＡＦ６	158	886	Ⅱｂ	71.183	ＣＯ	55.7	48.1	19.8	37.2	頁岩		無	完形	
53		ＡＦ６	171	881	Ⅱｂ	71.200	ＦＬ	22.8	21.6	3.3	1.3	頁岩	3	有	破損	
54		ＡＦ６	226	865	Ⅱａ	71.276	ＦＬ	40.6	23.3	3.4	3.13	頁岩	3	無	破損	
55	92	ＡＦ６	258	855	Ⅱｂ	71.110	ＦＬ	60.8	52.3	12.0	27.6	頁岩	3	無	破損	
56		ＡＦ６	277	921	Ⅱｂ	71.119	ＦＬ	31.8	23.3	5.9	2.06	凝灰	7	無	破損	
57		ＡＦ６	276	937	Ⅱｂ	71.133	ＦＬ	23.9	19.3	4.0	1.17	頁岩	4	無	破損	
58		ＡＦ５	300	855	Ⅱａ	71.194	ＣＨ	16.8	12.2	1.9	0.34	頁岩		無	破損	
59		ＡＦ６	313	838	Ⅱａ	71.171	ＦＬ	56.4	39.8	12.8	27.5	頁岩	7		破損	
60	129	ＡＦ６	326	965	Ⅱａ	71.134	ＦＬ	75.2	55.9	14.9	40.0	頁岩	4	無	完形	

第58表　ブロック１出土石器観察表(2)

遺物No.	図No.	大グリッド	北南	西東	層	標　高	分類	最大長	最大幅	厚さ	重量(g)	石材	母岩	被熱	破損	備　　考
61	70	AF6	332	965	Ⅱa	71.134	FL	75.3	52.2	5.2	17.4	頁岩	2	無	破損	
62		AF6	325	325	Ⅱa	71.715	FL	27.0	19.4	1.6	0.71	頁岩	9	無	破損	
63		AF6	336	942	Ⅱa	71.186	FL	25.9	19.2	2.3	0.9	頁岩	3	無	破損	
64	144	AF6	333	934	Ⅱa	71.134	RF	58.2	40.5	22.4	44.8	珪頁	5	無	完形	
65		AF6	348	963	Ⅱa	71.139	FL	23.4	16.8	1.8	0.64	頁岩	3	無	破損	
66		AF6	352	972	Ⅱa	71.137	FL	18.2	12.6	2.5	0.5	頁岩	4	無	破損	
67		AF6	353	946	Ⅱa	71.152	FL	22.82	22.5	2.0	1	頁岩	1	無	破損	
68		AF6	357	939	Ⅱa	71.191	FL	19.6	10.7	3.4	0.46	流紋	3	無	破損	
69		AF6	342	931	Ⅱa	71.219	FL	21.4	17.5	3.2	0.87	頁岩	4	無	破損	
70		AF6	319	927	Ⅱa	71.205	CH	16.0	9.3	1.2	0.15	頁岩	3	無	破損	
71	149	AF6	332	903	Ⅱa	71.182	FL	37.8	18.5	9.7	6.34	珪頁	5	無	完形	
72		AF6	342	897	Ⅱa	71.124	FL	22.8	17.8	3.2	1.11	頁岩	3	無	破損	
73		AF6	342	887	Ⅱb	71.127	FL	20.0	5.0	2.9	0.28	頁岩	1	無	破損	
74		AF6	307	874	Ⅱb	71.210	FL	21.6	14.9	2.9	0.7	頁岩		無	破損	
75		AF6	445	705	Ⅱb	71.047	FL	32.1	19.4	9.5	4.97	珪頁	5	無	破損	
76		AF6	440	742	Ⅱb	71.064	FL	20.7	16.2	6.1	1.49	頁岩	3	無	破損	
77		AF6	393	740	Ⅱb	71.101	FL	20.1	10.1	1.3	0.27	頁岩		無	破損	
79		AF6	409	756	Ⅱa	71.146	FL	47.1	44.7	10.5	15.0	頁岩	9	無	破損	
80		AF6	402	777	Ⅱb	71.113	FL	23.4	14.2	3.8	0.79	頁岩	3	無	破損	
81		AF6	412	800	Ⅱb	71.092	FL	19.8	14.7	4.8	0.93	凝灰		無	破損	
82		AF6	335	666	Ⅱb	71.127	CH	12.8	11.3	3.0	0.31	頁岩		無	破損	
83		AF6	329	794	Ⅱa	71.185	CH	18.5	13.4	8.9	1.28	頁岩	3	無	完形	
84	1	AF6	345	793	Ⅱb	71.138	RF	36.2	32.0	18.9	8.21	頁岩		無	完形	
85		AF6	356	793	Ⅱb	71.168	FL	18.0	16.4	1.3	0.42	頁岩	9	無	破損	
86		AF6	382	818	Ⅱa	71.190	FL	20.5	20.1	3.3	0.91	珪頁	5	無	破損	
87		AF6	383	824	Ⅱa	71.160	CH	16.4	13.3	3.8	0.46	凝灰	3	無	破損	
88		AF6	383	834	Ⅱa	71.150	FL	25.1	19.5	4.3	1.47	珪頁	5	無	破損	
89		AF6	373	839	Ⅱb	71.131	CH	14.1	8.1	1.7	0.15	玉髄		有	完形	
90		AF6	390	845	Ⅱb	71.065	FL	40.4	21.8	5.9	3.89	頁岩	4	無	破損	
91		AF6	383	857	Ⅱb	71.107	FL	26.8	25.7	4.3	2.38	珪頁	5	無	完形	
92		AF6	393	868	Ⅱb	71.067	BL	66.8	36.6	6.1	13.5	頁岩	3	無	完形	
93		AF6	365	870	Ⅱa	71.201	FL	45.1	24.7	7.6	7.3	頁岩	2	無	破損	
94		AF6	418	851	Ⅱb	71.076	FL	24.7	18.1	5.1	1.41	珪頁		無	破損	
95		AF6	430	855	Ⅱb	71.074	FL	53.3	42.8	12.9	19.5	頁岩	1	無	破損	
96		AF6	428	870	Ⅱb	71.063	FL	34.4	24.7	2.7	1.98	頁岩	1	無	破損	
97		AF6	184	825	Ⅱb	71.099	FL	48.6	31.4	7.6	9.71	頁岩	1	無	破損	
98		AF6	27	426	Ⅱb	71.040	CH	19.0	17.4	4.2	0.94	珪頁	5	無	破損	
99		AF6	62	405	Ⅱb	71.054	CH	15.1	9.2	1.1	0.13	頁岩	3	無	破損	
100	100	AF6	5	292	Ⅱa	71.141	FL	72.6	55.9	9.5	22.7	頁岩	4	無	完形	
102		AF6	145	406	Ⅱb	70.989	FL	66.1	32.2	12.1	19.4	頁岩	1	無	完形	
103	56	AF6	406	920	Ⅱb	71.043	FL	75.8	60.3	9.7	44.9	頁岩	1	無	完形	
104		AF6	457	866	Ⅱb	71.081	FL	40.8	36.0	6.0	8.6	頁岩	3	無	破損	
105		AF6	458	879	Ⅱb	71.077	BL	46.6	25.8	5.0	4.74	頁岩	3	無	完形	
106	141	AF6	479	871	Ⅱb	71.000	FL	62.7	25.8	14.8	17.7	珪頁	5	無	完形	
107	138	AF6	492	871	Ⅱb	71.112	FL	45.6	25.1	5.7	4.79	珪頁	5	無	完形	
108		AF6	504	893	Ⅱb	71.167	FL	27.2	19.5	4.5	2.01	頁岩	4	無	破損	
109		AF6	514	910	Ⅱb	71.130	FL	15.2	9.8	2.3	0.25	珪頁	5	無	破損	
110		AF6	527	800	Ⅱa	71.125	BL	36.0	31.4	6.7	5.89	頁岩	10	無	破損	
111		AF6	539	816	Ⅱa	71.177	FL	41.6	25.5	16.7	14.1	珪頁	3	無	破損	
112		AF6	531	818	Ⅱa	71.181	FL	36.6	30.0	9.2	5.0	頁岩		有	破損	
113	157	AF6	523	850	Ⅱa	71.200	FL	55.2	27.6	5.2	6.3	珪頁	5	無	破損	
114		AF6	518	870	Ⅱa	71.177	FL	33.3	25.6	7.1	4.24	頁岩	9	無	破損	
115		AF6	892	892	Ⅱb	71.158	FL	21.7	11.5	4.6	1.27	頁岩		無	破損	
116		AF6	541	885	Ⅱa	71.197	CH	15.5	12.2	1.5	0.26	頁岩	2	無	破損	
117		AF6	454	875	Ⅱa	71.186	FL	40.3	25.9	3.9	3.57	頁岩	9	無	破損	
118		AF6	471	898	Ⅱb	71.069	FL	34.8	25.1	5.2	3.33	頁岩	1	無	破損	
119		AF6	486	907	Ⅱb	71.080	CH	9.4	9.2	1.0	0.09	頁岩	7	無	破損	
120		AF6	502	917	Ⅱb	71.074	FL	51.0	29.0	4.4	5.4	頁岩		無	破損	
121		AF6	512	933	Ⅱb	71.066	FL	18.1	15.0	3.8	0.96	頁岩	4	無	破損	
122		AF6	517	937	Ⅱb	71.062	CH	15.6	14.9	3.4	0.48	頁岩	7	無	完形	

第59表　ブロック１出土石器観察表(3)

遺物No.	図No.	大グリッド	北南	西東	層	標　高	分類	最大長	最大幅	厚さ	重量(g)	石材	母岩	被熱	破損	備　考
124	82	ＡＦ６	542	953	Ⅱａ	71.164	ＦＬ	50.2	35.0	8.6	13.0	頁岩	3	無	破損	
125		ＡＦ６	463	957	Ⅱｂ	71.072	ＣＨ	15.5	11.8	2.6	0.37	珪頁	5	無	破損	
126		ＡＦ６	478	975	Ⅱｂ	71.075	ＣＨ	17.0	12.4	1.4	0.35	頁岩	3	無	破損	
127	86	ＡＦ６	501	988	Ⅱｂ	71.085	ＦＬ	59.2	40.1	8.0	16.3	頁岩	3	無	完形	
128		ＡＦ６	527	930	Ⅱａ	71.197	ＦＬ	26.5	24.1	6.8	3.48	頁岩		無	破損	
129		ＡＦ６	547	919	Ⅱａ	71.194	ＦＬ	32.2	22.6	3.9	2.27	頁岩	1	無	破損	
130		ＡＦ６	550	924	Ⅱｂ	71.163	ＣＨ	11.1	9.1	0.05	0.06	珪頁	1	無	完形	
131		ＡＦ６	560	960	Ⅱａ	71.211	ＣＨ	14.6	18.6	1.6	0.13	頁岩	1	無	破損	
133		ＡＦ６	580	932	Ⅱａ	71.157	ＦＬ	37.8	20.6	6.9	4.65	頁岩	3	無	完形	
134		ＡＦ６	600	943	Ⅱａ	71.166	ＦＬ	39.6	23.2	4.9	4.82	頁岩	3	無	破損	
135		ＡＦ６	606	930	Ⅱａ	71.204	ＦＬ	34.2	21.2	4.9	2.81	頁岩	3	無	破損	
136		ＡＦ６	598	880	Ⅱｂ	71.104	ＦＬ	40.6	32.4	3.7	4.78	頁岩	4	無	破損	
137		ＡＦ６	626	915	Ⅱａ	71.145	ＰＢ	33.7	17.6	2.6	1.47	粘板		無	破損	
138		ＡＦ６	621	910	Ⅱａ	71.141	ＦＬ	25.8	15.8	3.3	1.22	頁岩	2	無	破損	
139		ＡＦ６	544	746	Ⅱａ	71.143	ＦＬ	52.2	44.6	8.3	11.4	頁岩	4	無	破損	
140		ＡＦ６	566	776	Ⅱａ	71.145	ＦＬ	35.5	26.1	7.1	4.76	頁岩		無	破損	
141		ＡＦ６	576	773	Ⅱａ	71.150	ＣＨ	16.9	10.8	3.7	0.59	頁岩	3	無	破損	
142		ＡＦ６	581	763	Ⅱａ	71.143	ＦＬ	26.7	16.3	2.0	0.69	珪頁		無	破損	
143		ＡＦ６	618	788	Ⅱｂ	71.124	ＣＨ	17.0	10.0	1.7	0.29	頁岩		無	完形	
144		ＡＦ６	623	764	Ⅱａ	71.151	ＦＬ	5.3	40.8	8.4	14.5	凝灰		無	破損	
145		ＡＦ６	655	769	Ⅱａ	71.136	ＦＬ	39.2	33.6	8.2	7.51	頁岩	3	無	完形	
146		ＡＦ６	695	769	Ⅱｂ	71.100	ＦＬ	25.2	14.5	1.7	0.65	頁岩		無	完形	
147		ＡＦ６	706	898	Ⅱａ	71.112	ＦＬ	99.3	48.8	21.5	74.8	頁岩		無	完形	
148		ＡＦ６	810	766	Ⅱｂ	71.088	ＦＬ	24.8	15.4	8.0	2.07	砂岩		有	破損	
149		ＡＦ７	130	0	Ⅱａ	71.288	ＦＬ	3.5	18.6	4.5	1.58	頁岩	3	無	破損	
150		ＡＦ７	185	25	Ⅱａ	71.200	ＦＬ	22.6	18.1	2.4	0.73	頁岩	2	無	破損	
151		ＡＦ７	221	135	Ⅱａ	71.178	ＦＬ	34.6	23.4	8.5	5.06	頁岩	4	無	完形	
152		ＡＦ７	226	180	Ⅱｂ	71.123	ＢＬ	40.7	13.3	3.8	1.78	頁岩	4	無	完形	
153		ＡＦ７	263	137	Ⅱｂ	71.152	ＦＬ	28.0	26.1	4.7	21.3	頁岩	3	無	破損	
154		ＡＦ７	270	125	Ⅱａ	71.195	ＦＬ	20.9	15.3	2.7	0.6	頁岩	4	無	破損	
155		ＡＦ７	278	38	Ⅱｂ	71.116	ＦＬ	25.1	18.2	3.5	1.07	頁岩	3	無	破損	
156		ＡＦ７	283	82	Ⅱａ	71.234	ＣＨ	16.5	7.3	3.0	0.33	頁岩	2	無	完形	
157		ＡＦ７	278	95	Ⅱａ	71.248	ＦＬ	32.1	19.4	10.9	3.23	頁岩	3	無	破損	
158	95	ＡＦ７	300	66	Ⅱｂ	71.130	ＦＬ	67.9	46.8	7.4	20.1	頁岩	3	無	破損	
159		ＡＦ７	303	171	Ⅱａ	71.238	ＦＬ	46.8	40.8	10.6	13.4	頁岩	1	無	完形	
161		ＡＦ７	329	56	Ⅱａ	71.260	ＣＨ	17.7	10.1	2.0	0.32	頁岩	3	無	破損	
162		ＡＦ７	346	124	Ⅱａ	71.224	ＦＬ	20.6	8.6	3.1	0.47	頁岩	3	無	破損	
163		ＡＦ７	344	179	Ⅱｂ	71.135	ＣＨ	17.8	14.1	3.3	0.58	頁岩	3	無	完形	
164		ＡＦ７	354	54	Ⅱａ	71.212	ＦＬ	31.2	13.7	6.1	1.65	頁岩	3	無	破損	
165		ＡＦ７	354	65	Ⅱａ	71.213	ＦＬ	47.0	32.9	9.1	10.6	頁岩	1	無	破損	
166		ＡＦ７	357	77	Ⅱｂ	71.156	ＦＬ	58.3	45.5	9.4	18.0	頁岩	2	無	完形	
167		ＡＦ７	362	90	Ⅱａ	71.211	ＦＬ	23.2	15.7	3.7	0.99	頁岩	5	有	破損	
168		ＡＦ７	380	93	Ⅱａ	71.212	ＦＬ	33.9	27.5	4.1	3.81	頁岩	1	無	破損	
169	8	ＡＦ７	387	78	Ⅱａ	71.176	ＲＦ	43.8	19.6	5.5	4.24	頁岩		有	破損	
170		ＡＲ７	383	190	Ⅱｂ	71.147	ＦＬ	32.3	26.0	5.7	4.47	頁岩	3	無	破損	
171		ＡＲ７	373	210	Ⅱｂ	71.179	ＦＬ	59.6	42.0	22.0	34.2	凝灰		無	完形	
172		ＡＲ７	422	80	Ⅱｂ	71.039	ＦＬ	75.3	47.0	5.2	17.1	頁岩	1	無	完形	
173		ＡＲ７	444	223	Ⅱｂ	71.115	ＦＬ	70.8	43.8	14.4	33.9	頁岩	10	無	破損	
174		ＡＲ７	457	29	Ⅱａ	71.211	ＣＨ	12.9	9.7	2.4	0.22	頁岩	3	無	破損	
175		ＡＲ７	461	38	Ⅱａ	71.205	ＦＬ	39.2	24.8	4.7	2.7	頁岩	3	無	破損	
176		ＡＲ７	367	64	Ⅱａ	71.160	ＦＬ	35.6	28.0	4.9	3.91	頁岩		無	完形	
177	53	ＡＲ７	464	98	Ⅱａ	71.129	ＢＬ	64.3	37.4	7.9	13.6	頁岩	1	無	完形	
178		ＡＲ７	475	243	Ⅱａ	71.193	ＦＬ	30.1	20.6	2.4	1.51	頁岩	1	無	破損	
179		ＡＲ７	475	34	Ⅱａ	71.184	ＣＨ	16.3	13.8	2.6	0.5	頁岩	3	無	破損	
180		ＡＲ７	474	60	Ⅱａ	71.195	ＣＨ	14.7	8.1	1.3	0.16	頁岩	3	無	破損	
181		ＡＲ７	478	82	Ⅱａ	71.190	ＦＬ	52.5	41.0	13.4	29.8	頁岩	1	無	完形	
182		ＡＲ７	518	53	Ⅱａ	71.189	ＦＬ	44.1	24.2	3.9	3.5	頁岩		無	破損	
183		ＡＲ７	577	48	Ⅱａ	71.175	ＦＬ	38.3	18.6	6.3	5.8	珪頁	5	無	破損	
184	54	ＡＲ６	295	898	Ⅱａ	71.069	ＦＬ	69.9	44.7	5.6	15.1	頁岩	1	無	完形	

第60表　ブロック１出土石器観察表(4)

遺物No.	図No.	大グリッド	北南	西東	層	標　高	分類	最大長	最大幅	厚さ	重量(g)	石材	母岩	被熱	破損	備　　考
185		AF6	318	965	Ⅱb	71.155	FL	34.3	30.2	5.6	4.16	頁岩	1	無	完形	
187		AF6	362	957	Ⅱb	71.110	FL	44.9	35.9	3.0	2.95	頁岩	1	無	完形	
188		AF6	376	950	Ⅱb	71.082	FL	44.9	29.2	4.5	6.1	頁岩	1	無	破損	
189	171	AF6	379	806	Ⅱb	71.076	FL	44.9	29.8	7.3	6.8	頁岩	5	無	完形	
190		AF6	480	897	Ⅱb	71.044	BL	48.3	27.3	8.2	7.3	頁岩	1	無	完形	
191	137	AF6	503	828	Ⅱb	71.085	FL	30.5	28.8	8.0	4.92	珪頁	5	無	破損	
192	108	AF6	465	828	Ⅱb	71.058	FL	71.0	49.8	19.5	45.9	頁岩	4	無	完形	
193		AF6	552	826	Ⅱb	71.036	FL	43.8	39.7	8.5	12.6	凝灰		無	破損	
194		AF6	568	798	Ⅱb	66.820	FL	28.9	23.3	7.6	3.41	凝灰		無	完形	
195		AF6	564	792	Ⅱb	71.039	BL	32.3	17.2	7.7	3.7	頁岩	7	無	完形	
196		AF6	586	779	Ⅱb	71.098	FL	34.8	28.7	4.4	2.26	頁岩	4	無	完形	
197		AF6	644	773	Ⅱb	71.054	FL	32.7	28.5	7.0	4.13	頁岩	4	無	完形	
198		AF6	611	680	Ⅱb	71.059	CH	15.0	7.7	1.2	0.16	頁岩	2	無	破損	
199		AF6	862	975	Ⅱa	71.103	FL	34.1	21.0	7.6	3.92	頁岩	3	無	完形	
200		AF6	875	920	Ⅱa	71.199	FL	30.9	28.4	10.6	8.54	頁岩		無	破損	
201		AF7	827	145	Ⅱb	71.088	FL	50.1	43.2	10.0	13.3	頁岩	1	無	破損	
202		AF7	856	101	Ⅱa	71.202	FL	33.3	25.8	3.9	2.8	頁岩		無	破損	
203		AF7	673	208	Ⅱb	71.145	CH	13.1	7.8	0.8	0.11	頁岩	3	無	破損	
204		AF7	685	116	Ⅱa	71.180	BL	24.0	19.0	3.9	1.31	頁岩	3	無	破損	
205		AF7	582	64	Ⅱb	71.088	CH	19.7	19.1	3.3	0.89	頁岩	3	無	完形	
206		AF7	526	37	Ⅱb	71.109	FL	49.3	26.6	6.7	4.17	頁岩	3	無	破損	
207		AF7	474	100	Ⅱb	71.053	FL	46.8	21.7	13.1	12.1	頁岩	1	無	完形	
208		AF7	466	46	Ⅱb	71.080	FL	54.1	33.3	3.8	7.93	頁岩	3	無	破損	
209	160	AF7	344	181	Ⅱb	71.135	FL	38.2	27.2	12.4	8.7	珪頁	3	無	完形	
210		AF7	343	97	Ⅱb	71.104	FL	28.6	20.1	3.0	1.02	頁岩	1	無	完形	
211		AF7	198	36	Ⅱb	71.137	FL	20.8	13.7	3.7	0.5	頁岩	7	無	破損	
212		AF7	207	122	Ⅱb	71.166	FL	28.5	18.8	3.0	1.27	頁岩	2	無	破損	
213		AE6	924	347	Ⅱb	71.015	FL	43.7	31.5	13.7	13.5	チャ		無	破損	
215		AE6	969	376	Ⅱb	71.039	FL	68.4	36.5	2.9	10.1	頁岩	1	無	破損	
216		AE6	992	374	Ⅱb	71.020	FL	40.8	37.4	3.6	4.88	頁岩	1	無	破損	
217		AE6	990	592	Ⅱb	71.018	FL	22.3	16.7	21.0	0.79	頁岩	1	無	破損	
218		AE6	38	423	Ⅱb	70.993	CH	12.6	11.6	2.0	0.26	頁岩	5	無	破損	
219	51	AF6	43	443	Ⅱb	71.000	BL	64.7	35.9	5.7	11.3	頁岩	1	無	完形	
220		AF6	97	493	Ⅱb	71.025	FL	35.0	26.6	3.2	3.07	頁岩	1	無	破損	
221		AF6	375	464	Ⅱb	70.996	BL	53.6	20.3	7.7	6.56	頁岩	4	無	破損	
222		AF6	372	636	Ⅱb	71.000	FL	60.5	33.9	6.4	10.5	砂岩		無	破損	
223		AF6	327	753	Ⅱb	71.049	KN	44.0	27.8	6.1	7.2	頁岩		無	破損	
224		AF6	330	865	Ⅱb	71.070	FL	29.4	22.7	6.2	3.51	頁岩	4	無	破損	
225		AF6	328	890	Ⅱb	71.069	FL	31.8	16.7	6.9	2.03	頁岩	1	無	完形	
226		AF6	313	954	Ⅱb	71.058	CH	17.5	13.0	4.4	0.3	頁岩		無	破損	
227		AF6	329	953	Ⅱb	71.063	CH	18.8	12.0	1.3	0.35	頁岩	3	無	破損	
228		AF6	349	934	Ⅱb	71.086	CH	10.3	4.9	1.6	0.06	玉髄		無	破損	
229		AF6	371	946	Ⅱb	71.063	FL	37.6	21.9	4.6	2.79	頁岩	1	無	破損	
230		AF6	452	850	Ⅱb	71.026	CH	9.2	8.0	0.9	0.08	頁岩	3	無	破損	
231	114	AF6	481	910	Ⅱb	71.035	FL	44.5	34.4	8.7	9.93	頁岩	4	無	完形	
232		AF6	468	778	Ⅱb	70.968	FL	52.2	42.1	10.9	15.5	頁岩	9	無	完形	
233		AF6	943	775	Ⅱa	71.105	FL	36.9	29.7	5.4	5.67	珪頁	5	無	破損	
235		AF6	928	902	Ⅱa	71.165	FL	23.2	19.8	3.1	1.12	頁岩	1	無	破損	
236		AF6	15	490	Ⅱa	71.093	FL	53.9	32.6	16.6	22.2	流紋		無	完形	
237		AF6	22	435		71.204	CH	17.1	14.6	7.0	1.05	頁岩		無	完形	
238		AF6	345	877	Ⅱa	71.195	FL	22.4	15.5	3.3	0.83	頁岩	2	無	破損	
239		AF6	360	868	Ⅱa	71.162	CH	15.1	10.9	2.8	0.31	頁岩	5	無	完形	
240		AF6	367	873	Ⅱa	71.140	FL	25.1	9.1	2.5	0.62	頁岩	1	無	破損	
242		AF6	375	932	Ⅱa	71.191	FL	24.5	18.3	3.2	1.2	珪頁	5	有	破損	
243		AF6	520	856	Ⅱa	71.188	CH	13.5	5.9	2.9	0.17	頁岩	3	無	破損	
244		AF6	557	962	Ⅱa	71.181	FL	31.0	21.0	4.9	1.99	頁岩	7	無	破損	
245		AF6	607	650	Ⅱa	71.165	BL	19.0	10.5	1.5	0.26	頁岩	2	無	破損	
246		AF6	615	650	Ⅱa	71.116	FL	24.5	16.7	4.5	1.6	頁岩	4	無	破損	

第61表　ブロック１出土石器観察表(5)

遺物No.	図No.	大グリッド	北南	西東	層	標　高	分類	最大長	最大幅	厚さ	重量(g)	石材	母岩	被熱	破損	備　　考
247		ＡＦ６	597	684	Ⅱａ	71.113	ＦＬ	31.0	26.1	6.3	4.43	珪頁	5	無	完形	
248	136	ＡＦ６	621	755	Ⅱａ	71.076	ＦＬ	22.7	12.2	5.7	1.28	珪頁	5	無	破損	
249		ＡＦ６	539	821	Ⅱａ	71.128	ＦＬ	38.7	31.7	12.1	6.71	頁岩	1	無	破損	
250		ＡＦ７	339	126	Ⅱａ	71.196	ＦＬ	19.8	14.5	2.7	0.62	頁岩	2	無	破損	
251		ＡＦ６	318	939	Ⅱａ	71.130	ＦＬ	26.9	19.5	4.2	1.88	頁岩	7	無	破損	
252		ＡＦ６	328	935	Ⅱａ	71.128	ＢＬ	21.8	10.6	4.4	0.69	頁岩	1	無	完形	
253		ＡＦ６	377	836	Ⅱｂ	71.080	ＦＬ	36.4	26.1	3.8	3.53	頁岩	9	無	破損	
254		ＡＦ６	380	823	Ⅱｂ	71.093	ＣＨ	12.8	11.8	4.5	0.46	頁岩	2	無	完形	
255		ＡＦ６	451	877	Ⅱｂ	71.086	ＦＬ	41.4	30.0	5.0	5.89	頁岩	9	無	破損	
256		ＡＦ６	548	558	Ⅱｂ	70.994	ＣＯ	39.5	25.4	11.7	7.29	珪頁	5	無	完形	
257		ＡＦ６	553	930	Ⅱｂ	71.035	ＦＬ	16.5	15.8	2.4	0.52	頁岩	4	無	破損	
258		ＡＦ６	569	968	Ⅱｂ	71.111	ＦＬ	23.0	20.2	4.5	1.78	頁岩		無	完形	
259		ＡＦ６	620	879	Ⅱｂ	71.094	ＣＨ	10.1	9.3	0.6	0.07	頁岩	3	無	破損	
260		ＡＦ７	331	59	Ⅱｂ	71.167	ＦＬ	36.6	22.9	2.9	1.91	頁岩	3	無	破損	
261		ＡＦ７	478	74	Ⅱｂ	71.126	ＢＬ	35.0	30.1	8.0	6.85	頁岩	3	無	破損	
262		ＡＦ７	454	66	Ⅱｂ	71.123	ＢＬ	35.6	22.0	3.5	1.68	頁岩	3	無	破損	
263		ＡＦ７	517	46	Ⅱｂ	71.163	ＦＬ	19.7	18.8	2.8	0.61	頁岩	3	無	破損	
264		ＡＦ７	98	176	Ⅱｂ	71.117	ＦＬ	34.5	25.9	5.1	3.35	頁岩	2	無	破損	
265		ＡＦ６	400	773	Ⅲ	70.977	ＦＬ	24.2	14.7	2.0	0.5	珪頁	5	無	完形	
266		ＡＦ６	563	757	Ⅲ	70.937	ＦＬ	21.0	19.9	3.1	1.0	珪頁	5	無	破損	
267		ＡＦ６	534	825	Ⅱｂ	71.041	ＦＬ	29.2	20.7	2.1	1.15	頁岩	4	無	完形	
268		ＡＦ６	520	858	Ⅱｂ	71.137	ＦＬ	26.1	17.1	6.3	1.91	頁岩	4	無	完形	
269		ＡＦ６	467	785	Ⅲ	70.953	ＦＬ	59.1	56.3	10.8	27.4	頁岩	9	無	完形	
270		ＡＦ６	494	864	Ⅲ	71.015	ＦＬ	18.8	13.4	7.4	0.95	頁岩	3	無	破損	
271		ＡＦ６	476	823	Ⅲ	70.961	ＦＬ	60.0	42.2	8.4	13.7	頁岩	4	無	破損	
272		ＡＦ６	468	834	Ⅲ	70.966	ＦＬ	28.6	22.9	6.1	3.05	頁岩	4	無	破損	
273		ＡＦ６	459	870	Ⅱｂ	71.053	ＦＬ	61.8	37.4	7.1	11.3	頁岩	9	無	破損	
274	81	ＡＦ６	553	960	Ⅱｂ	71.115	ＦＬ	67.5	51.4	7.8	25.7	頁岩	3	無	破損	
275		ＡＦ６	512	961	Ⅲ	70.958	ＦＬ	23.8	17.1	2.8	0.99	頁岩	1	無	破損	
276	177	ＡＦ６	486	958	Ⅱｂ	71.042	ＦＬ	32.1	18.0	5.7	2.5	頁岩	8	無	完形	
277		ＡＦ６	444	954	Ⅲ	70.953	ＦＬ	34.3	20.0	6.8	2.48	頁岩	4	無	破損	
278		ＡＦ６	414	967	Ⅲ	70.970	ＦＬ	2.79	24.3	2.8	1.37	頁岩	2	無	破損	
279		ＡＦ６	415	912	Ⅲ	70.955	ＣＨ	15.3	7.9	5.5	0.45	珪頁	5	無	破損	
280		ＡＦ６	400	893	Ⅲ	70.955	ＦＬ	23.4	17.7	2.8	0.93	頁岩	4	無	破損	
281		ＡＦ６	376	932	Ⅱａ	71.189	ＣＨ	15.2	13.4	2.8	0.53	鉄石		無	破損	
282	139	ＡＦ６	388	943	Ⅲ	70.955	ＦＬ	67.6	41.4	30.3	39.6	珪頁	5	無	完形	
283	113	ＡＦ６	386	930	Ⅲ	70.997	ＦＬ	67.7	51.9	12.3	29.3	頁岩	4	無	完形	
284		ＡＦ６	392	907	Ⅲ	71.005	ＦＬ	42.6	37.0	4.8	6.29	頁岩	4	無	破損	
285		ＡＦ６	392	890	Ⅲ	70.972	ＣＨ	18.4	8.4	3.1	0.52	頁岩	4	無	破損	
286		ＡＦ６	392	865	Ⅲ	70.999	ＦＬ	70.8	44.8	5.7	14.9	頁岩	9	無	破損	
287		ＡＦ６	387	856	Ⅲ	70.972	ＦＬ	29.6	23.3	4.7	2.22	頁岩	4	無	破損	
288	154	ＡＦ６	389	851	Ⅲ	70.968	ＦＬ	67.3	41.2	20.7	45.6	珪頁	5	無	完形	
289		ＡＦ６	394	830	Ⅲ	70.994	ＦＬ	49.0	36.8	7.9	12.2	頁岩	9	無	完形	
290		ＡＦ６	385	814	Ⅲ	71.017	ＢＬ	30.9	13.5	2.6	1.01	珪頁	5	無	破損	
291		ＡＦ６	375	830	Ⅱｂ	71.075	ＦＬ	26.7	18.2	5.2	1.69	頁岩	3	無	完形	
292		ＡＦ６	372	720	Ⅲ	70.953	ＦＬ	22.1	8.7	3.6	0.63	頁岩	4	無	破損	
293		ＡＦ６	345	708	Ⅲ	70.989	ＦＬ	35.0	24.8	4.6	2.54	珪頁	5	無	完形	
294		ＡＦ６	332	753	Ⅲ	71.002	ＦＬ	29.8	15.6	7.5	2.75	珪頁	5	無	破損	
295		ＡＦ６	361	776	Ⅲ	70.994	ＦＬ	61.9	33.7	10.1	15.7	頁岩	4	無	完形	
296		ＡＦ６	356	795	Ⅲ	71.009	ＦＬ	26.5	18.8	1.0	0.61	頁岩	1	無	破損	
297		ＡＦ６	282	744	Ⅲ	71.027	ＣＨ	12.8	7.4	1.2	0.11	頁岩	4	無	破損	
298		ＡＦ６	272	732	Ⅲ	71.027	ＣＨ	18.1	9.3	3.6	0.26	頁岩	4	無	破損	
299		ＡＦ６	222	768	Ⅲ	71.004	ＦＬ	39.5	25.3	8.5	6.75	頁岩	3	無	破損	
300		ＡＦ６	322	819	Ⅱｂ	71.040	ＣＨ	13.6	7.6	3.0	0.26	珪頁	5	無	完形	
301		ＡＦ６	262	812	Ⅲ	70.993	ＦＬ	25.1	21.6	5.7	1.94	頁岩	4	有	破損	
302		ＡＦ６	187	744	Ⅲ	70.999	ＣＨ	15.3	12.6	2.8	0.41	頁岩	4	無	破損	
303	155	ＡＦ６	228	843	Ⅲ	70.975	ＦＬ	39.7	26.7	14.7	14.6	珪頁	5	無	破損	
304		ＡＦ６	260	873	Ⅲ	70.972	ＦＬ	25.1	23.7	7.3	2.32	頁岩	1	無	完形	
305		ＡＦ６	292	829	Ⅲ	70.970	ＣＨ	15.9	7.4	0.8	0.1	珪頁	5	無	破損	
306		ＡＦ６	295	893	Ⅱｂ	71.019	ＣＨ	15.8	13.6	2.6	0.37	頁岩		無	破損	
307		ＡＦ６	356	861	Ⅲ	71.053	ＦＬ	34.2	26.0	5.5	4.47	珪頁	5	無	破損	
308		ＡＦ６	338	881	Ⅲ	70.981	ＦＬ	22.4	22.2	7.1	2.77	珪頁	5	無	破損	

第62表　ブロック１出土石器観察表(6)

遺物No.	図No.	大グリッド	北南	西東	層	標　高	分類	最大長	最大幅	厚さ	重量(g)	石材	母岩	被熱	破損	備　　考
309		AF6	322	883	Ⅲ	71.026	FL	31.1	13.8	3.7	1.31	頁岩	4	無	完形	
310		AF6	315	883	Ⅱb	71.052	CH	9.9	9.3	1.2	0.09	珪頁	3	無	破損	
311		AF6	312	908	Ⅱb	71.029	FL	35.1	19.4	4.2	2.94	珪頁	5	無	破損	
312	4	AF6	352	927	Ⅱa	71.170	PO	30.7	18.4	7.7	4.50	黒曜	単	無	破損	
313		AF6	308	955	Ⅲ	71.024	FL	29.8	20.3	3.8	1.45	頁岩	1	無	破損	
314		AF6	338	921	Ⅲ	71.031	FL	28.7	16.3	5.3	1.82	凝灰	4	無	破損	
315		AF6	1	400	Ⅲ	70.933	FL	56.7	32.8	6.6	10.9	頁岩	1	無	完形	
316		AF6	101	455	Ⅲ	70.983	CH	18.9	10.8	1.9	0.36	頁岩	1	無	破損	
317		AF6	40	540	Ⅲ	70.985	BL	31.2	22.7	5.9	3.06	頁岩	7	無	破損	
318		AF6	14	815	Ⅱb	71.014	FL	20.3	18.0	3.0	1.09	頁岩	4	無	破損	
319		AF6	560	20	Ⅲ	70.881	FL	22.7	12.3	3.6	0.88	頁岩	1	有	破損	
320		AF7	394	27	Ⅲ	71.030	FL	20.7	19.0	5.4	1.65	頁岩	5	無	破損	
321		AF7	394	38	Ⅲ	71.007	FL	21.3	12.7	3.5	0.82	頁岩	1	無	完形	
322		AF7	395	35	Ⅱb	71.023	CH	15.3	12.4	1.9	0.23	頁岩		無	完形	
323		AF7	205	150	Ⅲ	71.079	FL	17.2	13.4	1.5	0.28	頁岩	2	無	破損	
324		AF7	455	48	Ⅱb	70.995	BL	64.2	27.6	5.2	9.05	頁岩	8	無	完形	
325	7	AF7	846	902	Ⅲ	70.972	BU	107.3	35.6	7.7	34.8	珪頁	単	無	完形	
326		AF7	664	978	Ⅲ	70.975	CH	19.9	15.0	1.6	0.36	頁岩	4	無	破損	
327		AF7	605	905	Ⅲ	71.000	FL	26.1	18.2	2.7	1.1	頁岩	3	無	破損	
328		AF7	447	887	Ⅲ	71.000	FL	22.1	17.4	5.7	1.23	頁岩	5	無	破損	
329		AF7	194	83	Ⅲ	71.047	CH	17.1	9.5	3.3	0.44	頁岩	3	無	完形	
330		AF7	220	87	Ⅲ	71.044	FL	26.0	14.3	3.1	1.08	頁岩	3	無	破損	
331		AF7	267	77	Ⅲ	71.025	FL	28.7	12.0	4.7	1.28	頁岩	2	無	破損	
332		AF7	358	138	Ⅱb	71.078	FL	38.6	25.2	3.8	3.35	頁岩	3	無	完形	
333		AF6	356	925	Ⅲ	71.045	CH	13.5	13.0	1.2	0.25	珪頁	5	無	破損	
334		AF7	329	114	Ⅲ	71.026	CH	18.2	15.2	1.7	0.42	頁岩	4	無	破損	
335		AF7	347	95	Ⅱb	71.066	FL	59.8	36.9	7.3	11.2	頁岩	1	無	完形	
336		AF7	327	62	Ⅲ	71.040	FL	20.9	17.4	5.8	1.48	頁岩	5	無	破損	
337		AF7	340	69	Ⅲ	71.033	FL	22.7	17.6	2.0	0.55	頁岩	2	無	破損	
338		AF7	391	133	Ⅲ	70.995	CH	19.6	12.2	2.2	0.52	頁岩	3	無	破損	
339		AF7	388	74	Ⅲ	71.027	BL	15.7	9.1	2.5	0.35	珪頁	5	無	破損	
340		AF7	473	186	Ⅲ	71.037	FL	28.2	11.8	4.7	0.84	頁岩	3	無	完形	
341		AF7	436	83	Ⅲ	71.010	FL	27.3	23.1	2.2	0.94	頁岩	3	無	破損	
342		AF6	328	875	Ⅲ	70.977	BL	20.7	9.4	2.1	0.35	頁岩	3	無	破損	
343		AF6	326	880	Ⅲ	70.973	FL	24.9	23.4	3.2	1.1	凝灰	4	無	破損	
344		AF6	522	867	Ⅲ	71.005	FL	28.4	15.1	3.1	1.09	珪頁		無	破損	
345		AF6	513	850	Ⅲ	70.947	FL	23.6	19.4	2.4	0.97	頁岩	4	無	破損	
346		AF7	305	44	Ⅲ	70.989	FL	22.0	9.5	4.0	0.71	頁岩	3	無	破損	
347		AF6	314	798	Ⅲ	70.883	CH	18.6	13.2	1.8	0.49	頁岩	9	無	破損	
348	117	AF6	331	826	Ⅲ	70.870	FL	35.5	28.7	5.4	3.37	頁岩	4	無	破損	
349		AF6	322	844	Ⅲ	70.870	FL	26.9	21.1	3.7	2.21	珪頁	5	無	完形	
350		AF6	366	829	Ⅲ	70.969	CH	18.7	13.9	3.6	0.62	頁岩		無	破損	
351		AF6	362	838	Ⅲ	70.974	FL	26.5	25.3	2.1	1.08	頁岩	1	無	完形	
352		AF6	382	828	Ⅲ	70.871	CH	19.6	11.1	4.0	0.64	頁岩	2	無	破損	
353		AF6	346	862	Ⅲ	70.921	CH	18.1	13.5	1.4	0.3	珪頁	5	無	破損	
354		AF6	356	900	Ⅲ	70.914	BL	26.4	11.6	1.8	0.48	頁岩	3	無	破損	
355	145	AF6	386	885	Ⅲ	70.886	FL	20.0	12.7	4.7	0.87	頁岩	3	無	破損	
356		AF6	561	742	Ⅲ	70.897	CH	15.2	11.0	1.0	0.22	珪頁	5	無	破損	
357		AF6	522	772	Ⅲ	70.853	FL	23.3	16.4	3.8	1.32	頁岩	4	無	破損	
358		AF6	499	759	Ⅲ	70.863	FL	22.1	20.0	1.9	0.57	頁岩		無	破損	
359		AF6	569	849	Ⅲ	70.856	FL	21.9	20.2	1.5	0.77	頁岩	4	無	破損	
360		AF6	529	840	Ⅲ	70.900	CH	18.1	16.0	1.8	0.43	頁岩	3	無	破損	
361		AF6	495	830	Ⅲ	70.870	CH	16.3	11.6	1.3	0.25	頁岩	1	無	破損	
362		AF6	540	937	Ⅲ	70.848	CH	19.0	13.9	2.5	0.64	頁岩	5	無	破損	
363		AF6	502	951	Ⅲ	70.873	FL	32.4	20.2	3.0	2.26	珪頁	5	無	破損	
364		AF6	480	974	Ⅲ	70.996	FL	21.9	10.4	2.7	0.51	頁岩	3	無	完形	
365		AF6	458	951	Ⅲ	70.941	SH	18.9	18.1	1.9	0.47	頁岩	1	無	破損	
366		AF6	484	985	Ⅲ	70.900	FL	26.7	21.2	4.9	2.2	頁岩	3	無	破損	
367		AF6	480	972	Ⅲ	70.914	CH	14.0	11.4	4.0	0.51	頁岩	3	無	破損	
368		AF6	458	925	Ⅲ	70.936	FL	20.6	12.0	3.0	0.6	珪頁	5	無	完形	
369		AF6	446	862	Ⅲ	70.914	BL	38.7	21.8	4.0	2.06	頁岩	9	無	破損	
370		AF6	388	951	Ⅲ	70.897	FL	23.5	21.7	3.4	0.96	流紋	7	無	完形	

第63表　ブロック１出土石器観察表(7)

遺物No.	図No.	大グリッド	北南	西東	層	標　高	分類	最大長	最大幅	厚さ	重量(g)	石材	母岩	被熱	破損	備　考
371		AF6	385	922	Ⅲ	70.951	FL	29.2	14.7	7.0	2.3	頁岩	1	無	破損	
372		AF6	250	934	Ⅲ	70.860	FL	21.6	12.0	3.3	0.66	頁岩	3	無	破損	
373		AF6	291	919	Ⅲ	70.938	FL	23.8	20.1	4.4	2.08	珪頁	5	無	破損	
374		AF6	272	965	Ⅲ	70.935	FL	28.8	14.6	2.8	1.2	頁岩	3	無	破損	
375		AF6	301	967	Ⅲ	70.893	BL	22.1	17.5	4.5	1.28	頁岩	3	無	破損	
376		AF6	295	979	Ⅲ	70.899	FL	27.3	21.2	3.4	1.67	頁岩	3	無	破損	
377		AF6	319	943	Ⅲ	70.924	FL	24.0	18.3	7.9	2.13	頁岩		無	破損	
378		AF6	332	945	Ⅲ	70.933	FL	21.5	13.2	4.6	0.85	頁岩	7	無	破損	
379		AF6	415	928	Ⅲ	70.922	CH	16.7	13.2	1.9	0.39	頁岩	4	無	破損	
380		AF6	493	559	Ⅲ	70.844	FL	25.8	18.8	7.0	1.52	珪頁	5	無	完形	
381		AF6	345	990	Ⅱa	71.152	RF	24.5	21.5	8.8	2.61	頁岩		無	完形	
382		AF6	333	998	Ⅱa	71.169	FL	41.7	38.0	3.9	7.2	頁岩	1	無	破損	
383		AF6	219	997	Ⅱa	71.227	FL	20.2	18.0	3.6	1.07	頁岩	3	無	破損	
384		AF6	455	993	Ⅱa	71.141	FL	21.2	16.3	4.8	1.3	頁岩	7	無	完形	
385		AF6	447	999	Ⅱa	71.165	CH	15.8	12.6	1.2	0.18	頁岩	2	無	破損	
386		AF7	474	25	Ⅱa	71.211	FL	28.3	21.0	8.2	3.47	珪頁	5	無	破損	
387		AF7	468	20	Ⅱa	71.158	FL	23.4	18.1	4.7	1.6	頁岩	1	無	破損	
388		AF7	440	13	Ⅱa	71.142	FL	31.0	14.3	5.5	1.69	頁岩	3	無	破損	
389	115	AF7	459	25	Ⅱb	71.102	FL	52.8	28.4	9.7	12.2	頁岩	4	無	破損	
390		AF7	451	26	Ⅱb	71.077	CH	16.4	10.6	4.4	0.69	頁岩	3	無	破損	
391		AF7	441	21	Ⅱb	71.019	FL	31.6	17.8	5.2	2.39	頁岩	1	無	破損	
392		AF7	433	43	Ⅱb	70.950	FL	26.8	12.0	2.1	0.68	頁岩	5	無	破損	
393		AF7	412	7	Ⅱb	71.054	FL	38.7	25.2	6.4	5.52	頁岩	5	無	破損	
394		AF7	382	915	Ⅲ	70.857	CH	17.6	15.7	1.8	0.49	頁岩	4	無	破損	
395		AF6	419	913	Ⅲ	70.879	FL	33.0	24.9	3.8	2.22	頁岩	4	無	破損	
396		AF7	374	1	Ⅱa	71.200	FL	25.1	21.6	4.3	1.66	頁岩	4	無	破損	
397		AF7	383	2	Ⅱa	71.170	FL	41.0	22.2	9.9	8.42	頁岩		無	破損	
398		AF7	368	15	Ⅱb	71.128	CH	18.1	14.6	1.8	0.45	頁岩	3	無	破損	
399		AF7	316	15	Ⅱa	71.172	FL	25.4	18.0	5.1	1.64	珪頁	5	無	破損	
400		AF7	301	0	Ⅱa	71.177	BL	62.4	25.7	8.3	9.76	頁岩	4	無	破損	
401		AF7	298	13	Ⅱa	71.167	CH	14.5	13.6	2.1	0.3	頁岩	3	無	破損	
402		AF7	278	4	Ⅱb	71.100	FL	22.1	14.1	2.3	0.52	頁岩	5	無	破損	
403		AF7	318	53	Ⅲ	70.992	FL	20.8	8.1	4.8	0.48	頁岩	2	無	破損	
404		AF7	337	47	Ⅲ	70.990	FL	32.0	22.9	6.3	2.96	頁岩	3	無	破損	
405	150	AF7	364	48	Ⅲ	71.017	FL	30.0	16.0	5.7	2.58	頁岩	5	無	破損	
406		AF7	339	32	Ⅲ	70.952	CH	13.4	10.5	2.4	0.21	頁岩	3	無	破損	
407		AF7	352	33	Ⅲ	70.943	FL	27.4	18.3	2.7	1.36	頁岩	2	無	破損	
408		AF7	367	34	Ⅲ	70.940	CH	14.4	12.0	1.2	0.16	頁岩	2	無	完形	
409		AF7	378	38	Ⅲ	70.999	FL	26.8	16.0	3.3	1.17	頁岩	4	無	破損	
410		AF7	415	80	Ⅲ	70.894	FL	29.6	26.7	4.6	3.14	頁岩	3	無	破損	
411		AF7	425	101	Ⅲ	70.948	FL	20.1	15.1	1.7	0.53	頁岩	1	無	破損	
412		AF7	386	139	Ⅲ	70.993	CH	13.9	4.9	2.2	0.11	頁岩	3	無	破損	
413		AF7	400	22	Ⅱb	70.994	FL	31.2	19.8	4.8	2.27	頁岩	3	無	破損	
414		AF7	319	115	Ⅲ	70.948	FL	20.2	14.7	2.6	0.65	頁岩	2	無	完形	
415		AF7	459	0	Ⅲ	71.038	L	31.1	14.8	2.6	1.3	頁岩	1	無	破損	
416		AF7	369	2	Ⅱb	71.135	FL	27.1	16.5	4.4	1.3	頁岩	2	無	完形	
417		AF6	462	750	Ⅲ	70.905	FL	28.0	17.2	2.2	0.96	頁岩	3	無	完形	
418		AF7	455	13	Ⅲ	70.979	CH	16.2	12.7	1.6	0.26	頁岩	3	無	破損	
419		AF6	351	872	Ⅲ	70.885	FL	23.1	14.9	3.8	1.13	頁岩	1	無	破損	
420		AF7	335	21	Ⅲ	70.921	CH	17.9	11.7	3.3	0.57	頁岩	1	無	破損	
421		AF7	341	21	Ⅲ	70.922	FL	21.5	6.0	2.3	0.19	頁岩	1	無	破損	
422		AF7	293	14	Ⅲ	70.926	CH	18.2	12.9	1.3	0.27	頁岩	3	無	破損	
423		AF6	430	892	Ⅲ	70.928	CH	16.0	11.2	3.6	0.55	珪頁	5	無	破損	
424		AF6	225	707	Ⅲ	70.919	FL	32.6	20.3	6.7	3.47	珪頁	5	無	完形	
425		AF6	238	716	Ⅲ	70.921	FL	28.2	22.5	3.2	1.79	珪頁	5	無	破損	
426	140	AF6	462	734	Ⅲ	70.926	FL	48.8	35.1	5.9	9.61	珪頁	5	無	完形	
427		AF6	530	778	Ⅲ	70.917	FL	61.7	49.1	18.2	44.0	珪頁	5	無	完形	
428		AF6	562	727	Ⅲ	70.880	FL	40.8	30.9	5.5	6.2	珪頁	9	無	完形	
429		AF6	568	967	Ⅲ	70.916	BL	44.1	36.3	9.2	9.39	頁岩	4	無	破損	
430	120	AF6	462	940	Ⅲ	70.889	FL	59.2	31.9	5.4	4.98	頁岩	4	無	破損	
431		AF6	476	961	Ⅲ	70.886	BL	67.2	31.5	6.8	7.57	頁岩	単	無	完形	
432	75	AF7	533	68	Ⅲ	70.949	FL	67.1	55.8	8.6	17.7	頁岩	2	無	完形	

第64表　ブロック１出土石器観察表(8)

遺物No.	図No.	大グリッド	北南	西東	層	標　高	分類	最大長	最大幅	厚さ	重量(g)	石材	母岩	被熱	破損	備　　考
433	67	ＡＦ７	454	194	Ⅲ	70.915	ＦＬ	49.6	37.2	13.1	20.3	頁岩	1	無	破損	
434		ＡＦ７	420	146	Ⅲ	70.998	ＢＬ	50.3	23.1	13.2	8.3	頁岩	3	無	破損	
435		ＡＦ７	353	129	Ⅲ	70.921	ＦＬ	40.4	26.1	4.2	3.01	頁岩	3	無	完形	
436		ＡＦ７	314	150	Ⅲ	70.937	ＦＬ	57.6	45.8	8.7	27.9	頁岩	1	無	破損	
437	52	ＡＦ７	312	116	Ⅲ	70.910	ＢＬ	35.1	31.8	3.8	4.41	頁岩	1	無	破損	
438		ＡＦ６	338	924	Ⅲ	70.998	ＦＬ	34.6	18.8	3.2	1.54	頁岩	4	無	破損	
439		ＡＦ６	338	924	Ⅲ	70.931	ＦＬ	45.5	13.6	3.2	1.95	頁岩	3	無	破損	
440		ＡＦ６	342	888	Ⅲ	70.910	ＦＬ	37.8	32.5	5.2	5.6	頁岩	1	無	破損	
441		ＡＦ６	360	868	Ⅲ	70.924	ＦＬ	42.5	22.7	5.6	4.74	頁岩	9	無	破損	
442		ＡＦ６	365	888	Ⅲ	70.894	ＦＬ	32.2	26.0	4.3	3.26	頁岩	5	無	完形	
443		ＡＦ６	354	916	Ⅲ	70.910	ＦＬ	38.2	31.8	6.2	5.2	頁岩	3	無	破損	
444		ＡＦ６	388	943	Ⅲ	70.901	ＦＬ	34.7	28.5	13.3	10.5	珪頁	5	無	破損	
445		ＡＦ６	448	860	Ⅲ	70.902	ＦＬ	26.6	23.7	6.2	2.21	珪頁	5	無	完形	
446		ＡＦ６	479	923	Ⅲ	70.926	ＦＬ	30.2	19.3	5.2	2.0	珪頁	1	無	破損	
447		ＡＦ６	452	969	Ⅲ	70.936	ＦＬ	30.0	22.4	3.8	1.81	頁岩	1	無	破損	
448		ＡＦ７	370	0	Ⅲ	70.910	ＢＬ	35.9	15.2	7.2	3.19	頁岩	1	無	完形	
449		ＡＦ６	459	997	Ⅲ	71.005	ＦＬ	34.8	21.4	5.8	3.28	珪頁	5	無	完形	
450		ＡＦ７	419	33	Ⅲ	70.919	ＦＬ	33.8	27.6	2.5	2.35	頁岩	1	無	完形	
451	52	ＡＦ７	444	30	Ⅲ	70.875	ＢＬ	63.3	33.0	4.5	8.7	頁岩	1	無	破損	
452		ＡＦ７	327	80	Ⅲ	71.033	ＦＬ	36.2	33.4	5.3	4.25	頁岩	1	無	完形	
453		ＡＦ７	303	70	Ⅲ	71.005	ＦＬ	40.8	33.1	6.4	5.35	頁岩	1	無	破損	
454	84	ＡＦ６	275	937	Ⅲ	70.949	ＦＬ	55.8	50.1	8.0	15.5	頁岩	3	無	完形	
455	121	ＡＦ６	400	874	Ⅲ	70.916	ＦＬ	39.3	34.1	11.7	10.2	頁岩	4	無	完形	
456		ＡＦ６	399	917	Ⅲ	70.939	ＦＬ	56.4	27.8	4.8	6.3	頁岩	5	無	破損	
457	127	ＡＦ６	435	886	Ⅲ	70.943	ＦＬ	50.4	38.0	7.2	13.9	頁岩	4	無	破損	
458	90	ＡＦ７	310	12	Ⅲ	70.962	ＦＬ	46.9	41.5	6.8	8.6	頁岩	3	無	完形	
459		ＡＦ７	360	0	Ⅲ	71.003	ＦＬ	96.9	54.4	18.9	56.8	頁岩	2	無	完形	
460	69	ＡＦ７	370	14	Ⅱb	71.089	ＦＬ	62.8	39.8	10.2	17.7	頁岩	2	無	完形	
461	40	ＡＦ７	386	20	Ⅱb	71.033	ＦＬ	62.1	59.2	14.9	46.5	頁岩	1	無	破損	
462		ＡＦ７	353	22	Ⅲ	70.941	ＦＬ	48.5	38.3	7.8	10.4	頁岩	3	無	完形	
463		ＡＦ７	368	31	Ⅲ	70.960	ＦＬ	61.7	41.1	4.6	13.4	頁岩	1	無	完形	
464		ＡＦ７	379	38	Ⅱb	71.015	ＦＬ	55.0	41.8	6.9	14.5	頁岩	3	無	完形	
465	19	ＡＦ７	355	27	Ⅲ	70.890	ＦＬ	83.8	57.7	5.1	40.4	頁岩	1	無	完形	
466	28	ＡＦ７	349	32	Ⅲ	70.919	ＦＬ	90.9	62.4	5.7	39.1	頁岩	1	無	破損	
467		ＡＦ７	248	52	Ⅲ	70.989	ＦＬ	63.0	45.8	23.8	30.2	頁岩	1	無	破損	
468	74	ＡＦ７	342	81	Ⅲ	71.011	ＦＬ	69.0	55.6	10.6	41.4	頁岩	2	無	完形	
469	65	ＡＦ７	355	64	Ⅲ	70.948	ＦＬ	74.5	71.1	12.9	53.9	頁岩	2	無	完形	
470	73	ＡＦ７	367	53	Ⅲ	70.956	ＦＬ	63.4	53.0	7.2	20.6	頁岩	2	無	完形	
471	24	ＡＦ７	368	75	Ⅲ	70.932	ＦＬ	91.3	71.9	14.9	130.1	頁岩	1	無	完形	
472		ＡＦ７	374	61	Ⅱb	57.780	ＦＬ	55.3	29.8	6.6	14.0	頁岩	1	無	破損	
473	68	ＡＦ７	377	72	Ⅱb	71.018	ＦＬ	73.6	63.3	11.3	41.0	頁岩	2	無	完形	
474	174	ＡＦ７	369	96	Ⅲ	71.026	ＦＬ	67.8	51.6	7.1	23.2	頁岩	7	無	完形	
475	63	ＡＦ７	382	52	Ⅲ	70.927	ＦＬ	57.2	47.8	7.2	20.1	頁岩	2	無	完形	
476	50	ＡＦ７	388	57	Ⅲ	70.943	ＦＬ	88.9	55.9	11.0	45.5	頁岩	1	無	完形	
477	71	ＡＦ７	390	70	Ⅱb	70.979	ＦＬ	66.4	56.1	20.4	52.0	頁岩	2	無	完形	
478		ＡＦ７	383	82	Ⅲ	70.947	ＦＬ	62.1	58.6	11.4	45.6	頁岩	1	無	完形	
479	18	ＡＦ７	396	53	Ⅱb	70.931	ＦＬ	98.2	59.0	20.7	100.6	頁岩	1	無	完形	
480		ＡＦ７	403	19	Ⅱb	71.017	ＦＬ	62.4	47.7	7.6	18.3	頁岩	1	無	完形	
481	46	ＡＦ７	411	31	Ⅱb	70.936	ＦＬ	95.3	62.0	14.7	55.2	頁岩	1	無	完形	
482		ＡＦ７	415	45	Ⅱb	70.890	ＦＬ	103.4	80.4	36.8	219.2	頁岩		無	完形	
483	66	ＡＦ７	408	59	Ⅱb	70.983	ＦＬ	75.3	56.4	10.4	35.1	頁岩	2	無	完形	
484		ＡＦ７	418	58	Ⅱb	70.982	ＦＬ	46.6	27.4	3.5	5.7	頁岩	3	無	破損	
485	159	ＡＦ７	408	74	Ⅱb	70.958	ＳＣ	57.7	55.9	22.5	82.2	珪頁	5	無	完形	
486	98	ＡＦ７	431	16	Ⅱb	71.072	ＢＬ	73.9	32.2	10.9	19.4	頁岩	3	無	破損	
487		ＡＦ７	421	20	Ⅱb	70.912	ＦＬ	72.4	31.7	8.2	16.4	頁岩	1	無	破損	
488		ＡＦ７	424	55	Ⅱb	70.867	ＦＬ	89.3	58.8	27.6	130.2	頁岩	1	無	破損	
489	34	ＡＦ７	446	82	Ⅲ	70.880	ＦＬ	93.6	48.0	7.2	28.4	頁岩	1	無	完形	
490		ＡＦ７	436	30	Ⅱb	70.923	ＦＬ	78.3	57.5	28.8	70.8	頁岩	1	無	破損	
491		ＡＦ７	448	4	Ⅲ	71.016	ＦＬ	45.5	35.5	5.8	7.9	頁岩	3	無	破損	
492	43	ＡＦ７	459	11	Ⅲ	70.946	ＦＬ	78.9	59.8	17.0	52.8	頁岩	1	無	完形	
493	98	ＡＦ７	464	11	Ⅲ	70.931	ＢＬ	42.5	40.1	11.4	15.5	頁岩	3	無	破損	
494	16	ＡＦ７	455	36	Ⅲ	70.936	ＦＬ	64.4	34.7	10.5	16.3	頁岩	1	無	完形	

第65表　ブロック１出土石器観察表(9)

遺物No.	図No.	大グリッド	北南	西東	層	標　高	分類	最大長	最大幅	厚さ	重量(g)	石材	母岩	被熱	破損	備　考
495		AF7	484	43	Ⅱb	70.982	FL	52.1	44.7	7.4	10.2	頁岩	3	無	破損	
496		AF6	407	846	Ⅲ	70.893	FL	54.2	44.1	11.8	20.9	頁岩	4	無	完形	
497	103	A6	409	857	Ⅲ	70.912	FL	97.9	87.9	26.8	142.1	頁岩	4	無	完形	
498	110	AF6	411	860	Ⅲ	70.898	FL	73.6	60.1	12.4	37.6	頁岩	4	無	破損	
499		AF6	407	859	Ⅲ	70.906	FL	22.1	17.7	3.8	0.69	頁岩	4	無	破損	
500	116	AF6	419	850	Ⅲ	70.886	FL	107.1	64.6	23.6	142.1	頁岩	4	無	完形	
501		AF6	429	850	Ⅲ	70.867	FL	88.2	43.1	14.9	40.7	頁岩	4	無	破損	
502	111	AF6	429	858	Ⅲ	70.930	FL	83.1	47.2	13.2	45.4	頁岩	4	無	完形	
503		AF6	409	868	Ⅲ	70.898	FL	55.3	38.8	6.0	15.4	頁岩	4	無	破損	
504	122	AF6	417	868	Ⅲ	70.912	FL	67.7	55.0	11.1	38.3	頁岩	4	無	完形	
505		AF6	422	875	Ⅲ	70.901	FL	69.8	53.5	23.6	67.5	珪頁	5	無	破損	
506		AF6	429	872	Ⅲ	70.872	CO	97.1	44.5	31.3	99.1	頁岩	4	無	破損	
507		AF6	435	867	Ⅲ	70.869	FL	68.4	54.5	17.3	43.2	頁岩	9	無	完形	
508	106	AF6	407	900	Ⅲ	70.924	FL	84.9	58.0	14.7	56.2	頁岩	4	無	破損	
509	123	AF6	416	906	Ⅲ	70.922	FL	82.1	44.4	10.6	20.7	頁岩	4	無	破損	
510	143	AF6	432	897	Ⅲ	70.909	FL	80.9	54.1	22.2	74.8	珪頁	5	無	完形	
511	124	AF6	426	910	Ⅲ	70.906	FL	132.3	68.9	14.1	106.9	頁岩	4	無	完形	
512	147	AF6	437	911	Ⅲ	70.900	FL	104.4	71.1	20.8	146.3	珪頁	5	無	完形	
513	48	AF6	417	937	Ⅲ	70.878	FL	98.5	81.1	12.5	86.3	頁岩	1	無	完形	
514	36	AF6	428	933	Ⅲ	70.885	FL	103.3	54.6	20.8	74.0	頁岩	1	無	破損	
515	102	AF6	470	966	Ⅲ	70.928	FL	66.9	53.4	19.1	36.8	頁岩	4	無	完形	
516	104	AF6	463	896	Ⅲ	70.828	FL	102.9	57.8	13.4	85.6	頁岩	4	無	完形	
517	109	AF6	346	911	Ⅲ	70.928	RF	85.9	59.2	10.0	49.8	頁岩	4	無	完形	
518	33	AF6	305	987	Ⅲ	70.971	FL	90.3	79.7	9.6	54.3	頁岩	1	無	完形	
519	78	AF6	318	999	Ⅲ	71.053	FL	63.4	60.2	13.2	28.6	頁岩	3	無	完形	
520	93	AF6	328	983	b	71.011	FL	77.2	60.6	10.2	40.0	頁岩	3	無	完形	
521	77	AF6	338	966	Ⅲ	70.979	FL	67.5	51.3	6.2	25.0	頁岩	3	無	完形	
522	175	AF6	356	949	Ⅲ	70.925	CO	109.4	66.0	21.9	163.0	頁岩	8	無	完形	
523	83	AF6	347	978	Ⅲ	70.977	FL	88.7	56.7	9.0	60.0	頁岩	3	無	完形	
524	94	AF6	362	979	Ⅲ	70.965	FL	72.0	71.3	4.3	27.1	頁岩	3	無	完形	
525	31	AF6	368	977	Ⅲ	70.960	FL	92.5	68.0	7.0	31.3	頁岩	1	無	完形	
526	88	AF6	344	991	Ⅱb	71.068	FL	69.2	53.6	6.1	17.3	頁岩	3	無	完形	
527	87	AF6	34	995	Ⅲ	70.978	FL	86.0	60.8	11.8	67.4	頁岩	3	無	完形	
528	89	AF6	351	997	Ⅲ	70.967	FL	97.5	61.1	10.9	45.4	頁岩	3	無	完形	
529	37	AF6	353	964	Ⅲ	70.961	FL	75.5	43.6	6.7	19.6	頁岩	1	無	完形	
530	26	AF6	353	964	Ⅲ	70.961	FL	112.5	82.9	21.4	115.3	頁岩	1	無	破損	
531	162	A6	361	831	Ⅲ	70.962	FL	61.2	40.7	15.0	29.9	珪頁	5	無	完形	
532	172	AF6	397	867	Ⅲ	70.912	FL	69.8	58.8	13.8	49.5	頁岩	5	無	完形	
533	142	AF6	351	897	Ⅲ	70.890	CO	91.9	59.5	40.5	196.5	珪頁	5	無	完形	
531	126	AF6	377	878	Ⅲ	70.896	FL	85.6	50.6	13.2	54.1	頁岩	4	無	破損	
535		AF6	392	885	Ⅲ	70.920	FL	66.3	45.5	4.2	15.6	頁岩	4	無	破損	
536	151	AF6	393	894	Ⅲ	70.925	FL	68.6	39.8	8.1	19.9	珪頁	5	無	完形	
537		AF6	360	899	Ⅲ	70.877	FL	73.8	52.3	11.3	30.3	頁岩	4	無	完形	
538		AF6	425	865	Ⅲ	70.882	FL	74.0	69.1	20.6	79.7	頁岩	4	無	破損	
539	99	AF6	410	996	Ⅲ	70.995	FL	71.8	53.1	16.8	45.8	頁岩	3	無	完形	
540		AF6	418	993	Ⅲ	70.884	CO	114.8	101.8	78.6	745.6	頁岩	7	無	完形	
541	42	AF6	338	971	Ⅲ	70.969	FL	90.2	51.7	6.2	33.7	頁岩	1	無	完形	
542		AF7	278	7	Ⅲ	71.010	FL	42.0	30.1	6.1	9.1	頁岩	3	有	完形	
543		AF7	300	4	Ⅲ	70.908	FL	44.2	24.4	8.2	6.48	頁岩	3	無	完形	
544	20	AF6	315	996	Ⅲ	70.968	SC	111.7	66.9	20.7	144.7	頁岩	1	無	完形	
545	91	AF6	335	993	Ⅲ	70.978	FL	83.3	71.9	11.9	52.4	頁岩	3	無	完形	
546	38	AF6	340	995	Ⅲ	70.940	FL	79.3	75.8	12.0	50.1	頁岩	1	無	完形	
547		AF6	408	873	Ⅲ	71.858	FL	54.8	51.0	13.9	20.6	頁岩	4	無	破損	
548	112	AF6	424	862	Ⅲ	70.867	FL	70.9	48.5	9.5	18.1	頁岩	4	無	完形	
549		AF6	420	871	Ⅲ	70.861	FL	50.9	39.3	5.6	6.1	頁岩	9	無	完形	
550		AF6	475	866	Ⅲ	70.868	FL	24.9	14.9	4.7	1.07	頁岩	4	無	破損	
551	146	AF6	426	896	Ⅲ	70.884	FL	76.6	53.6	19.8	59.0	珪頁	5	無	完形	
552		AF6	404	892	Ⅲ	70.873	FL	23.5	14.8	2.1	0.53	頁岩	4	無	破損	
553		AF6	395	897	Ⅲ	70.907	FL	45.6	28.1	6.8	9.2	頁岩	4	無	破損	
554		AF6	395	897	Ⅲ	70.908	CH	15.5	15.0	1.8	0.3	頁岩	1	無	破損	
555		AF6	361	867	Ⅲ	70.876	FL	72.4	56.0	16.6	62.8	頁岩	4	無	完形	
556		AF6	343	893	Ⅲ	70.890	CH	16.2	13.3	2.9	0.52	珪頁	5	無	破損	

第66表　ブロック１出土石器観察表(10)

遺物No.	図No.	大グリッド	北南	西東	層	標　高	分類	最大長	最大幅	厚さ	重量(g)	石材	母岩	被熱	破損	備　　考
557	79	ＡＦ６	351	962	Ⅲ	70.932	ＦＬ	69.5	66.8	14.5	78.2	頁岩	3	無	完形	
558		ＡＦ７	338	73	Ⅲ	70.910	ＦＬ	21.2	8.6	3.2	0.33	頁岩	1	無	破損	
559	64	ＡＦ７	368	103	Ⅱｂ	71.000	ＦＬ	76.2	67.4	12.9	64.1	頁岩	2	無	完形	
560	160	ＡＦ７	403	113	Ⅱｂ	71.036	ＦＬ	69.5	44.1	18.4	49.4	頁岩	5	無	破損	
561		ＡＦ７	374	70	Ⅲ	70.915	ＦＬ	61.6	37.9	11.0	26.9	頁岩	1	無	破損	
562		ＡＦ７	318	10	Ⅲ	70.929	ＦＬ	26.5	17.7	2.5	1.04	頁岩	3	無	破損	
563		ＡＦ７	331	11	Ⅲ	70.955	ＦＬ	23.1	13.2	3.0	0.74	頁岩	1	無	破損	
564	27	ＡＦ６	372	984	Ⅲ	70.907	ＦＬ	74.9	52.3	4.8	26.5	頁岩	1	無	破損	
565		ＡＦ６	435	883	Ⅲ	70.858	ＦＬ	64.8	61.2	13.4	38.3	頁岩	4	無	破損	
566		ＡＦ６	437	883	Ⅲ	70.858	ＦＬ	45.1	29.1	4.1	4.49	頁岩	4	無	破損	
567	85	ＡＦ７	363	3	Ⅲ	70.918	ＦＬ	25.0	20.5	5.7	2.21	頁岩	2	無	破損	
568		ＡＦ７	366	9	Ⅲ	70.995	ＦＬ	62.1	54.1	13.0	28.9	頁岩	3	無	破損	
569		ＡＦ７	379	13	Ⅲ	70.966	ＦＬ	29.5	22.8	9.7	3.91	頁岩	1	無	破損	
570	35	ＡＦ７	390	15	Ⅲ	70.957	ＦＬ	108.0	61.5	10.6	77.4	頁岩	1	無	完形	
571	32	ＡＦ７	395	17	Ⅱｂ	70.994	ＦＬ	67.6	58.2	8.1	27.2	頁岩	1	無	完形	
572		ＡＦ７	392	49	Ⅱｂ	70.872	ＦＬ	67.7	48.4	11.5	42.9	頁岩	1	無	破損	
573		ＡＦ７	396	54	Ⅱｂ	70.918	ＦＬ	57.2	40.1	5.3	12.3	頁岩	1	無	破損	
574		ＡＦ７	411	29	Ⅱｂ	70.907	ＦＬ	5.0	40.4	5.9	15.5	頁岩	1	無	破損	
575		ＡＦ７	465	10	Ⅲ	70.903	ＦＬ	33.8	20.6	9.8	4.46	珪頁	3	無	破損	
576		ＡＦ６	485	986	Ⅲ	70.888	ＦＬ	37.2	29.2	6.0	5.9	珪頁	5	無	完形	
577		ＡＦ７	372	102	Ⅲ	70.869	ＣＨ	18.9	12.9	1.7	0.47	珪頁	5	無	破損	
578		ＡＦ６	477	774	Ⅲ	70.833	ＦＬ	25.6	23.4	3.3	1.72	珪頁	9	無	破損	
579	29	ＡＦ７	394	2	Ⅲ	80.948	ＦＬ	89.9	74.7	10.2	57.7	頁岩	1	無	完形	
580		ＡＦ６	347	781	Ⅲ	70.846	ＣＨ	19.9	10.5	1.0	0.34	珪頁		無	破損	
581		ＡＦ６	375	805	Ⅲ	70.868	ＦＬ	34.4	24.1	3.7	2.97	頁岩	1	無	破損	
582		ＡＦ６	344	817	Ⅲ	70.871	ＣＨ	14.5	9.3	2.7	0.25	頁岩	1	無	破損	
583		ＡＦ６	402	826	Ⅲ	70.889	ＣＨ	19.3	13.0	3.6	0.77	頁岩	1	無	破損	
584		ＡＦ６	370	836	Ⅲ	70.849	ＣＨ	15.9	12.0	1.4	0.21	頁岩	1	無	破損	
585	152	ＡＦ６	427	874	Ⅲ	70.803	ＦＬ	89.6	54.9	15.7	74.4	珪頁	5	無	完形	
586	158	ＡＦ６	455	884	Ⅲ	70.820	ＦＬ	64.2	41.0	8.7	24.7	珪頁	5	無	破損	
587	76	ＡＦ６	348	887	Ⅲ	70.842	ＦＬ	65.5	45.5	10.9	17.4	頁岩	3	無	完形	
588		ＡＦ６	415	909	Ⅲ	70.839	ＦＬ	21.8	19.0	3.0	1.07	頁岩	4	無	破損	
589		ＡＦ６	391	962	Ⅲ	70.860	ＦＬ	20.2	17.0	2.1	0.5	頁岩	3	無	破損	
590	55	ＡＦ７	400	0	Ⅲ	70.948	ＳＣ	83.4	52.0	10.6	36.5	頁岩	1	無	完形	
591		ＡＦ７	448	18	Ⅲ	70.862	ＦＬ	33.3	17.2	5.9	2.1	頁岩	3	無	破損	
592		ＡＦ７	327	22	Ⅲ	70.855	ＣＨ	15.9	10.4	2.5	0.39	頁岩	5	無	破損	
593	173	ＡＦ６	208	988	Ⅲ	70.960	ＦＬ	67.9	34.1	13.0	22.6	頁岩	7	無	破損	
594		ＡＦ７	434	193	Ⅲ	70.890	ＦＬ	47.0	29.5	6.9	7.9	頁岩	1	無	破損	
595		ＡＦ７	443	170	Ⅲ	70.888	ＦＬ	22.8	14.6	5.1	1.59	頁岩	1	無	破損	
596	101	ＡＦ７	416	48	Ⅲ	70.830	ＦＬ	54.6	39.8	3.5	12.0	珪頁	3	無	完形	
597		ＡＦ６	378	852	Ⅲ	70.830	ＦＬ	33.8	25.0	4.2	2.13	頁岩	4	無	破損	
598	148	ＡＦ６	389	855	Ⅲ	70.781	ＦＬ	66.5	44.5	15.1	38.9	珪頁	5	無	破損	
599	57	ＡＦ６	423	845	Ⅲ	70.809	ＦＬ	76.3	43.0	13.6	41.7	頁岩	単	無	完形	
600		ＡＦ６	402	847	Ⅲ	70.785	ＣＨ	19.6	11.7	1.4	0.3	頁岩	1	無	完形	
601		ＡＦ６	414	860	Ⅲ	70.806	ＦＬ	25.6	20.5	6.6	3.03	珪頁	5	無	完形	
602		ＡＦ６	416	877	Ⅲ	70.825	ＣＨ	19.8	12.3	2.4	0.31	頁岩	3	無	完形	
603		ＡＦ６	419	878	Ⅲ	70.803	ＦＬ	23.5	15.7	3.8	0.77	頁岩	1	無	破損	
604		ＡＦ６	434	893	Ⅲ	70.793	ＦＬ	38.3	19.7	5.0	2.7	頁岩	4	無	破損	
605		ＡＦ６	433	918	Ⅲ	70.830	ＢＬ	25.7	18.5	4.7	1.55	頁岩	4	無	破損	
606		ＡＦ６	474	922	Ⅲ	70.826	ＣＨ	18.4	17.6	2.7	0.53	頁岩	4	無	破損	
607		ＡＦ６	421	150	Ⅲ	70.821	ＦＬ	20.2	20.0	1.6	0.49	頁岩	1	無	破損	
608		ＡＦ６	382	965	Ⅲ	70.817	ＦＬ	25.3	16.6	3.6	1.03	頁岩	3	無	破損	
609		ＡＦ６	396	986	Ⅲ	70.832	ＢＬ	27.7	23.8	5.9	3.01	頁岩	4	無	破損	
610	62	ＡＦ７	400	0	Ⅲ	70.937	ＦＬ	83.7	60.4	7.6	50.8	頁岩	1	無	完形	
611		ＡＦ６	471	896	Ⅳ	70.777	ＦＬ	26.2	20.1	11.8	3.17	頁岩	4	無	破損	
612		ＡＦ６	435	850	Ⅳ	70.748	ＦＬ	21.3	17.1	2.2	0.65	珪頁	5	無	破損	
613	105	ＡＦ６	416	868	Ⅳ	70.720	ＦＬ	69.3	56.2	23.8	68.3	頁岩	4	無	完形	
614		ＡＦ６	393	820	Ⅳ	70.743	ＦＬ	26.1	19.4	3.5	1.21	珪頁	5	無	完形	
615		ＡＦ６	450	911	Ⅳ	70.696	ＦＬ	22.6	18.4	5.5	2.07	頁岩	3	無	破損	
616	5	ＡＦ６	360	911	Ⅳ	70.093	ＰＯ	37.1	16.0	4.4	3.17	珪頁		無	完形	
617	23	ＡＦ６	336	907	Ⅳ	70.701	ＦＬ	99.3	44.0	7.1	33.7	頁岩	1	無	完形	
618		ＡＦ６	345	924	Ⅳ	70.754	ＦＬ	55.1	34.9	13.2	14.3	頁岩	4	無	破損	

第67表　ブロック１出土石器観察表(11)

遺物No.	図No.	大グリッド	北南	西東	層	標　高	分類	最大長	最大幅	厚さ	重量(g)	石材	母岩	被熱	破損	備　考
619		AF6	308	878	Ⅳ	70.755	FL	22.9	17.4	2.1	0.85	頁岩	9	無	破損	
620		AF6	450	900	Ⅳ	70.672	FL	21.3	20.4	1.3	0.91	頁岩	5	無	完形	
621		AF6	423	907	Ⅳ	70.660	CH	17.5	14.0	1.6	0.39	頁岩	5	無	破損	
622		AF6	388	928	Ⅳ	70.693	FL	22.5	20.6	4.7	1.4	頁岩	3	無	破損	
623		AF6	379	973	Ⅳ	70.704	CH	15.4	15.3	2.9	0.47	頁岩	1	無	破損	
624		AF7	357	34	Ⅳ	70.663	FL	32.1	16.9	2.4	1.04	頁岩	1	無	破損	
625		AF7	405	105	Ⅳ	70.787	FL	32.0	22.7	3.0	1.43	頁岩	1	無	破損	
626		AF7	384	104	Ⅳ	70.778	FL	21.6	16.5	3.7	1.26	頁岩	1	無	破損	
627		AF7	356	105	Ⅳ	70.786	CH	15.6	11.3	1.1	0.2	頁岩	1	無	破損	
628		AF7	359	175	Ⅳ	70.792	FL	34.2	21.8	1.7	1.61	頁岩	1	無	破損	
629		AF6	458	865	Ⅴ	70.631	FL	27.9	15.1	2.2	0.71	頁岩	4	無	破損	
630	107	AF6	425	847	Ⅴ	70.613	FL	69.3	53.7	8.9	30.7	頁岩	4	無	完形	
631		AF6	430	949	Ⅴ	70.597	FL	23.0	19.0	2.5	0.59	頁岩	4	無	破損	
632	14	AF6	457	866	Ⅴ	70.589	CO	70.0	65.7	19.4	87.5	頁岩	5	無	完形	
633		AF6	482	874	Ⅴ	70.655	FL	22.0	16.5	2.1	0.69	頁岩	4	無	破損	
634		AF7	352	69	Ⅴ	70.652	FL	39.8	25.3	3.4	2.69	頁岩	1	無	破損	
635		AF6	368	938	Ⅴ	70.575	FL	22.8	21.1	3.1	1.39	頁岩	3	無	破損	
636		AF7	415	49	Ⅲ	70.655	FL	35.0	19.1	6.7	4.13	頁岩	5	有	破損	
637		AF6	495	991	Ⅲ	70.662	FL	30.7	20.8	2.5	1.47	頁岩	4	無	破損	
638		AF6	265	858	Ⅲ	70.658	FL	26.2	14.5	4.4	1.59	珪頁	5	無	破損	
641		AF6	45	90		71.039	CO	97.9	61.5	16.7	119.8	珪頁		無	破損	
642		AF6	45	230		71.058	FL	86.7	68.2	20.2	118.8	凝灰		無	破損	
643		AF6	299	230	Ⅱ	71.241	FL	58.9	38.5	5.6	12.14	頁岩		無	破損	
644		AF6	247	625	Ⅱ	71.101	FL	33.0	18.6	3.7	1.84	頁岩	3	無	破損	
645		AF6	303	610	Ⅰ	71.156	CH	19.9	15.8	2.0	0.57	頁岩	3	無	破損	
646		AF6	348	624	Ⅱ	71.196	FL	26.5	20.1	5.8	2.61	頁岩		無	破損	
648		AF6	418	510	Ⅱ	71.121	RF	88.4	68.2	18.2	99.7	凝灰		無	破損	
649		AF6	446	497	Ⅰ	71.151	FL	29.4	24.0	6.1	2.3	頁岩		無	破損	
650		AF6	414	447	Ⅱ	71.086	FL	37.0	34.8	15.6	13.5	珪頁		無	破損	
651		AF6	635	532	Ⅰ	71.181	FL	45.2	39.3	21.0	27.0	珪頁		無	破損	
652		AF6	638	535	Ⅰ	71.181	FL	41.4	37.1	6.5	7.0	頁岩		無	完形	
653		AF6	642	530	Ⅰ	71.181	FL	51.9	34.6	11.3	14.5	頁岩		無	完形	
654		AF6	403	623	Ⅰ	71.161	FL	40.2	34.5	8.3	9.45	頁岩	4	無	完形	
655	133	AF6	430	644	Ⅱ	71.101	FL	82.9	67.0	12.0	65.9	頁岩	4	無	破損	
656		AF6	424	668	Ⅰ	71.206	FL	41.2	40.6	8.1	9.1	頁岩		有	破損	
657		AF6	436	669	Ⅰ	71.196	FL	35.0	17.7	2.9	1.83	珪頁	5	無	完形	
658	122	AF6	447	671	Ⅱ	71.116	FL	46.0	33.0	5.5	5.98	頁岩	4	無	破損	
659		AF6	417	683	Ⅰ	71.136	FL	67.5	43.1	4.7	11.7	頁岩	9	無	完形	
660	128	AF6	438	684		71.116	FL	68.4	46.9	8.3	17.1	頁岩	4	無	完形	
661	47	AF6	403	697		71.201	FL	43.0	34.1	10.0	9.56	頁岩	2	無	完形	
662		AF6	402	766	Ⅰ	71.221	FL	47.9	29.3	4.6	6.26	頁岩	1	無	破損	
663		AF6	403	778	Ⅰ	71.196	FL	28.4	12.8	3.7	1.14	珪頁		無	破損	
664		AF6	404	799		71.201	FL	47.3	39.8	3.8	6.35	頁岩		無	破損	
665		AF6	405	803	Ⅰ	71.166	FL	32.6	16.8	4.1	1.92	珪頁		無	完形	
667	41	AF6	436	800	Ⅱ	71.116	FL	65.2	47.8	7.3	26.4	頁岩	1	無	完形	
669		AF6	445	811	Ⅰ	71.156	FL	28.0	14.1	6.7	2.23	頁岩		無	破損	
670		AF6	444	832	Ⅰ	71.116	FL	23.6	16.4	10.1	2.64	珪頁		無	破損	
671		AF6	448	847		71.156	FL	50.2	29.5	5.0	6.45	頁岩		有	破損	
672		AF6	447	864	Ⅰ	71.191	FL	32.6	28.3	3.8	2.54	頁岩		無	破損	
674	21	AF6	442	884	Ⅱ	71.126	FL	51.1	41.6	10.5	17.1	頁岩	1	無	完形	
675		AF6	416	955	Ⅰ	71.211	FL	37.5	24.8	6.5	4.17	頁岩		無	破損	
676	61						FL	66.5	59.4	14.6	46.0	頁岩	2	無	完形	
677							CH	16.0	15.3	1.7	0.33	頁岩	3	無	破損	
678							FL	29.1	14.2	4.3	1.89	頁岩	4	無	破損	
679	6						PO	73.5	37.7	12.5	31.5	凝灰		無	破損	

第68表　ブロック6出土石器

遺物No.	図No.	大グリッド	北南	西東	層	標　高	分類	最大長	最大幅	厚さ	重量(g)	石材	母岩	被熱	破損	備　　考
1		AG5	85	200	Ⅱb	70.615	FL	20.0	14.0	2.1	0.68	頁岩	6	無	破損	
2		AF5	82	200	Ⅱb	70.615	FL	57.5	29.3	9.5	7.38	珪頁	5	無	完形	
4		AF5	983	53	Ⅱb	70.630	BL	82.9	38.3	10.3	26.0	珪頁	5	無	完形	
5		AF5	930	35	Ⅱb	70.652	CH	13.1	12.3	1.1	0.16	珪頁	6	無	破損	
6		AF5	931	99	Ⅱb	70.595	FL	34.4	19.1	2.8	1.19	珪頁	6	無	破損	
7		AF5	907	202	Ⅱb	70.620	CH	18.6	14.4	1.7	0.46	頁岩	6	無	破損	
8		AF5	872	292	Ⅱb	70.557	FL	25.7	20.6	3.4	1.55	頁岩	6	無	破損	
9	166	AF5	851	300	Ⅱb	70.550	FL	53.0	23.9	3.2	2.71	珪頁	6	無	完形	
10		AF5	703	374	Ⅱa	70.770	FL	20.3	11.3	1.8	0.37	珪頁	6	無	破損	
11		AF5	747	380	Ⅱb	70.630	CH	15.3	13.1	2.0	0.27	頁岩	6	無	破損	
12		AF5	764	3456	Ⅱb	70.553	FL	27.9	23.5	2.6	1.54	珪頁	6	無	破損	
13		AF5	763	387	Ⅱb	70.550	FL	22.2	18.8	1.5	0.6	珪頁	6	無	破損	
14		AF5	780	365	Ⅲ	70.530	CH	16.0	15.2	2.7	0.57	頁岩	6	無	破損	
15		AF5	795	363	Ⅱa	70.673	FL	30.2	20.6	1.9	1.49	頁岩	6	無	破損	
16		AF5	736	453	Ⅱa	70.700	FL	31.4	16.8	4.7	1.85	珪頁	6	無	破損	
17		AF5	746	475	Ⅲ	70.505	CH	16.4	14.6	1.6	0.34	珪頁	6	無	破損	
18		AF5	761	471	Ⅱb	70.632	CH	19.1	15.7	1.9	0.71	珪頁	6	無	破損	
19		AF5	780	420	Ⅱb	70.677	CH	15.3	8.5	1.5	0.18	頁岩	6	無	破損	
20		AF5	793	425	Ⅱb	70.635	CH	16.7	13.6	1.8	0.43	頁岩	6	無	破損	
21		AF5	784	530	Ⅱb	70.673	CH	11.3	8.6	24.0	0.21	珪頁	6	無	破損	
22		AF5	804	522	Ⅱa	70.665	CH	10.3	7.9	0.8	0.08	珪頁	6	無	破損	
23		AF5	822	345	Ⅱb	70.602	FL	25.9	15.5	2.8	0.77	頁岩	6	無	破損	
24		AF5	865	346	Ⅱb	70.643	FL	29.8	23.3	4.4	2.28	頁岩	6	無	完形	
25		AF5	874	354	Ⅱb	70.637	FL	22.8	14.8	2.6	0.7	頁岩	6	無	破損	
26		AF5	875	374	Ⅱb	70.550	CH	18.0	14.9	1.8	0.35	珪頁	6	無	破損	
27	170	AF5	890	322	Ⅱb	70.482	FL	31.0	30.1	3.2	2.98	頁岩	6	無	破損	
28	164	AF5	810	40	Ⅲ	70,535	FL	57.4	36.6	4.2	6.89	頁岩	6	無	完形	
29		AF5	820	410	Ⅱb	70.637	FL	36.5	25.3	2.5	1.61	頁岩	6	無	破損	
30		AF5	858	419	Ⅲ	70.550	CH	19.9	14.4	4.9	0.9	珪頁	6	無	完形	
31		AF5	810	440	Ⅱa	70.758	CH	18.1	14.5	2.2	0.58	珪頁	6	無	完形	
32		AF5	800	445	Ⅱb	70.707	FL	107.8	100.3	34.4	269.6	珪頁	1	無	完形	
33		AF5	857	448	Ⅱb	70.630	FL	22.0	17.3	1.9	0.69	頁岩	6	無	破損	
34	15	AF5	812	462	Ⅱb	70.690	BF	91.1	55.7	30.1	163.1	珪頁	6	無	完形	
35		AF5	826	490	Ⅱb	70.675	CH	19.7	16.7	1.5	0.43	珪頁	6	無	破損	
36	165	AF5	882	475	Ⅱb	70.660	FL	58.2	33.1	11.3	15.2	珪頁	6	無	破損	
38	168	AF5	956	413	Ⅱb	70.500	FL	45.3	36.0	8.3	8.9	珪頁	6	無	破損	
39		AF5	977	530	Ⅲ	70.640	FL	22.8	20.1	3.1	1.03	珪頁	6	無	破損	
40		AG5	8	55	Ⅱa	70.458	FL	58.3	47.4	7.4	21.9	頁岩	3	無	完形	
41		AG5	32	245	Ⅱb	70.737	FL	73.3	41.3	7.0	15.2	頁岩	4	無	破損	
42		AG5	50	255	Ⅱa	70.595	FL	84.2	64.4	10.0	48.2	頁岩	4	無	完形	
44		AG5	131	300	Ⅱb	70.667	FL	66.3	39.3	12.2	20.7	頁岩	4	無	破損	
45		AG5	51	404	Ⅱa	70.615	FL	24.9	20.9	16.8	2.05	凝灰	6	無	破損	
46		AF5	915	353	Ⅱb	70.810	CH	15.1	11.1	0.7	0.13	珪頁	6	無	破損	
47		AF5	925	328	Ⅱb	70.615	FL	33.9	25.4	8.9	6.75	珪頁	6	無	完形	
48		AF5	957	325	Ⅱa	70.580	FL	25.0	17.6	3.9	0.94	珪頁	6	無	完形	
49		AF5	956	351	Ⅲ	70.718	CH	14.5	12.2	1.8	0.24	珪頁	6	無	破損	
50		AF5	985	334	Ⅲ	70.488	CH	14.4	11.6	4.1	0.58	珪頁	6	無	完形	
51		AF5	450	445	Ⅲ	70.567	FL	53.1	40.4	10.1	15.9	珪頁	単	無	破損	
52		AF5	365	494	Ⅲ	70.633	FL	69.6	56.4	11.1	35.8	頁岩	4	無	完形	
53		AF5	420	623	Ⅲ	70.705	FL	66.7	52.4	4.3	15.3	頁岩	4	無	破損	
54		AF5	804	353	Ⅱb	70.605	CH	14.1	11.8	1.3	0.17	頁岩	6	無	破損	
55	169	AF5	824	333	Ⅲ	70.433	FL	56.5	36.5	6.8	10.56	珪頁	6	無	完形	
56		AF5	870	36	Ⅲ	70.463	CH	13.2	11.5	1.0	0.14	珪頁	6	無	破損	
57		AF5	924	336	Ⅱb	70.580	CH	9.6	6.2	1.1	0.04	珪頁	6	無	破損	
58		AF5	981	8	Ⅲ	70.575	FL	65.0	42.7	11.3	27.5	頁岩	4	無	完形	
59		AF5	364	492	Ⅲ	70.617	CH	18.1	17.5	5.3	0.85	頁岩	6	無	破損	
60	1	AF5	570	274	Ⅱb	70.755	PO	270.0	57.7	11.5	171.8	無斑	単	無	破損	

第69表　ブロック９出土石器観察表(1)

遺物No.	図No.	大グリッド	北南	西東	層	標　高	分類	最大長	最大幅	厚さ	重量(g)	石材	母岩	被熱	破損	備　考
1		AH11	215	670	Ⅱb	71.245	CH	7.7	5.4	0.6	0.03	珪頁	12	無	破損	
2		AH11	188	668	Ⅱb	71.25	CH	13.0	12.1	1.3	0.19	珪頁	12	無	破損	
3		AH11	170	655	Ⅱb	71.279	CH	18.8	17.5	2.6	0.51	珪頁	12	無	破損	
4		AH11	127	608	Ⅱb	71.274	CH	13.4	10.1	1.6	0.19	珪頁	12	無	破損	
5		AH11	150	595	Ⅱb	71.161	CH	19.2	14.1	1.8	0.36	珪頁	12	無	破損	
6		AH11	175	583	Ⅱb	71.248	CH	9.1	4.5	1.3	0.02	珪頁		無	破損	
7		AH11	193	602	Ⅱb	71.162	CH	10.2	8.5	1.9	0.16	珪頁	11	無	破損	
8		AH11	192	588	Ⅲ	71.148	CH	18.0	12.7	3.3	0.50	珪頁	12	無	破損	
9		AH11	206	606	Ⅱb	71.184	CH	12.8	7.3	2.8	0.18	珪頁	11	無	破損	
10		AH11	218	609	Ⅱb	71.168	FL	22.6	14.0	2.1	0.52	珪頁	12	無	完形	
11		AH11	211	603	Ⅱb	71.173	CH	11.5	8.3	1.4	0.09	珪頁	12	無	破損	
12		AH11	207	597	Ⅱb	71.175	CH	9.8	6.8	0.8	0.05	珪頁	12	無	破損	
13		AH11	193	571	Ⅱb	71.218	FL	21.5	17.1	1.7	0.67	珪頁	11	無	完形	
14		AH11	200	559	Ⅲ	71.114	FL	17.0	12.1	4.7	0.85	珪頁	11	無	破損	
15		AH11	192	534	Ⅱb	71.245	CH	10.4	9.0	1.9	0.14	珪頁	12	無	破損	
16		AH11	187	556	Ⅲ	71.109	CH	10.8	7.6	1.6	0.13	珪頁	11	無	破損	
17		AH11	178	565	Ⅲ	71.117	FL	18.2	15.4	3.1	0.59	珪頁	12	無	破損	
18		AH11	150	552	Ⅲ	71.136	CH	11.3	11.2	2.2	0.20	頁岩		無	破損	
19		AH11	147	560	Ⅲ	71.142	FL	25.8	12.3	4.2	0.95	珪頁	11	無	破損	
20		AH11	136	554	Ⅲ	71.14	CH	5.5	4.5	0.9	0.02	珪頁		無	破損	
21		AH11	154	519	Ⅲ	71.131	CH	4.5	3.2	0.4	0.01	珪頁		無	破損	
22	2	AH11	166	512	Ⅱb	71.24	PO	36.4	18.7	7.3	3.56	珪頁	11	無	破損	
23		AH11	163	500	Ⅱb	71.192	CH	9.3	8.4	1.7	0.10	珪頁	12	無	破損	
26		AH11	58	490	Ⅲ	71.158	FL	19.2	17.7	3.7	0.10	珪頁	12	無	破損	
27		AH11	76	446	Ⅱb	71.226	CH	19.0	15.5	2.9	0.53	珪頁	12	有	破損	
28		AH11	127	448	Ⅲ	71.141	CH	12.7	8.5	1.6	0.10	珪頁		無	破損	
29		AH11	203	447	Ⅱb	71.217	CH	12.7	10.1	2.3	0.22	珪頁		無	完形	
33		AH11	180	590	Ⅱb	71.23	PE	87.5	60.0	28.8	182.9	花崗		無	破損	
35		AH11	203	438	Ⅲ	71.13	FL	19.9	13.0	2.5	0.43	珪頁	12	無	破損	
36		AH11	209	656	Ⅱb	71.195	CH	16.6	8.9	2.1	0.29	珪頁	12	無	破損	
37		AH11	176	583	Ⅱb	71.157	CH	8.2	6.9	0.6	0.05	珪頁	11	無	破損	
38		AH11	185	587	Ⅱb	71.165	CH	19.8	12.9	3.0	0.63	珪頁	12	無	完形	
39		AH11	182	602	Ⅲ	71.109	CH	8.3	8.0	1.0	0.08	珪頁	12	無	破損	
40		AH11	136	592	Ⅱb	71.328	CH	17.6	9.5	4.2	0.40	珪頁	12	無	破損	
41		AH11	195	594	Ⅱb	71.133	CH	3.9	2.4	0.6	0.01	珪頁		無	破損	
42		AH11	214	607	Ⅱb	71.169	CH	10.1	8.3	1.5	0.09	珪頁	12	無	完形	
43		AH11	207	597	Ⅱb	71.159	CH	13.3	8.3	1.9	0.19	珪頁	11	無	破損	
44		AH11	204	591	Ⅱb	71.136	CH	10.0	6.3	1.7	0.14	珪頁	11	無	破損	
45		AH11	194	587	Ⅱb	71.134	CH	9.1	6.5	1.5	0.07	珪頁	12	無	破損	
46		AH11	187	581	Ⅱb	71.175	CH	11.1	10.0	0.8	0.09	珪頁	11	無	破損	
48		AH11	185	566	Ⅱb	71.128	CH	6.9	4.4	0.8	0.03	珪頁	12	無	破損	
49		AH11	184	560	Ⅱb	71.125	CH	14.7	6.6	1.3	0.11	珪頁	11	無	破損	
50		AH11	192	567	Ⅱb	71.163	FL	29.7	15.0	2.7	0.88	珪頁	11	無	破損	
51		AH11	203	577	Ⅲ	71.129	CH	16.7	12.9	2.3	0.46	珪頁	11	無	完形	
52		AH11	206	585	Ⅲ	71.128	CH	4.8	4.0	0.5	0.01	珪頁		無	破損	
53		AH11	192	529	Ⅲ	71.135	CH	5.2	4.9	0.4	0.01	珪頁		無	破損	
54		AH11	198	447	Ⅱb	71.192	CH	6.8	5.2	1.4	0.03	珪頁		有	破損	
55		AH11	211	596	Ⅱb	71.119	CH	13.3	11.5	1.5	0.18	珪頁	11	無	破損	
56		AH11	209	596	Ⅱb	71.127	CH	6.7	3.6	0.7	0.02	珪頁	11	無	破損	
57		AH11	215	604	Ⅱb	71.118	CH	8.2	3.4	2.0	0.04	チャ		無	破損	
58		AH11	184	585	Ⅱb	71.148	CH	7.7	4.9	0.7	0.01	珪頁	11	無	破損	
59		AH11	197	576	Ⅱb	71.105	CH	7.0	3.9	1.0	0.03	珪頁	12	無	破損	
60		AH11	189	579	Ⅱb	71.114	CH	10.0	6.4	1.1	0.05	珪頁	11	無	完形	
61		AH11	185	581	Ⅱb	71.116	CH	5.6	5.5	0.4	0.02	珪頁	11	無	破損	
62		AH11	193	594	Ⅱb	71.107	CH	25.6	13.1	5.5	1.69	珪頁	11	無	破損	
63		AH11	186	599	Ⅱb	71.109	CH	13.3	7.2	1.3	0.10	珪頁	12	無	破損	
64		AH11	183	601	Ⅲ	71.104	CH	8.4	6.4	0.6	0.03	珪頁	11	無	破損	
65		AH11	181	595	Ⅲ	71.105	CH	12.8	9.3	1.6	0.16	珪頁	11	無	破損	
66		AH11	89	516	Ⅲ	71.156	CH	12.5	8.5	1.4	0.13	珪頁	11	有	破損	
67		AH11	219	561	Ⅲ	71.109	CH	7.9	4.6	0.9	0.03	珪頁		無	破損	

第70表　ブロック９出土石器観察表(2)

遺物No.	図No.	大グリッド	北南	西東	層	標　高	分類	最大長	最大幅	厚さ	重量(g)	石材	母岩	被熱	破損	備　　考
68		AH11	203	542	Ⅲ	71.097	CH	10.0	7.6	1.0	0.07	珪質	12	無	破損	
69		AH11	210	534	Ⅲ	71.086	CH	10.0	7.7	1.6	0.09	珪質	11	無	破損	
70		AH11	208	589	Ⅲ	71.102	CH	6.0	3.7	0.9	0.02	珪質		無	破損	
71		AH11	212	595	Ⅱb	71.1	CH	5.3	4.2	1.1	0.01	珪質	11	無	完形	
72		AH11	206	566	Ⅲ	71.103	CH	12.1	7.7	0.9	0.08	珪質	11	無	破損	
73		AH11	209	567	Ⅲ	71.097	CH	8.5	6.9	1.0	0.05	珪質	11	無	破損	
74		AH11	211	554	Ⅲ	71.062	CH	7.2	6.0	1.1	0.05	珪質	11	無	破損	
75		AH11	220	554	Ⅲ	71.046	CH	11.2	7.4	1.3	0.09	珪質	11	無	破損	
76		AH11	207	576	Ⅱb	71.096	FL	16.4	8.9	0.7	0.13	珪質	11	無	破損	
77		AH11	216	595	Ⅱb	71.096	CH	7.0	6.2	1.2	0.06	珪質	11	無	破損	
78		AH11	207	574	Ⅱb	71.067	CH	7.2	4.5	0.7	0.02	珪質	11	無	破損	
79		AH11	222	596	Ⅱb	71.069	CH	9.0	5.7	0.9	0.05	珪質	11	無	破損	
80		AH11	209	585	Ⅲ	71.054	CH	8.6	7.1	1.0	0.08	珪質	12	無	破損	
81		AH11	191	545	Ⅱb	71.058	CH	12.2	9.8	2.4	0.22	珪質	11	無	完形	
82		AH11	184	515	Ⅲ	71.045	FL	15.1	13.3	1.5	0.28	珪質	11	有	破損	
83		AH11	224	603	Ⅱb	71.077	CH	14.0	3.4	2.2	0.40	珪質	11	無	破損	
84		AH11	198	505	Ⅲ	71.042	CH	14.1	8.0	1.8	0.15	珪質	12	無	破損	
85		AH11	205	619	Ⅲ	71.072	CH	12.3	9.2	3.0	0.26	珪質		無	破損	
86		AH11	169	616	Ⅲ	71.078	CH	5.9	4.2	0.7	0.02	珪質		無	破損	
87		AH11	182	639	Ⅱb	71.073	CH	8.7	8.0	0.8	0.05	珪質	12	無	破損	
88		AH11	180	606	Ⅱb	71.07	CH	16.3	13.8	2.0	0.42	珪質	12	無	完形	
89		AH11	189	565	Ⅱb	71.067	CH	11.9	7.3	0.7	0.07	珪質	12	無	破損	
90		AH11	199	616	Ⅲ	71.059	CH	14.4	6.7	1.2	0.11	珪質	11	無	完形	
91		AH11	185	577	Ⅱb	71.072	CH	15.3	8.7	4.9	0.46	珪質	12	無	完形	
92		AH11	195	588	Ⅱb	71.088	CH	12.4	9.8	1.0	0.13	珪質	11	有	完形	
93		AH11	158	644	Ⅱb	71.072	CH	10.2	9.0	1.1	0.09	珪質	12	無	破損	
94		AH11	179	608	Ⅱb	71.058	CH	7.3	6.9	0.5	0.03	珪質		無	破損	
95		AH11	183	582	Ⅱb	71.086	CH	8.1	5.3	1.2	0.05	珪質	12	無	完形	
96		AH11	190	569	Ⅱb	71.058	CH	9.7	6.6	1.3	0.06	珪質	12	無	破損	
97		AH11	183	572	Ⅱb	71.069	CH	17.3	14.9	2.9	0.62	珪質	11	無	完形	
98		AH11	180	582	Ⅱb	71.068	FL	17.2	11.2	2.6	0.36	珪質	12	無	破損	
99		AH11	162	566	Ⅱb	71.083	CH	10.3	7.0	0.8	0.06	珪質	11	無	完形	
100		AH11	164	590	Ⅱb	71.109	CH	18.2	11.9	2.5	0.55	珪質	11	無	破損	
101		AH11	160	581	Ⅱb	71.111	CH	8.2	6.4	0.9	0.04	珪質	12	無	破損	
102		AH11	154	585	Ⅱb	71.118	CH	14.3	9.9	1.6	0.28	珪質	12	無	破損	
103		AH11	162	567	Ⅱb	71.064	CH	9.5	8.9	0.9	0.09	珪質	11	無	破損	
104		AH11	184	600	Ⅱb	71.068	CH	5.6	4.6	0.6	0.02	珪質	11	無	破損	
105		AH11	155	590	Ⅱb	71.104	CH	5.9	4.8	0.9	0.02	珪質	11	無	破損	
106		AH11	130	566	Ⅱb	71.13	CH	13.3	9.2	1.8	0.23	珪質	11	無	破損	
107		AH11	160	652	Ⅲ	71.071	CH	17.2	15.1	1.7	0.38	珪質	12	無	完形	
108		AH11	214	746	Ⅲ	71.14	CH	9.7	5.7	1.2	0.06	珪質	12	無	破損	
109		AH11	177	730	Ⅲ	71.115	CH	9.1	7.9	0.8	0.06	珪質	12	無	破損	
110		AH11	200	592	Ⅱb	71.072	CH	10.2	5.8	0.8	0.06	珪質	11	無	破損	
111		AH11	210	631	Ⅲ	71.051	CH	9.4	5.9	1.9	0.08	珪質	12	無	破損	
112		AH11	223	607	Ⅲ	71.025	CH	14.6	8.4	3.0	0.29	珪質	11	無	破損	
113		AH11	176	585	Ⅲ	71.033	CH	14.1	13.6	1.9	0.28	珪質	12	無	破損	
114		AH11	190	588	Ⅱb	71.013	CH	13.0	9.1	1.8	0.19	珪質	11	無	破損	
115		AH11	190	592	Ⅱb	71.006	CH	7.9	5.2	0.7	0.02	珪質	12	無	破損	
116		AH11	183	581	Ⅱb	70.997	CH	11.4	8.7	1.3	0.12	珪質	11	無	破損	
117		AH11	203	605	Ⅱb	71.154	PO	18.2	12.2	5.0	0.78	珪質	11	無	破損	
118		AH11	195	601	Ⅱb	71.132	CH	8.3	7.8	0.7	0.06	珪質	11	無	完形	
119		AH11	194	553	Ⅲ	70.991	FL	21.0	17.6	1.7	0.68	珪質	11	無	完形	
120		AH11	196	601	Ⅱb	71.13	CH	9.4	8.6	1.0	0.08	珪質	11	無	完形	
121		AH11	195	599	Ⅲ	71.052	CH	16.9	7.4	1.6	0.15	珪質		無	破損	
122		AH11	204	599	Ⅱb	71.074	CH	8.6	7.3	1.0	0.05	珪質	12	無	破損	
123		AH11	204	599	Ⅱb	71.074	CH	18.0	3.8	1.2	0.37	珪質	11	無	完形	
124		AH11	195	607	Ⅲ	70.875	CH	24.4	21.1	3.5	1.39	珪質	11	無	破損	
125		AH11	165	640	Ⅲ	70.939	CH	11.2	7.1	1.1	0.06	珪質	11	無	完形	
126							CH	8.0	7.3	1.3	0.05	珪質	11	無	完形	
127							CH	12.9	12.2	1.7	0.23	珪質	12	無	破損	
128							CH	10.0	8.5	1.0	0.07	珪質	11	無	破損	

第71表　ブロック10出土石器観察表

遺物No.	図No.	大グリッド	北南	西東	層	標　高	分類	最大長	最大幅	厚さ	重量(g)	石材	母岩	被熱	破損	備　考
1		AD8	694	297	Ⅲ	71.115	FL	78.2	42.2	10.5	31.3	頁岩	1	無	完形	
2		AD8	755	346	Ⅲ	71.050	FL	70.1	40.6	8.5	28.4	頁岩	1	無	破損	
3		AD8	726	445	Ⅲ	71.120	FL	16.7	60.7	10.4	68.5	頁岩	1	無	完形	
4		AD8	907	371	Ⅲ	71.085	BL	68.3	48.7	10.3	26.1	頁岩	1	無	破損	
5		AD8	928	355	Ⅲ	71.238	FL	61.0	47.2	5.5	18.8	頁岩	4	無	完形	
6		AD8	946	379	Ⅲ	71.252	RF	105.7	58.26	162	74.1	頁岩	1	無	破損	
7		AD8	965	384	Ⅲ	71.201	BL	117.2	49.5	11.3	57.3	頁岩	8	無	完形	
8		AD8	49	436	Ⅱb	71.378	RF	66.6	57.0	12.8	38.6	凝灰		無	完形	

第72表　ブロック11観察表

遺物No.	図No.	大グリッド	北南	西東	層	標　高	分類	最大長	最大幅	厚さ	重量(g)	石材	母岩	被熱	破損	備　考
1		AH6	144	184	Ⅱb	70.175	FL	90.7	58.8	22.1	83.1	頁岩		無	完形	
2	17	AH6	181	198	Ⅱa	70.268	FL	99.7	53.1	12.7	74.8	頁岩	1	無	完形	
3		AH6	151	225	Ⅱb	70.217	BL	105.2	33.1	9.2	27.8	頁岩	1	無	完形	
4		AH6	123	233	Ⅱb	20.257	BL	93.1	46.6	7.1	29.4	頁岩	1	無	完形	
5		AH6	73	522	Ⅱb	70.385	BL	26.9	22.4	5.3	2.4	頁岩		無	破損	

第73表　接合資料1剥片属性表

ブロック	遺物No.	接合資料	剥離長	剥離幅	打面				打点		バルブ形態	背面構成						頭部調整	剥離角	備　考
					幅	厚さ	種類	形状	位置	径		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	自然	節理			
1	465	1			57.4	14.6	節理	平坦	Ⅲ	5.7	S		○			○			71	
1	466	1			20.7	6.6	剥離	平坦	Ⅲ	不明	S	○	○		○	○			97	
1	471	1	81.8	70.3	47.9	19.8	複剥	平坦	Ⅲ	1.1	S					○			120	
1	479	1	65.4	97.7	32.6	15.2	剥離	凹	Ⅲ		S		○			○			113	
1	481	1	72.2	83.1	16.5	7.7	剥離	平坦	Ⅲ		S	○	○			○			103	
1	489	1	82.7	64.3	22.4	7.3	調整	山型	Ⅰb	不明	S	○	○						95	
1	492	1	58.0	74.5	20.5	7.7	剥離	平坦	Ⅲ							○				
1	494	1	45.3	58.3	13.3	7.6	節理	平坦	Ⅲ		F				○		○		104	
1	501	1	82.1	42.7	18.3	5.2	剥離	平坦	Ⅲ	不明	S			○		○			98	
1	513	1	78.6	97.6	47.9	14.2	調整	山型	Ⅲ	不明	S	○	○			○			105	
1	518	1	86.0	70.7	13.8	7.8	剥離	山型	Ⅲ	不明	S	○	○			○			92	
1	525	1	82.3	69.4	29.1	8.9	複剥	山型	Ⅲ	不明	F	○				○			113	
1	529	1	67.0	52.6	19.1	11.8	複剥	平坦	Ⅰa	不明	S	○				○			104	
1	541	1	52.2	86.4	69.5	11.4	複剥	山型	Ⅲ	不明	S	○			○				102	
1	564	1	68.8	65.2	51.1	12.9	調整	山型	Ⅲ	不明	S	○	○		○	○			97	
1	570	1	95.5	58.8	41.0	15.1	調整	凸	Ⅲ	不明	S	○		○					98	
1	571	1	60.0	57.0	65.1	14.5	調整	山型	Ⅲ	1.9	S	○	○						105	
1	579	1	79.7	79.0	63.6	20.1	複剥	凸	Ⅲ		S		○			○			111	
1	617	1	89.2	43.8	29.5	4.7	自然	平坦	Ⅲ	1.5	S						○		104	
1	674	1	39.0	49.0	35.6	6.5	剥離	平坦	Ⅲ		F			○	○	○			99	
10	3	1			8.7	1.8	剥離	平坦	Ⅲ	不明	F	○	○			○				

第74表　接合資料2剥片属性表

ブロック	遺物No.	接合資料	剥離長	剥離幅	打面				打点		バルブ形態	背面構成						頭部調整	剥離角	備　考
					幅	厚さ	種類	形状	位置	径		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	自然	節理			
1	61	2			30.0	8.9	複剥	山型	Ⅲ	不明	S	○			○	○			94	
1	433	2			43.2	15.5	自然	平坦	Ⅲ	不明	S		○						48	
1	460	2	42.3	52.5	37.5	22.1	節理	平坦	Ⅲ	不明						○				
1	469	2	65.0	58.4	41.9	14.7	複剥	山型	Ⅰb	1	S	○				○			113	
1	473	2	67.7	53.2	19.7	6.9	複剥	凸	Ⅲ	不明	S	○			○	○			97	
1	475	2	46.5	50.3	49.8	14.2	自然	凸	Ⅲ	13.2	S	○					○		112	
1	477	2	50.3	64.0	18.6	12.5	複剥	平坦	Ⅰb	2.3	S	○			○	○			101	
1	483	2	73.4	54.4	24.7	10.2	剥離	平坦	Ⅰa	3.4	S	○				○			99	
1	559	2	57.5	61.5	37.2	15.8	節理	凹	Ⅲ	2.3	S	○				○			111	
1	610	2	59.5	82.6	59.2	14.1	自然	凸	三	1.3	S	○				○			113	

第75表　接合資料3剥片属性表

ブロック	遺物No.	接合資料	剥離長	剥離幅	打面				打点		バルブ形態	背面構成						頭部調整	剥離角	備考
					幅	厚さ	種類	形状	位置	径		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	自然	節理			
1	127	3	51.5	46.0	19.7	8.8	剥離	平坦	Ⅲ	不明	S					○			104	
1	274	3			25.7	7.9	剥離	平坦	Ⅲ	不明	S					○			113	
1	454	3	46.0	53.0	32.9	8.0	調整	山型	Ⅲ	5	S	○			○		○		103	
1	458	3	37.7	41.7	21.1	6.2	剥離	凸	Ⅱ	1.4	S	○				○			88	
1	519	3	54.3	62.0	22.6	11.4	剥離	凹	Ⅲ	不明		○			○	○		○		
1	521	3	62.0	47.4	26.7	13.9	剥離	凸	Ⅲ	4.8	S	○				○			103	
1	523	3	61.8	86.4	54.3	12.4	複剥	凸	Ⅲ	不明	S	○			○	○			96	
1	527	3	61.0	86.0	58.7	20.1	複離	山型	Ⅲ	不明	S	○				○			102	
1	528	3	97.0	58.0	9.1	3.9	剥離	平坦	Ⅰb	不明	S	○				○			97	
1	545	3	81.6	72.7	30.7	13.7	剥離	平坦	Ⅲ	不明	S	○			○	○			103	
1	557	3	59.7	67.2	24.2	15.0	剥離	平坦	Ⅲ		S	○				○			100	
1	568	3			55.3	11.6	複剥	凹	Ⅰa	不明	F	○	○			○			113	
1	587	3	48.3	40.0	27.0	12.5	剥離	平坦	Ⅲ	不明	F	○				○			118	

第76表　接合資料4剥片属性表

ブロック	遺物No.	接合資料	剥離長	剥離幅	打面				打点		バルブ形態	背面構成						頭部調整	剥離角	備考
					幅	厚さ	種類	形状	位置	径		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	自然	節理			
6	44	4	25.5	15.5	12.6	6.2	調整	凹	Ⅰa	不明	D		○		○				113	
1	60	4	55.5	65.0	20.4	8.5	複剥	凸	Ⅲ	不明	S	○	○			○			122	
1	100	4	72.6	56.3	31.8	8.1	調整	凸	Ⅲ	1.1	S		○		○	○			109	
1	231	4	44.0	35.0	30.9	10.2	自然	凸	Ⅲ	不明	F					○			72	
1	283	4	64.0	47.5	12.4	4.0	剥離	平坦	Ⅲ	不明	S	○			○	○			110	
1	389	4	52.0	33.2					Ⅰa			○	○			○				
1	455	4	32.5	38.3	16.9	4.7	剥離	平坦	Ⅲ	不明	S	○				○			96	
1	497	4	95.3	84.7	10.7	5.1	剥離	平坦	Ⅲ	1	S	○	○			○			109	
1	500	4	63.8	106.8	52.8	13.2	剥離	凸	Ⅲ	不明	S				○	○			114	
1	504	4			33.2	8.6	複剥	山型	Ⅲ	不明		○	○			○			125	
1	508	4			34.9	11.9	剥離	平坦	Ⅲ	0.7	S	○				○			112	
1	511	4	67.7	132.4	16.4	9.9	複剥	山型	Ⅲ	1.4	S	○			○	○			101	
1	515	4	62.4	51.2	17.7	4.4	剥離	平坦	Ⅲ		S	○				○			114	

第77表　接合資料7剥片属性表

ブロック	遺物No.	接合資料	剥離長	剥離幅	打面				打点		バルブ形態	背面構成						頭部調整	剥離角	備考
					幅	厚さ	種類	形状	位置	径		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	自然	節理			
1	189	7	30.5	36.0	26.0	7.4	剥離	平坦	Ⅲ			○				○				
1	593	7	64.2	28.9	11.2	5.7	剥離	平坦	Ⅰb	不明	S	○		○					102	
1	532	7	61.0	59.0	38.1	12.5	剥離	凹	Ⅲ	不明	F	○	○			○			106	

第78表　接合資料8剥片属性表

ブロック	遺物No.	接合資料	剥離長	剥離幅	打面				打点		バルブ形態	背面構成						頭部調整	剥離角	備考
					幅	厚さ	種類	形状	位置	径		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	自然	節理			
1	276	8	28.0	24.5	4.3	0.8	剥離	平坦	Ⅲ			○		○						
1	324	8	63.5	28.5	6.7	1.8	剥離	平坦	Ⅰa	不明	S		○	○	○				116	
10	7	8	113.3	48.4	17.0	7.5	調整	平坦	Ⅰa	3.4	S	○			○				104	

第Ⅶ章　縄文時代(草創期を除く)の調査

1　遺物の出土状況(図版90)

縄文時代の遺物出土状況を図版90に示した。遺物は段丘面上の平坦部分では比較的希薄で、主に斜面部分から出土している。とくに、AH４・５グリッド周辺から遺物が集中して出土していることがわかる。竪穴住居跡SI１がAG５とAH５グリッドにまたがって検出されていたことから、これらの遺物はこのSI１と関連する遺物である可能性が高い。SI１下の斜面部分から主に出土していることから、SI１からの廃棄場であったと考える。ただし、土器は大木６式古段階と新段階の土器が混在している。この斜面で土器が出土した包含層は黄褐色を呈しており、細かな分層はできない状況であった。したがって、両者の土器を層位的に分離することができなかった。土器の出土状況を検討するとほかの地点でもおおむね大木６式古段階と新段階の土器が混在して出土している。ここでも遺物包含層が層厚10㎝程度と薄いため層位的に両者を分離することはできない。

結果的には大木６式古段階と新段階を分離できるような層位的な所見は得られていない。ただし、これは主に堆積状況の悪さによるもので、両者が共伴することにはならない。縄文時代前期の遺跡の性格等についても大木６式の土器が混在して出土しているという状況をふまえて考える必要がある。

2　遺　　構(図版91、写真図版122・123)

検出された遺構の中で確実に縄文時代のものと考えられるのは、竪穴住居跡１棟、集石遺構３基、ピット１基(Pit 15)のみである。竪穴住居跡・ピットは西地区に位置し縄文時代前期末葉、集石遺構は東地区に位置し縄文時代中期前葉のものの可能性が高い。

１号竪穴住居跡(SI１)(図版91、写真図版122)

AG５・AH５区に位置する。南に向かってなだらかに傾斜する緩斜面にあり、北側の壁面が検出されたにすぎない。遺構検出面はⅡb層上面である。また、埋土がわずかに汚れたロームで地山との区別がきわめて困難であり、遺物もほとんど出土していなかったことから、当初、竪穴住居跡と気づかずに旧石器の確認トレンチを入れてしまい、北西隅と北東隅を壊してしまった。西側には立木があったことからここでも壁面は検出できなかった。したがって、平面形はPitと壁の関係などから推定せざるを得ないが、約５m四方の隅丸方形になるものと思われる。検出された掘り込みはきわめて浅く、壁面の高さは８～15㎝であった。また、壁面の内側で幅約40㎝、深さ約20㎝の溝が北側でのみ検出された。住居跡内でPitは４基検出されているが全て柱穴であり、一辺が2.5～2.8mのほぼ正方形に配置されている。柱穴の平面形は径40～25㎝の円形で比較的小さいが、深さはいずれも70㎝以上あり、Pit１・３・４は住居跡の内側に向かって、Pit２は外側に向かって傾いていた。また、Pit３では柱痕を確認することができた。炉は、４本柱穴の中心からやや東にはずれたところに地床炉が設けられているが、撹乱によって一部を壊されている。掘り込みがきわめて浅いため埋土の性格等はよくわからないが、ローム層を由来とする自然堆積土の可能性が高

いと考える。出土した遺物はきわめて少なく、埋土から縄文時代前期末のものと思われる地文のみの土器片が少量出土しているにすぎない。

1号集石遺構(図版91、写真図版123)

AG 13区に位置する。構築された生活面は(以下生活面)Ⅱa層中と思われる。礫の分布範囲は約2.5m四方で、とくに中心付近の約1.3m四方に礫が集中する。集石遺構を構成する礫は径5～20cmの円礫・亜円礫で、いずれも被熱して赤変しており、中には被熱のため割れているものもある。礫が上下差を持たずに面をなして出土したこと、下に掘り込みが確認できなかったことから、土坑を伴わない集石遺構と考える。この土坑の北東約3mから縄文時代中期前葉新崎式の同一個体破片がまとまって出土した。東地区で時期の判定できる土器はこれだけで、集石遺構の時期を示している可能性が高い。

2号集石遺構(図版91、写真図版123)

AH 10区の北東隅に位置し、一部は隣接するグリッドにかかっている。推定された生活面はⅡa層中である。礫の分布範囲は南北2.6m、東西2.9mで、比較的密集している。中心から南東寄りで礫が円形に希薄な部分があるが、これはこの集石遺構を切って掘り込まれたSK 38の範囲である。集石遺構は被熱して破砕した礫片によって構成され、個々の礫片は径5～10cmのものが多く10cmを越えるものは少ない。破砕前の形状は円礫・亜円礫だと思われるが、接合作業を行っていないためその大きさ等は不明である。ほかの集石遺構と同様に礫が上下差を持たず面をなして出土し、下に掘り込みも確認できなかったことから土坑を伴わない集石遺構であると考える。この遺構に伴う遺物は出土していない。

3号集石遺構(図版91、写真図版123)

AD 11区に位置する。推定された生活面はⅡa層中だが、Ⅱb層上面とのレベル差はわずかである。礫の分布範囲は南北約2.3m、東西1.6mで、とくに中心付近の径1.2mの範囲に密集している。集石遺構を構成する礫は径5～15cmの円礫・亜円礫でいずれも被熱して赤変しており、中には割れているものもある。ほかの集石遺構と同様に礫が上下差を持たず面をなして出土し、下に掘り込みも確認できなかったことから土坑を伴わない集石遺構であると考える。この集石遺構に伴う遺物は出土していない。

Pit 15(図版91、、写真図版123)

AD 5 －11区に位置し、長径43cm、短径33cm、深さ34cmのピットである。埋土は自然堆積と考えられ、4層に細分可能である。いずれも地山のローム層に由来する土で埋土の識別には困難が伴った。埋土上部に食い込んでⅠ群土器4類の底部が出土しており、このピット検出の契機となった。

3 遺　　物

A 土　　器(図版92～94、写真図版167・168)

帰属する時期にもとづいて土器の分類を行った。破片資料が多く、器形が十分に把握できないため文様を中心に分類を行わなければならず、必ずしも根拠が十分ではない部分もある。所属時期による土器群の設定は以下のとおりである。

第Ⅰ群土器……前期末葉の土器

第Ⅱ群土器……中期の土器

第Ⅲ群土器……後期・晩期の土器

(1)　第Ⅰ群土器(1～59)

出土した縄文土器の大部分がこれにあたる。大木6式の土器を主体とし、わずかに北陸系の土器がこれに加わっている。また、大木6式の古段階と新段階の土器が出土しているが、これらが混在して西地区を中心に出土している状況である。したがって、ここでは古段階と新段階が層位的に分離されて出土した福島県法正尻遺跡〔松本1991〕、新潟県猿額遺跡〔滝沢ほか1995〕を参考にしながら、文様にもとづいて細分した。本来であれば器形による分類を行った後に、文様による分類を行うべきと考えるが、出土土器の多くは破片資料で器形が復元できるものが少ないため、個々の土器の記載の中で器形が推定可能なものについてこれを述べることにする。文様にもとづいた第Ⅰ群土器の分類基準は以下のとおりである。

1類：口縁部に縄側面圧痕が施されたもの。

2類：粘土貼り付けによって複合口縁状に肥厚した幅の狭い口縁部を持つもの。口縁部には楕円状の区画がもうけられている。

3類：口縁部の下端に三角形状の彫り込みが施されたもの。

4類：幅5㎜前後の連続する爪形文が施されたもの。

5類：爪形文の施された幅5㎜前後の隆線を横位・斜位を基本に施すもの。

6類：肥厚する上下幅の狭い口縁部に沈線で文様が描かれたもの。

7類：板状に肥厚する口縁部に沈線で文様が描かれたもの。

8類：沈線の側縁に爪形文が施されたもの。

9類：細い粘土紐を貼り付けて文様を描くもの。粘土紐上に細かい爪形文が施されることが多く、描かれる文様も4類に比べると幾何学的で複雑である。

10類：半截竹管による半隆起線で平行沈線、渦巻文が施されたもの。

11類：その他分類不能の文様。

12類：口縁部に無文帯のめぐるもの。

以下、この分類に沿って出土土器の説明を行う。

1類(4)

4は丸く肥厚する口縁部に撚りの緩いLRの縄側面圧痕が施されたものである。波状口縁を持ち、頸部の屈曲から胴部にかけてゆるやかに張った深鉢になるものと思われる。

2類(5・6)

5・6は複合口縁状に肥厚した口縁部に楕円状の区画が施されたものである。いずれも、胴部が円筒形状となる深鉢であろう。

3類(2)

2は口縁に貼り付けた粘土紐の下端に三角形の彫り込みを施した後、その下にさらに粘土紐を貼り付けたものである。口縁は4単位の突起を持ち、この突起には彫り込み前と後の粘土紐によって区画が設けられ、その中に3本の粘土紐が縦に貼り付けられている。頸部下端の隆線によって頸部と胴部が区画され、胴部にはLR縄文が施される。器形は胴部上半の張った深鉢である。

4類(3・7～11・14～18)

3は胴部の上半に連続する爪形文で文様の描かれた土器である。口縁部と胴部は横位の2条の連続爪形文で区画され、胴部上半には斜行渦巻文とその下に鋸歯状の沈線文が描かれている。胴部上半と下半は横

位の連続爪形文で区画されている。器形は胴部上半の張った深鉢となり金魚鉢型にはならないようである。7は頸部に2条の連続爪形文が横位に施され、肥厚する口縁部の下端に浅い刻みが加えられている。口縁はゆるやかな波状口縁である。8は幅の狭い肥厚する口縁部に2列の爪形文が施されたもので、口縁の内側は小波状を呈する。器形は円筒形状の深鉢であろう。9・10は同一個体と考えられ、板状に肥厚した口縁部に連続爪形文で同心円の文様が描かれたものである。同心円の中心にはボタン状の突起が貼り付けられているが、9では剝落している。また、口縁部と胴部が横位の連続爪形文で区画されている。11は肥厚した口縁部に沈線で楕円文が描かれ、頸部には横位の連続爪形文が施されている。器形は円筒形状の深鉢であろう。14・15はいずれも胴部破片で、14には1条の、15には2条の横位の連続爪形文が認められる。16・17・18も胴部破片であるが、隆線の脇に沿って連続爪形文が施されている。

5類(12・19)

12は口縁に沿って2列の隆線が横位に施され、その下には隆線で幾何学的な文様が描かれている。口縁部は肥厚していない。19は胴部破片で横位の隆線とそれに連結する2条の斜行する隆線が認められる。

6類(13)

13は厚く肥厚する口縁部に横位と斜行する沈線で文様が描かれ、口縁部の下端には楕円形の刻みが施されている。器形は円筒形状の深鉢であろう。

7類(22～24)

22は横位と斜行する沈線で文様が描かれたものである。23は口縁部に2条の沈線で横位の文様が描かれている。器形は22・23とも円筒形状の深鉢であろう。24は外傾した口縁部と強く張った胴部を持つ深鉢で、口縁部には沈線で鋸歯状の文様が描かれている。

8類(21)

21は外傾した口縁部と強く張った胴部を持つ深鉢で、口縁部から肩上半にかけて文様が描かれている。文様は口縁、口縁下の屈曲、肩の中位に施された横位の沈線で口縁部と肩部上半の2つの文様帯に区画されている。口縁部には斜行する沈線や鋸歯状の文様が描かれ、肩上半は平行する斜行沈線で文様が描かれている。

9類(20・25)

20は複合口縁状に肥厚した口縁部を持つ円筒形状の深鉢である。口縁部は細い爪形文が施された隆線で楕円状に区画され、横位の隆線と沈線で区画された胴部上半の文様帯には2本1対の隆線で幾何学状の文様が描かれている。この2本1対の隆線は、まず2本の粘土紐に細い爪形文を施した後で粘土紐の間に沈線を引き直すという手法で作出されている。したがって、沈線を引いた後にその側縁に爪形文を施す8類とは明らかに文様の施文方法が異なる。25は肥厚しない口縁部の上下端に横位の粘土紐が2条貼り付けられたものである。器形は円筒形状の深鉢であろう。

10類(32・33)

32は重層する沈線で横位、縦位、同心円状の文様が描かれたものである。33は重層する沈線で横位、同心円の文様を描いた後、先の鋭く尖った工具で放射状、縦位の重層する沈線が施されたものである。また、いずれも同心円の中心には円形の彫り込みが、33には三角形状の彫り込みが施されている。これらの土器は、新潟県柿崎町鍋屋町遺跡第Ⅲ群第3類土器〔寺村・室岡ほか1960〕に類例を求めることができ、北陸系の土器であると考えられる。

11類(1・34・35)

1は口縁部が外傾し、胴部上半の張った深鉢である。口縁部には山型に隆帯が貼り付けられ、これに斜めの刻みが施されている。胴部はLRの結節縄文による地文のみである。34・35は横位に粘土紐の貼り付けられた胴部破片で、35には粘土紐上に縦の刻みが施されている。

12類(26～30)

26～30は口縁部に無文帯のめぐるものである。27は波状口縁をなし、28は口縁部と胴部が隆線で区画されている。

その他の土器

胎土などから無文ないし地文のみの破片の大部分は前期末のものと思われる。37～48は底部の破片である。37は金魚鉢形の深鉢の底部である。40・42は胴部との接合部で円盤状に剝離した底部で、大木6式土器にしばしば認められ、土器製作技法を反映している可能性のあることが指摘されている〔丹野・本間ほか1991〕。48の胴部に認められる地文は条の太さの異なる単節のRL縄文を縦方向に回転したものである。49～59は無文ないし地文のみの胴部破片である。単節のLR原体を横方向に回転したものが多いが、撚りの緩いLRの縄側面圧痕(53)、網目状撚糸文(54)、結節縄文(55・56)なども認められる。

(2)　第Ⅱ群土器

中期の土器は新崎式の同一個体破片が東地区のAG13区でおよそ50cm四方の範囲からまとまって出土したのみである。これらの土器片はいずれも細片で、明らかに同一個体のものでありながら接合関係があまり認められない。完形に近い土器が廃棄されたというよりは、何らかの別の行為がかかわっていた可能性が高い。あるいは、耕作の影響を受けているのかもしれない。ここでは、これらの土器片の中から接合により大型破片となったものと底部のみを掲載する。60aは突起部分の口縁部破片である。横位の竹管平行沈線と連続爪形文によって口縁部と頸部の文様帯が区画される。口縁部文様帯は格子目沈線で充填され、頸部文様帯は無文である。60bは胴部破片で竹管平行沈線による縦方向の区画やB字状文の中が格子目沈線で充填されている。この土器は1号集石遺構の北東約3mから出土しており1号集石遺構の所属時期を示している可能性が高い。

(3)　第Ⅲ群土器

所属時期の明確な土器で縄文時代後期から晩期のものと考えられるものである。61は口縁下からLR縄文が施されたもので、胎土・調整などから後期のものと思われる。62は無文の口縁部文様帯の下に横位の連続する刻みが加えられたものである。口縁部には突起が設けられている。63は折り返し口縁の土器で無文である。62・63は晩期後葉のものと思われる。

B　石　　器

すでに、土器の記述で指摘したように、出土土器の大半を占める前期末の土器は主に西地区から出土し、東地区から出土した土器で時期のわかるものは中期前葉のものだけである。したがって、それぞれの地区から出土した石器も大枠では土器と同時期のものと考えることができる。そこで、ここでは石器を西地区、東地区に分けて掲載し記述することにする。

(1) 分　　類

石器は石鏃、石匙、篦状石器、不定形石器、磨石類などの各種トゥール、剥片、チップ、石核に器種分類した。これらのうち、五丁歩遺跡における高橋の分類に基づいて不定形石器をさらに細分した(第79表)。各器種の分類基準は以下のとおりである。

石鏃

鋭利な先端部が作出された小型で薄手の石器を石鏃とする。

石錐

調整によって鋭利な先端部が作出された石器を石錐とする。また、調整によらない先端部に磨耗、微小剥離痕などが認められた石器も石錐に含める。

石匙

ノッチ状の二次加工によってつまみが作出された石器を石匙とする。

篦状石器

細長い打製石器で一端に長軸と直交ないし斜行する刃部を作出した石器で、D字形の断面形を持ち、幅の最大値が石器の刃部付近にあるもの。また、刃部は片刃であることが多い。比較的硬質の石材が用いられることが多いが、本遺跡例では軟質の石材も多用されている。

両極石器

対向する辺ないし端部に両極剥離によると思われる密集する剥離痕やつぶれを持つ石器、または両極剥離によると思われる平坦でリングの密集する剥離痕を持つ石器。いわゆる、ピエス・エスキーユ、両極石核、両極剥片がこれに含まれる。三者の識別については、個々の石器の観察にもとづいて石器各説で示したが、点数が少ないこともあり十分な根拠があるわけではない。

打製石斧

細長い打製石器で一端に長軸と直交する刃部を作出した石器で断面が扁平なもの。篦状石器と比べた場合、軟質の石材が用いられることが多い。

磨製石斧

細長い磨製石器で一端に斧状の刃部が作出されたもの。

磨石類

表面に磨痕、凹み痕、敲打痕の最低1つが認められた礫を磨石類とする。

不定形石器

剥片ないし薄手で扁平な礫を素材として二次加工が施された石器で定型的な形態をとらないものを不定形石器とする。基本的に五丁歩遺跡の分類を踏襲して細分したが〔高橋1992〕、①五丁歩遺跡におけるH・J類は微小剥離痕ある剥片として剥片類に含める、②資料数の問題などから各分類内での細分は特に行わないなどの違いがある。分類の名称も第79表に示した五丁歩遺跡のものと同じとした。

石核

ネガティヴな最終剥離面を持つ石器。不定形石器の一部や礫器類との区別が困難だが、最終剥離面の大きさがおおよそ20㎜を越えているものを石核とした。また、剥離の大きさ以外に規則性、連続性を基準とする場合もある。以下の4類型に細分した。

A類：作業面転移、打面転移を頻繁に行って剥片が剥離され、多面体を呈するもの。

第79表　不定形石器分類表

分類	刃部形状		刃部ライン	素材	二次加工部位	細分類
A類	スクレイバー 中型・急角度・連続剝離		外彎状	縦長	側縁	A類
				横長	府縁・側縁	
B類	スクレイバー 小型・急角度・連続剝離		外彎状	縦長	側縁	B類
				横長	府縁・側縁	
C類	鋸歯縁石器	大型・急角度・鋸歯状剝離	直線状 外彎状	縦長・厚手	側縁	C1類
				横長・厚手	底縁	
		中型・小型・急角度・鋸歯状剝離	直線状 外彎状	縦長・薄手	側縁	C2類
				横長・薄手	底縁・側縁	
D類	鋭利な尖端部を持つ石器	大型・急角度剝離	直線状 内彎状	厚手	片側縁(一方の片側縁は古い剝離面や折断面等を利用する)	D1類
					両側縁	
		大型・浅角度剝離	直線状 内彎状	――	片側縁(D1類に同じ)	D2類
					両側縁	
		中型・小型剝離	直線状 内彎状	薄手	片側縁(D1類に同じ)	D3類
				厚手	片側縁(D1類に同じ)	D4類
				――	両側縁	石錐
E類	拓入石器(ノッチ)	大型ノッチ 大型・中型・拓入剝離	内彎状	縦長・厚手	側縁	E1類
				横長・厚手	底縁	
		小型ノッチ 大型・中型・拓入剝離	内彎状	縦長・薄手	側縁	E2類
				横長・薄手	底縁・側縁	
F類	中型・小型・不連続剝離		――	縦長	側縁	F1類
			端部に丸味	縦長	側縁と底縁	
			――	横長	底縁・側縁	F2類
G類	大型・中型・浅角度・不連続剝離		直線状 外彎状	縦長・厚手	底縁	G類
				横長・薄手	側縁	
H類	無加工(使用痕あり) 中型・小型・浅角度・不連続剝離		外彎状	背面は自然面	底縁・側縁	H類
I類	端部に小型・連続剝離		端部に丸味	縦長・厚手	端部	I類
				横長・薄手	端部	
J類	無加工(使用痕あり)		――	縦長	側縁	J1類
					側縁と底縁	
				横長	底縁	J2類
					底縁と側縁	
K類	両面加工(調整)石器 刃部平面形は波状、側面観はジグザグ状		外彎状	厚手	ほぼ全周(円形・楕円形)	K1類
					ほぼ半周(半円形状)	K2類
			――	――	K1・K2類は以外(不整形)	K3類
複合	A～K類の組み合わせ		――	――	――	複合

※ゴシック以外の明朝体は、一般的傾向を表す。(高橋1992、表28より)

B類：一つの打面から連続的に剝片が剝離されたもの。

C類：周縁から中心に向かって求心的に剝離が行われたもの。打面と作業面を入れ替えて剝離が進行するため、周縁が鋭く円盤状となる。

D類：打面と作業面が固定されて縦長の剝片が連続的に剝離されたもの。いわゆる石刃石核に近いもの。

(2) 石 器 各 説

西地区から368点、東地区から82点の縄文時代の石器が出土した。それぞれの地区での石器組成は第80表のとおりである。また、表面採集資料など出土地点の不明な石器が54点存在する。観察表は図示した石器についてのみ掲載した。本文、観察表、実測図、写真の遺物番号は全て統一してある。観察基準は第16図のとおりである。

西地区出土石器(図版95～103、写真図版169～173)

石鏃　1点出土した。1(実測図番号)は西地区出土であるが、表面採集のため出土地点は明確ではない。凝灰岩製の有茎石鏃である。先端と基部をわずかに欠損する。

石錐　1点出土した。2は珪質頁岩製の石錐である。先端側左右両側縁の調整によって錐状の刃部が作

第80表　縄文時代の石器、器種・石材組成表

西地区

	石鏃	錐形石器	石匙	篦状石器	両極石器	打製石斧	磨製石斧	磨石類	不定形石器	石核	剝片	チップ	計
頁岩				2		1			13	10	64	9	99
珪質頁岩		1						1			7	2	11
凝灰岩	1			1	2				23	11	141	3	183
珪質凝灰岩									1		2		3
流紋岩					4				6		18		27
鉄石英									2	2	13	4	21
玉髄									2		8	2	12
チャート											2	1	3
砂岩											4		4
ホルンフェルス											1		1
粘板岩								1			1		2
安山岩								1					1
凝灰角礫岩													1
花崗岩								1					1
計	1	1	0	3	6	1	0	4	47	23	261	21	368

東地区

	石鏃	錐形石器	石匙	篦状石器	両極石器	打製石斧	磨製石斧	磨石類	不定形石器	石核	剝片	チップ	計
頁岩									9	2	13	2	26
珪質頁岩	1		2								3		6
凝灰岩		1		3		3			4	1	12		24
珪質凝灰岩									1				1
流紋岩						1					1		2
鉄石英													0
玉髄									2		2	3	7
チャート												1	1
砂岩						2	1	2	1		3		98
ホルンフェルス						1							1
粘板岩						1							1
安山岩								2					2
凝灰角礫岩							2						2
花崗岩													0
計	1	1	2	3	0	8	3	4	17	3	34	6	82

出されている。調整は両側縁とも両面加工で、いずれも主要剥離面側の調整の方が背面調整より新しい。

篦状石器　3点出土した。3は背面に自然面を持った凝灰岩製の厚手の剥片を素材として、両側縁を中心に調整が施されたものである。調整は半両面加工で素材の主要剥離面を大きく残している。刃部にはあまり調整が施されておらず、未成品の可能性もある。刃部左に樋状剥離が1条施されている。4は両面加工で仕上げられたもので、断面形はD字形というよりはレンズ形に近い。石器の表裏の判断が難しいが、刃部の形態から判断した。頁岩製である。7は頁岩製の篦状石器である。両側縁が両面加工で、基部側の端部と刃部が片面加工で調整されている。調整は比較的大振りの加工によってなされている。

両極石器　5は流紋岩製のピエス・エスキーユである。上下両端には両極剥離によるものと思われる微細な剥離痕とつぶれが認められる。また、左側縁の古い横方向からの剥離面以外は全て両極剥離による。6も流紋岩製のピエス・エスキーユである。上下両端には両極剥離による剥離痕が見られる。10は剥片素材の石核を素材とするピエス・エスキーユである。上下と左右のやや尖った端部に両極剥離による剥離痕とつぶれが認められる。凝灰岩製である。8は流紋岩製の厚手の両極剥片を素材としたピエス・エスキーユである。主要剥離面に左側縁から施されている剥離は主要剥離面を切っている。したがって、この石器は両極剥離による素材の獲得、側縁の調整、ピエス・エスキーユとしての使用という過程を経ていることがわかる。9は頁岩製の両極石核である。上下と左右に両極剥離による剥離とツブレが認められる。石器正面の上からと右からの剥離はいずれも両極剥離による。断面が明瞭な楔形にならないこと、比較的大きな剥片が剥離されていることから両極石核と判断した。

打製石斧　11は薄手の横長剥片を素材として、刃部を除く周縁に両面加工が施され器体が整形されている。調整が周縁付近に限られるため、素材の背面、主要剥離面は大きく残されており、半両面加工の打製石斧ということができる。刃部が薄く、比較的小型の折れ状の剥離が認められる。頁岩製である。

磨石類　12は扁平な円礫の表裏面に磨痕が認められるものである。また、周縁にはまばらな敲打痕が認められる。安山岩製である。13はなめらかな磨痕を持つもので粘板岩製である。

不定形石器　出土した48点の不定形石器のうち34点を図示した。内訳はB類5点、C類9点、E類6点、F類13点、分類不能1点である。B類はいずれも剥片を素材とし、14・18・16は典型的なスクレイパー刃部が、17は厚手の剥片、15は石核を素材として厚い刃部が作出されたものである。14が頁岩、18が流紋岩の他は凝灰岩を石材としている。C類はいわゆる鋸歯縁石器に相当するもので、いずれも剥片を素材にしている。21・27のように小型の剥離を連続させて一つのノッチを構成するものと、1枚の大型の剥離で一つのノッチを構成するものとがある。E類は抉り状の調整が連続しないものでいわゆるノッチ、抉入石器に相当する。29が連続する小型の剥離でノッチを作出している他は大型の一枚の剥離がノッチを構成している。いずれも剥片素材であるが33・29のように比較的薄手のものと、28・26・31・32のように厚手のものとがある。F類は不連続な調整が施されたもので、素材の形状をほとんど変えないものである。全て剥片を素材とし、34・36・38・43・40・46のように縦長剥片を素材とするものや、30のように節理割れ剥片を素材とするもの、長さと幅のほぼ等しい厚手の剥片を素材とする35・37・39・41などがある。調整は素材の側縁や末端に両面加工、片面加工を施すものが多く、特に両面加工の割合が高く、35のように大きさにばらつきのある剥離が連続するものと、36のように不連続でまばらな剥離が施されるものがある。45は分類不能のもので篦状石器の基部状の加工が施されている。末端は背面からの折断によって失われている。

石核　出土した23点のうち18点を図示した。内訳はA類6点、B類2点、C類8点、D類1点、分類不能1点である。A類は打面転移、作業面転移が頻繁に行われたものである。48と49は同一母岩の凝灰岩を

石材とするが接合関係は認められなかった。円礫を分割した後、それぞれの分割剥片を石核としたものと思われるが、剥離された剥片の数はそれほど多くない。２点とも被熱している。51・52・50・53はいずれもサイコロ状を呈する石核で、石材は51が凝灰岩、52が頁岩、50・53が鉄石英と硬質の石材が多く用いられている点に特徴がある。54と55はＢ類である。いずれも厚手の剥片を素材とし、54は素材の主要剥離面を打面、側面を作業面として、55は素材の背面を打面、主要剥離面を作業面として剥片が剥離されている。いずれも剥離された剥片は長さ３㎝幅４～５㎝程度の横長剥片であったものと思われる。石材はいずれも凝灰岩である。56～63はＣ類の石核である。いずれも厚手の剥片を素材とし、打面と作業面を入れ替えながら求心的に剥片が剥離されている。石材は59が鉄石英、61～63が頁岩のほかは凝灰石である。64は頁岩製のＤ類の石核である。剥片ないし分割礫を素材とし、一枚の大きな剥離面を打面として連続的に縦長剥片を剥離している。打面調整、180度の打面転移は認められない。頭部調整、稜形成などが行われていたかは不明である。また、作業面の長さ、幅ともに小さく大型の整った形態の縦長剥片はそれほど多くは剥離されていなかったものと思われる。65は厚手の剥片の素材を切断し、この面を打面、素材の背面を作業面として剥片が剥離され、さらにこの作業面を打面、素材の主要剥離面を作業面として剥片が剥離された石核である。打面転移、作業面転移を行っていることからＡ類に分類できるかもしれないが残核の形態が異なるため、ここでは分類不能とした。凝灰岩製である。

東地区出土石器(図版103～108、写真図版173～176)

石鏃　66は頁岩製の凹基の石鏃である。

石匙　２点出土した。67は剥片に両面加工による調整が施されたもので、製作途中の折れで欠損した破片と思われる。つまみ部は遺存していないが調整から石匙の破片の可能性が高いと判断し図示した。頁岩製である。68は剥片を素材とし、全周に両面加工で刃部とつまみ部の作出された石匙である。石材は良質の珪質頁岩である。

石錐　１点出土した。69は凝灰岩製の大型剥片を素材とした石錐で、微細な調整によって錐状の尖頭部が作出されている。主要剥離面右側縁には素材の打面と主要剥離面との稜線を除去する調整が認められる。

篦状石器　３点出土した。70は凝灰岩製の剥片を素材とし、素材の打面を除く全周に両面加工による調整が施されている。特に、刃部付近は細かな調整で整形されている。71も凝灰岩製の剥片を素材とした篦状石器で全周が両面加工によって調整されている。特に、左側縁には顕著なツブレが認められる。主要剥離面の刃部付近は使用痕と思われる磨耗が認められ、刃部に直交する線状痕が肉眼でも観察できる。79は凝灰岩の剥片を素材とし、両側縁に調整が施され素材の鋭い縁辺を刃部としている。左側縁の調整は両面加工だが、右側縁は素材剥片剥離時に生じた折れ状の剥離面から背面に施されている。これらの篦状石器はいずれも軟質の石材が用いられている点に特徴がある。

打製石斧　76は流紋岩の薄手の節理割れ剥片を素材とし、ほぼ全周に両面加工が施されている。特に両側縁の基部側半分には、着柄痕あるいは着柄のための調整かもしれないツブレが認められる。72は扁平礫を素材とし、基部を除く全周に両面加工の施された打製石斧である。両側縁の基部側半分には76と同様のツブレが認められる。ただし、刃部の形態が十分に整えられておらず、未成品あるいは失敗品の可能性も否定できない。73は凝灰岩の剥片を素材とし、刃部を除く全周に両面加工が施されている。刃部は片面加工による調整が施されているが形状は十分には整えられてはいない。未成品の可能性が高い。75は粘板岩の横長剥片を素材とし、全周に調整の施された打製石斧である。素材剥片は背面に礫面を大きく残した貝殻状の剥片である。77、78は砂岩の剥片を素材とし、両側縁に両面加工の施されたものである。いずれも、

片面に礫面を大きく残しており、貝殻状剥片を素材としたものと思われる。80は凝灰岩の剥片の全周に両面加工の施されたもので、打製石斧ないし篦状石器の未成品と思われる。

磨製石斧　3点出土した。いずれも折れで欠損しており完形品はない。折れは3点とも器体を横断する方向で縁辺には小剥離が認められ、使用による破損と思われる。81は凝灰角礫岩製の基部である。両側縁とも研磨で仕上げられており、断面は長方形を呈する。82は側面の研磨はそれほど行われず、断面は楕円形を呈する。刃部の平面形は円刃、断面形は両凸刃である。凝灰角礫岩製で基部側を欠損する。83は砂岩製で、平面形は最大幅が刃部付近にある。側縁の研磨は比較的顕著で断面形は隅丸長方形となり、刃部の平面形は円刃、断面形は両凸刃である。砂岩製で基部側を欠損する。

敲石　84は砂岩の乳棒状を呈する礫の先端周辺に敲打痕の認められるものである。基部側を折れで欠損する。

磨石類　85は花崗岩製のやや扁平な円礫の表裏面にそれぞれ2か所の窪みを持つ。表面状態が悪いため敲打痕等の有無は不明である。

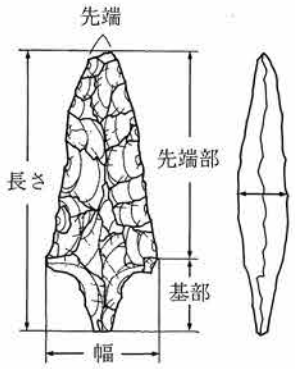
不定形石器　出土した17点のうち9点を図示した。この内訳はA類2点、B類1点、C類1点、D類1点、E類1点、F類2点、K類1点である。86・87は同一母岩のA類で節理面で接合する。いずれも素材を横方向に用いて、大きな剥離を連続させて厚いスクレイパー状の刃部が作出されている。88は玉髄製で横長剥片素材のB類である。素材の末端にスクレイパー状の刃部が作出されている。90はC類で一枚の剥離でノッチを形成しこれを連続させたもので凝灰岩製である。89はE類で緑色凝灰岩製である。91はD類で基部側を折れで欠損する。両側縁へのまばらな調整で尖頭状の刃部を作出している。頁岩製である。92は凝灰岩製の剥片の右側縁の主要剥離面に調整の施されたF類である。素材剥片の末端はヒンジフラクチュアーを呈する。94は断面三角形に両面加工されたK類で頁岩製である。裏面下に残された古い剥離面は素材の主要剥離面で剥片素材であることがわかる。両面加工ということで不定形石器K類としたが、断面が甲高の三角形ということもあり、石核との分類に問題を残している。95は凝灰岩製の厚手で大型の打面再生剥片の右側縁に大きさの異なる剥離で調整の施されたF類である。

石核　出土した3点を図示した。96は頁岩製の厚手の剥片を折断しこれを打面、右側縁を作業面として剥片が剥離された石核である。左側縁でも素材の背面である自然面を打面とし、主要剥離面を作業面として剥片が剥離されている。A類である。97は打面と作業面を入れ替えながら周縁から剥片の剥離されたものでC類である。凝灰岩製で素材は不明であるが、厚手の剥片素材である可能性が高い。98は厚手の頁岩製剥片を素材とし、主要剥離面を打面として剥片を連続的に剥離した石核である。作業面の裏側は折れ面によって失われている。

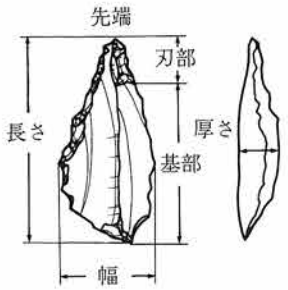
出土地点不明石器

表採品などで出土地点の不明なものから4点を図示した。99は両面加工で返しのない棒状の石鏃である。先端には平坦剥離が認められ基部は折れており、これらは石鏃としての使用中に生じた衝撃剥離である可能性が高い。100～101の3点はいずれもF類の不定形石器である。101は緑色凝灰岩の剥片を素材とし、素材打面側の主要剥離面に両面加工による調整が施されている。両側縁にはまばらで不規則な調整が認められる。100は凝灰岩製の剥片の周縁にまばらに加工が施されたものである。素材の末端はヒンジフラクチュアーを呈する。102は凝灰岩製の剥片を素材とし、右側縁と末端にまばらな背面加工による調整が施されている。

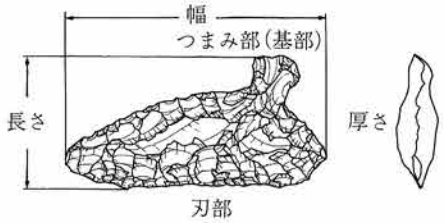
石鏃：先端を上、基部を下



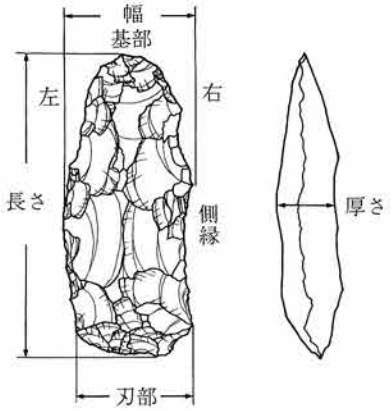
錐形石器：先端を上、基部を下、主要剝離面ないし扁平面を裏面



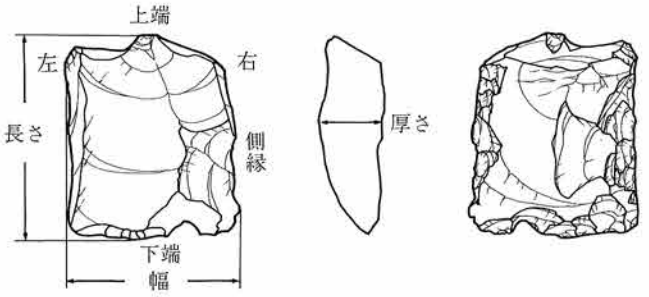
石匙：つまみ部を上、刃部を下、主要剝離面を裏面



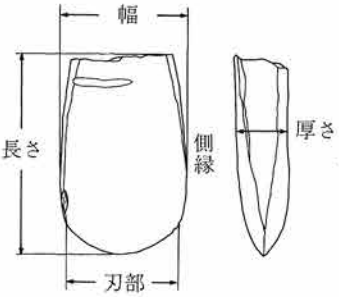
篦状石器：基部を上、刃部を下、主要剝離面ないし扁平面を裏面



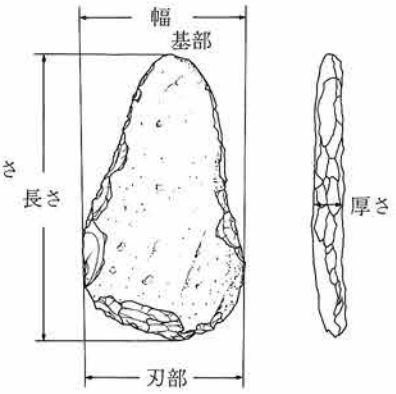
両極石器：両極剝離の方向を上下、扁平面を裏面



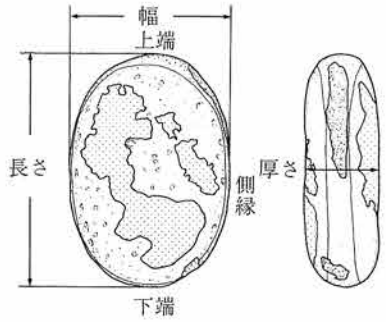
磨製石斧：刃部を下、基部を上



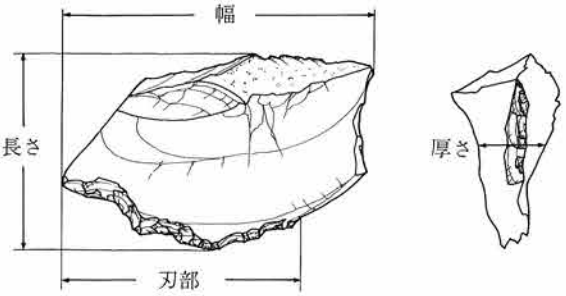
打製石斧：刃部を下、基部を上、主要剝離面ないし扁平面を裏面



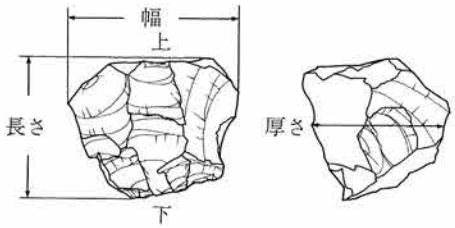
磨石類：長軸を上下、扁平面を表裏面



不定形石器：主要剝離面の方向あるいは石器の長軸を上下、刃部加工を正面



石核：最終剝離面の打面を上、作業面を正面



第16図　縄文石器主要器種の実測展開方法と部位名称、計測基準

第81表　縄文土器観察表

	器種	出土地点		層位	分類	法量		地文	胎土		備考
		グリッド	遺構			口径	底径		色調	混和物	
1	深鉢	ＡＤ５		Ⅱａ	11	36.6	16.2	ＬＲ	にぶい黄橙	石英・長石・岩片	
2	深鉢	ＡＧ６		Ⅱａ	3	32.8		ＬＲ	橙	石英・岩片	
3	深鉢	ＡＨ５		Ⅱａ	4	36		ＬＲ結節	にぶい黄橙	長石・玉髄片	
4	深鉢	ＡＤ５		Ⅱｂ	1				にぶい黄橙	石英・長石・赤褐色岩	
5	深鉢	ＡＨ４		Ⅱｂ	2			ＬＲ	にぶい黄橙	石英・長石・岩片	
6	深鉢	ＡＨ４		Ⅱｂ	2				にぶい黄橙	石英・長石・岩片	
7	深鉢	ＡＧ３		Ⅱｂ	4				にぶい黄橙	石英・岩片	
8	深鉢	ＡＨ４		Ⅱａ	4			ＬＲ	橙	岩片	
9	深鉢	不明			4				にぶい黄橙	石英・長石・岩片	
10	深鉢	ＡＨ５		Ⅱｂ	4				橙	石英・岩片	
11	深鉢	ＡＨ５		Ⅱａ	4				にぶい黄橙	石英・長石	
12	深鉢	ＡＨ４		Ⅱｂ	5				にぶい黄橙	石英・雲母・岩片	
13	深鉢	ＡＥ４		Ⅱｂ	6				にぶい黄橙	長石・岩片	
14	深鉢	ＡＦ４／ＡＨ３		Ⅱａ	4				橙	石英	
15	深鉢	ＡＨ５		Ⅱａ	4				にぶい黄橙	石英・角閃石	
16	深鉢	ＡＨ５		Ⅱａ	4				橙	石英・長石	
17	深鉢	ＡＦ７		Ⅱａ	4				にぶい黄橙	石英・角閃石・岩片	
18	深鉢	ＡＤ４		Ⅱｂ	4				にぶい黄橙	石英	
19	深鉢	ＡＧ８		Ⅱｂ	5			ＬＲ	にぶい黄橙	石英・雲母・岩片	
20	深鉢	ＡＧ６		Ⅱａ	9	21.2		ＬＲ	橙	石英・長石	
21	深鉢	ＡＦ８		Ⅱｂ	8	27.6		ＬＲ	にぶい黄橙	石英・岩片	
22	深鉢	ＡＨ５		Ⅱｂ	7				灰褐色	石英	
23	深鉢	ＡＨ３／ＡＥ３		Ⅱａ	7			ＬＲ	橙	石英	
24	深鉢	ＡＧ８	ピット15	Ⅱｂ	7				明黄褐色	石英・岩片	
25	深鉢	ＡＧ８		Ⅱｂ	9	29.5			にぶい黄橙	長石	
26	深鉢	ＡＤ５			12			ＬＲ	にぶい黄橙	石英	
27	深鉢	ＡＦ７		Ⅱａ	12				橙	石英・岩片	
28	深鉢	ＡＨ４		Ⅱｂ	12			ＬＲ	にぶい黄橙	石英・長石	
29	深鉢	ＡＧ９		Ⅱａ	12				にぶい黄橙	石英・角閃石	
30	深鉢	ＡＤ５		Ⅱｂ	12				にぶい黄橙	石英・長石	
31	深鉢	ＡＨ７		Ⅱｂ					橙	石英・長石	
32	深鉢	ＡＨ５		Ⅱｂ	10				にぶい黄橙		北陸系
33	深鉢	ＡＨ５		Ⅱｂ	10				にぶい黄橙		北陸系
34	深鉢	ＡＧ６		Ⅱａ	11			ＬＲ	にぶい黄橙	石英・長石	
35	深鉢	ＡＤ５	ピット15	Ⅱａ	11			ＬＲ	橙	石英	
36	深鉢	ＡＨ５		Ⅱａ					橙	石英・長石	
37	深鉢	ＡＤ５					10.2	ＬＲ	にぶい黄橙	石英・岩片	
38	深鉢	ＡＨ５		Ⅱｂ			14.5	ＬＲ	橙	石英・長石	
39	深鉢	ＡＨ５		Ⅱｂ			11.7		にぶい黄橙		
40	深鉢	ＡＨ５		Ⅱｂ			8.3		にぶい黄橙	岩片	
41	深鉢	ＡＨ５		Ⅱｂ			10.9		にぶい黄橙	石英	
42	深鉢						8.7		にぶい黄橙		
43	深鉢	ＡＧ９		Ⅱｂ			9.9		にぶい黄橙	角閃石	
44	深鉢	ＡＩ８		Ⅱａ			10		橙	岩片	
45	深鉢	ＡＧ３		Ⅱｂ			7.5		にぶい黄橙	長石	
46	深鉢	ＡＧ６		Ⅱａ			9.4		明赤褐色		
47	深鉢	ＡＦ７		Ⅱｂ			9.5	ＲＬ	橙	岩片	
48	深鉢	ＡＤ６		Ⅱｂ				ＬＲ	にぶい黄橙	岩片	
49	深鉢	ＡＧ５		Ⅱａ				ＬＲ	橙	長石・岩片	
50	深鉢	ＡＨ５	ピット15	Ⅱｂ				ＲＬ	にぶい黄橙	石英・長石	
51	深鉢	ＡＨ５		Ⅱｂ				ＬＲ	にぶい黄橙	長石	
52	深鉢	ＡＤ５						ＬＲ０段		長石・石英・雲母	
53	深鉢	ＡＥ３		Ⅱａ				ＬＲ	橙	岩片	
54	深鉢	ＡＧ９		Ⅱａ				網目状	にぶい黄橙	角閃石	
55	深鉢	ＡＤ５		Ⅱｂ				ＬＲ結節	にぶい黄橙	長石・玉髄	
56	深鉢	ＡＨ５		Ⅱａ				ＬＲ結節	橙	石英・長石	
57	深鉢	ＡＤ５		Ⅱａ							52と同一個体
58	深鉢	ＡＧ４		Ⅱｂ				ＬＲ	にぶい黄橙	長石・岩片	
59	深鉢	ＡＦ７		Ⅱａ				ＬＲ	にぶい黄橙		
60	深鉢	ＡＧ13		Ⅱａ	Ⅱ群		10.8		にぶい黄褐	岩片	
61	深鉢	ＡＧ６		Ⅱａ	Ⅲ群			ＬＲ	にぶい橙	石英・長石・雲母	
62	深鉢	ＡＨ６		Ⅱａ	Ⅲ群				橙	石英	
63	深鉢	ＡＧ５		Ⅱｂ	Ⅲ群				にぶい黄橙	長石	

第82表　縄文時代の石器観察表(1)

	出土地点			層位	分類		法量			重量	石材	素材	備考
	グリッド	南北	西東		器種	分類	長さ	幅	厚さ				
1	表面採集				石鏃		37.8	14.5	6.7	2.3	凝灰岩		
2	AF4	16	600	Ⅱb	錐形石器		33.0	15.0	5.2	2.1	珪質頁岩	横長剝片	
3	AH5	411	562	Ⅱb	篦状石器		78.7	64.5	25.1	86.3	凝灰岩	縦長剝片	
4	AH9	848	463	Ⅱb	篦状石器		78.0	34.0	14.3	37.8	頁岩		
5	AG8	293	113	Ⅱa	両極石器		46.5	15.5	8.2	5.3	流紋岩		
6	AH6	355	638	Ⅱb	両極石器		58.0	41.0	19.6	49.3	流紋岩	剝片	右側面折れ
7	AG7				篦状石器		91.0	67.5	27.5	118.2	頁岩	剝片	
8	AH3	349	925	Ⅱb	両極石器		54.5	45.0	26.1	53.4	流紋岩	両極剝片	左側面折れ
9	AF8				両極石器		52.7	45.4	18.1	47.7	頁岩	剝片	
10	AG8	495	323	Ⅱb	両極石器		80.5	55.0	23.4	104.3	凝灰岩	剝片	左側面折れ
11	AF3	174	930	Ⅱa	打製石斧		82.5	36.0	8.4	23.0	頁岩	横長剝片	両側縁ツブレ
12	AE4	190	396	Ⅱa	磨石類		112.0	77.7	36.1	501.1	安山岩	礫	
13					磨石類		78.1	38.3	11.9	37.4	粘板岩		
14	AH5	408	868	Ⅱa	不定形石器	B	71.4	43.9	11.0	32.7	頁岩	縦長剝片	
15	AG8	569	168	Ⅱb	不定形石器	B	46.2	60.5	24.5	57.4	凝灰岩	石核素材	
16	AG7	143	388	Ⅱa	不定形石器	B	77.2	62.1	18.8	52.4	凝灰岩	剝片	
17	AE4	541	2	Ⅱa	不定形石器	B	64.2	89.7	33.3	116.9	凝灰岩	剝片	
18	AE6				不定形石器	B	137.6	69.8	19.2	190.9	流紋岩	横長剝片	
19	AD5	509	279	Ⅱa	不定形石器	C	78.9	60.9	21.0	81.7	凝灰岩	縦長剝片	
20	AD5	240	910	Ⅱa	不定形石器	C	70.9	52.9	17.5	53.4	頁岩	横長剝片	
21	AE4	119	798	Ⅱa	不定形石器	C	49.8	77.2	21.7	73.0	鉄石英	横長剝片	
22	AH5	878	676	Ⅱa	不定形石器	C	56.4	24.1	13.9	22.0	凝灰岩	剝片	
23	AG8	986	592	Ⅱb	不定形石器	C	86.0	57.9	34.1	126.5	頁岩	剝片	
24	AG8	577	862	Ⅱb	不定形石器	C	81.8	59.0	23.0	78.7	流紋岩	剝片	両側縁折断調整
25	AF9	576	763	Ⅱb	不定形石器	C	72.2	45.5	18.6	51.7	凝灰岩	剝片	
26	AH4	481	620	Ⅱa	不定形石器	E	102.5	74.8	26.1	184.4	珪質頁岩	剝片	
27	AH5	284	824	Ⅱa	不定形石器	C	64.5	44.0	16.4	41.5	頁岩	剝片	左側縁切断
28	AH5	807	888	Ⅱb	不定形石器	E	105.1	44.6	21.6	79.0	凝灰岩	剝片	左半分同時割れ
29	AD6	681	253	Ⅱa	不定形石器	E	50.8	43.6	12.4	16.6	頁岩	剝片	下半分折れ
30	AD5	707	347	Ⅱa	不定形石器	E	54.7	35.3	17.8	23.3	鉄石英	剝片	節理割れ剝片素材
31	AG8	880	347	Ⅱb	不定形石器	E	69.8	48.8	25.9	64.8	凝灰岩	剝片	
32	AH3 AD5	176 610	800 730	Ⅲ Ⅱa	不定形石器	C	97.0	37.0	15.8	68.9	凝灰岩	縦長剝片	接合の結果1点
33	地点不明				不定形石器	E	51.2	43.5	13.6	26.8	珪質凝灰岩	剝片	
34	AF4	512	352	Ⅱa	不定形石器	F	72.4	29.0	8.4	15.0	凝灰岩	縦長剝片	
35	AH5	436	931	Ⅱa	不定形石器	F	93.9	79.3	21.7	180.2	流紋岩	剝片	右側縁折れ
36	AF6	528	958	Ⅱb	不定形石器	F	115.5	45.5	21.0	74.3	凝灰岩	縦長剝片	
37	AE4	147	727	Ⅱa	不定形石器	F	92.0	60.8	17.5	71.4	流紋岩	剝片	
38	AG8	656	365	Ⅱb	不定形石器	F	86.0	54.0	26.5	81.9	凝灰岩	剝片	先端折れ
39	AG8	958	645	Ⅱa	不定形石器	F	56.5	64.0	22.0	61.9	流紋岩	横長剝片	先端節理折れ
40	AE6	382	346	Ⅱb	不定形石器	F	65.0	27.5	9.7	16.6	頁岩	縦長剝片	先端折れ
41	AI8	967	888	Ⅱb	不定形石器	F	78.7	84.1	18.1	108.9	凝灰岩	剝片	
42	AH7	508	288	Ⅱb	不定形石器	F	32.6	56.1	23.7	32.3	凝灰岩	剝片	節理割れによる欠損
43	AF9	379	949	Ⅱb	不定形石器	F	83.5	43.0	11.3	34.9	頁岩	縦長剝片	
44	AG9	689	617	Ⅱb	不定形石器	F	60.3	39.2	14.2	21.2	凝灰岩	横長剝片	右側縁折れで欠損
45	AH6	652	115	Ⅱb	不定形石器		83.4	69.0	34.5	138.1	凝灰岩	剝片	先端折れ・篦状石器の
46	AD6	968	347	Ⅱa	不定形石器	F	110.3	46.5	20.8	87.8	凝灰岩	縦長剝片	
47	AF6	6	67	Ⅱa	不定形石器	F	52.9	76.9	19.3	50.1	流紋岩	横長剝片	
48	AF9	528	295	Ⅲ	石核	A	42.7	51.8	42.0	147.2	凝灰岩		
49	AH5	118	476	Ⅱa	石核	A	79.4	93.7	59.6	244.9	凝灰岩		
50	地点不明				石核	A	42.7	46.8	36.0	67.8	鉄石英		
51	AE4	266	318	Ⅱa	石核	A	42.7	51.8	42.0	81.7	凝灰岩		

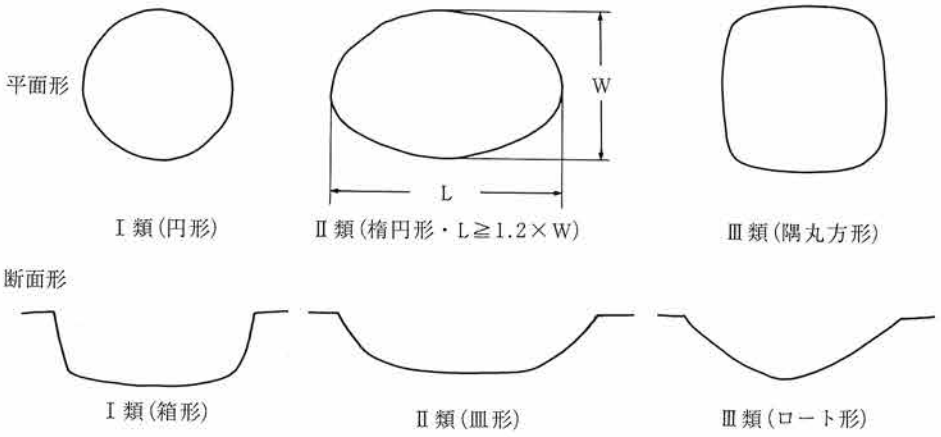
第83表　縄文時代の石器観察表(2)

	出土地点			層位	分類		法量			重量	石材	素材	備考
	グリッド	南北	西東		器種	分類	長さ	幅	厚さ				
52	AH4	244	881	Ⅱb	石核	A	39.8	45.7	39.2	73.6	頁岩		
53	AD6	123	598	Ⅱa	石核	A	39.8	52.3	49.0	83.6	鉄石英		
54	AF5	813	490	Ⅱa	石核	B	29.4	61.3	43.8	76.9	凝灰岩		
55	AG5	588	143	Ⅱa	石核	B	39.2	121.4	55.1	187.7	凝灰岩	剝片	
56	AH7	859	992	Ⅱb	石核	C	44.7	65.9	30.1	54.3	凝灰岩	剝片	
57	AG8	860	315	Ⅱb	石核	C	62.9	87.1	34.6	221.6	凝灰岩		
58	AE6	85	289	Ⅱa	石核	C	42.5	49.7	18.3	28.7	凝灰岩	剝片	
59	AH5	171	666	Ⅱb	石核	C	65.2	40.1	21.5	63.7	鉄石英	剝片	
60	AH4	580	450	Ⅱa	石核	C	65.2	40.1	21.5	52.7	凝灰岩	剝片	
61	AH5	773	439	Ⅱb	石核	C	57.8	76.1	32.6	83.8	頁岩	剝片	
62	AG7	773	258	Ⅱa	石核	C	51.2	67.1	25.2	94.1	頁岩	剝片	
63	AC6	784	565	Ⅱa	石核	C	72.6	80.8	38.8	193.1	頁岩	剝片	
64	AE5	84	110	Ⅱa	石核	D	77.5	55.5	40.8	156.3	頁岩	剝片	
65	AG8	982	543	Ⅱa	石核		64.8	52.5	32.4	28.7	凝灰岩	剝片	
66	AH11	210	182	Ⅲ	石鏃		17.5	15.7	2.9	0.5	頁岩		
67	AH10	395	460	Ⅱb	石匙		26.9	26.0	8.8	4.6	頁岩	剝片	製作途上の折れ
68	AG11	80	600	Ⅱb	石匙		29.5	60.5	8.8	12.3	珪質頁岩	剝片	
69	AF11	478	715	Ⅱa	錐形石器		83.1	71.5	27.8	87.8	凝灰岩	剝片	
70	AG13	157	9	Ⅱa	篦状石器		73.2	43.5	18.9	48.7	凝灰岩	剝片	
71	AG12	750	779	Ⅱa	篦状石器		94.5	45.9	20.2	68.2	凝灰岩	剝片	
72	AF12	985	392		打製石斧		100.7	52.9	18.6	135.9	ホルンフェルス	礫	
73	東地区表面採集				打製石斧		108.5	59.1	21.6	105.1	凝灰岩	剝片	節理割れ剝片素材・未
74	AG12	275	718	Ⅱa	打製石斧		93.8	40.2	21.0	57.2	凝灰岩	横長剝片	未成品
75	AG12	104	544	Ⅱa	打製石斧		80.7	39.1	10.8	47.1	粘板岩	横長剝片	
76	AG12	750	779	Ⅱa	打製石斧		109.8	62.1	11.0	79.3	流紋岩	剝片	
77	AF11	636	839	Ⅱa	打製石斧		83.7	53.2	19.1	69.2	砂岩	剝片	
78	AF12	962	478	Ⅱb	打製石斧		102.8	58.0	25.2	151.3	砂岩	剝片	両側縁ツブレ
79	AG12	220	808	Ⅱb	打製石斧		89.3	52.2	27.3	99.6	凝灰岩	剝片	
80	AG11	578	880	Ⅱb	打製石斧		107.0	76.9	45.5	308.9	凝灰岩		
81	AF12	524	513	Ⅱa	磨製石斧		45.8	40.5	20.2	60.7	凝灰角礫岩		折れで刃部側を欠損
82	AF11	478	715	Ⅱa	磨製石斧		78.2	48.6	25.1	101.6	凝灰角礫岩		折れで基部側を欠損
83	AE12	266	230	Ⅱa	磨製石斧		78.2	48.6	20.9	141.4	砂岩		折れで基部側を欠損
84	AF12	422	630	Ⅱa	磨石類		85.7	36.2	38.3	177.2	砂岩		折れで基部側を欠損
85	AH12	83	185	Ⅱb	磨石類		112.0	83.3	51.6	552.9	花崗岩		
86	AF10	762	661	Ⅱb	不定形石器	A	83.7	133.1	59.9	536.6	頁岩	分割礫	節理による分割礫素材
87	AF10	786	662	Ⅱb	不定形石器	A	89.9	136.7	56.0	586.7	頁岩	分割礫	節理による分割礫素材
88	AH10	0	540	Ⅱb	不定形石器	B	51.7	62.7	14.3	32.1	玉髄	剝片	
89	AH11	74	485	Ⅱb	不定形石器	E	95.1	69.8	17.6	130.8	凝灰岩	剝片	
90	AG12	204	684	Ⅱb	不定形石器	C	139.4	78.9	28.6	348.2	砂岩	剝片	節理割れ剝片素材
91	AH11	74	485	Ⅱb	不定形石器	D	19.8	22.7	10.6	2.4	頁岩	剝片	折れで基部側を欠損
92	AF12	152	242	Ⅱb	不定形石器	F	39.1	39.0	6.2	4.7	凝灰岩	剝片	
93	AF10	774	610	Ⅱb	剝片		67.3	94.2	18.6	122.3	頁岩	剝片	
94	AG11	108	860	Ⅱb	不定形石器	K	96.0	41.4	35.4	112.0	凝灰岩	剝片	
95	AG12	10	473	Ⅱa	不定形石器	F	90.4	93.0	32.5	220.6	凝灰岩	剝片	
96	AG13	276	386	Ⅱb	石核	A	59.1	37.6	65.3	88.0	頁岩	剝片	
97	AF12	615	485	Ⅱa	石核	C	33.2	70.4	37.2	58.8	凝灰岩		
98	AG12	570	642	Ⅱa	石核	B	27.3	53.8	36.6	38.5	頁岩	剝片	
99	表面採集				石鏃		33.1	12.1	7.6	3.0	珪質凝灰岩		先端から樋状剝離
100	表面採集				不定形石器	B	28.0	28.0	7.5		凝灰岩	剝片	
101	表面採集				不定形石器	B	51.2	50.1	9.7	15.1	凝灰岩	剝片	
102	表面採集				不定形石器	B	55.0	41.2	9.2	23.7	凝灰岩	剝片	

第Ⅷ章　歴史時代の調査

1　遺　　構

検出された歴史時代の遺構は土坑47基、ピット14基である。土坑の多くは埋土に炭化物、焼土を多量に含み、底面、側壁などに焼け面が認められた。同様の土坑は阿賀野川SA予定地内の他の遺跡でも検出されており、A地点の報告書では炭窯として報告した。第Ⅲ章の調査方法やA地点の報告書で示したように、これらの土坑は縄文時代の遺物包含層であるⅡa層を切って掘り込まれている。また、土坑埋土に含まれていた炭化物を用いて放射性炭素年代測定を行ったところ、13～14世紀という年代が得られた(第Ⅸ章参照)。したがって、これらの土坑が歴史時代に構築されたものであることは疑いがない。ピットについては性格不明のものが多く、縄文時代のものも含まれているかもしれない。すでに述べたように遺構の確認作業はⅡb層上面、Ⅲ層上面で行った(第Ⅲ章参照)。特にことわりのない限り、遺構検出面はⅡb層上面である。



第17図　土坑形態分類図

A　土　　坑(図版109～113、写真図版124～131)

SK1(図版109、写真図版124)

AL15区に位置し、長径1.2m、短径1.1mの円形の土坑である。断面形は箱形(第17図参照)で深さは0.3mである。埋土は6枚に分層され、全て自然堆積土で炭化物を多量に含んでいる。底面と側壁に顕著な焼け面が認められる。

SK2(図版109、、写真図版124)

AJ14区に位置し、長径1.2m、短径1.1mの円形の土坑である。断面形は箱形で深さは0.25mである。埋土は3枚に分層され、全て自然堆積土で1・2層は炭化物、焼土を多量に含んでいる。側壁に焼け面が認められる。

SK 3（図版109）

AI 15区に位置し、長径1.1ｍ、短径0.9ｍの楕円形の土坑である。断面形は皿形で深さは0.25ｍである。埋土は３枚に分層され、全て自然堆積土である。

SK 4（図版109、写真図版124）

AH 15区に位置し、長径1.4ｍ、短径1.3ｍの円形の土坑である。断面形は半円形で深さは0.3ｍである。埋土は４枚に分層された。４層はローム、黒色土、焼土が混ざりあっており、土坑構築時に床面に貼り付けられた土（以下、貼り土）の可能性がある（SK 14の記述参照）。３層は中心部分が盛り上がっていることから、人為的に埋め戻された土の可能性が高く、黒褐色で炭化物を多量に含んでいる。１・２層は自然堆積土である。

SK 6（図版109、写真図版124）

AG 14区に位置し、確認トレンチに東側を切られており、長径を測ることができない。短径はおよそ1.2ｍで、平面形は楕円形を呈するものと思われる。断面形はロート形で深さは0.3ｍである。埋土は４枚に分層され、全て自然堆積土である。２・３層は焼土、炭化物を含んでいる。

SK 7（図版109、写真図版124）

AI 13区に位置し、長径1.55ｍ、短径1.25ｍの楕円形の土坑である。断面形は箱形で深さは0.2ｍである。埋土は３枚に分層され、３層は貼り土、１・２層は自然堆積土と考える。東側の側壁に焼け面が認められる。

SK 13（図版109）

AH 4 区に位置し、長径1.2ｍ、短径1.2ｍの円形の土坑である。断面形は半円形で深さは0.25ｍである。埋土は３枚に分層され、３層は貼り土、１・２層は自然堆積土と考える。２層は多量の炭化物を含む。

SK 14（図版109、写真図版125）

AG 13区に位置し、長径1.8ｍ、短径1.7ｍの円形の土坑である。断面形は皿形で深さは0.3ｍである。埋土は４枚に分層された。４層はローム、黒色土と少量の炭化物の混ざりあった土で、より上層の埋土と比較するとしまりが強い。また、土坑の底面に沿って３～５㎝の厚さで均等に堆積している。こうした埋土の特徴から、この層は土坑構築時に貼り付けられたものと考える。４層上面で底面と側壁に焼け面が認められる点からも、この土が貼り土であることは間違いのないものと思われる。２・３層は中心部でより厚く堆積していることから人為的な埋め戻し土、１層は自然堆積土と考える。

SK 17（図版109、写真図版125）

AG 14区に位置し、長径1.4ｍ、短径1.1ｍの楕円形の土坑である。断面形は箱形で深さは0.2ｍである。埋土は３枚に分層され、全て自然堆積土である。１・２層は炭化物を多量に含んでいる。

SK 18（図版110、写真図版125）

AG 13区に位置し、長径1.6ｍ、短径1.5ｍの円形の土坑である。断面形は皿形で深さは0.2ｍである。埋土は２枚に分層され、全て自然堆積土である。

SK 19（図版110、写真図版126）

AG 13区に位置し、長径1.9ｍ、短径1.7ｍの円形の土坑である。断面形は皿形で深さは0.3ｍである。埋土は４枚に分層され、全て自然堆積土である。埋土は全て多量の炭化物を含んでいる。

SK 20（図版110、写真図版126）

AD 11区に位置する。確認トレンチに南側約半分を切られており、正確な大きさ、平面形を知ることは

できない。Ⅱa層上面で検出した北側半分から推定すると、平面形は長軸2.6m、短軸2.5mの隅丸方形、断面形は段を持った箱形になるものと思われる。また、北西側を直径0.8mの撹乱に切られている。埋土は5枚に分層され、全て自然堆積土と考える。底面と側壁に焼け面が認められる。

SK 21(図版110、写真図版125)

AH 10区に位置し、セクションベルトにかかっているため西半分をⅡa層上面、東半分をⅢ層上面で検出した。埋土は5枚に分層され、5層が貼り土、2～4層が自然堆積土、1層が人為的堆積土である。

SK 22(図版110、写真図版126)

AE 12区に位置する。SK 23の北に隣接しているが、切り合い関係は認められなかった。長径1.9m、短径1.5mの楕円形を呈し、断面形は皿形で深さは0.3mである。埋土は5枚に分層され、5層は貼り土、1～4層は自然堆積土と考える。

SK 23(図版110、写真図版126)

AE 12区に位置する。SK 22の南に隣接しているが、切り合い関係は認められなかった。長径1.1m、短径0.9mの楕円形を呈するが、南側の一部は直径25cmの撹乱に切られている。断面形は皿形で深さは0.2mである。埋土は2枚に分層され、いずれも自然堆積土と考える。

SK 24(図版110、写真図版125)

AI 12区に位置し、長径1.25m、短径1.15mの円形の土坑である。断面形は皿形で深さは0.2mである。埋土は4枚に分層され、4層は貼り土、1～3層は自然堆積土と考える。全ての埋土が炭化物を多量に含んでいる。

SK 25(図版110、写真図版126)

AH 12区に位置し、長径1.0m、短径0.9mの円形の土坑である。断面形は皿形で深さは0.2mである。埋土は4枚に分層され、全て自然堆積土と考える。1・2層は多量の炭化物を、1・3層は焼土を含んでいる。

SK 26(図版111、写真図版127)

AH 12区に位置し、長径1.9m、短径1.3mの不整形の土坑である。断面形は皿形で深さは0.25mである。埋土は3枚に分層され、全て自然堆積土と考える。1層は多量の炭化物を、1・2層は焼土を含んでいる。

SK 27(図版110)

AH 11区に位置し、長軸、短軸とも1.1mの隅丸方形の土坑である。断面形は皿形で深さは0.1mである。埋土は2枚に分層され、いずれも自然堆積土と考える。1層は多量の炭化物を含んでいる。

SK 28(図版111、写真図版127)

AH 10区に位置し、長径1.1m、短径1.0mの不整形の土坑である。断面形は皿形で深さは0.15mである。南東側の一部を直径0.2mの撹乱に切られている。埋土は2枚に分層され、いずれも自然堆積土と考える。1層は多量の炭化物を含んでいる。

SK 29(図版111、写真図版127)

AF 11区に位置し、長径1.4m、短径1.2mの円形の土坑である。断面形は皿形で深さは0.2mである。埋土は3枚に分層され、全て自然堆積土と考える。1～3層は炭化物を、1・2層は焼土をそれぞれ少量含んでいる。

SK 30(図版111、写真図版128)

AF 11区に位置し、長径1.8m、短径1.6mの円形の土坑である。断面形はロート形で深さは0.5mである。

埋土は７枚に分層され、７層は貼り土、１～６層は自然堆積土と考える。あるいは３層は人為的な埋め戻し土かもしれない。７層上面の東側壁に焼け面が認められる。

SK 31（図版112、写真図版128）

AG９区に位置し、長径1.65ｍ、短径1.5ｍの円形の土坑である。セクションベルトにかかっていたため、北側半分はⅡａ層上面、南側半分はⅢ層上面で検出した。断面形は半円形で深さは0.4ｍである。埋土は４枚に分層され、全て自然堆積土と考える。

SK 32（図版111、写真図版127）

AI８区に位置し、長径1.4ｍ、短径1.2ｍの円形の土坑である。断面形は半円形で深さは0.4ｍである。埋土は４枚に分層され、４層は貼り土、１～３層は自然堆積土と考える。３層は炭化物を多量に含み、１・２層は焼土を含む。

SK 33（図版112、写真図版129）

AH８区に位置し、長径1.8ｍ、短径1.65ｍの円形の土坑である。断面形は箱形であるが北側に段を持ち上端が広がる。深さは0.45ｍである。埋土は４枚に分層され、全て自然堆積土と考える。３層は炭化物を多量に含む。

SK 34（図版112、写真図版129）

AI９区に位置し、長径1.75ｍ、短径1.45ｍの楕円形の土坑である。断面形は箱形であるが斜面に構築されているため、南側は浅くなっている。深さは最大で0.55ｍである。埋土は４枚に分層され、全て自然堆積土と考える。３層は炭化物を多量に含んでいる。

SK 35（図版112、写真図版129）

AG７区に位置し、長径2.0ｍ、短径1.8ｍの円形の土坑である。断面形はロート形で深さは0.65ｍである。埋土は５枚に分層され、全て自然堆積土と考える。埋土には炭化物、焼土などはあまり含まれず、４層に少量の炭化物が含まれたのみであった。

SK 37（図版111、写真図版127）

AD 12区に位置し、長径1.2ｍ、短径1.1ｍの不整円形の土坑である。断面形は皿形で深さは0.25ｍである。埋土は５枚に分層され、５層は貼り土、１～４層は自然堆積土である。南側壁の５層上面に焼け面が認められる。

SK 38（図版112、写真図版129）

AH 10区に位置し、長径1.45ｍ、短径1.3ｍの円形の土坑である。断面形は皿形で深さは0.3ｍである。埋土は４枚に分層され、４層は貼り土、１～３層は自然堆積土と考えるが、あるいは２層は人為的な埋め戻し土かもしれない。３層に炭化物、焼土が含まれている。

SK 39（図版112、写真図版129）

AF７区に位置し、長径1.5ｍ、短径1.4ｍの不整円形の土坑である。断面形は箱形で深さは0.35ｍである。埋土は４枚に分層され、全て自然堆積土と考える。埋土は炭化物、焼土などをあまり含まないが、２・３層は炭化物を少量含んでいる。

SK 40（図版113）

AE９区に位置し、長径2.0ｍ、短径1.85ｍの円形の土坑である。断面形はロート形で深さは0.55ｍである。埋土は４枚に分層され、４層は貼り土、１～３層は自然堆積土と考えられる。埋土１・２層には炭化物が少量含まれる。

SK 41（図版113、写真図版130）

AE 6 区に位置し、長径1.1ｍ、短径0.95ｍの円形の土坑である。断面形は皿形で深さは0.2ｍである。埋土は 4 枚に分層され、全て自然堆積土と考える。埋土 1 ・ 2 層は炭化物を少量含んでいる。

SK 42（図版113、写真図版130）

AE 6 区に位置し、長径1.1ｍ、短径1.05ｍの円形の土坑である。断面形は箱形で深さは0.45ｍである。埋土は 2 枚に分層された。 2 層は炭化物を多量に含んだ黒色土で、炭化物を少量含んだ地山由来の土がこの上を覆っている。いずれも人為的な埋め戻しの可能性が高い。西側の側壁に焼け面が認められる。

SK 43（図版113、写真図版130）

AD 6 区に位置し、長径1.6ｍ、短径1.45ｍの円形の土坑である。断面形は箱形で深さは0.4ｍである。また、南側で上端が広がっている。埋土は 5 枚に分層され、 5 層は貼り土、 1 ～ 4 層は自然堆積土と考える。特に、 2 ～ 4 層は多量の炭化物を含んでいる。

SK 44（図版113、写真図版130）

AD 6 区に位置し、長径1.65ｍ、短径1.5ｍの円形の土坑である。断面形は箱形であるが、北向きの斜面に掘り込まれているため北側で浅くなる。また、南側に段を持ち、深さは最大で0.4ｍである。埋土は 5 枚に分層され、 5 層は貼り土、 1 ～ 4 層は自然堆積土と考える。 2 層に多量の炭化物が含まれている。

SK45（図版113、写真図版131）

AE 8 区に位置し、直径1.8ｍの円形の土坑である。断面形は上端の広がる皿形で深さは0.35ｍである。埋土は 5 枚に分層され、 5 層は貼り土、 1 ～ 4 層は自然堆積土と考える。 4 ・ 5 層は炭化物を少量含む。

SK 46（図版113、写真図版130）

AH 8 区に位置し、直径1.3ｍの円形の土坑である。断面形は箱形で深さは0.4ｍである。埋土は 5 枚に分層され、 5 層は貼り土、 4 層は自然堆積土と考える。 4 層に炭化物が含まれる。

SK 50（図版111、写真図版128）

AC 15区に位置し、長軸1.6ｍ、短軸1.15ｍの不整形の土坑である。断面形は箱形で深さは0.15ｍである。埋土は 4 枚に分層され、全て自然堆積土と考える。埋土はいずれも炭化物、焼土を含むが、特に 4 層が炭化物、焼土を多量に含んでいる。

SK 51（図版111、写真図版128）

AD 7 区に位置し、長径1.3ｍ、短径1.15ｍの円形の土坑である。断面形は皿形で深さは0.25ｍである。埋土は 3 枚に分層され、 3 層は貼り土、 2 層は人為的な埋め戻し土、 1 層は自然堆積土と考える。 2 層は炭化物、焼け礫を含む。

SK 52（図版111、写真図版128）

AD 8 区に位置し、長径1.0ｍ、短径0.8ｍの楕円形の土坑である。断面形は皿形で深さは0.1ｍである。埋土は 3 枚に分層された。全て自然堆積土の可能性が高いが、浅い土坑であるため十分な根拠があるわけではない。 3 層は多量の炭化物、 2 層は多量の焼土を含む。

B　ピ　ッ　ト

ピットの多くは所属時期、性格ともに不明のものが多い。中には縄文時代のものが含まれている可能性も否定できない。ここでは、唯一性格がわかり、炭窯と思われる Pit 1 のみ記述する。

Pit 1（図版114、写真図版131）

長径1.1m、短径1.0mで平面形が円形のピットである。断面形は皿形で深さは0.2mである。埋土は5枚に分層され、全て自然堆積土と考える。埋土の全ての層に炭化物が含まれ、特に4層に多量に含まれる。

2　遺　　物

出土した遺物で歴史時代以降のものと思われるのは砥石1点と近世以降の陶磁器の破片数点である。これらのうち、砥石のみを図示した。

A　砥　　石（図版108、写真図版176）

1は凝灰岩製の砥石である。この砥石は縄文時代の2号集石遺構の北東約1m、SK 38の北東約2mから出土している。形態、機能面の状況から明らかに歴史時代のものと考えられるので、あるいはSK 38と何らかの関係があるのかもしれない。6面全て機能面となっており、特に表裏左右の砥面は使用により凹面状になり強度の使用を物語っている。これらの面には主に長軸方向の擦痕、線状痕が認められるが、中には斜行するものもある。斜行する擦痕、線状痕には右下がりのものが多い。上下面にも砥面、擦痕、線状痕が認められ、機能面であったことがわかる。砥面の形態や、断面三角形の線状痕の特徴から金属製の刃物の研磨に用いられた砥石と考える。

第84表　歴史時代の土杭観察表　　◎多い、○有、△少ない

遺構番号	図版番号	グリッド	長径	短径	深さ	平面形	断面形	焼け面		埋土				貼り土	備考
								底面	側壁	自然	人為	炭化物	焼土		
SK 1	図版109	AL15	1.2	1.1	0.3	Ⅰ	Ⅰ	○	○	1－6		◎			
SK 2	図版109	AJ14	1.2	1.1	0.25	Ⅰ	Ⅰ		○	1－3		◎	◎		
SK 3	図版109	AI15	1.1	0.9	0.25	Ⅱ	Ⅱ			1－3					
SK 4	図版109	AH15	1.4	1.3	0.3	Ⅰ	Ⅱ			1－2	3	◎	○	4層	
SK 6	図版109	AG14		1.2	0.3	Ⅱ	Ⅲ			1－4		○	○		
SK 7	図版109	AI13-14	1.55	1.25	0.2	Ⅱ	Ⅰ		○	1－2		○	○	3層	
SK13	図版109	AH 4	1.2	1.2	0.25	Ⅰ	Ⅱ			1－2		◎	○	3層	
SK14	図版109	AG 3	1.8	1.7	0.3	Ⅰ	Ⅱ	○	○	1	2－3	△	◎	4層	焼け面は4層上面
SK17	図版109	AG14	1.4	1.1	0.2	Ⅱ	Ⅰ	○	○	1－3		◎			
SK18	図版110	AG13	1.6	1.5	0.2	Ⅰ	Ⅱ			1－2		○			
SK19	図版110	AG13	1.9	1.7	0.3	Ⅰ	Ⅱ			1－4		◎	△		
SK20	図版110	AD11	2.6	2.5	0.5	Ⅲ	Ⅰ	○	○	1－5		◎	◎		
SK21	図版110	AH10			0.25	Ⅰ	Ⅱ			2－4	1	◎	△	5層	
SK22	図版110	AE12	1.9	1.5	0.3	Ⅱ	Ⅱ			1－4		◎	◎	5層	
SK23	図版110	AE12	1.1	0.9	0.2	Ⅱ	Ⅱ			1－2		◎	△		
SK24	図版110	AI12	1.25	1.15	0.2	Ⅰ	Ⅱ			1－3		◎	◎	4層	
SK25	図版110	AH12	1.0	0.9	0.2	Ⅰ	Ⅱ			1－4		◎	△		
SK26	図版111	AH12	1.9	1.3	0.25	不整形	Ⅱ			1－3		◎	△		
SK27	図版110	AH11	1.1	1.1	0.1	Ⅲ	Ⅱ	○		1－2		◎			
SK28	図版111	AH10	1.1	1.0	0.15	不整形	Ⅱ			1－2		◎			
SK29	図版111	AF11	1.4	1.2	0.2	Ⅰ	Ⅱ			1－3		△	△		
SK30	図版111	AF11	1.8	1.6	0.5	Ⅰ	Ⅲ		○	1－6		◎	◎	7層	焼け面は7層上面
SK31	図版112	AG 9	1.65	1.5	0.4	Ⅰ	Ⅱ			1－4		△			
SK32	図版111	AI 8	1.4	1.2	0.4	Ⅰ	Ⅱ			1－3		◎	◎	4層	
SK33	図版112	AH 8	1.8	1.65	0.45	Ⅰ	Ⅰ			1－4		◎			
SK34	図版112	AI 9	1.75	1.45	0.55	Ⅱ	Ⅰ			1－4		◎			
SK35	図版112	AG 7	2.0	1.8	0.65	Ⅰ	Ⅲ			1－5		△			
SK37	図版111	AD12	1.2	1.1	0.25	Ⅰ	Ⅱ		○	1－4		△		5層	焼け面は5層上面
SK38	図版112	AH10	1.45	1.3	0.3	Ⅰ	Ⅱ			1－3		◎	○	4層	
SK39	図版112	AF 7	1.5	1.4	0.35	不整形	Ⅰ			1－4		△			
SK40	図版113	AE 9	2.0	1.85	0.55	Ⅰ	Ⅲ			1－3		△		4層	
SK41	図版113	AE 6	1.1	0.95	0.2	Ⅰ	Ⅱ			1－4		△			
SK42	図版113	AE 6	1.1	1.05	0.45	Ⅰ	Ⅰ		○	1－2		○			
SK43	図版113	AD 6	1.6	1.45	0.4	Ⅰ	Ⅰ			1－4		○	△	5層	
SK44	図版113	AD 6	1.65	1.5	0.3	Ⅰ	Ⅱ			1－4		○		5層	
SK45	図版113	AE 8	1.8	1.8	0.35	Ⅰ	Ⅱ			1－4		△		5層	
SK46	図版113	AH 8	1.3	1.3	0.4	Ⅰ	Ⅰ			1－4		○		5層	
SK50	図版111	AC15	1.6	1.15	0.15	不整形	Ⅰ			1－4		◎	◎		
SK51	図版111	AD 7	1.3	1.15	0.25	Ⅰ	Ⅱ			1	2			3層	
SK52	図版111	AD 8	1.0	0.8	0.1	Ⅱ	Ⅱ			1－3		◎	◎		
PIT1	図版114	AK14	1.1	1.0	0.2	Ⅰ	Ⅱ			1－5		◎	○		

第IX章　自然科学分析

1　上ノ平遺跡Ｃ地点出土炭化材の樹種同定

古環境研究所

A　試料と方法

試料は、SI 1 Pit 1（縄文時代）、SK 13・20・30・42（歴史時代）より出土した炭化材で、各地点３点（a・b・c）ずつの計15点である。

炭化材は割折して新鮮な基本三断面（木材の横断面・放射断面・接線断面）を作製し、落射顕微鏡によって75～750倍で観察した。樹種同定はこれらの試料標本を解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

B　結　　果

15点の炭化材はいずれもクリと同定された。なお、炭化材においては、炭化の際に収縮膨張していたり、黒色の炭化物となることから表面構造の一部しか観察ができない。さらに横断、接線、放射の各面についての良好な破断面の作成が非常にむずかしい。したがって、同定の精度は生材に比べ遥かに劣ることは否めないため、このことに留意する必要がある。結果を第84表に示し、章末に各断面の顕微鏡写真を示した。以下に、同定された樹種の同定の根拠を記す。

• クリ CastaneacrenataSieb. etZucc.　　ブナ科（図版177）

横断面：年輪のはじめに大型の道管が、数列配列する環孔材である。晩材部では小道管が、火炎状に配列する。早材から晩材にかけて、道管の径は急激に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔である。放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型である。

以上の形質よりクリに同定される。クリは北海道の西南部・本州・四国・九州に分布する。落葉の高木で、通常高さ20ｍ、径40㎝ぐらいであるが、大きいものは高さ30ｍ、径２ｍに達する。耐朽性強く、水湿によく耐え、保存性の極めて高い材で、現在では建築・家具・器具・土木・船舶・彫刻・薪炭・椎茸ほだ木など広く用いられる。

参考文献

島地　謙ほか　1985　木材の構造．文永堂出版，p. 20～100.

第85表　樹種同定結果

試　　料	樹種	（和　名／学　名）
ＳＩ１　Pit１－ａ	クリ	*Castanea arenata* Sieb. et Zucc.
ＳＩ１　Pit１－ｂ	クリ	*Castanea arenata* Sieb. et Zucc.
ＳＩ１　Pit１－ｃ	クリ	*Castanea arenata* Sieb. et Zucc.
ＳＫ13－ａ	クリ	*Castanea arenata* Sieb. et Zucc.
ＳＫ13－ｂ	クリ	*Castanea arenata* Sieb. et Zucc.
ＳＫ13－ｃ	クリ	*Castanea arenata* Sieb. et Zucc.
ＳＫ20－ａ	クリ	*Castanea arenata* Sieb. et Zucc.
ＳＫ20－ｂ	クリ	*Castanea arenata* Sieb. et Zucc.
ＳＫ20－ｃ	クリ	*Castanea arenata* Sieb. et Zucc.
ＳＫ30－ａ	クリ	*Castanea arenata* Sieb. et Zucc.
ＳＫ30－ｂ	クリ	*Castanea arenata* Sieb. et Zucc.
ＳＫ30－ｃ	クリ	*Castanea arenata* Sieb. et Zucc.
ＳＫ42－ａ	クリ	*Castanea arenata* Sieb. et Zucc.
ＳＫ42－ｂ	クリ	*Castanea arenata* Sieb. et Zucc.
ＳＫ42－ｃ	クリ	*Castanea arenata* Sieb. et Zucc.

2　放射性炭素年代測定

A　^{14}C 年代測定値

試料の $^{14}C/^{12}C$ 比から、単純に現在(1950年 AD)から何年前(BP)かを計算した値。^{14}C の半減期は5,568年を用いた。

B　δ^{13}C 測定値

試料の測定 $^{14}C/^{12}C$ 比を補正するための炭素安定同位体比($^{13}C/^{12}C$)。この値は標準物質(PDB)の同位体比からの千分偏差(‰)で表す。

C　補正 ^{14}C 年代値

$\delta^{13}C$ 測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、$^{14}C/^{12}C$ の測定値に補正値を加えた上で算出した年代。

D　暦　年　代

過去の宇宙線強度の変動による大気中 ^{14}C 濃度の変動を補正することにより、暦年代を算出した。補正には年代既知の樹木年輪の ^{14}C の詳細な測定値を使用した。この補正は10,000年 BP より古い試料には適用できない。表中の上段には交点、下段は１σの値を表示してある。

第86表　放射性炭素年代測定の試料と方法

試料名	地点・層準	種　類	前処理・調整	測　定　法
No. 1	ＳＫ13	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄 ベンゼン合成	β線法 (標準)
No. 2	ＳＫ20	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄 ベンゼン合成	β線法 (標準)
No. 3	ＳＫ30	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄 ベンゼン合成	β線法 (標準)
No. 4	ＳＫ42	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄 石墨調整	加速器質量分析法 (ＡＭＳ)
No. 5	ＳＩ１ Pit１	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄 ベンゼン合成	β線法 (長時間)

第87表　放射性炭素年代測定結果

試料名	14C時代 (年BP)	δ13C (‰)	補正14C時代 (年BP)	暦　年　代	測定No. (Beta-)
No. 1	760±70	−26.7	730±70	A.D.1,285 AD1,250-1,300	86234
No. 2	700±60	−26.5	670±50	A.D.1,300 AD1,285-1,315	86235
No. 3	740±50	−27.3	710±50	A.D.1,290 AD1,275-1,300	86236
No. 4	900±60	−27.4	860±60	A.D.1,205 AD1,165-1,250	86237
No. 5	5,900±110	−26.9	5,600±110	BC3,926、3,875、3,810 BC3,975-3,715	86238

第X章　ま　と　め

1　旧石器時代の石器について

A　石器製作技術

本遺跡から出土した旧石器時代の石器の製作技術を検討する。すでに、A地点の報告書で行ったように、石器製作技術を石材の獲得から石器の廃棄にいたるまで運用される石器の製作・整形・変形の技術と定義し、石材の獲得、剥片生産(石刃生産)、トゥール製作・使用・再生・廃棄の各段階について検討する。なお、分析の対象とするのはブロック出土石器である。

(1)　石材獲得段階

本遺跡出土石器の石材は大部分が珪質頁岩で、これに玉髄が一定量加わる。珪質頁岩を主体とする点はA地点出土石器と共通するが、A地点では珪質頁岩の他に凝灰岩、鉄石英が認められ、細部では異なる。原石の状態で遺跡に持ち込まれた母岩が認められない点もA地点と共通する。石材の産地は、珪質頁岩、玉髄とも新潟県北部から山形県と考えられるが、良質の頁岩は新潟県内ではまれなようである〔阿部1995〕。

(2)　剥片生産段階

本遺跡のトゥールの素材は大部分が石刃であり、剥片としたものも石刃技法の枠の中で理解可能なものがほとんどである。ここでは石刃の属性分析の結果から石刃技法の特徴を記述する。用いる属性は第41表に示したもので、計測基準は第5図に示した。

形態

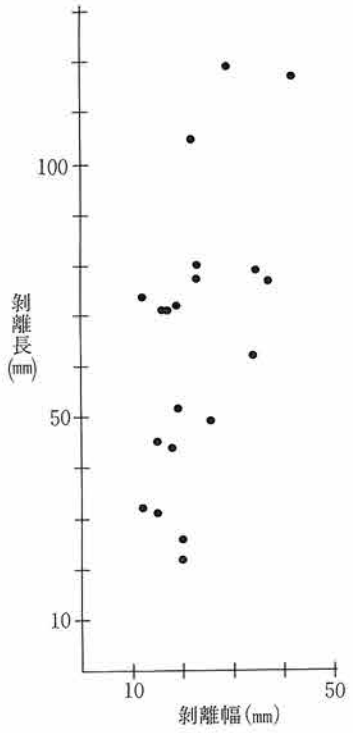
計測可能な石刃の長幅グラフを第18図、幅厚グラフを第21図に示した。長幅グラフではA地点とよく似ているが、C地点の石刃の方が若干大きいようである。剥離長50・100㎜付近を境界として、小型(8点)、中型(9点)、大型(3点)に分類可能なようにも見えるが、A地点では大きさの変化が連続的で分類が不可能だったことを考慮し、グラフを示すだけにする。

背面構成

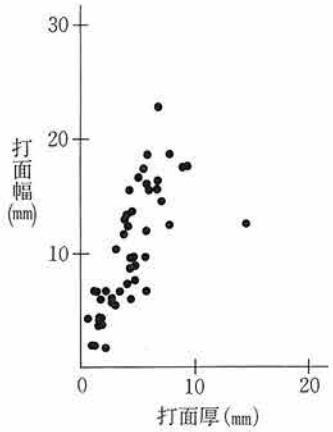
20点の完形石刃を背面構成によって分類すると、Ⅰ類が7点(35%)、Ⅱ類が9点(45%)、Ⅲ類が4点(20%)であった。この結果はA地点よりもⅡ類の割合が高いものであった。

調整技術

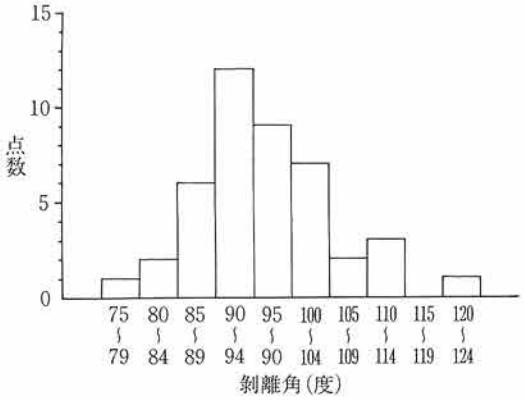
石刃技法における各種調整技術について頻度を見てみると(第88表)、打面調整は47点中31点(66.0%)、頭部調整は51点中8点(15.7%)に認められる。また、稜形成痕のある石刃の存在から稜形成が、接合資料8から打面再生がそれぞれ存在していたことがわかる。石刃技法関係の接合資料が少ないため個体を単位とした石刃技法の特徴は不明だが、本遺跡の石刃技法が各種調整技術を持っていたことがわかる。



第18図　石刃の剥離長幅散布図



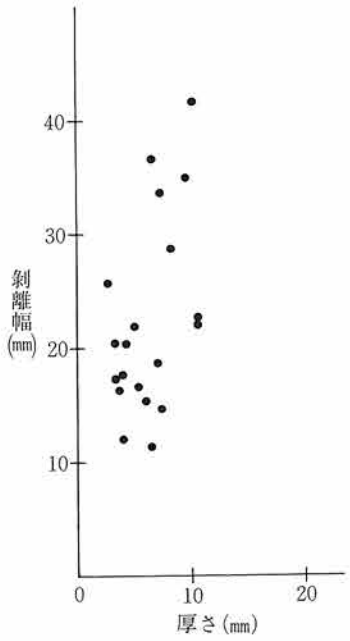
第19図　石刃打面幅厚散布図



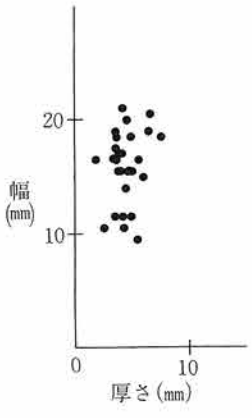
第20図　石刃剥離角ヒストグラム

第88表　完形石刃の形態分類

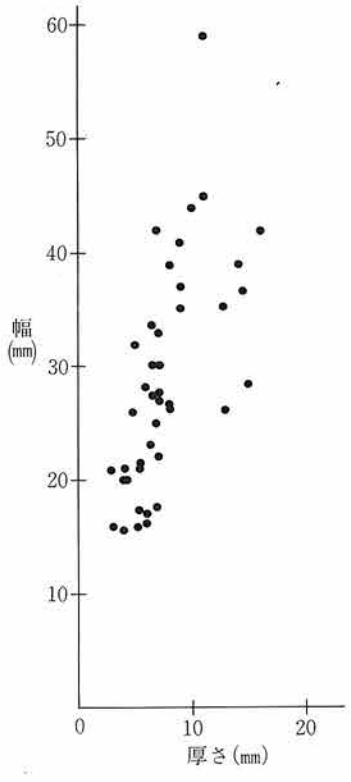
打面種類		打面形状		打点位置		バルブ形状	
調整	31	平坦	27	Ⅰa	22	S	41
単剥離	13	凸状	9	Ⅰb	6	D	5
複剥離	2	凹状	3	Ⅱ	21	F	3
自然	1	山状	8	Ⅲ	2		
節理		点状	4				



第21図　石刃幅厚散布図



第22図　ナイフ形石器幅厚散布図



第23図　彫刻刀形石器幅厚散布図

剝離技法

打面のサイズ、打面形状、バルブの形態、打点の位置から石刃の剝離技法を推定する。打面のサイズはA地点と同様に比較的小さく薄いことから、打面の大きさをコントロールしやすい加撃方法を用いていたと考える。そして、打面形状は平坦、凸状、山型のものが多く、バルブの発達したものの割合も高いことから、具体的にはパンチを用いた間接打法によって石刃剝離が行われた可能性を指摘しておきたい。打点の位置はⅠa類とⅡ類の比率が均衡しており、稜上加撃と稜間加撃のどちらかに偏る傾向は認められない。

(3)　トゥール製作・使用・再生・廃棄段階

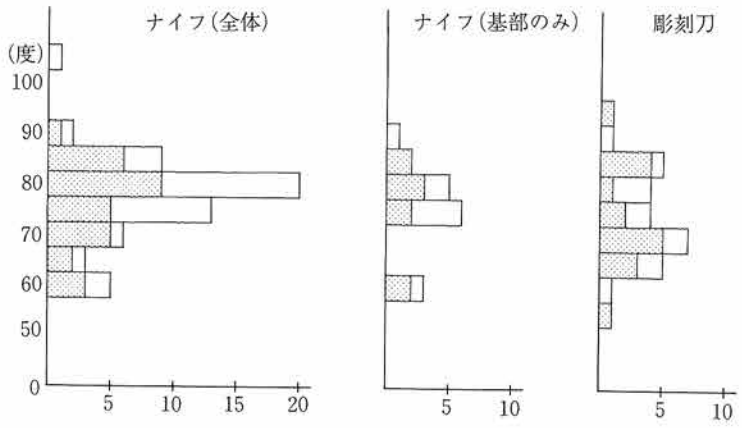
主要トゥールであるナイフ形石器(以下ナイフ)、彫刻刀形石器(以下彫刻刀)とトゥールではないが石刃について検討する。

トゥールの製作

ナイフ形石器、彫刻刀形石器は大部分が石刃を素材としている。一部は剝片を素材とするものも存在するが、打面再生や石核整形剝片を用いている例はない。たとえばB5－10の素材は剝片であるが、これも石刃剝離に失敗して剝片になったものと思われる。石刃、ナイフ、彫刻刀の幅厚グラフを比較すると大型の彫刻刀を除いて、ナイフ、彫刻刀の幅厚が石刃のそれにほぼ収まることがわかる。さらに、ナイフの素材には幅20㎜、厚さ10㎜以下のものが、彫刻刀の素材にはそれより大きいものが主に用いられている。第24図では彫刻刀とナイフの基部加工について角度を比較してみた。その結果、角度には両者間の違いを認めることはできない。薬師堂遺跡〔菅沼1993〕やA地点での分析とは異なった結果であり、さらなる検討が必要と考えるが、ここでは両者に用いられた調整技術は同じものであるとしておく。

使用

A地点の報告書ではナイフの主な機能を刺突具とし、彫刻刀については多様な用途に用いられた可能性を示唆した。C地点では新たな方法の分析は行ってはいないが、基本的にはA地点での結論を変更する必要はないと考える。ナイフではやはり先端を欠損し基部のみが出土する例が多く、B7－51のように衝撃剝離と思われる破損を先端に持つものもある。彫刻刀については、使用痕分析などによって先の可能性を検討する必要がある。石刃では、B5－5＋B5－48のように側縁に明らかに使用痕と思われる微小剝離痕の認められる例があり、一部の石刃が道具として使用されたことは確実であろう。石刃がどのような脈絡で使用されたかを明らかにすることは、石器群の機能構造を解明する上で重要課題である。



第24図　ナイフ形石器・彫刻刀形石器基部加工角度ヒスイグラム

再生

ナイフの中には明らかに再生されたと考えられるものはない。また、A地点の報告書で指摘したナイフから彫刻刀への器種替えについては、C地点でも類似した形態の彫刻刀は出土しているものの接合資料などの確実な証拠は得られなかった。ただし、トゥール製作で指摘したナイフと彫刻刀の基部加工の共通性は器種替えの可能性と矛盾しない。彫刻刀の再生システムについては次項で詳述したい。

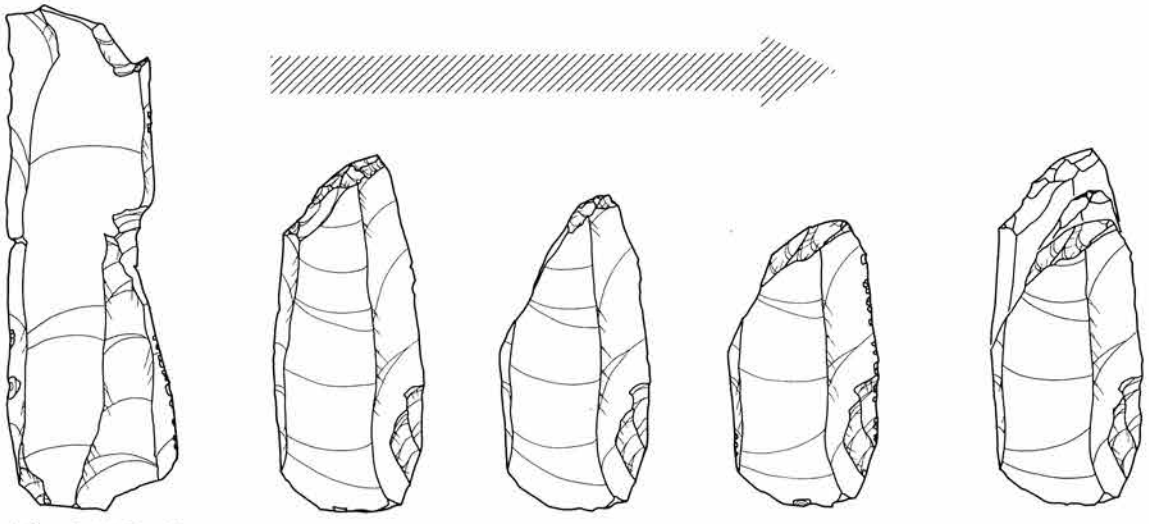
廃棄

再生が行われず、基部だけが出土することが多いことから、ナイフは破損によって機能を果たせなくなることが廃棄の契機となるものが最も多いようである。彫刻刀は刃部再生が頻繁に行われ、遺跡間を持ち歩かれていることは確実であり、ナイフとは異なった廃棄パターンを考える必要がある。A地点では将来の使用のために彫刻刀を残していった可能性を指摘したが、現実には、データを用いてこの仮説を検証することは困難である。ただし、キャッシュ、デポなどと認識できる出土状況がみられない点は、こうした戦略の果たした役割がそれほど高くないことを示しているのかもしれない。まずは、実資料を用いて石器の使用・再生・廃棄のパターンの実態を明らかにすることが先決と考える。

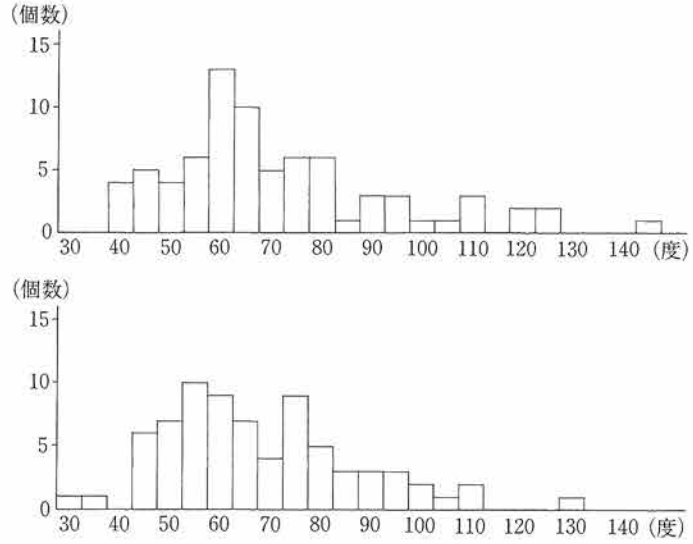
B　神山型彫刻刀形石器における刃部再生と形態変化

本遺跡では11例の彫刻刀の刃部再生に関する接合資料が得られた。これらの接合資料を通じて刃部再生の手順やそれに伴う形態変化が検討可能である。個々の接合資料の事実記載はすでに行っているので、若干のまとめを行いたい。

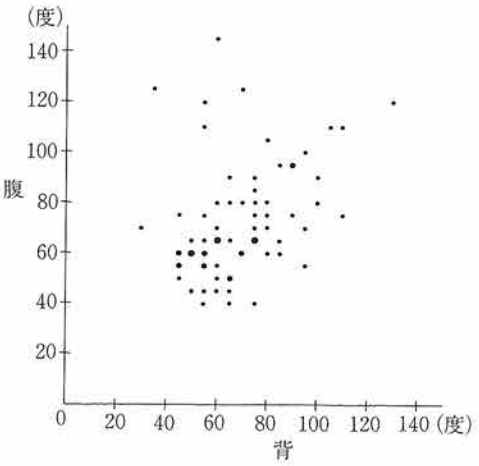
得られた接合資料は、接合資料2・5を除いて神山型彫刻刀の刃部再生のものである。削片は最高でも2枚接合しただけで、接合資料だけで形態変化を明らかにできる資料は多くない。その中で、接合資料3・4・6は特に刃部再生に伴う彫刻刀の形態変化をよく示している。この接合資料から明らかなのは、①素材石刃の長さが残された彫刻刀よりもかなり長い、②刃部再生が素材石刃の長軸方向に後退するように行われる、の2点である。したがって、彫刻刀は刃部再生の進行によって長さを減じるだけで、それ以外の形態は大きく変化していない。接合資料6の彫刻刀B5－70の素材となった石刃は幅、厚さから同一母岩の石刃B8－3＋B8－12とほぼ同じ長さであったと思われ、刃部再生によって長さが約半分にまで減



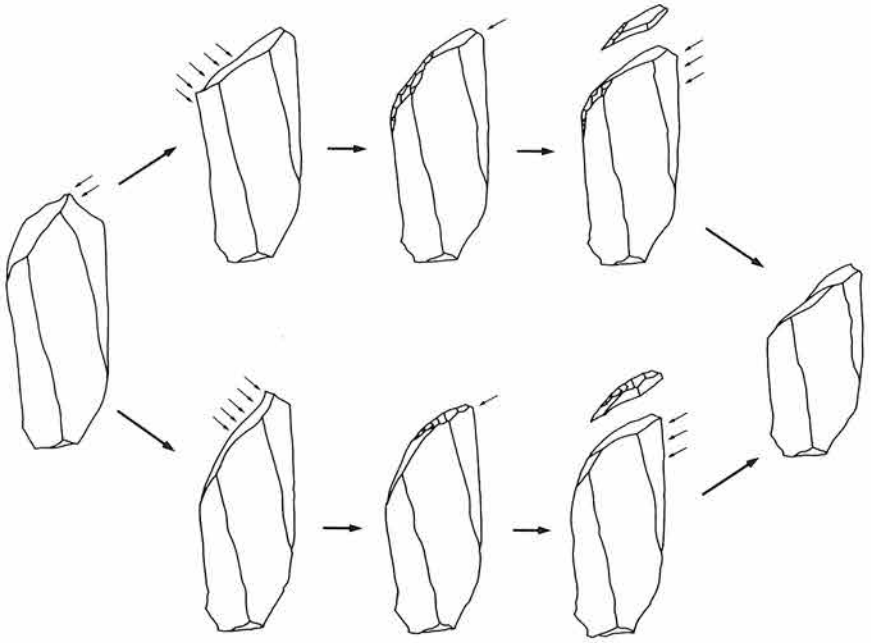
第25図　接合資料6における刃部再生による形態変化



第26図　彫刻刀削片の主要剝離面と石器背面・主要剝離面のなす角の補角ヒストグラム



第27図　彫刻刀削片の主要剝離面と石器背面・主要剝離面のなす角の補角相関図



第28図　彫刻刀形石器の刃部再生工程模式図

少している可能性が指摘できる(第25図)。また、接合資料３では石刃Ｂ７－81の打面よりも彫刻刀Ｂ３－46の素材石刃の打面の方が遠いことから、やはり素材石刃の長さと廃棄された彫刻刀の長さには大きな差があることがわかる。接合資料４も接合資料６によく似ており、同じようなあり方が想定できる。

また、接合資料から彫刻刀面作出に先行する調整の実態が明らかとなった。接合資料４・６・11では調整が先行する彫刻刀面の末端と素材石刃の側縁のなす角が小さくなったときに行われていることを示している。さらに、接合資料４・６では一度彫刻刀面末端と素材側縁の角度が調整された後は、その角度が小さくならない限り調整が施されずに彫刻刀面が作出されていることがわかる。また、接合資料11では２回の樋状剝離の後、彫刻刀面末端と素材側縁の角度が小さくなったために集中的に調整が施されている。接合資料６のＢ５－18や接合資料９では彫刻刀打面付近にのみ調整が施されており、彫刻刀打面と樋状剝離

第89表　彫刻刀面刃部再生時の削片の数と割合

	点　数	%
第1削片	16	16.7
再生削片	80	83.3
計	96	100.0

を施す作業面とのなす角を修正したり、先行する樋状剝離によって生じた「ひさし」を除去する役割もあったことがわかる。もし、彫刻刀面末端と素材側縁との角度が小さいまま樋状剝離を加えた場合、剝離がスムースに抜けずに末端がヒンジ、ステップ等を生じる可能性がある。また、彫刻刀打面と作業面のなす角が不適当な場合には、樋状剝離がスムースに抜けないかあるいは素材石刃を縦割りしてしまう危険性もあろう。もちろん、実際の調整加工には彫刻刀面の打面付近から末端まで連続して施されているものや、一部のみに調整が認められるものなどの多様性は存在する。また、これらの調整が使用のために刃部の形状を修正する役割がなかったとは断定できない。むしろ、調整後に樋状剝離が行なわれずに廃棄された接合資料12はこの可能性を示唆している。調整部位が刃部として使用されたかどうかについてはやはり使用痕分析などによる検討が不可欠であろう。

しかし、調整部位の使用の有無にかかわらず、彫刻刀面作出に先行する調整が彫刻刀面末端や先端の角度を修正することによって、素材石刃の長軸を後退するように刃部再生を行うことに重要な役割を果たしていたことは間違いない(第28図)。この石刃の長軸を後退して刃部再生を繰り返すシステムは、刃部再生に伴う石器の大きさの減少を少なくするもので、一定量の石材から得られる刃部の長さを指標とした場合きわめて効率的なものである。また、第89表のような彫刻刀削片における再生品の多さとも矛盾しない。第26・27図で示したような刃部再生によって刃角が変化しないことにもこれらの調整が寄与しているものと思われる。このように調整を駆使してコントロールされた刃部再生を繰り返す様子は、石器に現れた管理の原理と呼べるものである。そして、この刃部再生システムはA地点の報告書で指摘した彫刻刀を携帯することによって必要な道具を確保するという、当該石器群の技術的組織の根幹をなすものであったと考える。神山型彫刻刀は製作者の頭の中にある目的的な形態というよりは、こうした石刃を素材とした刃部再生システムの表現型とはいえないだろうか。

C　石器群の編年的位置づけ

A地点の報告書では、本石器群がいわゆる杉久保石器群であり火山灰分析の結果からAT降灰以降に位置づけられることは述べたものの、いわゆる東山石器群、国府石器群との関係については言及しなかった。新潟県における三者の関係については、別稿で概略を示したことがある〔沢田1994〕。そこでは、東山石器群をAT降灰前からAT降灰後に渡る石器群と位置づけ、杉久保石器群がこれに後続するとした。そして、国府石器群はこの中に一時的に流入してくる石器群とした。具体的に国府石器群と並行する石器群については明言しなかったが、東山石器群の一部がこれにあたると考えている。この編年観の根拠となるのは東北日本において東山石器群がAT下位と上位から出土していること〔中川ほか1995〕、上ノ平遺跡A地点で杉久保石器群がATよりも上位から出土し、層位的にはATよりもむしろAS－YPKの降灰層準に近いことである。

この編年観は東山石器群の年代幅を比較的長くみている。当然、東山石器群が細分可能なのかどうかが問題となるであろう。現時点ではこうした視点での検討をほとんど行っていないが、スクレイパーの形態、鋸歯縁石器や台形様石器の有無などによって細分できる可能性を今後検討してゆきたい。また、石刃技法の差や石刃技法以外の剝片剝離技術の実態も明らかにする必要がある。

いっぽう、杉久保石器群の細分についてはA地点の報告書でナイフの形態によって細分できる可能性を指摘した。具体的には新潟県楢ノ木平遺跡〔中村1978〕、秋田県鴨子台遺跡〔小林ほか1992〕、岩手県和賀仙

人遺跡〔和賀仙人遺跡研究グループ編1984〕、新潟県荒沢遺跡など長軸が素材石刃の長軸と一致するような二側縁調整のナイフを一定量保持する石器群[1)]と典型的な杉久保型ナイフを主体とする石器群は分離できる可能性が高い。さらに、検討の余地はあるものの樽ノ木平、和賀仙人遺跡で尖頭器が共伴していることから、これら二側縁調整のナイフをもつ一群が杉久保石器群の新しい段階である可能性が高い。それでは、こうしたナイフの形態の差が遺跡の機能すなわち移動システムの中での脈絡の違いに起因する可能性はないのだろうか。A地点やC地点出土石器群に見られるようなトゥールや石刃を主に携帯するシステムでは遺跡の機能の差が石器の形態や組成の差として現れにくいものと考えられる。さらに、ナイフの主な機能が刺突であり、あまり刃部再生による形態変化のみられないトゥールであることを考慮するとその可能性はきわめて低いといえよう。

東北日本における後期旧石器時代の編年作業においては、より資料の実態に基づいた検討の必要性を痛感する。杉久保石器群、東山石器群といった概念は一定の有効性を持ってはいるが、石器群内での変異や石器群間の中間的な様相の把握において限界がある。石器群の差と地域性との関係もさらに検討する必要があろう〔石川1993〕。今後こうした視点での分析を行った上で、稿を改めて東北日本における後期旧石器時代の編年について論じようと思う。

2　縄文時代草創期の石器について

A　接合資料からみた石器製作技術

縄文時代草創期の石器群では、7母岩9例の接合資料が得られた。とくに、接合資料1・3・4では数多くの剥片が接合しており、技術的な検討が可能である。すでに、接合資料の事実記載は第Ⅵ章で行っているので、ここでは接合した剥片の属性分析から接合資料の特徴を検討する。

接合資料1（第29・30図、第72表）

B1－530を境に2段階の工程に分離した。前半の工程は原石の節理面、自然面除去の段階といえるものである。この工程で剥離された剥片は大きさや剥離角にばらつきがある。また、打面の種類も節理面、自然面が多い。いっぽう、後半の工程では剥片の平面形にはばらつきがあるものの、剥離角は110度を中心に比較的まとまった分布を見せる。打面も調整打面、複剥離面打面のものが増え、とくに調整打面は形状が山型のものが多い。後半段階の剥片の中にはブロック1から他のブロックに搬出されたものも認められる。

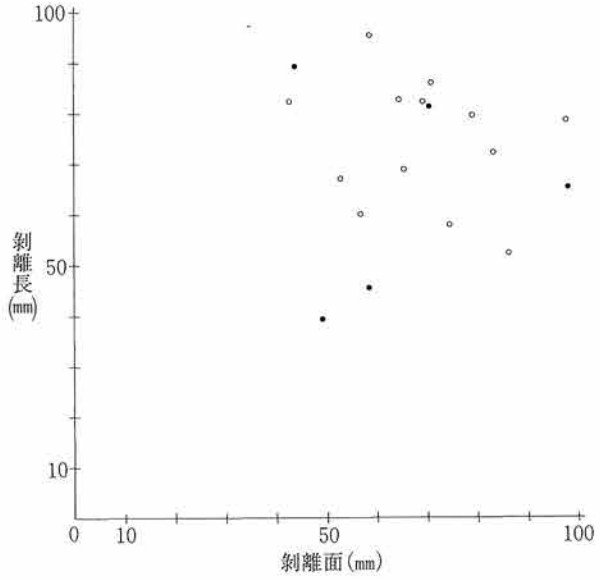
接合資料3（第31・32図、第73表）

この接合資料は原石の自然面除去にほぼ限定され、複数の工程は認められない。剥片の形態をみると平面、断面とも大きさにばらつきがあるが、剥離角は100～104度を中心としてまとまる点が他の接合資料とは異なっている。打面では調整打面が1点認められるものの例外的で、形状も平坦なものが多い。また、ブロック1から搬出された剥片は1点だけである。

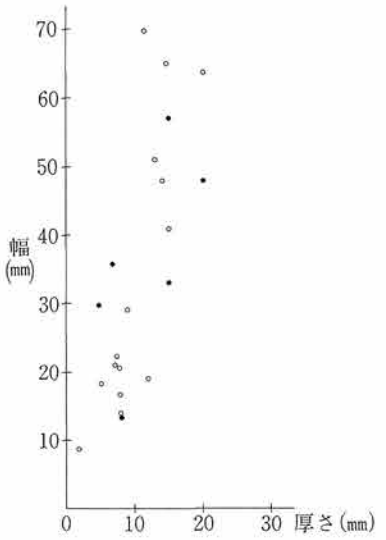
接合資料4（第33・34図、第74表）

この接合資料はやや扁平な円礫の自然面除去のものである。B1－389より後を後半段階の工程とした。前半段階は扁平な円礫の周縁で打面と作業面を入れ替えながら交互剥離を行い、自然面を除去する工程と

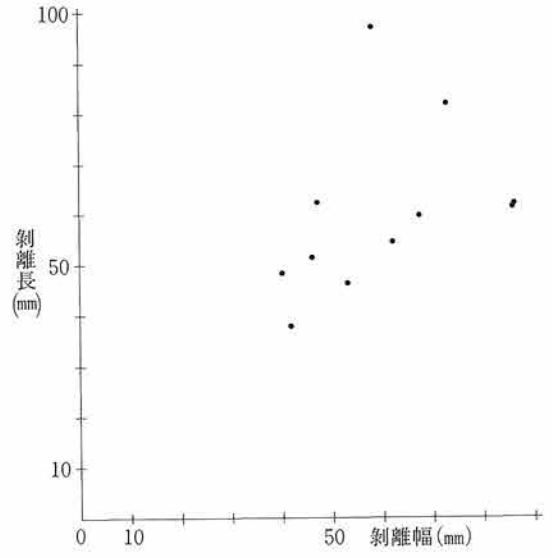
1）これらの石器群を茂呂系ととらえ、杉久保石器群とは別のものと考える研究者も多いが、筆者は彫刻刀の類似度を重視し、大枠で杉久保石器群の中で理解している。



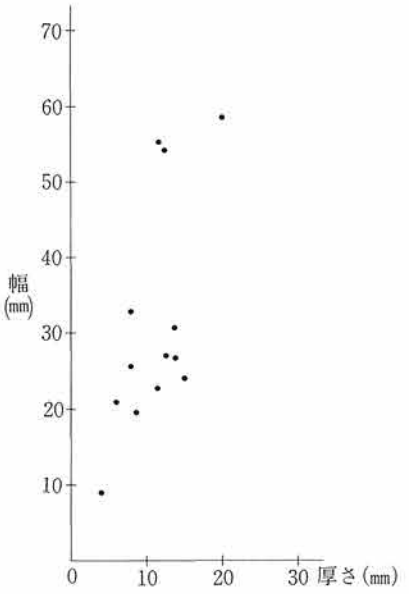
第29図　接合資料1剝片の剝離長幅散布図



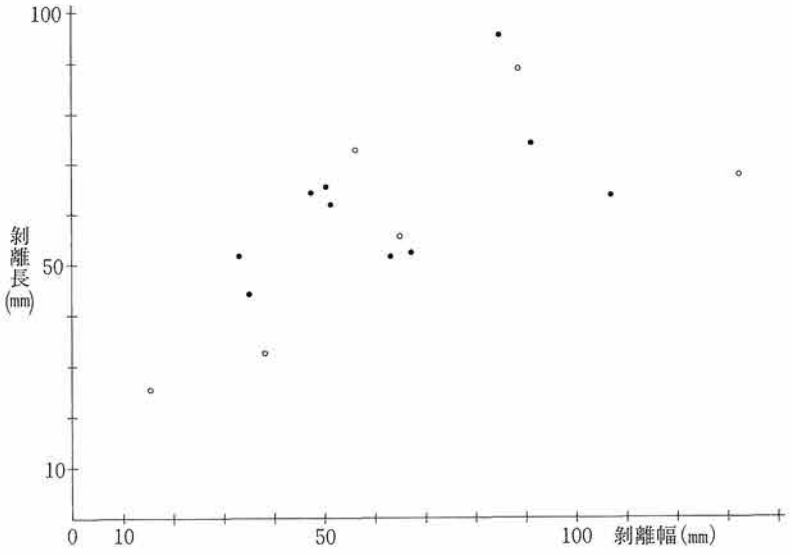
第30図　接合資料1剝片の打面幅厚散布図



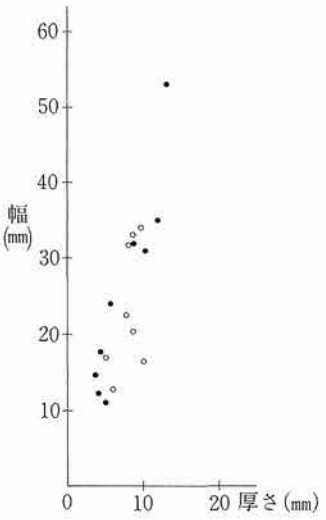
第31図　接合資料3剝片の剝離長幅散布図(mm)



第32図　接合資料3剝片の打面幅厚散布図



第33図　接合資料4剝片の剝離長幅散布図



第34図　接合資料4剝片の
打面幅厚散布図

考えられる。この工程で生じた剥片は、大きさにばらつきがあるが剥離角は一定している。これはこの工程で交互剥離が規則的に行われていたことによると考える。後半の工程は周縁からの剥離がかなり進行した後にさらに求心状に剥離を施している段階である。生じる剥片はやはり大きさにばらつきがあり、剥離角も一定ではない。ただし、調整打面を持つものが認められる。後半段階の剥離順序の新しいものはブロック6から出土している。ただし、ブロック6には同一母岩のチップは認められず剥片が搬出されたものと思われる。

出土した縄文時代草創期の石器群にみられる技術的特徴について述べたい。使用されている石材は頁岩の角礫・亜角礫・円礫である。表面に節理面を持つものも認められる。高橋春栄氏によればこれらの石材は、遺跡から3㎞ほど離れた長谷で産出するもの〔阿部1995〕にきわめてよく似ているという。

得られた接合資料の多くはこの原石の自然面や節理面を除去する工程のものである。接合資料2・5では節理面による分割が行われている。いっぽう、接合資料3・4では分割が行われていないことは確実である。分割は原石の状態に応じて採用されたりされなかったりする技術といえそうである。自然面除去は原石の稜線を手がかりに行われることが多い。こうした稜線をはさんで交互剥離を行う接合資料1・4や片面につき数回ずつの剥離を繰り返す接合資料2・3などこの作業にもバラエティーがある。この段階で生じた剥片がトゥールの素材となったり他のブロックへ運ばれたりすることはきわめてまれである。自然面除去がある程度進行した接合資料1・4では続いて石核整形と思われる段階の剥片が接合している。この段階では前の工程で交互剥離の行われた接合資料1・4でも同じ作業面から数枚の剥片を連続して剥離するようになり、打面がやや固定的となる。割合は低いものの打面調整も行われるようになる。この工程で生じた剥片にはわずかではあるが縦長のものや比較的形状の整ったものがあり、こうした剥片の中には他のブロックに搬出されているものもある。石核整形と同時に整った形状の剥片を剥離する意図も生じているのかもしれない。

接合資料5個体1・接合資料8はこうした石核整形が施された後の石核である可能性が高い。前者では数枚の剥片が接合しているが、節理割れなど不規則な剥離が含まれ工程は明確ではない。後者は石質が母岩1によく似ており接合資料1に後続している可能性があるが、接合関係は認められなかった。ただし、石核の形状は接合資料1にみられるような整形剥離と調和的である。接合資料5個体1・接合資料8とも石刃を連続的に剥離しているが、剥離技法は大きく異なる。前者は、節理面を打面として小型の石刃が連続的に剥離されている。打面となった節理面を作業面として幅広の縦長剥片を連続的に剥離する工程も見られる。後者は、打面調整・石核調整を行いながら大型でやや幅広の石刃が剥離されている。出土石器には47点の石刃が含まれており、これらのなかには調整打面を持つものも多い。これらの点から本石器群が石刃技法を持っていることは確実である。得られた接合資料の多くは中心部分が遺跡外に搬出されているものが多いが、石刃石核ないしその母型が搬出されていた可能性が高く、接合資料からその形状は比較的粗い剥離面で構成された両面体ないし多面体であったものと思われる。

B　石器群の編年的位置づけ

本石器群は①大型の尖頭器を伴うこと、②石刃技法を持つことからいわゆる神子柴・長者久保石器群の特徴を持っている。石刃素材の彫刻刀形石器の存在もこの編年観を支持している。ただし、当該石器群の主要な器種である石斧を本石器群は組成していない。

神子柴・長者久保石器群が石刃技法を持つことは以前から指摘されてきたが、その内容については不明

瞭な部分が多い。長野県神子柴遺跡〔藤沢・林1961〕や新潟県村杉遺跡〔阿部1988〕のように円盤状の石刃石核が認められる場合と、青森県大平山元Ⅰ遺跡のように円筒形の石刃石核が認められる場合とがあり、両者の関係は不明である。本石器群の接合資料8にみられる石刃技法は神子柴・長者久保文化における石刃技法のあり方を接合によって示すことのできる貴重な例であると考える。石刃石核の母型は断面がD字形となるような両面体であり、その断面凸形の面を石刃剝離の作業面としている。剝離された石刃は調整打面を持ち幅広で、背面に石核整形段階の横方向の剝離面を持っている。このような石刃の特徴は他に図示した石刃(図版61－58～60)にもしばしば認められ、こうした石刃技法が本石器群の中で特異なものではなかったことを示している。いっぽう、接合資料5個体1にみられるような石核は今回類例を見つけることができなかった。今後の課題としておきたい。

ところで、得られた接合資料の多くが中抜けで石核が遺跡外へ搬出されていた点は、当該石器群の石材獲得・消費システムと集団移動とのかかわりを考える上で重要である。石核が搬出されていることから、石核を携帯して必要に応じて石核から石刃、剝片等を剝離して必要な道具を確保するようなシステムの存在が予想される。ところで、搬出された石核はいわゆる両面体であったわけだが、こうした両面体はしばしば石核とトゥールの二面性を持ちながら携帯される石器であることが指摘されている〔阿子島1991〕。本石器群でも遺跡から搬出された両面体がこうした二つの機能を保持しながら携帯されていた可能性を指摘しておきたい。上ノ平遺跡C地点出土石器群からはこれに関するデータはあまり得られなかったが、今後このような視点で縄文時代草創期の石器群を検討する必要がありそうである。

いっぽう、神子柴・長者久保石器群にはいわゆるデポがしばしば認められ、こうした石核運搬システムとデポを当該石器群の技術的組織の中でどのように位置づけるかは今後の重要な課題といえよう。また、上ノ平遺跡C地点から谷を隔てた吉ケ沢遺跡B地点でも当該石器群が出土しており、これらは両面加工石器、剝片、石刃を主体としている〔飯坂1995〕。両者の石器群を合わせて検討することによって、神子柴・長者久保石器群の技術的組織がさらに明らかになることが期待される。

3　縄文時代前期末の上ノ平遺跡C地点

第Ⅰ群土器とした縄文時代前期の土器は大木6式ないしそれに並行するものである。これらの土器を主に文様から13類型に分類したが、福島県法正尻遺跡〔松本ほか1991〕や鹿島遺跡〔丹野ほか1991〕での層位的出土例によれば、1～6類が大木6式古段階、7～12類が新段階になるものと思われる。近年、新潟県東蒲原〔滝沢ほか1995、南1995〕、福島県会津地方〔芳賀・丹野1990、丹野・松本ほか1991、藤谷・芳賀1993〕で大木5～6式期の資料がまとまって検出され、阿賀野川流域における様相が明らかとなりつつある。

本遺跡出土土器は全て深鉢で、器形は口縁が外傾し頸部に屈曲を持ち胴部上半の張るもの、いわゆる金魚鉢型のもの、円筒形状を呈し口縁部のわずかに外反するもので構成されている。また、本遺跡の大木6式の土器には東北地方中北部でみられるような沈線による胴部のX字状、対向線状の文様は認められない〔興野1970〕。この点はすでに法正尻遺跡の報告書でも指摘されており、大木6式における地域差としてとらえられる可能性が高い〔松本ほか1991〕。また、10類としたものは新潟県柿崎町鍋屋町遺跡第Ⅲ群土器第3類〔寺村・室岡ほか1960〕に類例が求められ北陸系の土器と考えられる。このように大木6式を主体とし一部北陸系を伴うという本遺跡出土土器群は、阿賀野川流域の前期末の土器の様相を示しているものと思われる。

最後に遺構、遺物を合わせて、本遺跡の性格を推定してまとめとする。検出された遺構は竪穴住居跡1

棟、ピット１基である。したがって、遺跡の性格は拠点的な集落というよりは、キャンプサイトとしての性格が強いといえる。しかし、竪穴住居が検出されていること、土器が大木６式古段階、新段階にまたがることから、ある程度継続的に利用されていたものと考える。具体的にはある季節に繰り返し利用された枝ムラないしキャンプサイトが想定できよう。石器では不定形石器が多く、石匙、打製石斧、篦状石器といった当該期の特徴となる定型的なトゥールが少ない点も、本遺跡がキャンプサイトであるという解釈と調和的である。近年の調査例の増加によって、拠点的集落、キャンプサイトというような遺跡の性格を視野に入れながら土器、石器など遺物のあり方を比較することによって、阿賀野川流域における当該期の集落生業システムを実証的に検討できる状況が整いつつあるといえよう。

4　歴史時代の焼土坑について

本遺跡で検出された焼土坑はほかの阿賀野川 SA 予定地内の遺跡でも検出されており〔沢田ほか1994、藤巻編1996〕、本遺跡例を含めた総数は百基を越えるものと思われる。これらの土坑についてはこれまで時期が不明のままであったが、今回放射性炭素年代測定を行い13～14世紀の年代が得られた。A 地点の報告書では遺構との共伴関係は不明であるものの、平安時代の土器片が出土していることから、土坑の所属時期が平安時代になる可能性を指摘した。今回の分析結果とはかなりの開きがあり、この原因として①土坑の構築年代そのものに幅がある、②平安時代という解釈に過ちがある、③測定誤差などが考えられる。

今回の年代測定では年代測定値に対して、^{13}C 測定値による同位体選別の補正や年輪年代による過去の ^{14}C 濃度の経年変化の補正が行われている〔奥村1995〕。ただし、この補正プログラムの中に半減期などの他の補正が含まれているのかは不明であるとのことであった（古環境研究所早田勉氏のご教示）。近年、分析技術の向上やこうした補正によって放射性炭素年代測定法による詳細な年代測定値を得ることが可能になってきた〔町田ほか1995〕。このような高精度の理科学的分析を生かすためには、われわれ発掘調査担当者が分析の原理・方法を十分に理解すること、試料の採集・取り扱いに注意を払うことが必要となろう。

今回分析に用いたサンプルは土坑の底面ないし埋土下層から採取したもので、土坑の時期からはずれる可能性は低い。また、４つのサンプルでほぼ同様の年代測定結果が得られている。したがって、現時点では今回の年代測定結果をこれらの土坑の所属時期の基準とすべきと考える。ただし、年代測定の補正方法などに不明な点などもあることから一応の目安としておきたい。今後、類例の検討、年代測定を増やしてゆくことによって年代の上下限を検討する必要があろう。

最後に土坑の性格についての所見を示す。土坑の構造はきわめて簡単で径１～２ｍの円形の土坑が掘られただけのものである。ただし、底面や側面に貼り土の認められるものが一定量存在する。複数の焼け面の認められる例がないことから、焼成は１回だけで繰り返し利用された可能性は低いと考える。埋土は大部分が自然堆積であるが、一部ではあるものの下層に人為的な埋土を持つものが存在する。遺構の性格としては炭焼きを行った土坑の可能性が高い。土坑の構造が簡単、土坑の配置に企画性が認められない、生産されていた炭も軟質で質の悪いものであったことなどから、小規模で家内的な炭焼きに伴う遺構と考える。また、年代測定とあわせて樹種同定を行ったが結果は全てクリであった。生産形態と樹種との関係も今後検討してゆく価値がありそうである。

これらの土坑は、構築年代、遺構の性格を含めて分析例、類例の増加に期待する点が多いが、古代後半から中世にかけての小規模で家内的な生産形態に伴う遺構の可能性があり、今後も注意を払う必要があろう。

要　約

1　上ノ平遺跡Ｃ地点は新潟県東蒲原郡三川村大字上戸谷渡字上ノ山6270ほかに所在する。遺跡は阿賀野川左岸の河岸段丘上に位置し、標高は約67～73ｍである。

2　調査は磐越自動車道阿賀野川サービスエリア建設に伴い平成３～５年に行われた。調査面積は10,100㎡である。

3　調査の結果、旧石器時代、縄文時代草創期を中心とし、縄文時代前期、歴史時代を伴う遺跡であることが判明した。検出された遺構は旧石器時代のブロック７か所、縄文時代草創期のブロック５か所、縄文時代前期の竪穴住居跡１棟、ピット１基、中期の集石遺構３基、歴史時代の土坑47基、ピット14基などである。

4　旧石器時代の遺物は全て石器で、手掘り出土446点、ふるい出土188点の合わせて697点で、大部分は７か所のブロックから出土している。７か所のブロックには母岩の共有関係が認められたので、これらは同時期に形成されたものと考える。遺物は、ナイフ形石器42点、彫刻刀形石器95点、二次加工ある剥片(石刃)５点、石刃130点、彫刻刀削片148点などである。ナイフ形石器は杉久保型、彫刻刀形石器は神山型を主体とする。石材は珪質頁岩を主体とし、ほかに玉髄、チャートなどが認められる。

5　縄文時代草創期の遺物は石器および礫で、924点で、大部分は５か所のブロック、とりわけブロック１から出土している。ブロック１からは661点の遺物が出土しており、接合資料の存在から剥片生産を主体とした石器製作が行われたことがわかる。ブロック６からは母岩Ｓ６がまとまって出土しており、この母岩による石器製作が行われたことがわかる。ブロック９は３点の尖頭器破片以外は剥片・チップ類で尖頭器の最終的な整形が行われていたようである。ブロック10・11はそれぞれ７点、５点の剥片・石刃からなり、ブロック１から搬出された石器が遺棄ないし廃棄されたと考える。ブロック１・６・10・11では母岩の共有が認められ、これらの同時性が検証されたが、ブロック９は他のブロックと母岩を共有しておらず、時間差があるものと考える。

6　縄文時代は西地区と東地区で主体となる時期が異なる。西地区では竪穴住居跡１棟、ピット２基が検出され、遺物は土器234点と石器368点が出土した。西地区出土土器の大部分は縄文時代前期末のものであり、石器や遺構もこの時期のものと思われる。土器は東北系の大木６式の土器を主体とし、わずかに北陸系の土器が加わる。とくに、福島県会津地方との類似性が高い。石器は石鏃、篦状石器、ピエス・エスキーユ、不定形石器、石核などで、凝灰岩、流紋岩、頁岩、鉄石英を主な石材としている。

東地区では集石遺構３基が検出され、遺物は土器数十点と石器82点が出土した。東地区出土土器で時期のわかるものは中期前葉新崎式の同一個体の破片のみであり、石器や遺構もこの時期のものと思われる。石器は篦状石器、打製石斧を主体とし、石匙、不定形石器、石核などが加わる。

7　歴史時代のものと思われる土坑が47基検出された。これらの多くは、底面や側面に焼け面を持ち、覆土に多量の炭化物・焼土を含んでいる。Ａ地点の報告書で炭窯としたものと同じである。また、底面や側面に貼り土を持つものも認められる。放射性炭素年代測定を行い、13世紀から14世紀に相当する年代が得られた。この年代はＡ地点の報告書の９世紀後半という年代観とずれがある。今後の分析例の増加を待ちたい。また、炭化物の樹種同定を行い、全てクリという結果が得られた。

引用・参考文献

相原淳一・村田晃一ほか　1986『宮城県文化財調査報告書第117集　七ケ宿ダム関連遺跡発掘調査報告書Ⅱ　小梁川遺跡　遺物包含層土器編』宮城県教育委員会・建設省七ケ宿ダム工事事務所

阿部朝衛　1988「大木家所蔵の旧石器」『北越考古学』創刊号　pp. 46～49　北越考古学研究会

阿部朝衛　1995「新潟県北部における石器材料の調査」『帝京史学』10　pp. 353～372

飯坂盛泰　1995「七堀道下遺跡」『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報　平成6年度』pp. 12～13　財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

飯坂盛泰　1995「吉ケ沢遺跡B地点」『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報　平成6年度』p. 14　財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

石川恵美子　1994「東北日本における尖頭器出現期の石器群の様相」『岩崎卓也先生退官記念論文集　日本と世界の考古学―現代考古学展開―』pp. 46～61

奥村晃史　1995「^{14}C年代の補正と高精度化のための手法」『第四紀研究』34－3　pp. 191～194　日本第四紀学会

梶原　洋・阿子島香　1981「頁岩製石器の実験使用痕研究―ポリッシュを中心とした機能推定の試み―（東北大学使用痕研究チームによる研究報告　その2）」『考古学雑誌』第67巻第1号　pp. 1～36　日本考古学会

興野義一　1970「大木式土器理解のために(Ⅵ)」『考古学ジャーナル』48　pp. 20～22　ニュー・サイエンス社

小林　弘　1988「三川村釣浜遺跡採集の先土器時代の石器」『北越考古学』創刊号　北越考古学研究会

小林　克・桑　一郎・小山内透・庄内昭男・斉藤典男　1992『秋田県文化財調査報告書第230集　一般国道7号琴丘能代道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ―鴨子台遺跡・八幡台遺跡―』秋田県埋蔵文化財センター

佐藤正知・滝沢規朗・上田順二　1995『新潟県埋蔵文化財調査報告書第70集　磐越自動車道関係発掘調査報告書　蟹沢遺跡・上城遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

沢田　敦　1994「新潟県の様相」『第2回　岩宿フォーラム/シンポジウム　群馬県の岩宿時代の変遷と特色　予稿集』pp. 61～65　笠懸野岩宿文化資料館・岩宿フォーラム実行委員会

沢田　敦・飯坂盛泰・関　洋介・中澤　毅・小池右子　1994『新潟県埋蔵文化財調査報告書第64集　磐越自動車道関係発掘調査報告書　上ノ平遺跡A地点』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

渋谷孝雄・佐藤正俊・長橋　至　1984『山形県埋蔵文化財調査報告書第82集　吹浦遺跡第1次緊急発掘調査報告書』建設省東北地方建設局酒田工事事務所・山形県教育委員会

渋谷孝雄・佐藤正俊　1985『山形県埋蔵文化財調査報告書第93集　吹浦遺跡第2次緊急発掘調査報告書』建設省東北地方建設局酒田工事事務所・山形県教育委員会

渋谷孝雄・黒坂雅人　1988『山形県埋蔵文化財調査報告書第120集　吹浦遺跡第3・4次緊急発掘調査報告書』建設省東北地方建設局酒田工事事務所・山形県教育委員会

菅沼　亘　1992「五泉市薬師堂遺跡旧石器時代資料の再検討」『新潟考古』第3号　pp. 61～78　新潟県考古学会

鈴木俊成・高橋保雄　1993「石器の実測方法」『考古学ジャーナル』360　pp. 29～33　ニューサイエンス社

仙庭伸久　1994「石器の分類について」『札幌市文化財調査報告書 XLV　N 316遺跡』p. 77　札幌市教育委員会

高橋春栄　1988「新潟県北部の旧石器」『第2回東北日本の旧石器文化を語る会資料集』pp. 25～28

高橋保雄　1992「石器類」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第57集　関越自動車道関係発掘調査報告書　五丁歩遺跡・十二木遺跡』pp. 108～231　新潟県教育委員会

滝沢規朗・北村　亮・佐藤正知・阿部雄生　1995『新潟県埋蔵文化財調査報告書第68集　磐越自動車道関係発掘調査報告書　大坂上道遺跡・猿額遺跡・中棚遺跡・牧ノ沢遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

田中耕作・増子正三・鶴巻康志・吉井雅勇　1994「ナイフ形石器文化成立期の前山遺跡・上野林J遺跡」『新潟県考古学会第6回大会発表要旨』pp. 5～10　新潟県考古学会

丹野隆明・本間　宏・松本　茂・香内　修　1991『福島県文化財調査報告書第266集　国営会津農業水利事業関連遺跡調査報告　鹿島遺跡・平林B遺跡・権現山下遺跡』福島県教育委員会

寺崎裕助　1993「鍋屋町式土器について」『第6回縄文セミナー前期終末の諸様相』pp. 195～225　縄文セミナーの会

寺村光晴・室岡　博・内藤堯一・五十嵐静雄・大塚家太郎・三井田忠　1960『鍋屋町遺跡』柿崎町教育委員会

富樫泰時・白石建雄・村岡百合子・藤原妃敏　1977『米ケ森遺跡発掘調査報告書』秋田考古学協会

中川重紀・三浦謙一・佐瀬　隆・星　雅之・菊池強一　1995『岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第215集　大渡Ⅱ遺跡発掘調査報告書　東北横断自動車道関連遺跡発掘調査』財団法人岩手県文化振興事業団

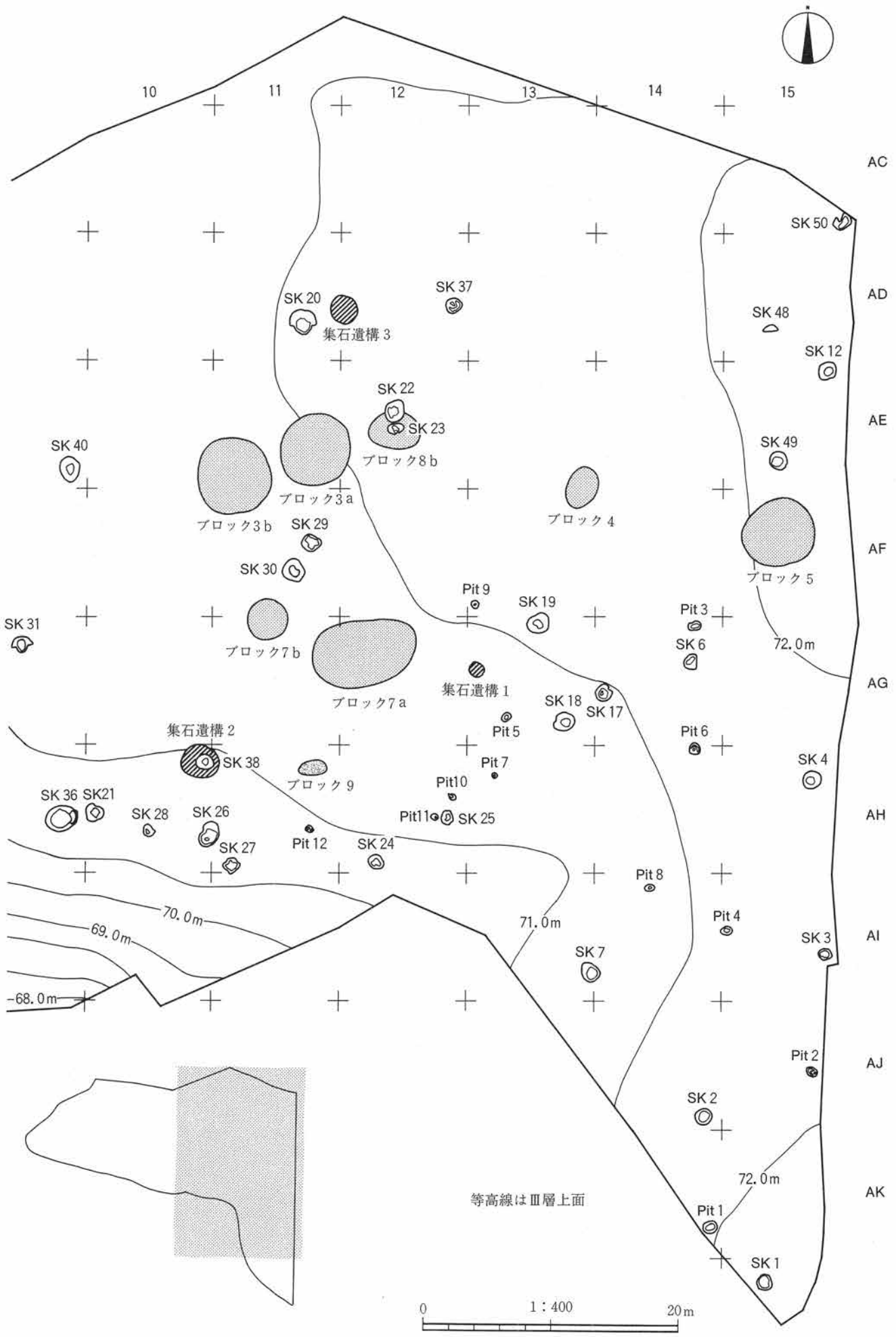
埋蔵文化財センター
中村孝三郎　1978『越後の石器』学生社
西秋良宏　1994「石器製作時における偶発剥離の問題」『東海大学校地内調査団報告』4　pp. 111～125　東海大学校地内遺跡調査委員会・東海大学校地内遺跡調査団
芳賀英一・丹野隆明　1990『福島県文化財調査報告書第227集　国営会津農業水利事業関連遺跡調査報告Ⅷ　中宵遺跡・上宵A遺跡・宵宮西遺跡・三十刈遺跡・水上遺跡』福島県教育委員会
藤沢宗平・林　茂樹　1961「神子柴遺跡―第一次調査概報―」『古代學』第9巻第3号　財団法人古代學協會
藤谷　誠・芳賀英一　1986『福島県文化財調査報告書第164集　国営会津農業水利事業関連遺跡調査報告Ⅳ　腰巻遺跡・下谷ケ地平B・C遺跡』福島県教育委員会
藤巻正信・大川原英智・関　洋介　1996『新潟県埋蔵文化財調査報告書第71集　磐越自動車道関係発掘調査報告書　吉ケ沢遺跡A地点・上ノ平遺跡B地点・中峰遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
松本　茂ほか　1991『福島県文化財調査報告書第243集　東北横断自動車道遺跡調査報告11　法正尻遺跡』福島県教育委員会・財団法人福島県文化センター・日本道路公団
町田　洋・大村明雄・福沢仁之・岡田篤正編　1995『第四紀研究第34巻第3号　高精度年代測定と第四紀研究』日本第四紀学会
御堂島正　1991「石鏃と有舌尖頭器の衝撃剥離」『古代』92　pp. 79～97　早稲田大学出版部
南　雄二　1995「北野遺跡」『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報　平成6年度』pp. 15～17　財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
村田晃一・真山　悟・伊藤　裕・今野　隆・佐藤広史　1987『宮城県教育委員会調査報告書第122集　七ケ宿ダム関連遺跡発掘調査報告書Ⅲ　小梁川遺跡』宮城県教育委員会・建設省七ケ宿ダム工事事務所
山田芳和編　1986『石川県能都町　真脇遺跡』能都町教育委員会・真脇遺跡発掘調査団
山中一郎　1979「技術形態学と機能形態学」『考古学ジャーナル』167　pp. 13～15　ニューサイエンス社
和賀仙人遺跡研究グループ編　1984『和賀町文化財調査報告書第11集　和賀仙人遺跡発掘調査報告』和賀考古学会
若林伸亮・大越道正・橋本博幸・松本　茂・大河峯夫・佐藤耕三　1983『福島県文化財調査報告書第117集　国営総合農地開発事業　母畑地区遺跡発掘調査報告13　薬師堂遺跡・蓬入遺跡・栗木内塚』福島県教育委員会・財団法人福島県文化センター
綿貫俊一・堤　隆　1987「荒屋遺跡の細石刃文化資料」『長野県考古学会誌』54　pp. 1～20　長野県考古学会

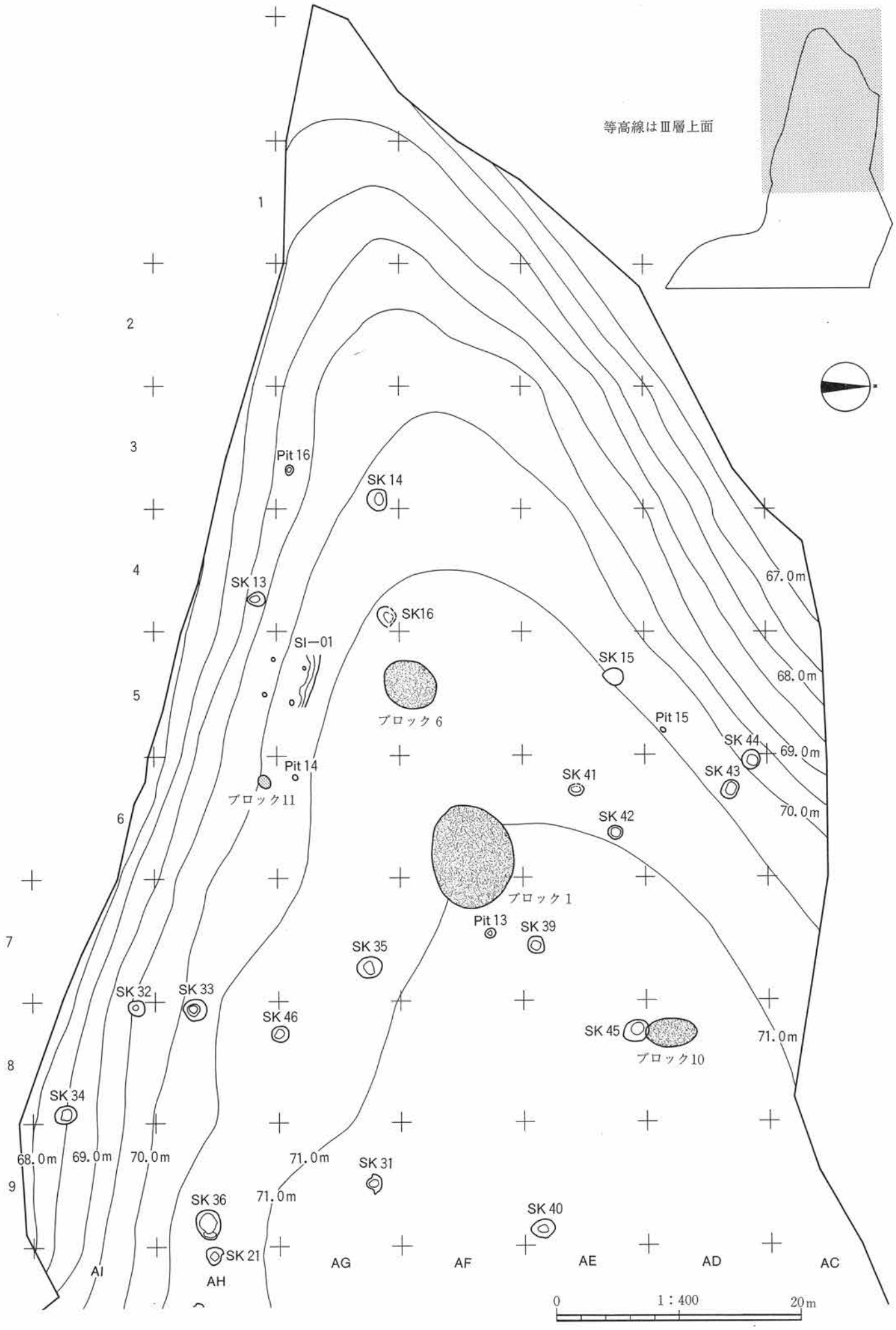
図　　版

阿賀野川サービスエリア予定地内遺跡発掘調査範囲図

図版1

遺跡全体図(1)

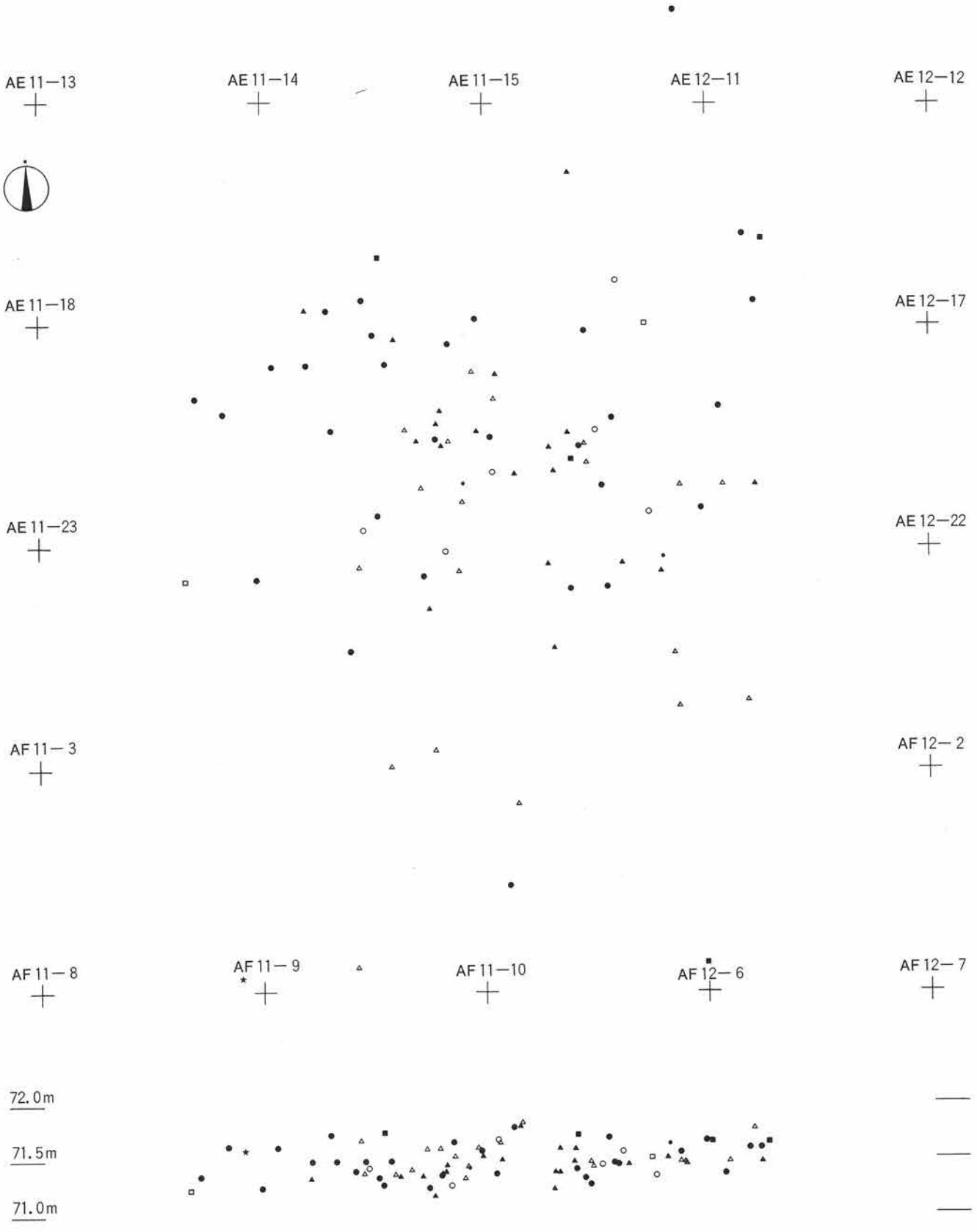

10
11
12
13
14
15
AC
AD
AE
AF
AG
AH
AI
AJ
AK
SK 50
SK 37
SK 20
集石遺構 3
SK 48
SK 12
SK 22
SK 23
ブロック8b
SK 40
SK 49
ブロック3a
ブロック3b
SK 29
ブロック4
SK 30
ブロック5
Pit 9
SK 19
Pit 3
SK 31
SK 6
72.0m
ブロック7b
ブロック7a
集石遺構 1
SK 18
SK 17
集石遺構 2
Pit 5
Pit 6
SK 38
Pit 7
SK 4
ブロック9
Pit10
SK 36
SK21
SK 28
SK 26
Pit11
SK 25
SK 27
Pit 12
SK 24
Pit 8
70.0m
71.0m
Pit 4
69.0m
SK 7
SK 3
-68.0m
Pit 2
SK 2
72.0m
等高線はⅢ層上面
Pit 1
SK 1
0
1：400
20m


等高線はⅢ層上面
Pit 16
SK 14
SK 13
SK16
SI−01
SK 15
Pit 15
SK 44
SK 43
SK 41
SK 42
Pit 14
ブロック11
ブロック 6
ブロック 1
Pit 13
SK 39
SK 35
SK 32
SK 33
SK 46
SK 45
ブロック10
SK 34
SK 31
SK 36
SK 21
SK 40
67.0m
68.0m
69.0m
70.0m
71.0m
AI
AH
AG
AF
AE
AD
AC
1
2
3
4
5
6
7
8
9
0
1：400
20m

図版 4

旧石器時代・縄文時代草創期発掘調査区図

ブロック3a 遺物分布図

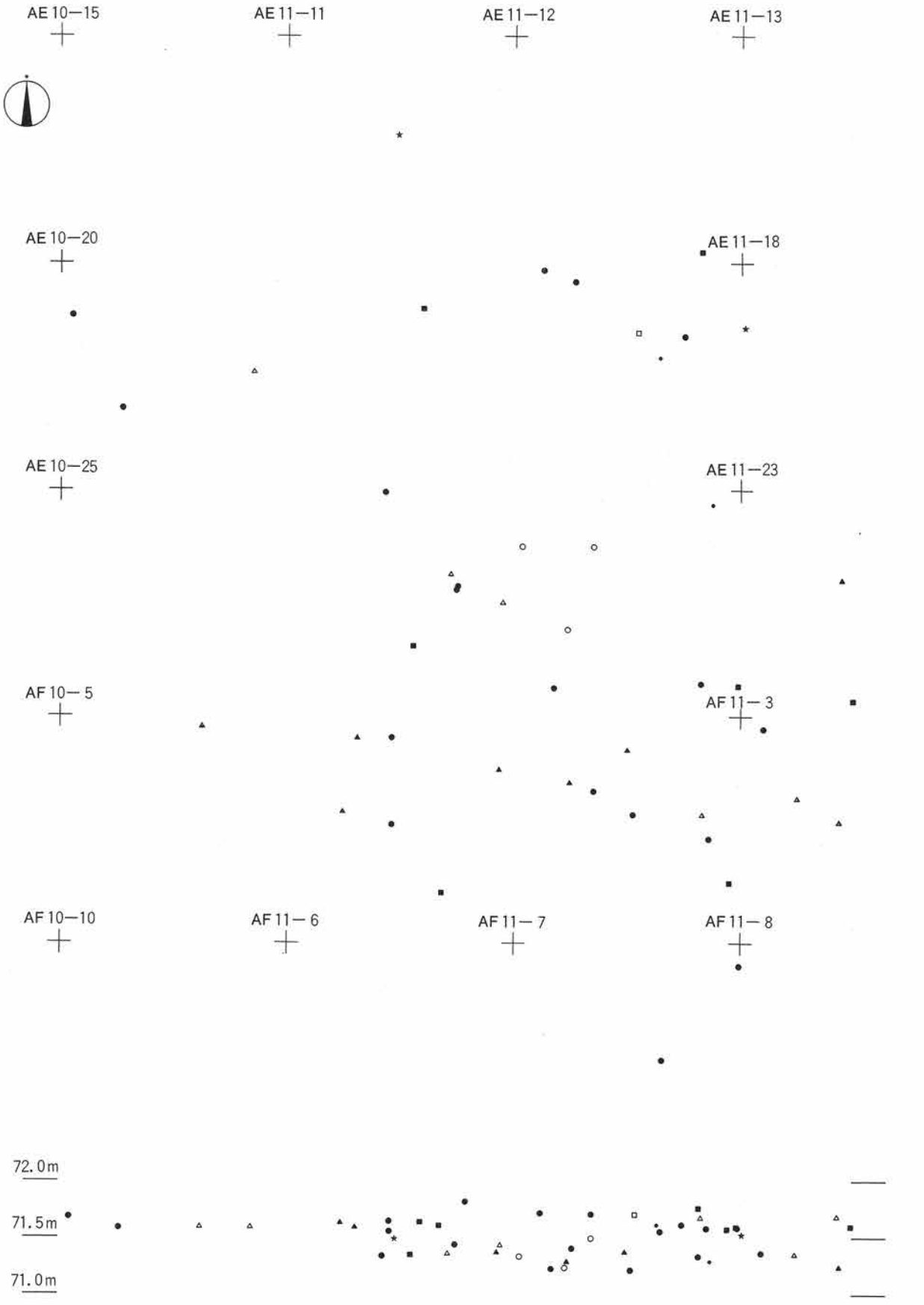


○ ナイフ形石器　▲ 彫刻刀スポール
△ 彫刻刀形石器　• チップ
□ その他のトゥール　■ 剝　片
● 石　刃　★ 礫

0　1：50　2m

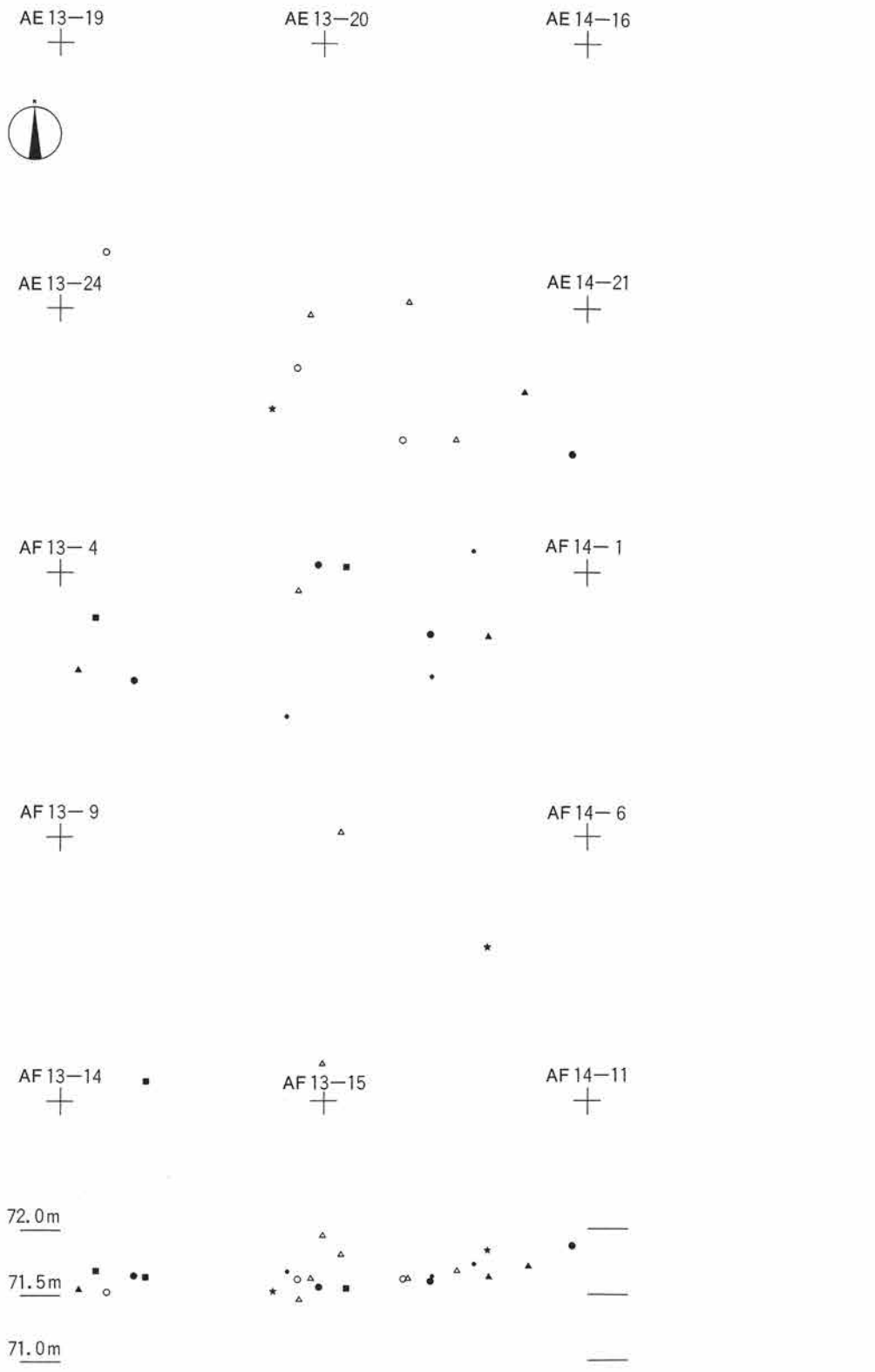
図版 6

ブロック３ｂ 遺物分布図



○ ナイフ形石器　▲ 彫刻刃スポール
△ 彫刻刀形石器　• チップ
▫ その他のトゥール　■ 剝　片
● 石　刃　★ 礫

0　1：50　2 m

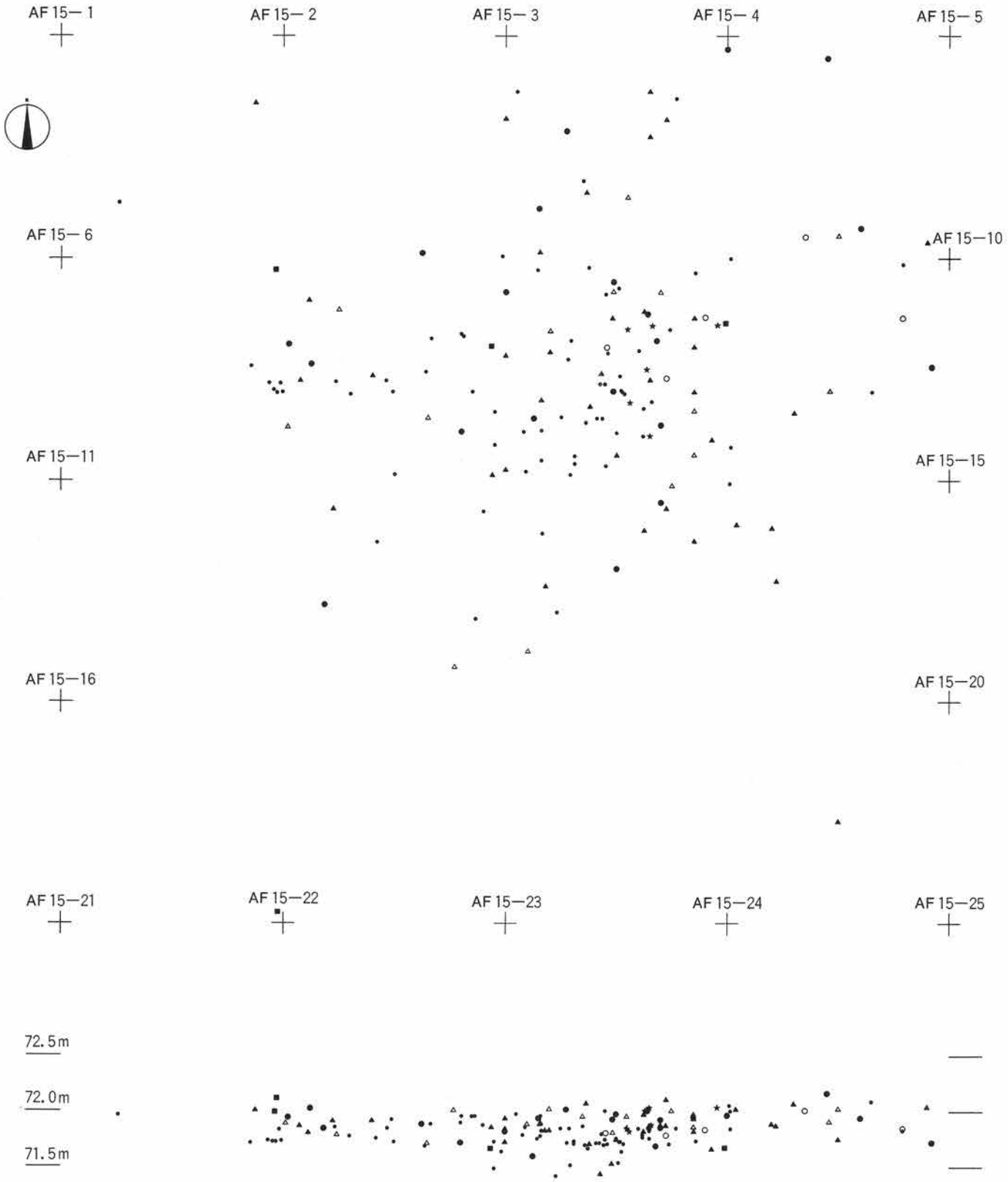


○ ナイフ形石器　■ 剝　片
△ 彫刻刀形石器　• チップ
● 石　刃　★ 礫
▲ 彫刻刀スポール

0　1：50　2 m

図版 8

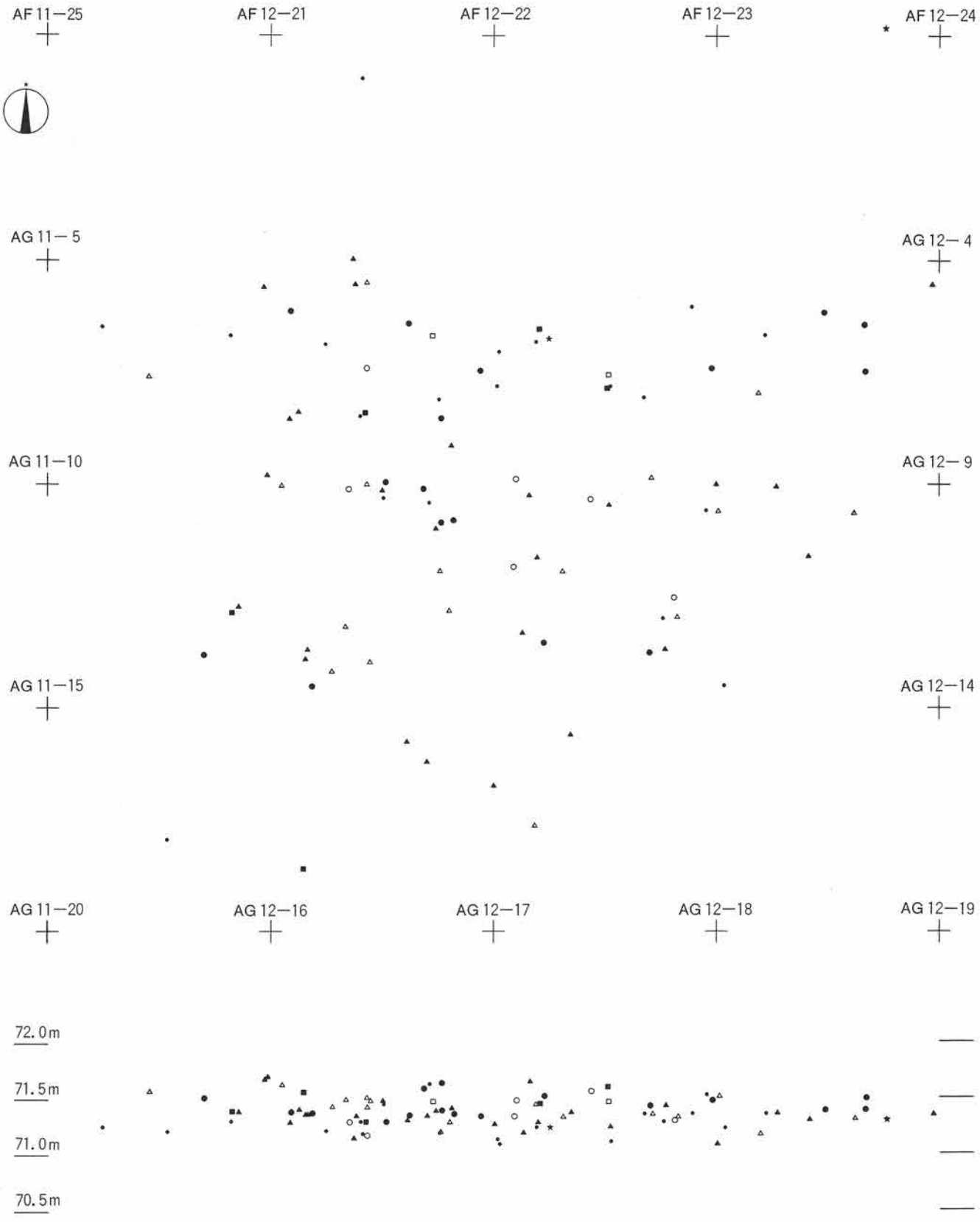
ブロック 5 遺物分布図



○ ナイフ形石器　■ 剝　片
△ 彫刻刀形石器　• チップ
● 石　刃　★ 礫
▲ 彫刻刀スポール

0　1：50　2 m

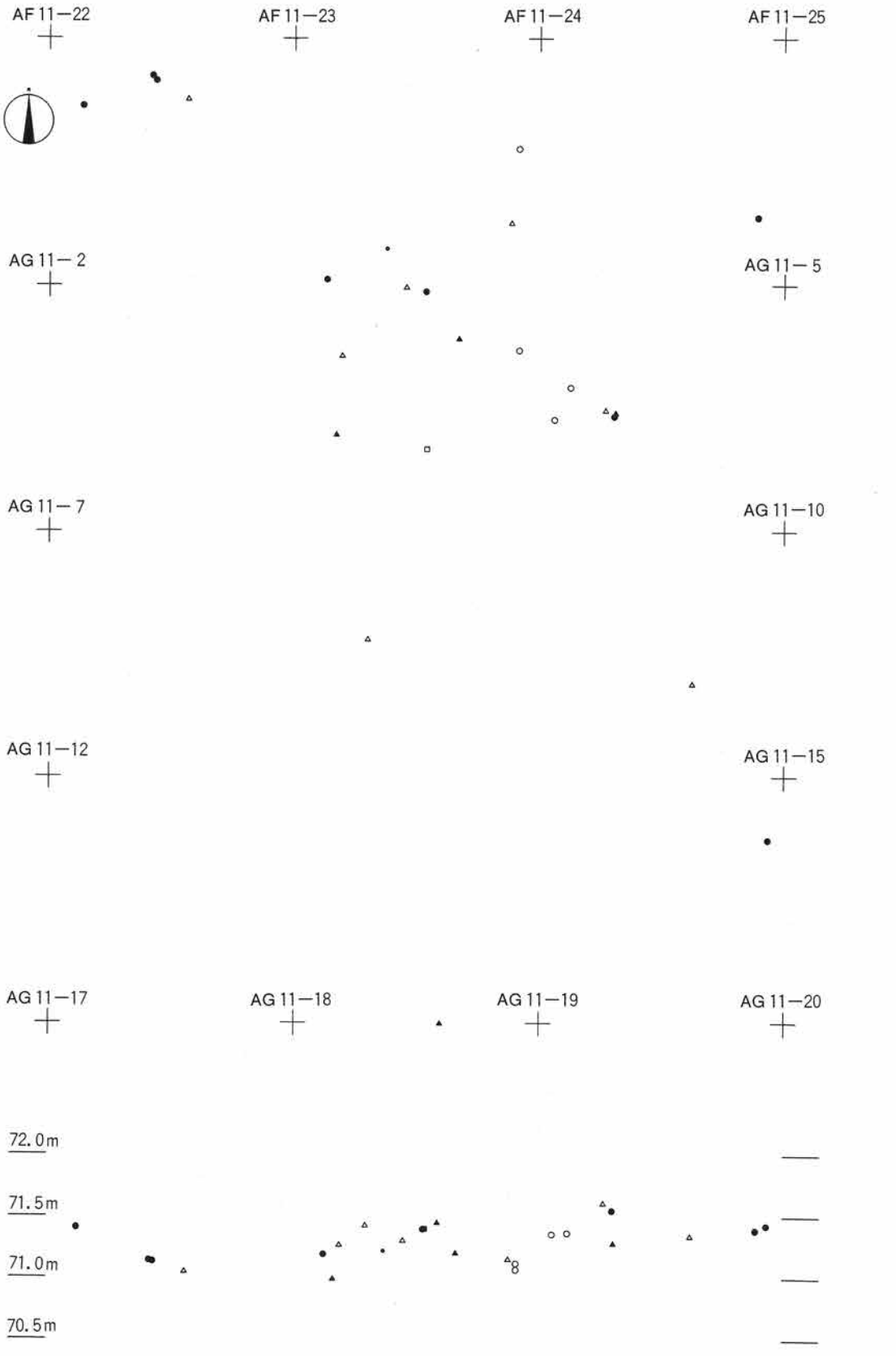
ブロック７ａ 遺物分布図



○ ナイフ形石器　▲ 彫刻刀スポール
△ 彫刻刀形石器　• チップ
□ その他のトゥール　■ 剝 片
● 石 刃　★ 礫

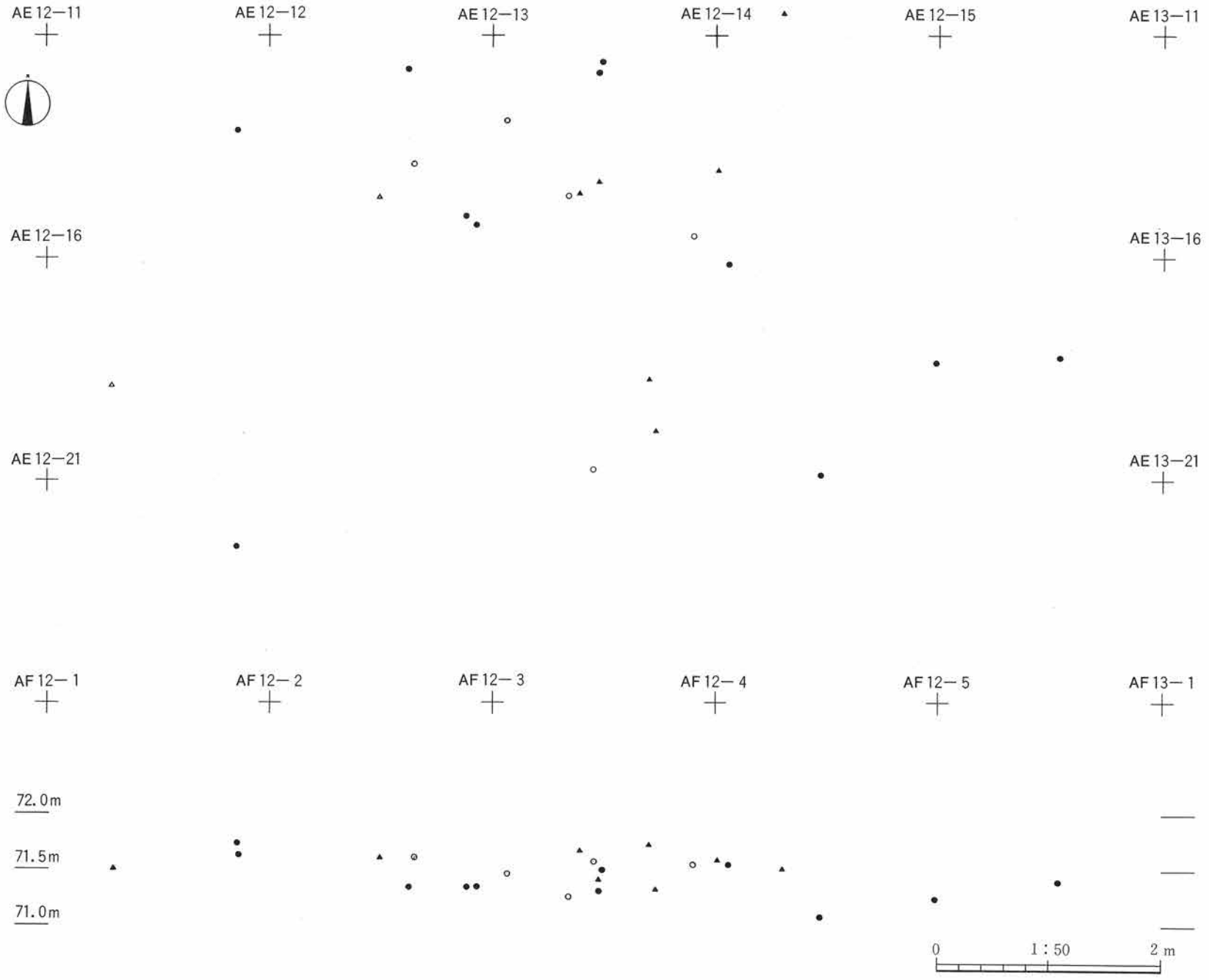
0　1：50　2 m

ブロック７ｂ 遺物分布図



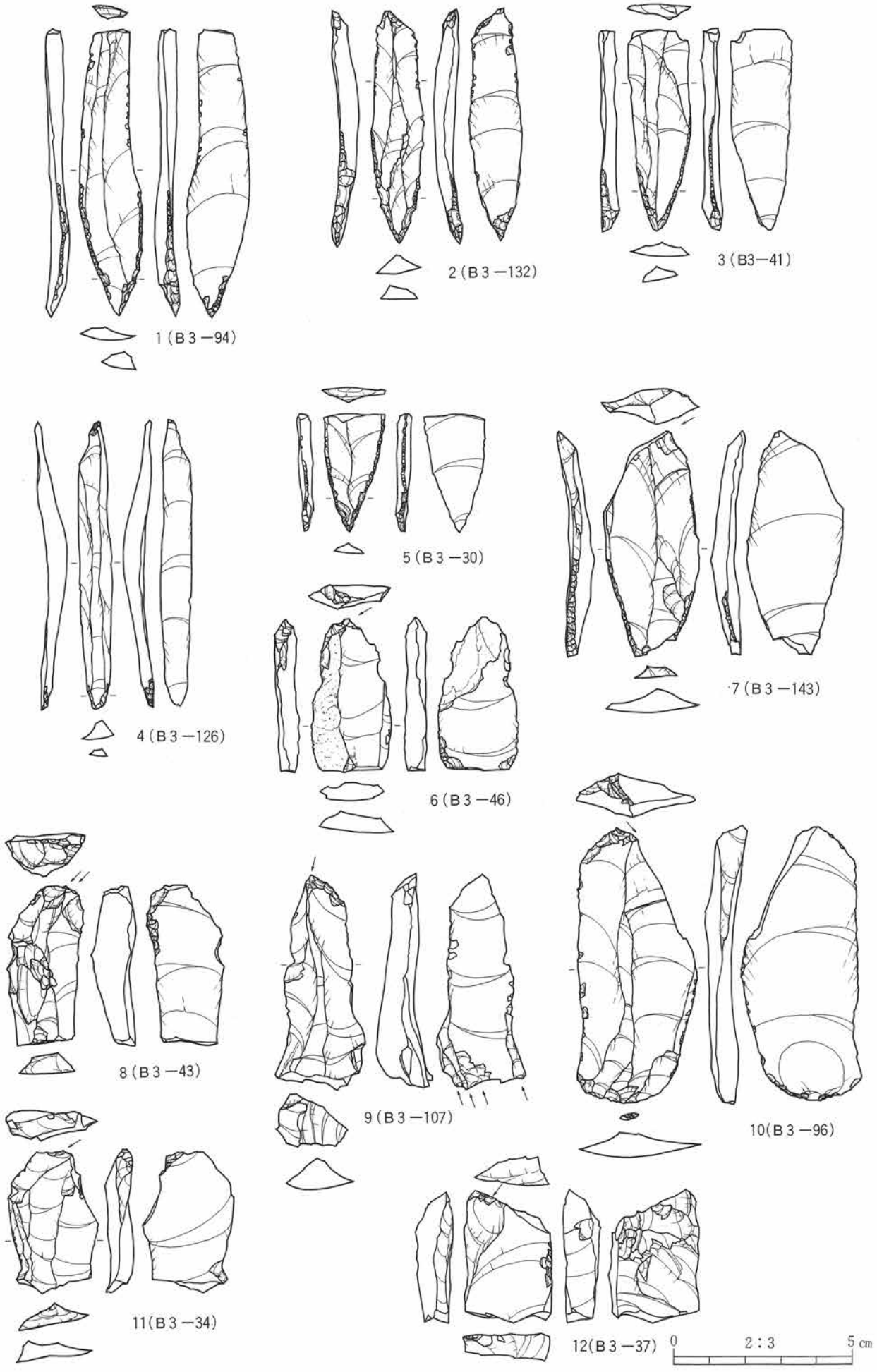
○ ナイフ形石器　▲ 彫刻刀スポール
△ 彫刻刀形石器　・ チップ
▫ その他のトゥール　■ 剝 片
● 石 刃　★ 礫

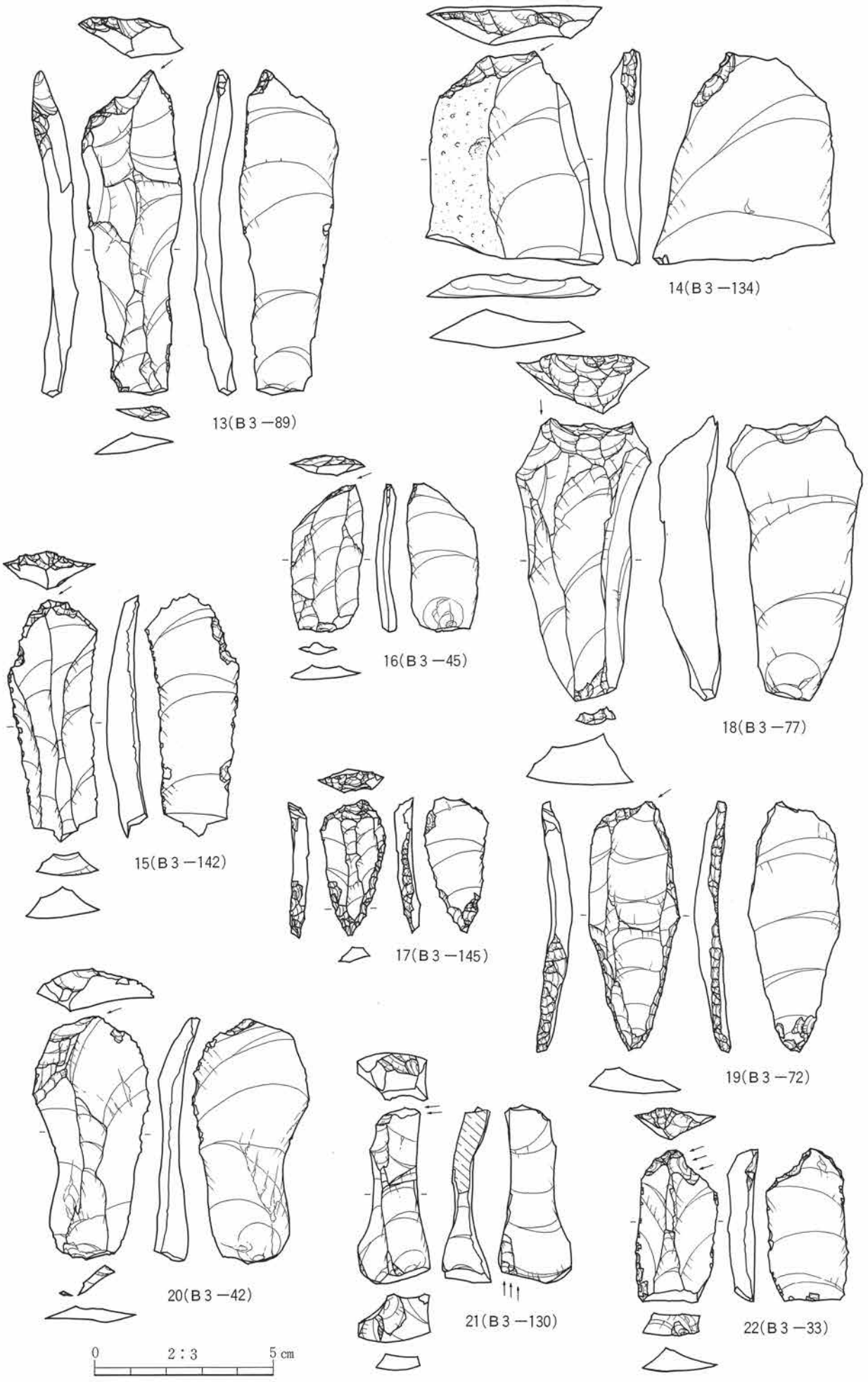
0　1：50　2 m

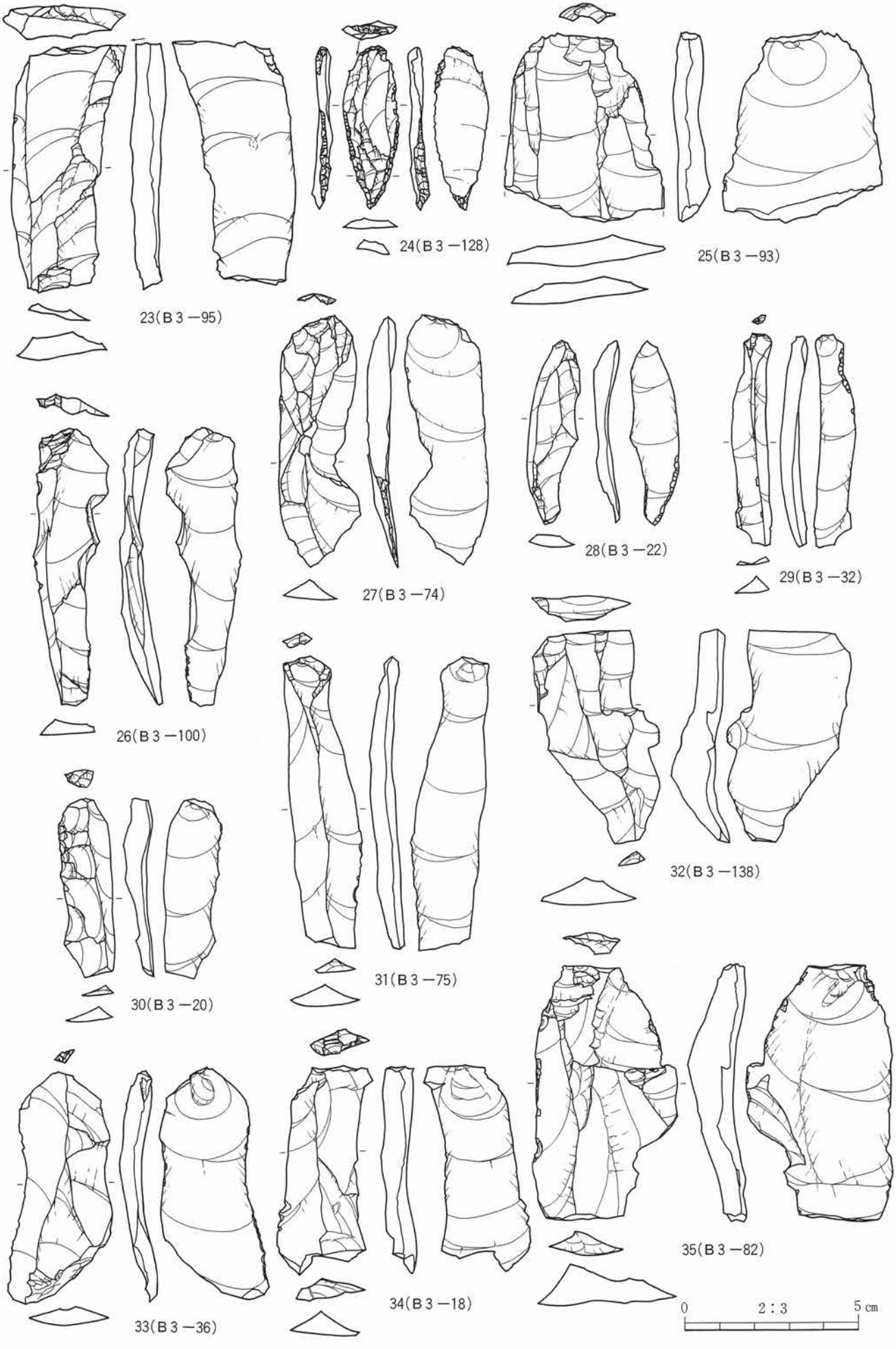


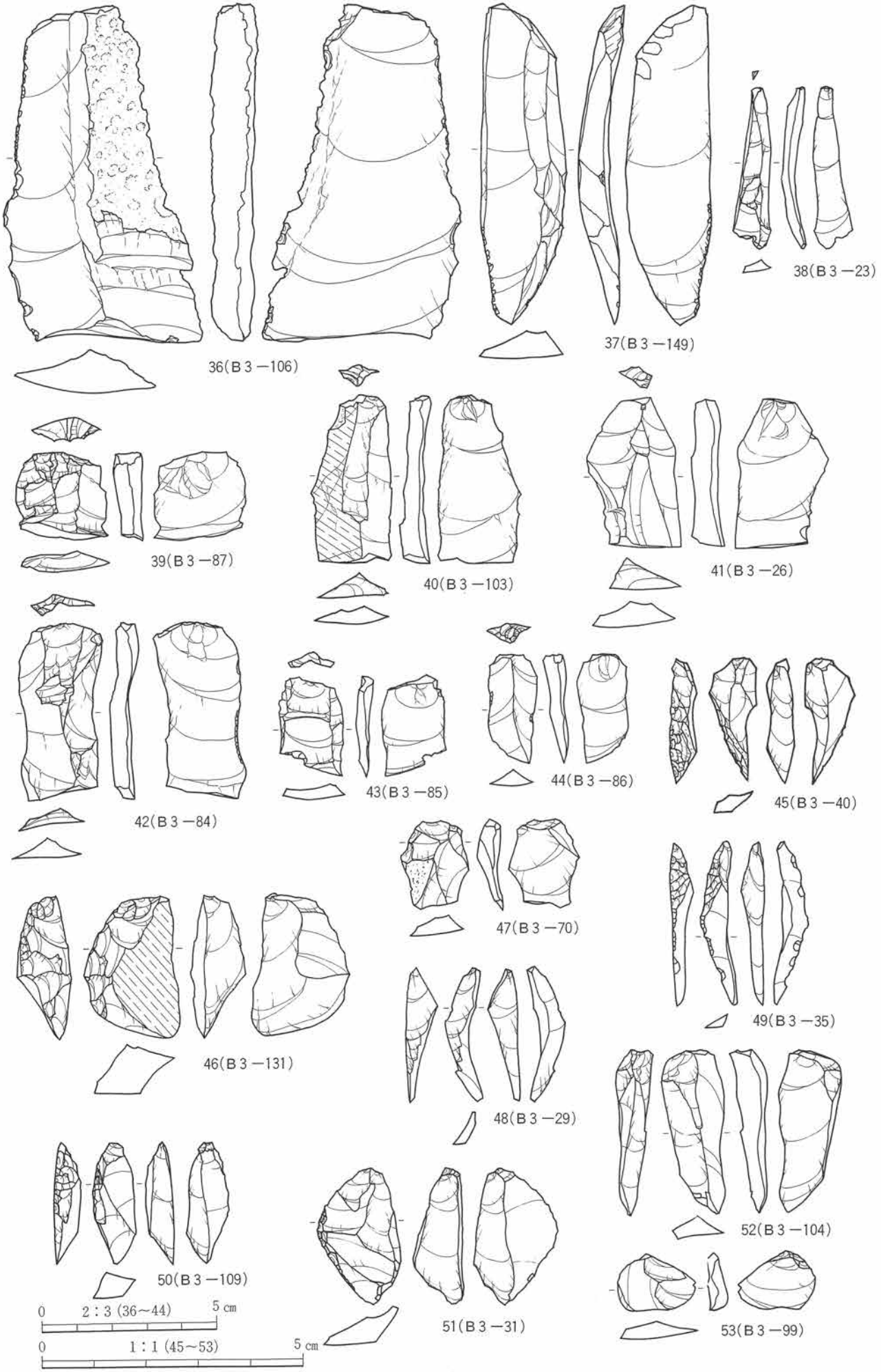
○ナイフ形石器 ▲剥刻刀スポール
△剥刻刀形石器 ★礫
●石　刃

ブロック３a出土石器実測図

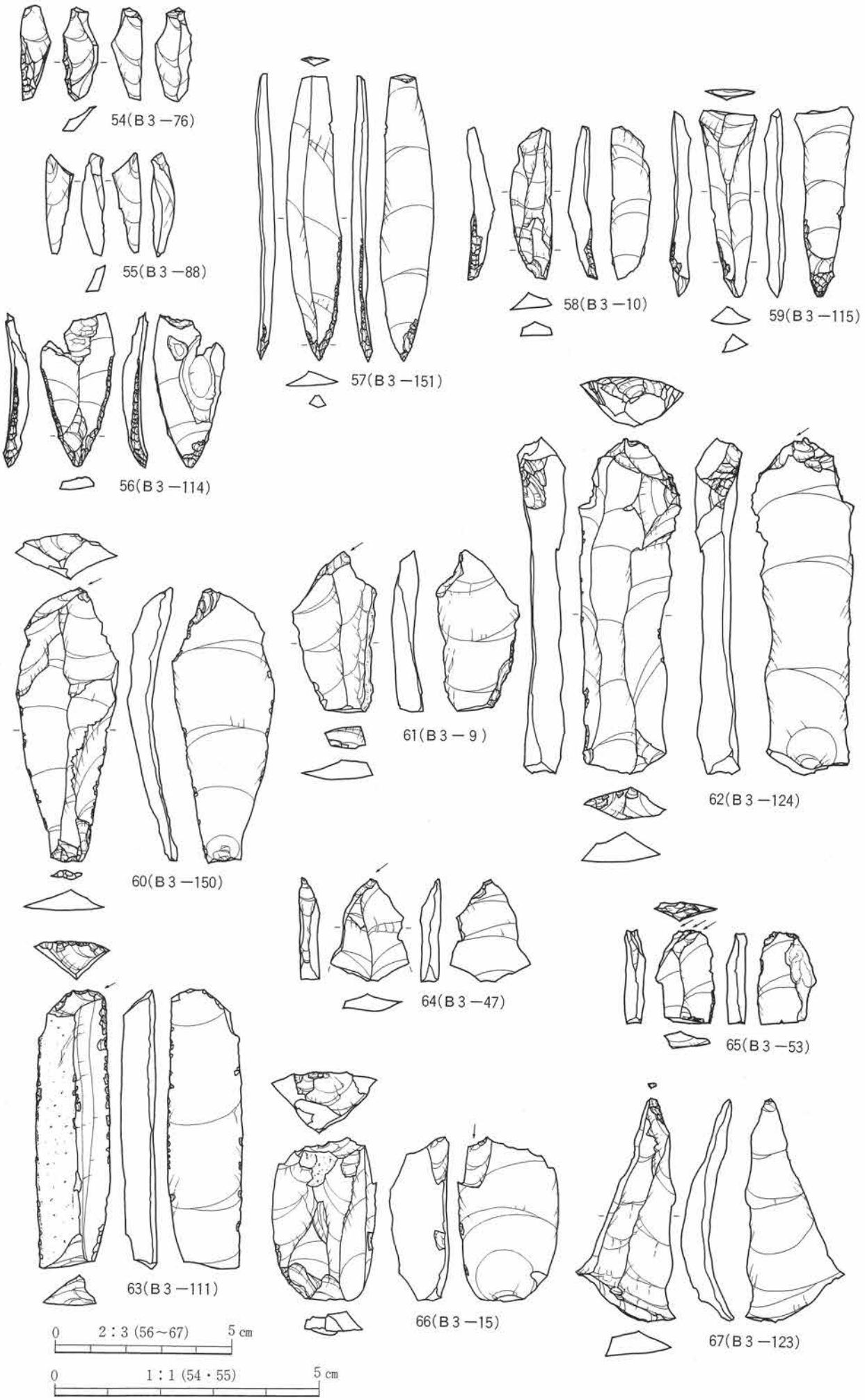


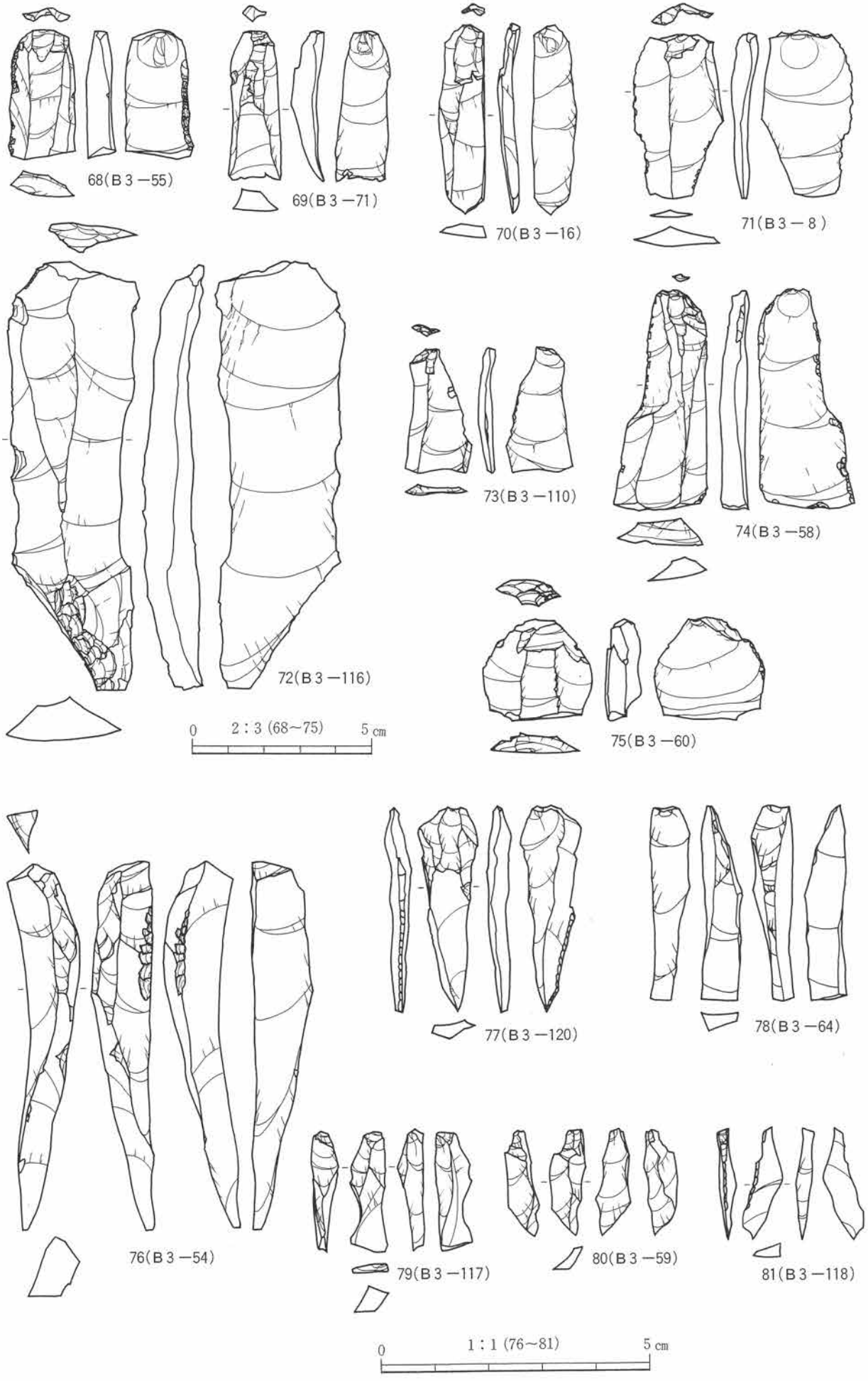

13(B３－89)
14(B３－134)
16(B３－45)
18(B３－77)
15(B３－142)
17(B３－145)
19(B３－72)
20(B３－42)
21(B３－130)
22(B３－33)
0
2：3
5 cm


23(B３－95)
24(B３－128)
25(B３－93)
26(B３－100)
27(B３－74)
28(B３－22)
29(B３－32)
30(B３－20)
31(B３－75)
32(B３－138)
33(B３－36)
34(B３－18)
35(B３－82)
0
2：3
5 cm

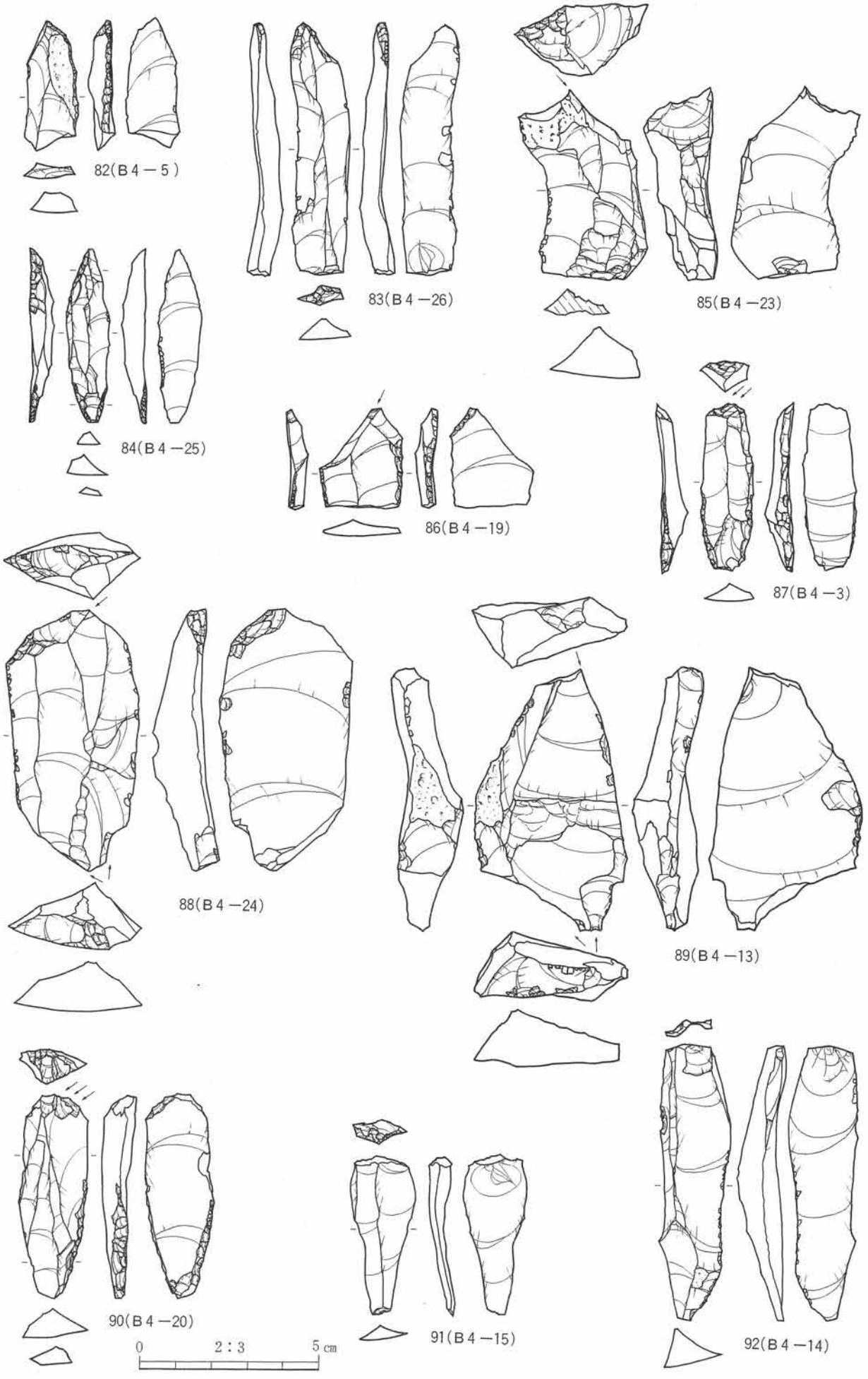

36(B３－106)
37(B３－149)
38(B３－23)
39(B３－87)
40(B３－103)
41(B３－26)
42(B３－84)
43(B３－85)
44(B３－86)
45(B３－40)
46(B３－131)
47(B３－70)
48(B３－29)
49(B３－35)
50(B３－109)
51(B３－31)
52(B３－104)
53(B３－99)
0　2：3 (36～44)　5 cm
0　1：1 (45～53)　5 cm

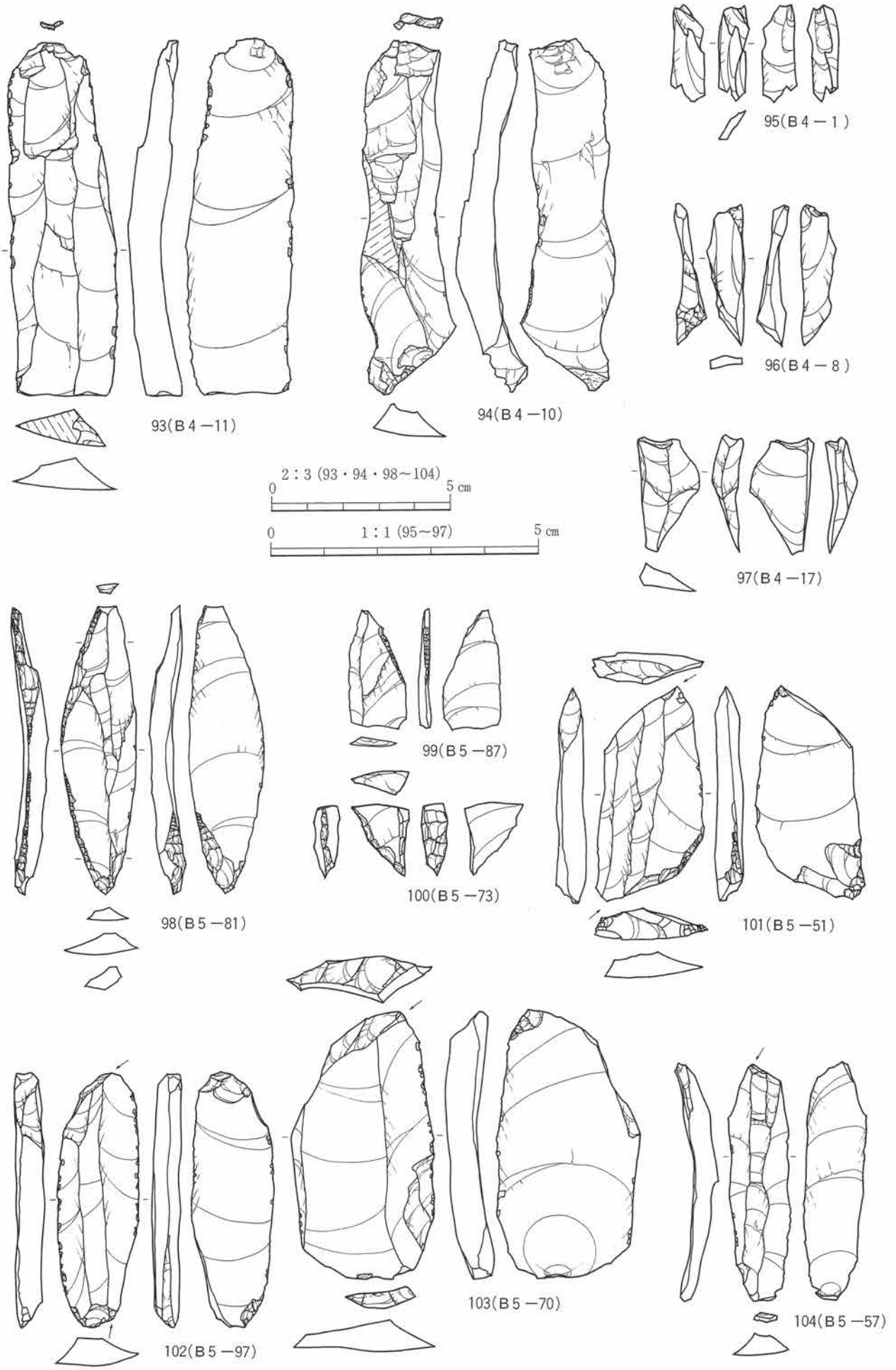
ブロック３a・３b出土石器実測図



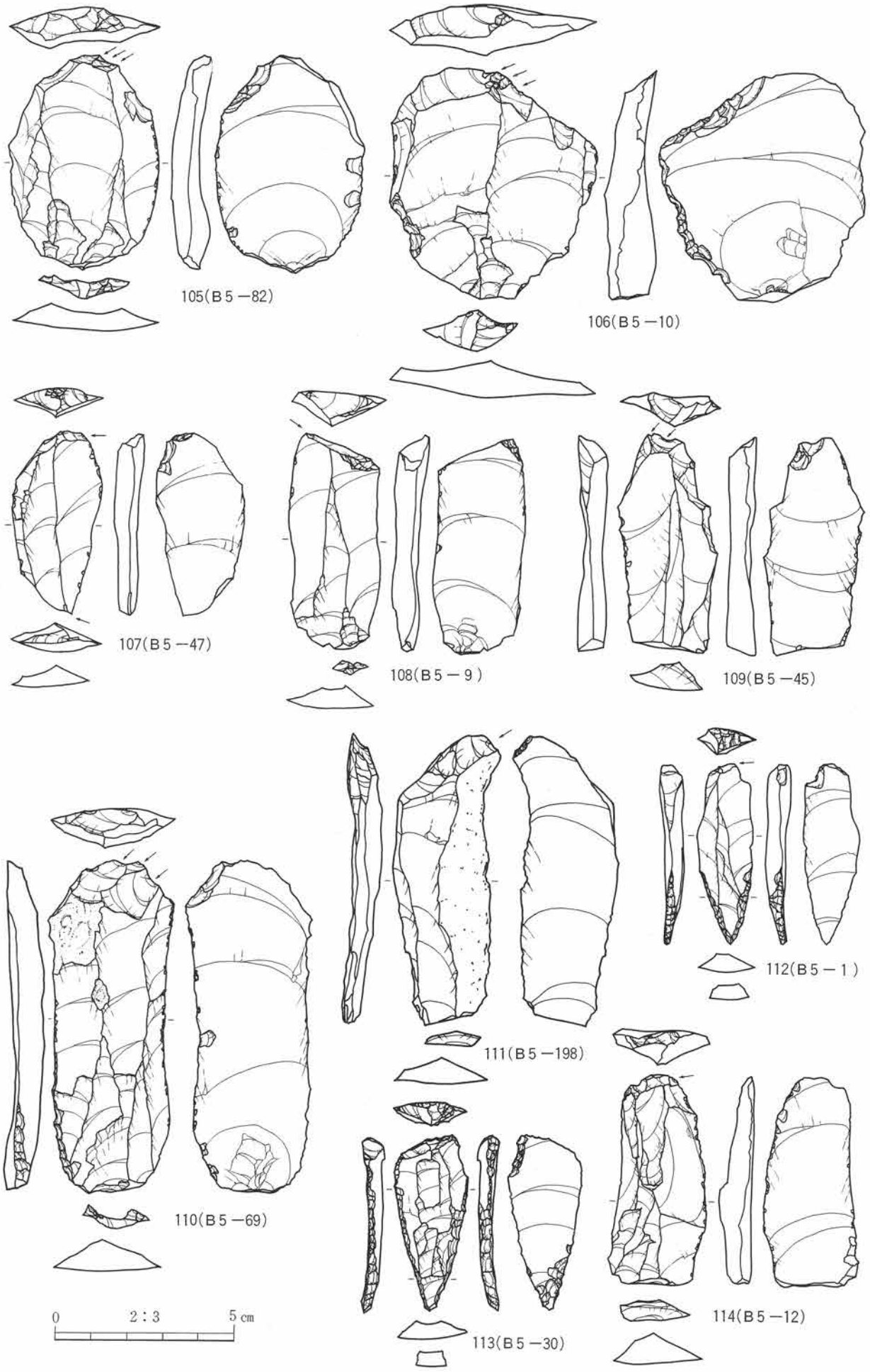

68(B３－55)
69(B３－71)
70(B３－16)
71(B３－８)
72(B３－116)
73(B３－110)
74(B３－58)
75(B３－60)
0　2：3 (68～75)　5 cm
76(B３－54)
77(B３－120)
78(B３－64)
79(B３－117)
80(B３－59)
81(B３－118)
0　1：1 (76～81)　5 cm

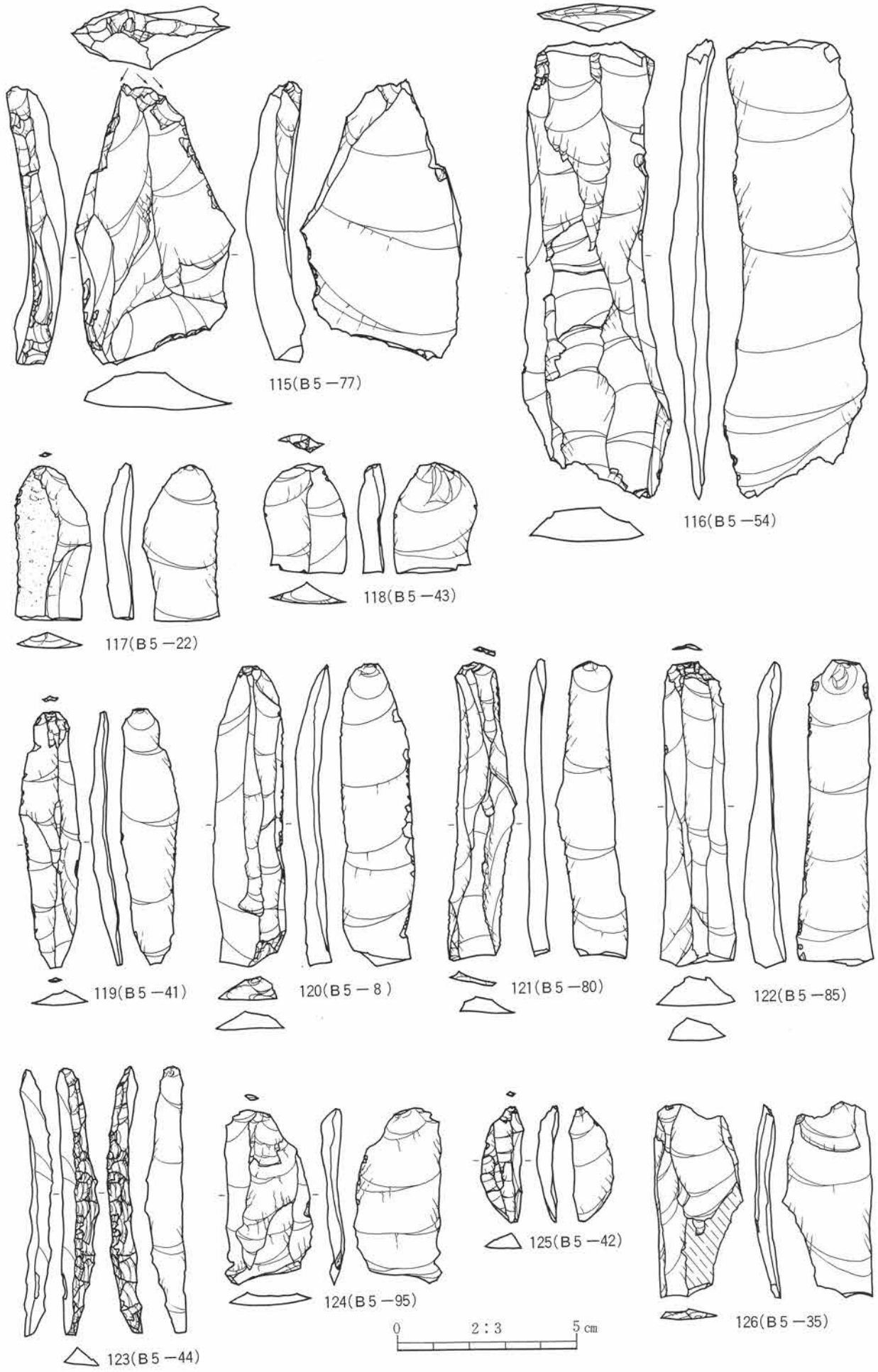
ブロック４出土石器実測図



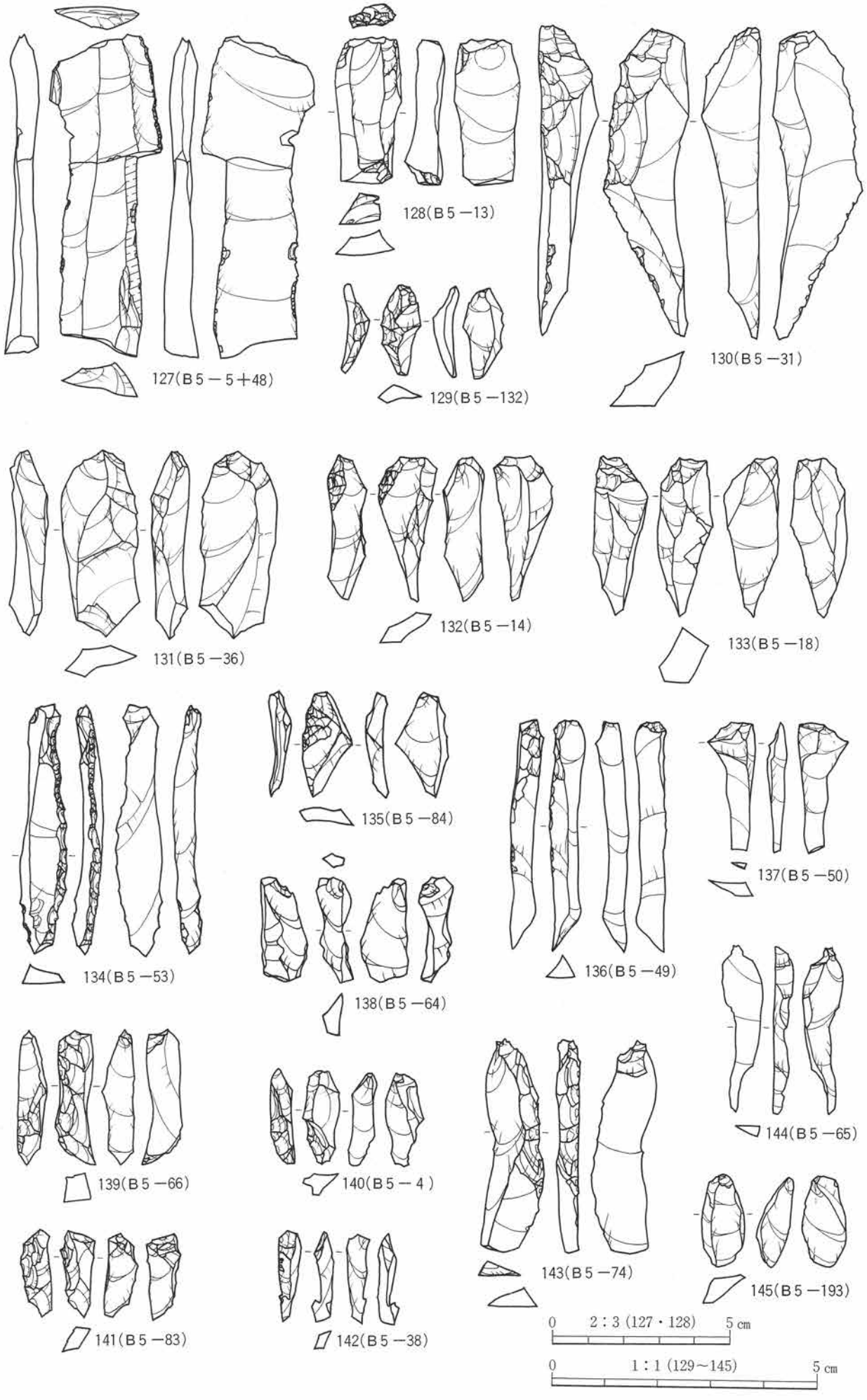

95(B４－１)
96(B４－８)
93(B４－11)
94(B４－10)
2：3 (93・94・98～104)
0
5 cm
0
1：1 (95～97)
5 cm
97(B４－17)
99(B５－87)
98(B５－81)
100(B５－73)
101(B５－51)
103(B５－70)
102(B５－97)
104(B５－57)

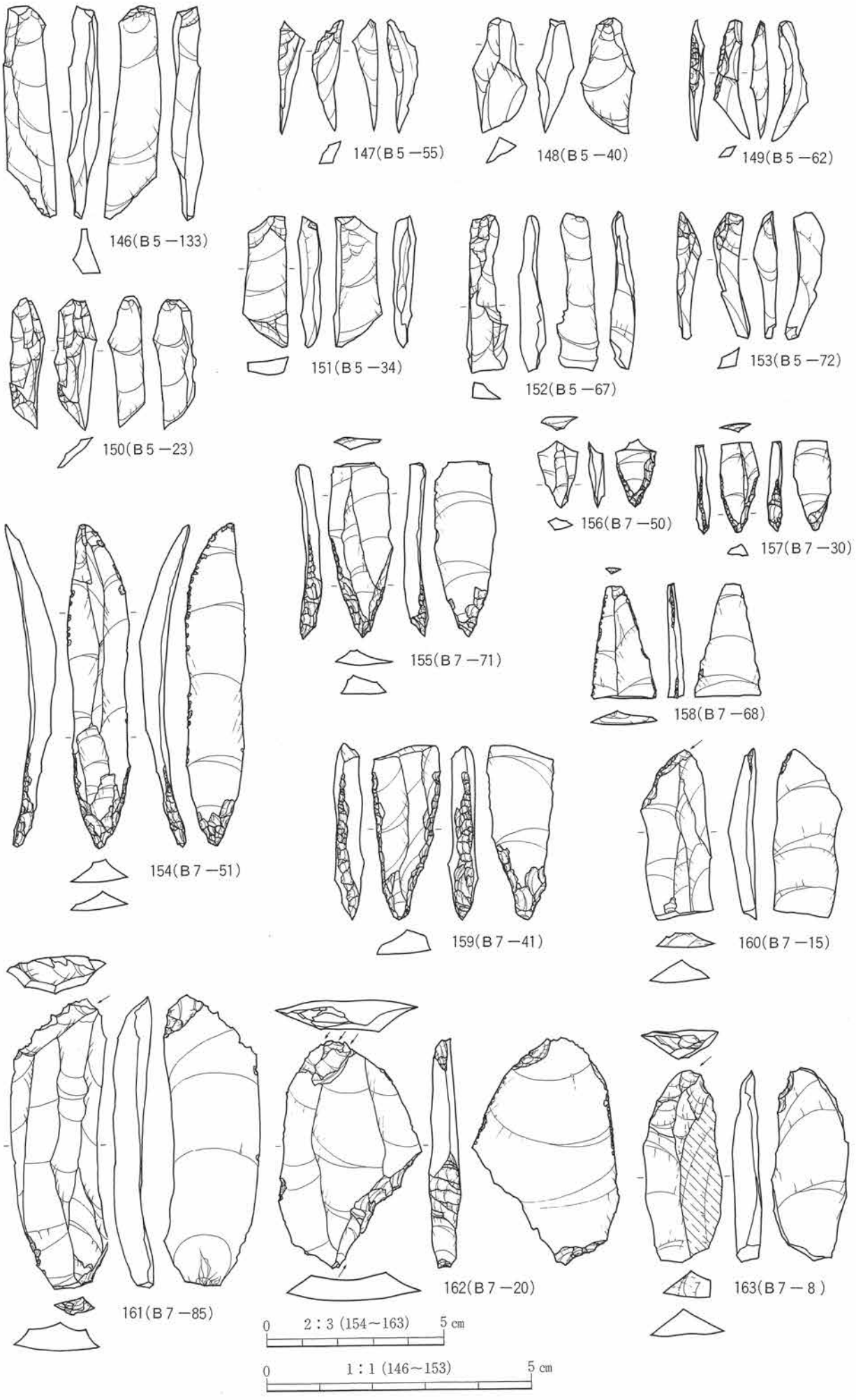
ブロック５出土石器実測図



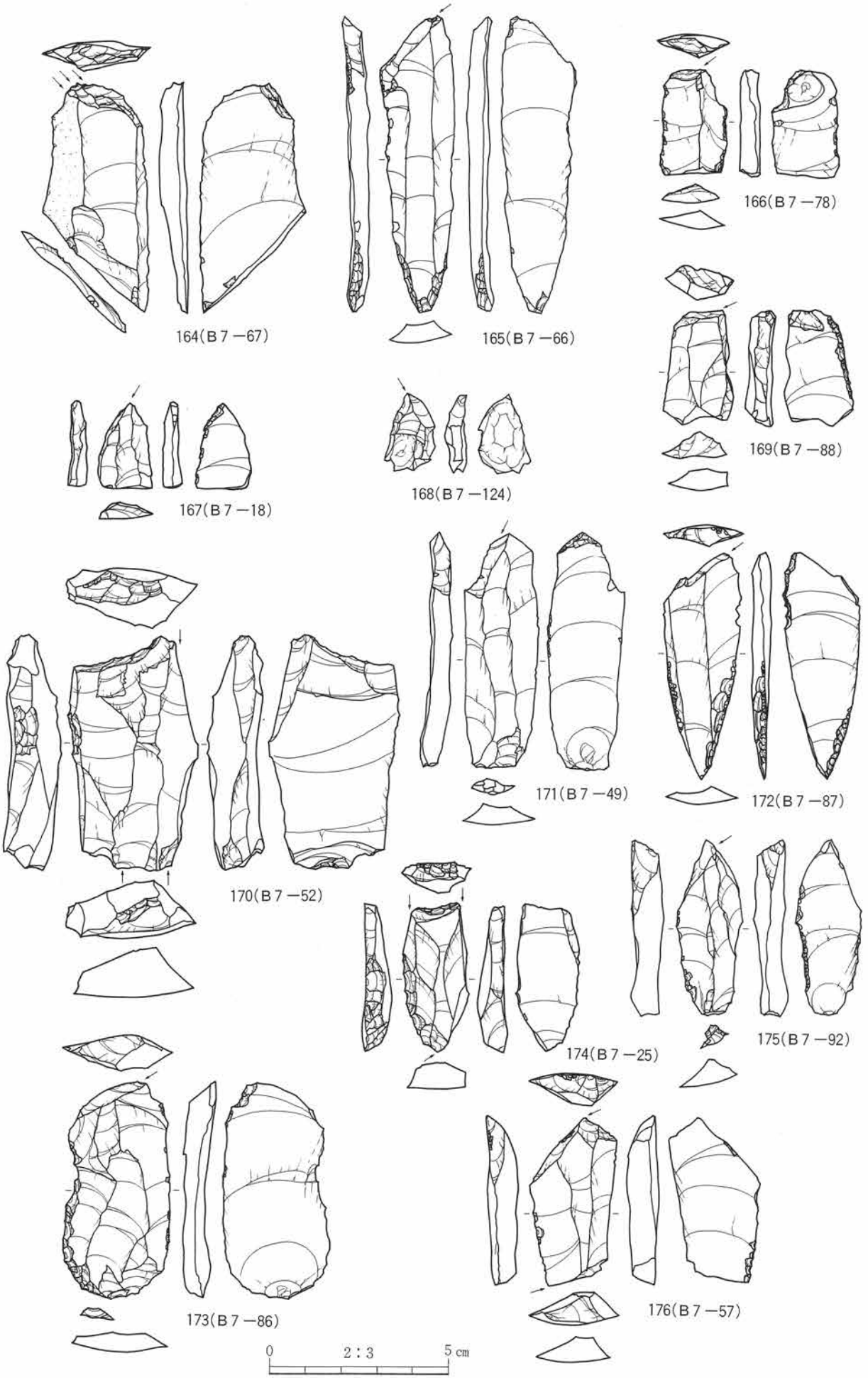

115(B５－77)
116(B５－54)
117(B５－22)
118(B５－43)
119(B５－41)
120(B５－８)
121(B５－80)
122(B５－85)
123(B５－44)
124(B５－95)
125(B５－42)
126(B５－35)
0
2：3
5 cm

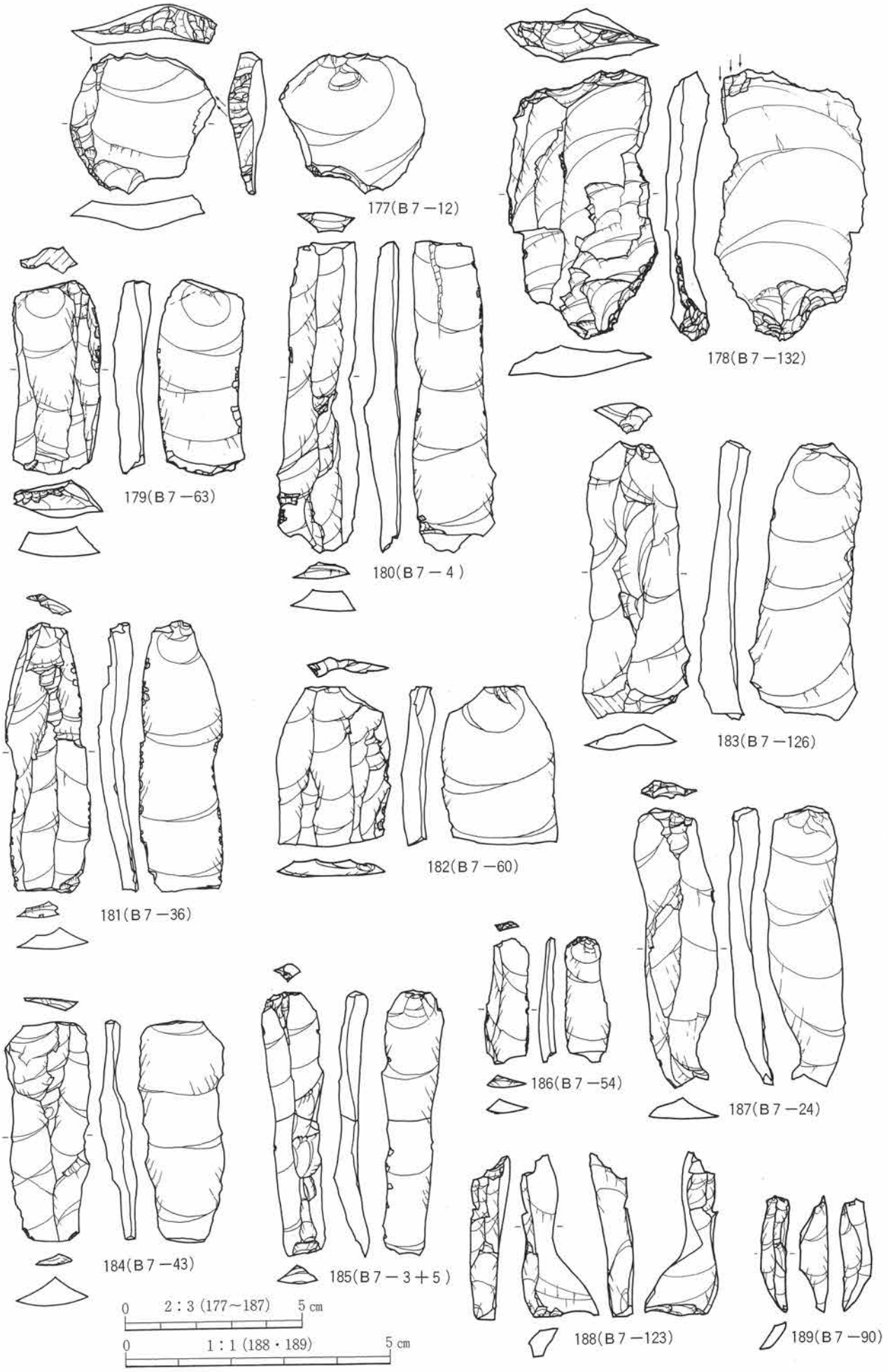
ブロック5出土石器実測図



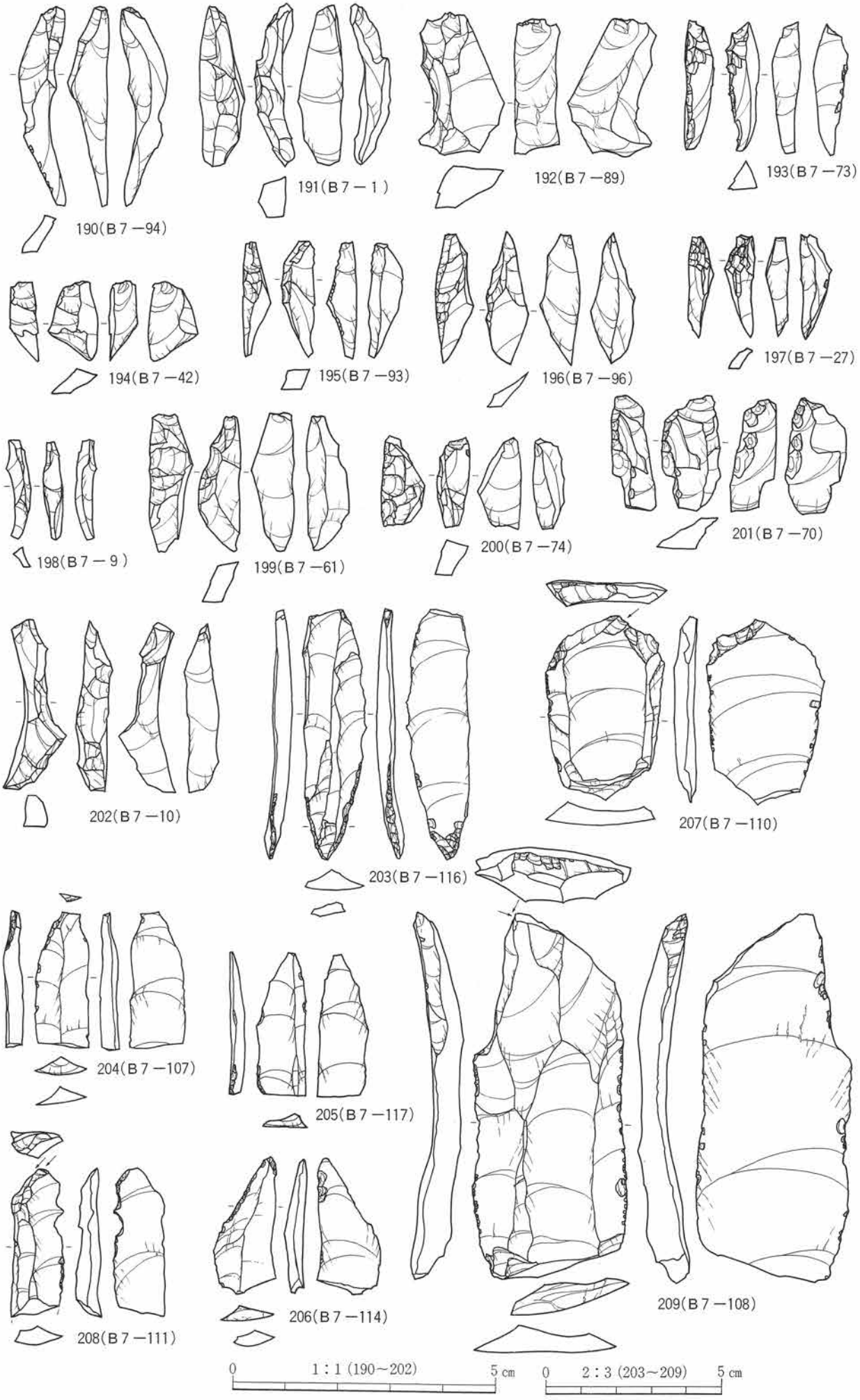

146(B５－133)
147(B５－55)
148(B５－40)
149(B５－62)
150(B５－23)
151(B５－34)
152(B５－67)
153(B５－72)
154(B７－51)
155(B７－71)
156(B７－50)
157(B７－30)
158(B７－68)
159(B７－41)
160(B７－15)
161(B７－85)
162(B７－20)
163(B７－８)
0 2：3 (154～163) 5 cm
0 1：1 (146～153) 5 cm

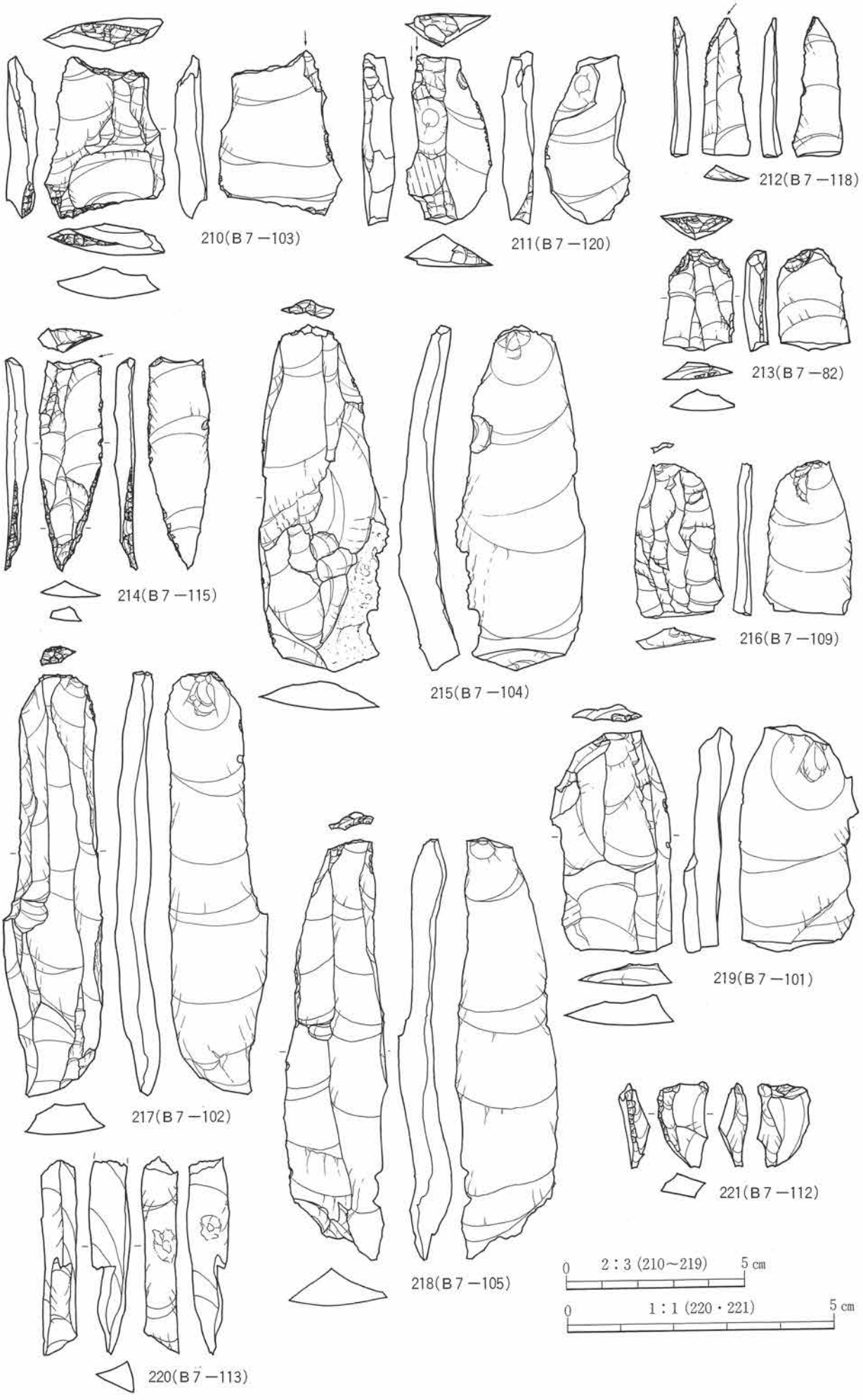
ブロック７a 出土石器実測図



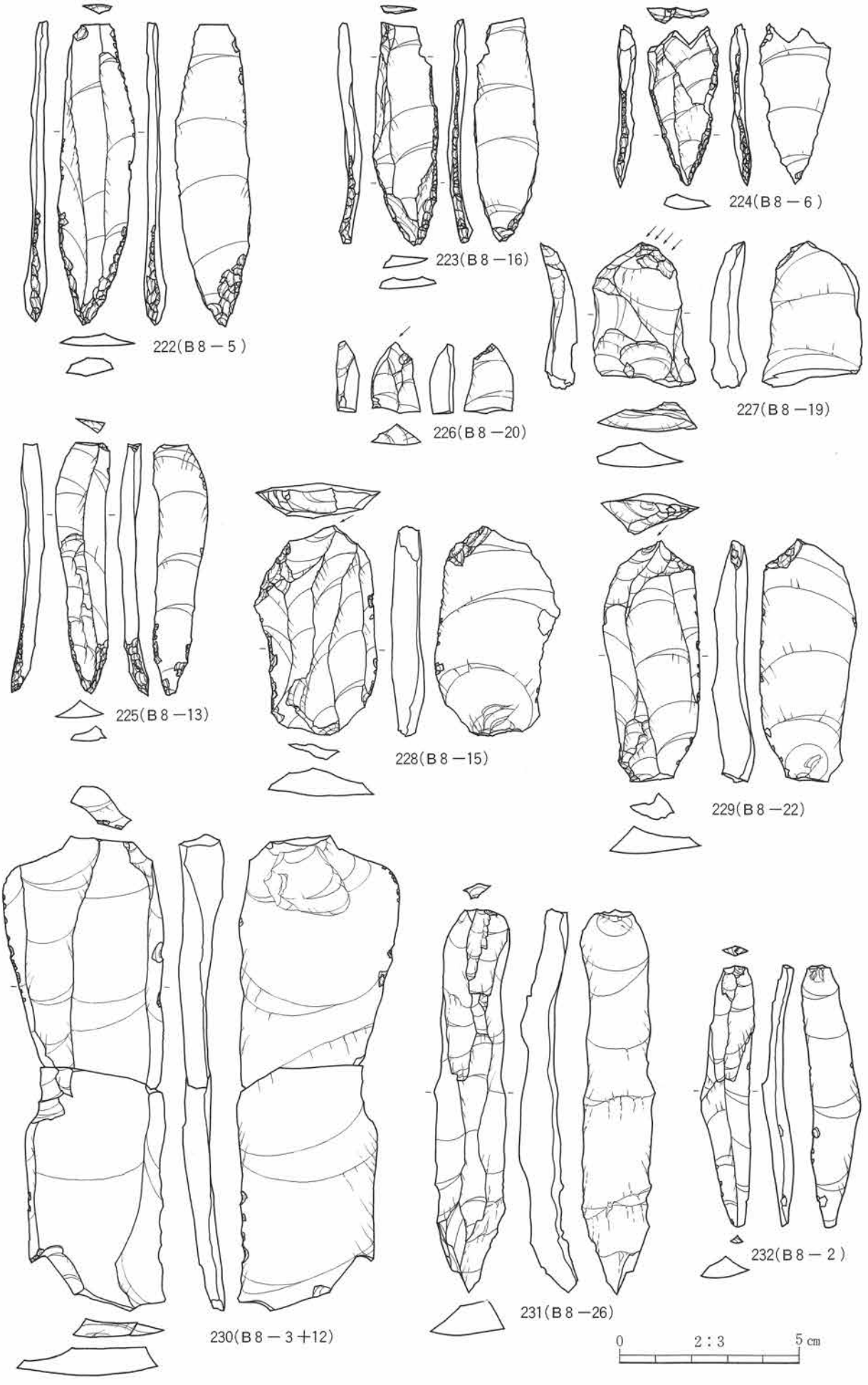

177(B７－12)
178(B７－132)
179(B７－63)
180(B７－４)
181(B７－36)
182(B７－60)
183(B７－126)
184(B７－43)
185(B７－３＋５)
186(B７－54)
187(B７－24)
188(B７－123)
189(B７－90)
0 2：3 (177～187) 5 cm
0 1：1 (188・189) 5 cm

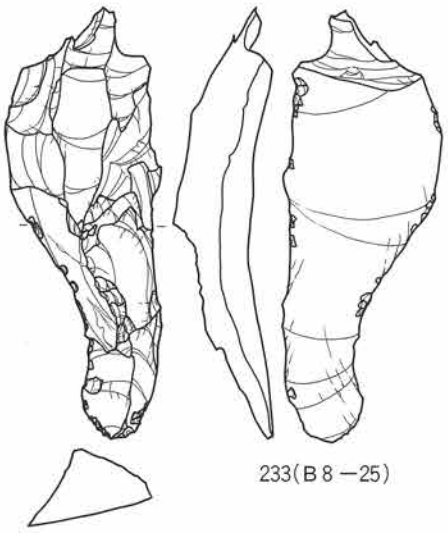
ブロック7a・b出土石器実測図

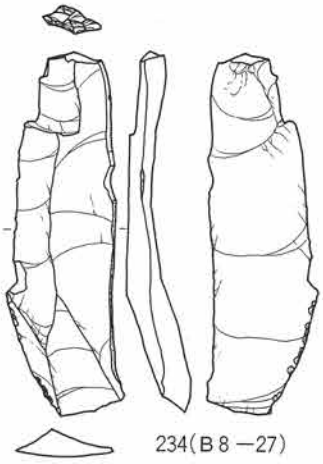


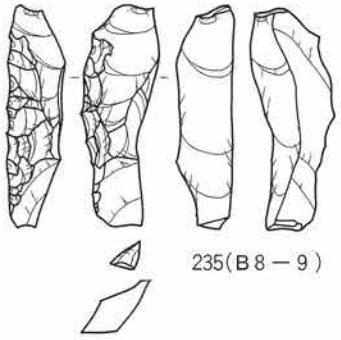

210(B7－103)
211(B7－120)
212(B7－118)
213(B7－82)
214(B7－115)
215(B7－104)
216(B7－109)
217(B7－102)
218(B7－105)
219(B7－101)
220(B7－113)
221(B7－112)
0　2：3 (210～219)　5 cm
0　1：1 (220・221)　5 cm

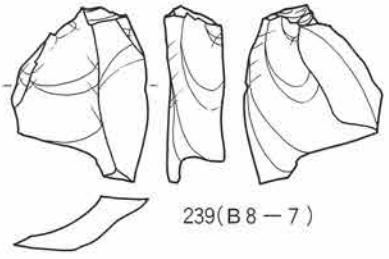
ブロック8出土石器実測図

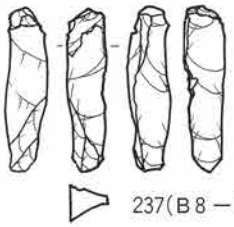


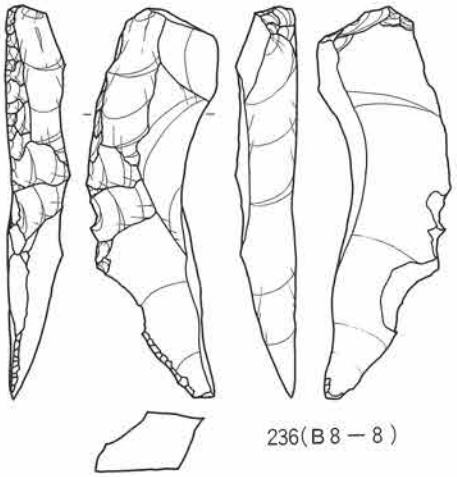

233(B８－25)

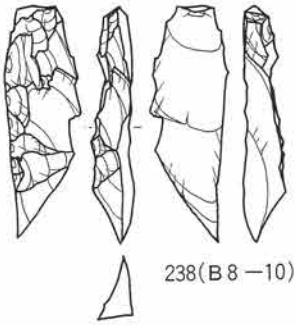

234(B８－27)

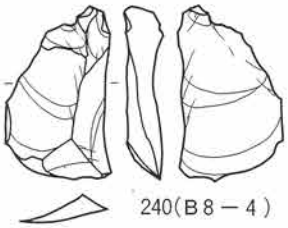

235(B８－９)

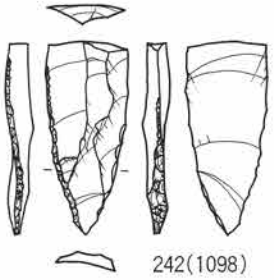

239(B８－７)

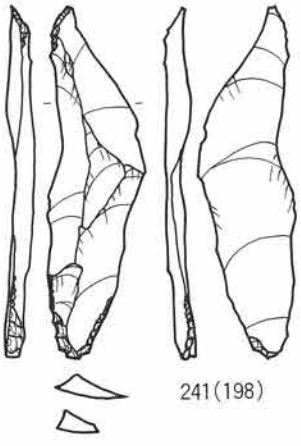

237(B８－１)

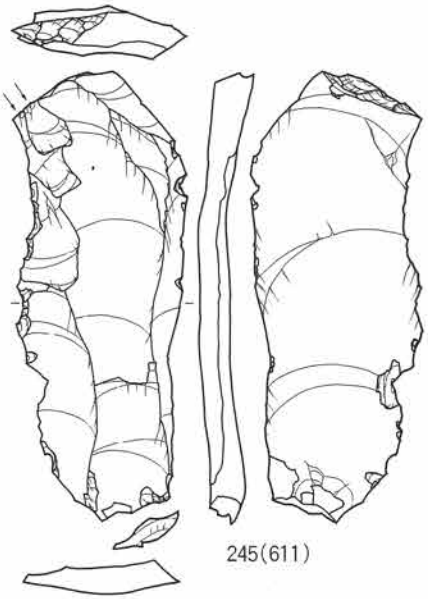

236(B８－８)

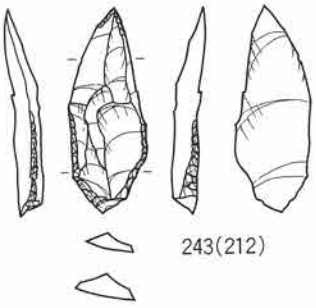

238(B８－10)

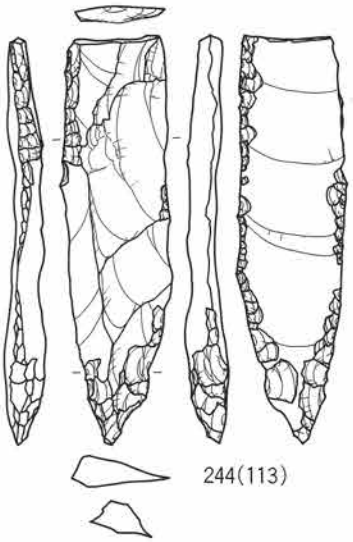

240(B８－４)


242(1098)

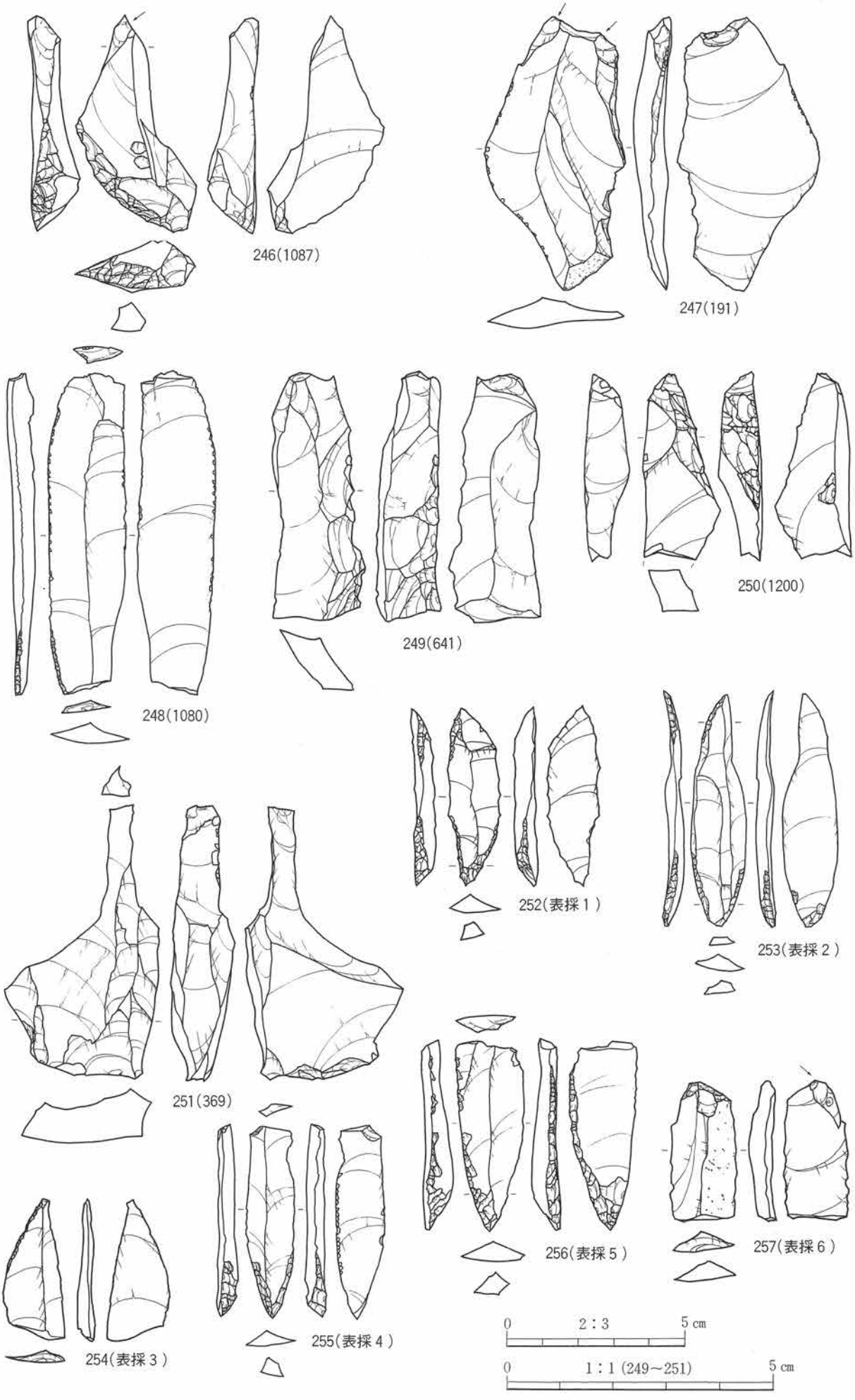

241(198)


245(611)


243(212)

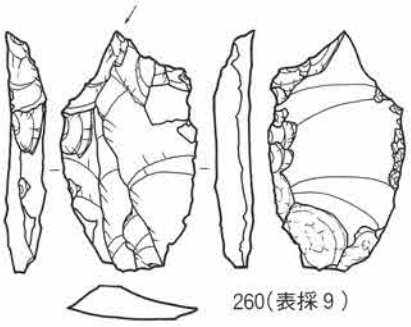

244(113)

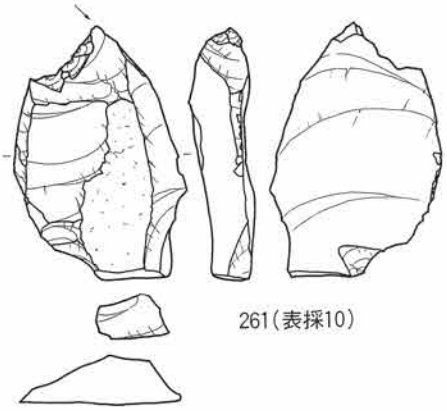
2：3
0 (233・234・241～245) 5 cm
0 1：1(235～240) 5 cm


246(1087)
247(191)
248(1080)
249(641)
250(1200)
251(369)
252(表採1)
253(表採2)
254(表採3)
255(表採4)
256(表採5)
257(表採6)
0 2:3 5cm
0 1:1(249～251) 5cm

258(表採７)

259(表採８)


260(表採９)

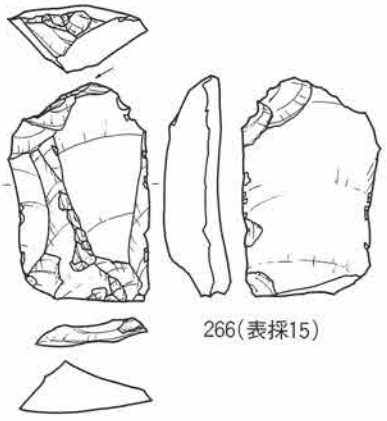

261(表採10)

262(表採11)

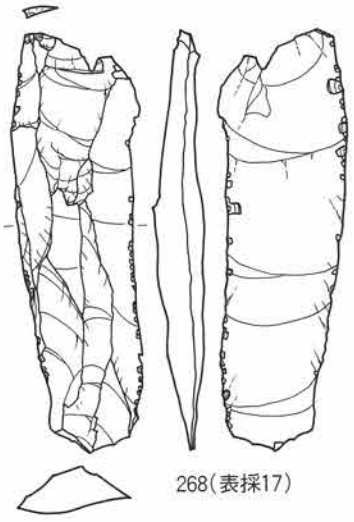
263(表採12)

264(表採13)

265(表採14)

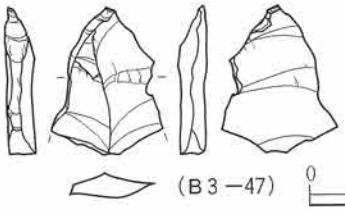

266(表採15)

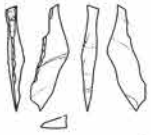
267(表採16)

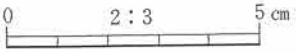

268(表採17)

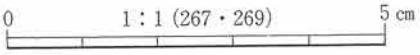
269(表採18)

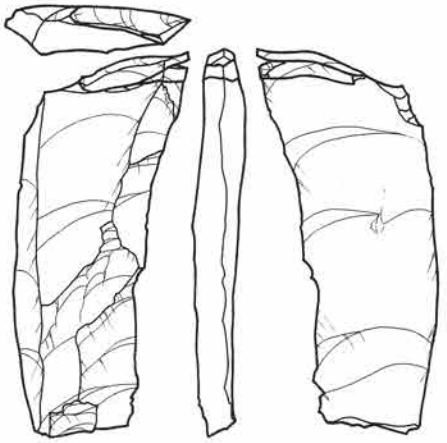
接合資料１


(B３－47)

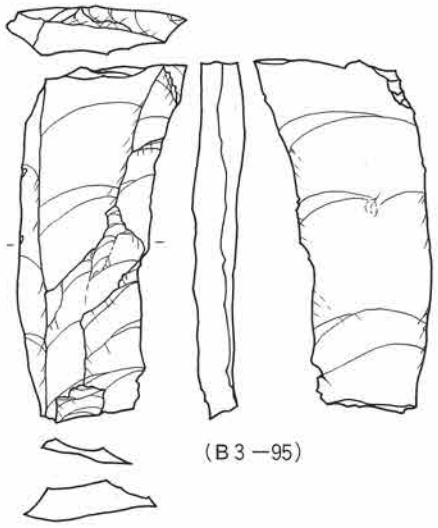

(B３－118)



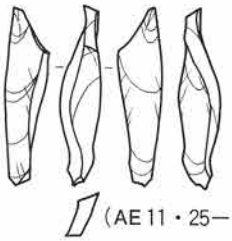




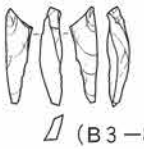
接合資料2



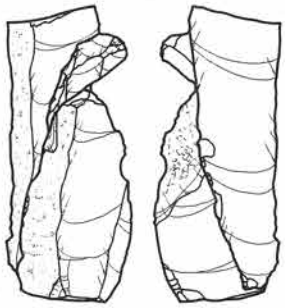
（B3－95）



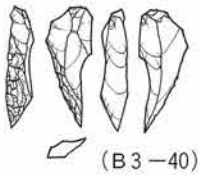
（AE11・25－b①）



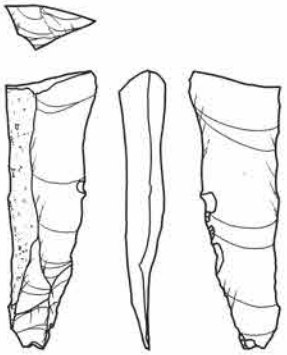
（B3－88）



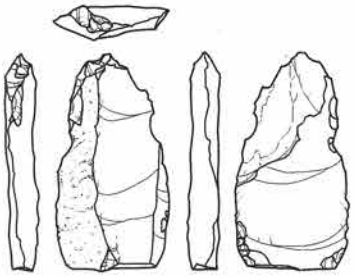
接合資料3



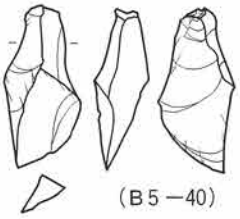
（B3－40）



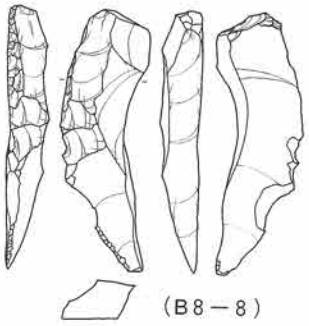
（B7－81）



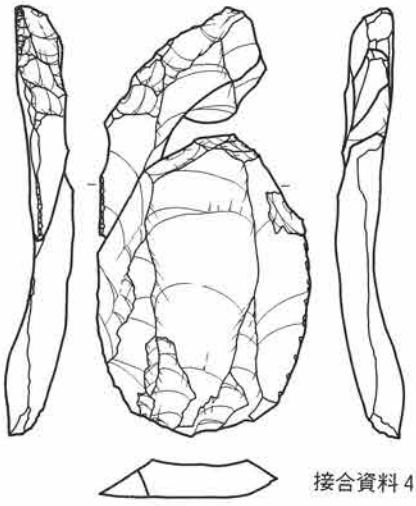
（B3－46）

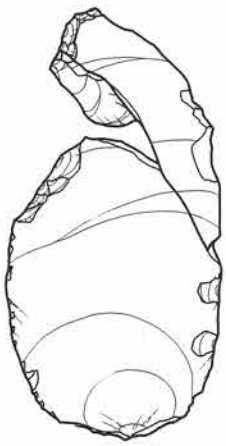


（B5－40）

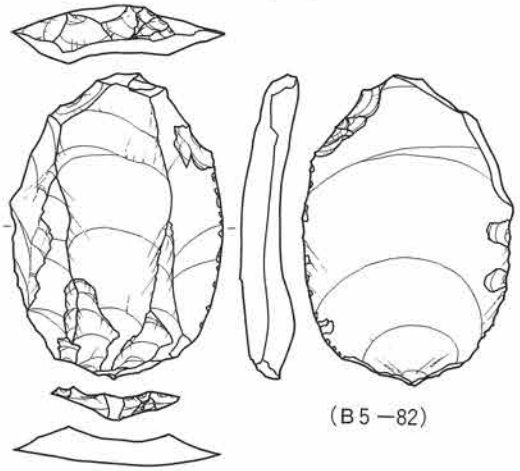


（B8－8）

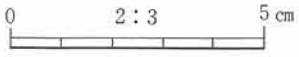


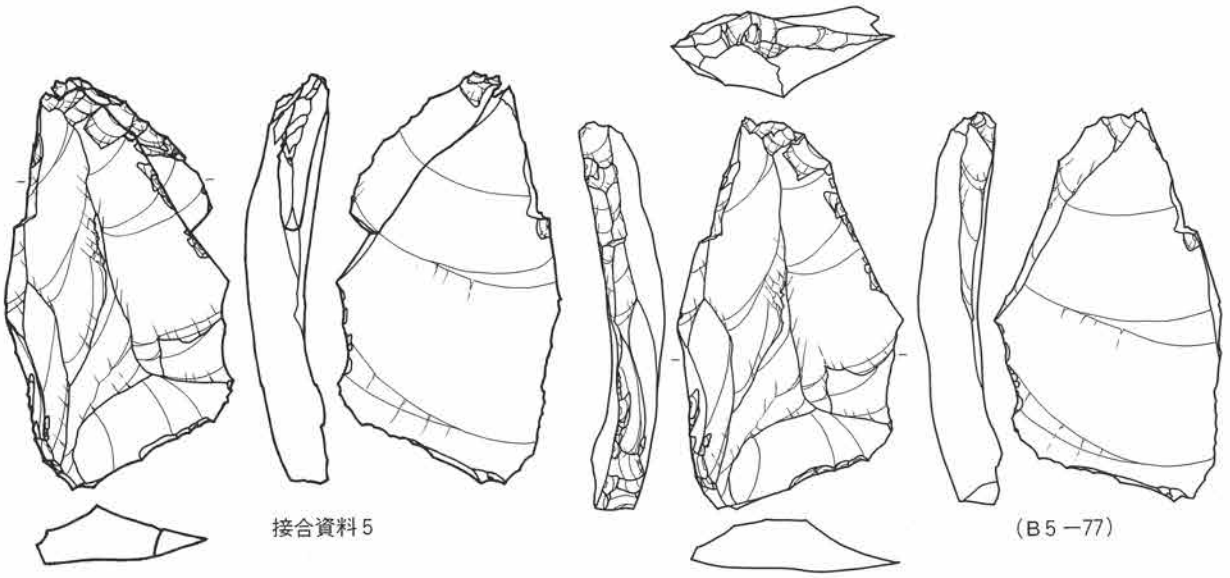


接合資料4



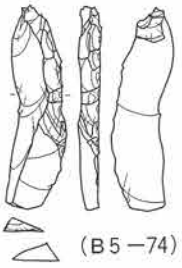
（B5－82）



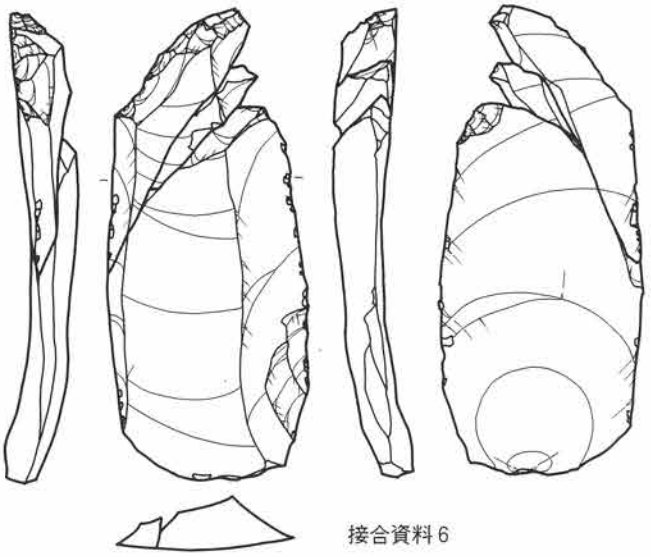


接合資料5

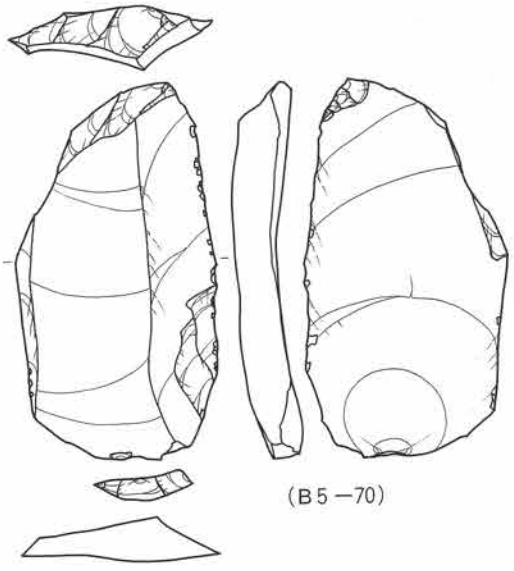
(B5－77)



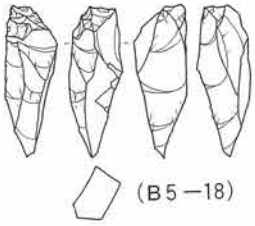
(B5－74)



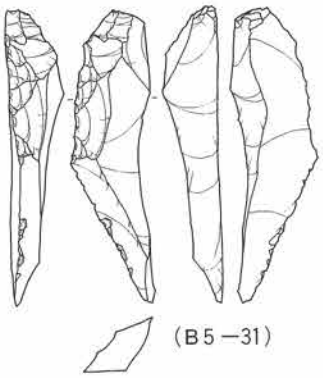
接合資料6



(B5－70)

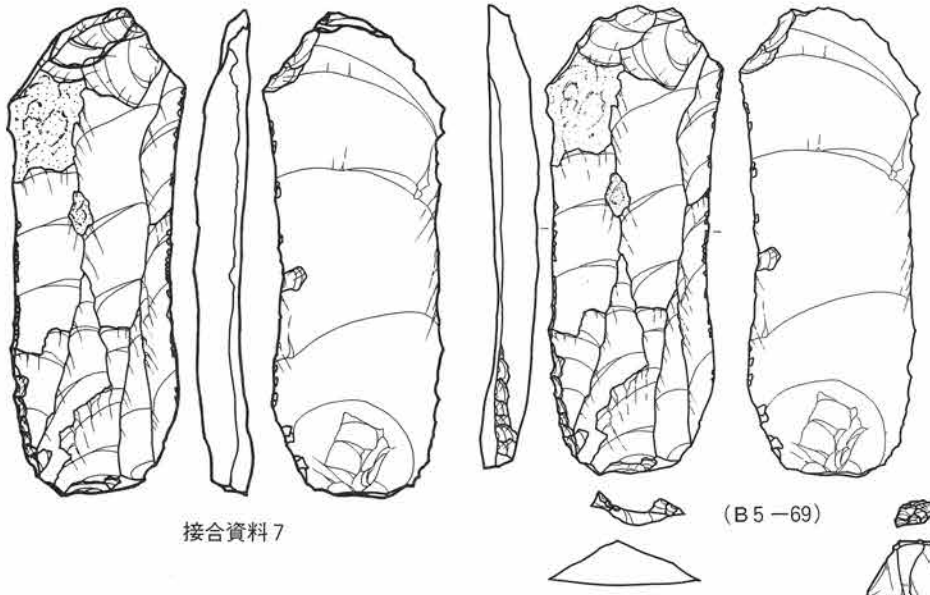


(B5－18)

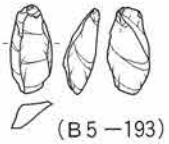


(B5－31)

0　2：3　5cm

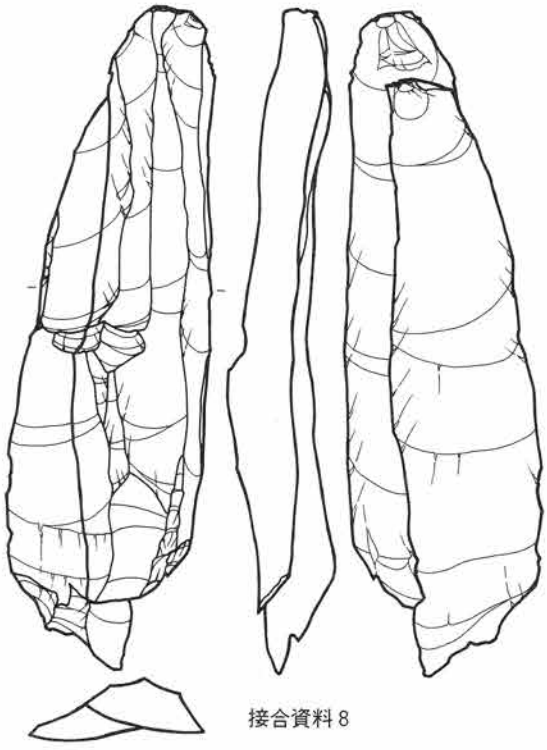


接合資料7

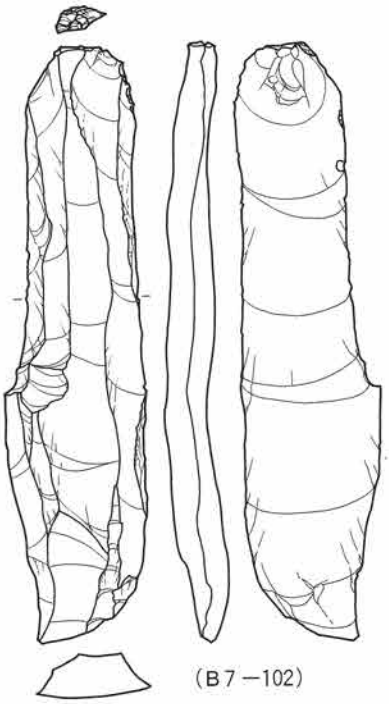


（B5－193）

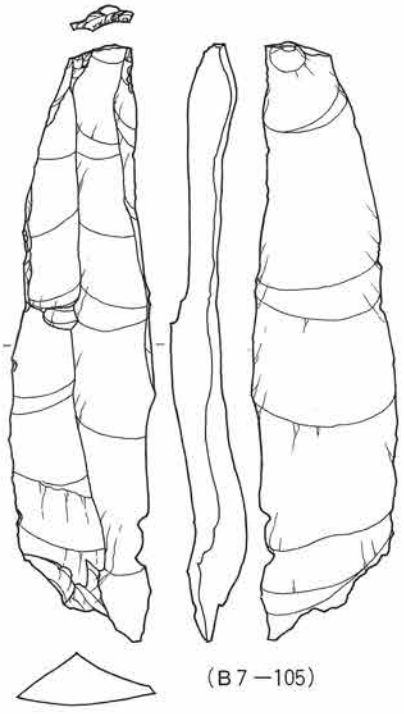
（B5－69）



接合資料8



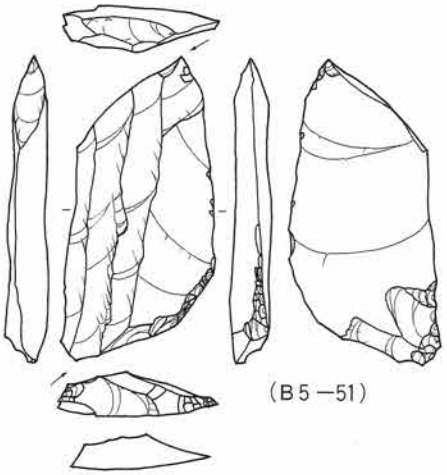
（B7－102）



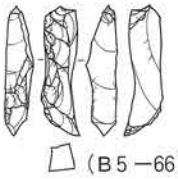
（B7－105）

0　2：3　5cm

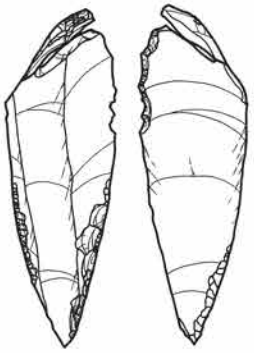
接合資料9



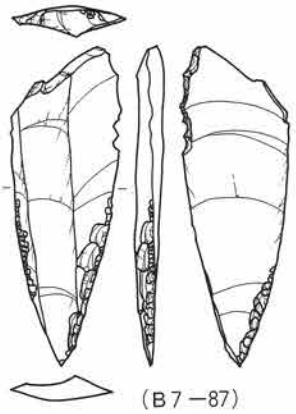
（B5－51）



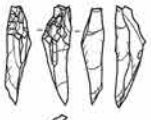
（B5－66）



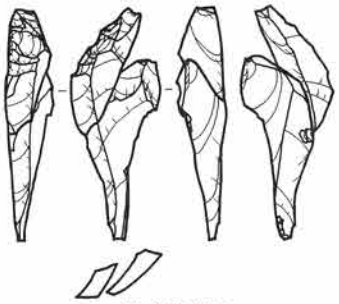
接合資料10



（B7－87）

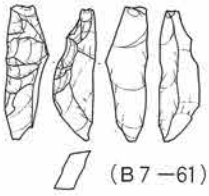


（B7－27）

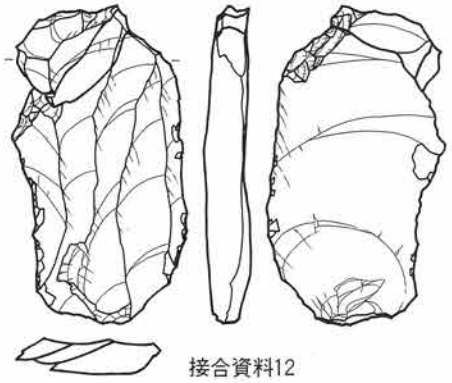


接合資料11

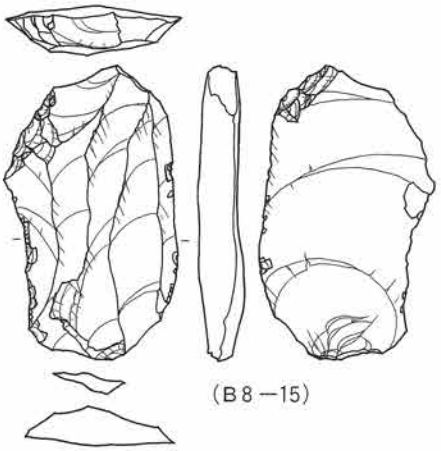
（表採16）



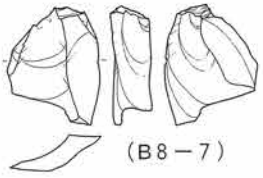
（B7－61）



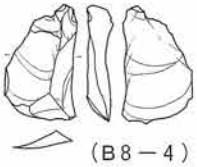
接合資料12



（B8－15）

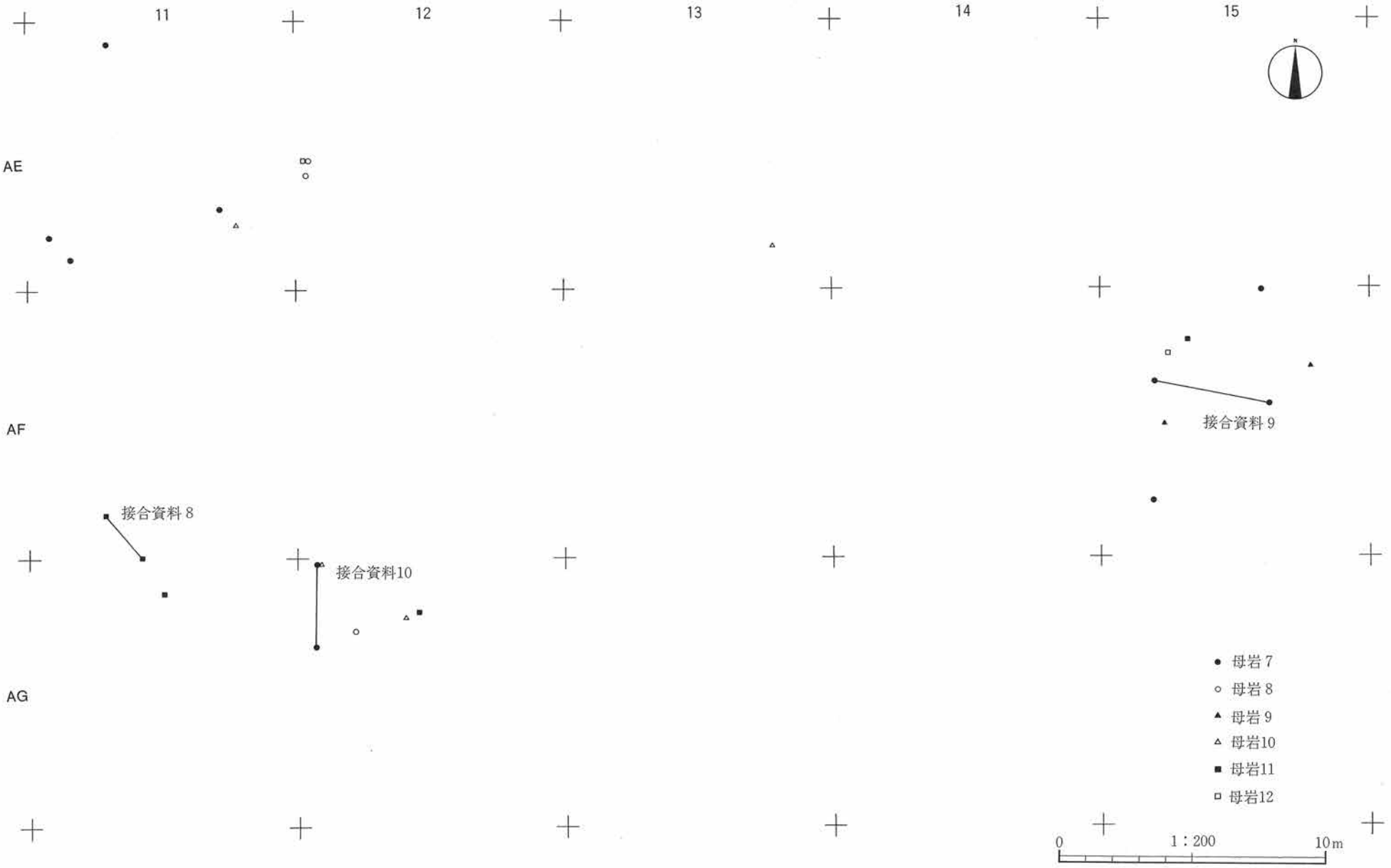


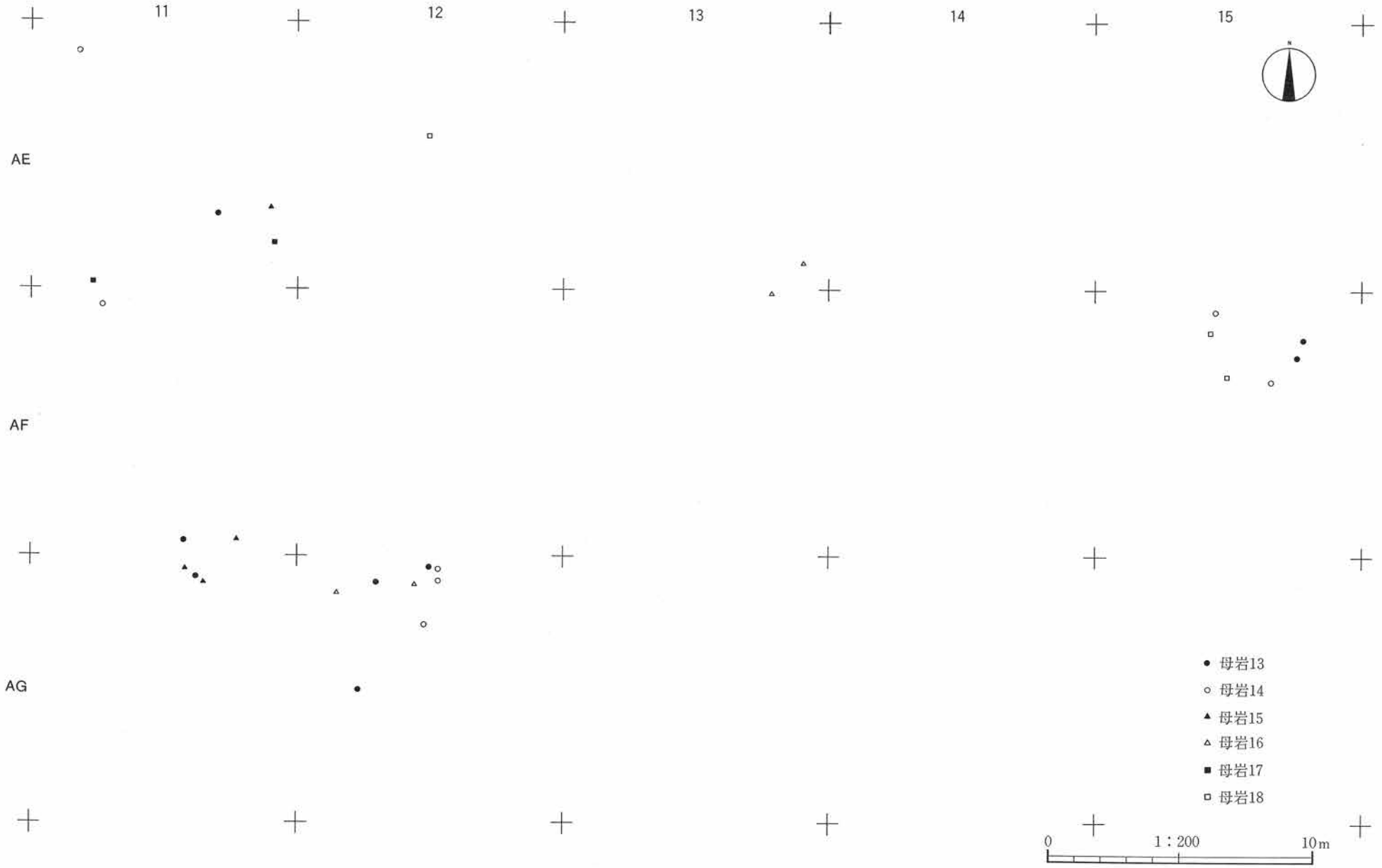
（B8－7）

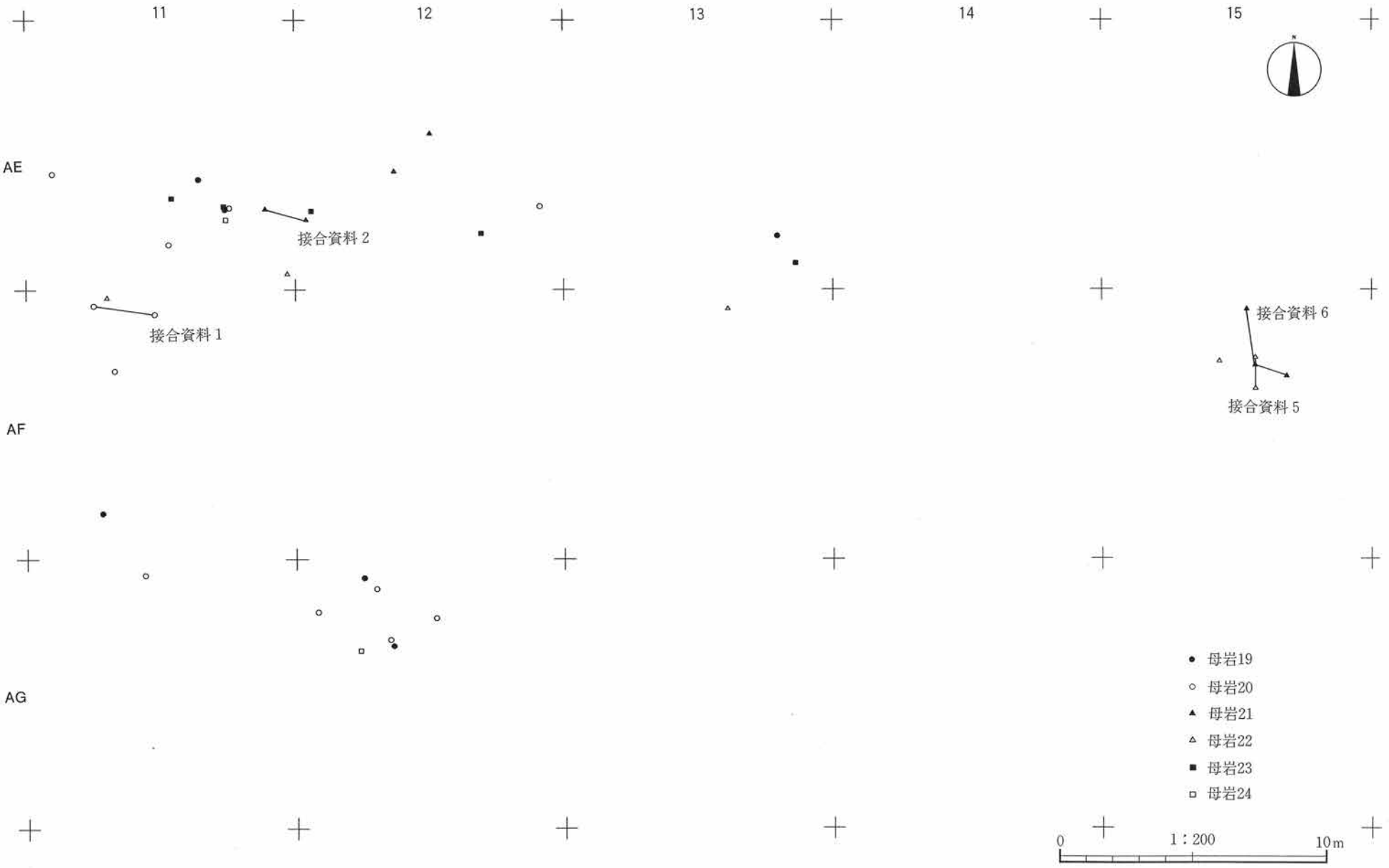


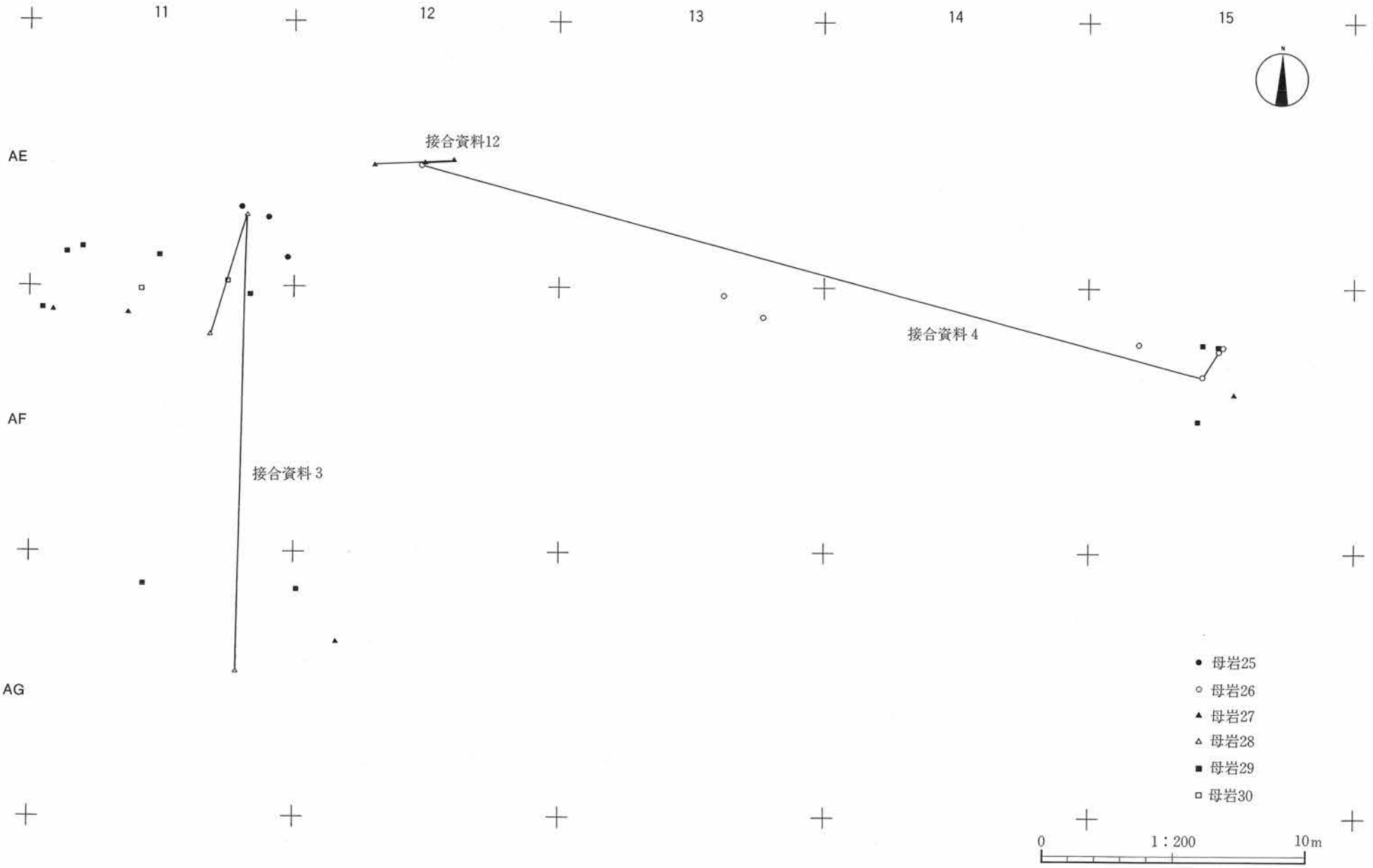
（B8－4）

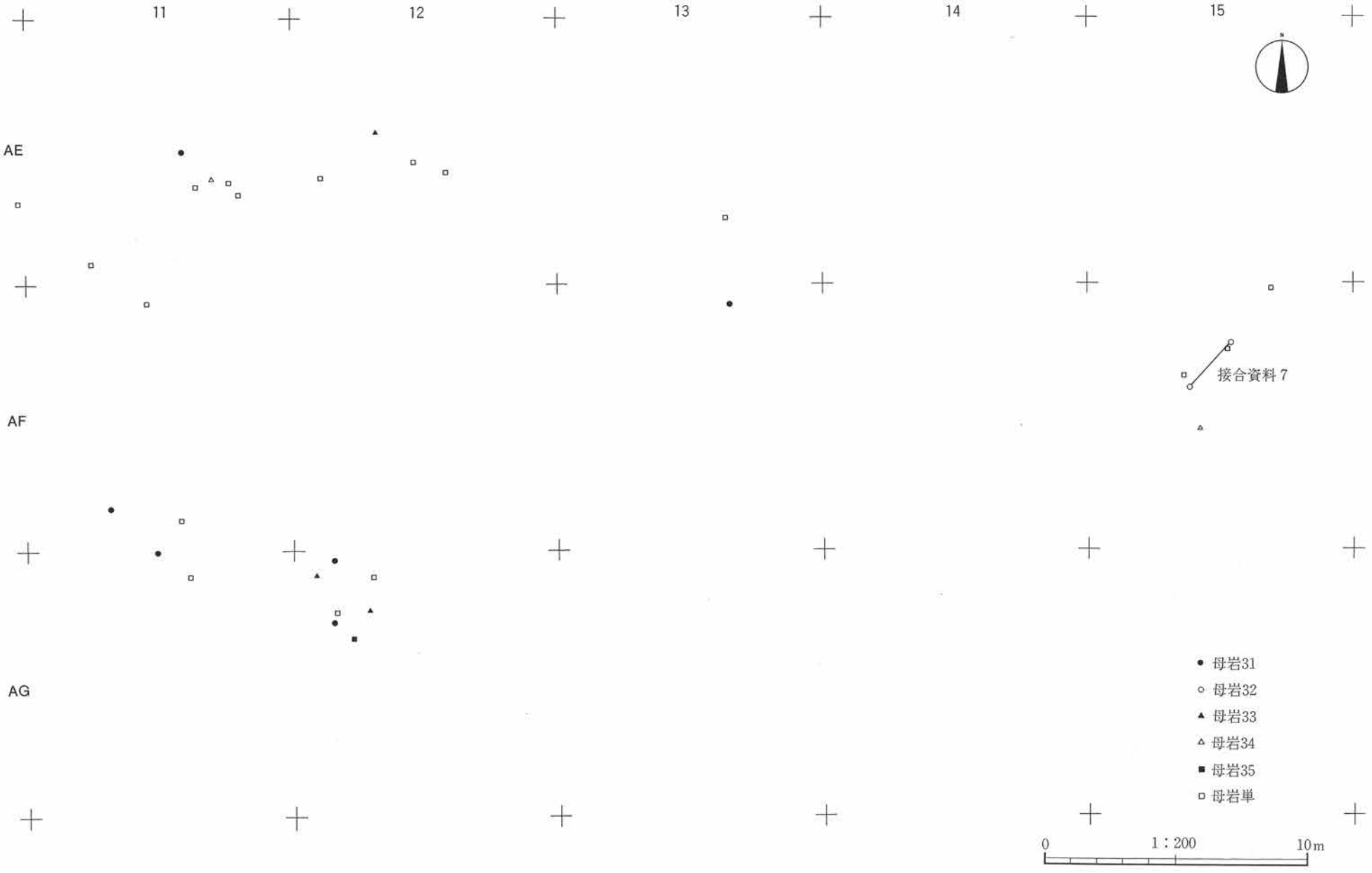
旧石器時代母岩１～６遺物分布図


11
12
13
14
15
AE
AF
AG
8
接合資料 8
接合資料10
接合資料 9
母岩 7
母岩 8
母岩 9
母岩10
母岩11
母岩12
0
1：200
10m


11
12
13
14
15
AE
AF
AG
● 母岩13
○ 母岩14
▲ 母岩15
△ 母岩16
■ 母岩17
□ 母岩18
0
1：200
10m

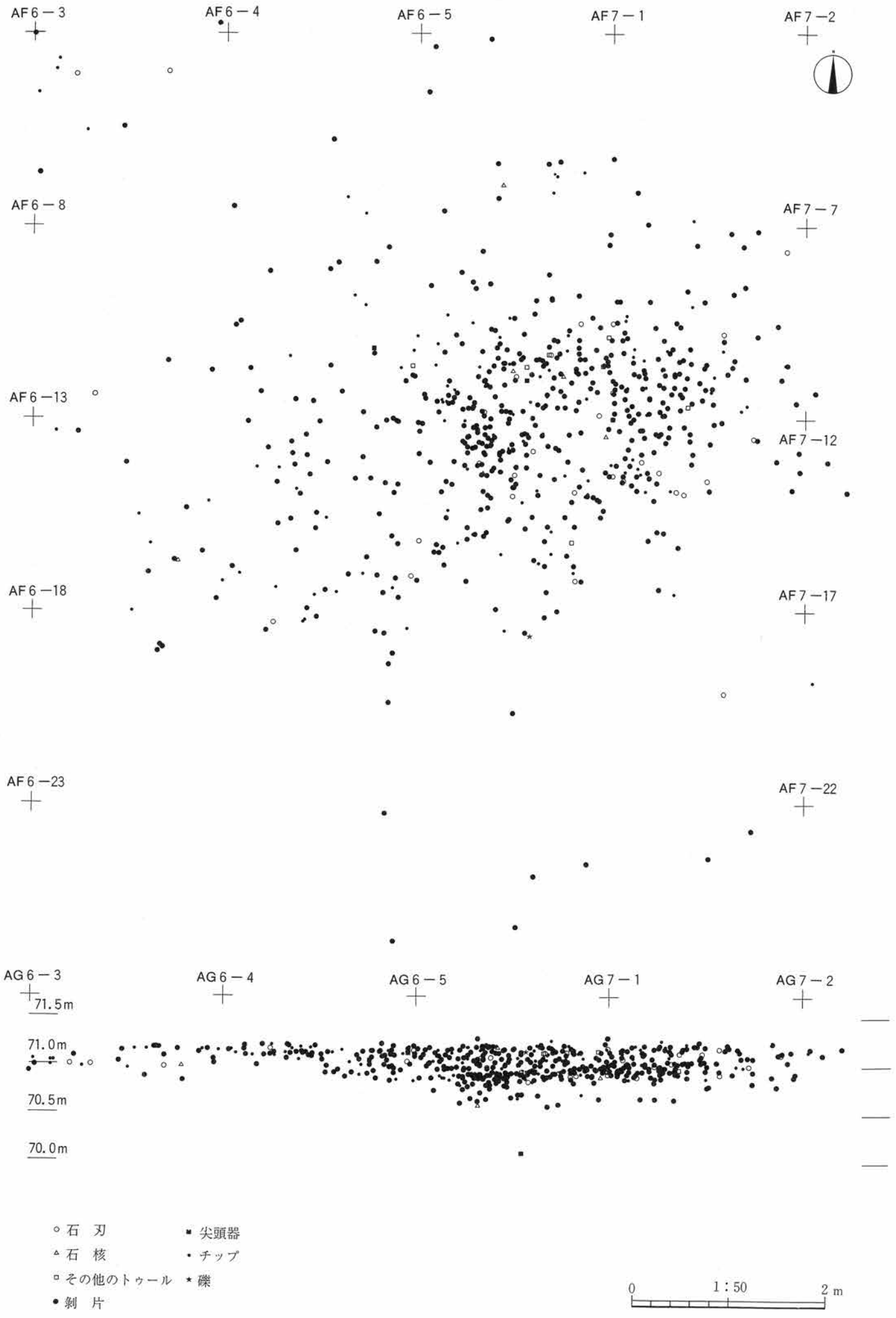

11
12
13
14
15
AE
AF
AG
接合資料1
接合資料2
接合資料5
接合資料6
母岩19
母岩20
母岩21
母岩22
母岩23
母岩24
0
1：200
10m

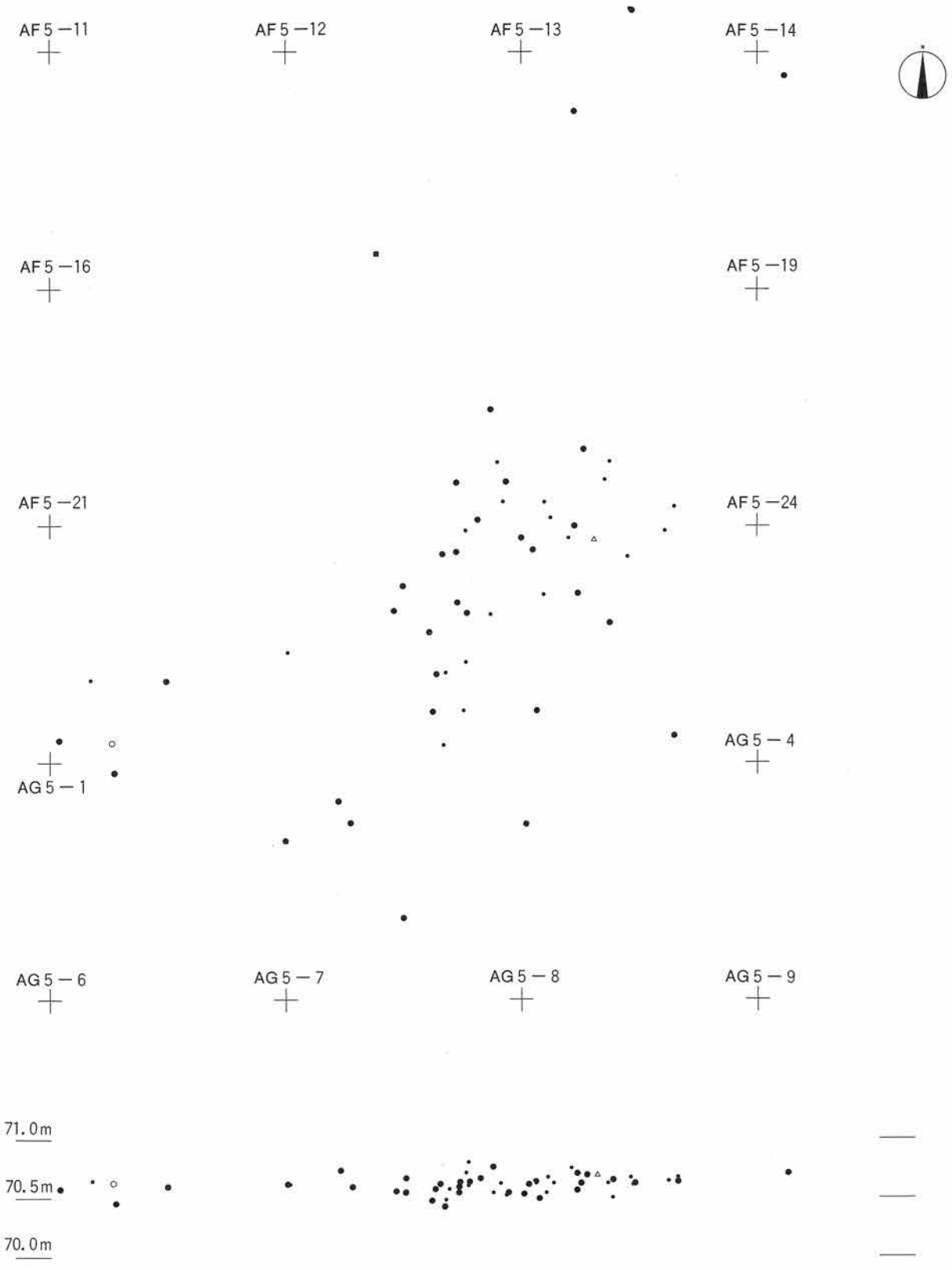

11
12
13
14
15
AE
AF
AG
接合資料12
接合資料4
接合資料3
母岩25
母岩26
母岩27
母岩28
母岩29
母岩30
0
1：200
10m


11
12
13
14
15
AE
AF
AG
接合資料7
母岩31
母岩32
母岩33
母岩34
母岩35
母岩単
0
1：200
10m

図版42

ブロック1遺物分布図

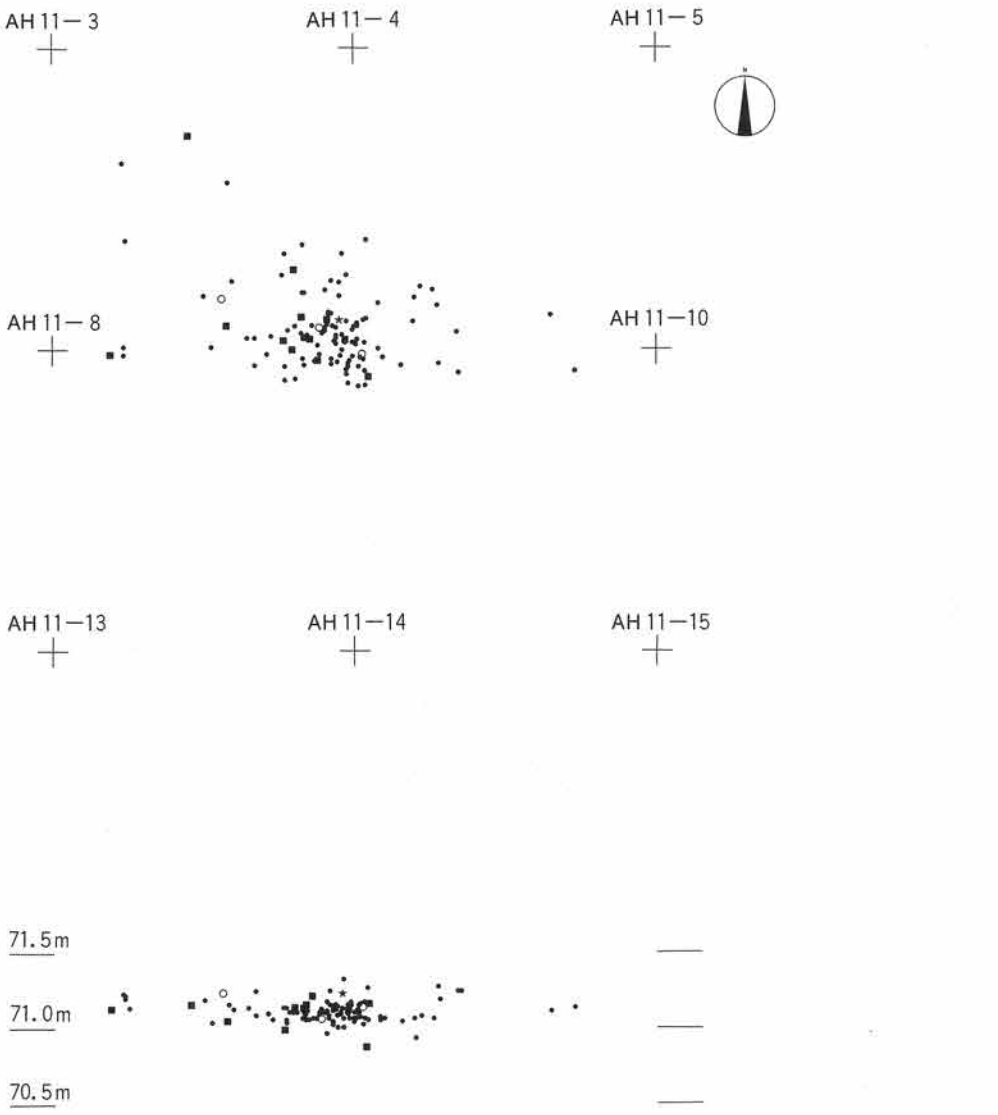




■ 尖頭器
○ 石　刃
△ 石　核
● 剝　片
・ チップ
★ 礫

0　1：50　2 m

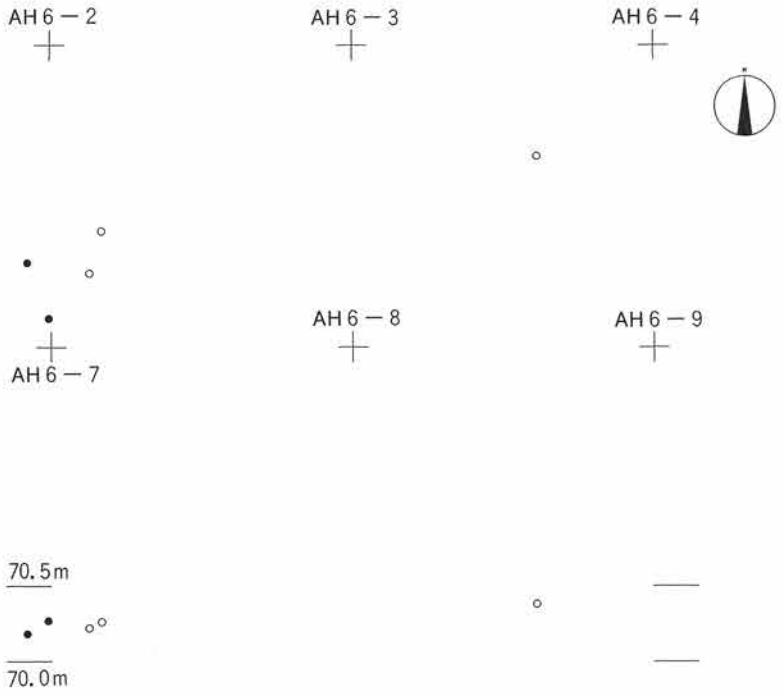
ブロック９遺物分布図



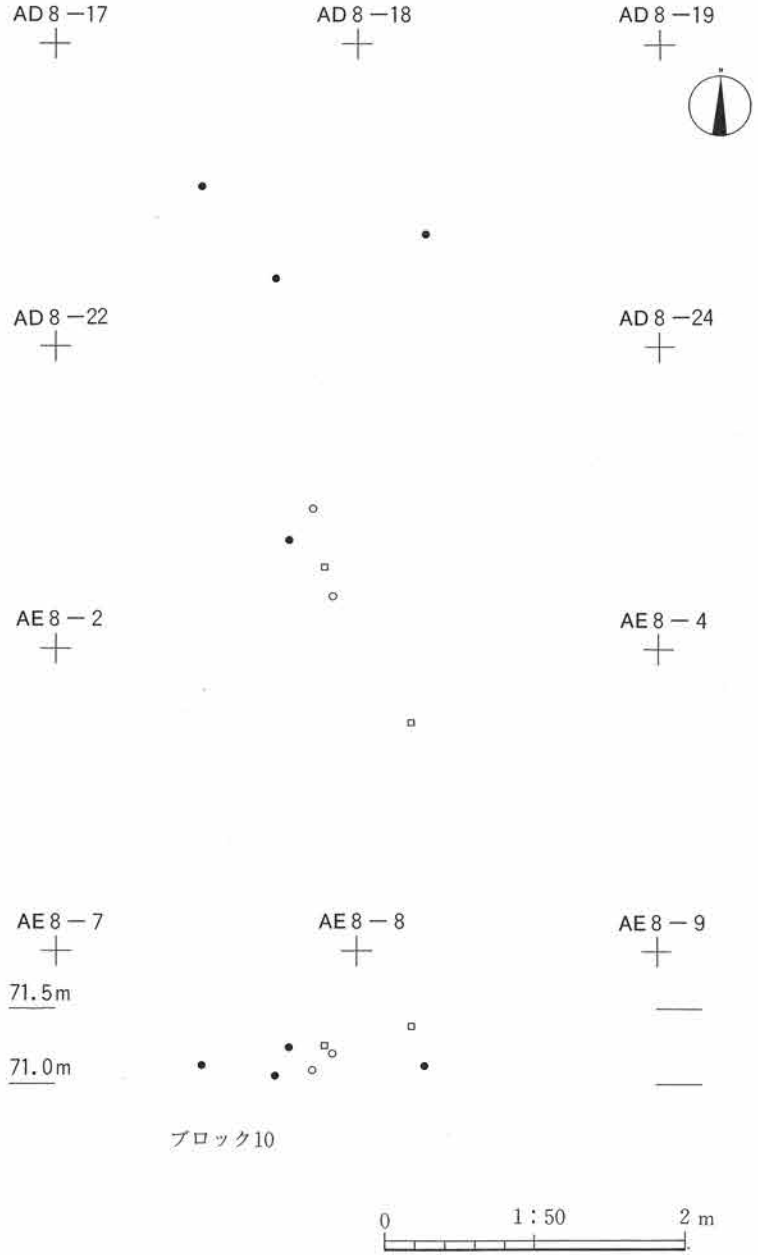
・チップ　　○ 尖頭器

■ 剝　片　　★ 礫

0　1：50　2 m



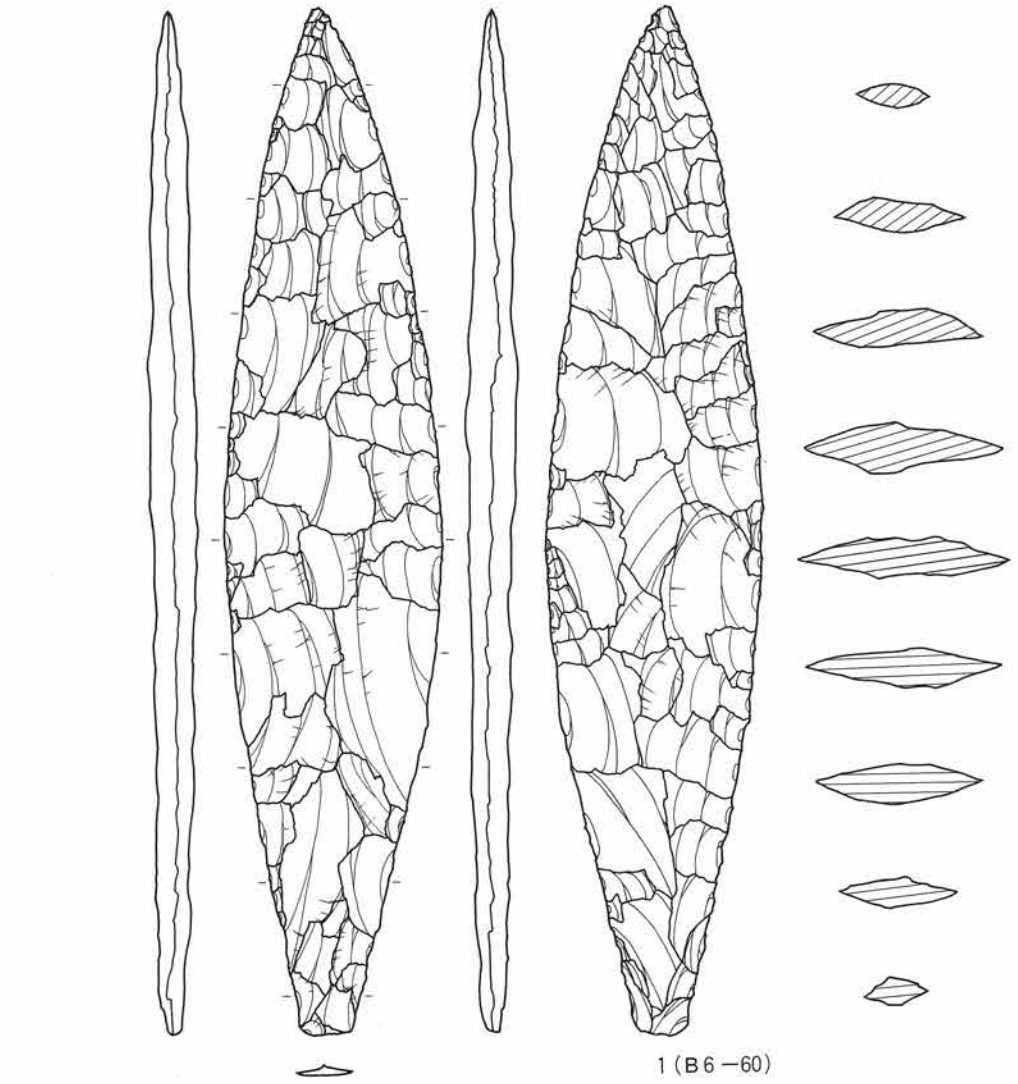
ブロック11



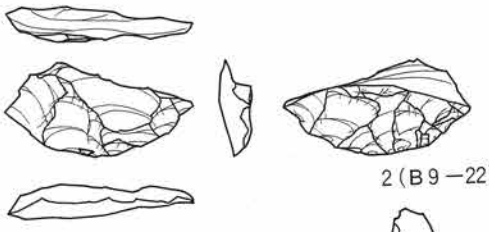
ブロック10

• 剝　片　　▫ その他のトゥール
◦ 石　刃

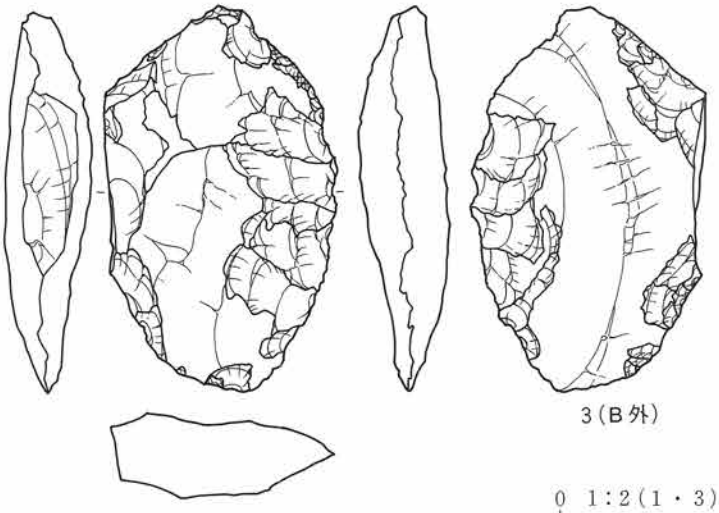
縄文時代草創期の石器実測図



1（B6－60）



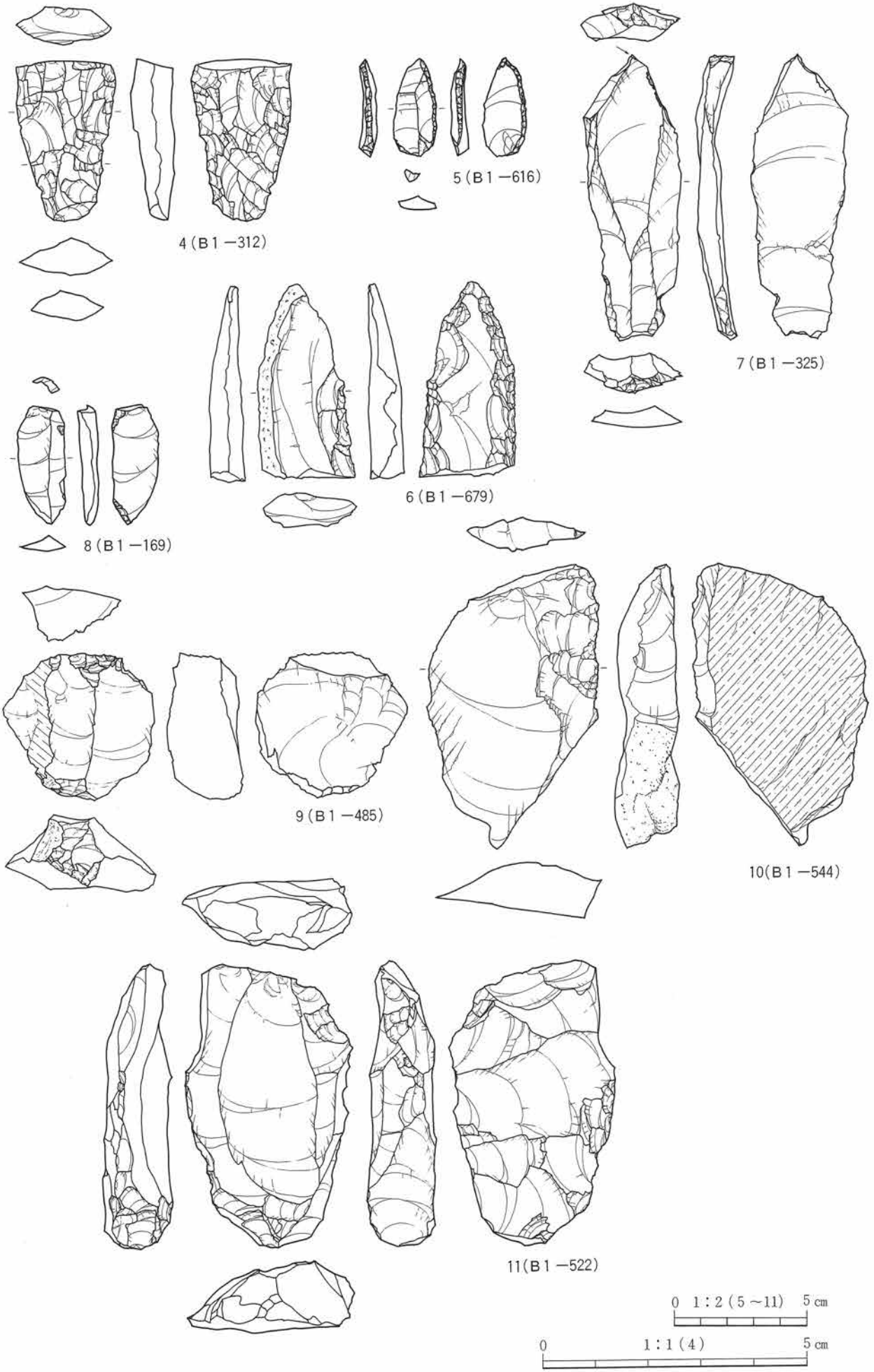
2（B9－22）



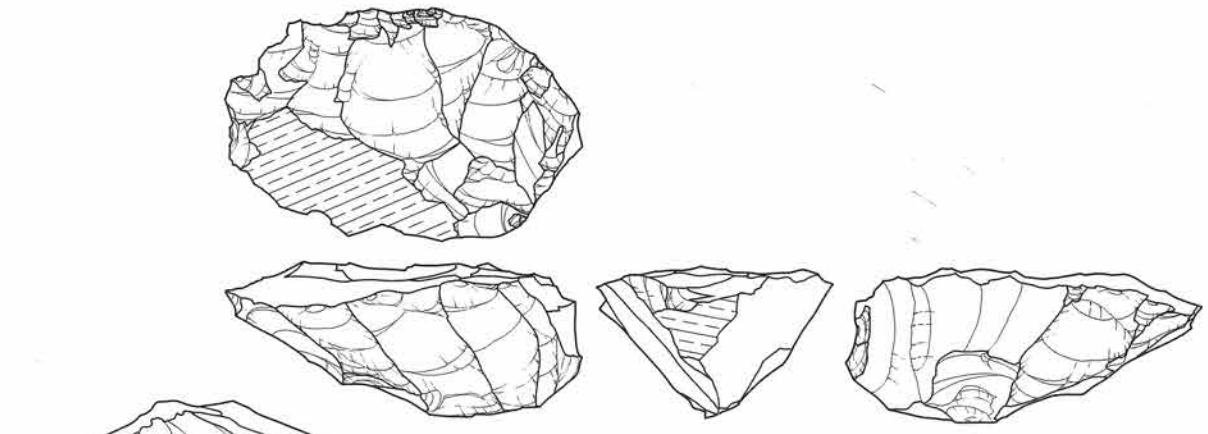
3（B外）

0　1:2（1・3）　5cm

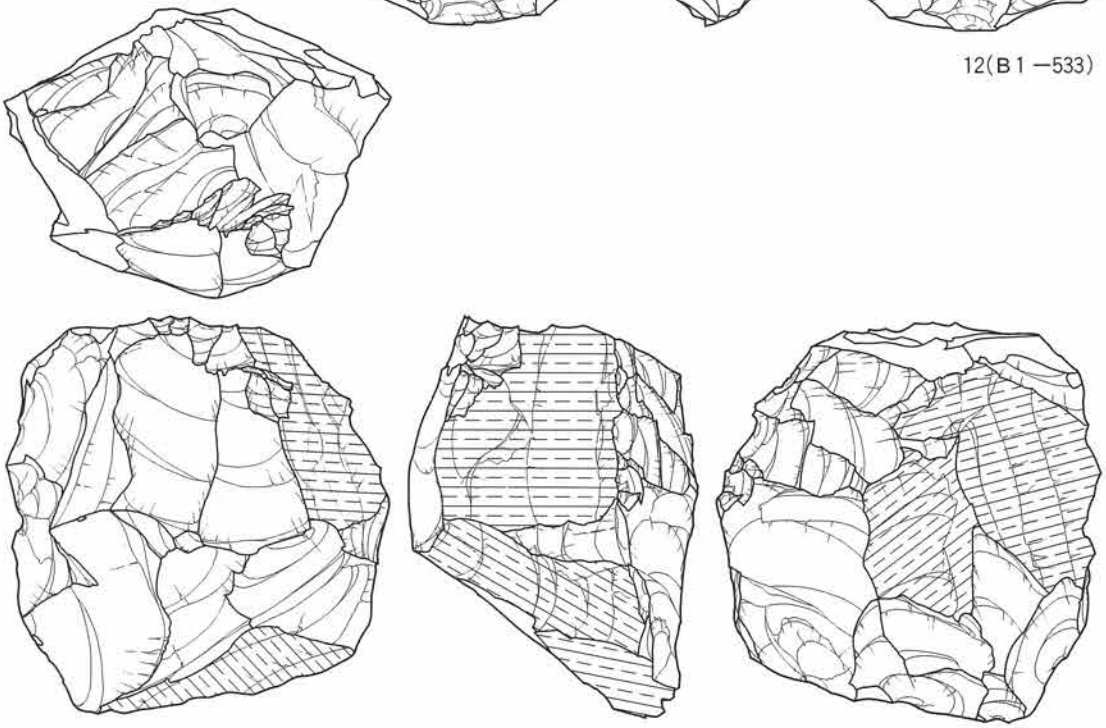
0　1:1（2）　5cm


4 (B1 −312)
5 (B1 −616)
7 (B1 −325)
6 (B1 −679)
8 (B1 −169)
9 (B1 −485)
10(B1 −544)
11(B1 −522)
0 1:2 (5 ~11) 5 cm
0 1:1 (4) 5 cm

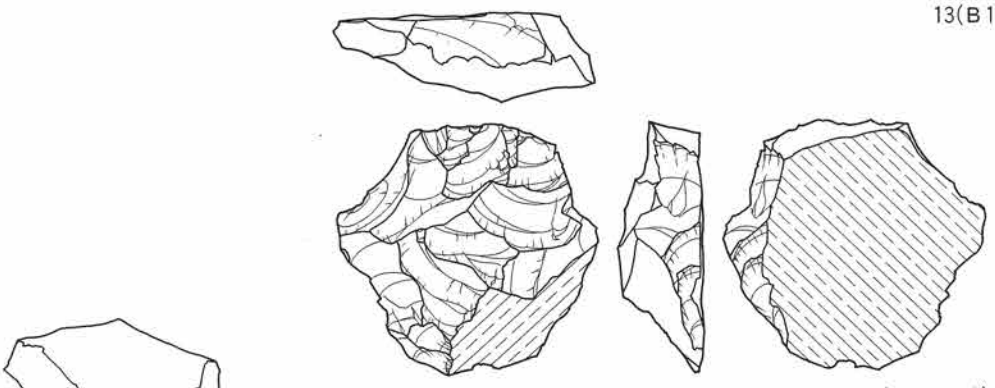
縄文時代草創期の石器実測図



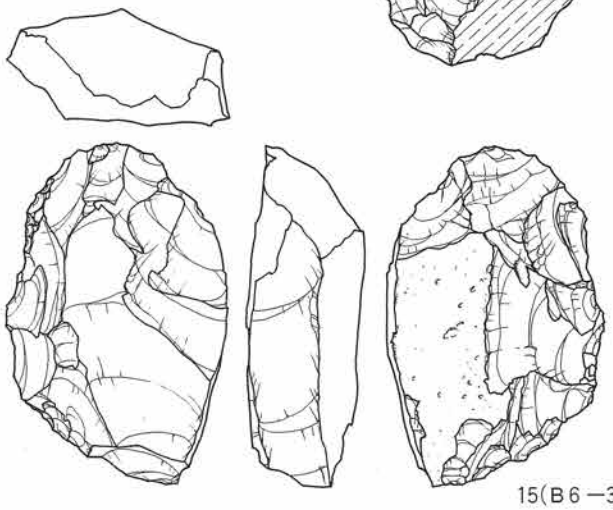
12(B1－533)



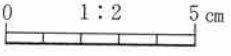
13(B1－541)

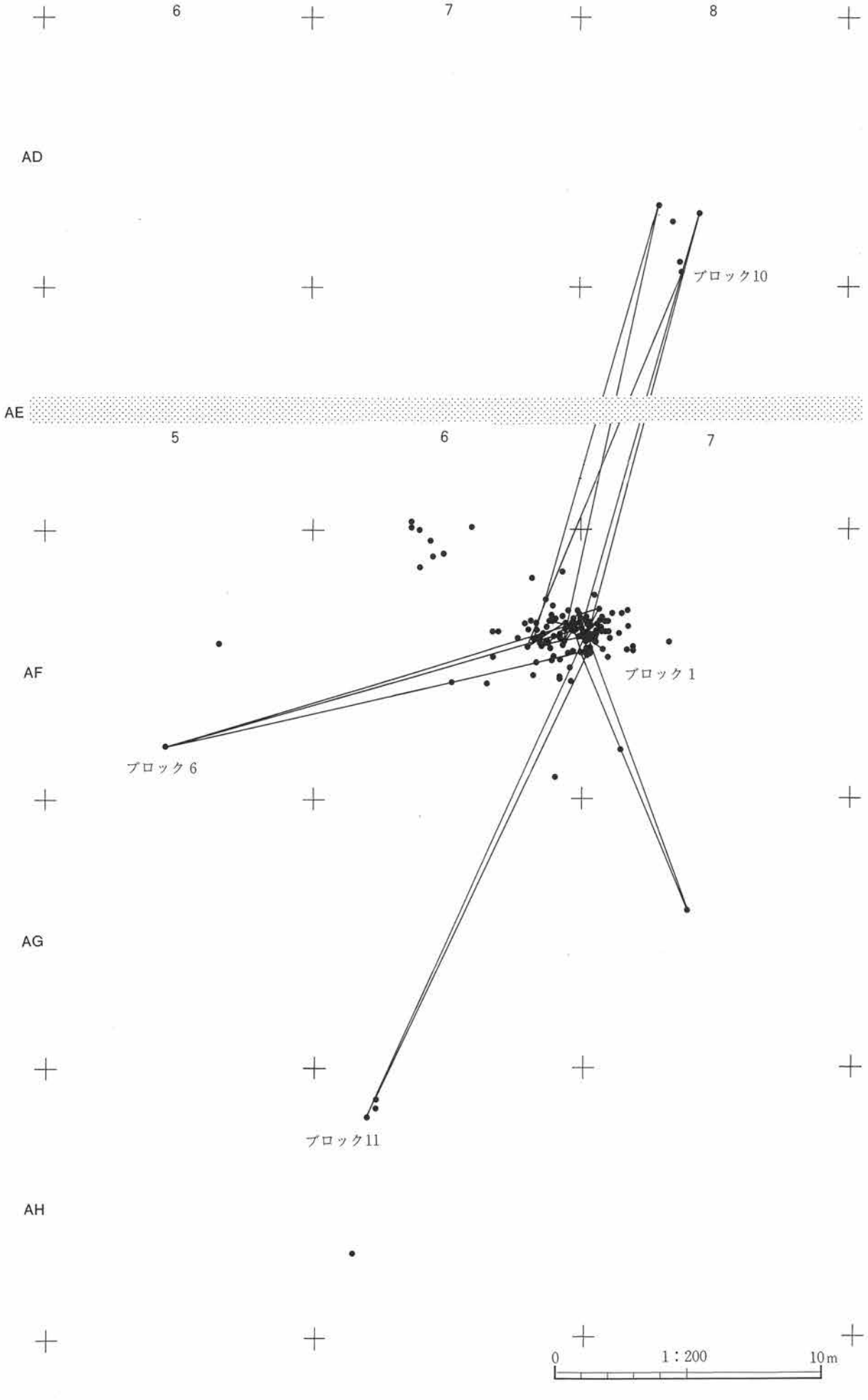


14(B1－632)

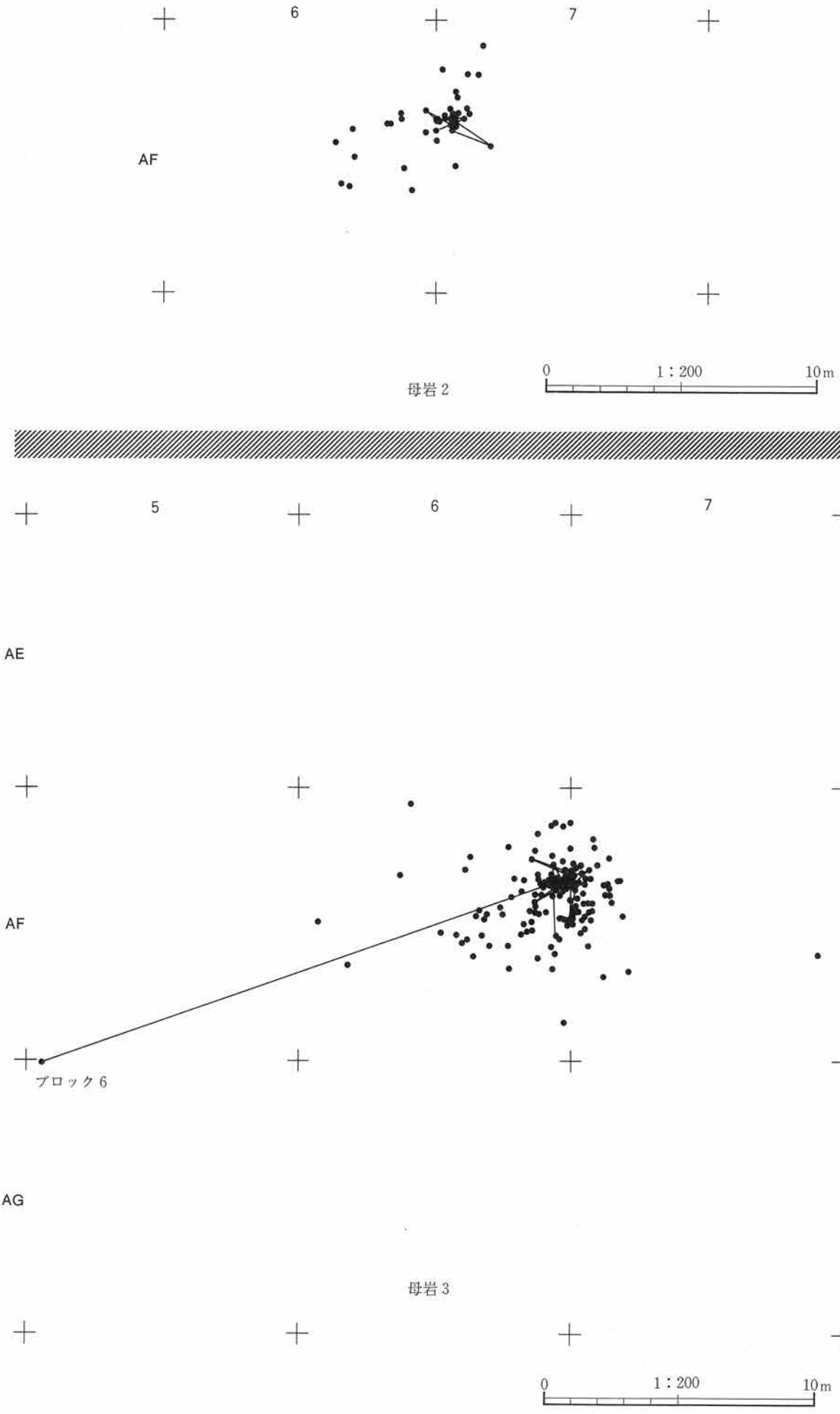


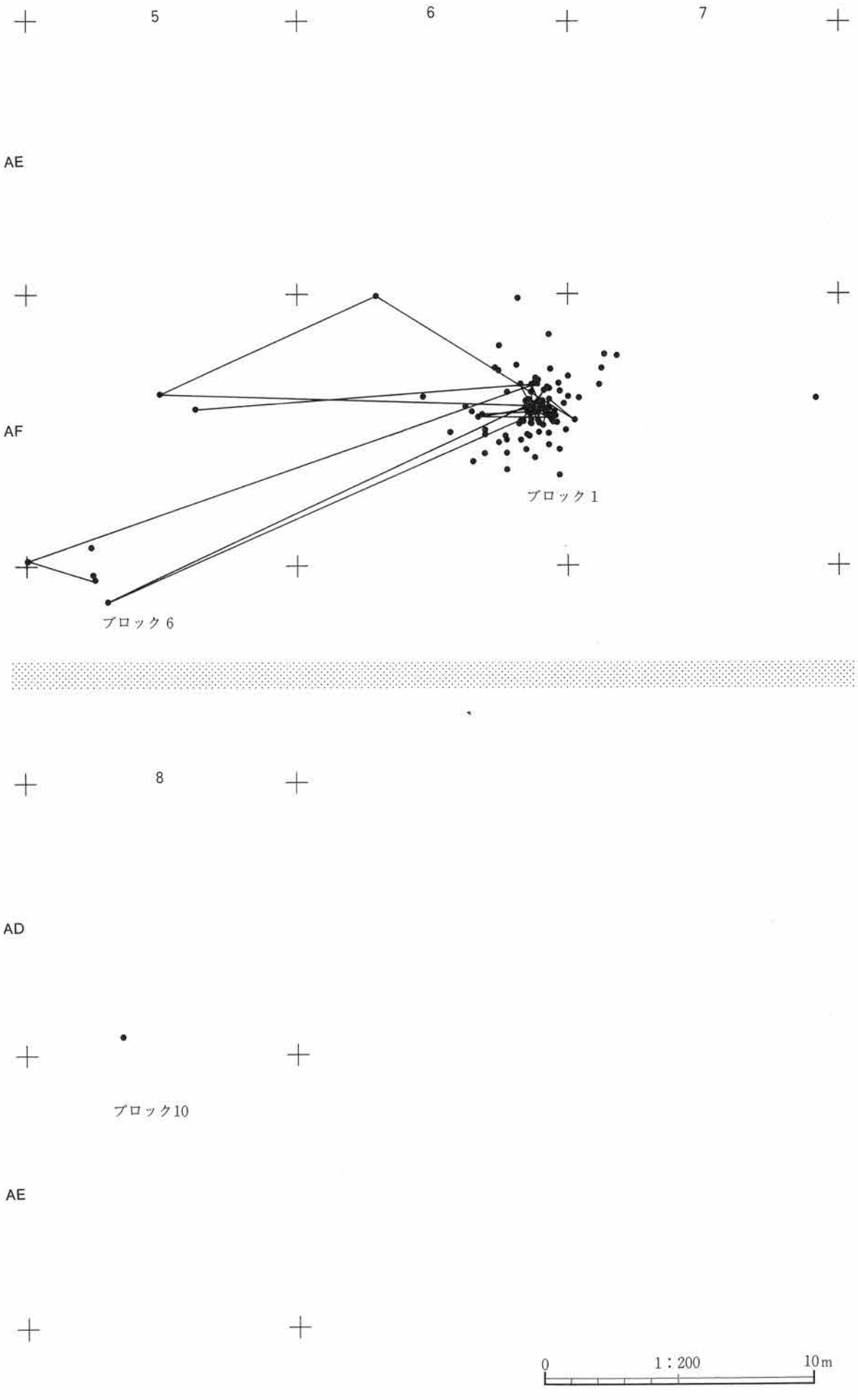
15(B6－34)



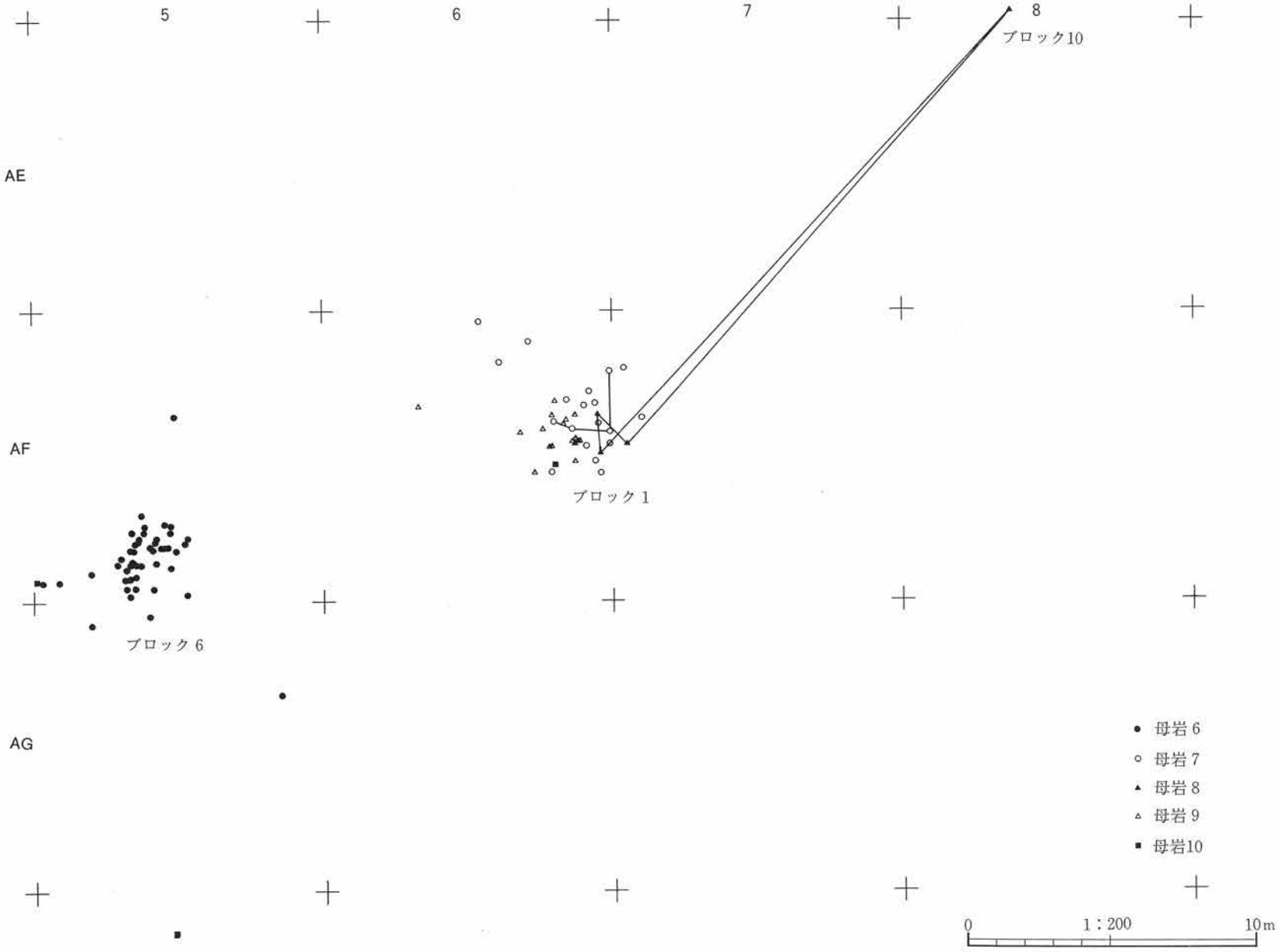

6
7
8
AD
ブロック10
AE
5
6
7
AF
ブロック１
ブロック６
AG
ブロック11
AH
0
1：200
10m

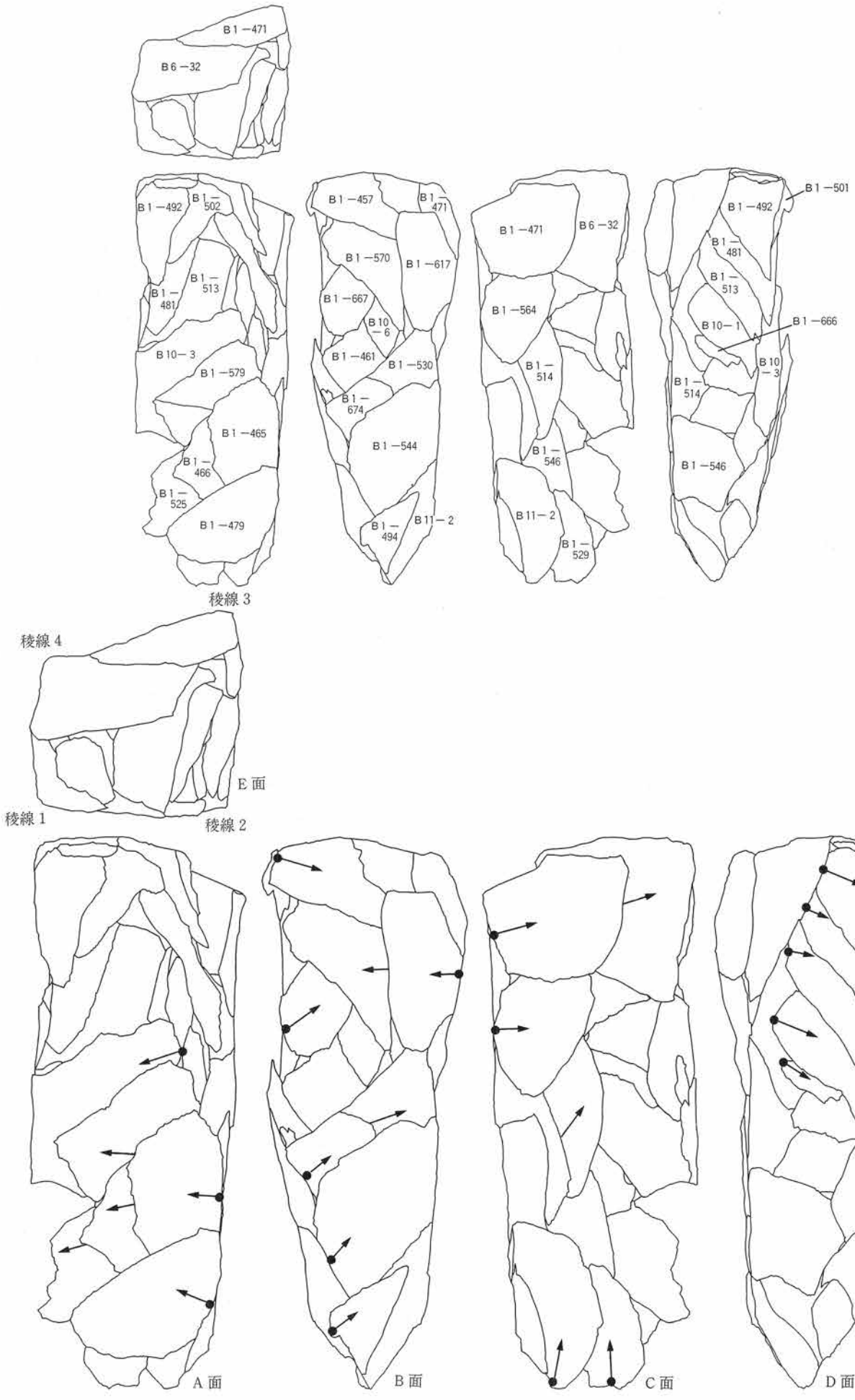
縄文時代草創期母岩２・３遺物分布図

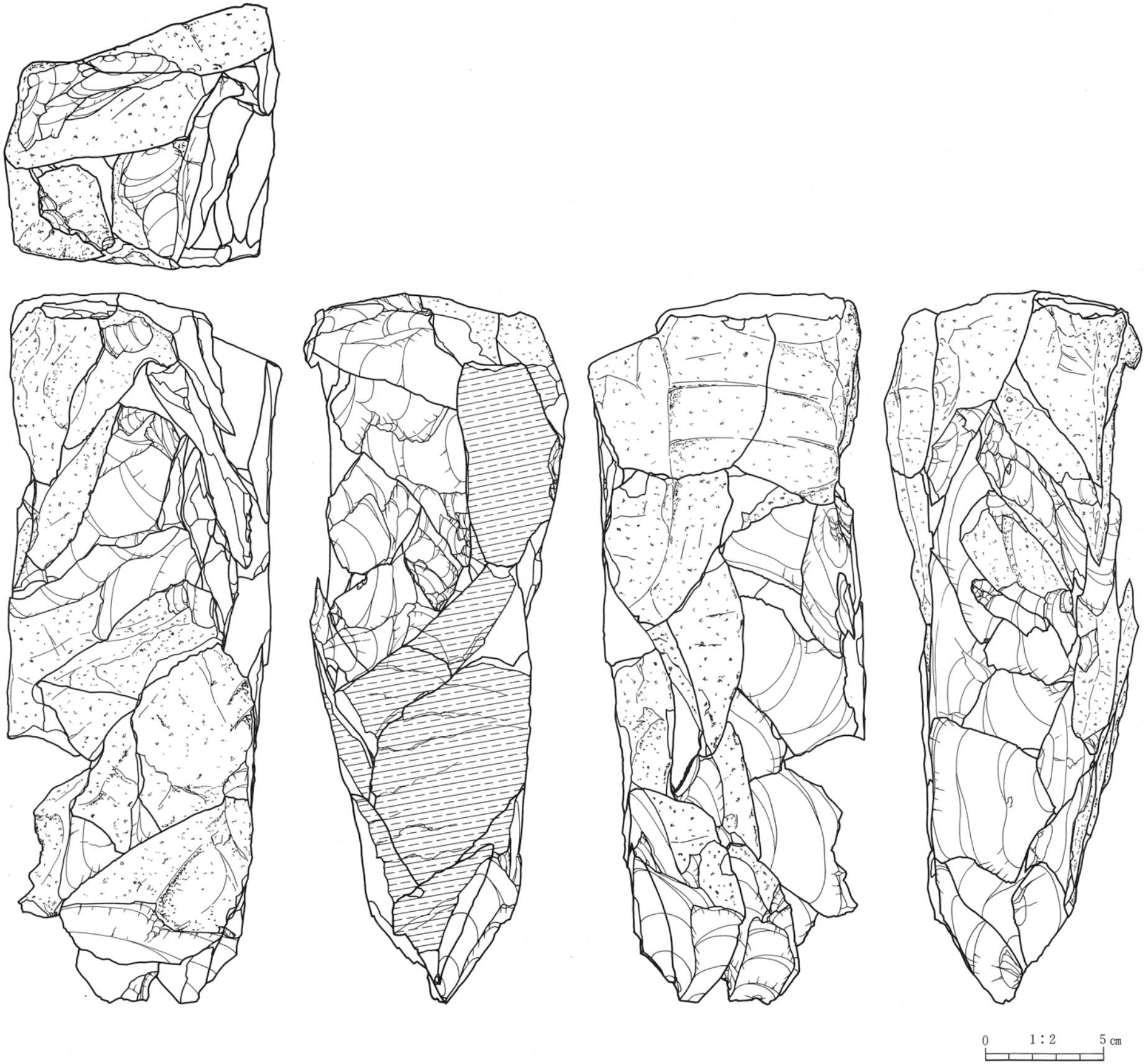


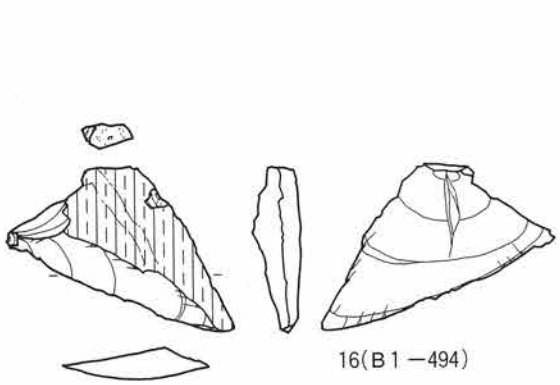

5
6
7
AE
AF
ブロック１
ブロック６
8
AD
ブロック10
AE
0
１：200
10m

縄文時代草創期母岩5遺物分布図

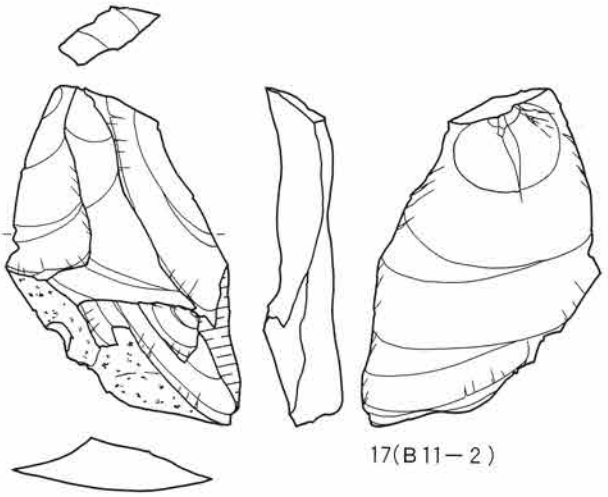

5
6
7
8
AE
AF
AG
ブロック10
ブロック1
ブロック6
母岩6
母岩7
母岩8
母岩9
母岩10
0
1：200
10m


B1−471
B6−32
B1−492
B1−502
B1−513
B1−481
B10−3
B1−579
B1−465
B1−466
B1−525
B1−479
稜線3
B1−457
B1−471
B1−570
B1−617
B1−667
B10−6
B1−461
B1−530
B1−674
B1−544
B1−494
B11−2
B1−471
B6−32
B1−564
B1−514
B1−546
B11−2
B1−529
B1−501
B1−492
B1−481
B1−513
B10−1
B1−666
B10−3
B1−514
B1−546
稜線4
E面
稜線1
稜線2
A面
B面
C面
D面

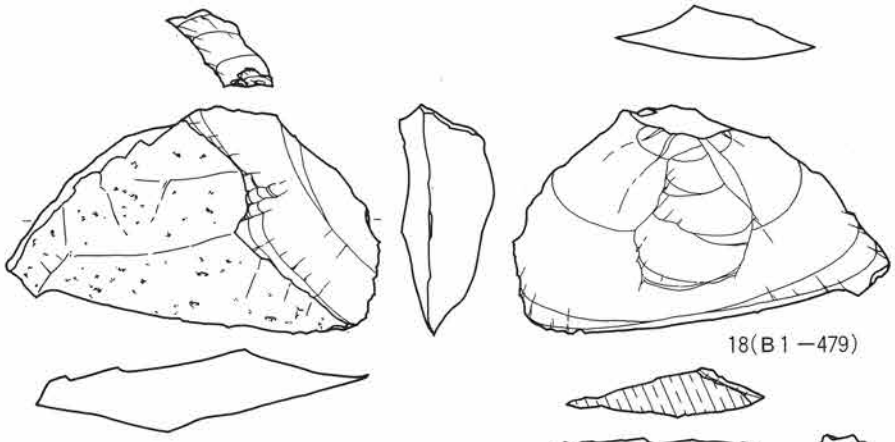

0 1:2 5cm



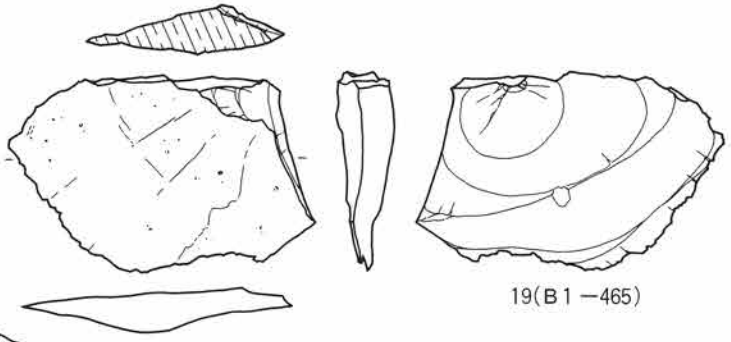
16(B1－494)



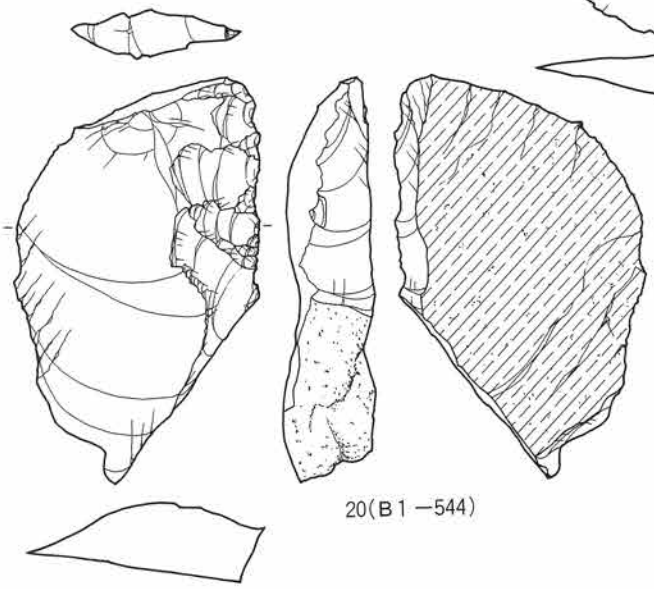
17(B11－2)



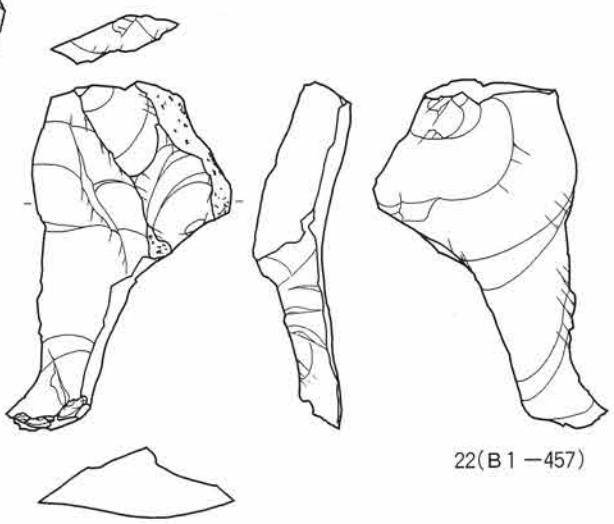
18(B1－479)



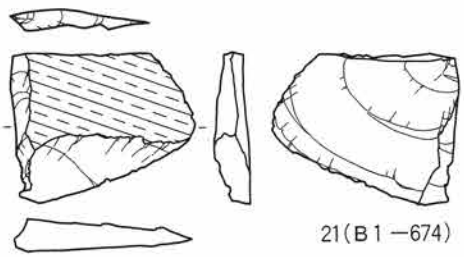
19(B1－465)



20(B1－544)

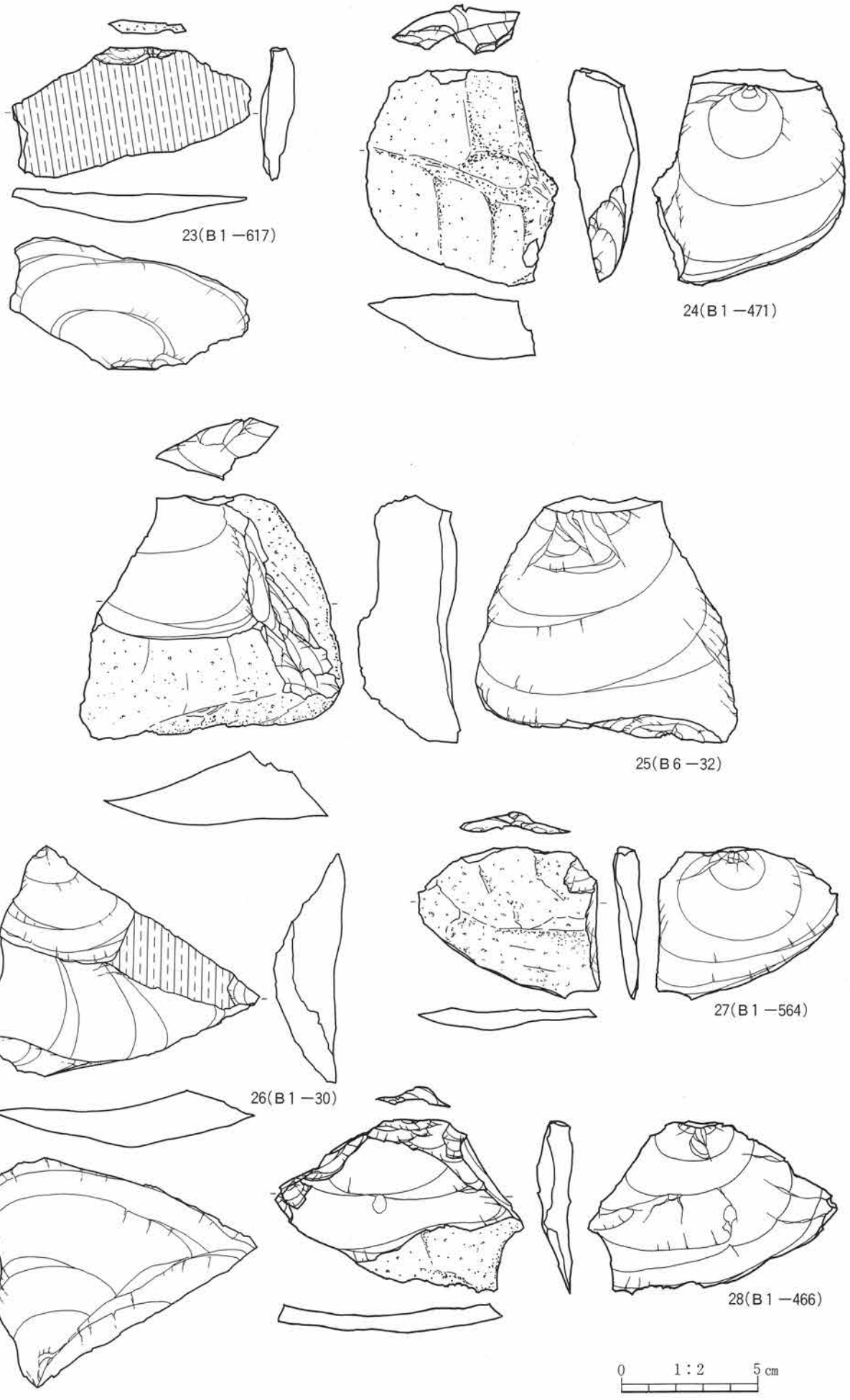


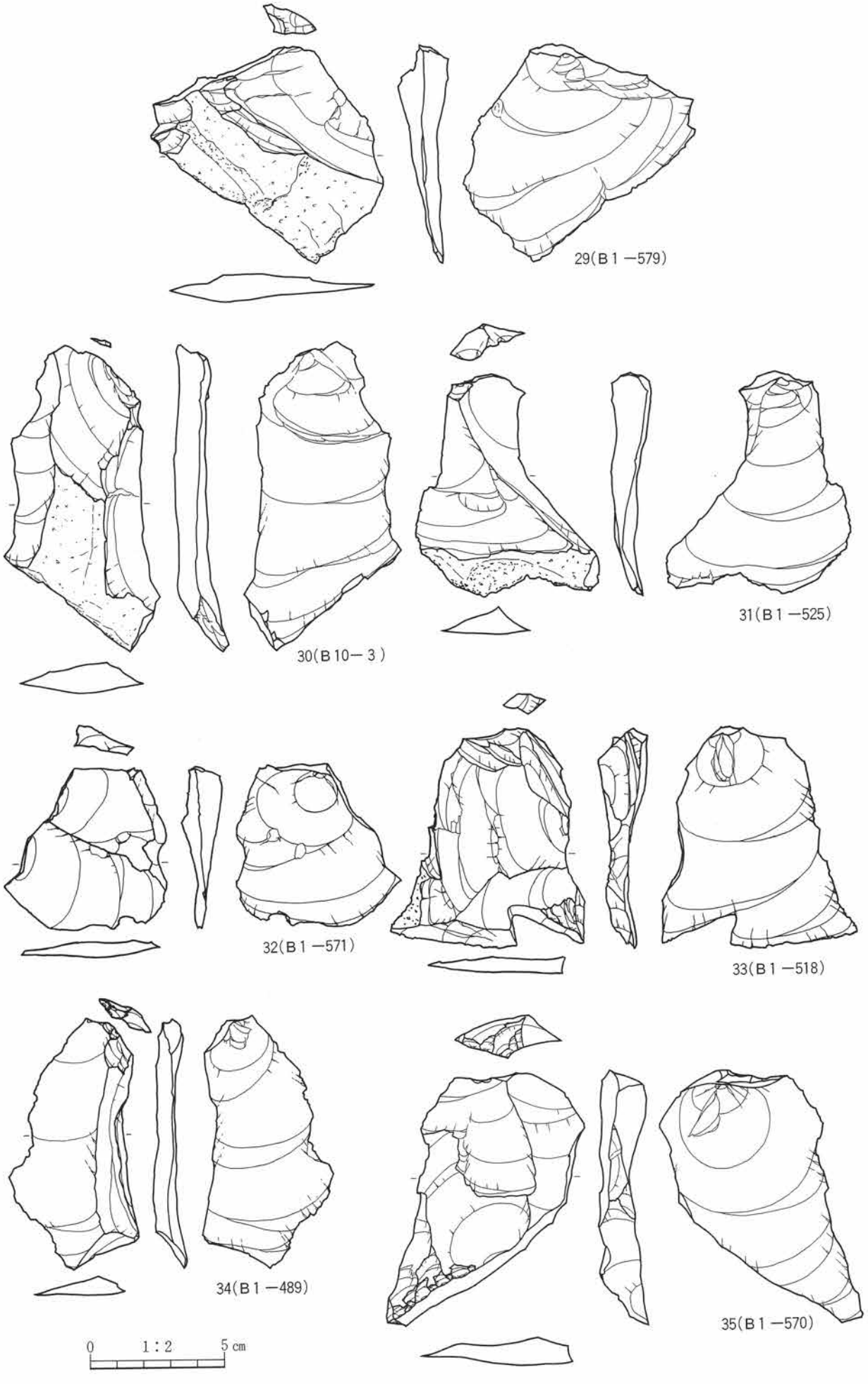
22(B1－457)

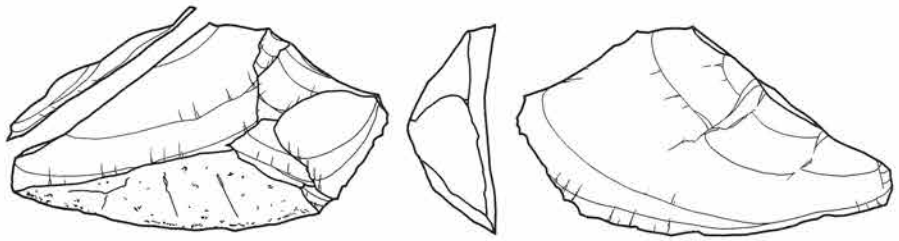


21(B1－674)

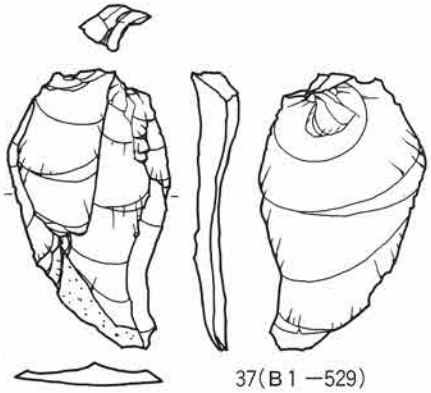
0　1：2　5cm


23(B1−617)
24(B1−471)
25(B6−32)
26(B1−30)
27(B1−564)
28(B1−466)
0 1:2 5cm

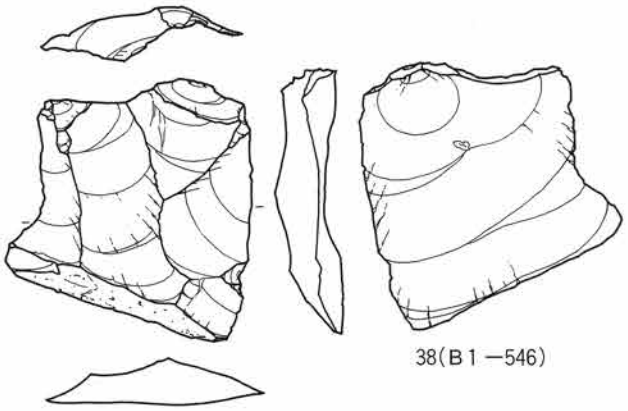

29(B1－579)
30(B10－3)
31(B1－525)
32(B1－571)
33(B1－518)
34(B1－489)
35(B1－570)
0 1:2 5cm



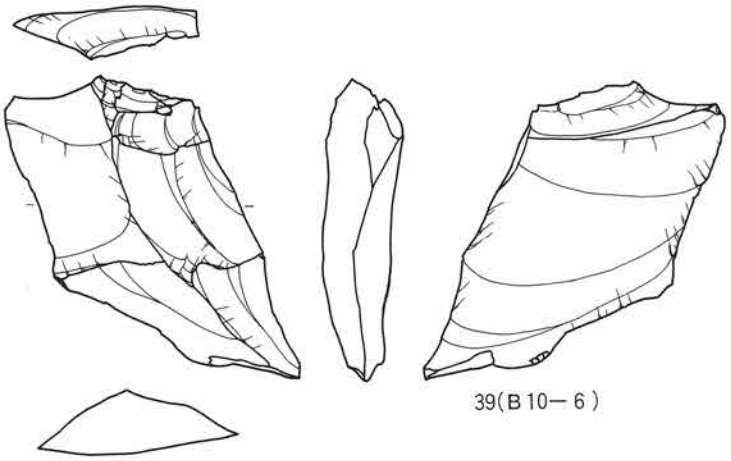
36(B1－514)



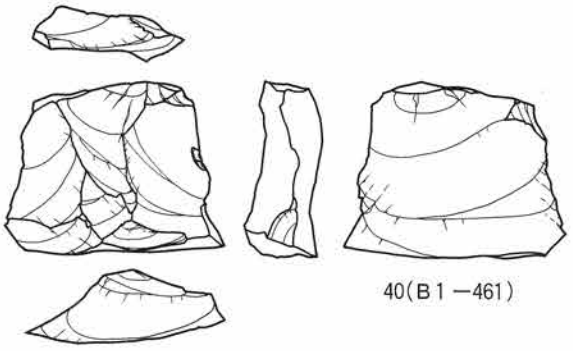
37(B1－529)



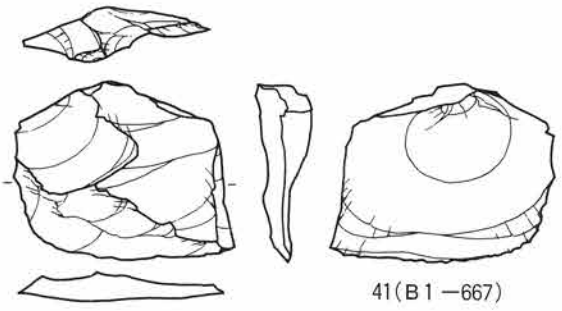
38(B1－546)



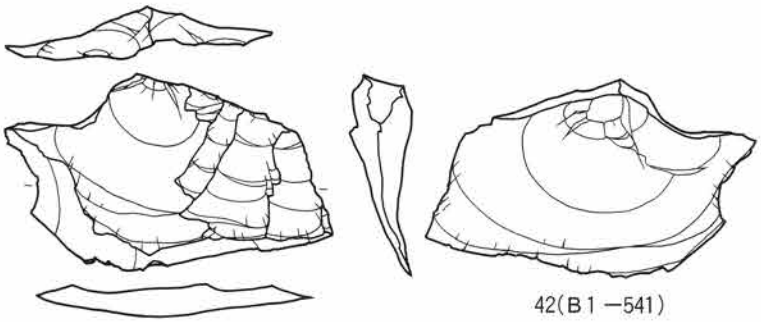
39(B10－6)



40(B1－461)

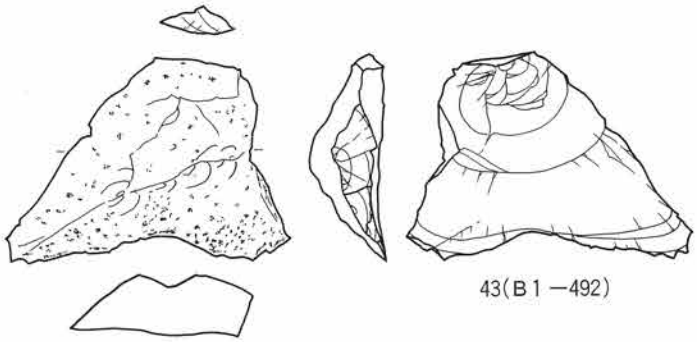


41(B1－667)

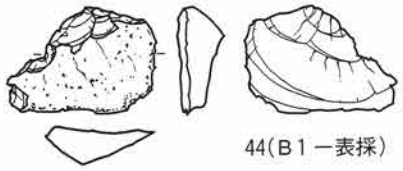


42(B1－541)

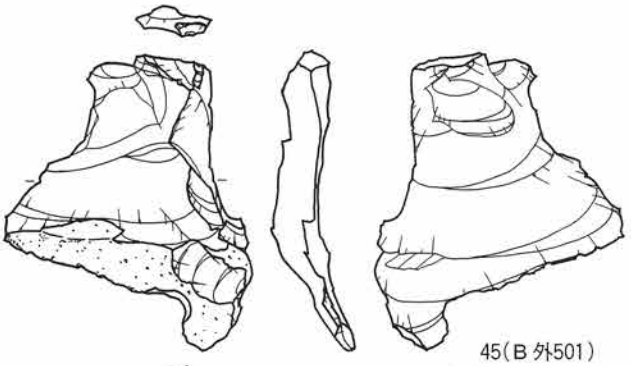
0　1：2　5cm



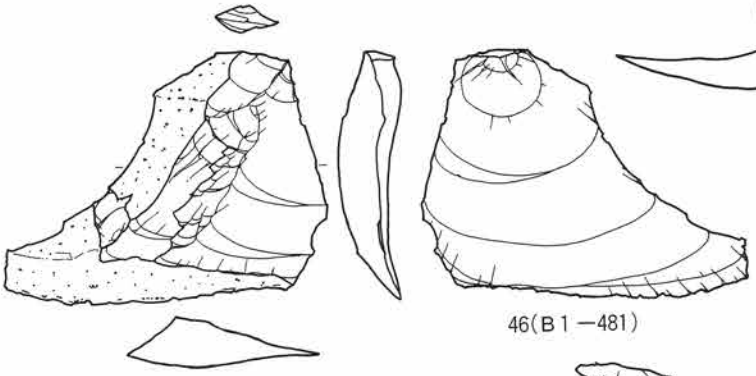
43(B1－492)



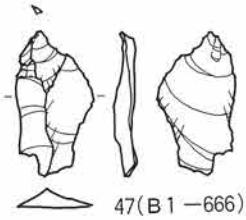
44(B1－表採)



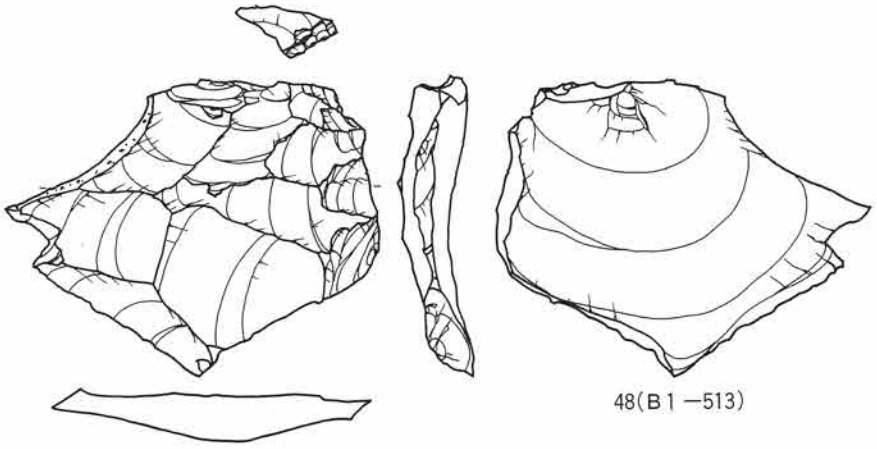
45(B外501)



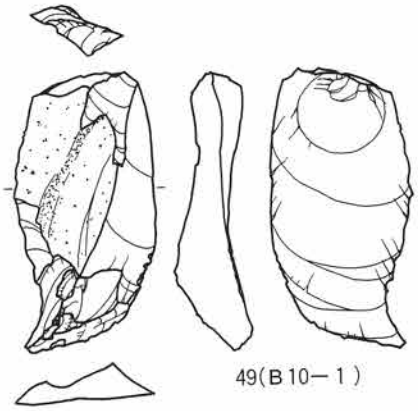
46(B1－481)



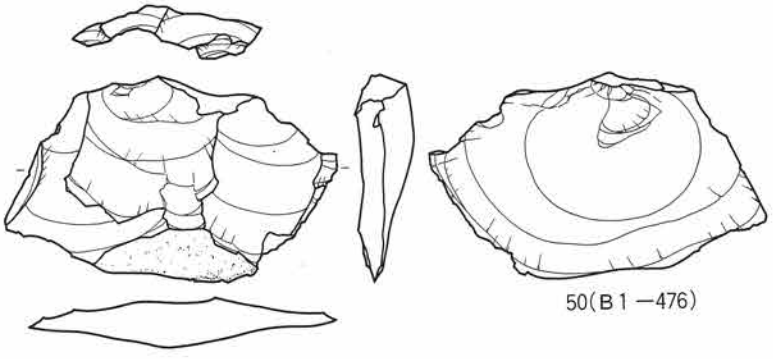
47(B1－666)



48(B1－513)



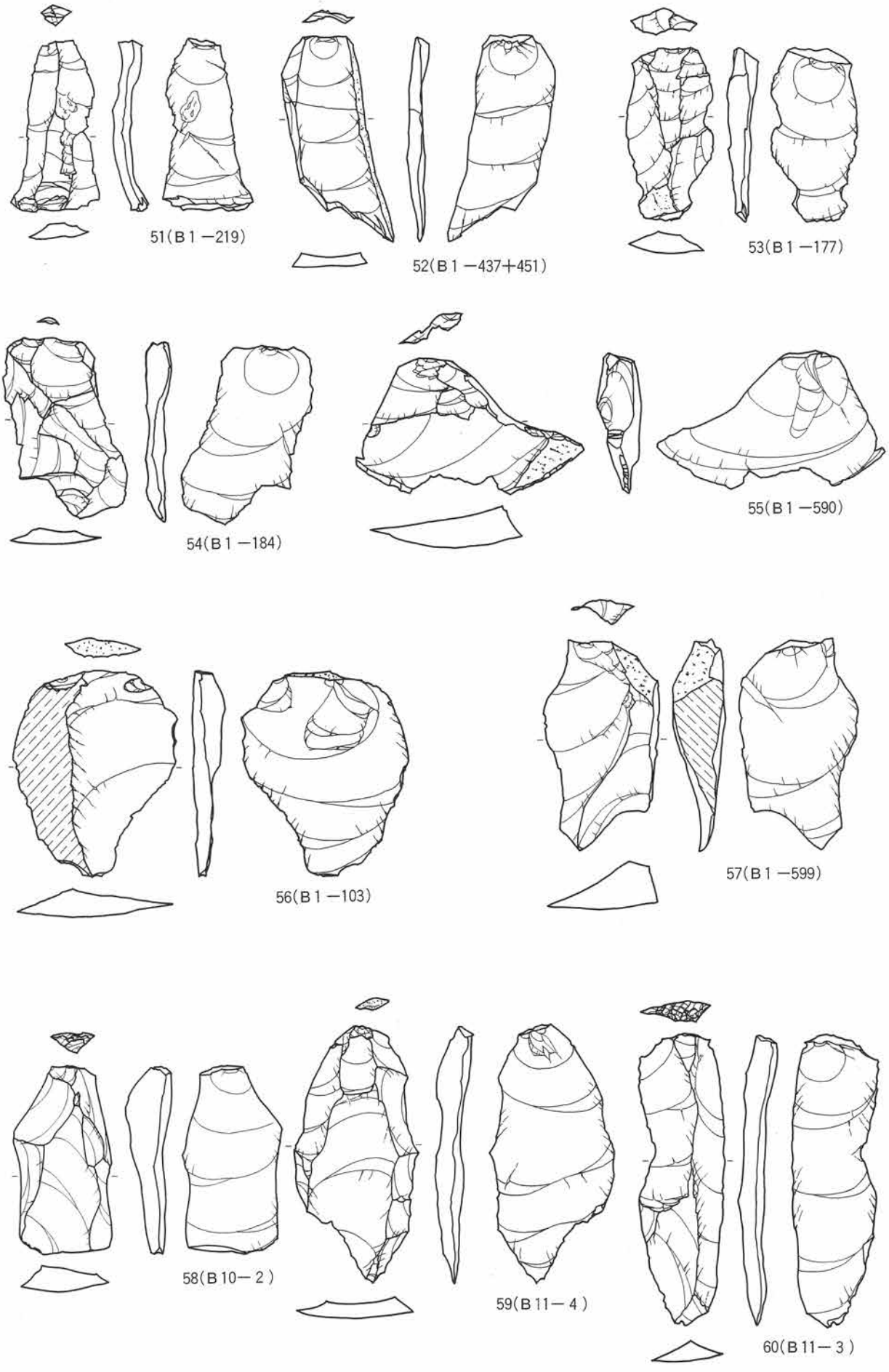
49(B10－1)

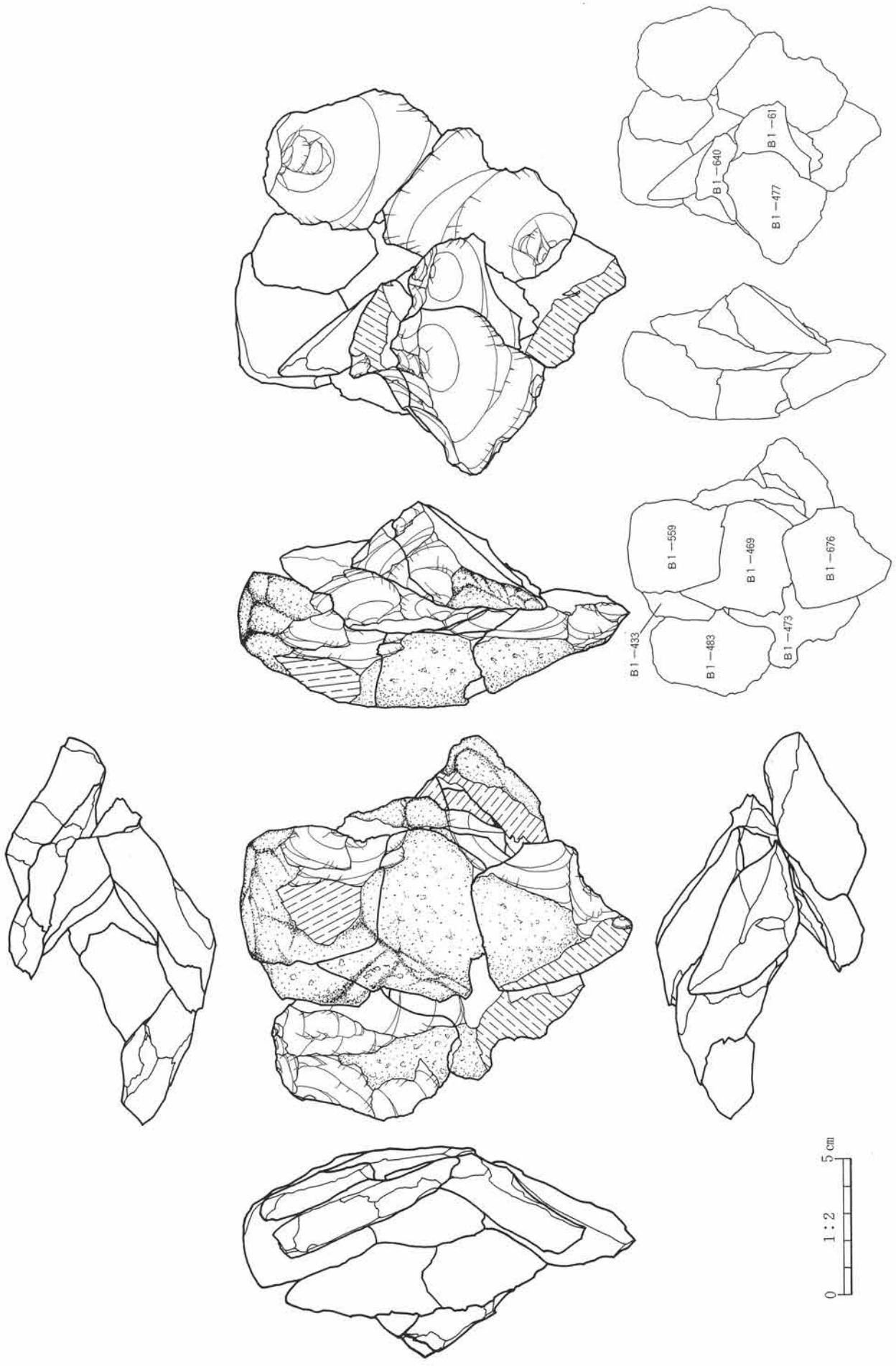


50(B1－476)

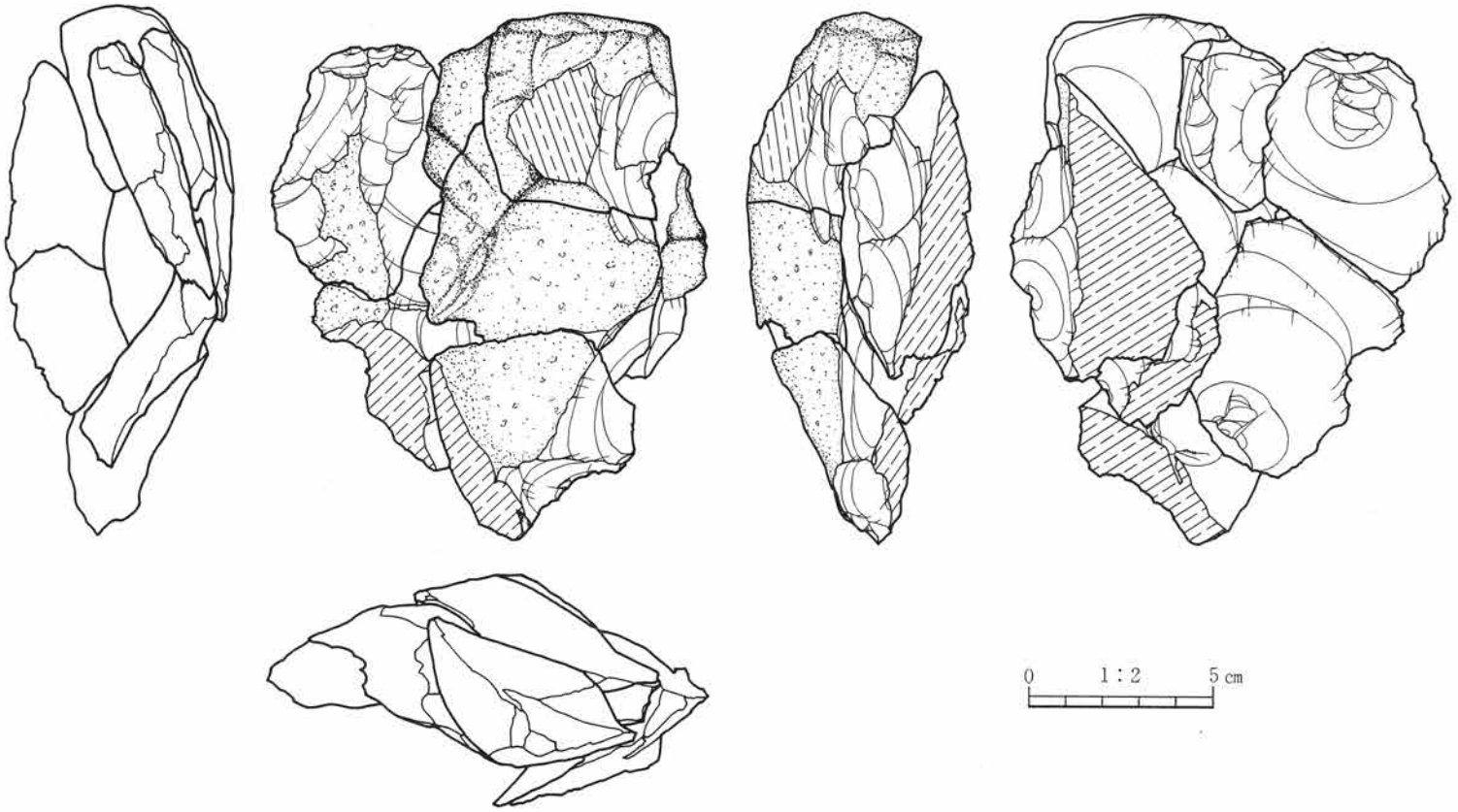
0　1：2　5cm

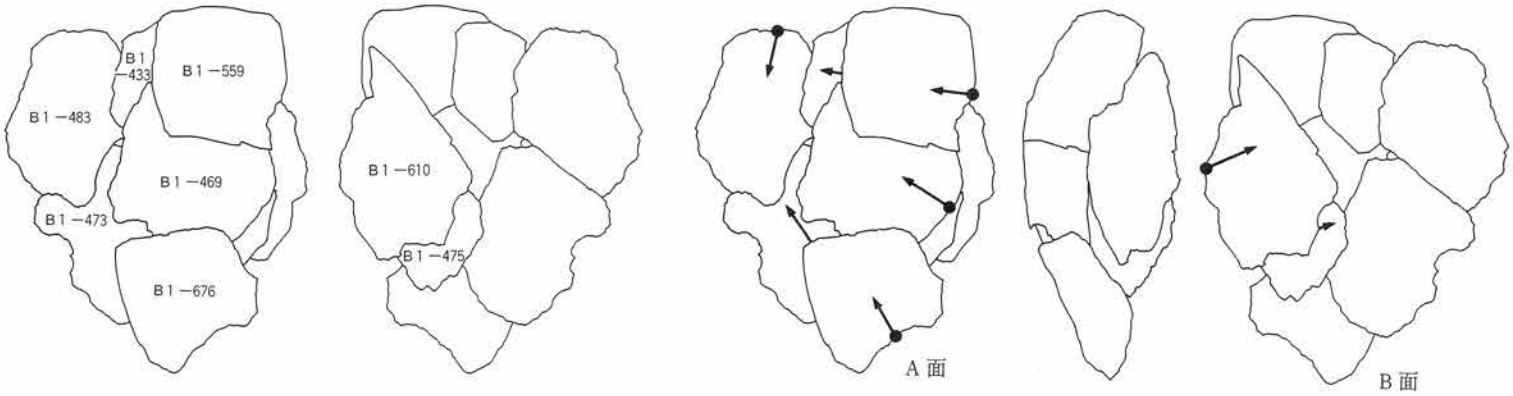
縄文時代草創期母岩１石器実測図

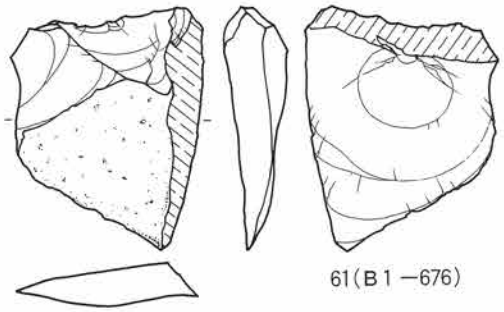



B1−61
B1−640
B1−477
B1−559
B1−469
B1−676
B1−433
B1−483
B1−473
0
1:2
5cm

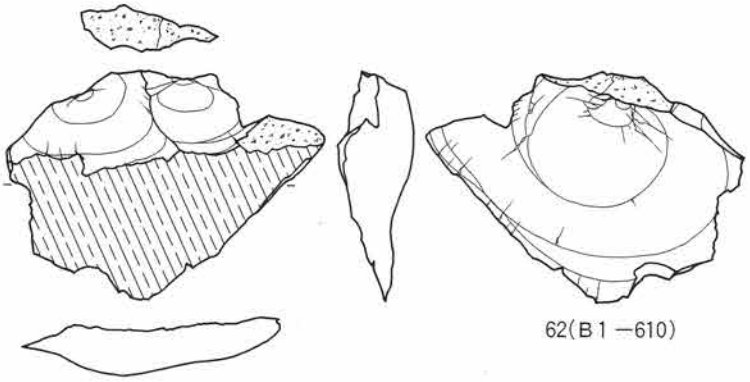
縄文時代草創期接合資料２個体１実測図



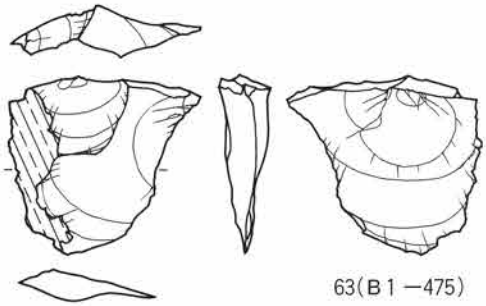




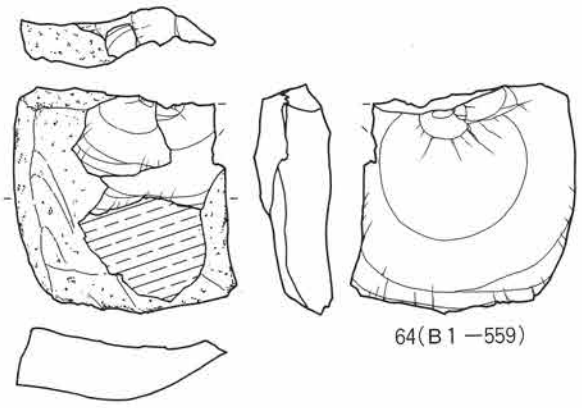
61(B1－676)



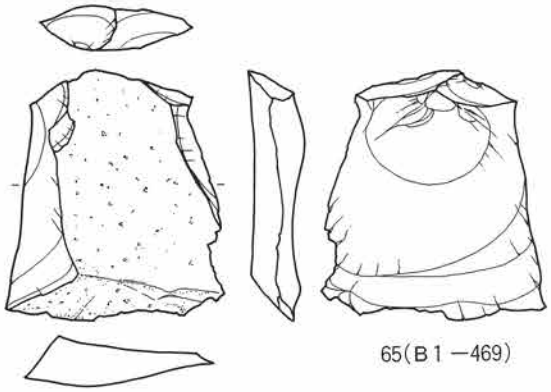
62(B1－610)



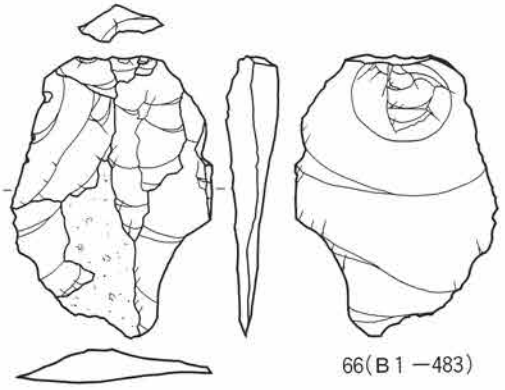
63(B1－475)



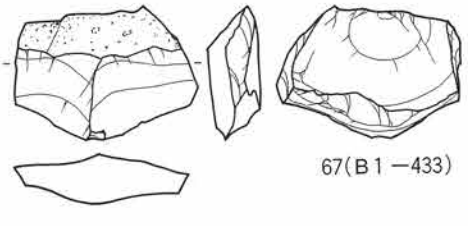
64(B1－559)



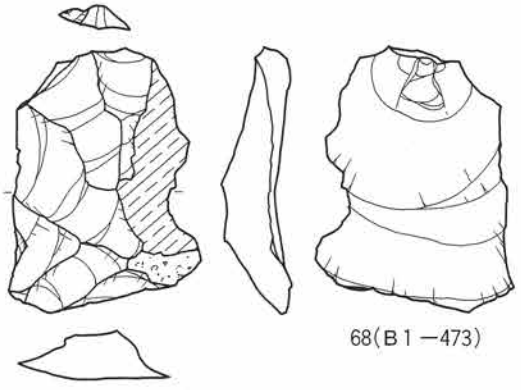
65(B1－469)



66(B1－483)



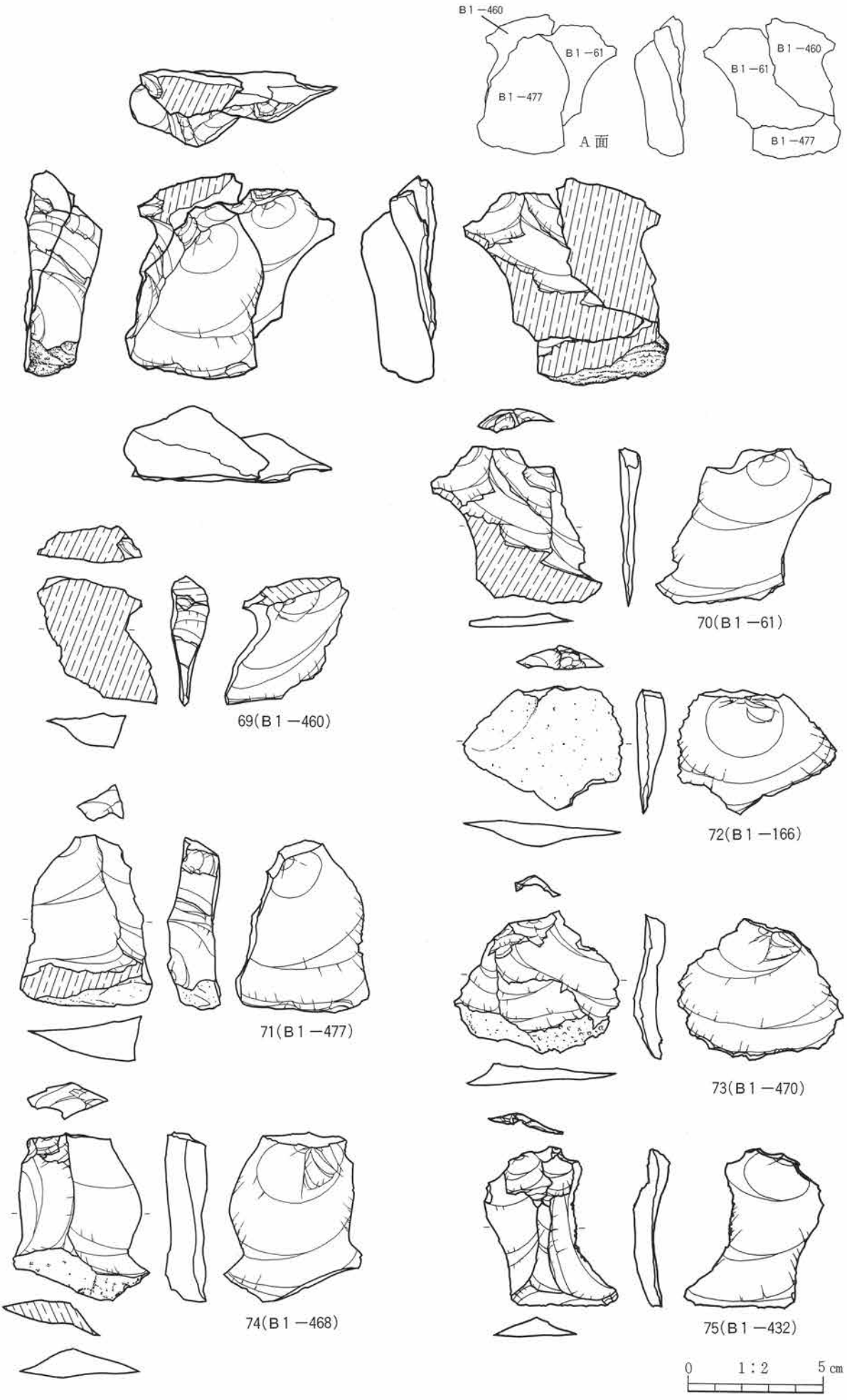
67(B1－433)

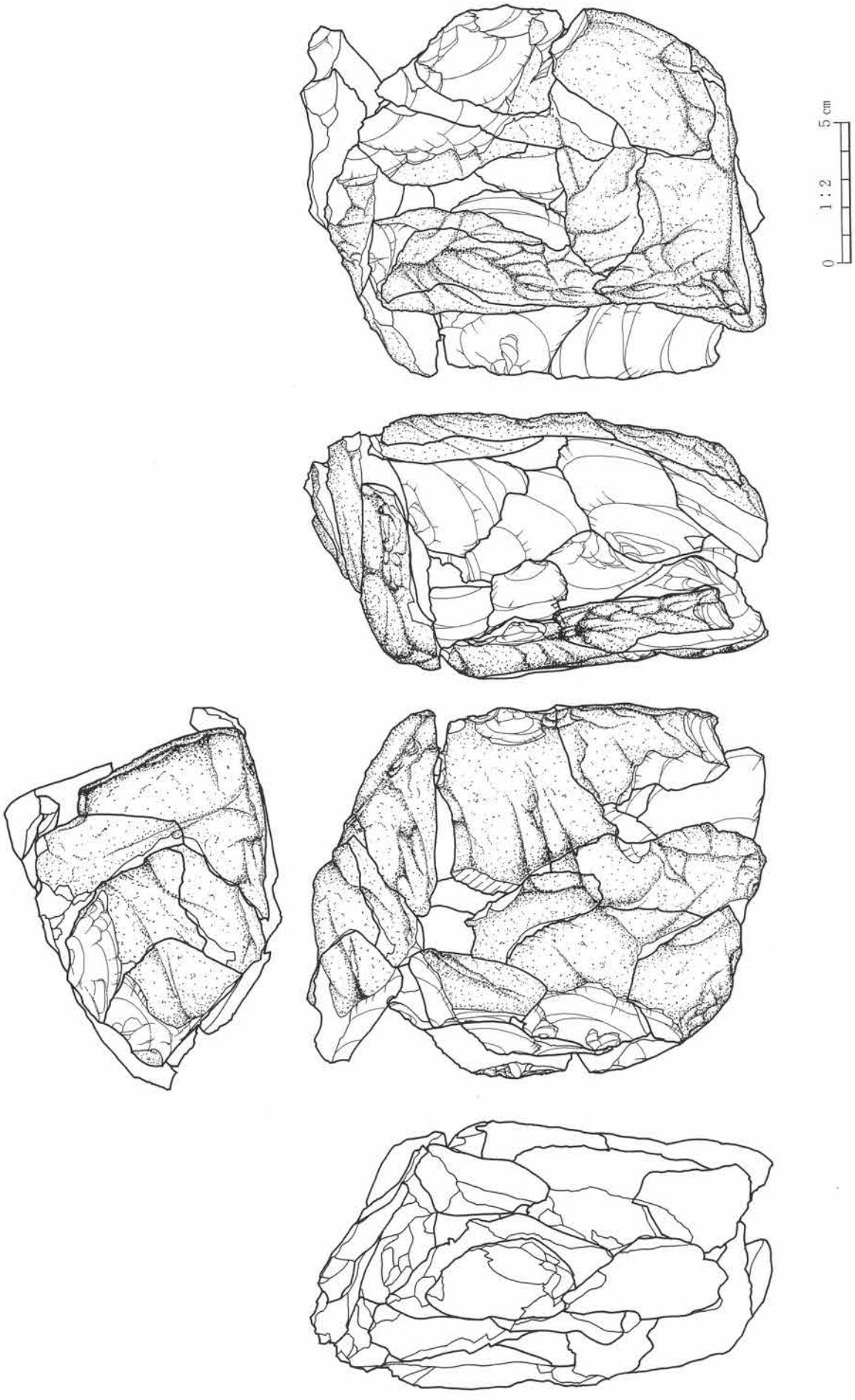


68(B1－473)

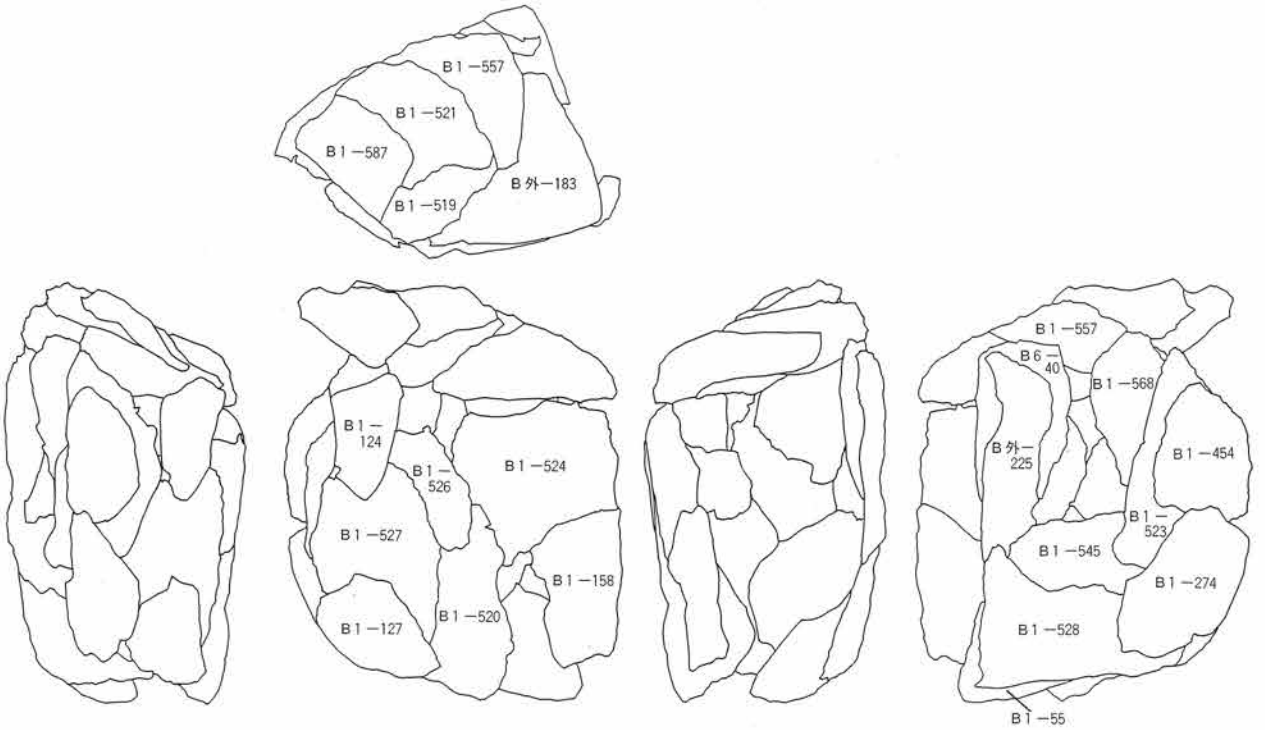
0　1：2　5cm

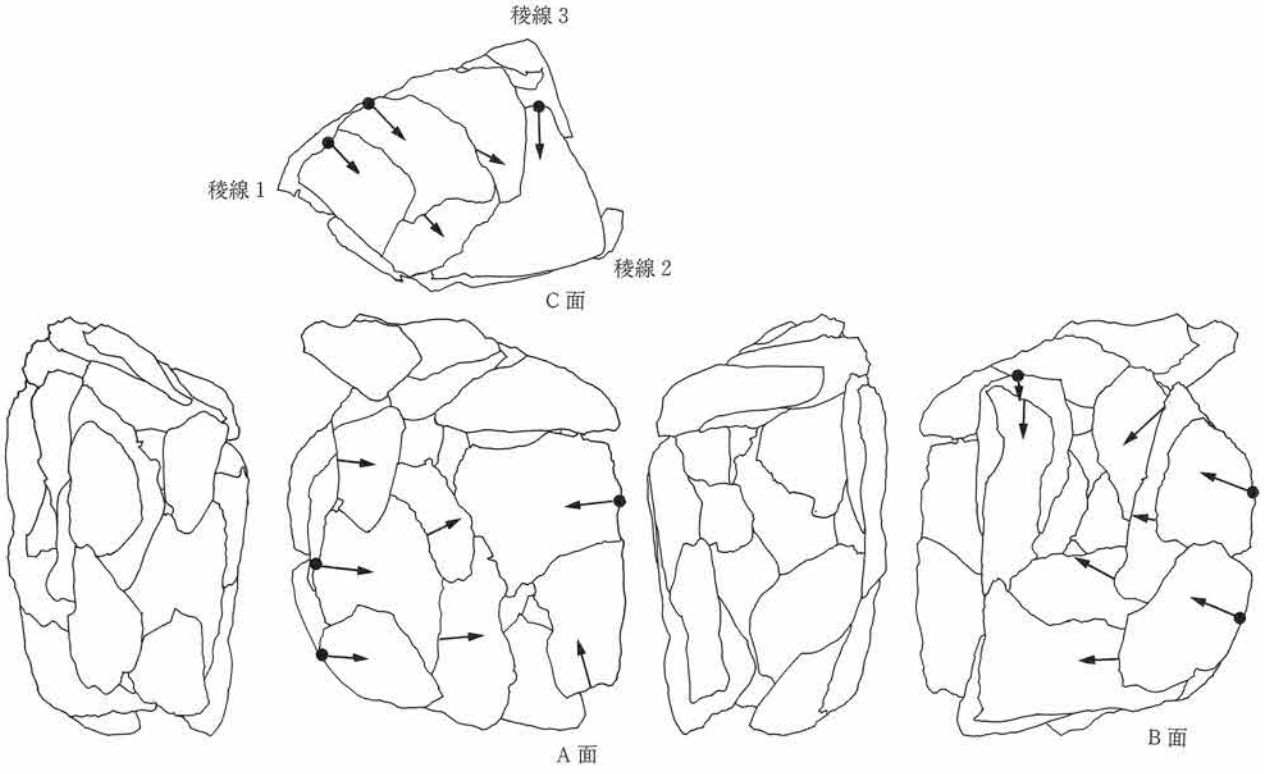
縄文時代草創期接合資料２個体２実測図

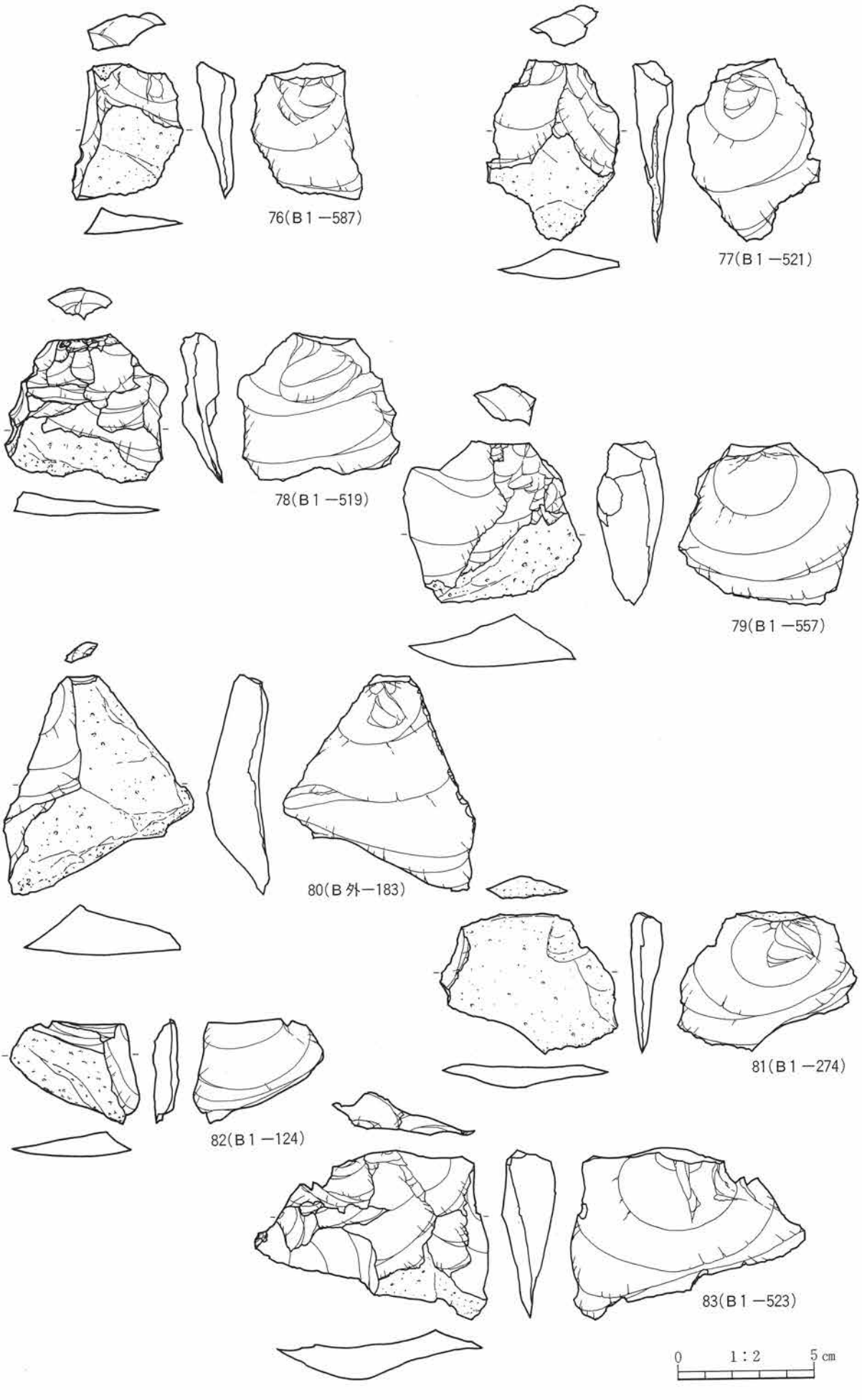


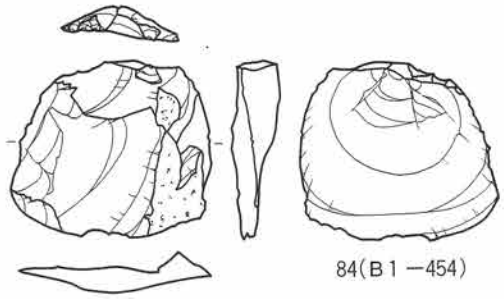

0
1:2
5cm

縄文時代草創期接合資料3模式図

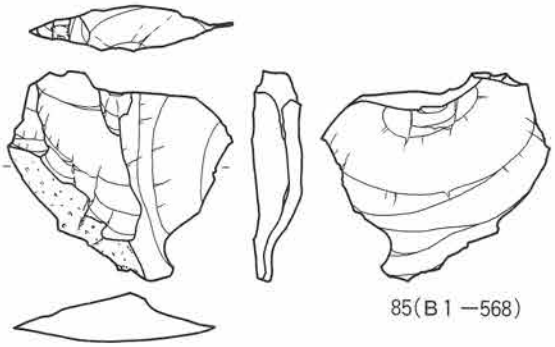




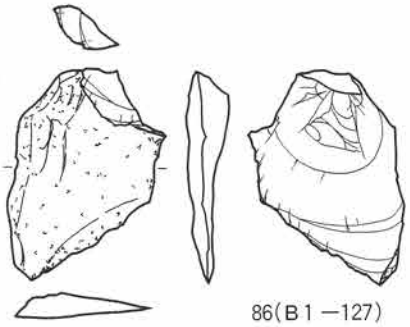

76(B1－587)
77(B1－521)
78(B1－519)
79(B1－557)
80(B外－183)
81(B1－274)
82(B1－124)
83(B1－523)
0　1：2　5cm



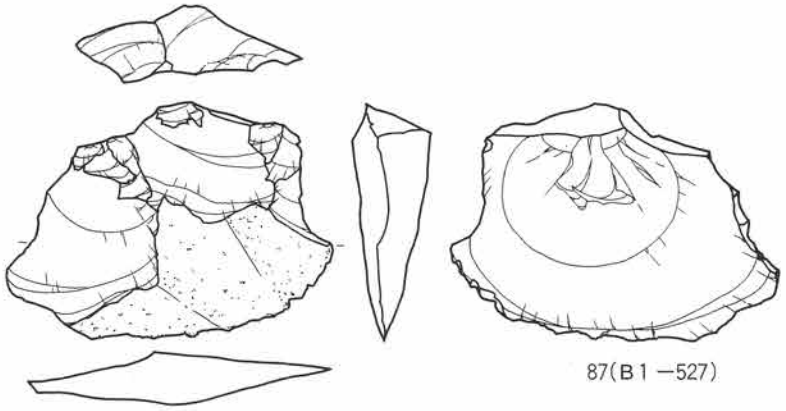
84(B1－454)



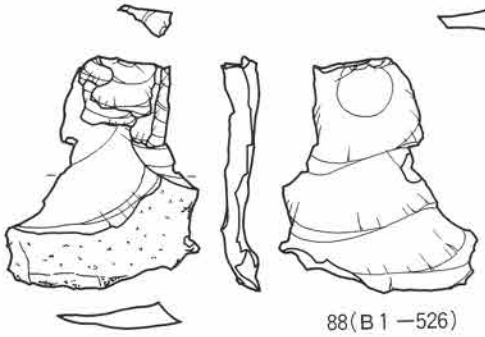
85(B1－568)



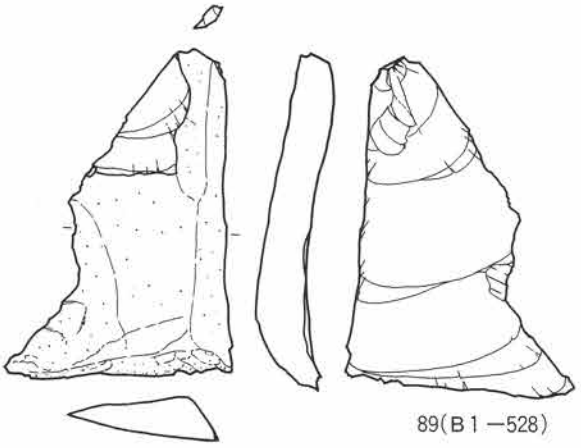
86(B1－127)



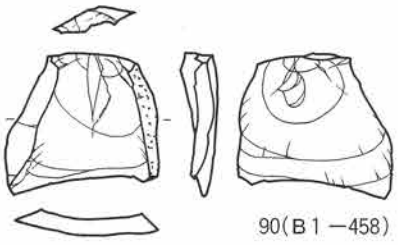
87(B1－527)



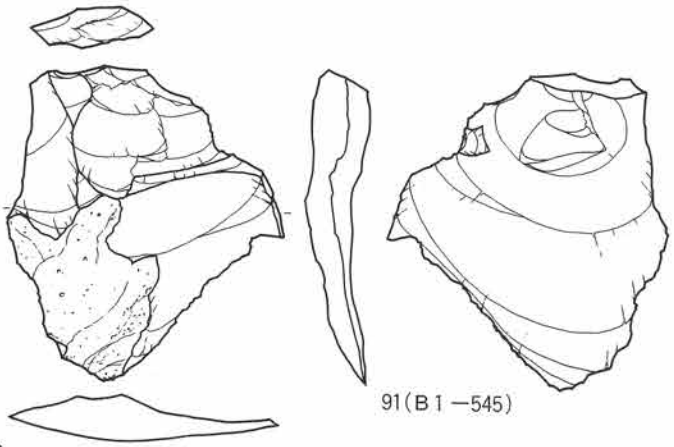
88(B1－526)



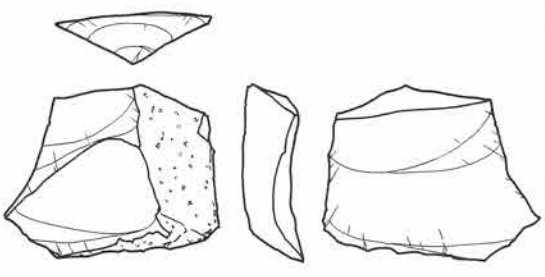
89(B1－528)



90(B1－458)

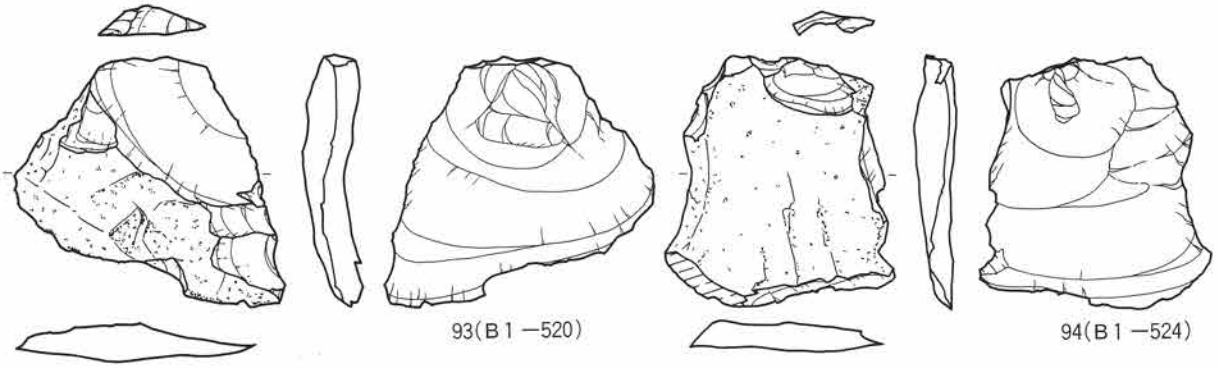


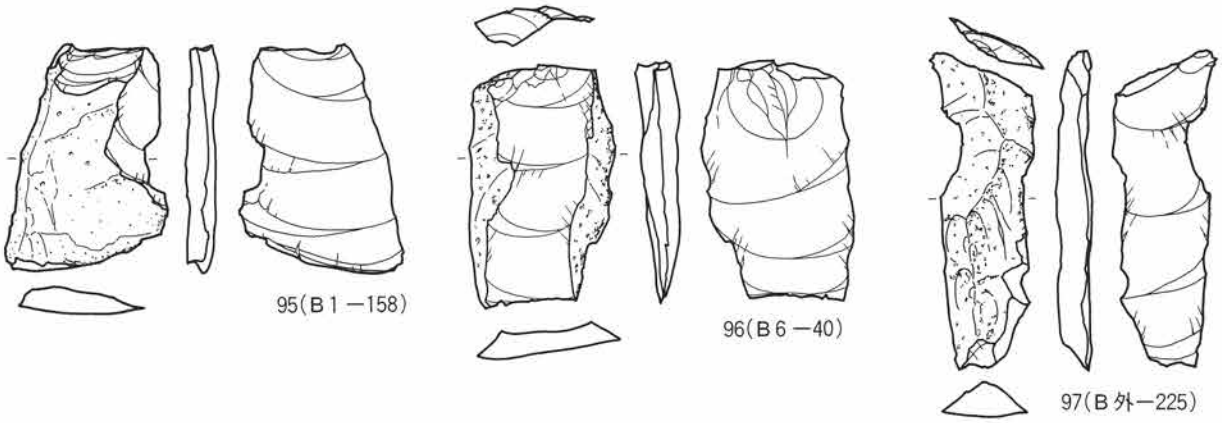
91(B1－545)

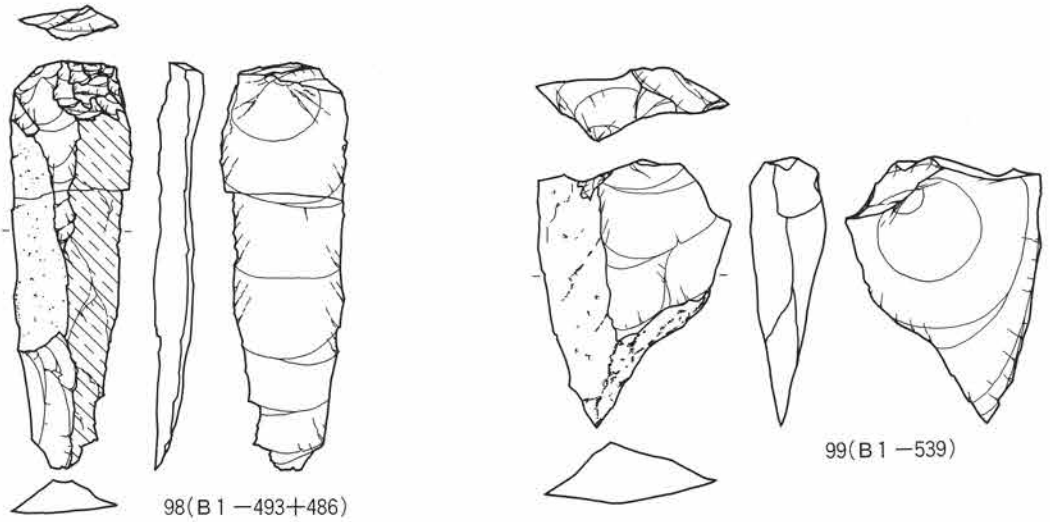


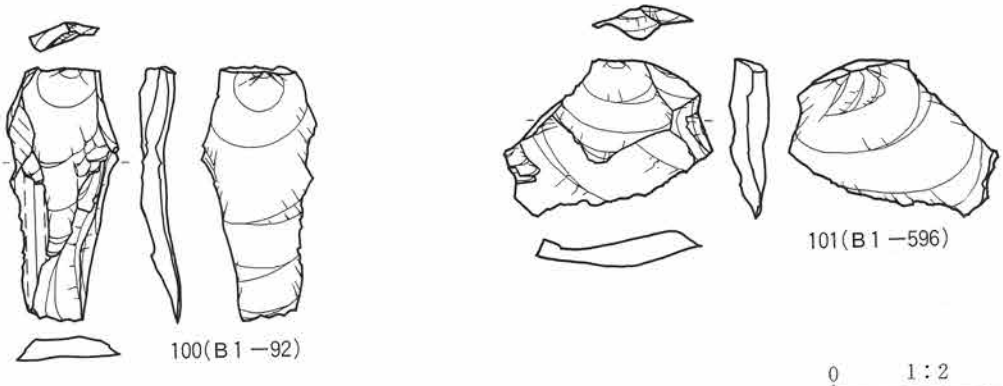
92(B1－55)

0 1：2 5cm

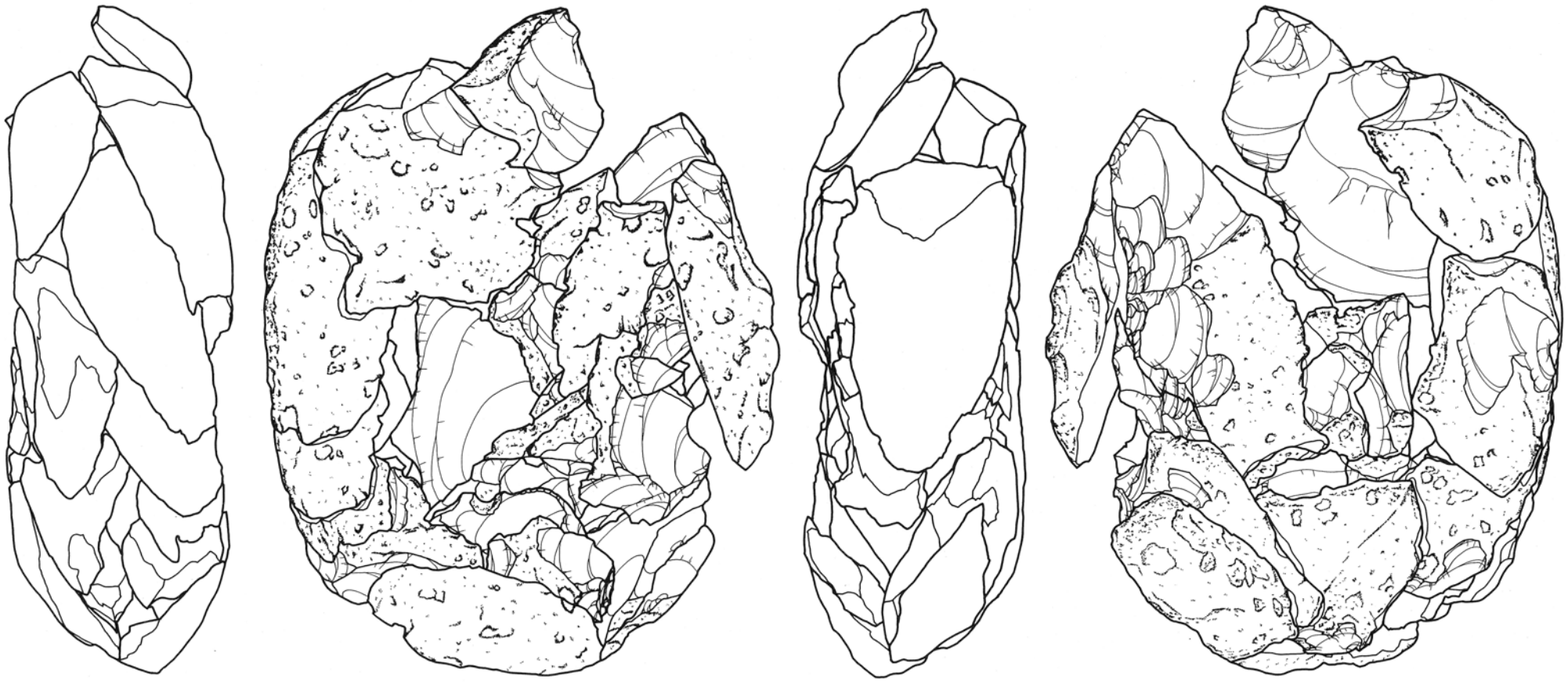

93(B1－520)　94(B1－524)

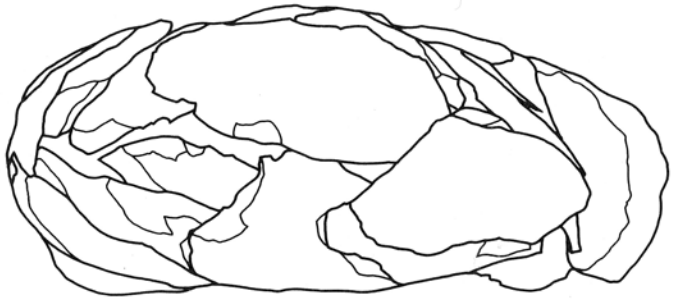

95(B1－158)　96(B6－40)　97(B外－225)


98(B1－493＋486)　99(B1－539)

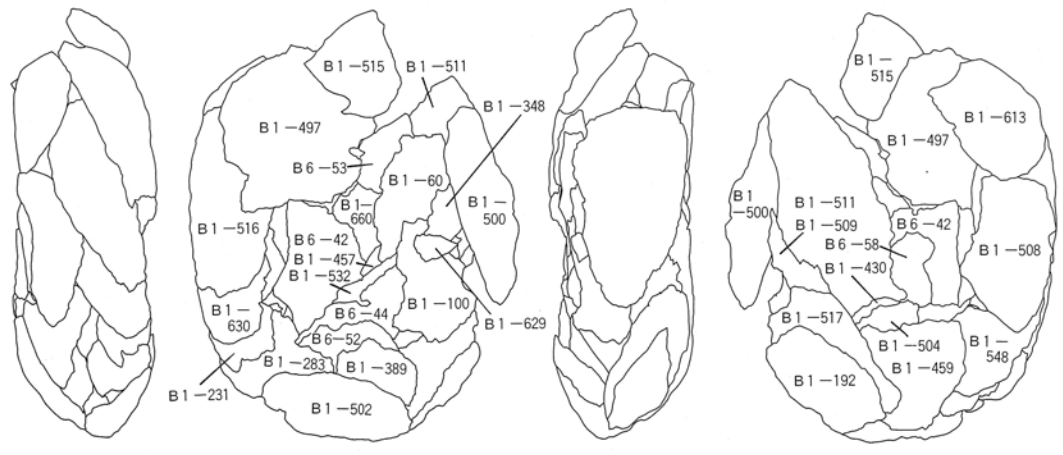

100(B1－92)　101(B1－596)

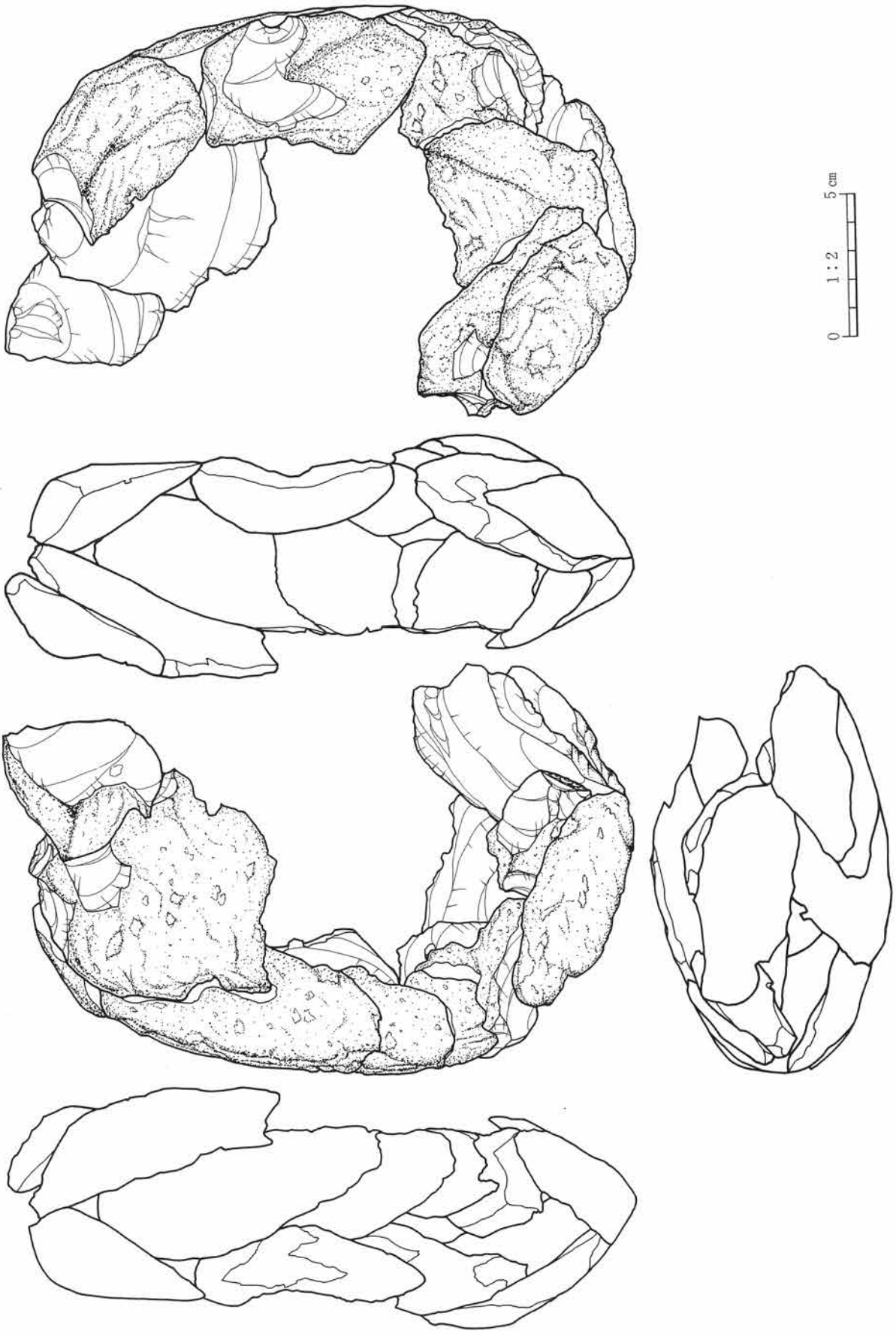
0　1：2　5 cm



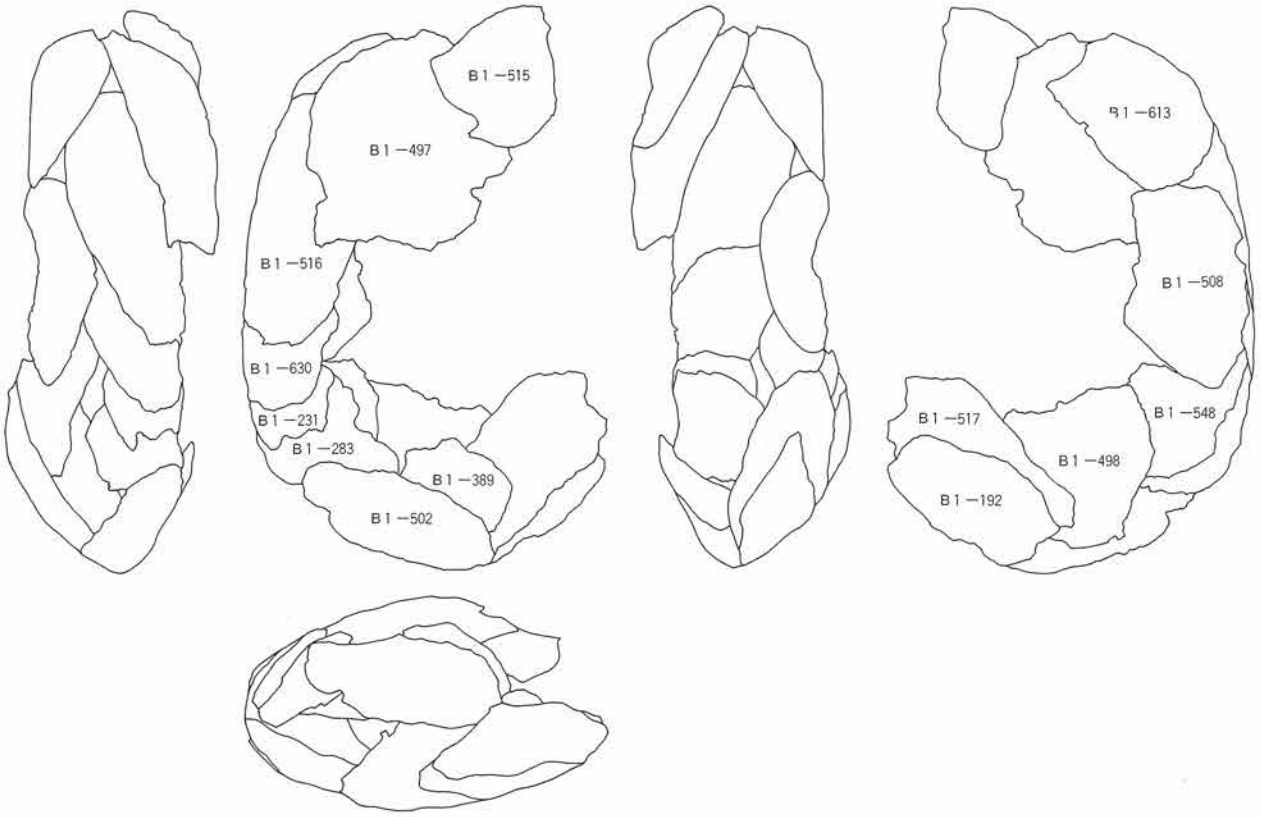


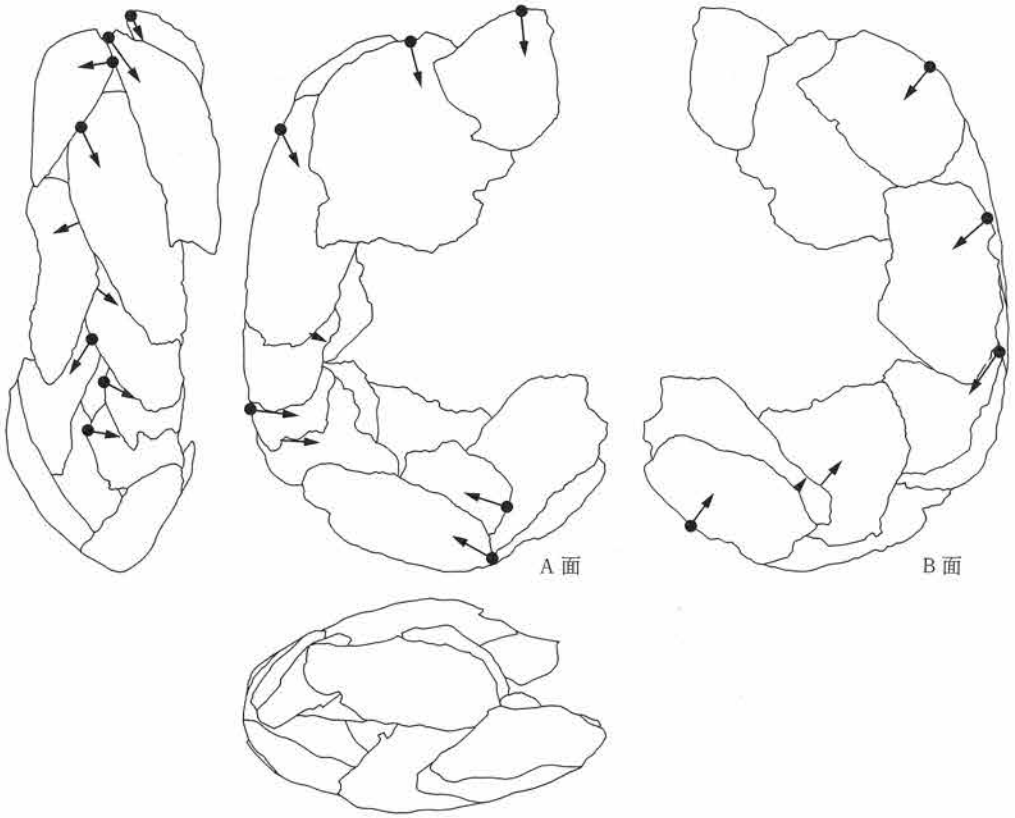
0 1：2 5 cm

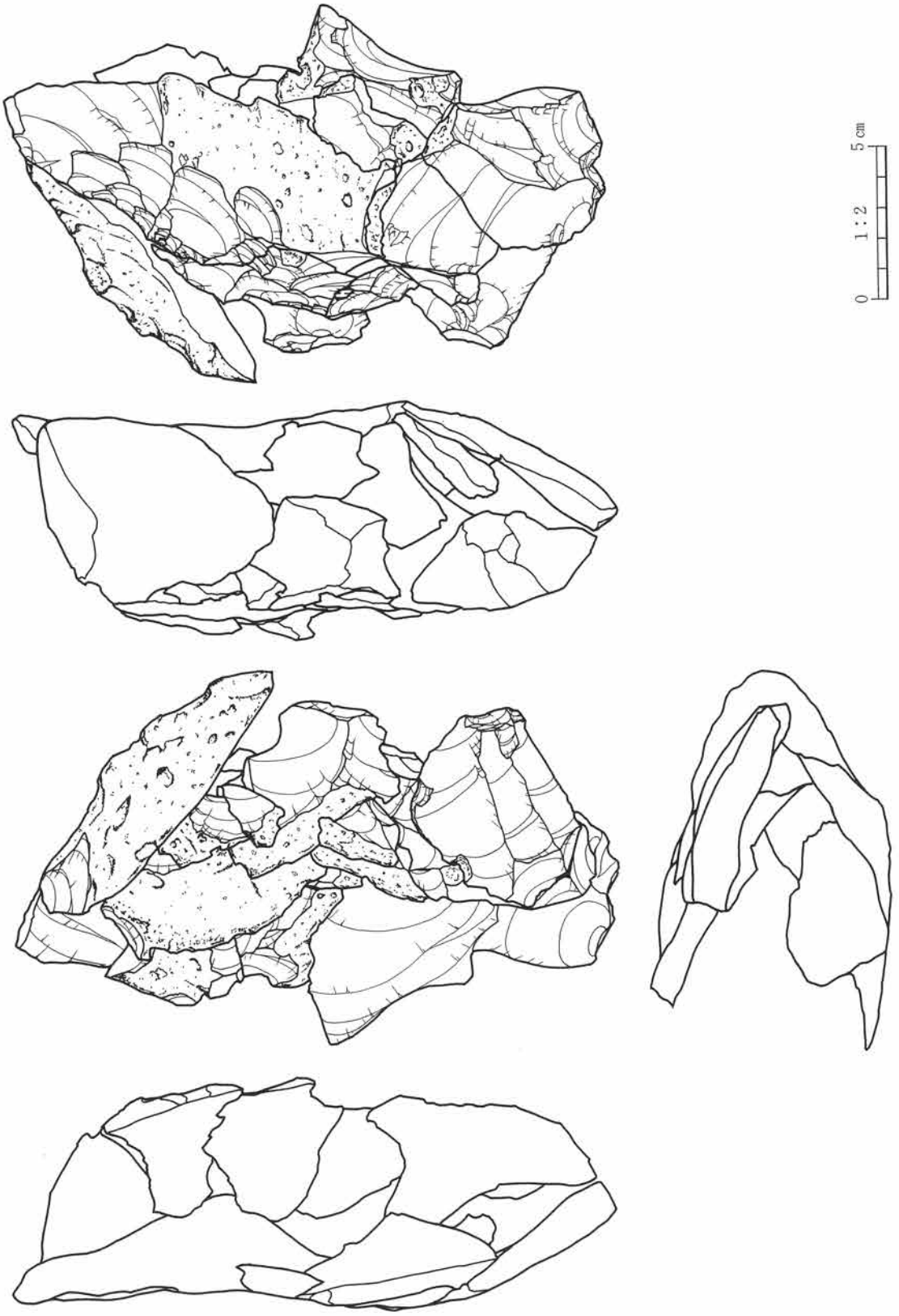

B 1 −515
B 1 −511
B 1 −348
B 1 −497
B 6 −53
B 1 −60
B 1 −660
B 1 −500
B 1 −516
B 6 −42
B 1 −457
B 1 −532
B 1 −630
B 6 −44
B 1 −100
B 1 −629
B 6 −52
B 1 −283
B 1 −389
B 1 −231
B 1 −502
B 1 −515
B 1 −613
B 1 −497
B 1 −500
B 1 −511
B 1 −509
B 6 −42
B 6 −58
B 1 −508
B 1 −430
B 1 −517
B 1 −504
B 1 −548
B 1 −459
B 1 −192


0
1:2
5cm

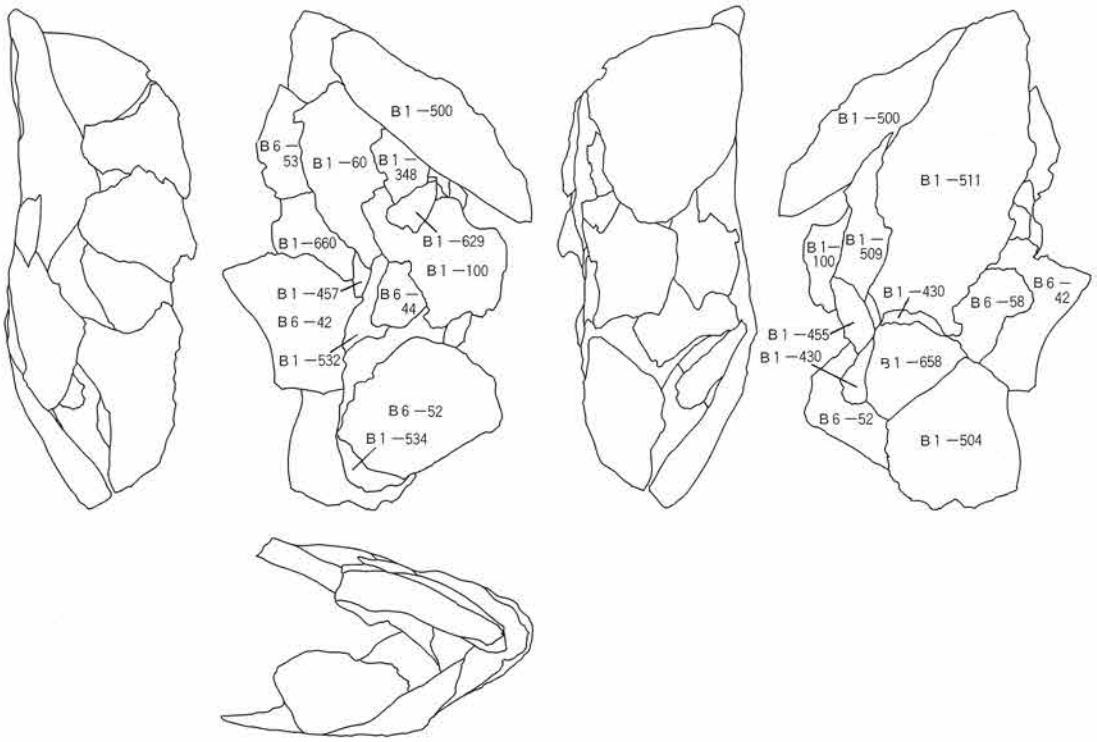
縄文時代草創期接合資料４（その１）模式図

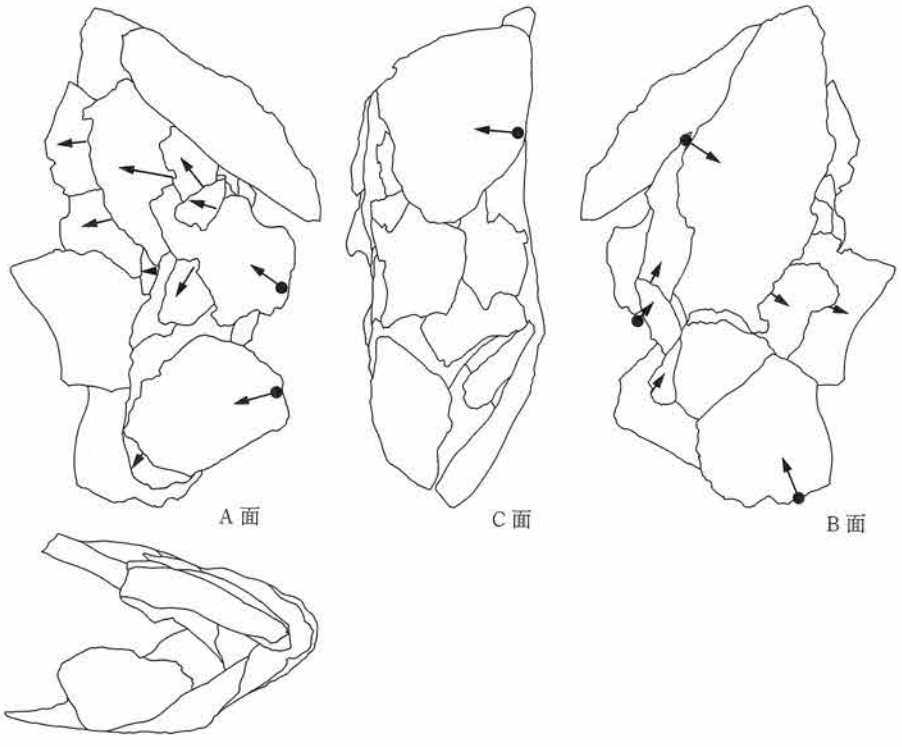


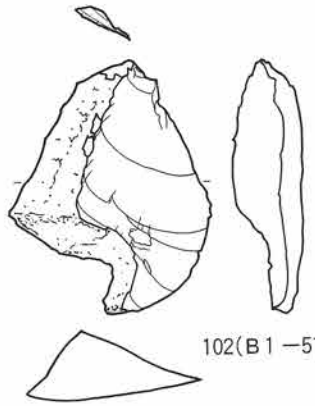



0
1:2
5cm

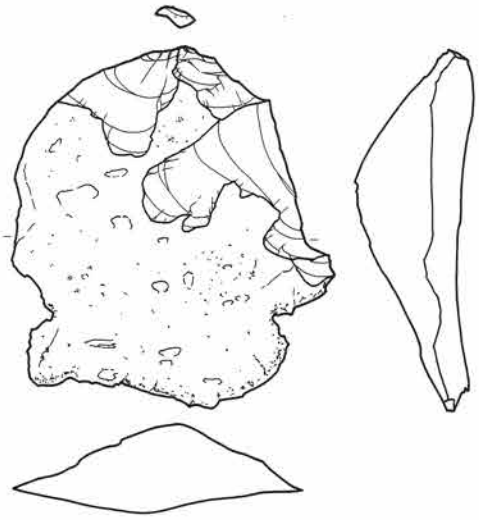
縄文時代草創期接合資料4（その2）模式図



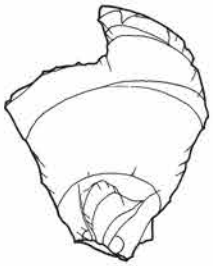


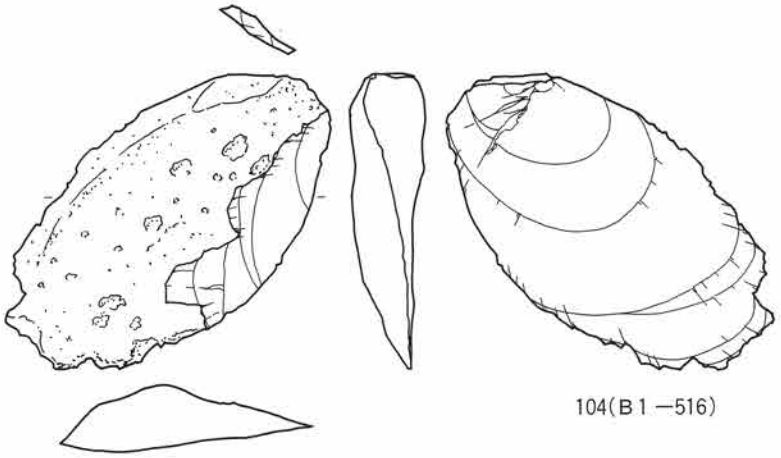


102(B1－515)

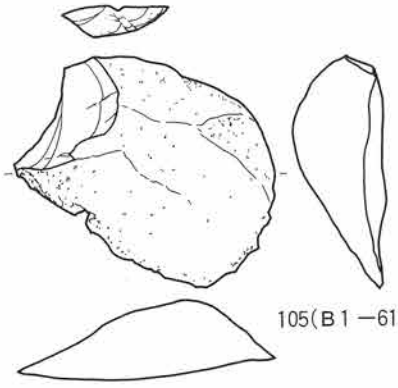


103(B1－497)

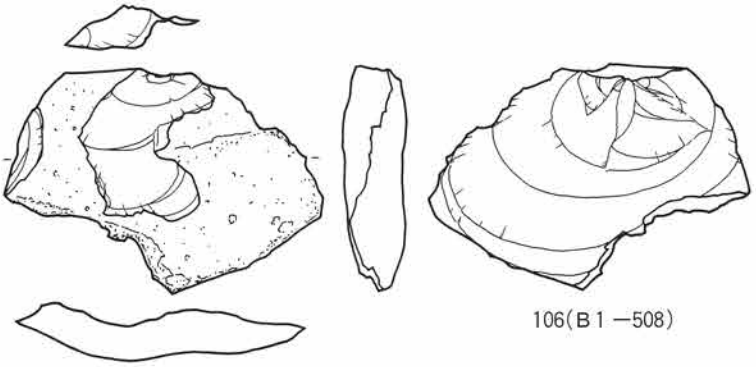




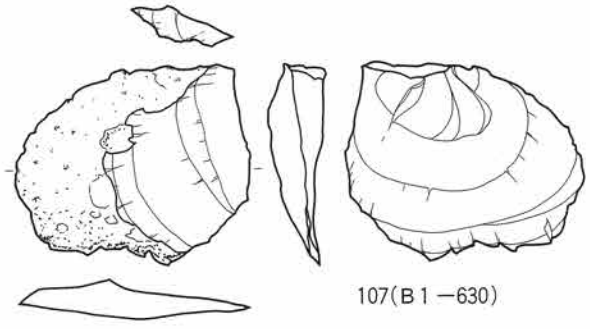
104(B1－516)



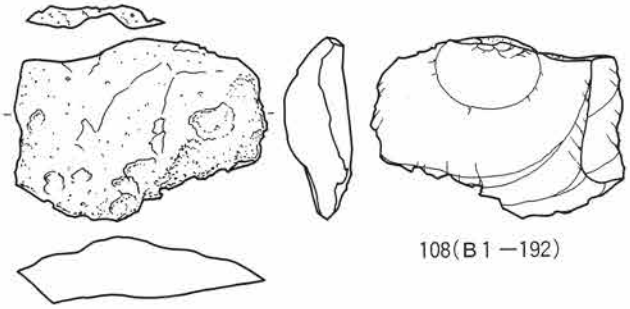
105(B1－613)



106(B1－508)

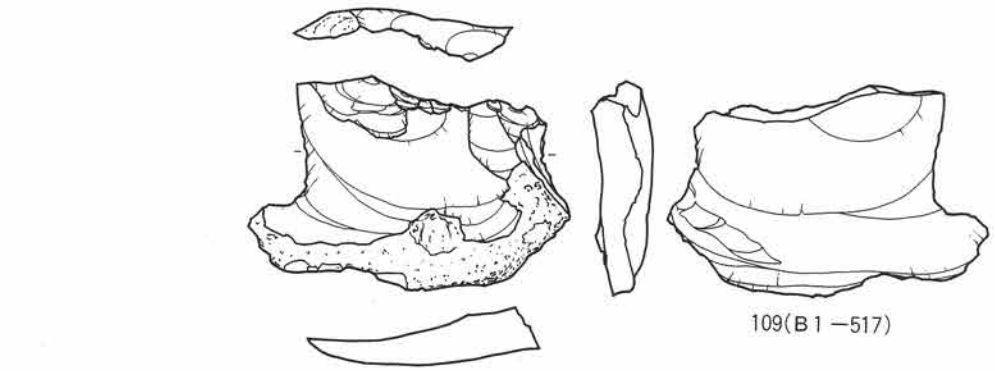


107(B1－630)

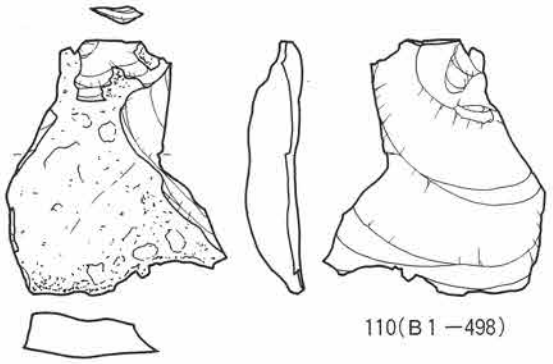


108(B1－192)

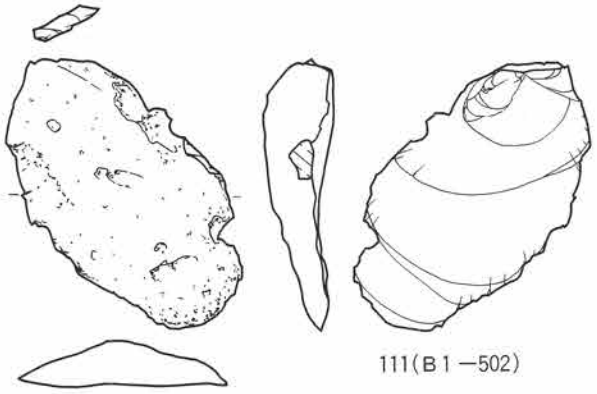
0　1：2　5 cm



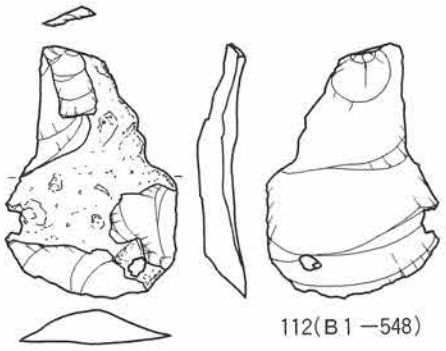
109(B1－517)



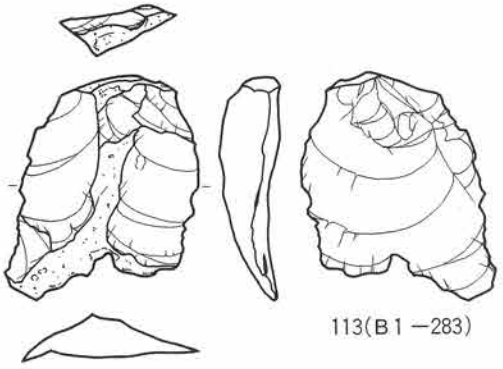
110(B1－498)



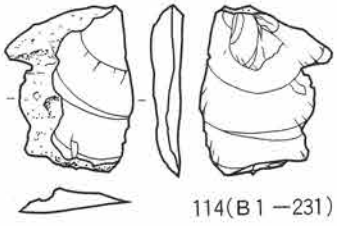
111(B1－502)



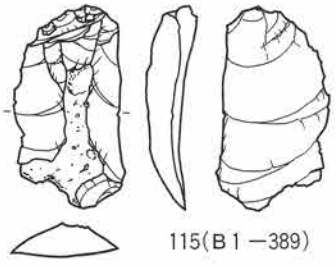
112(B1－548)



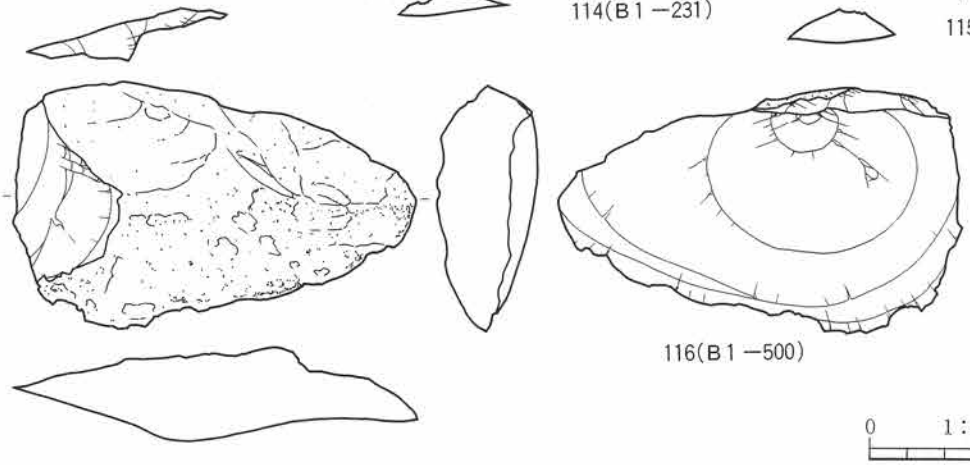
113(B1－283)



114(B1－231)

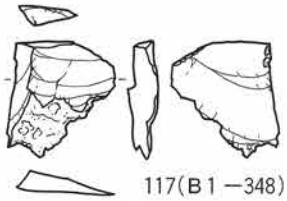


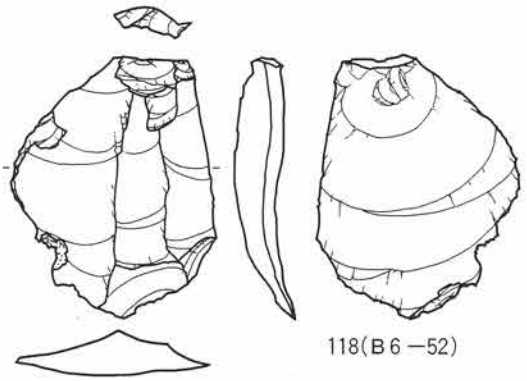
115(B1－389)

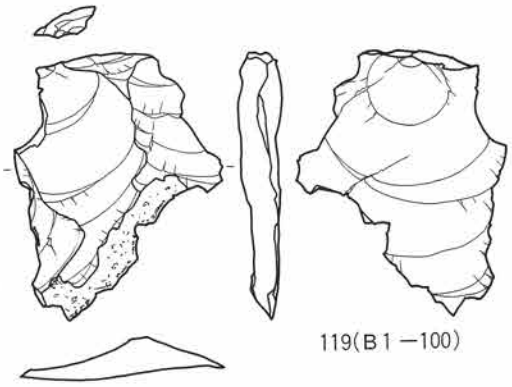


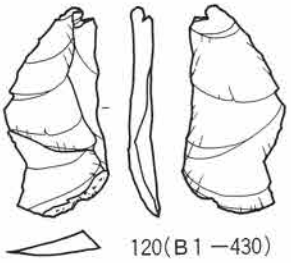
116(B1－500)

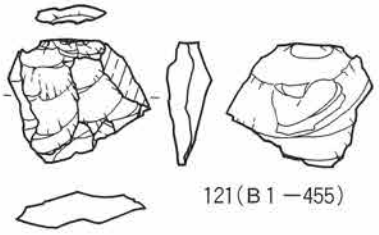
0　1：2　5cm

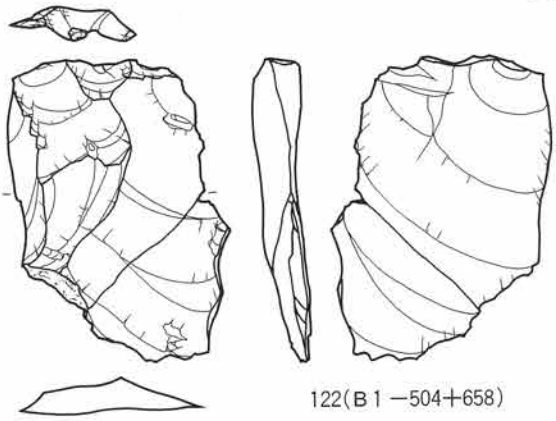

117(B1－348)

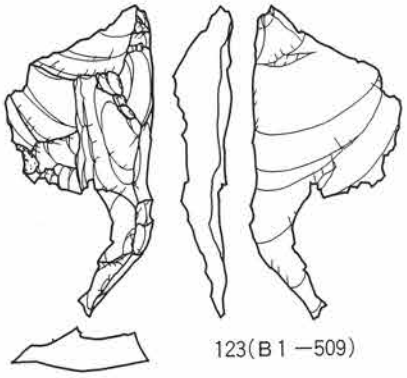

118(B6－52)

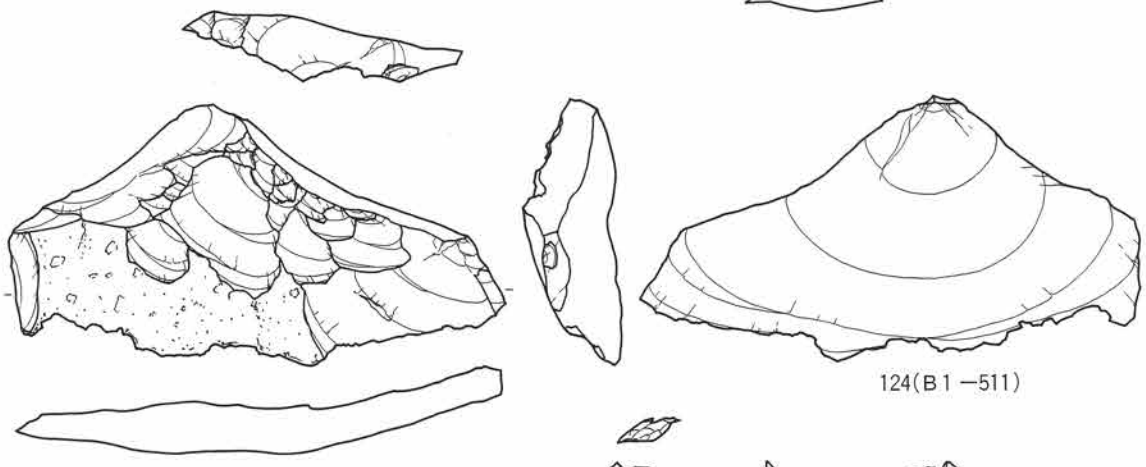

119(B1－100)

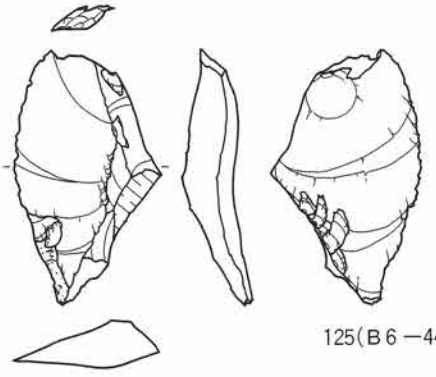

120(B1－430)


121(B1－455)

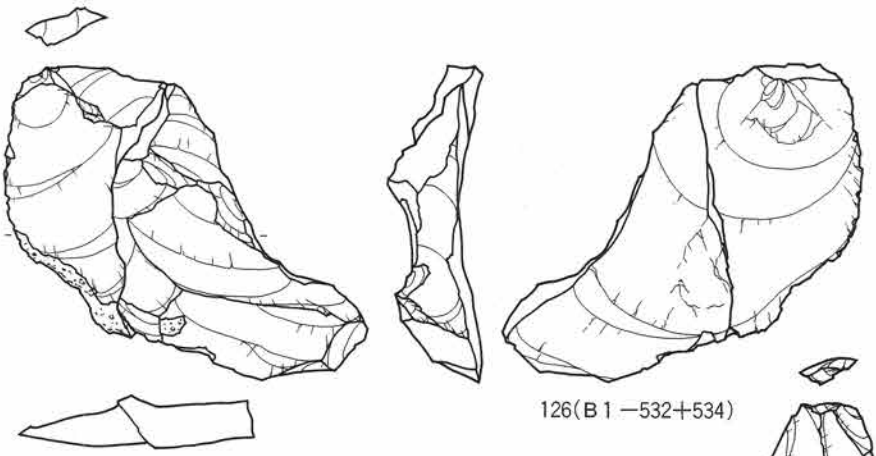

122(B1－504+658)


123(B1－509)

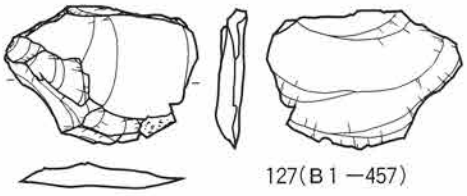

124(B1－511)


125(B6－44)

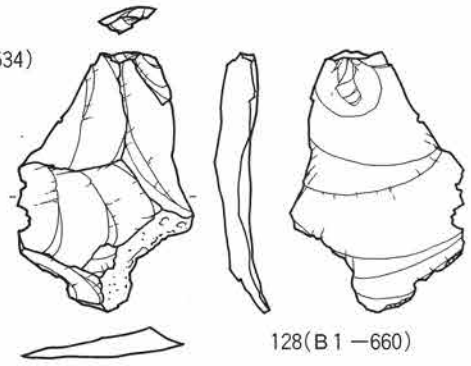
0　1：2　5 cm



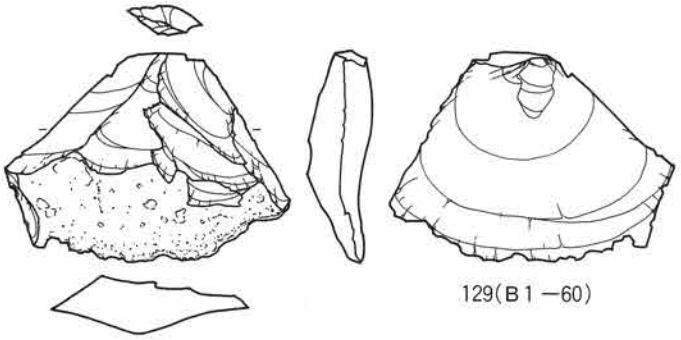
126(B1－532+534)



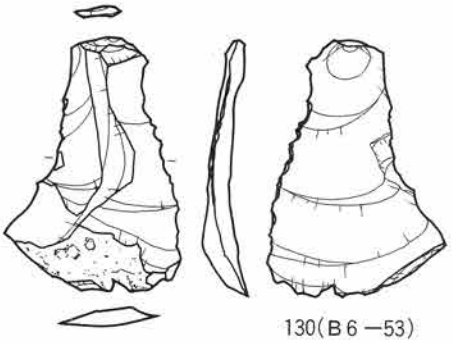
127(B1－457)



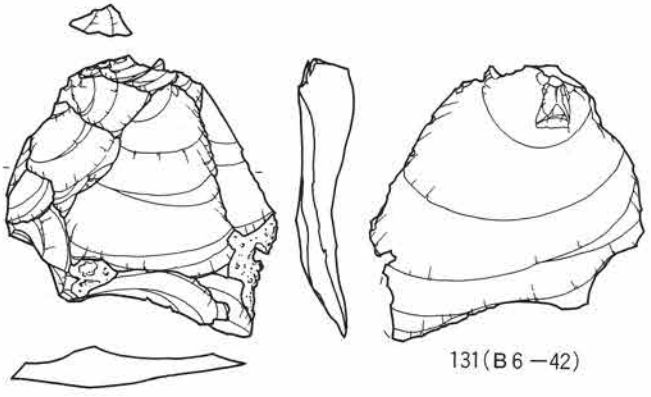
128(B1－660)



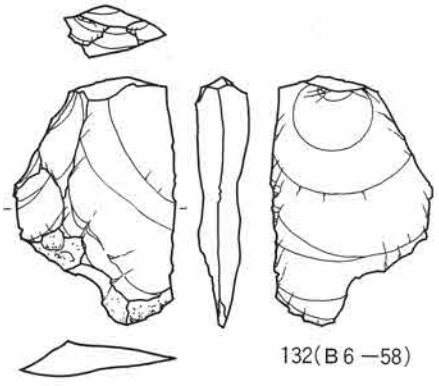
129(B1－60)



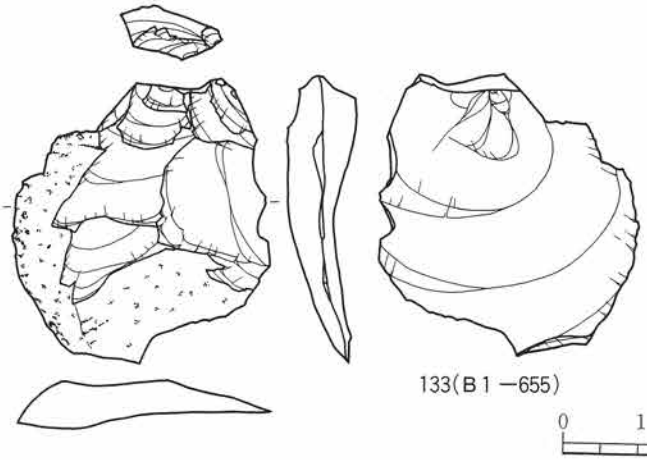
130(B6－53)



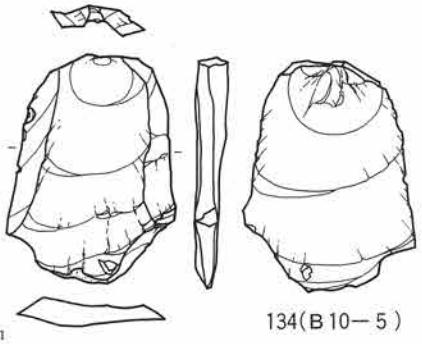
131(B6－42)



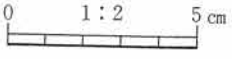
132(B6－58)

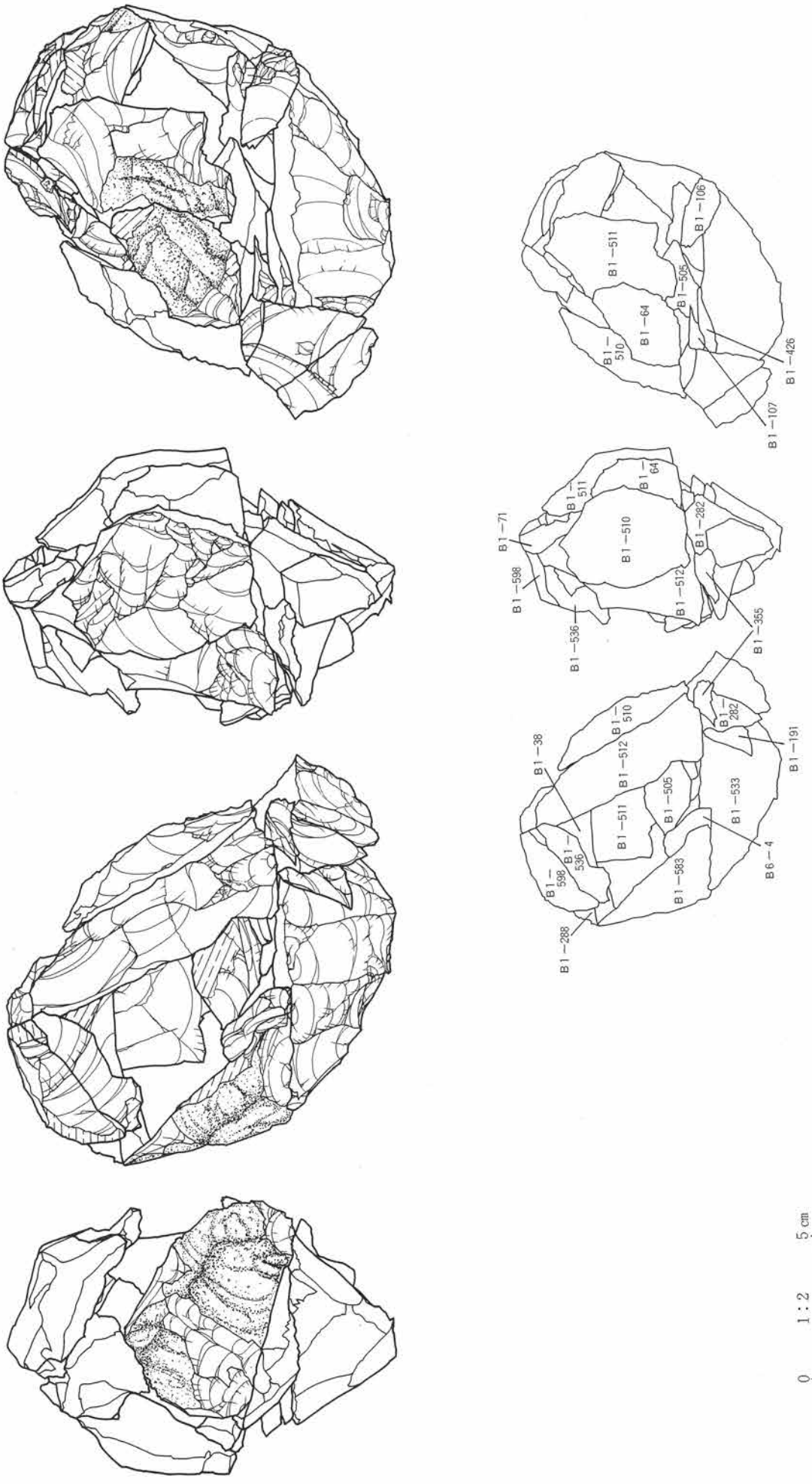


133(B1－655)

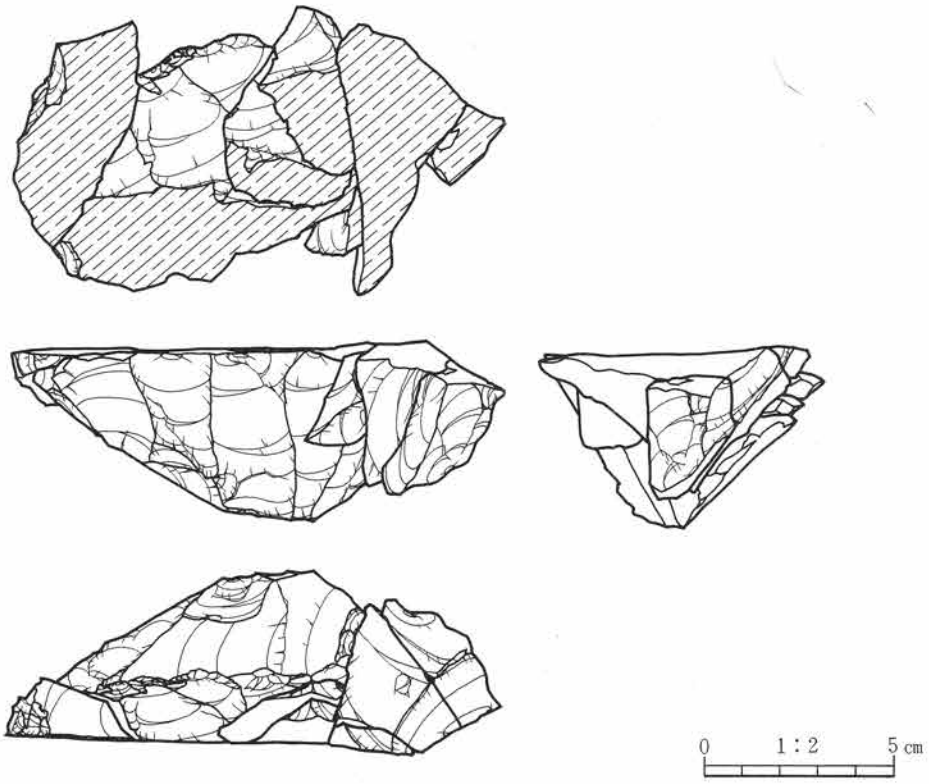


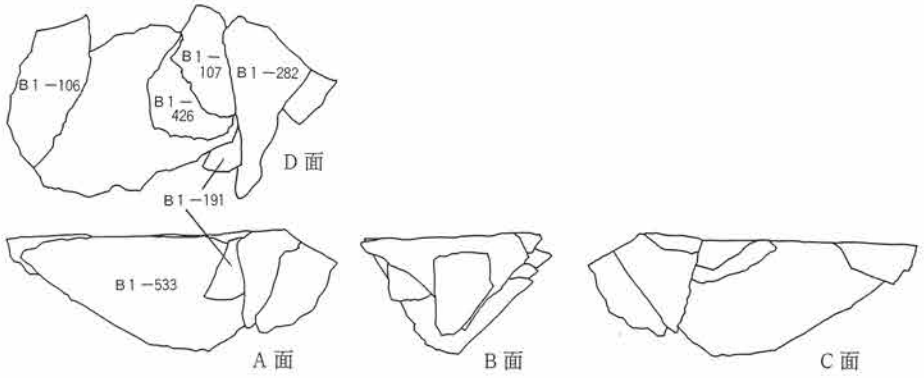
134(B10－5)

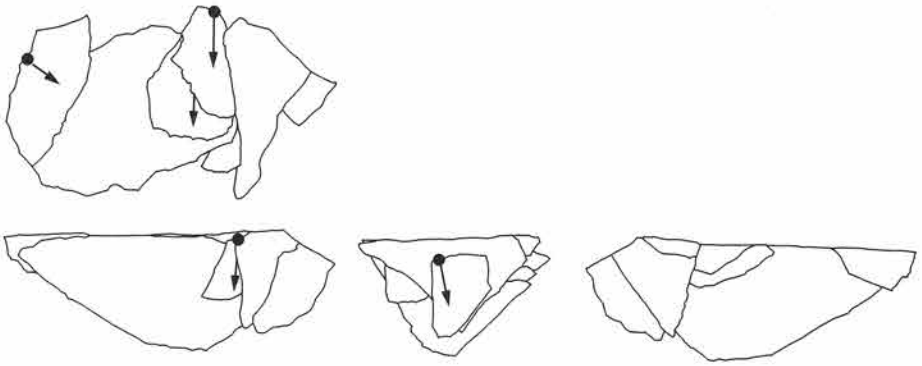


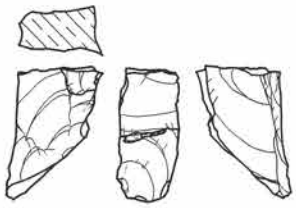

B1−106
B1−511
B1−505
B1−64
B1−510
B1−426
B1−107
B1−71
B1−511
B1−64
B1−510
B1−282
B1−598
B1−512
B1−536
B1−355
B1−38
B1−510
B1−282
B1−512
B1−191
B1−505
B1−533
B1−511
B1−536
B1−598
B1−583
B6−4
B1−288
0
1:2
5cm

縄文時代草創期接合資料５個体１実測図

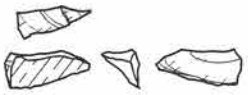




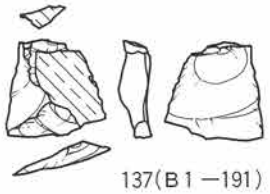




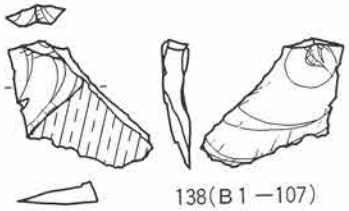
135(B1－不明)



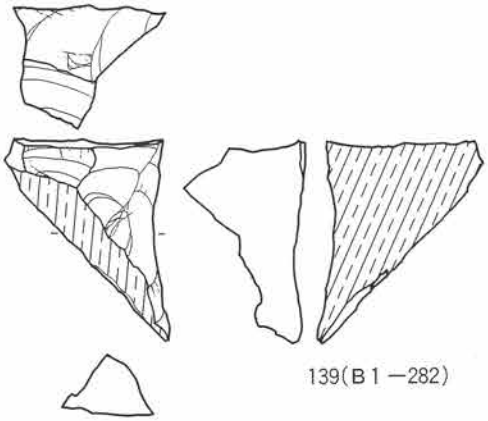
136(B1－248)



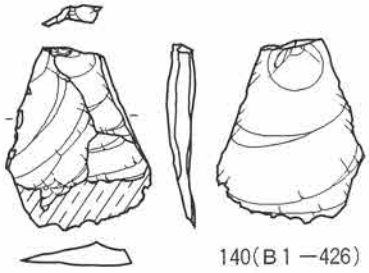
137(B1－191)



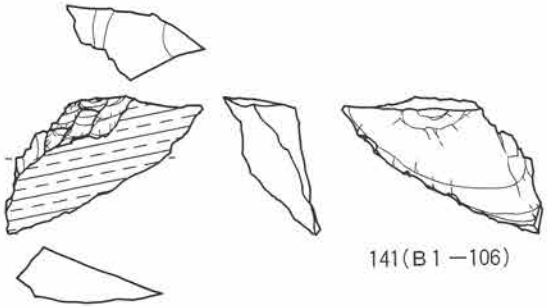
138(B1－107)



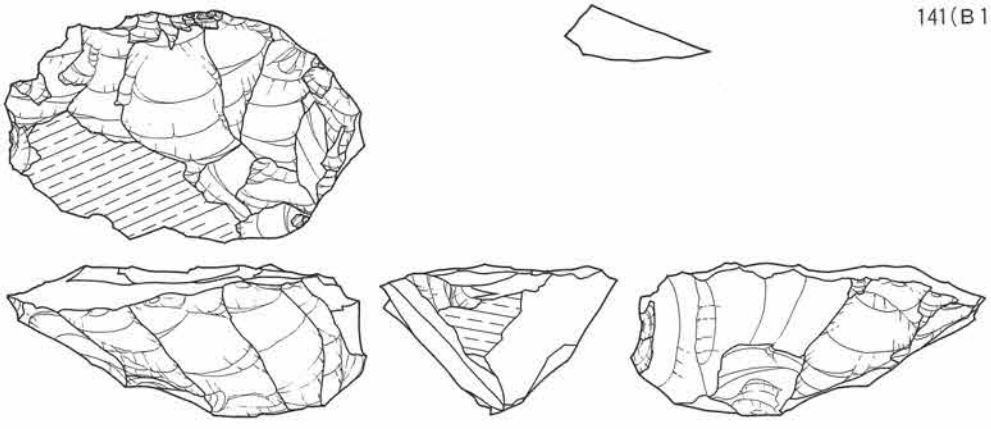
139(B1－282)



140(B1－426)



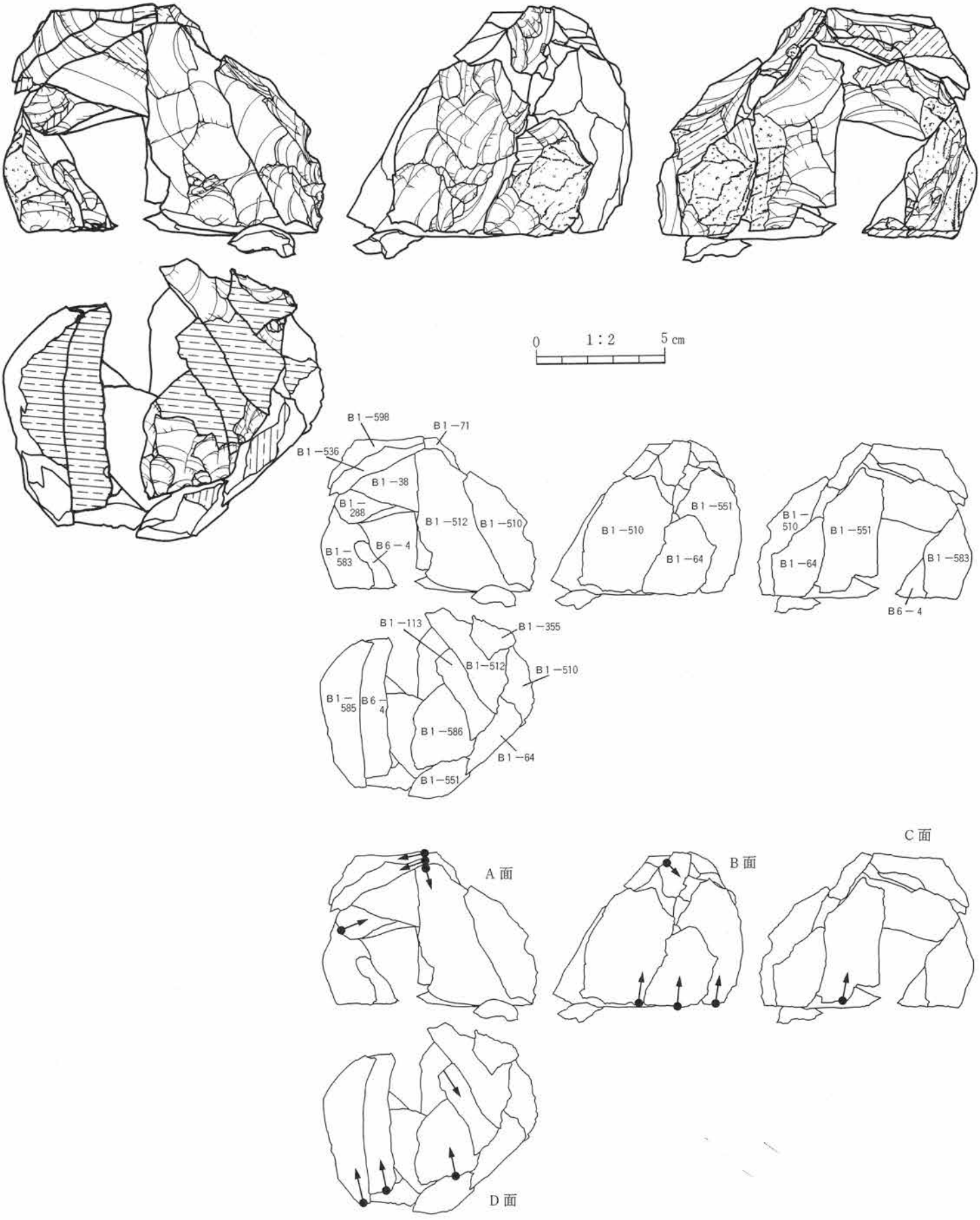
141(B1－106)

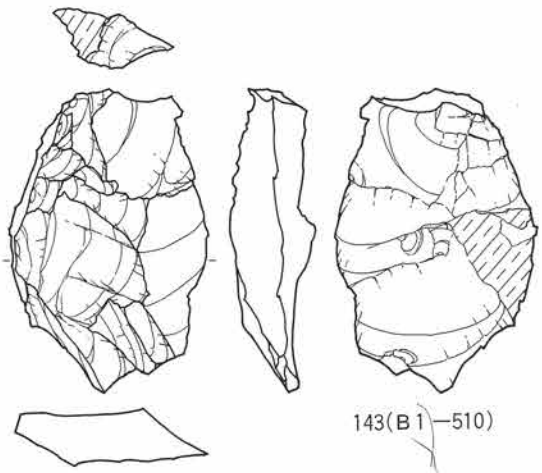


142(B1－533)

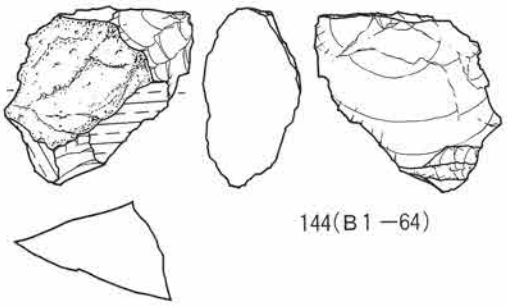
0　1：2　5cm

縄文時代草創期接合資料5個体2実測図

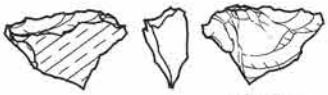




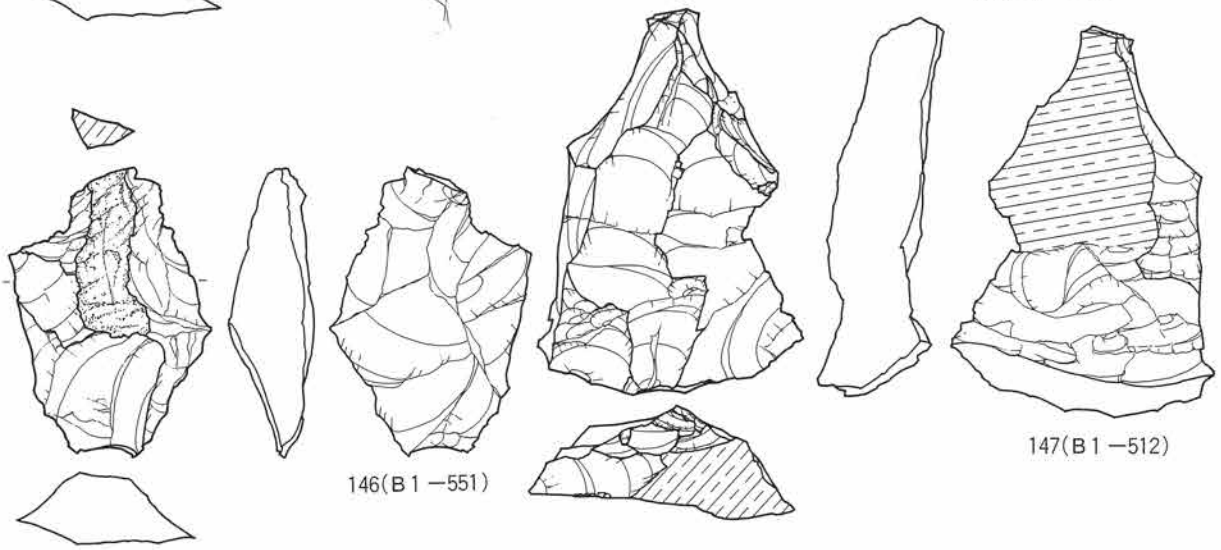
143(B1－510)



144(B1－64)

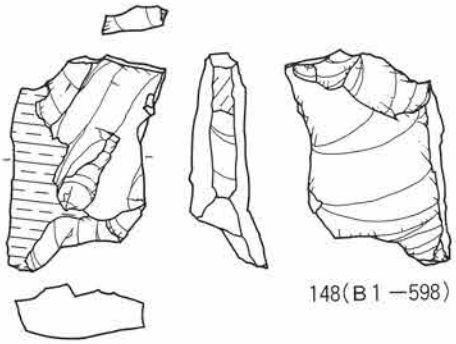


145(B1－355)

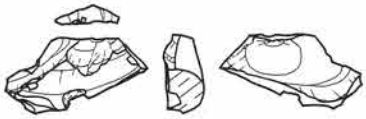


146(B1－551)

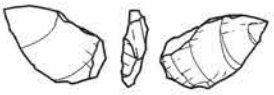
147(B1－512)



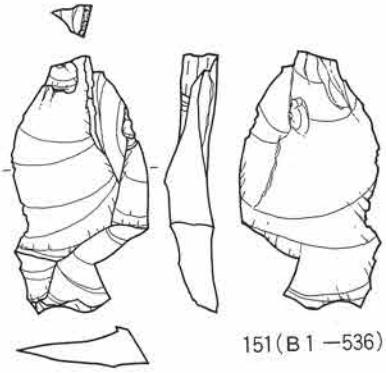
148(B1－598)



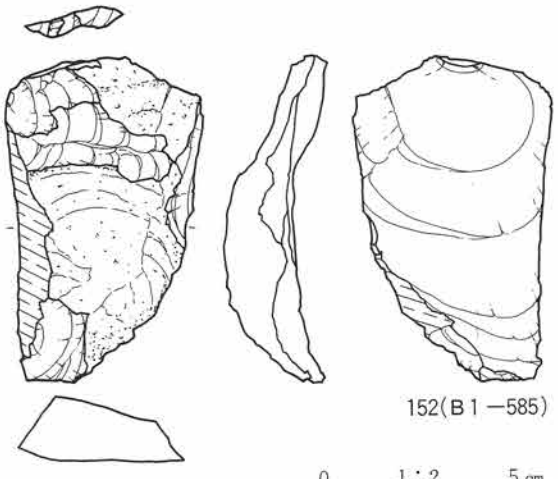
149(B1－71)



150(B1－405)



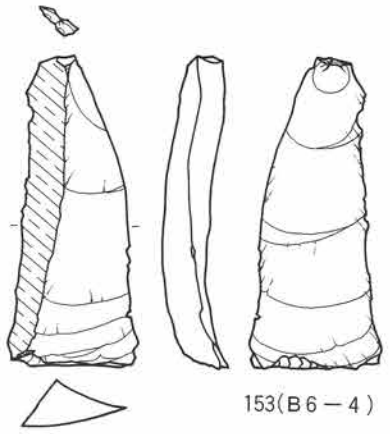
151(B1－536)



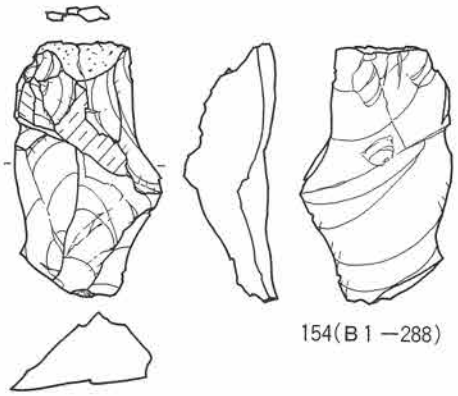
152(B1－585)

0　1：2　5cm

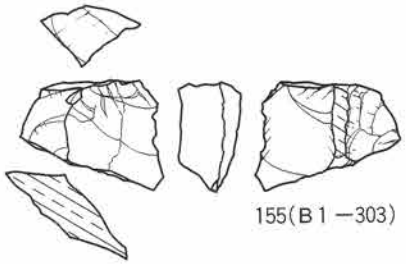
縄文時代草創期接合資料5個体2・接合資料6実測図



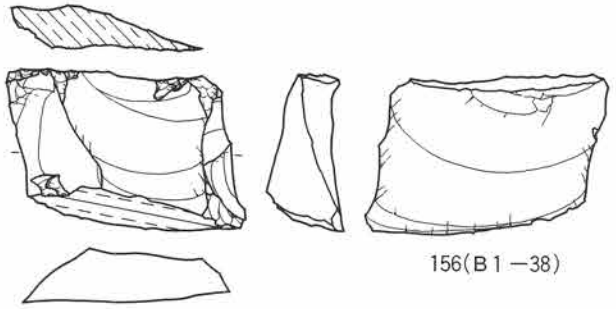
153(B6－4)



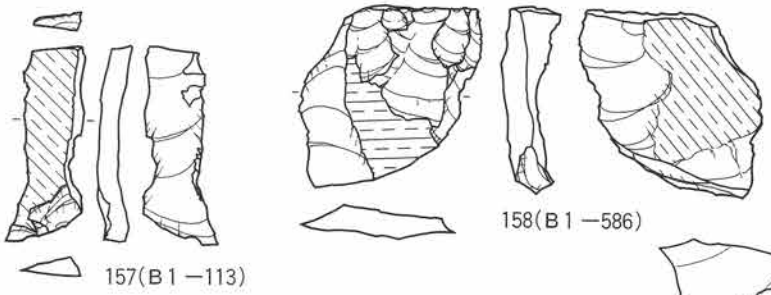
154(B1－288)



155(B1－303)

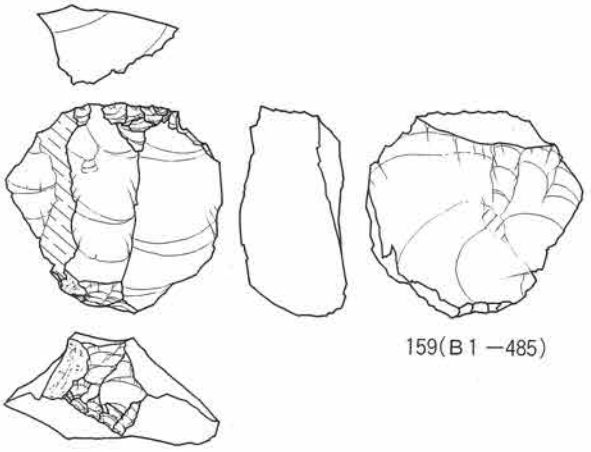


156(B1－38)

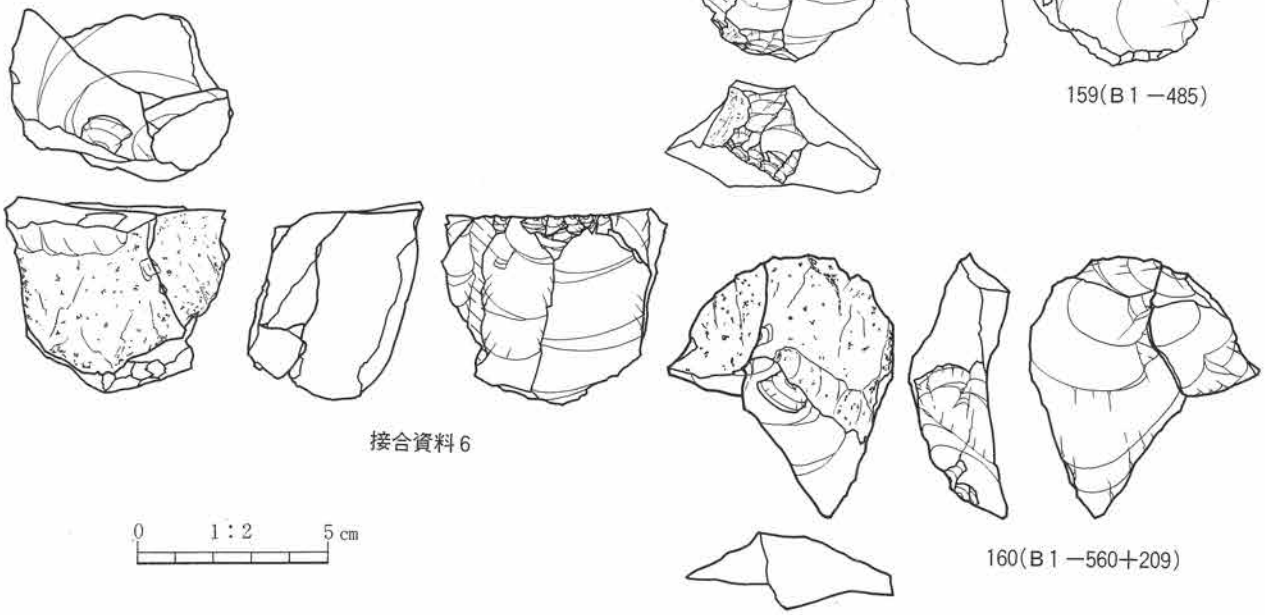


157(B1－113)

158(B1－586)



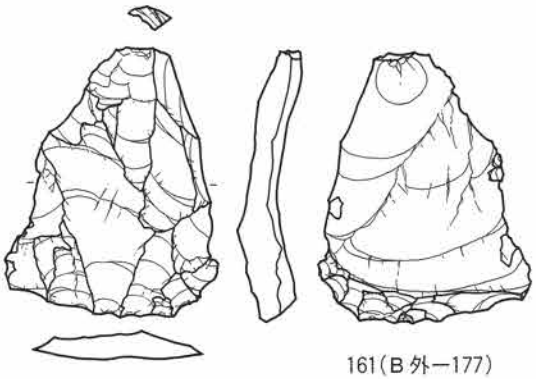
159(B1－485)



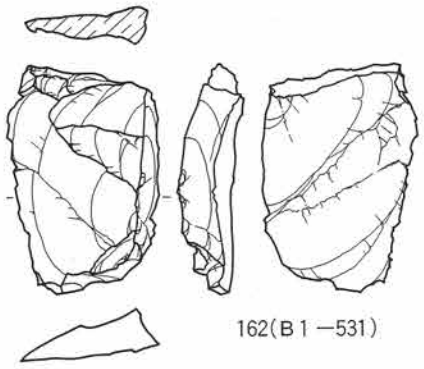
接合資料6

0　1：2　5cm

160(B1－560＋209)

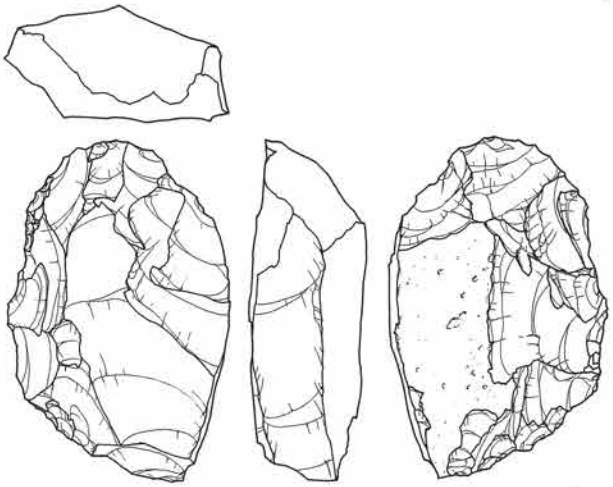


161(B外－177)

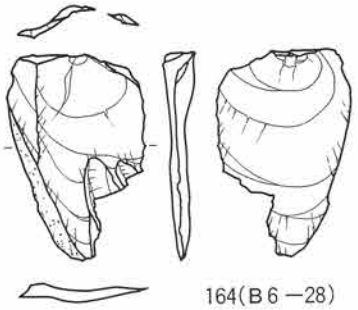


162(B１－531)

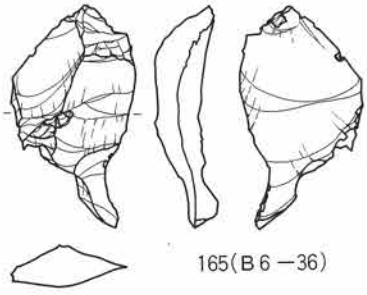
母岩５



163(B６－34)

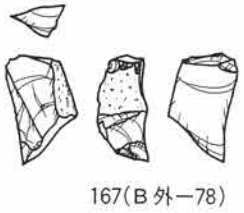


164(B６－28)

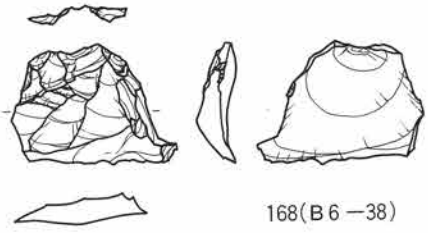


165(B６－36)

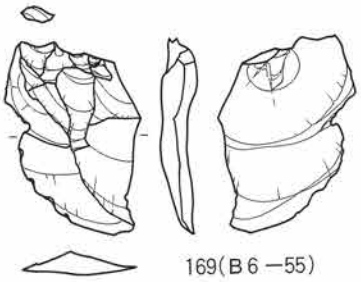
166(B６－９)



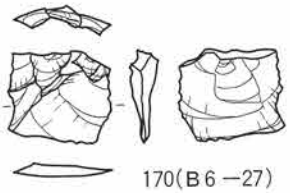
167(B外－78)



168(B６－38)

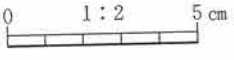


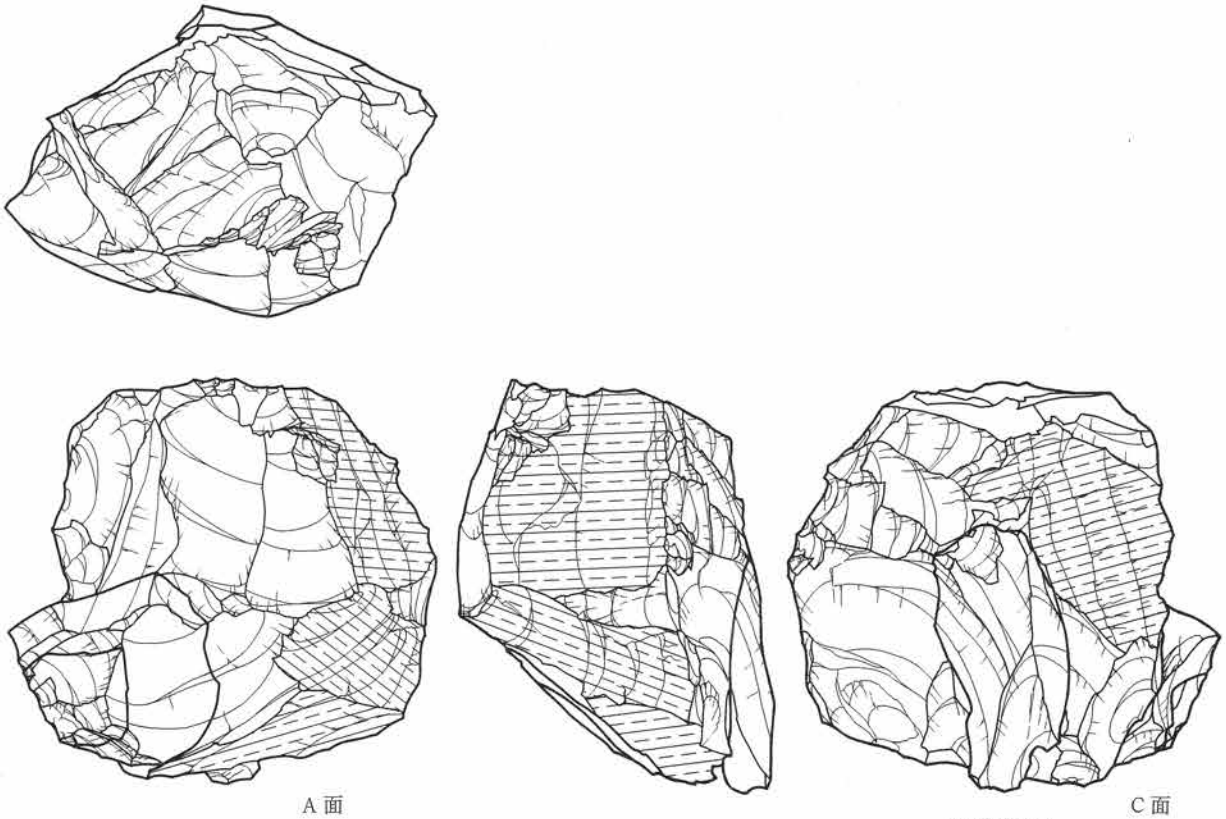
169(B６－55)



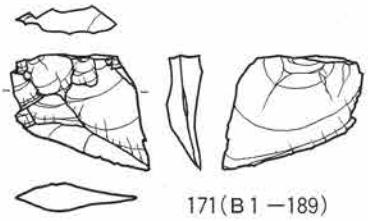
170(B６－27)

母岩６

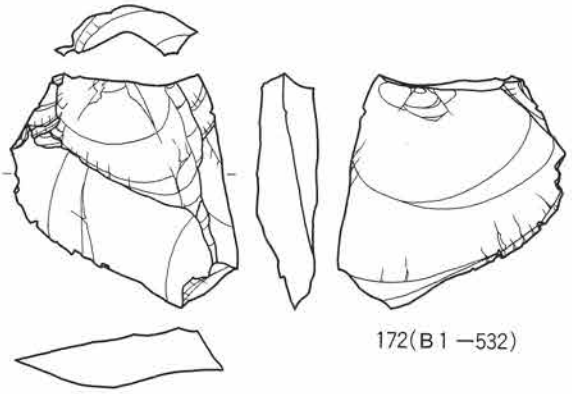




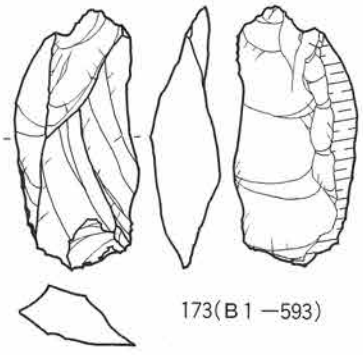
接合資料７



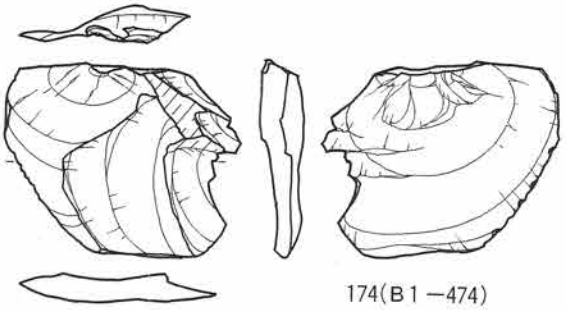
171(B１－189)



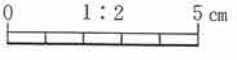
172(B１－532)

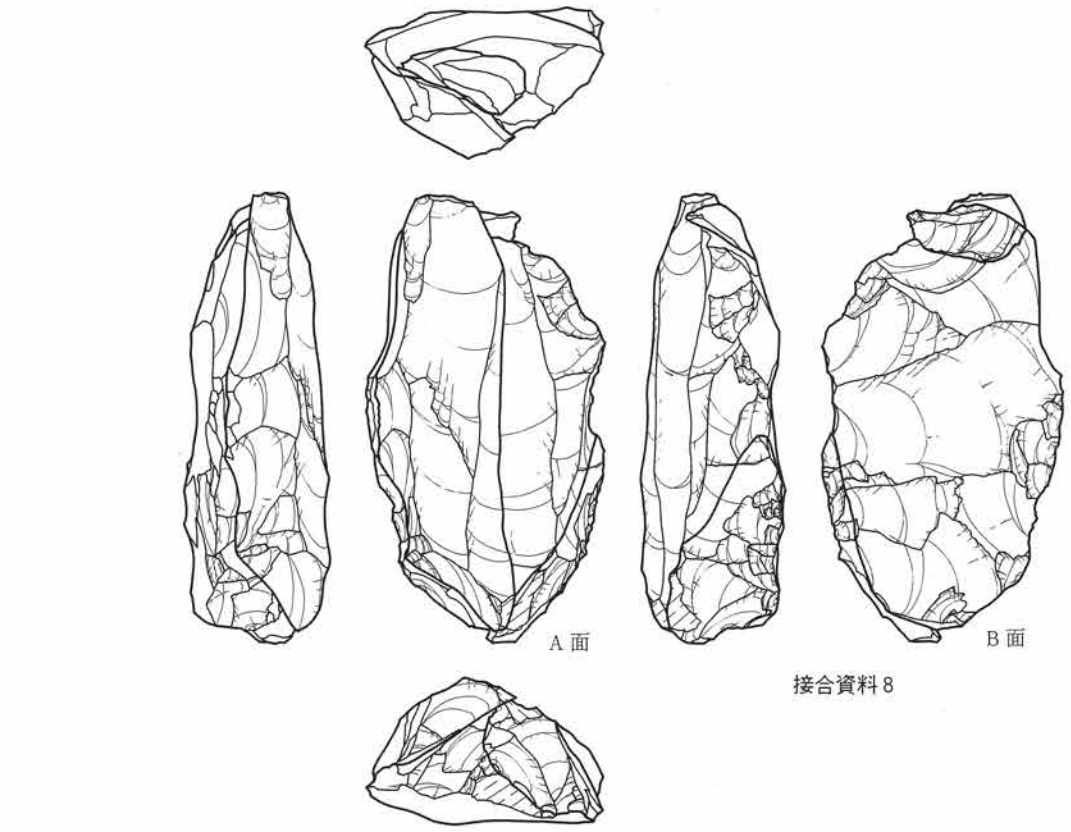


173(B１－593)

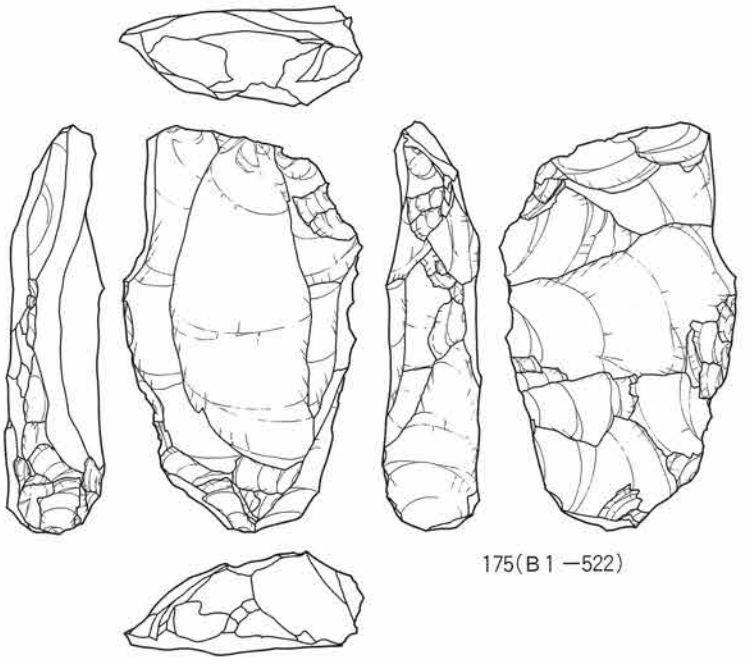


174(B１－474)

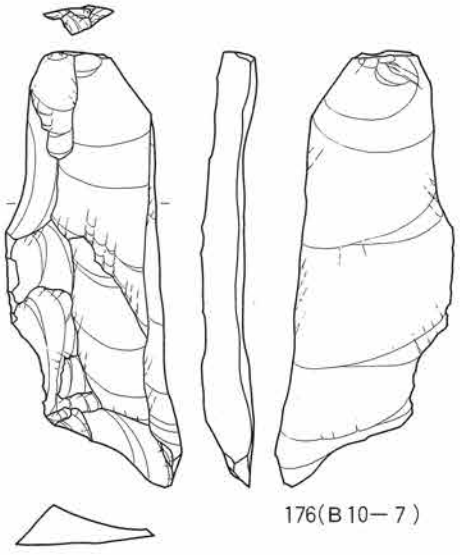




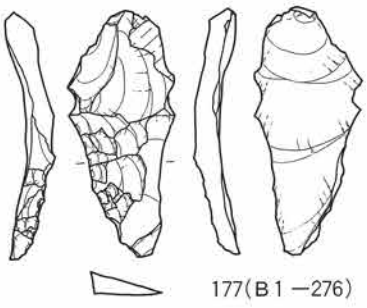
接合資料8



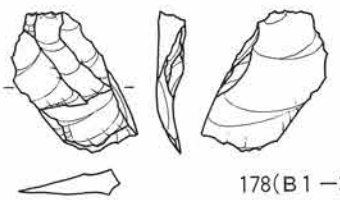
175(B1－522)



176(B10－7)



177(B1－276)

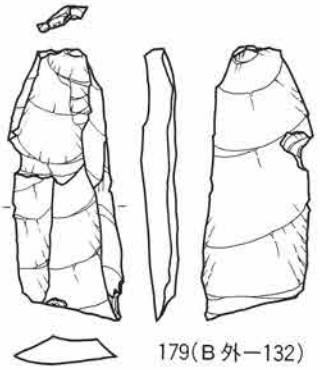


178(B1－324)

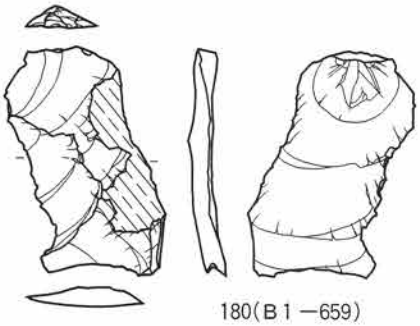
0　1：2　5cm

縄文時代草創期母岩外石刃・剝片実測図

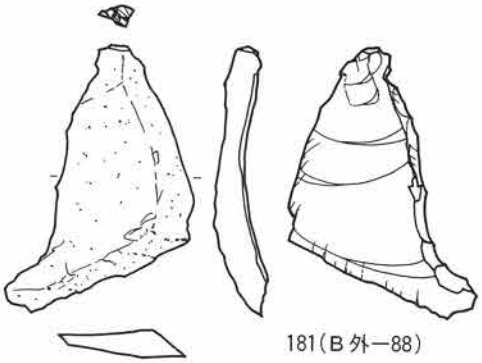
178(B 外−120)



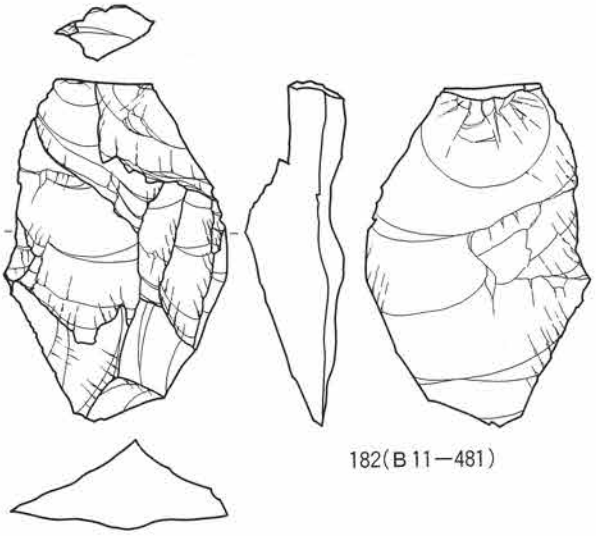
179(B 外−132)



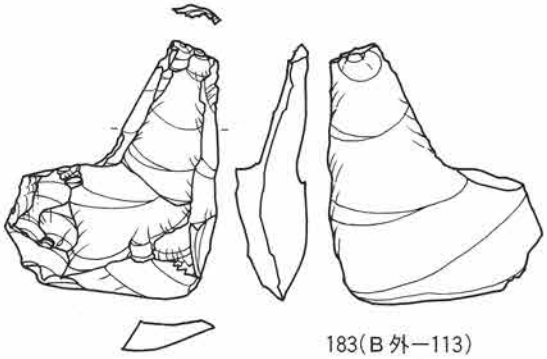
180(B 1 −659)



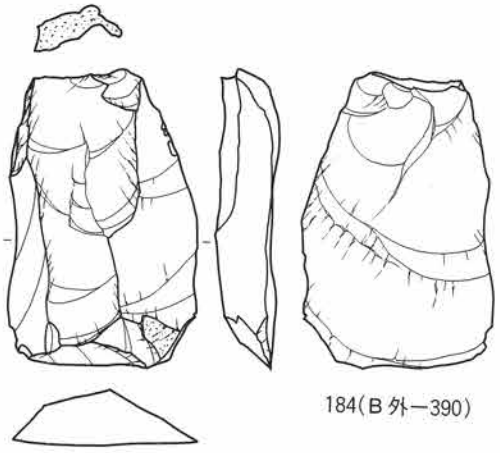
181(B 外−88)



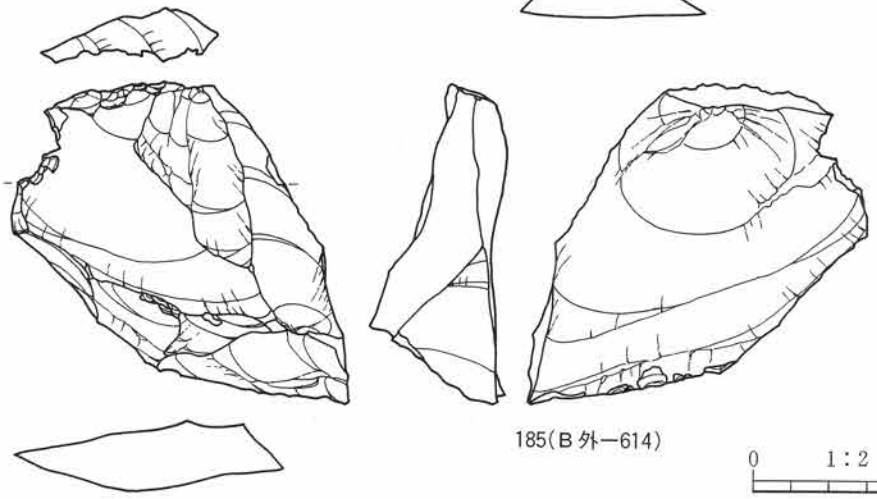
182(B 11−481)



183(B 外−113)

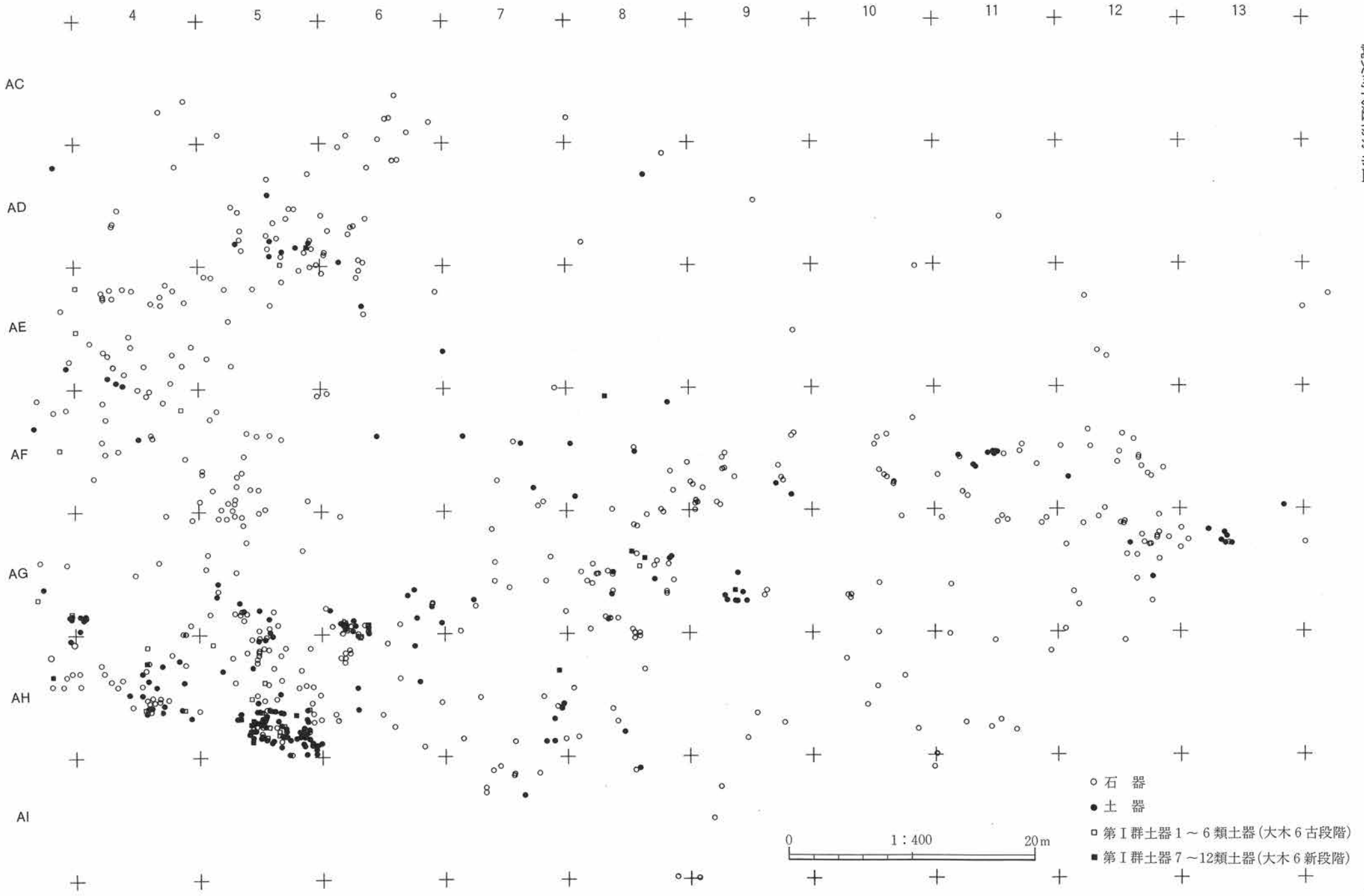


184(B 外−390)



185(B 外−614)

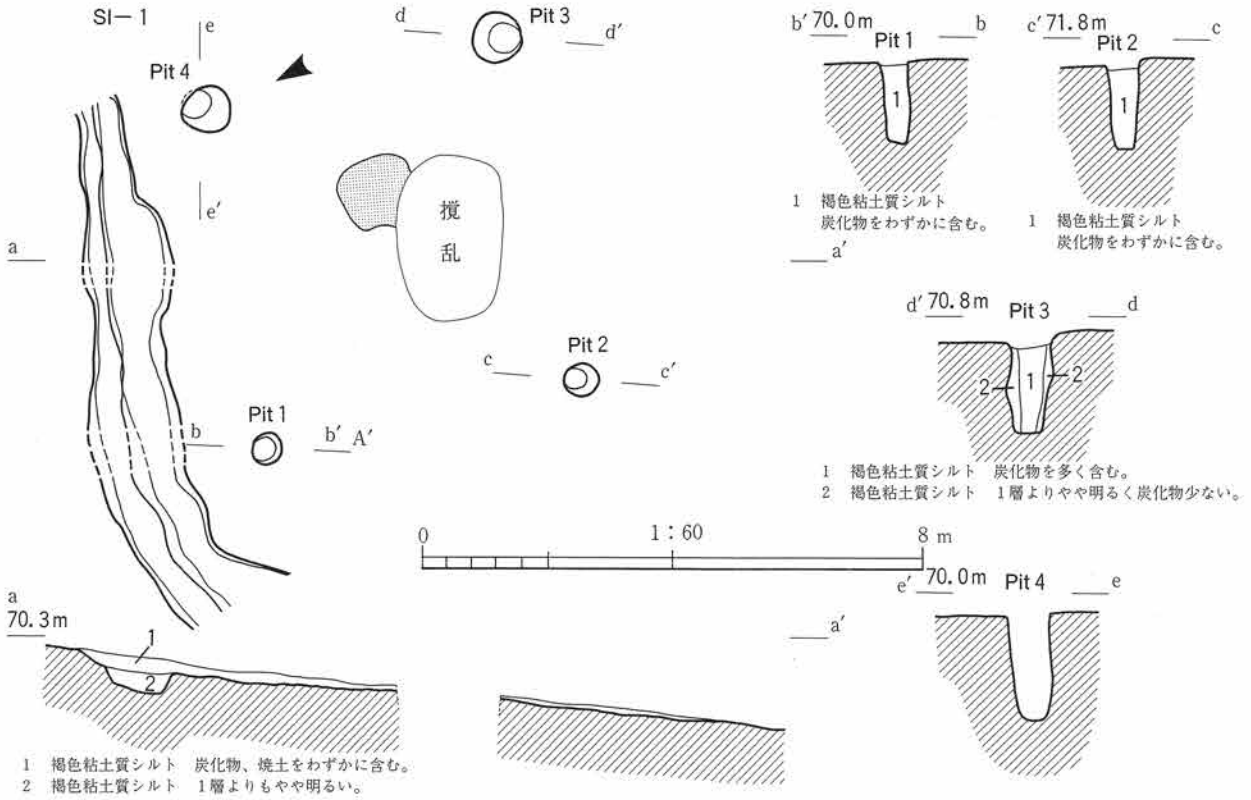
0　1：2　5 cm

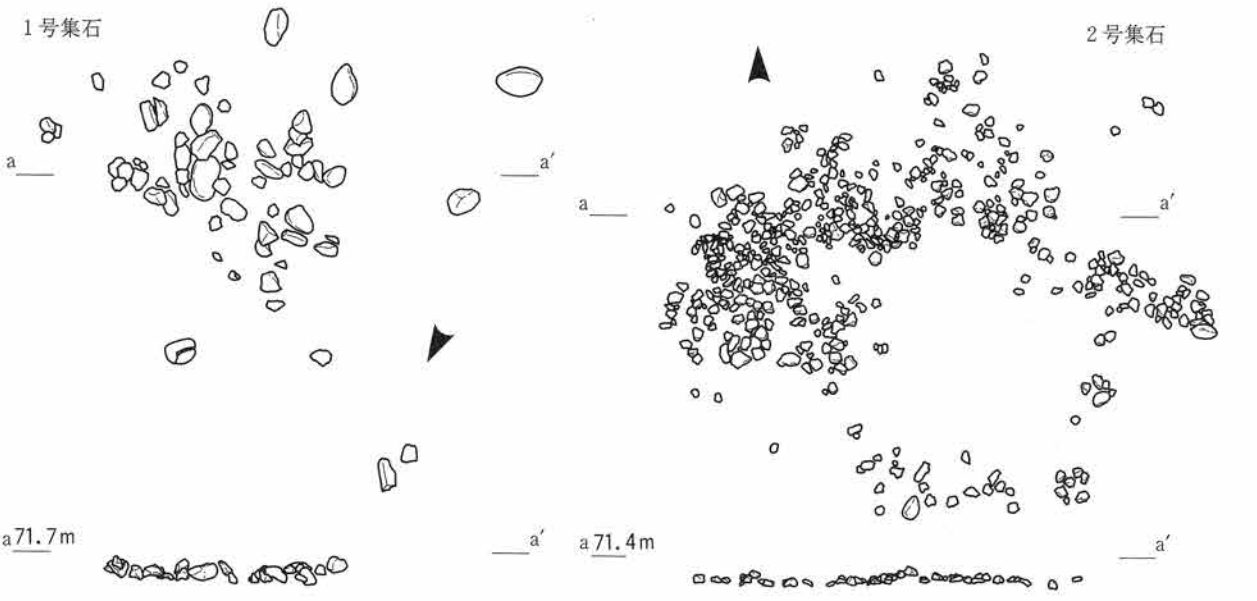


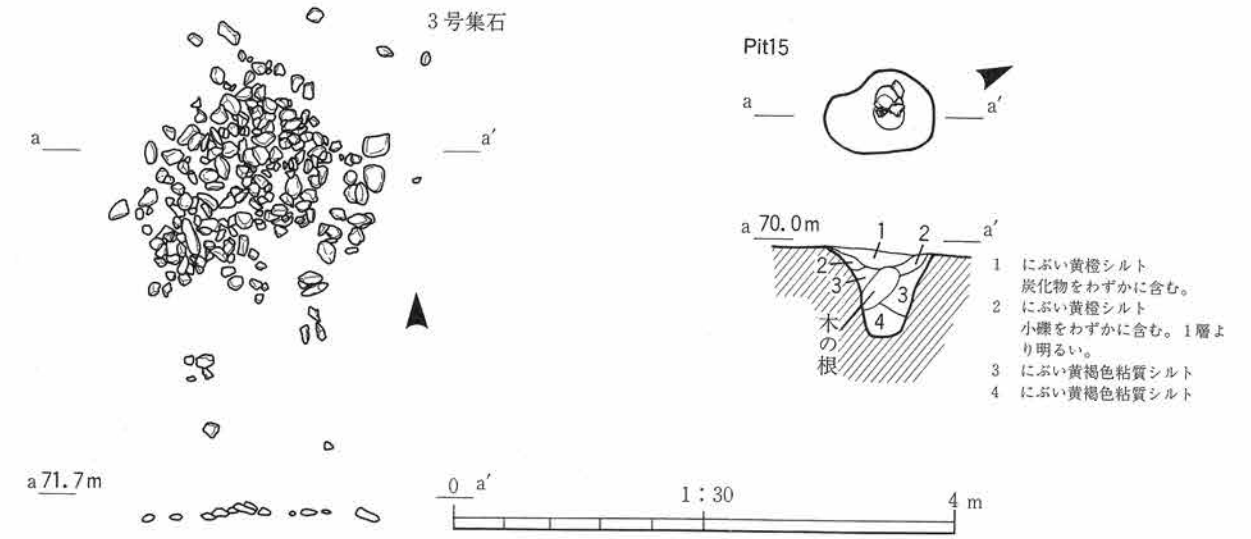
縄文時代遺物分布図

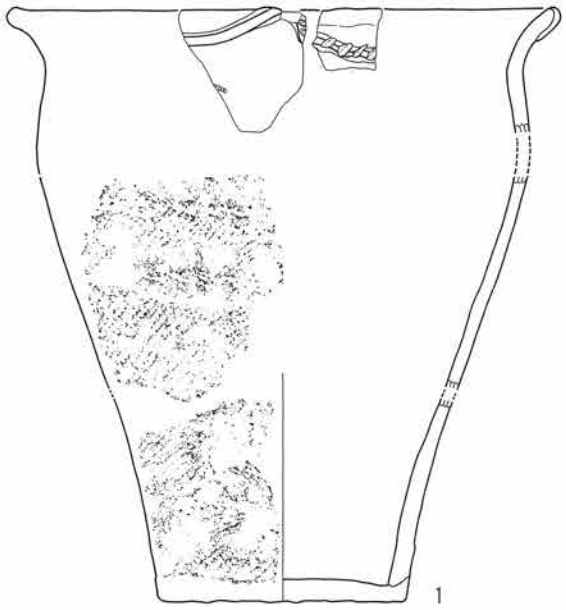
図版90

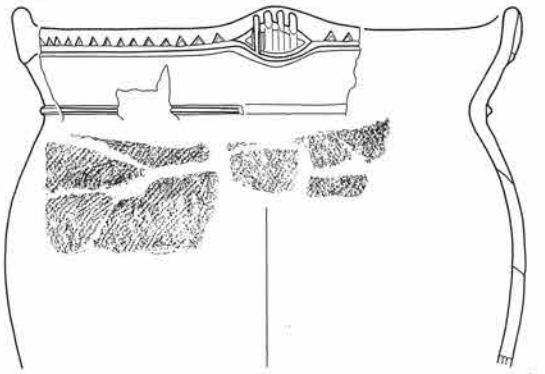
縄文時代の遺構実測図

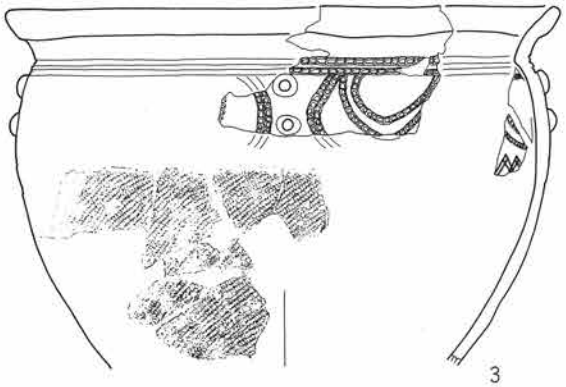

SI－1
Pit 4
Pit 3
Pit 2
Pit 1
撹乱
a
a′
b
b′
c
c′
d
d′
e
e′
A′
b′ 70.0m
c′ 71.8m
d′ 70.8m
e′ 70.0m
a 70.3m
1
2
1 褐色粘土質シルト 炭化物、焼土をわずかに含む。
2 褐色粘土質シルト 1層よりもやや明るい。
1 褐色粘土質シルト 炭化物をわずかに含む。
1 褐色粘土質シルト 炭化物をわずかに含む。
1 褐色粘土質シルト 炭化物を多く含む。
2 褐色粘土質シルト 1層よりやや明るく炭化物少ない。
0
1：60
8 m

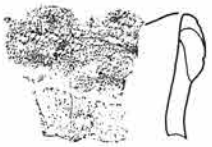

1号集石
2号集石
a
a′
a 71.7m
a 71.4m

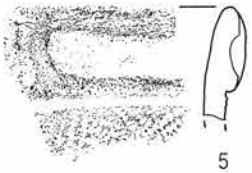

3号集石
Pit15
a
a′
a 70.0m
a 71.7m
1
2
3
4
木の根
1 にぶい黄橙シルト 炭化物をわずかに含む。
2 にぶい黄橙シルト 小礫をわずかに含む。1層より明るい。
3 にぶい黄褐色粘質シルト
4 にぶい黄褐色粘質シルト
0
1：30
4 m


1


2

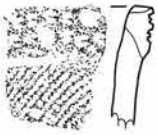

3

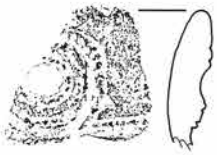

4

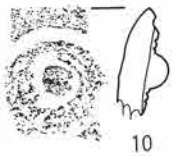

5

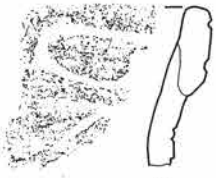
6

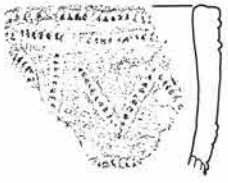
7

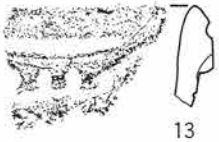

8

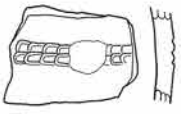

9


10


11


12


13

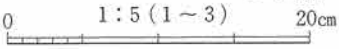

15

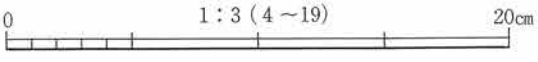
14

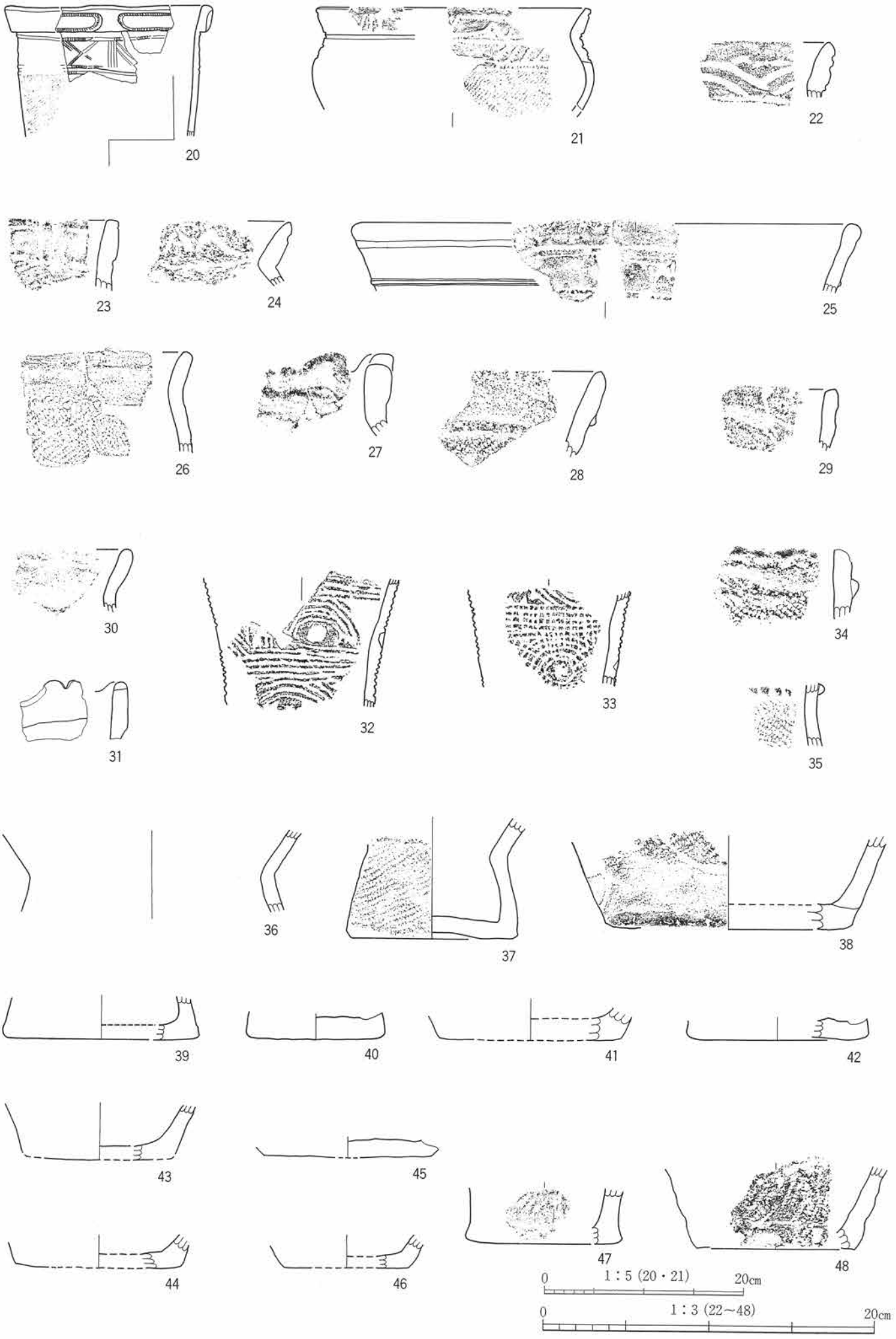
16

18

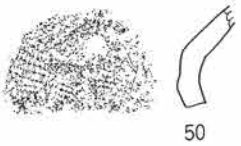
19

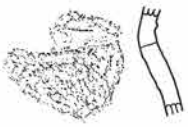




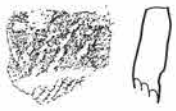

20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
45
44
46
47
48
0 1：5 (20・21) 20cm
0 1：3 (22～48) 20cm

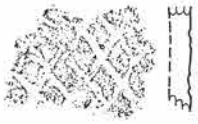
49


50


51

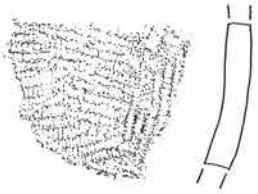
52

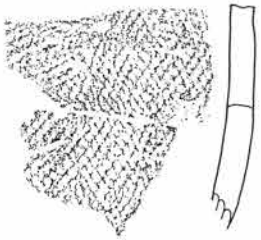

53


54

55

56

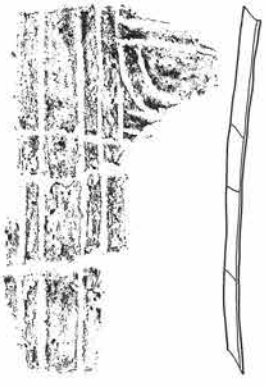

57


58

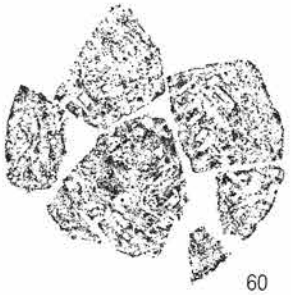
59

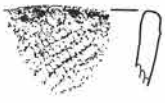
a

b

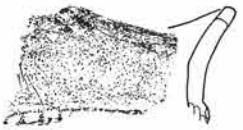

c

d


60


61

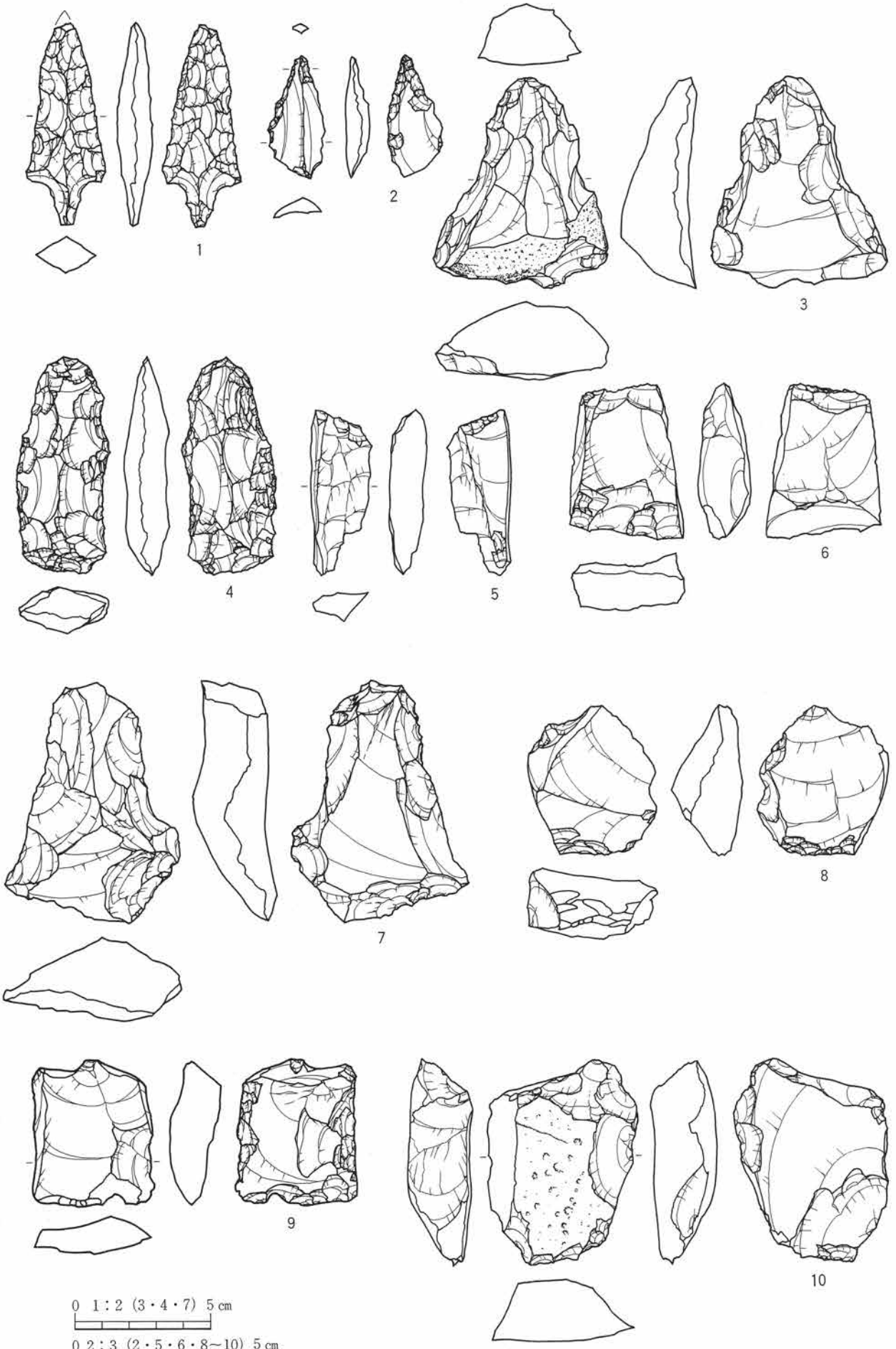
62

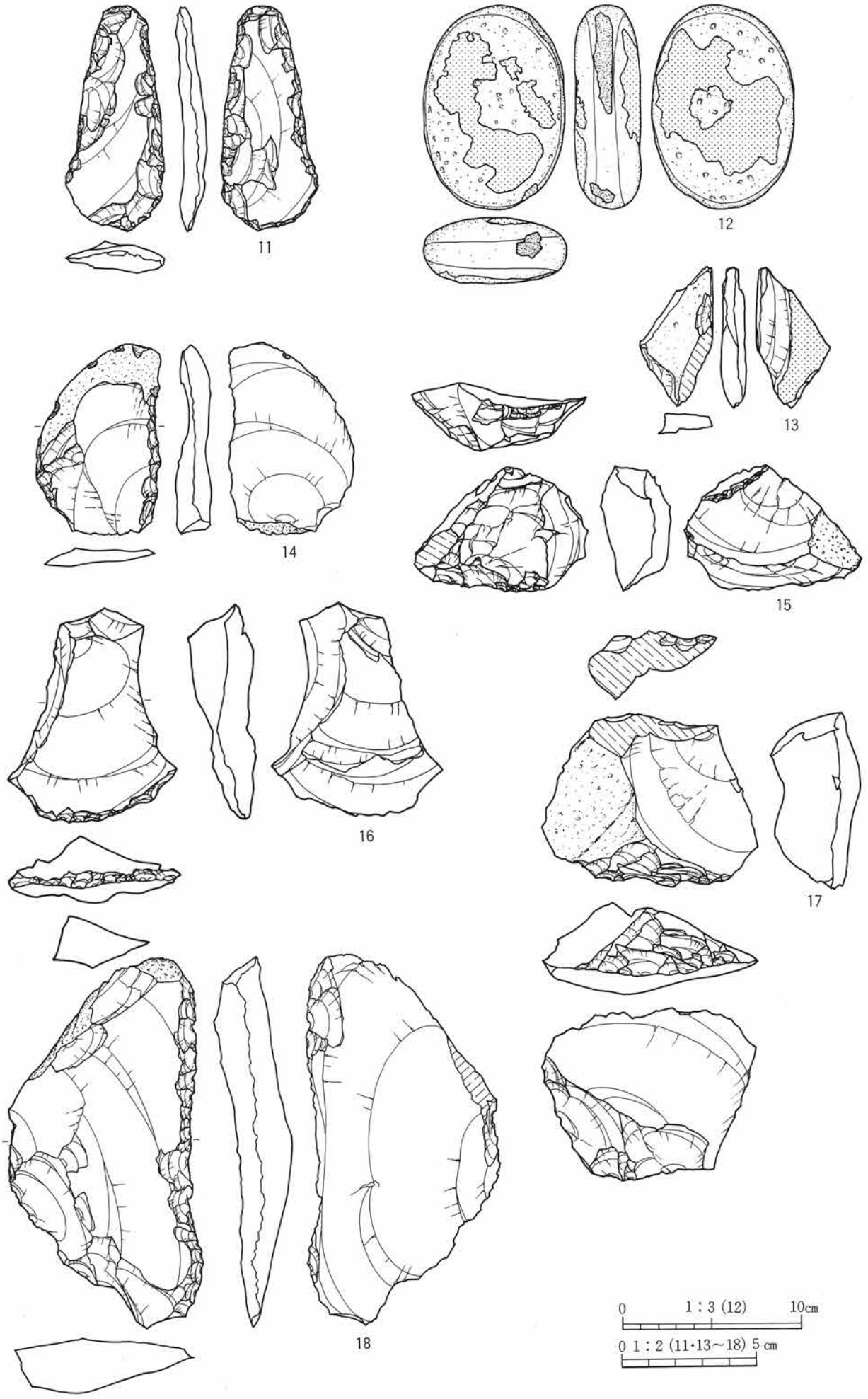


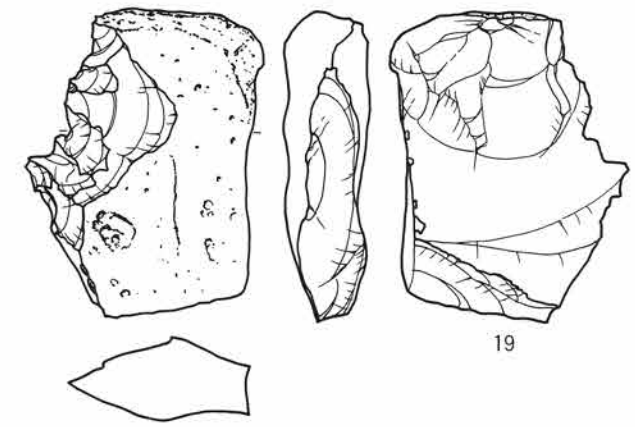
63

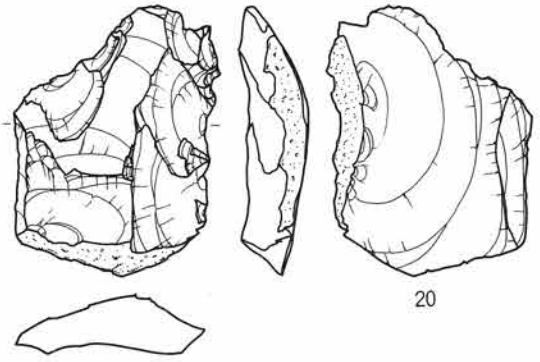
0　1：3（49～64）　20cm

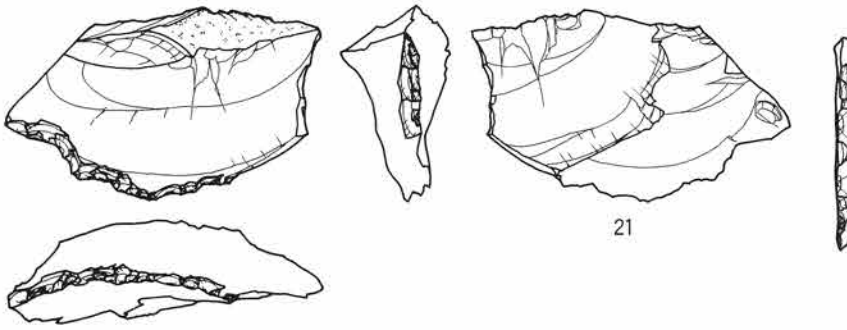
縄文時代の石器実測図(西地区)

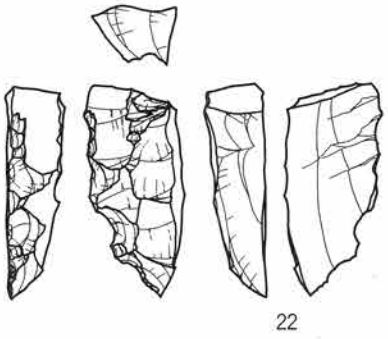


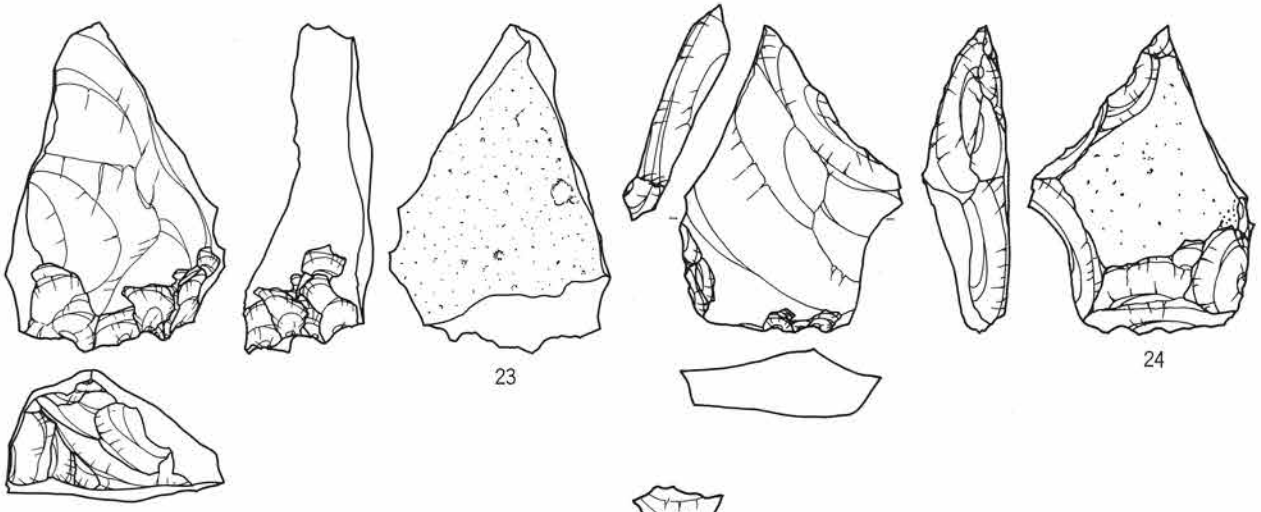

11
12
13
14
15
16
17
18
0 1:3 (12) 10cm
0 1:2 (11·13~18) 5 cm

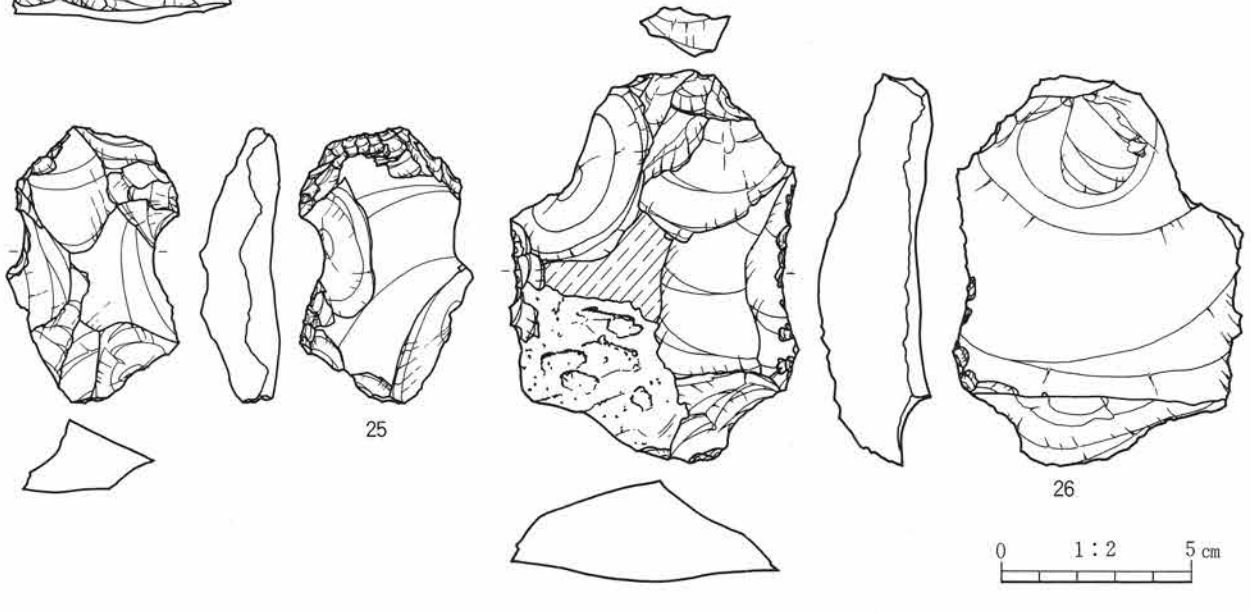

19


20

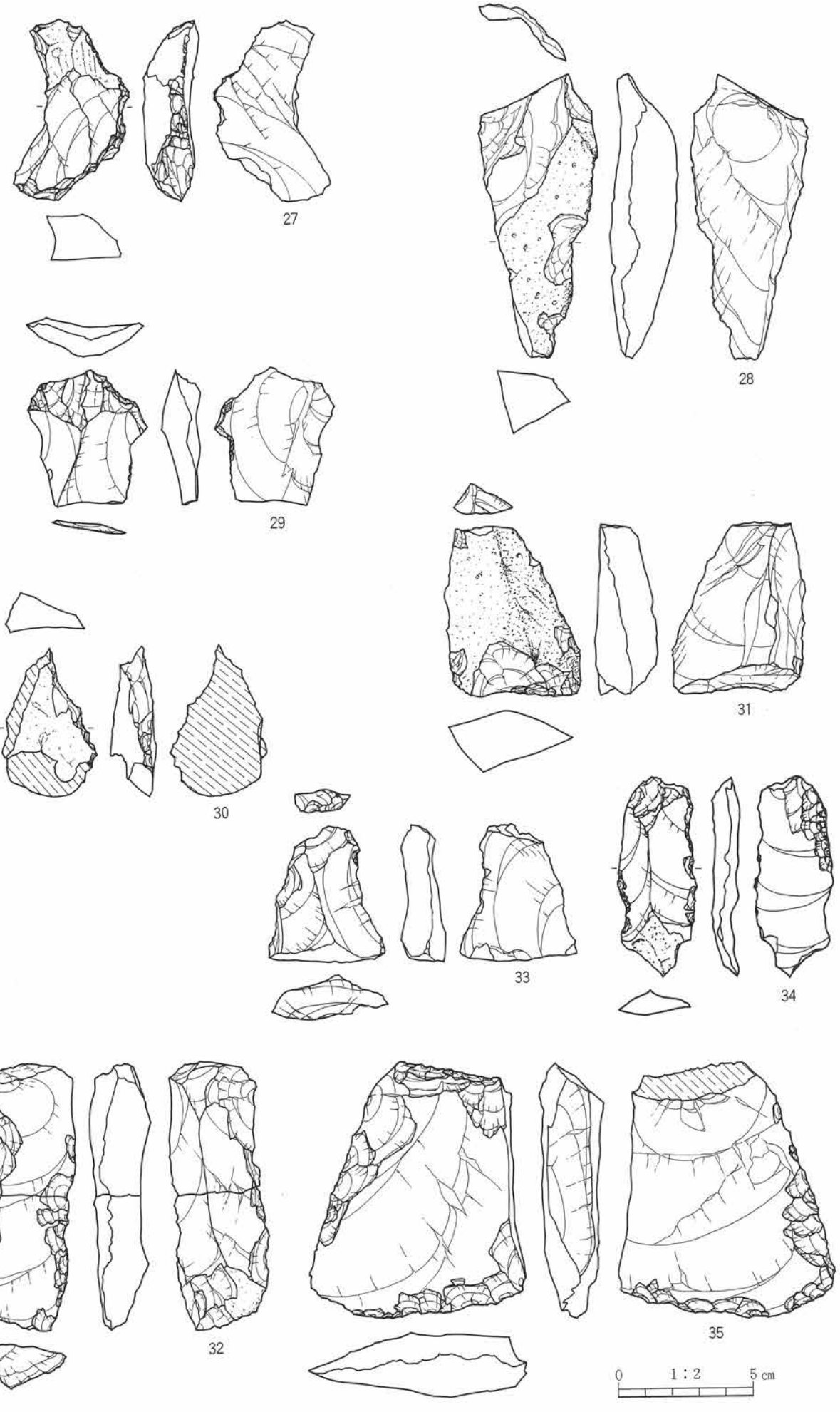

21


22

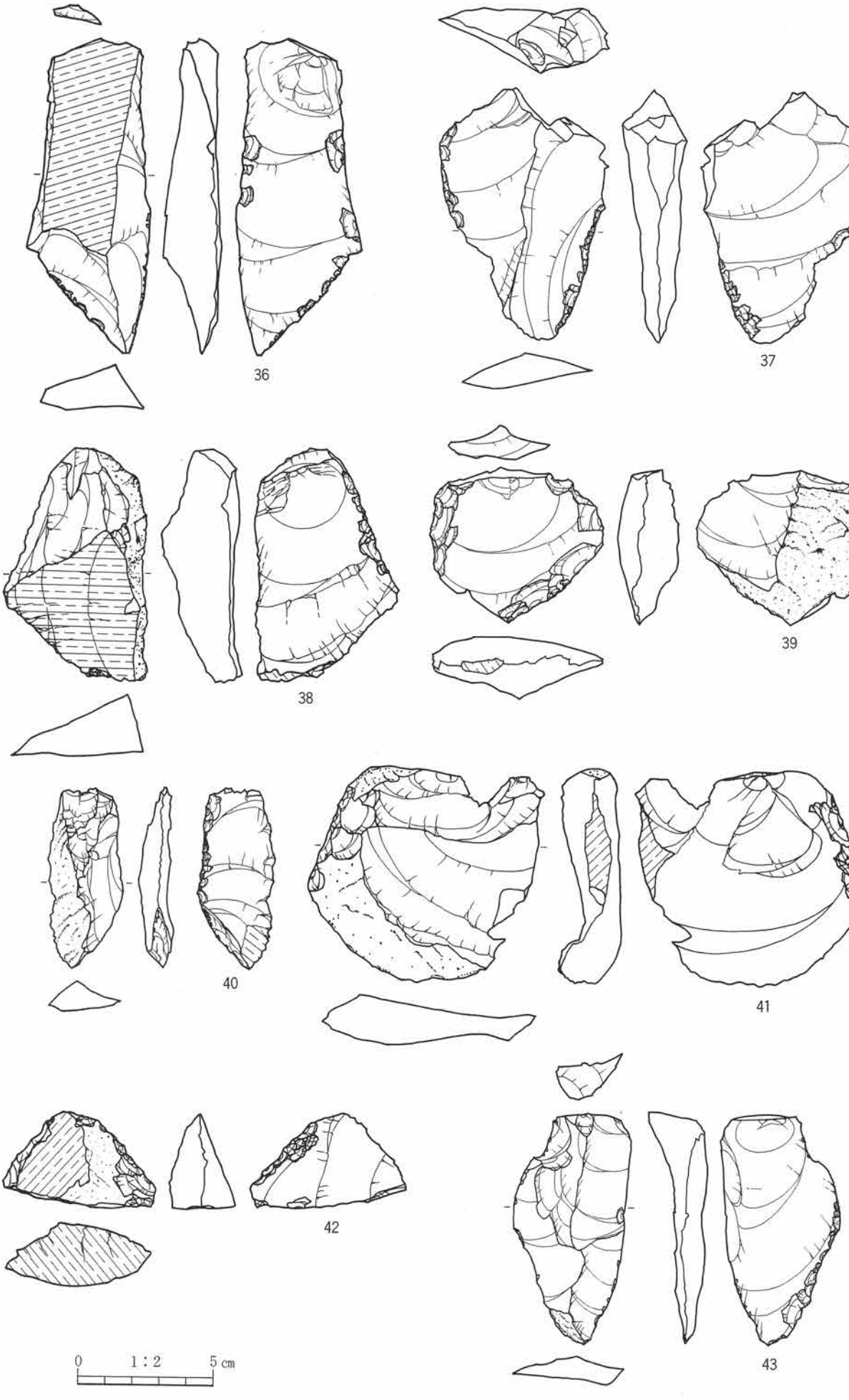

23 24

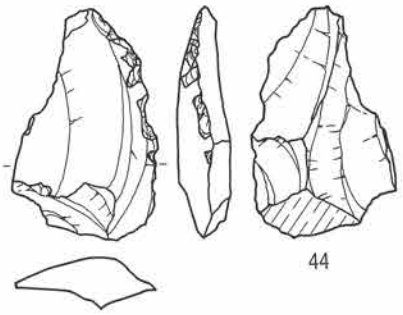

25 26

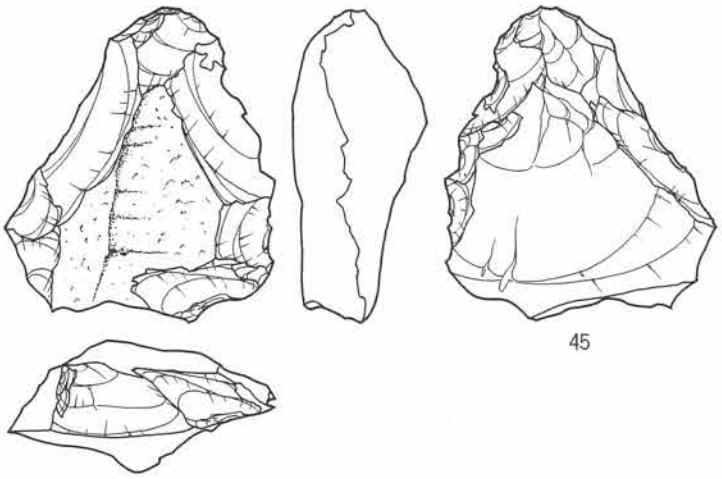
0 1:2 5cm

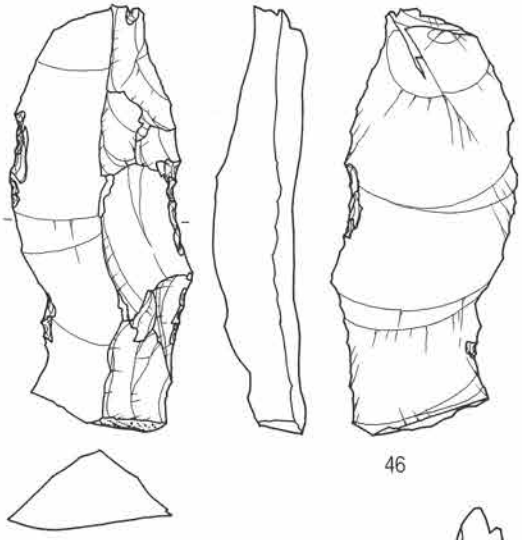

27
28
29
30
31
33
34
32
35
0 1:2 5cm

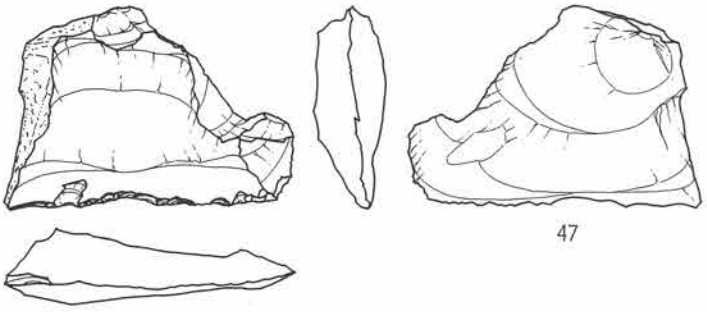
縄文時代の石器実測図(西地区)

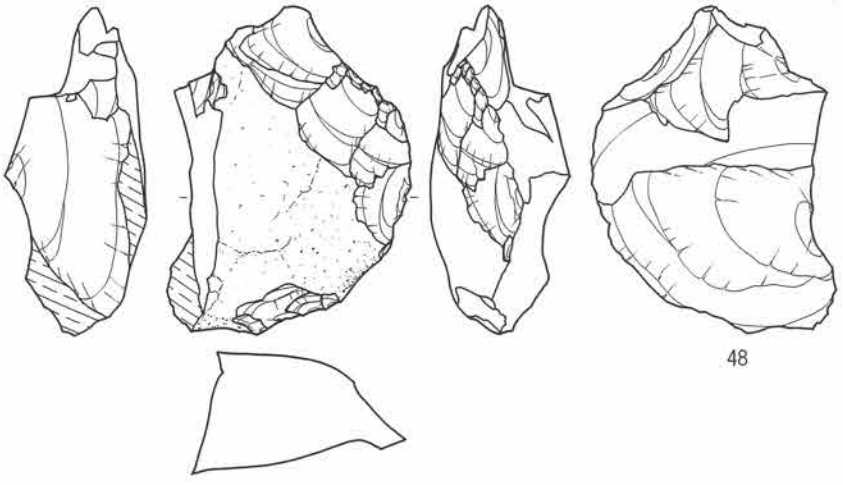


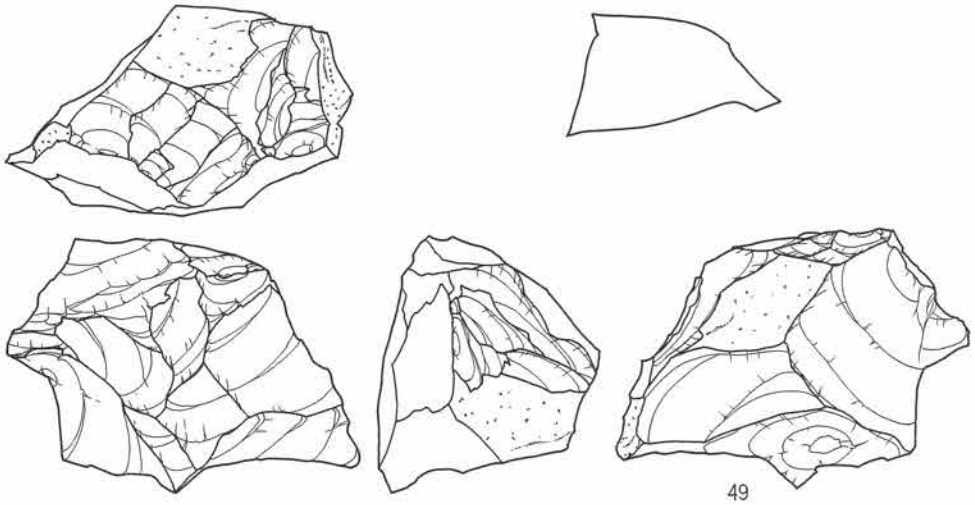

44

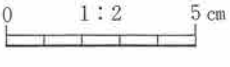

45


46

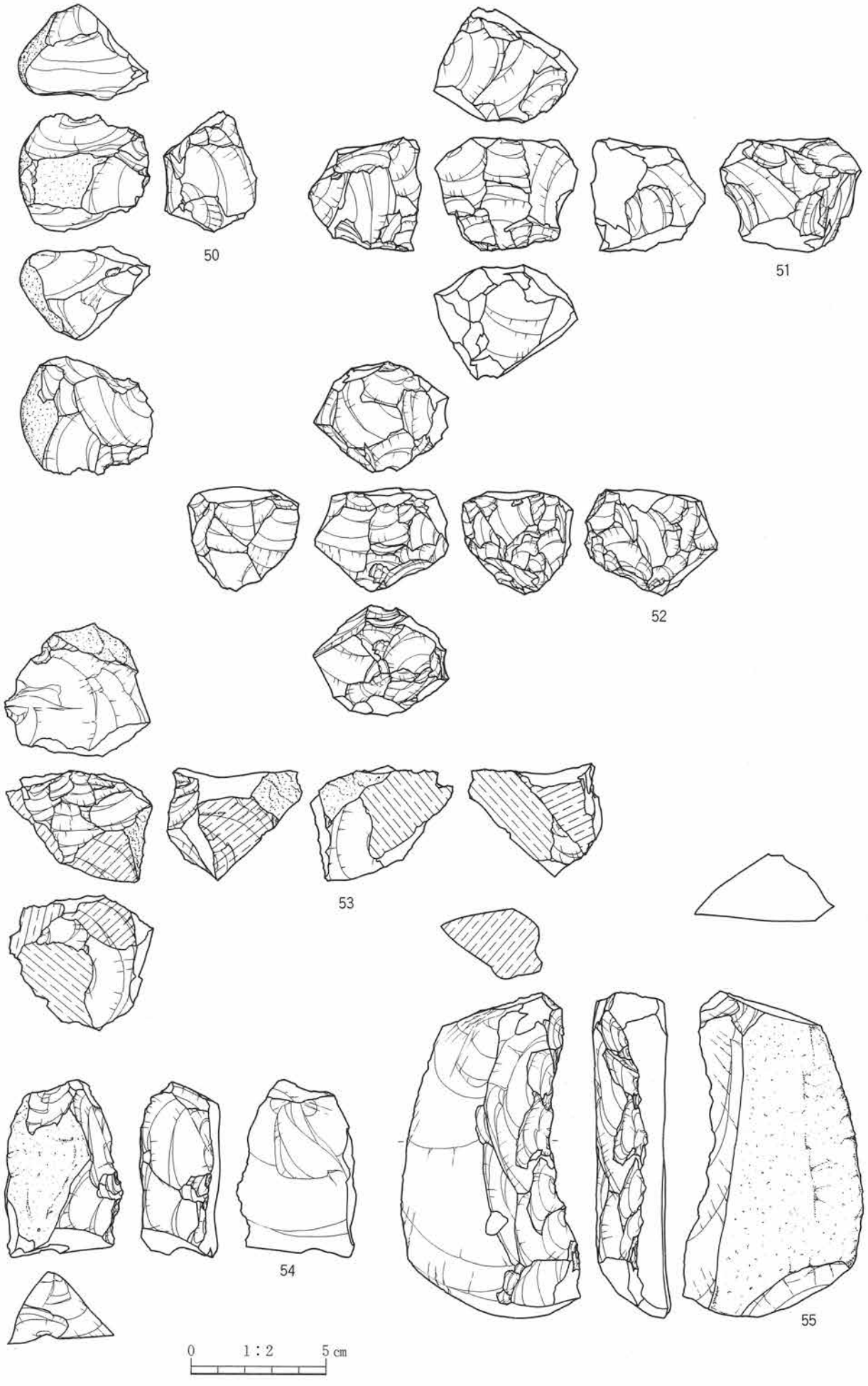

47

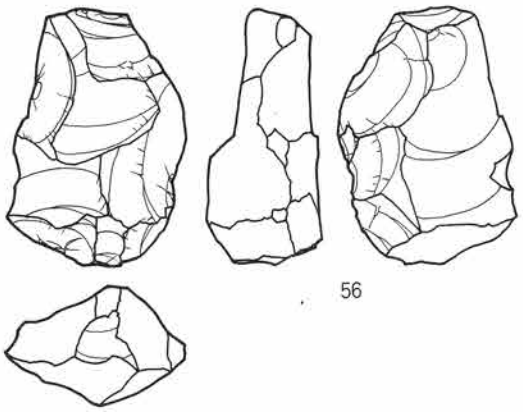

48

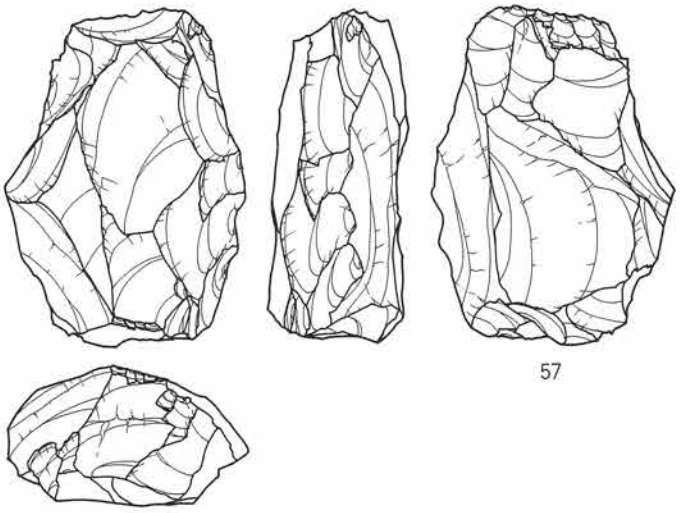

49

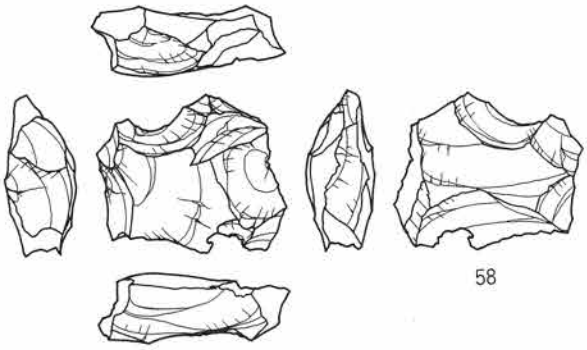


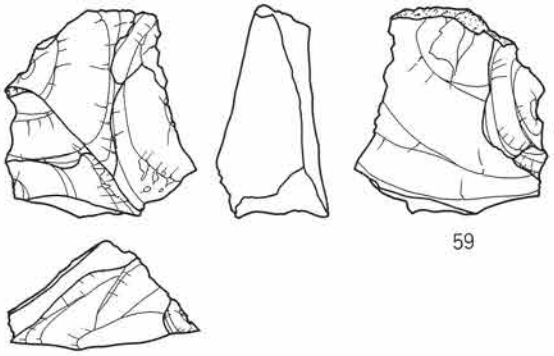
縄文時代の石器実測図(西地区)

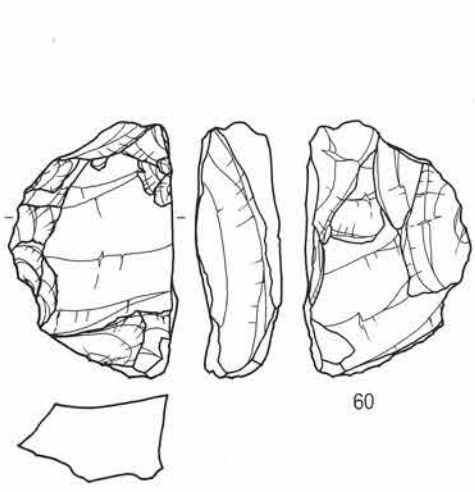


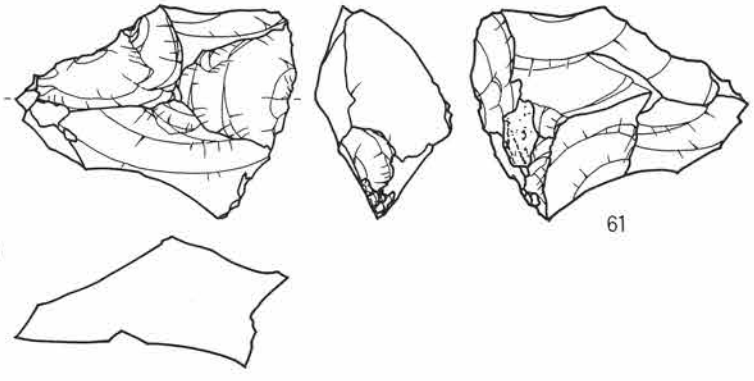

56

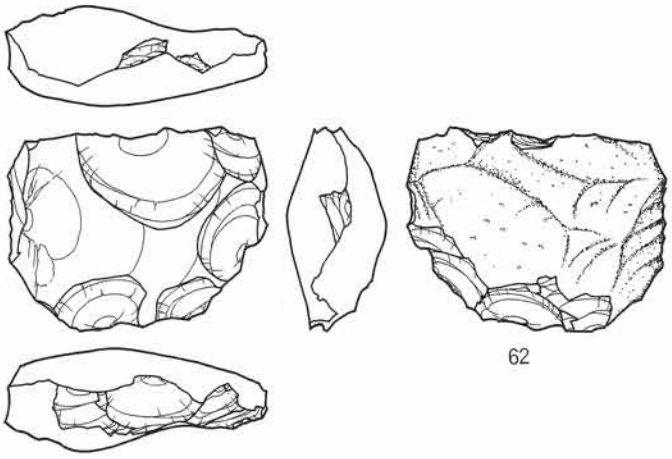

57

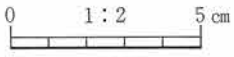

58


59

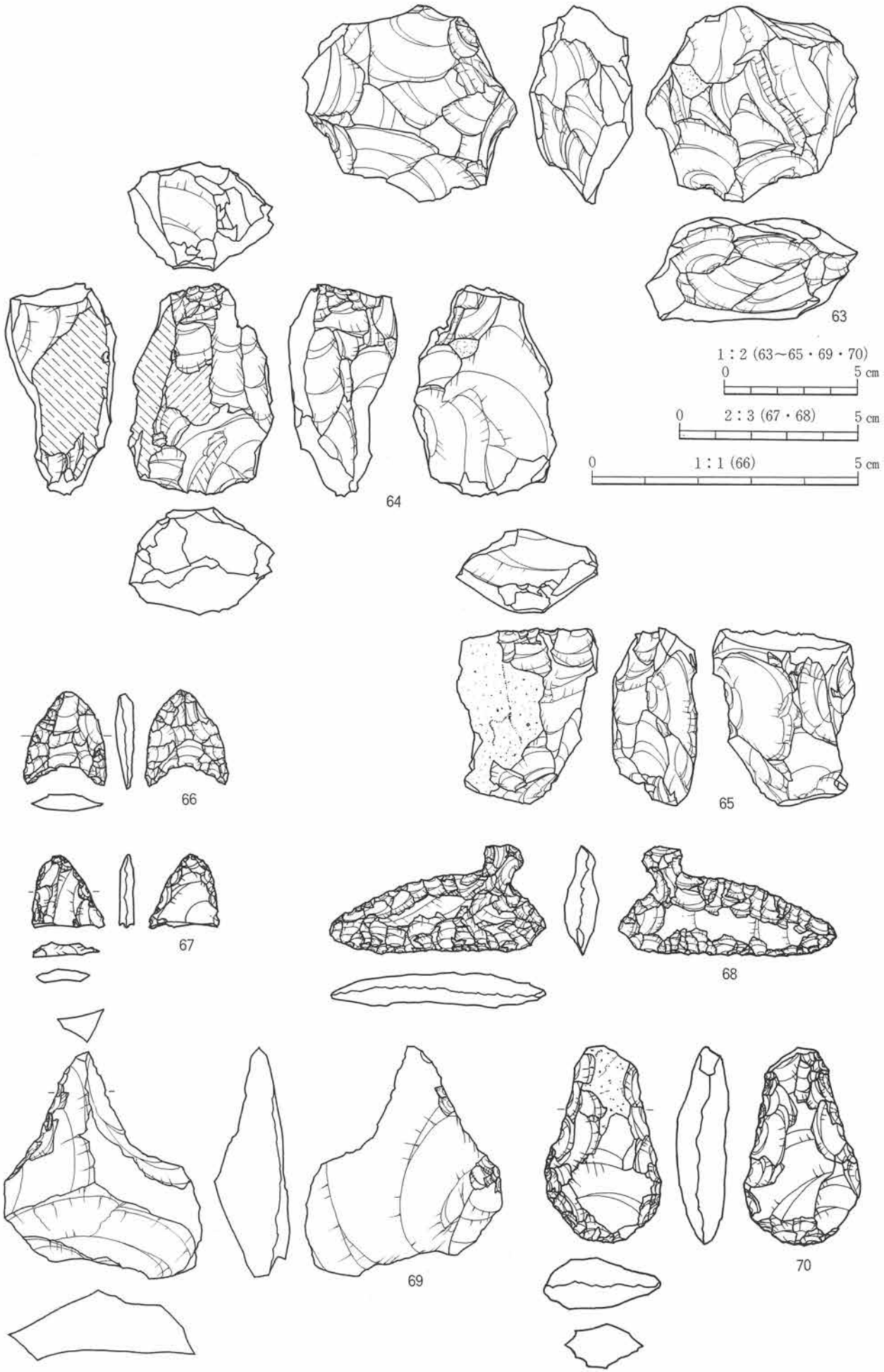

60

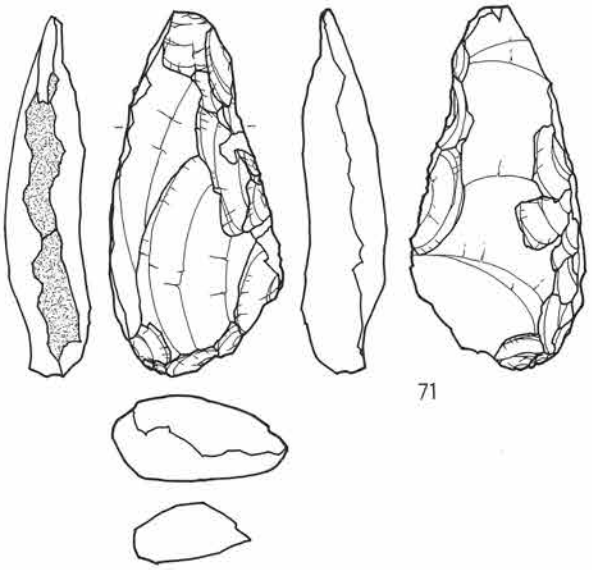

61

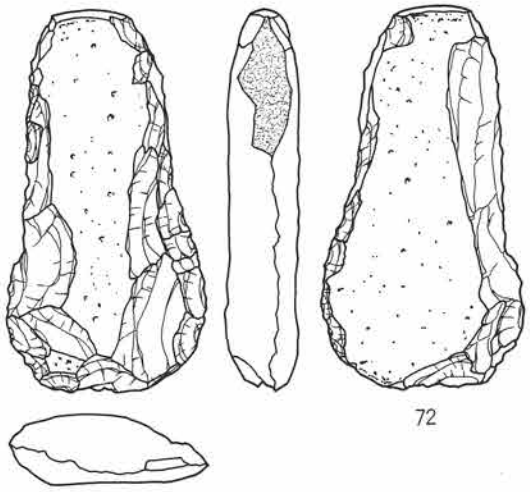

62

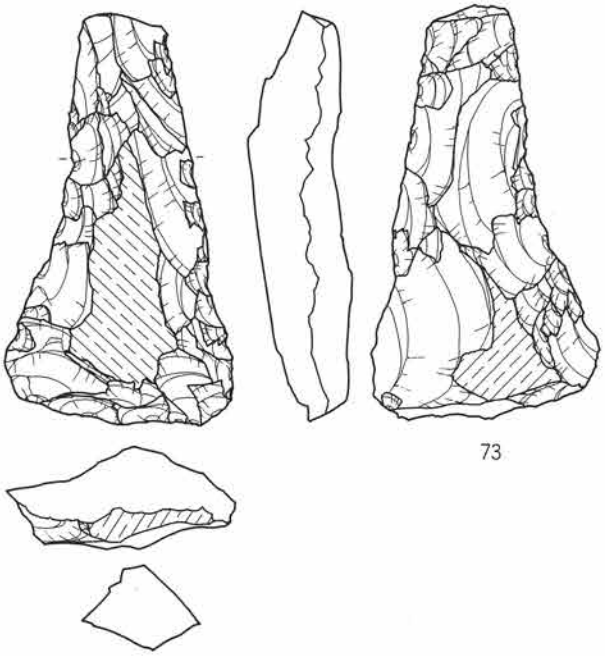

0
1:2
5 cm

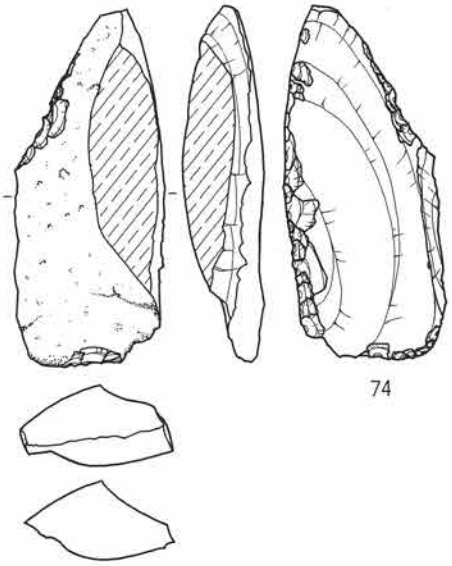
縄文時代の石器実測図(西地区・東地区)

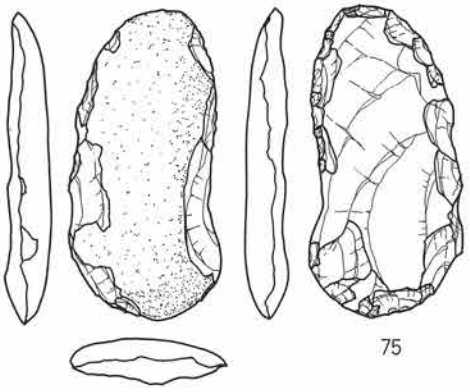


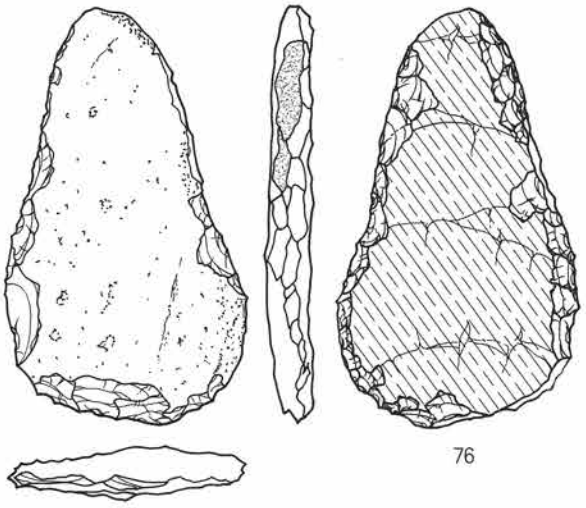






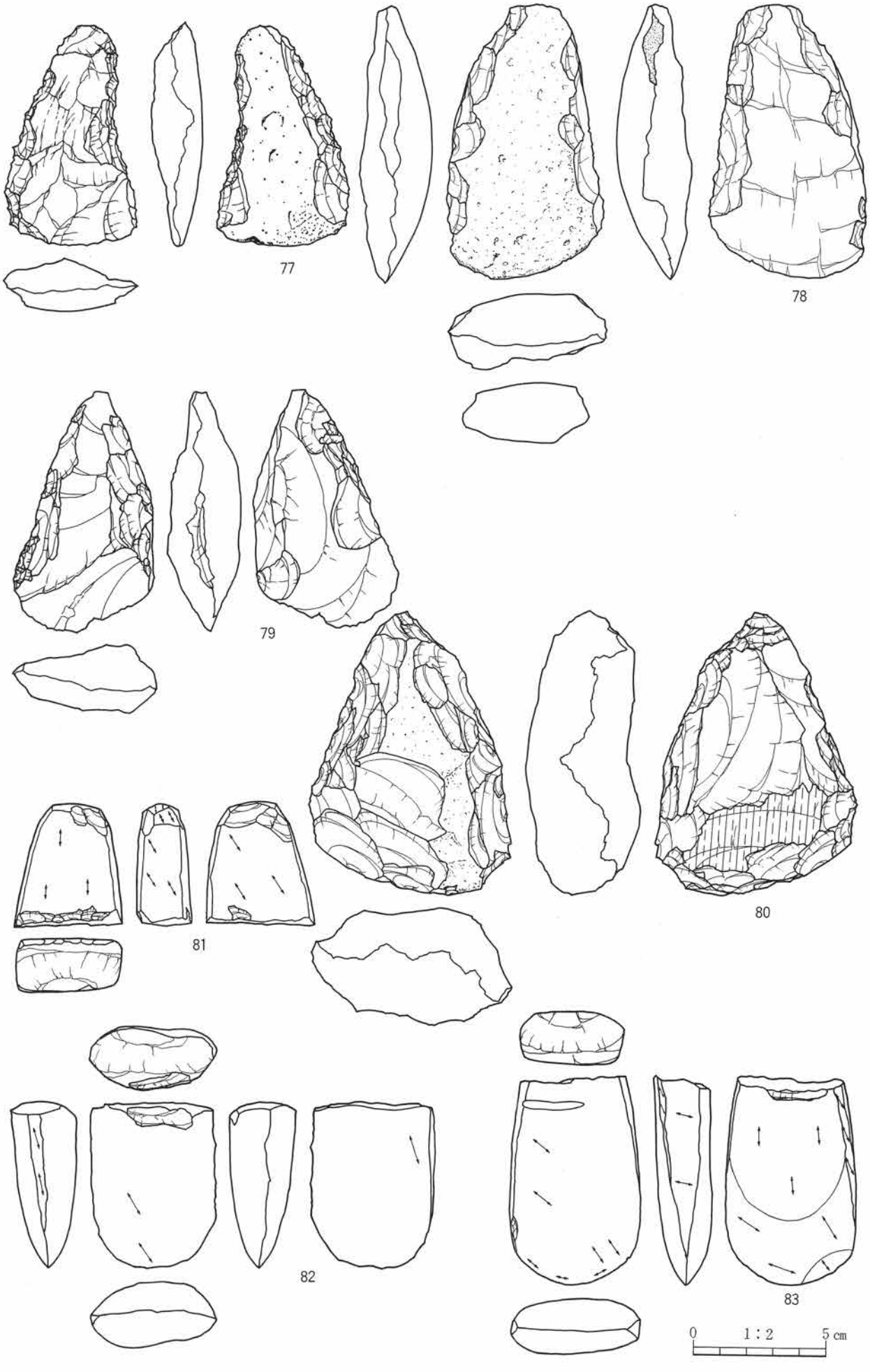


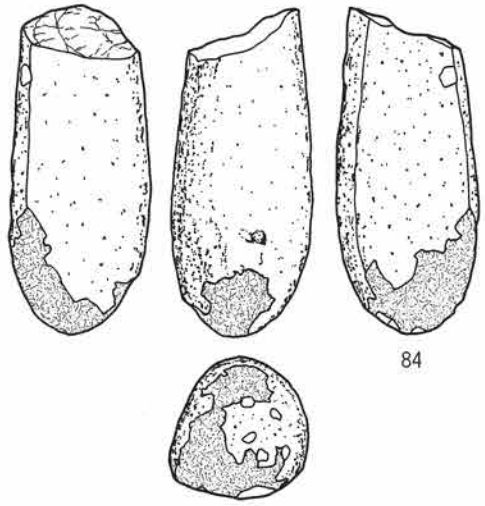




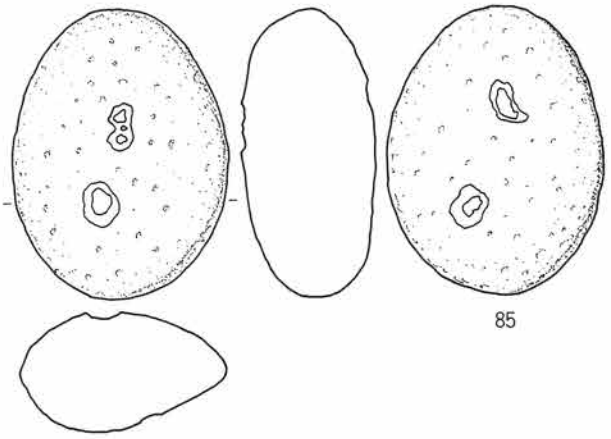
0 1:2 5 cm

縄文時代の石器実測図(東地区)

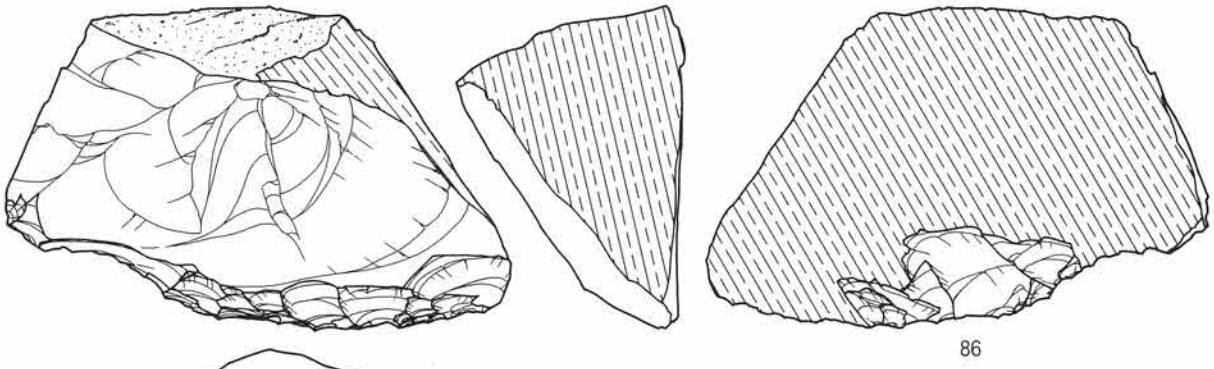




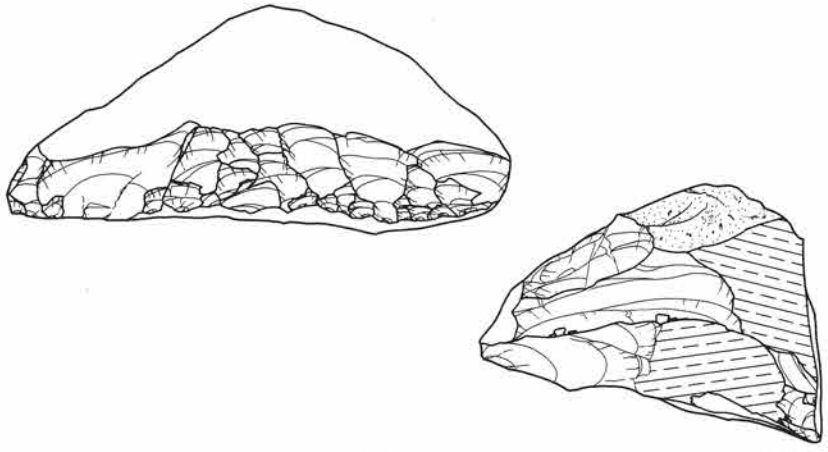
84

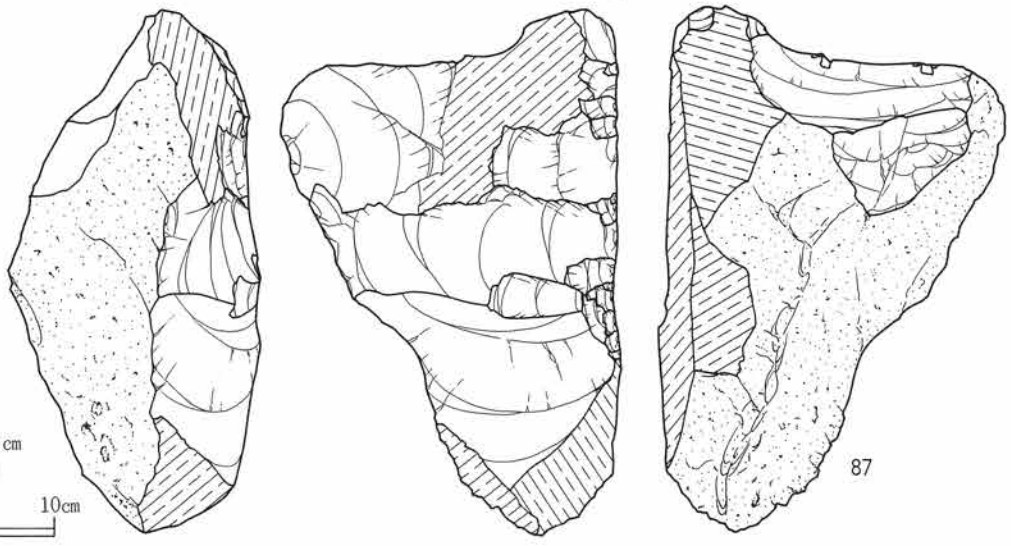


85



86



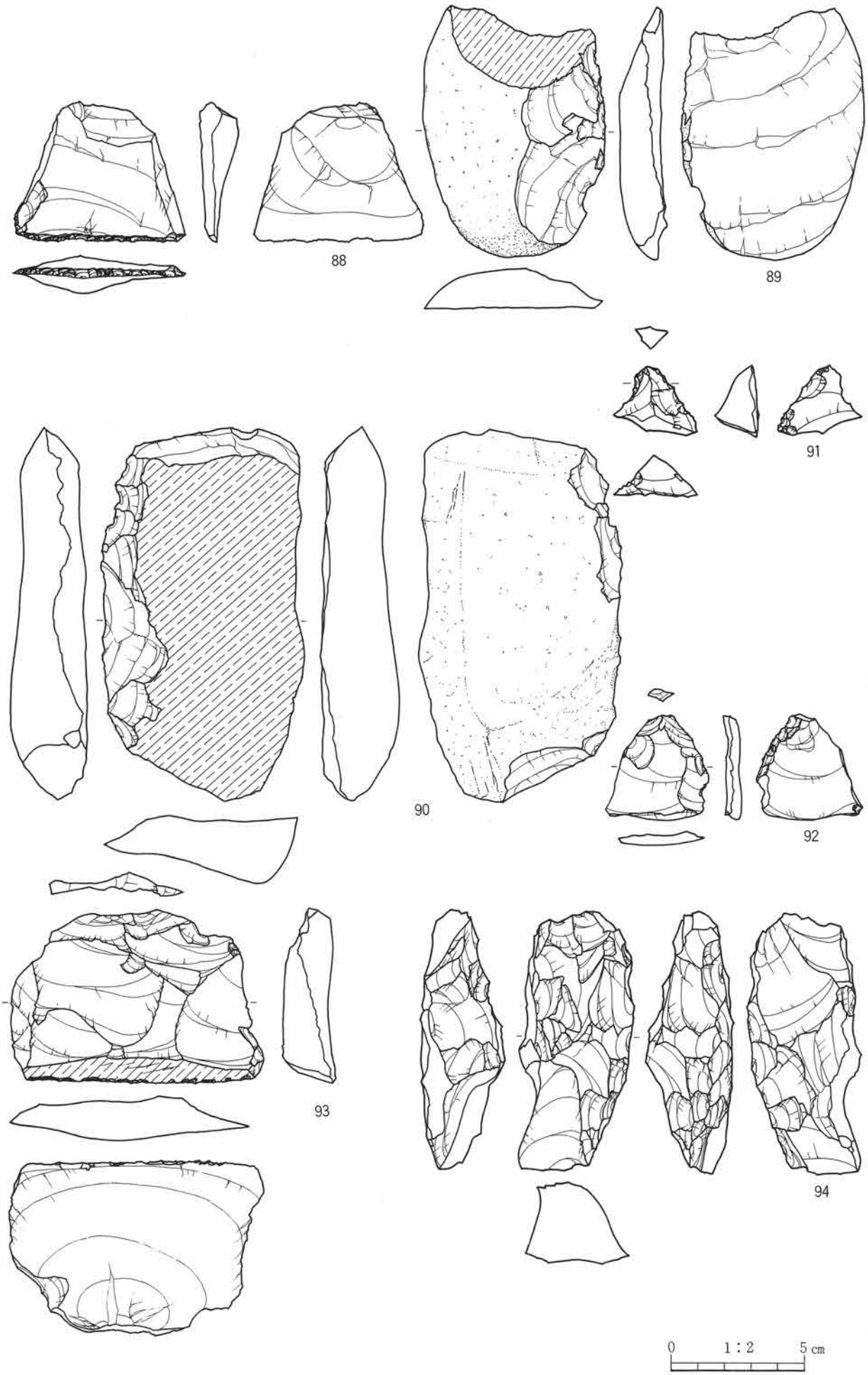


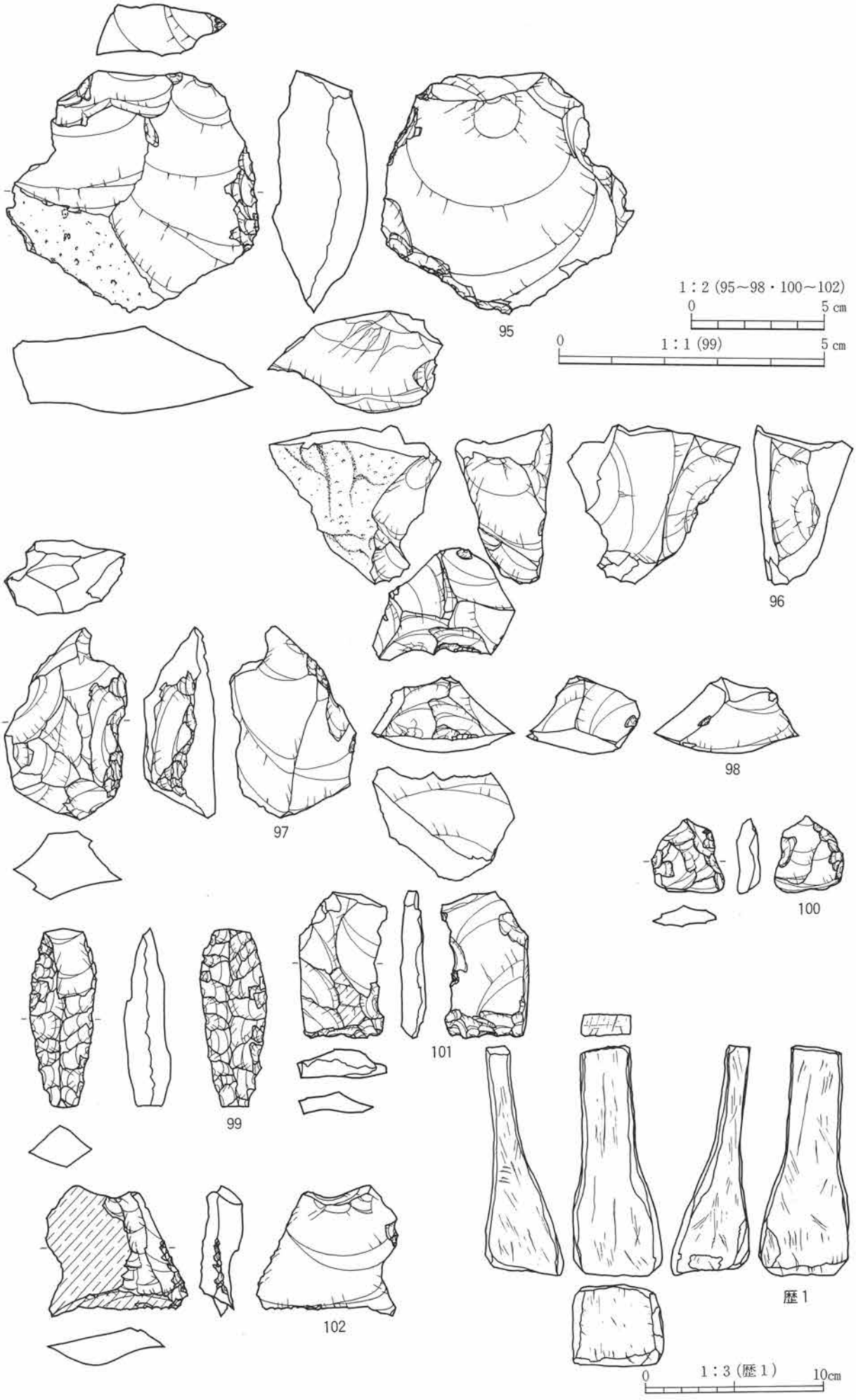
87

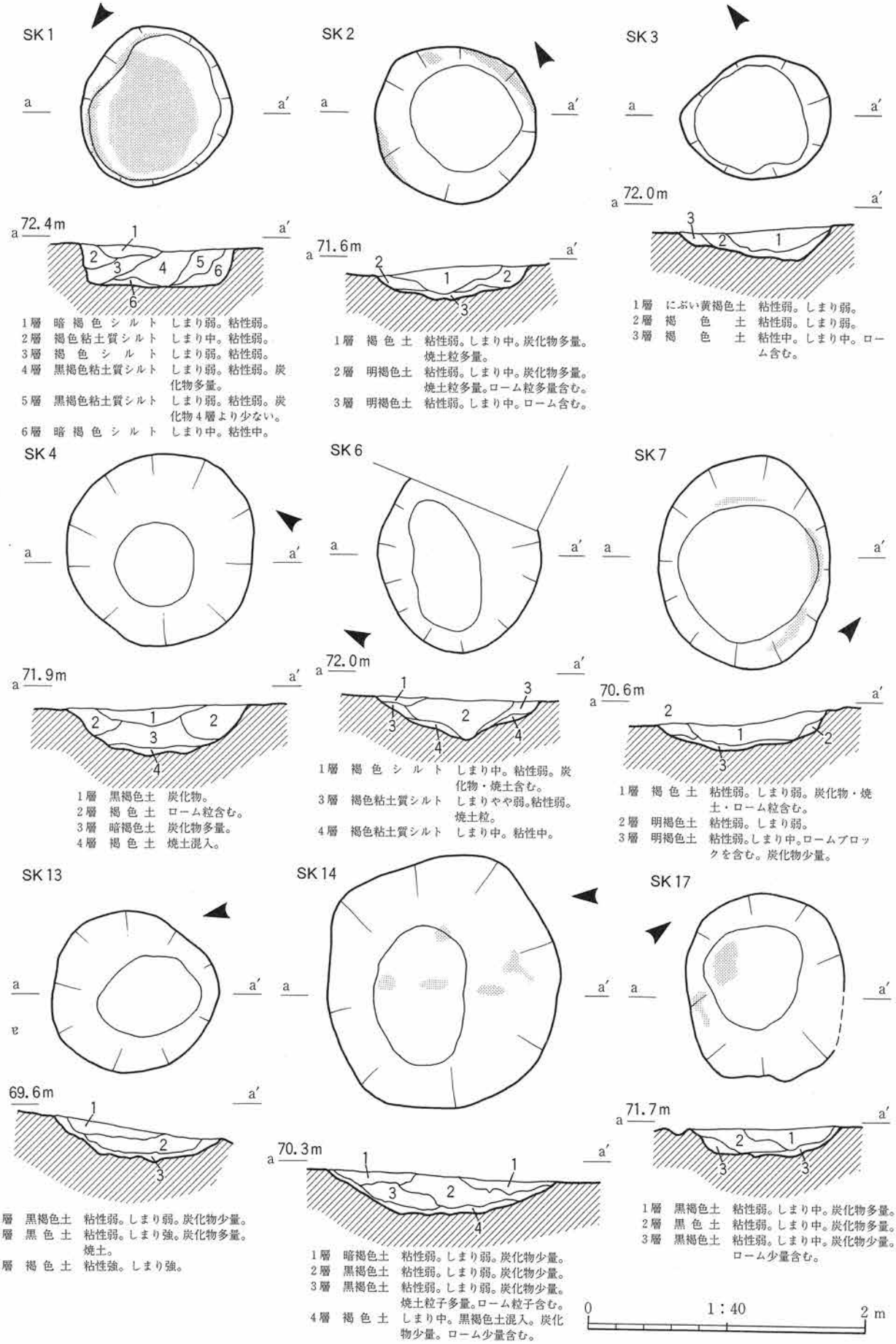
0 1:2 (86・87) 5cm

0 1:3 (84・85) 10cm

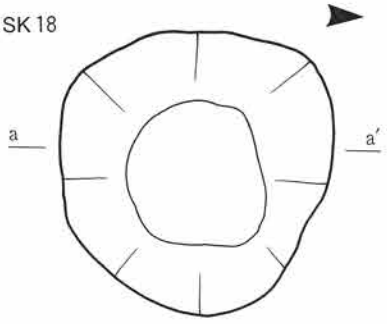
縄文時代の石器実測図(東地区)

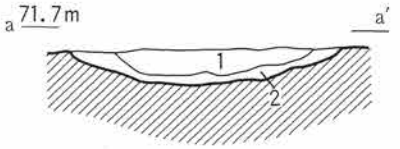



1：2 (95～98・100～102)
0
5 cm
1：1 (99)
0
5 cm
95
96
97
98
99
100
101
102
歴1
1：3 (歴1)
0
10cm


SK 1
a
a′
72.4m
1
2
3
4
5
6
6
1層 暗褐色シルト しまり弱。粘性弱。
2層 褐色粘土質シルト しまり中。粘性弱。
3層 褐色シルト しまり弱。粘性弱。
4層 黒褐色粘土質シルト しまり弱。粘性弱。炭化物多量。
5層 黒褐色粘土質シルト しまり弱。粘性弱。炭化物4層より少ない。
6層 暗褐色シルト しまり中。粘性中。
SK 2
71.6m
1
2
3
1層 褐色土 粘性弱。しまり中。炭化物多量。焼土粒多量。
2層 明褐色土 粘性弱。しまり中。炭化物多量。焼土粒多量。ローム粒多量含む。
3層 明褐色土 粘性弱。しまり中。ローム含む。
SK 3
72.0m
1層 にぶい黄褐色土 粘性弱。しまり弱。
2層 褐色土 粘性弱。しまり弱。
3層 褐色土 粘性中。しまり中。ローム含む。
SK 4
71.9m
1層 黒褐色土 炭化物。
2層 褐色土 ローム粒含む。
3層 暗褐色土 炭化物多量。
4層 褐色土 焼土混入。
SK 6
72.0m
1層 褐色シルト しまり中。粘性弱。炭化物・焼土含む。
3層 褐色粘土質シルト しまりやや弱。粘性弱。焼土粒。
4層 褐色粘土質シルト しまり中。粘性中。
SK 7
70.6m
1層 褐色土 粘性弱。しまり弱。炭化物・焼土・ローム粒含む。
2層 明褐色土 粘性弱。しまり弱。
3層 明褐色土 粘性弱。しまり中。ロームブロックを含む。炭化物少量。
SK 13
69.6m
1層 黒褐色土 粘性弱。しまり弱。炭化物少量。
2層 黒色土 粘性弱。しまり強。炭化物多量。焼土。
3層 褐色土 粘性強。しまり強。
SK 14
70.3m
1層 暗褐色土 粘性弱。しまり弱。炭化物少量。
2層 黒褐色土 粘性弱。しまり弱。炭化物少量。
3層 黒褐色土 粘性弱。しまり弱。炭化物少量。焼土粒子多量。ローム粒子含む。
4層 褐色土 しまり中。黒褐色土混入。炭化物少量。ローム少量含む。
SK 17
71.7m
1層 黒褐色土 粘性弱。しまり中。炭化物多量。
2層 黒色土 粘性弱。しまり中。炭化物多量。
3層 黒褐色土 粘性弱。しまり中。炭化物少量。ローム少量含む。
0
1：40
2 m

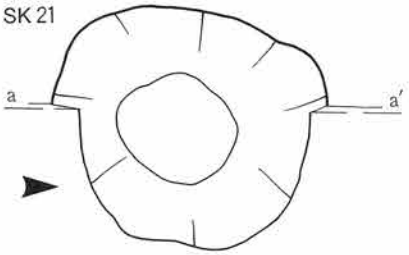
SK 18

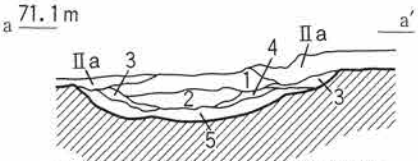




1層　黒褐土　粘性弱。しまり中。炭化物少量。
2層　暗褐色土　粘性中。しまり中。炭化物少量。ローム多量含む。

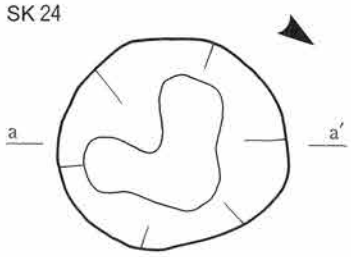
SK 21

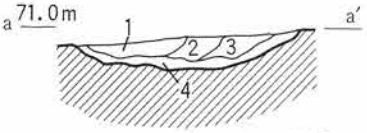




1層　黒褐色土　粘性弱。しまり中。炭化物多量。焼土微量。
2層　黒色土　粘性弱。しまり中。炭化物多量。ローム少量。
3層　暗褐色土　粘性弱。しまり中。炭化物少量。ローム多量。
4層　黒褐色土　粘性弱。しまり中。炭化物多量。ローム含む。
5層　明褐色土　粘性中。しまり中。炭化物少量。ローム含む。

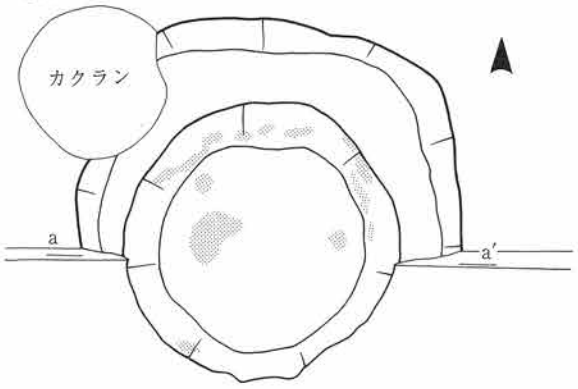
SK 24

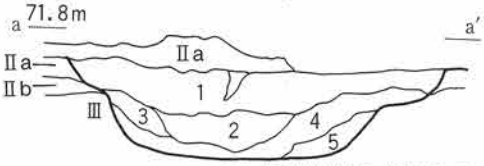




1層　黒色土　粘性中。しまり中。炭化物多量。焼土粒少量。ローム塊少量。
2層　黒褐色土　粘性中。しまり中。炭化物多量。焼土粒少量。ローム粒少量。
3層　暗褐色土　粘性中。しまり中。炭化物多量。焼土塊多量。ローム粒少量。
4層　暗褐色土　粘性中。しまり中。炭化物多量。焼土粒少量。ローム含む。

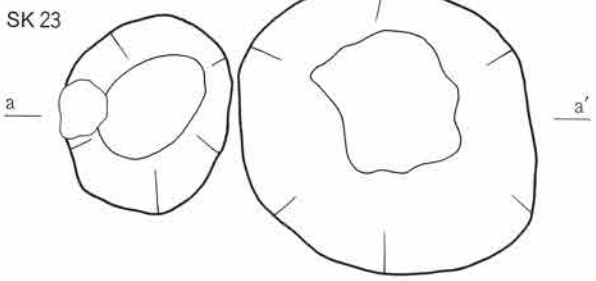
SK 20





1層　黒褐色土　粘性中。しまり中。炭化物少量。焼土粒少量。焼石少量。ローム粒少量。
2層　黒色土　粘性中。しまり中。炭化物多量。焼土塊少量。焼石少量。ローム粒少量。
3層　黒褐色土　粘性中。しまり中。炭化物少量。焼土粒少量。
4層　黒褐色土　粘性中。しまり中。炭化物多量。焼土塊少量。ローム粒多量。
5層　明褐色土　粘性強。しまり中。炭化物多量。焼土粒多量。ローム多量。

SK 23

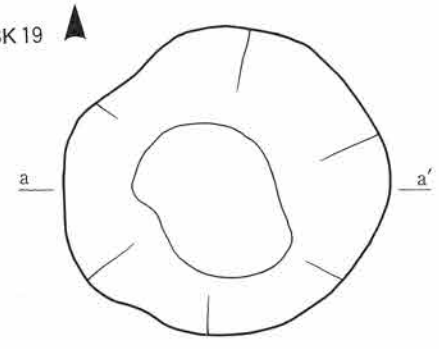


SK 22

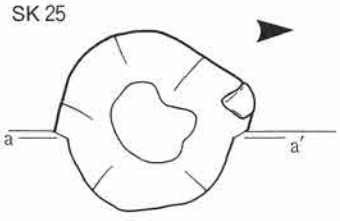
SK 23
1層　黒褐色土　粘性弱。しまり中。炭化物多量。
2層　黒褐色土　粘性中。しまり中。炭化物。焼土塊少量。

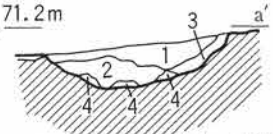
SK 22
1層　黒褐色土　粘性弱。しまり中。炭化物多量。焼土塊少量。
2層　黒褐色土　粘性中。しまり中。炭化物多量。焼土粒少量。
3層　黒褐色土　粘性中。しまり中。炭化物多量。焼土塊多量。ローム塊含む。
4層　黒褐色土　粘性中。しまり中。ローム多量。炭化物少量。
5層　明褐色土　粘性強。しまり中。ロームの中に黒褐色土混入。

SK 19



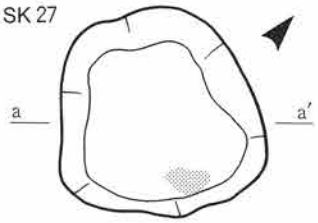
SK 25

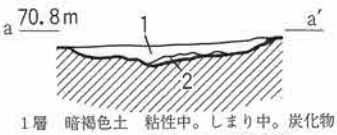




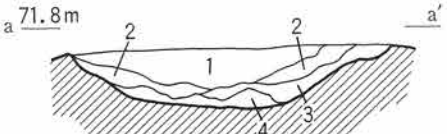
1層　暗褐色土　粘性中。しまり中。炭化物多量。焼土粒少量。ローム粒少量。
2層　暗褐色土　粘性中。しまり中。炭化物多量。ローム多量。
3層　褐色土　粘性中。しまり中。炭化物少量。焼土粒少量。ローム多量。
4層　褐色土　粘性強。しまり中。炭化物少量。ローム起源の土。

SK 27

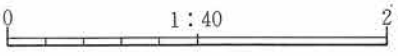




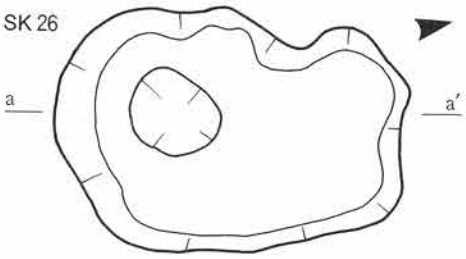
1層　暗褐色土　粘性中。しまり中。炭化物多量。ローム粒少量。
2層　暗褐色土　粘性中。しまり中。炭化物少量。ローム多量。



1層　黒色土　粘性中。しまり中。炭化物多量。ローム塊少量。
2層　黒褐色土　粘性中。しまり中。炭化物多量。ローム粒少量。
3層　暗褐色土　粘性中。しまり中。炭化物多量。ローム粒少量。
4層　暗褐色土　粘性中。しまり中。炭化物多量。焼土粒少量。ローム。

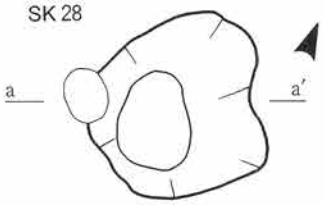


SK 26



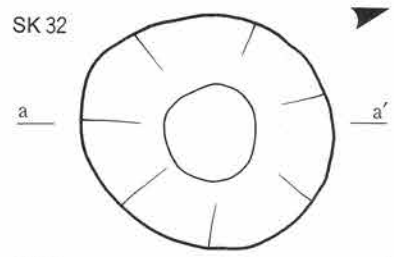
1層　黒褐色土　粘性中。しまり中。炭化物多量。焼石少量。焼粒少量。ローム粒少量。
2層　黒 褐 土　粘性中。しまり中。炭化物少量。焼土粒少量。ローム粒多量。
3層　暗褐色土　粘性中。しまり中。炭化物少量。ローム多量。

SK 28



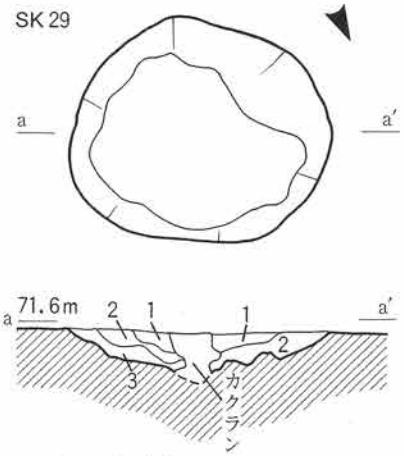
1層　暗褐色土　粘性中。しまり中。炭化物多量。ローム多量。
2層　褐 色 土　粘性強。しまり中。炭化物少量。ローム多量。

SK 32



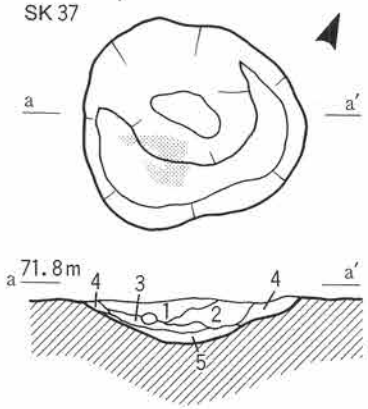
1層　黒 褐 色 土　粘性弱。しまり弱。炭化物少量。
2層　灰黄褐色土　粘性弱。しまり強。炭化物少量。焼土多量。
3層　暗 褐 色 土　粘性弱。しまり弱。炭化物多量。
4層　明黄褐色土　粘性強。しまり強。炭化物少量。焼土少量。

SK 29



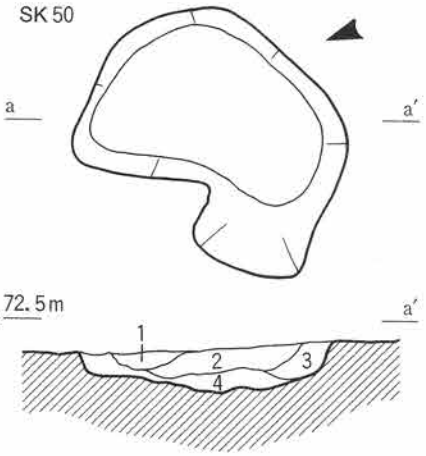
1層　黒褐色土　粘性中。しまり中。炭化物少量。焼土粒少量。ローム粒少量。
2層　暗褐色土　粘性中。しまり中。炭化物少量。焼土粒少量。ローム粒少量。
3層　明褐色土　粘性強。しまり中。炭化物少量。ローム多量。

SK 37



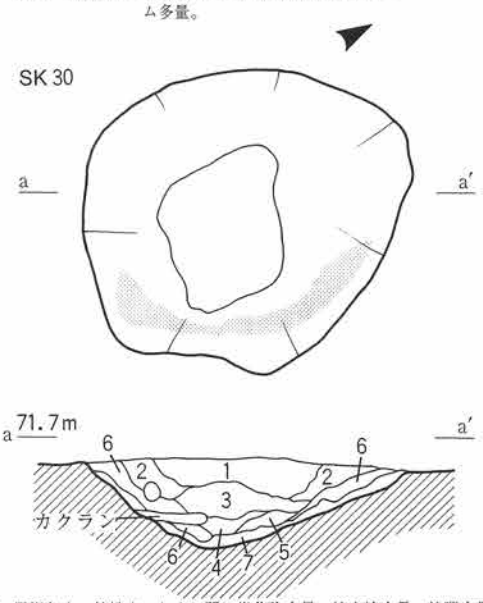
1層　黒褐色土　粘性弱。しまり中。炭化物少量。
2層　褐 色 土　粘性弱。しまり中。炭化物少量。
3層　暗褐色土　炭化物少量。
4層　褐 色 土　粘性弱。しまり中。
5層　明褐色土　粘性中。しまり強。ローム。上面に焼け面。

SK 50



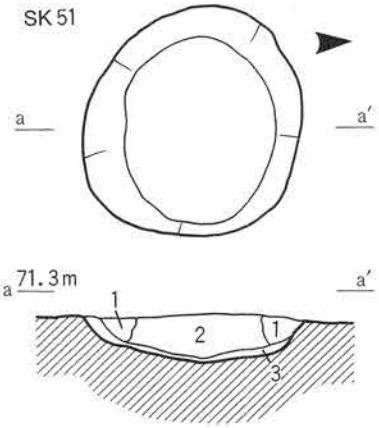
1層　褐 色 土　粘性弱。しまり弱。焼土粒含む。
2層　暗褐色土　粘性弱。しまり弱。炭化物。焼土含む。
3層　褐 色 土　粘性弱。しまり弱。炭化物。焼土含む。
4層　黒褐色土　粘性弱。しまり弱。炭化物。焼土多量。

SK 30



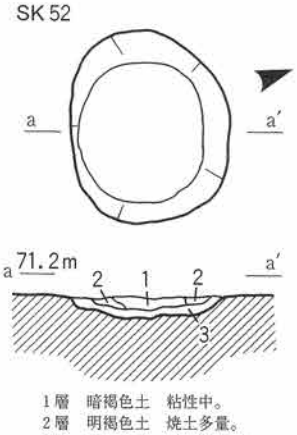
1層　黒褐色土　粘性中。しまり弱。炭化物少量。焼土塊少量。焼礫少量。
2層　黒褐色土　粘性中。しまり中。炭化物少量。焼土粒少量。
3層　黒褐色土　粘性中。しまり中。炭化物多量。焼土塊多量。焼礫少量。ローム粒少量。
4層　黒褐色土　粘性中。しまり中。炭化物多量。焼土粒少量。ローム少量。
5層　黒 色 土　粘性強。しまり中。炭化物多量。焼土粒少量。ローム少量。
6層　黒褐色土　粘性中。しまり中。炭化物多量。ローム多量。
7層　褐 色 土　粘性強。しまり中。炭化物少量。ローム多量。

SK 51

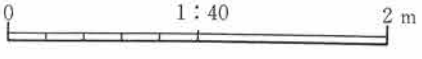


1層　暗褐色土
2層　黒褐色土　炭化物・焼けた礫少量。
3層　黄褐色土　黒褐色土少量混入。

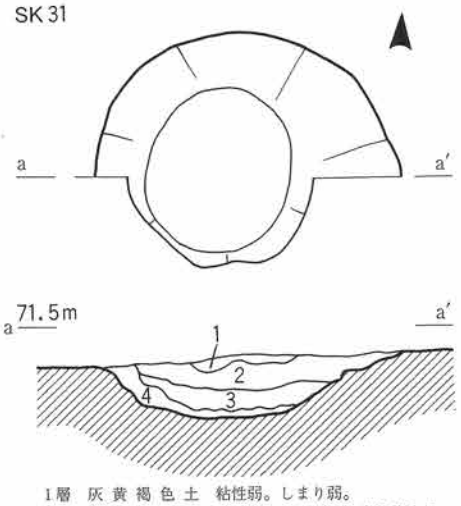
SK 52



1層　暗褐色土　粘性中。
2層　明褐色土　焼土多量。
3層　黒褐色土　炭化物多量。

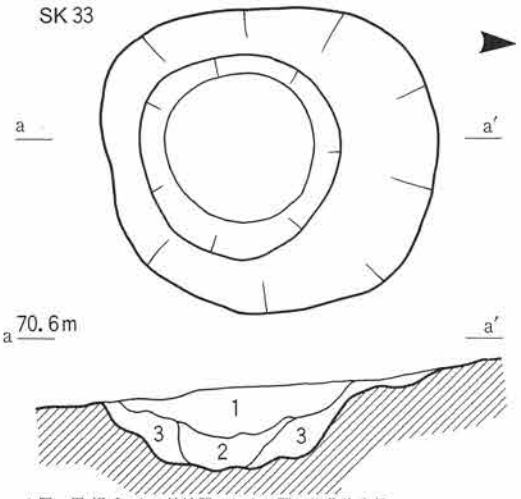


SK 31



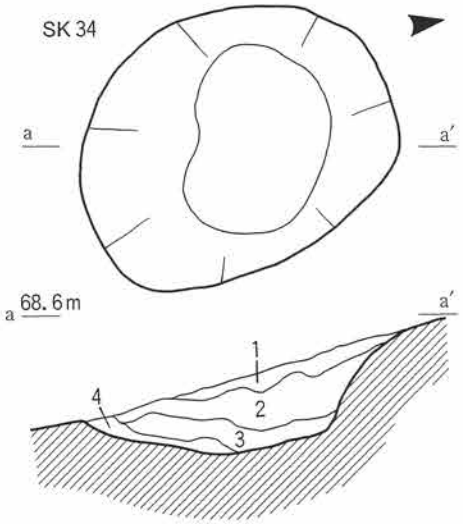
1層　灰黄褐色土　粘性弱。しまり弱。
2層　黒　褐　色　土　粘性弱。しまり強。炭化物少量。
3層　灰黄褐色土　粘性弱。しまり強。炭化物少量。
4層　にぶい黄橙色土　粘性強。しまり強。

SK 33



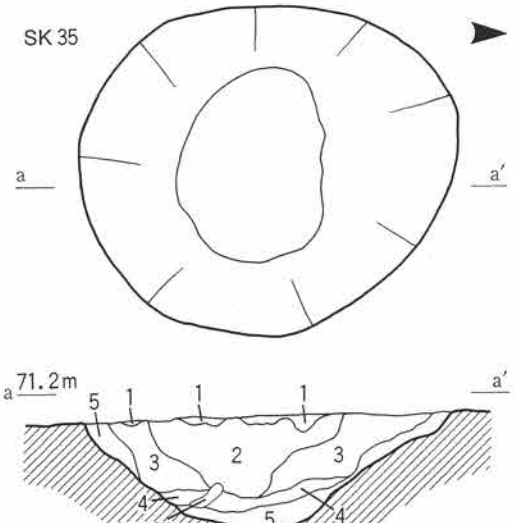
1層　黒褐色土　粘性弱。しまり弱。炭化物少量。
2層　黄灰褐色土　粘性弱。しまり中。炭化物少量。
3層　黄灰褐色土　粘性強。しまり弱。炭化物多量。径5㎜礫多量。
4層　明黄褐色土　粘性強。しまり強。径2㎜礫多量。

SK 34



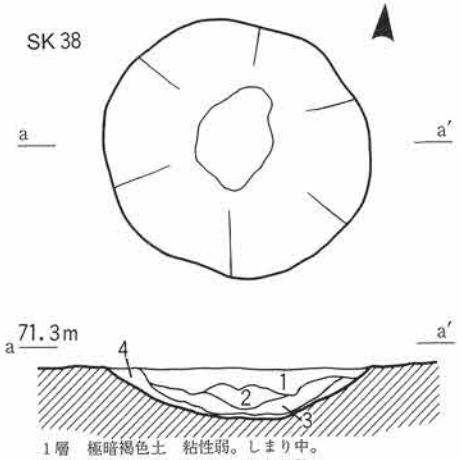
1層　にぶい黄褐色土　粘性弱。しまり弱。
2層　黒　褐　色　土　粘性弱。しまり弱。
3層　黒　　色　　土　粘性強。しまり中。炭化物多量。
4層　灰黄褐色土　粘性弱。しまり弱。炭化物少量。

SK 35



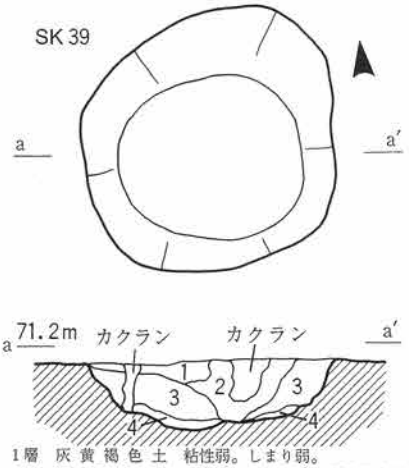
1層　褐灰色土　粘性弱。しまり弱。
2層　黒　色　土　粘性強。しまり中。
3層　褐灰色土
4層　黒褐色土　粘性強。しまり中。炭化物少量。
5層　明黄褐色土　粘性強。しまり強。

SK 38



1層　極暗褐色土　粘性弱。しまり中。
2層　黒褐色土　粘性弱。しまり強。
3層　暗褐色土　粘性中。しまり強。炭化物。焼土。
4層　褐　色　土　粘性中。しまり強。

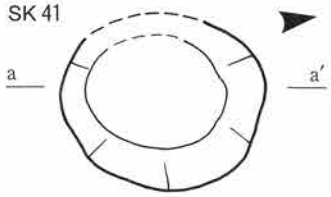
SK 39

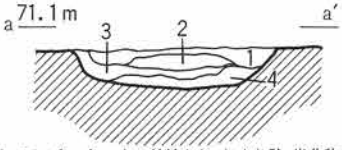


1層　灰黄褐色土　粘性弱。しまり弱。
2層　褐　灰　色　土　粘性弱。しまり弱。炭化物少量。
3層　にぶい黄橙色土
4層　黒　褐　色　土　粘性強。しまり弱。炭化物少量。

0　1：40　2m

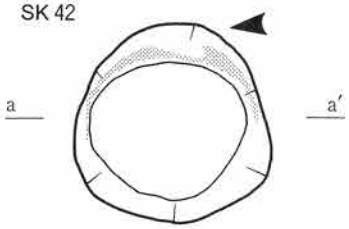
SK 41

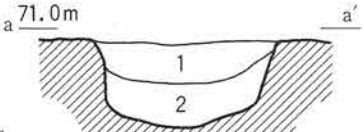




1層　灰白色土　粘性なし。しまり強。炭化物少量。
2層　黒褐色土　粘性弱。しまり強。炭化物少量。
3層　にぶい黄橙色土
4層　明黄褐色土　粘性強。しまり強。ローム質。

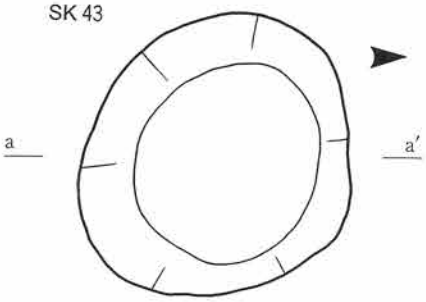
SK 42

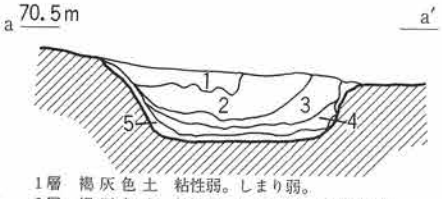




1層　にぶい黄橙色土　粘性強。しまり強。炭化物少量。
2層　黒色土　粘性弱。しまり弱。炭化物多量。

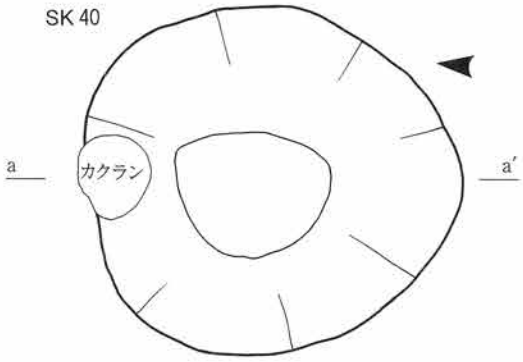
SK 43

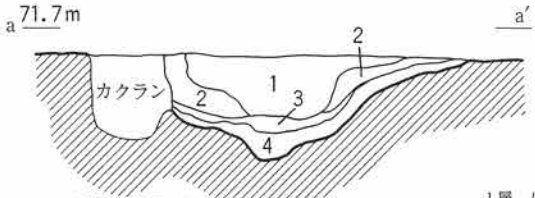




1層　褐灰色土　粘性弱。しまり弱。
2層　褐灰色土　粘性強。しまり強。炭化物多量。
3層　灰褐色土　粘性弱。しまり強。炭化物多量。
4層　黒色土　粘性なし。しまり弱。炭化物多量。
5層　明黄褐色土　粘性弱。しまり弱。焼土少量。

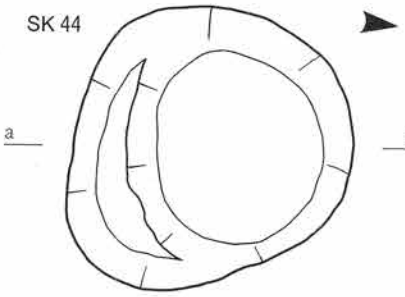
SK 40

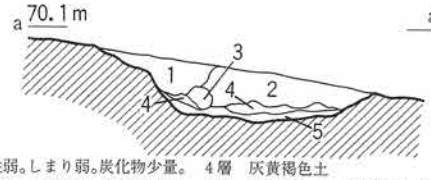




1層　黒褐色土　粘性弱。しまり弱。炭化物少量。径10㎜の礫多量。
2層　褐灰色土　粘性弱。しまり強。炭化物少量。
3層　にぶい黄橙色土
4層　明黄褐色土　粘性強。しまり強。ローム含む。

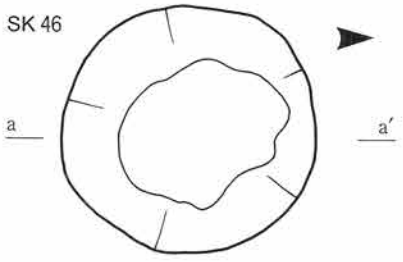
SK 44

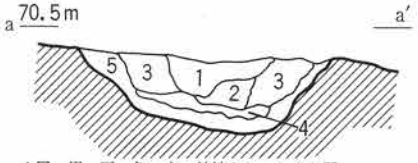




1層　にぶい黄橙色土　粘性弱。しまり弱。炭化物少量。
2層　褐灰色土　粘性弱。しまり強。炭化物多量。
3層　灰黄褐色土
4層　灰黄褐色土
5層　明黄褐色土　粘性強。しまり強。ローム含む。

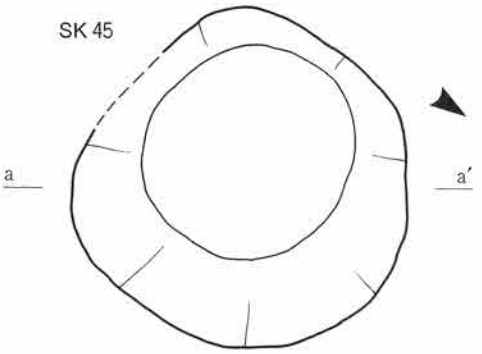
SK 46

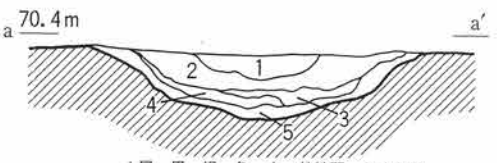




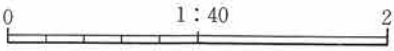
1層　褐灰色土　粘性なし。しまり弱。
2層　にぶい黄褐色土
3層　褐灰色土
4層　黒褐色土　粘性弱。しまり弱。炭化物。
5層　褐色土　粘性強。しまり強。ローム含む。

SK 45

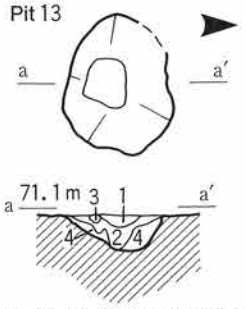




1層　黒褐色土　粘性弱。しまり強。
2層　褐灰色土　粘性弱。しまり弱。2～20㎜の礫多量。
3層　褐灰色土
4層　黒色土　粘性強。しまり弱。炭化物少量。
5層　にぶい黄橙色土　粘性強。しまり強。炭化物少量。

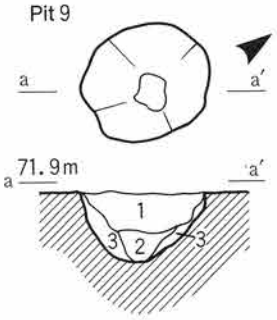


Pit 13



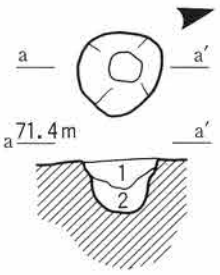
1層　赤　褐　色　土　粘性弱。しまり強。
2層　うすい赤褐色土　粘性中。しまり中。焼土含む。
3層　褐　色　土　粘性中。しまり弱。
4層　黄　褐　色　土　粘性強。しまり中。

Pit 9



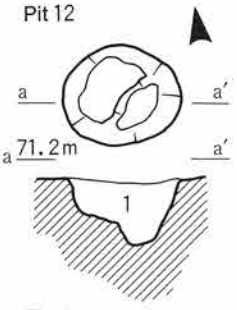
1層　黒褐色土　粘性弱。しまり弱。
2層　暗褐色土　粘性中。しまり弱。
3層　褐　色　土　粘性強。しまり強。

Pit 7



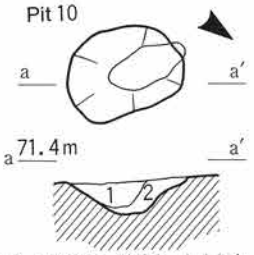
1層　暗褐色土　粘性中。しまり中。炭化物少量。焼土粒。ローム粒少量。
2層　褐　色　土　粘性中。しまり中。ローム多量。

Pit 12



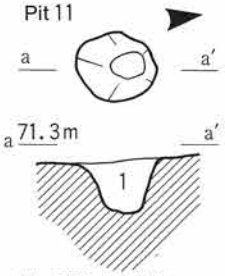
1層　暗褐色土　粘性中。しまり弱。炭化物少量。ローム少量。

Pit 10



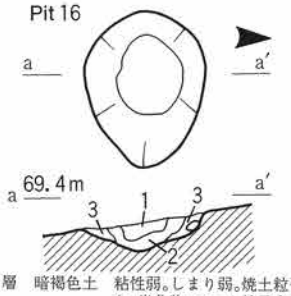
1層　黒褐色土　粘性中。しまり中。炭化物少量。焼土粒少量。ローム塊少量。
2層　褐　色　土　粘性中。しまり中。炭化物少量。焼土粒少量。ローム粒多量。

Pit 11



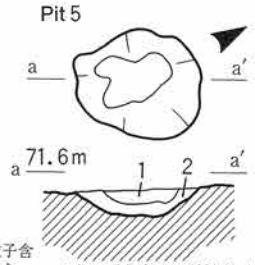
1層　黒褐色土　粘性中。しまり中。ローム粒少量。

Pit 16



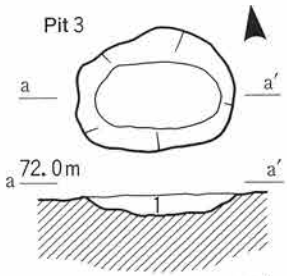
1層　暗褐色土　粘性弱。しまり弱。焼土粒子含む。炭化物・ローム粒子含む。
2層　褐　色　土　粘性弱。しまり弱。炭化物少量。ローム含む。
3層　黄褐色土　粘性中。しまり弱。ローム含む。礫含む。

Pit 5



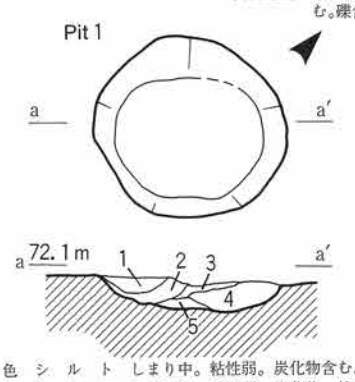
1層　暗褐色土　粘性弱。しまり弱。焼土粒子。炭化物。ローム質含む。
2層　褐　色　土　粘性弱。炭化物少量。

Pit 3



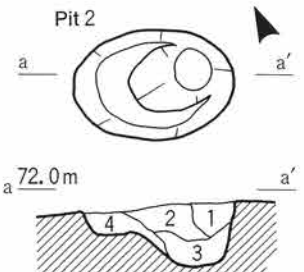
1層　黒褐色土　粘性中。しまり中。炭化物少量。ローム多量。

Pit 1



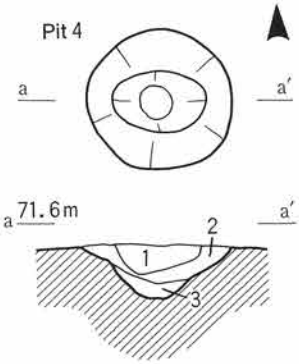
1層　褐　色　シ　ル　ト　しまり中。粘性弱。炭化物含む。
2層　褐　色　シ　ル　ト　しまり中。粘性弱。炭化物・焼土含む。
3層　褐　色　シ　ル　ト　しまり中。粘性弱。やや大型の炭化物を含む。
4層　黒褐色粘土質シルト　しまりやや弱。粘性やや弱。炭化物多量。
5層　褐　色　シ　ル　ト　しまり中。粘性弱。炭化物。焼土。

Pit 2



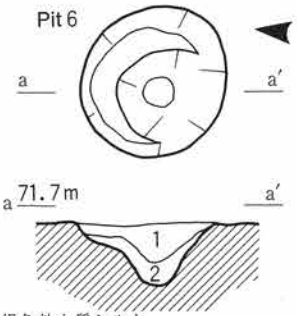
1層　褐色粘土質シルト　しまり弱。粘性中。
2層　褐色粘土質シルト　しまりやや弱。粘性中。
3層　明褐色粘土質シルト　しまり弱。粘性中。ロームブロック含む。
4層　明褐色粘土質シルト　しまりやや良。粘性弱。ローム層由来の土。

Pit 4



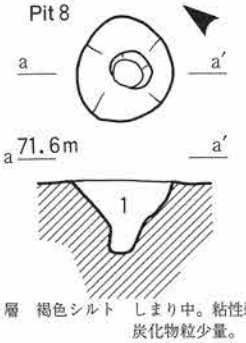
1層　褐　色　シ　ル　ト　しまりやや不良。粘性弱。
2層　明　褐　色　シ　ル　ト　しまりやや不良。粘性中。
3層　褐色粘土質シルト　しまり中。粘性中。
4層　明　褐　色　シ　ル　ト　しまり中。粘性やや弱。

Pit 6

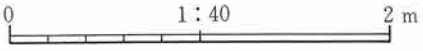


1層　褐色粘土質シルト
しまり中。粘性中。径1㎝の円礫を少量。
2層　明褐色シルト質粘土
しまりやや弱。粘性やや強。ロームブロック含む。

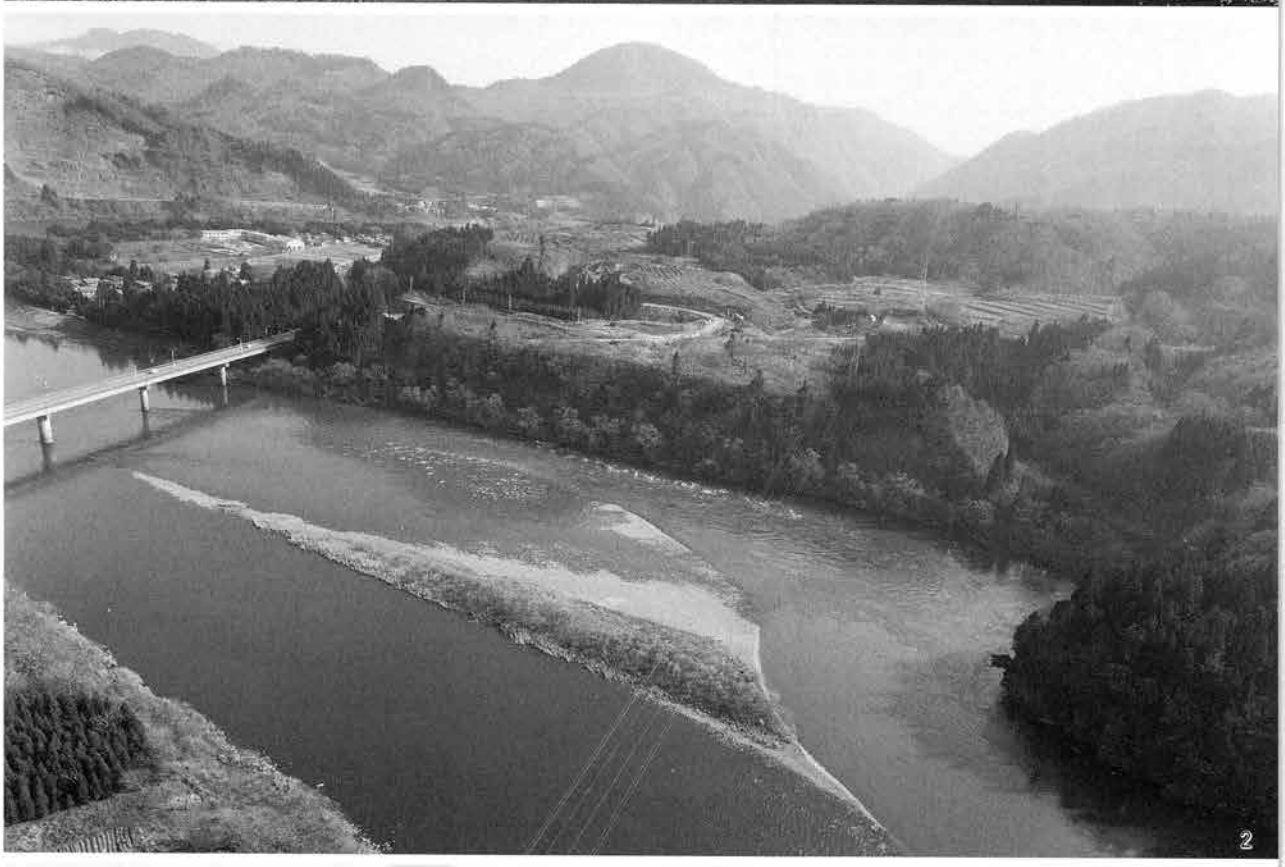
Pit 8



1層　褐色シルト　しまり中。粘性弱。
炭化物粒少量。



1．遺跡遠景（北東から）

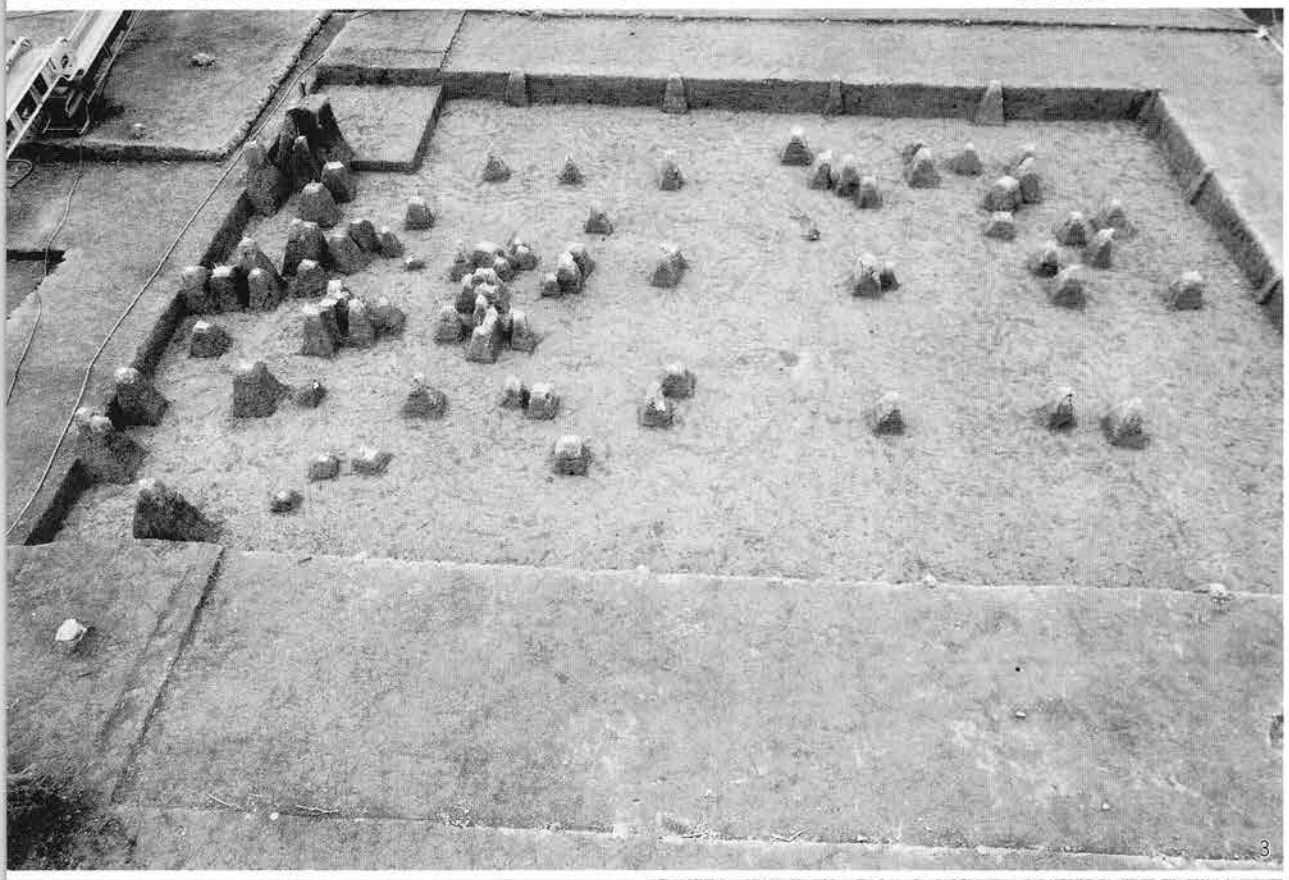


2．遺跡遠景　（西から）

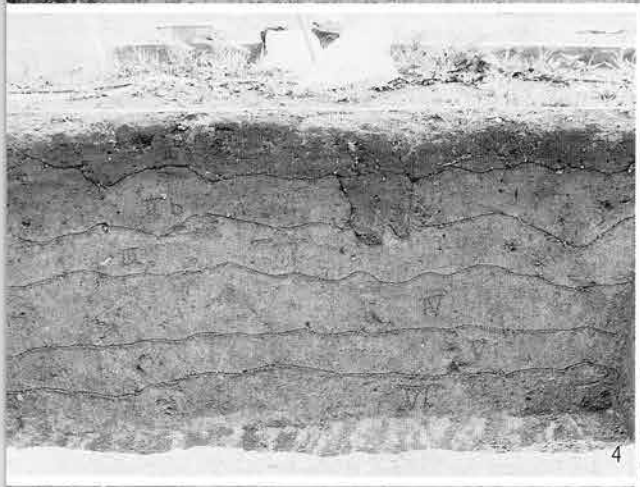
3．上ノ平遺跡
C 地点遠景（西から）

4．吉ケ沢遺跡
B 地点遠景（西から）

1．遺跡空撮写真
2．遺跡遠景
（吉ケ沢遺跡
B地点から）



3．ブロック3a、3b
遺物出土状況



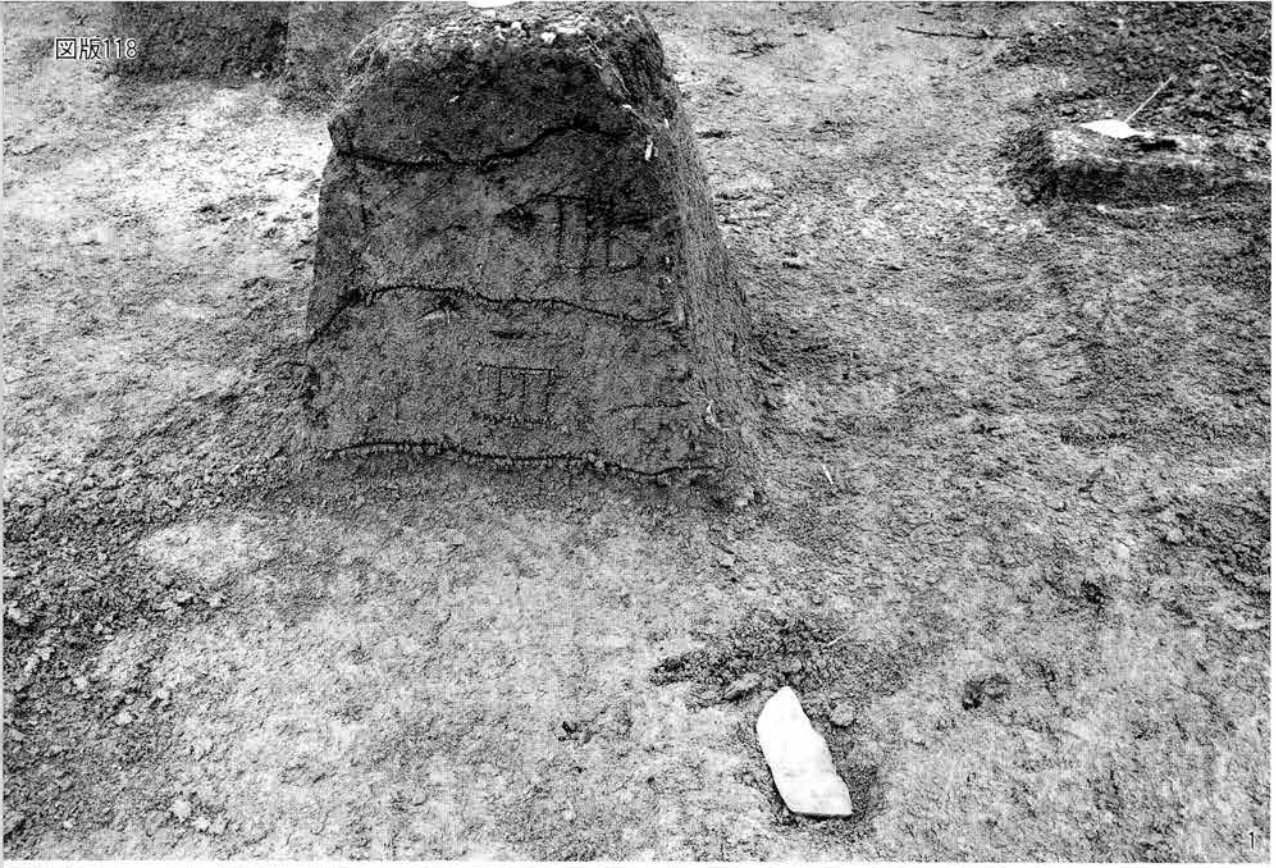
4．基本層序
5．彫刻刀形石器
出土状況

6．ブロック5
遺物出土状況
7．ブロック5
遺物出土状況

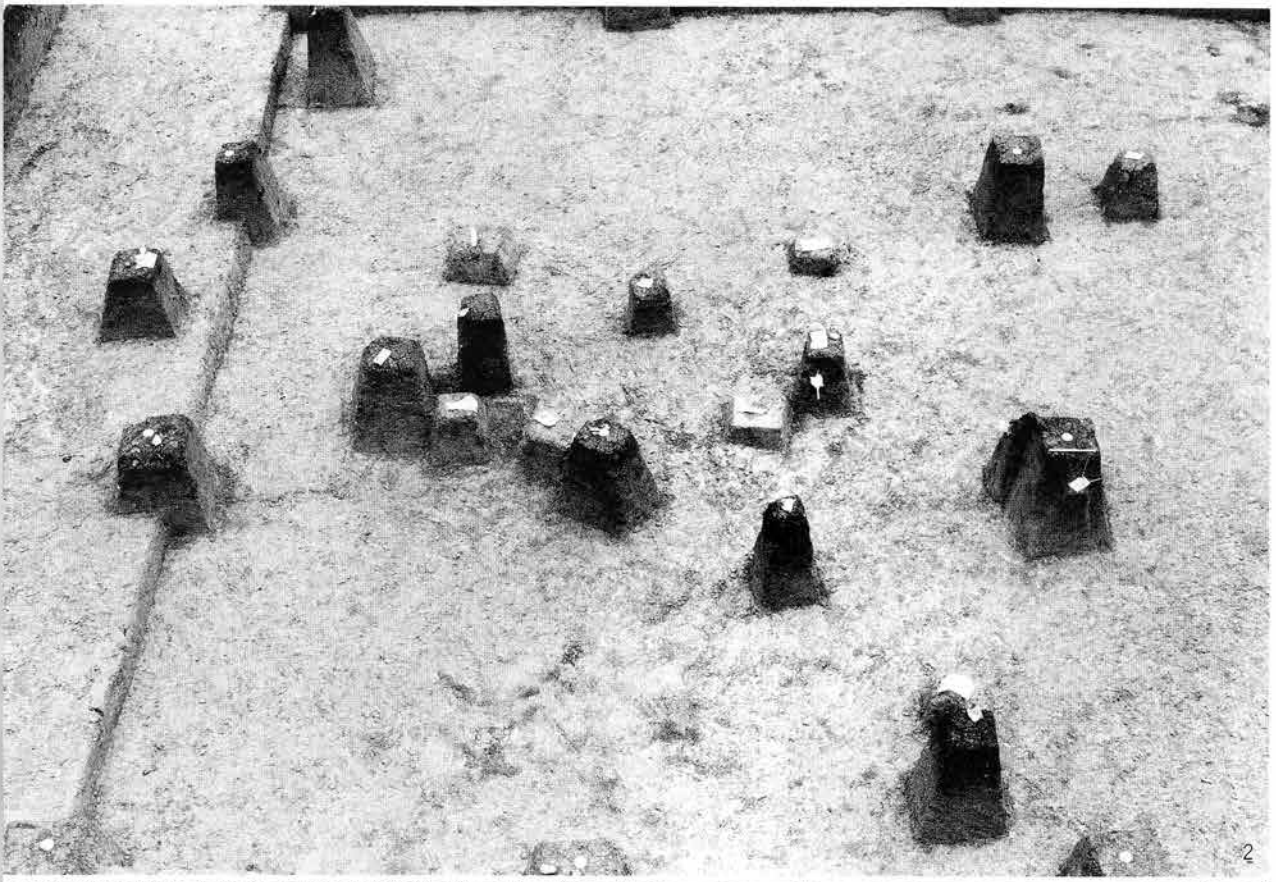
1．ブロック４
遺物出土状況

2．ブロック７a
遺物出土状況

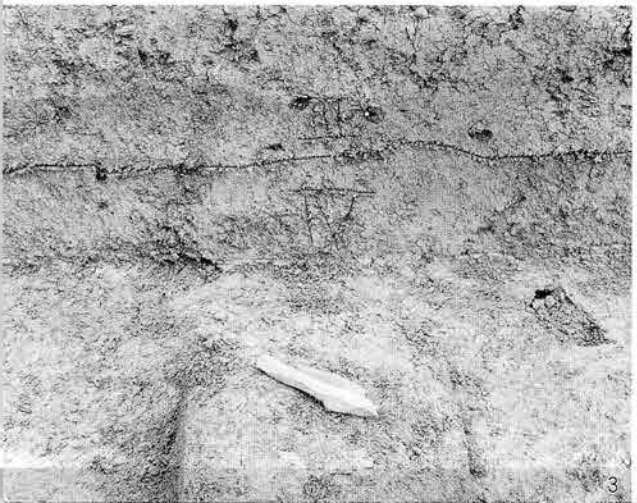
3．ブロック７b
遺物出土状況

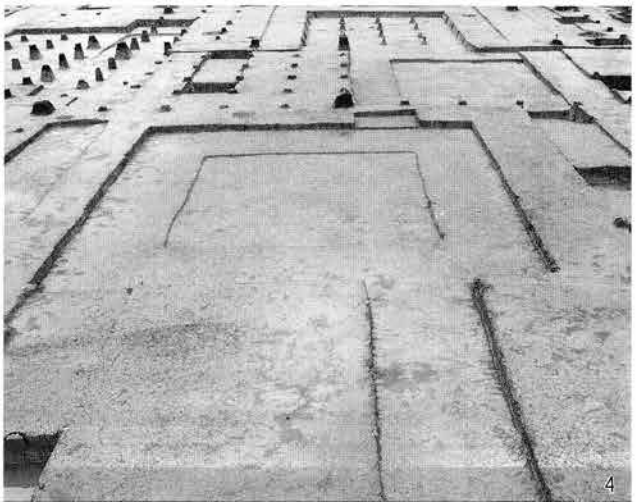


1．彫刻刀形石器
出土状況

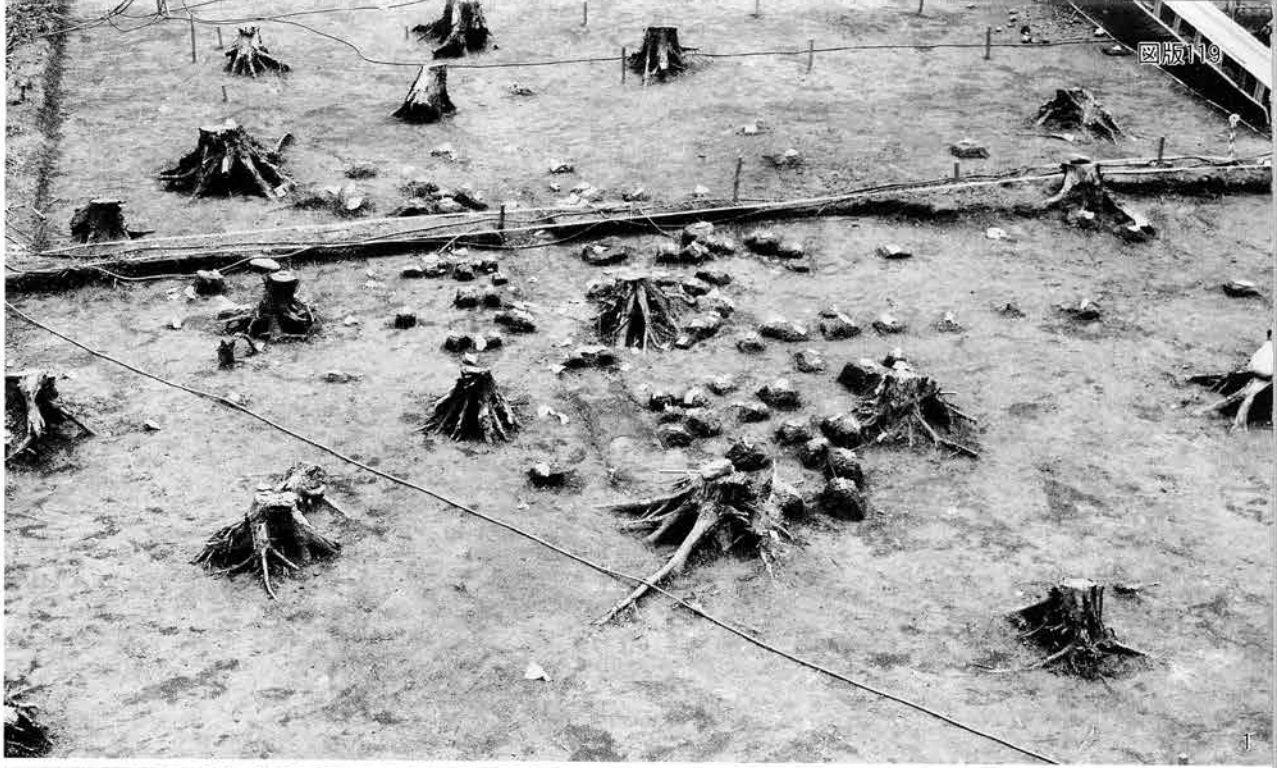


2．ブロック8
遺物出土状況





3．石刃出土状況
4．東地区完掘状況

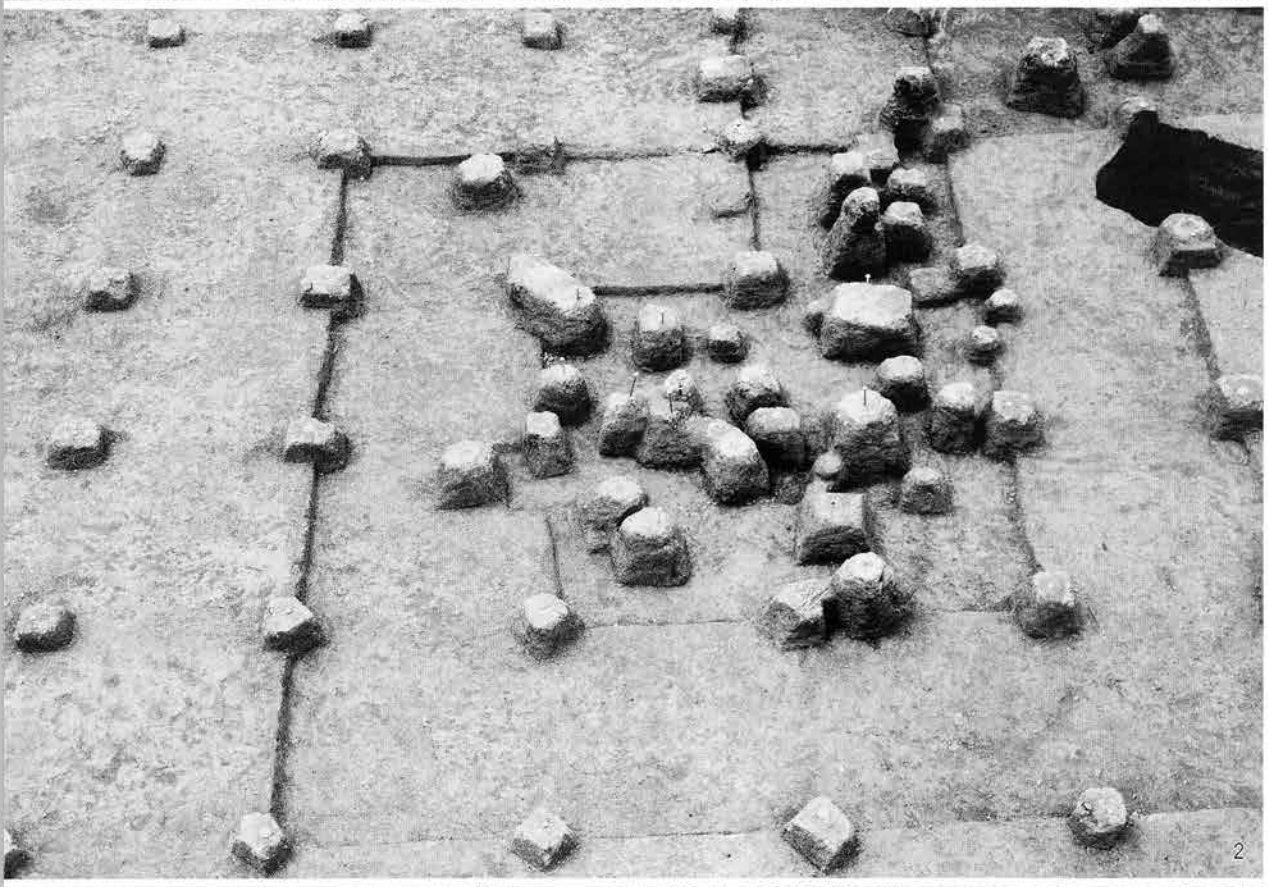


1．ブロック1 Ⅱa層
遺物出土状況

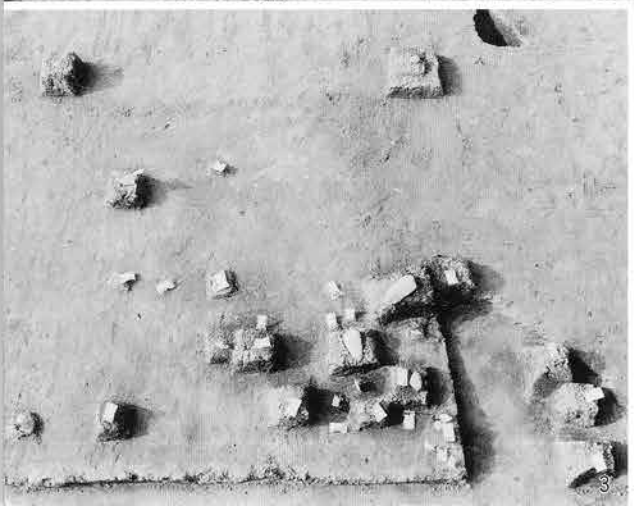
2．ブロック1
遺物出土状況

3．ブロック1
遺物出土状況

1．ブロック1
遺物出土状況



2．ブロック6
遺物出土状況



3．ブロック9
遺物出土状況
4．ブロック6
尖頭器出土状況

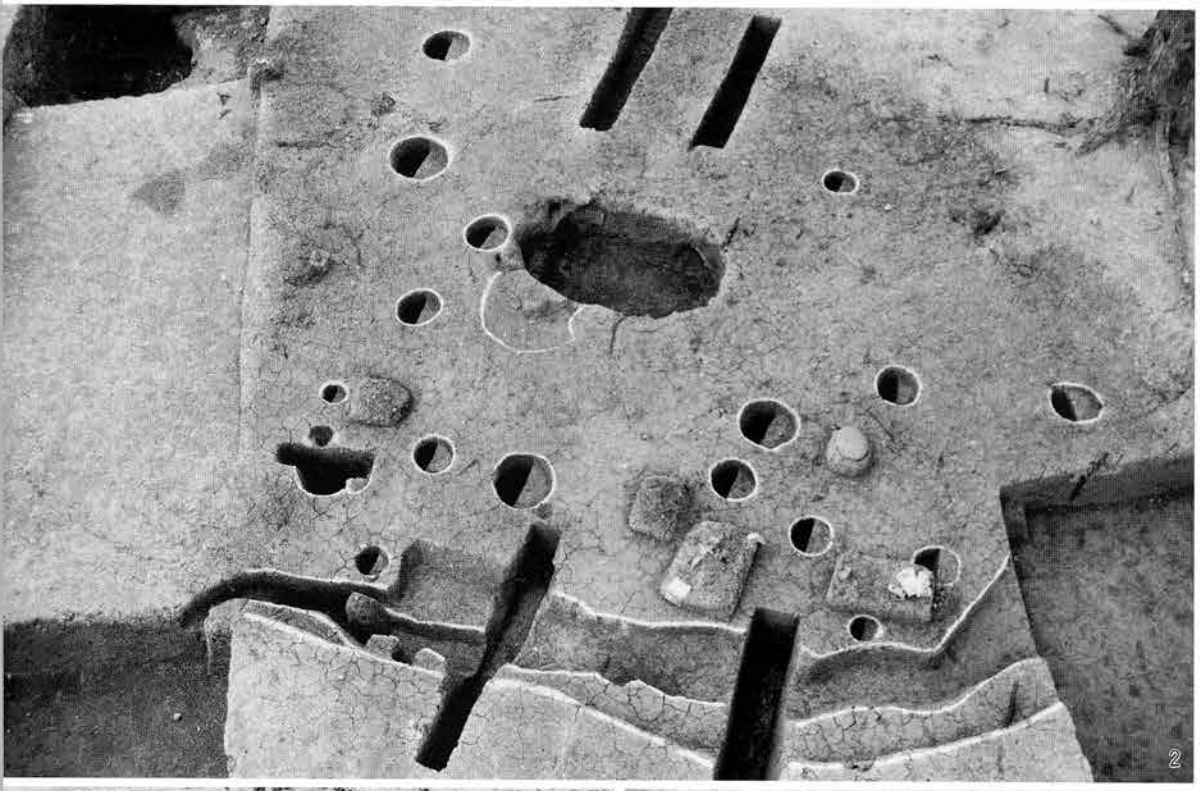
1．西地区縄文時代の遺物出土状況（西から）

2．西地区縄文時代の遺物出土状況（西から）

3．西地区南側斜面遺物出土状況（北から）

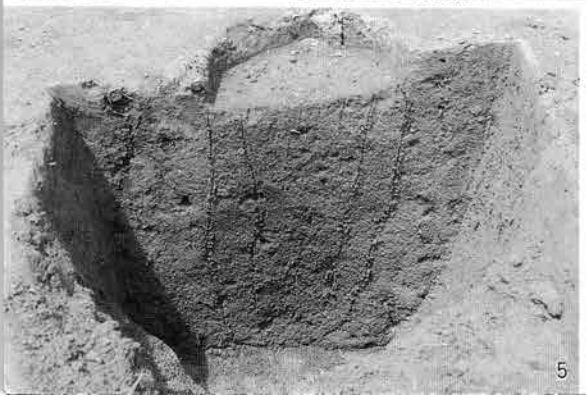
4．西地区南側斜面遺物出土状況（西から）

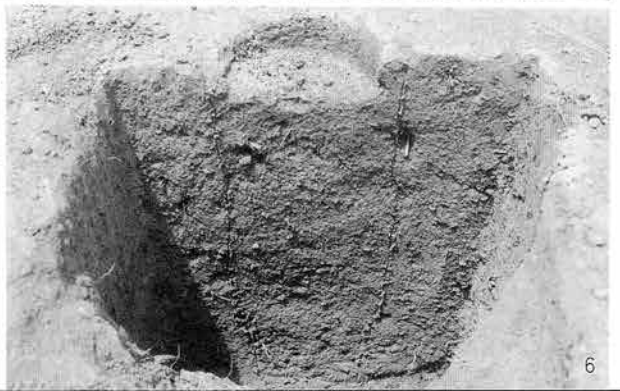
1．SI 1 検出状況



2．SI 1 完掘状況

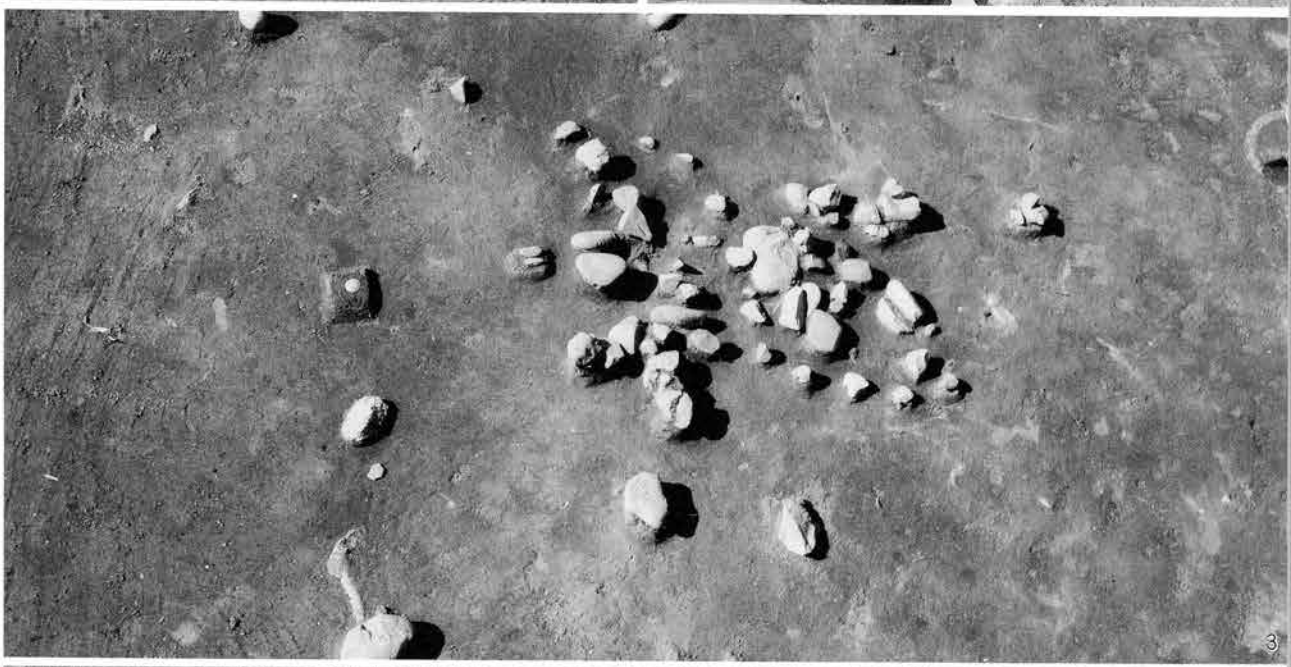
3．SI 1 土層断面
4．SI 1 Pit 1 断面



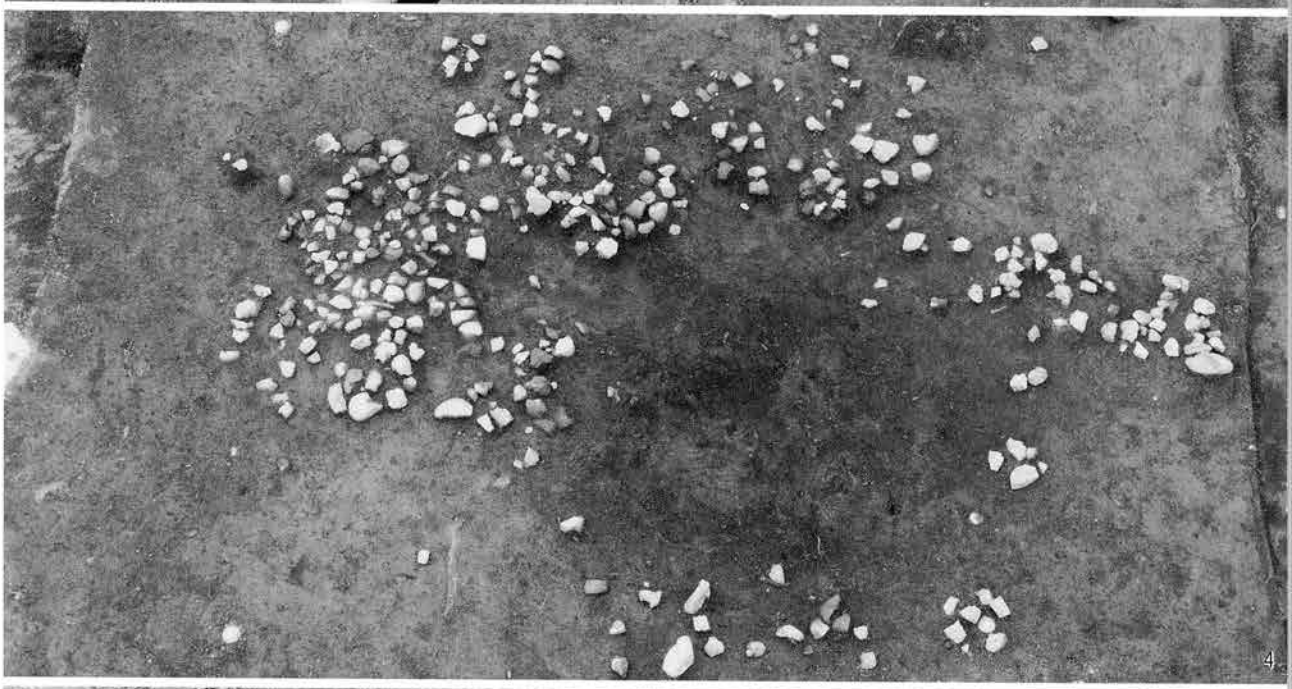


5．SI 1 Pit 2 断面
6．SI 1 Pit 3 断面

1．Pit 15
　土器出土状況
2．東地区新崎式土器
　出土状況

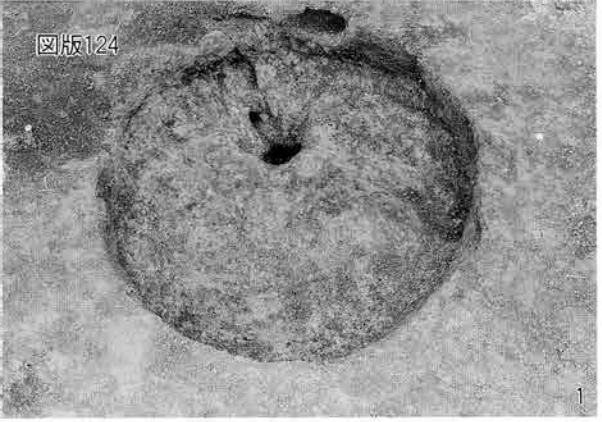


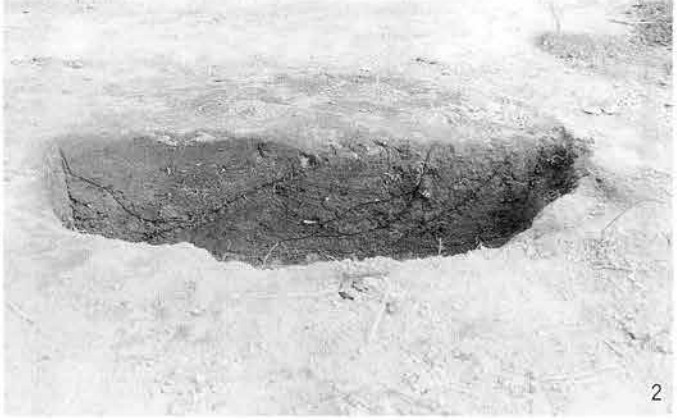
3．1号集石遺構



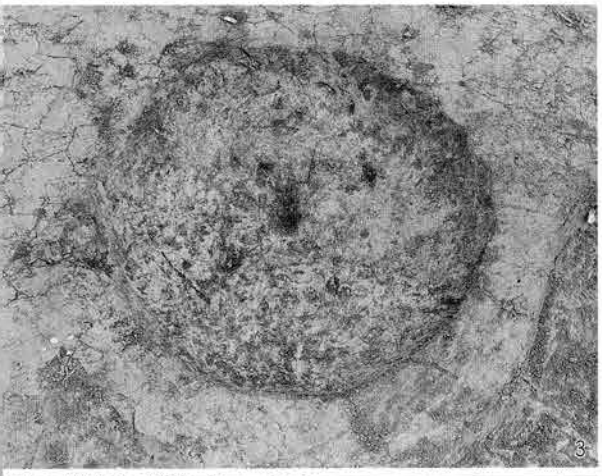
4．2号集石遺構

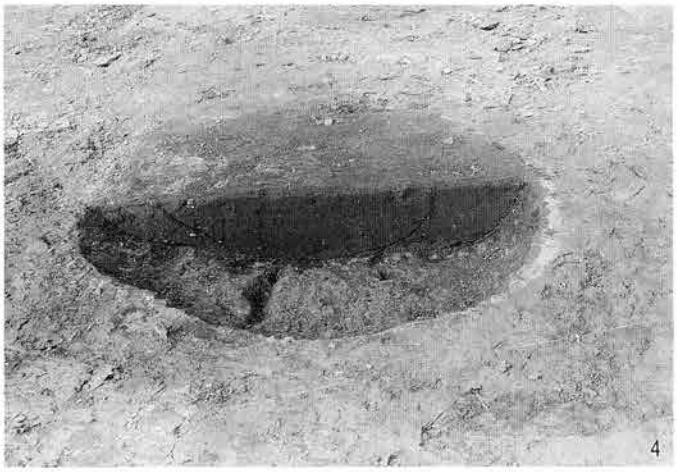
5．3号集石遺構



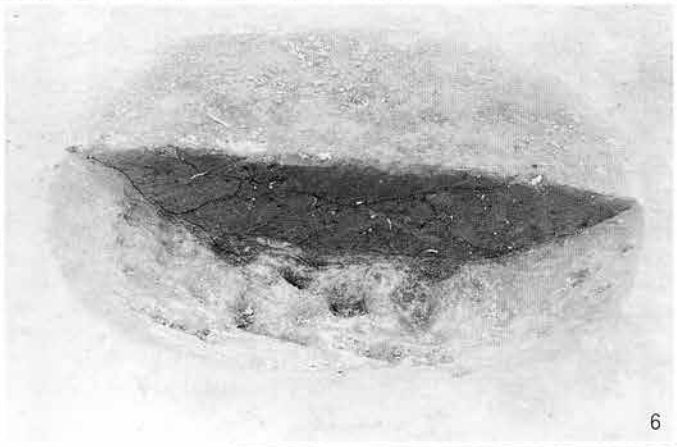


1．SK1 完掘状況
2．SK1 土層断面

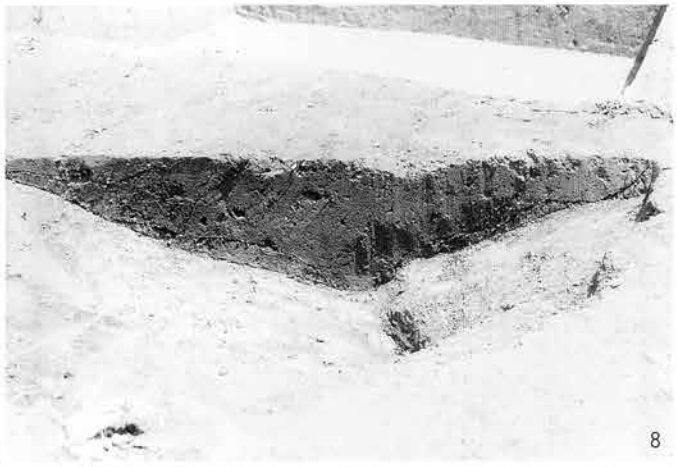




3．SK2 完掘状況
4．SK2 土層断面

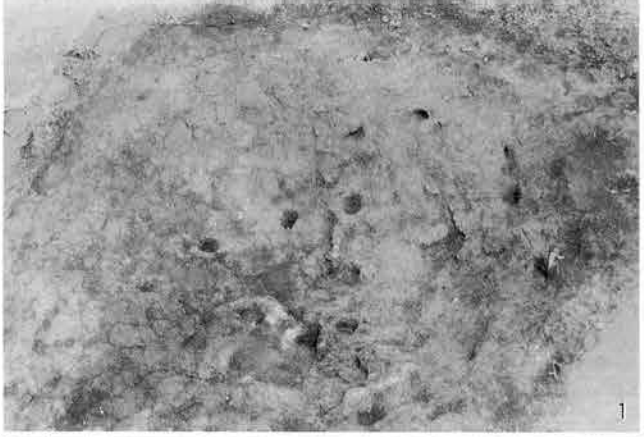
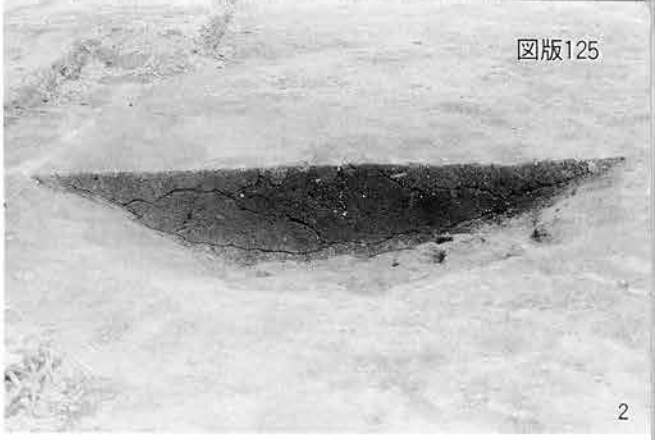


5．SK4 完掘状況
6．SK4 土層断面

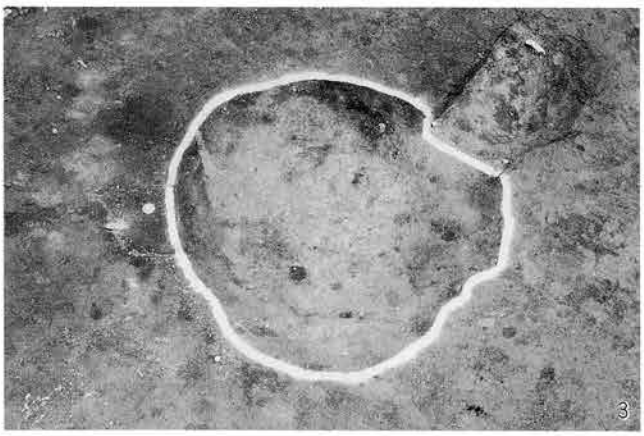
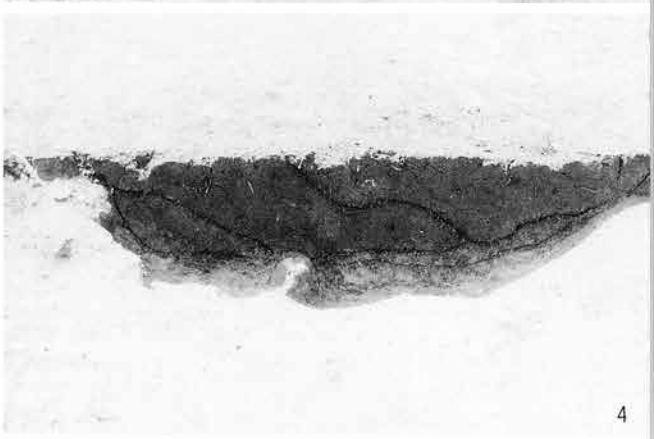


7．SK6 完掘状況
8．SK6 土層断面

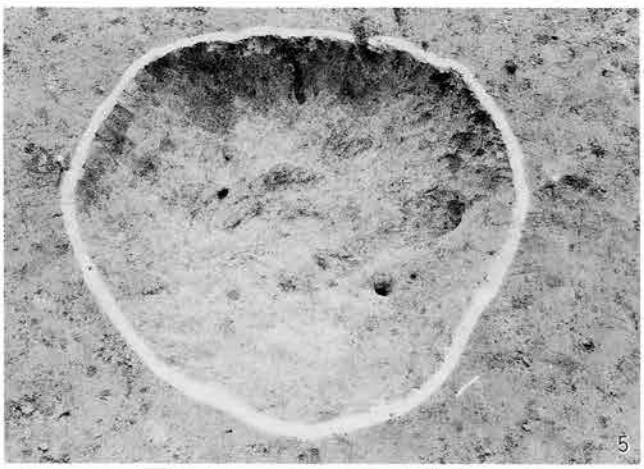
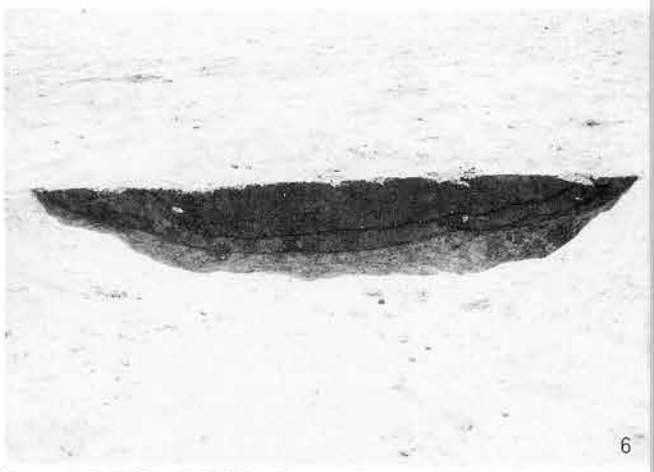
9．SK7 完掘状況
10．SK7 土層断面

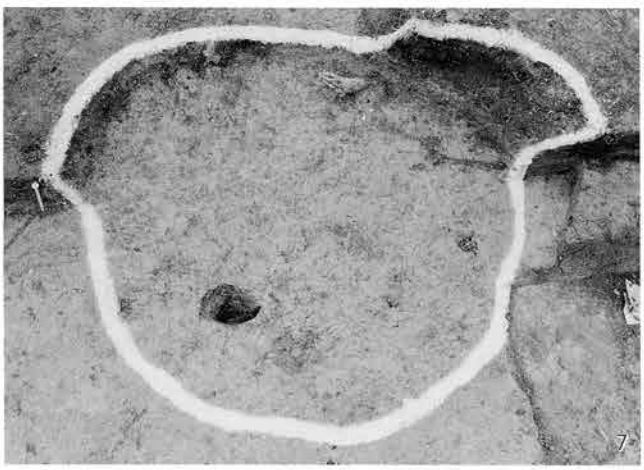
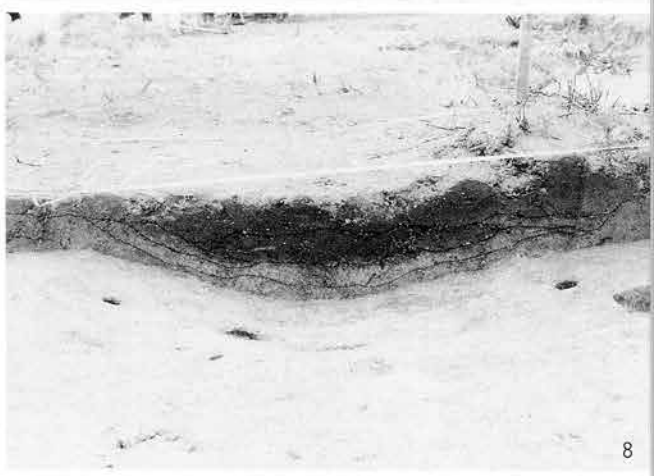
1．SK 14完掘状況
2．SK 14土層断面

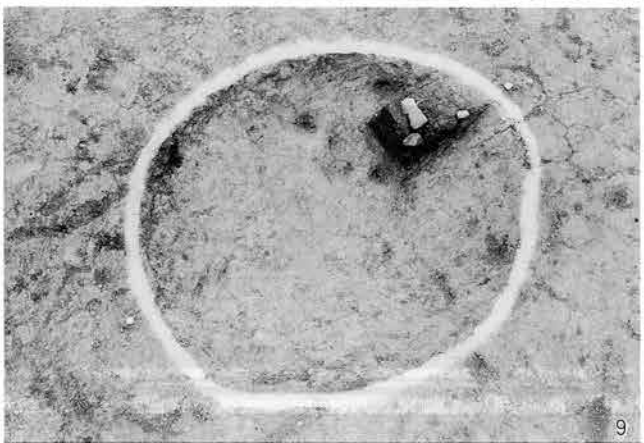
3．SK 17完掘状況
4．SK 17土層断面

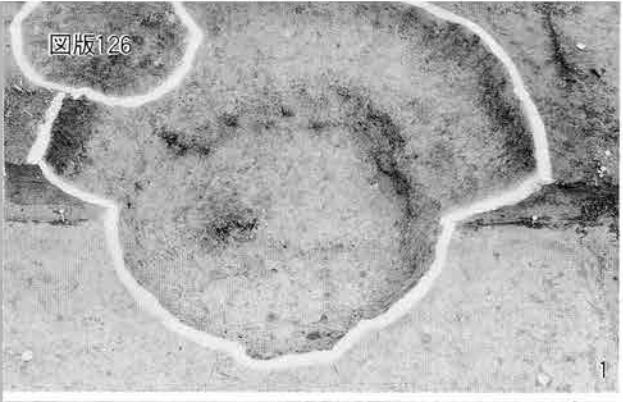
5．SK 18完掘状況
6．SK 18土層断面

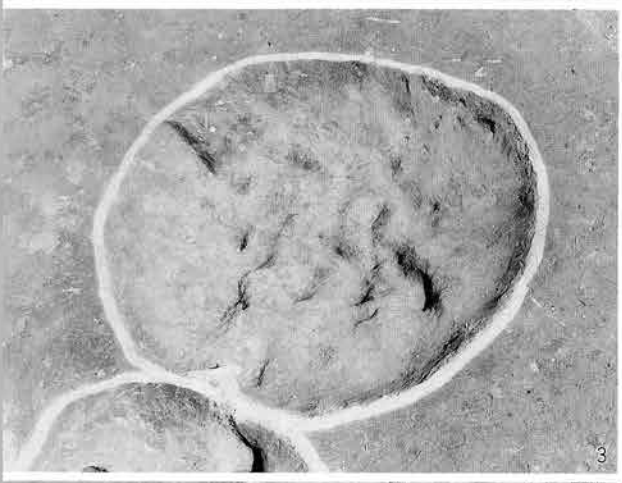
7．SK 21完掘状況
8．SK 21土層断面

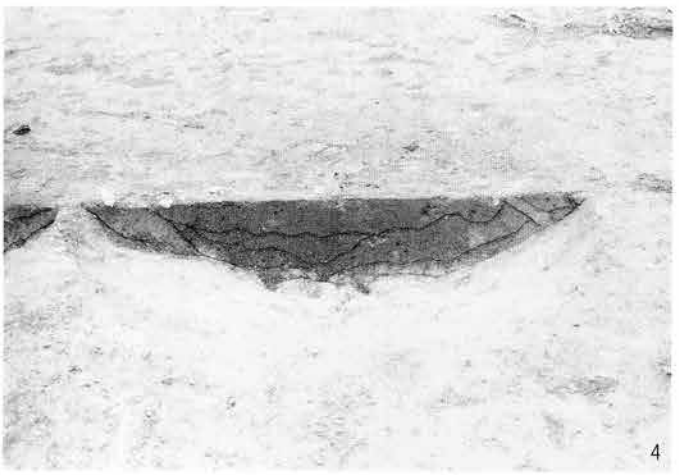


9．SK 24完掘状況
10．SK 24土層断面

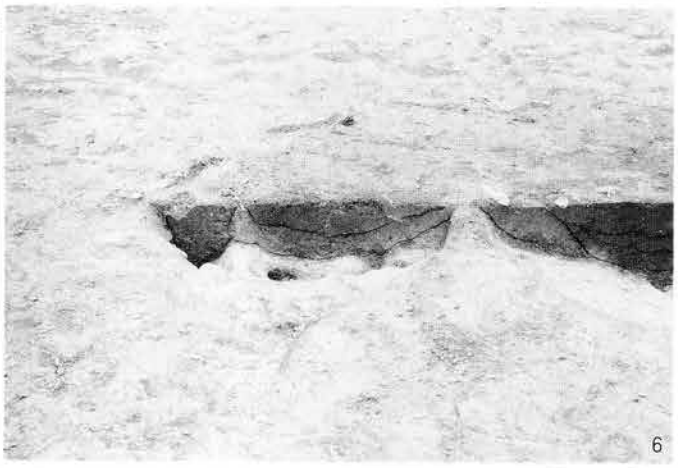


1．SK 20完掘状況
2．SK 20土層断面

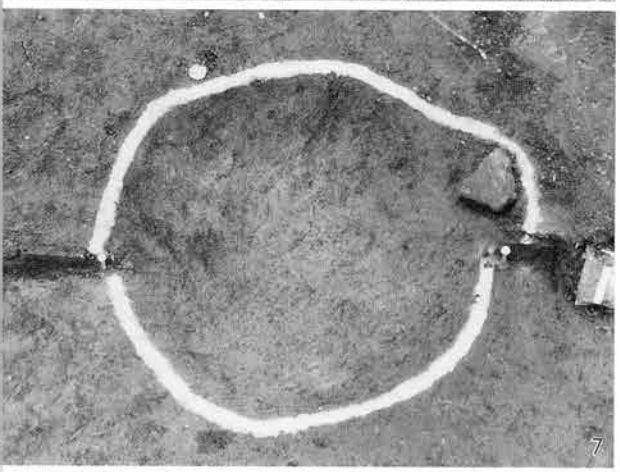




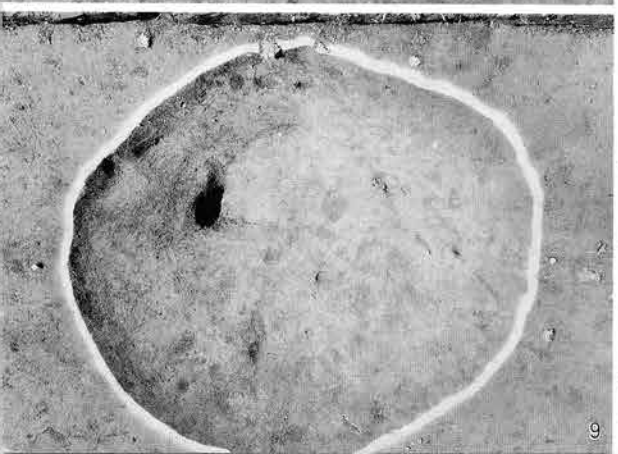
3．SK 22完掘状況
4．SK 22土層断面

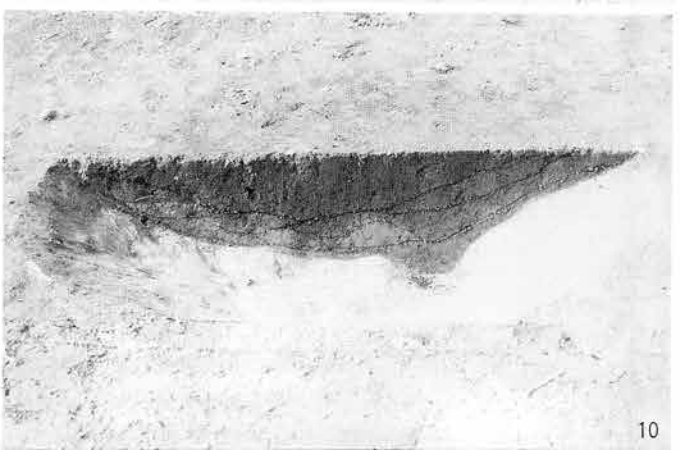


5．SK 23完掘状況
6．SK 23土層断面



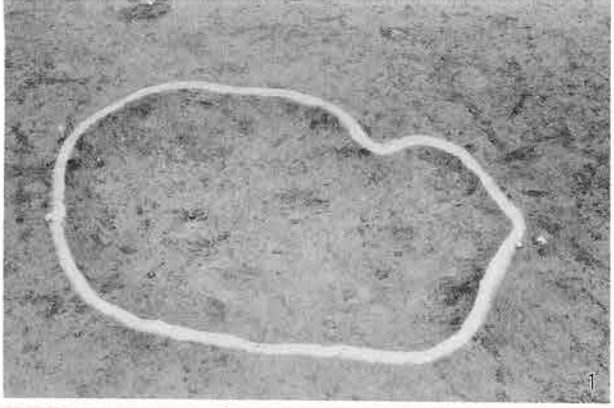
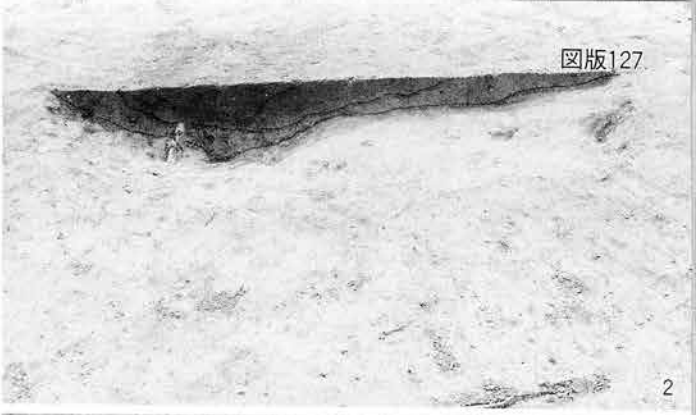
7．SK 25完掘状況
8．SK 25土層断面



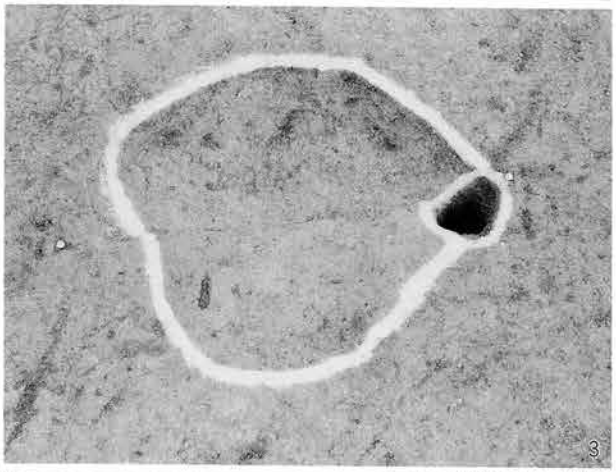


9．SK 19完掘状況
10．SK 19土層断面

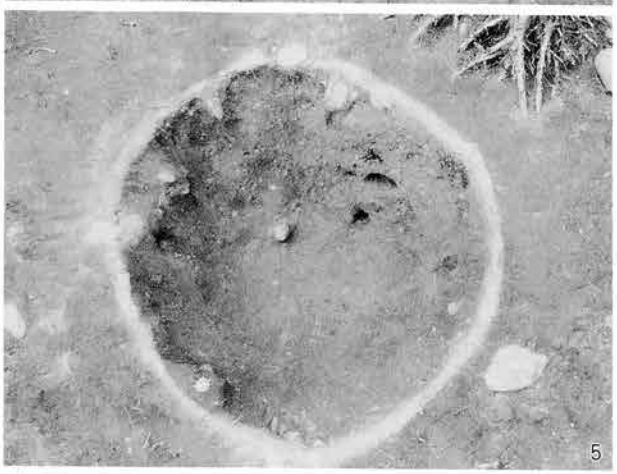
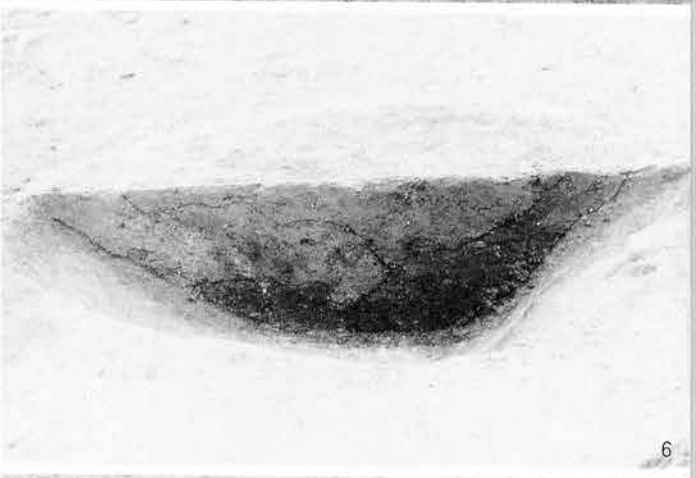
1．SK 26完掘状況
2．SK 26土層断面

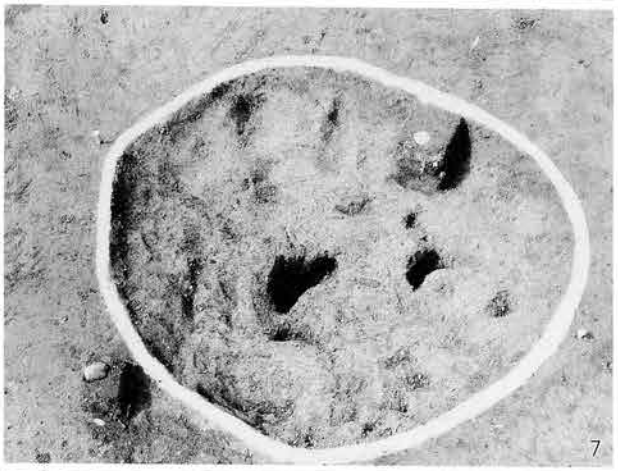
3．SK 28完掘状況
4．SK 28土層断面



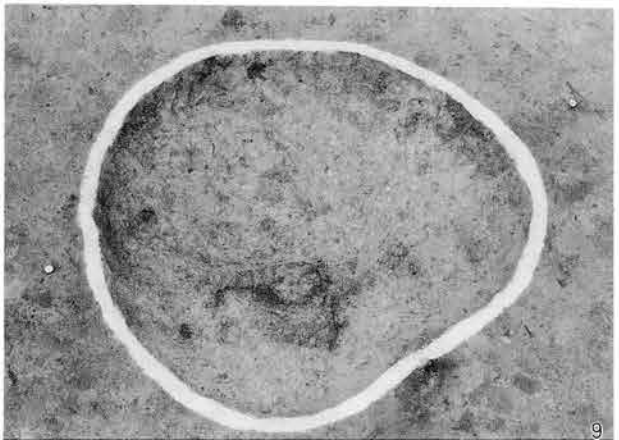
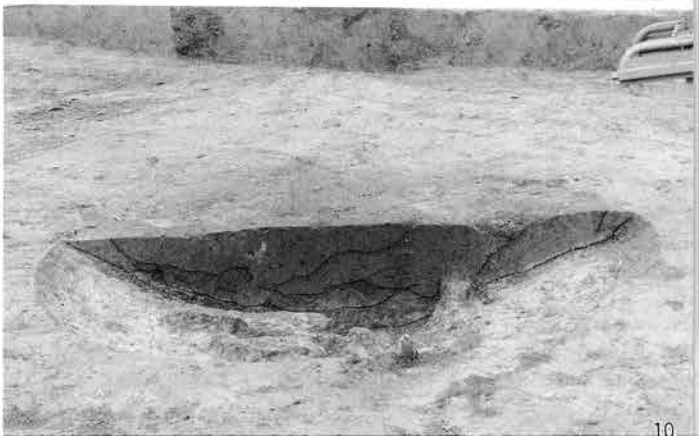
5．SK 32完掘状況
6．SK 32土層断面

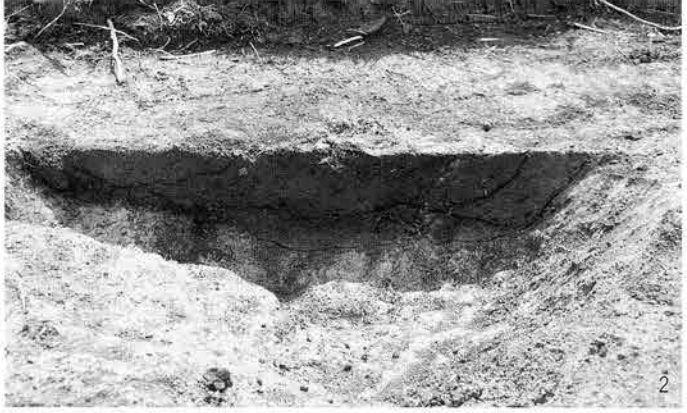
7．SK 29完掘状況
8．SK 29土層断面



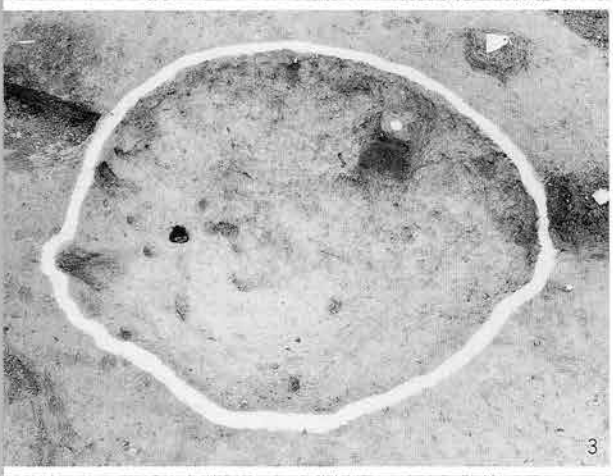
9．SK 37完掘状況
10．SK 37土層断面

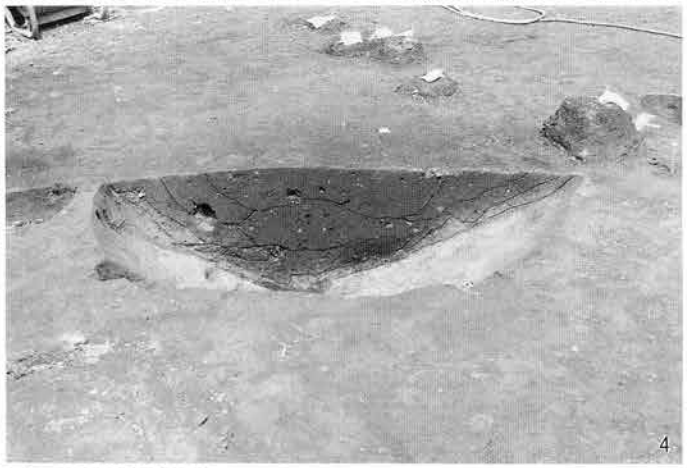



1

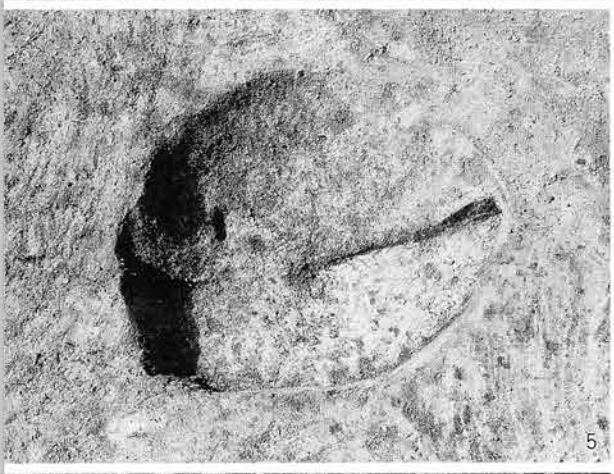

2

1．SK 50完掘状況
2．SK 50土層断面


3


4

3．SK 30完掘状況
4．SK 30土層断面


5

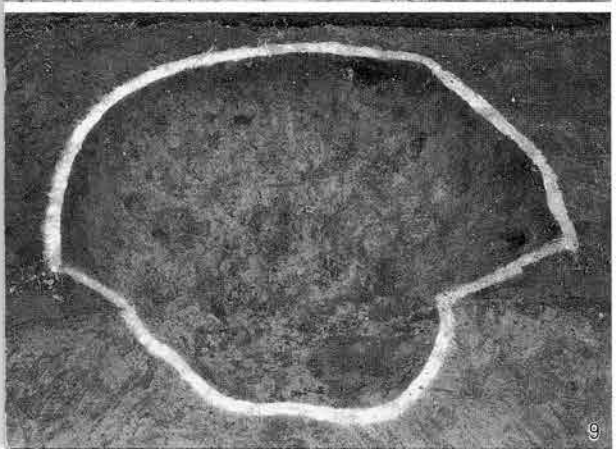
6

5．SK 51完掘状況
6．SK 51土層断面

7

8

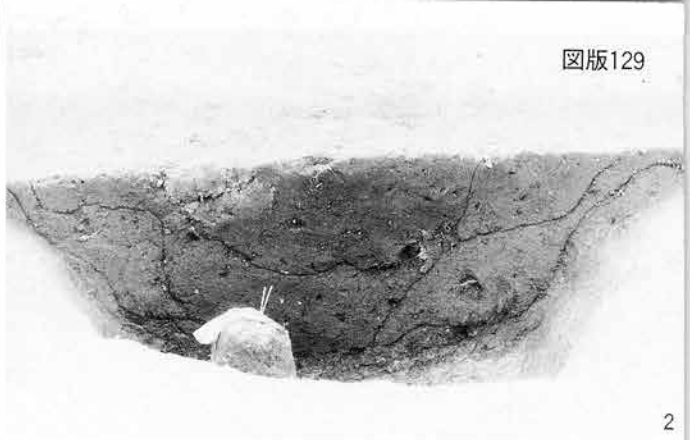
7．SK 52完掘状況
8．SK 52土層断面


9

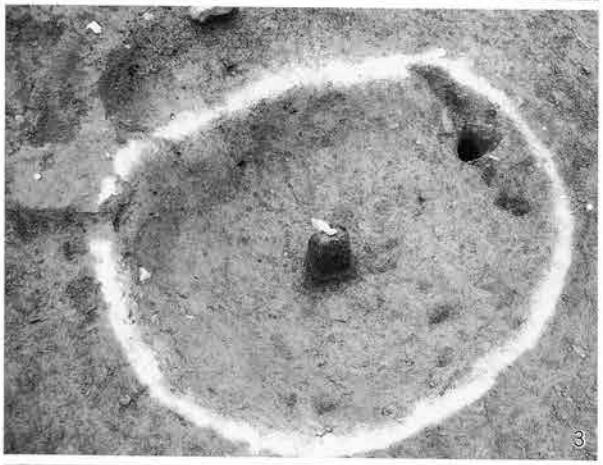
10

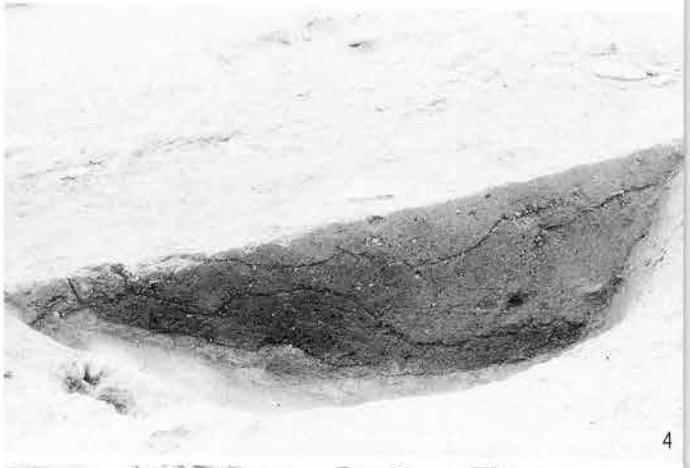
9．SK 31完掘状況
10．SK 31土層断面

1．SK 33完掘状況
2．SK 33土層断面



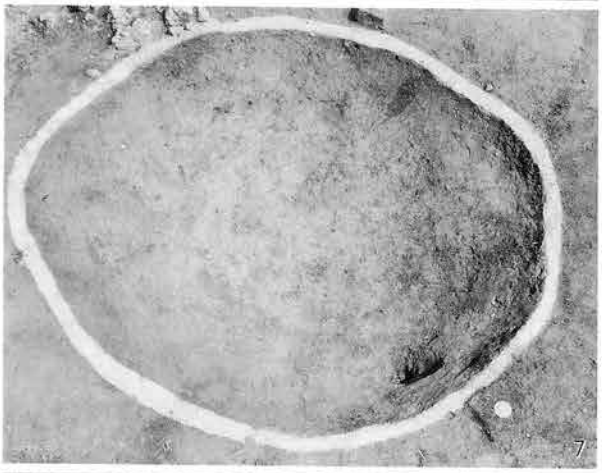
3．SK 34完掘状況
4．SK 34土層断面

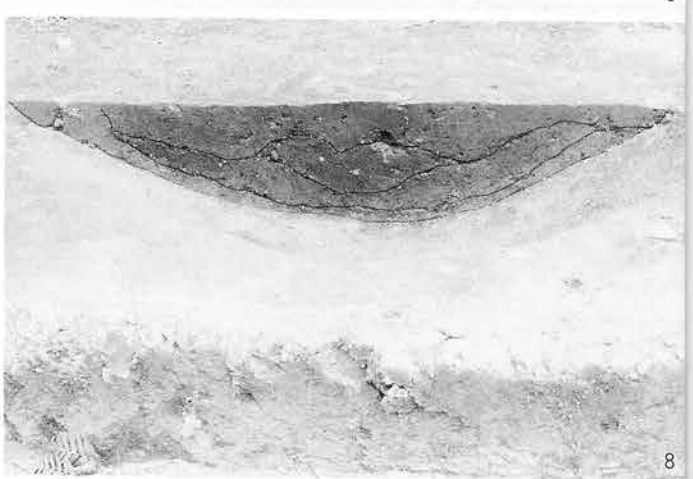




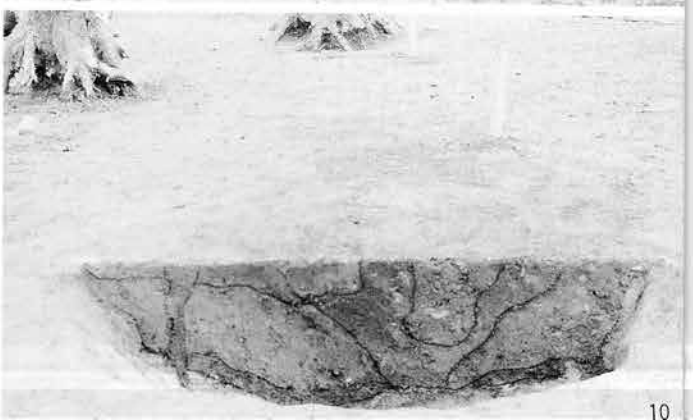
5．SK 35完掘状況
6．SK 35土層断面

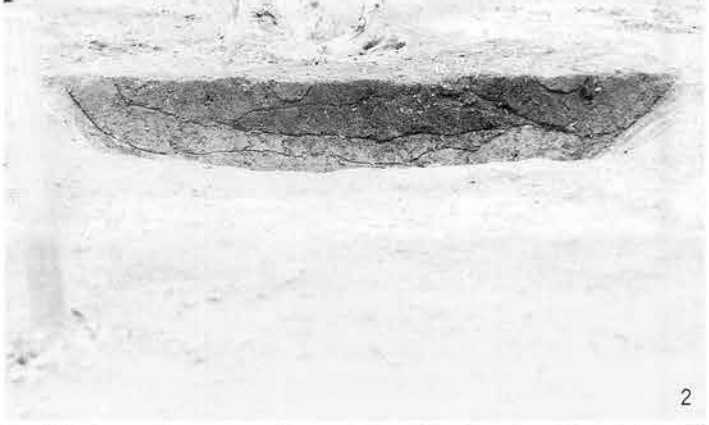
7．SK 38完掘状況
8．SK 38土層断面



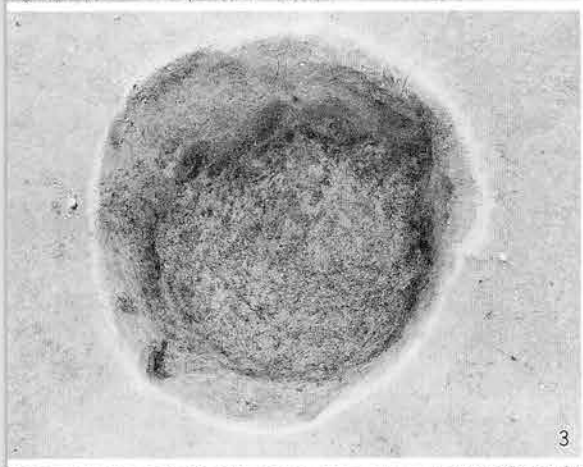


9．SK 39完掘状況
10．SK 39土層断面

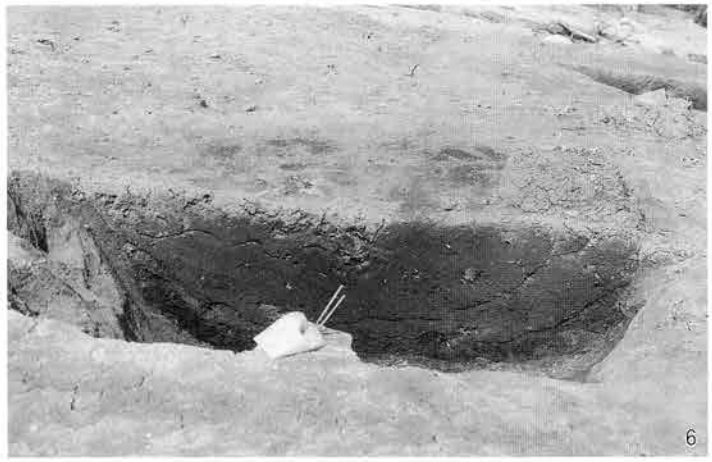




1．SK 41完掘状況
2．SK 41土層断面

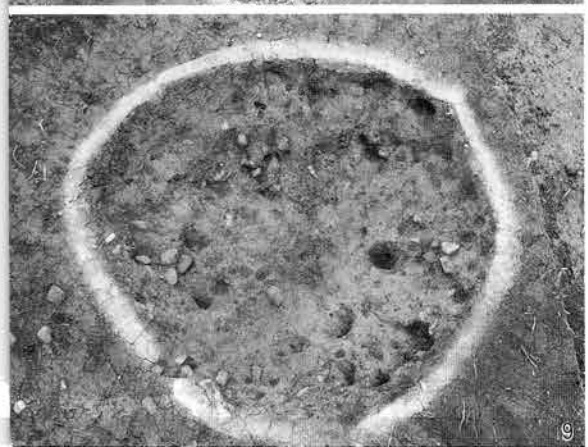


3．SK 42完掘状況
4．SK 42土層断面



5．SK 43完掘状況
6．SK 43土層断面

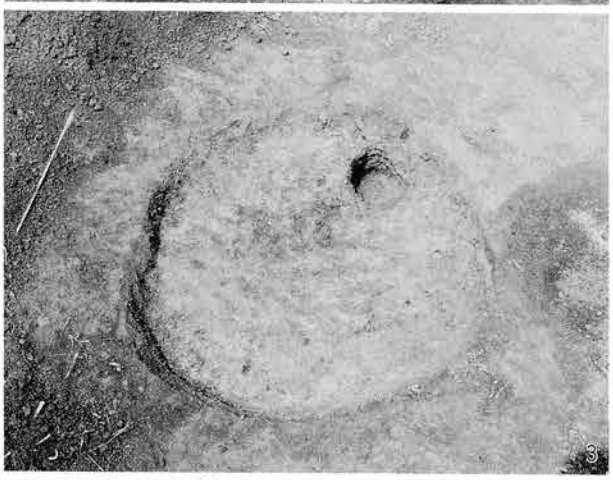
7．SK 46完掘状況
8．SK 46土層断面



9．SK 44完掘状況
10．SK 44土層断面

1．SK 45完掘状況
2．SK 45土層断面

3．Pit 1 完掘状況
4．Pit 1 土層断面



5．Pit 2 完掘状況
6．Pit 2 土層断面

7．Pit 4 完掘状況
8．Pit 4 土層断面

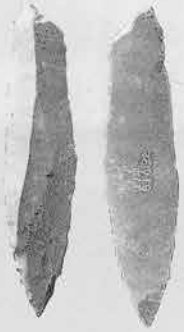
9．Pit 9 完掘状況
10．Pit 9 土層断面

図版132

ブロック3a
出土石器

2：3

1（B3－94）



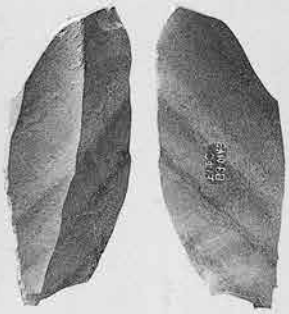
2（B3－132）

3（B3－41）

4（B3－126）

5（B3－30）

6（B3－46）

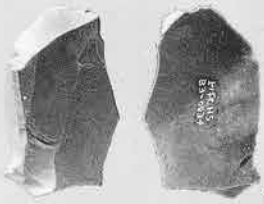


7（B3－143）

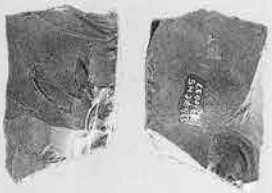
8（B3－43）

9（B3－107）

10（B3－96）



11（B3－34）



12（B3－37）

13（B3－89）

14（B3－134）

15（B3－142）

16（B3－45）

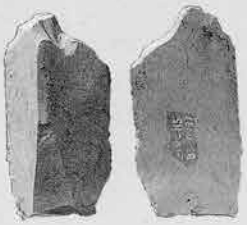
17（B3－145）

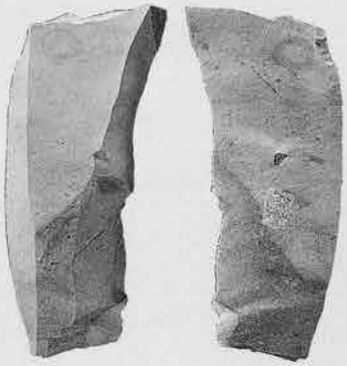
18（B3－77）

19(B3－72)

20(B3－42)

21(B3－130)


22(B3－33)


23(B3－95)

24(B3－128)

25(B3－93)

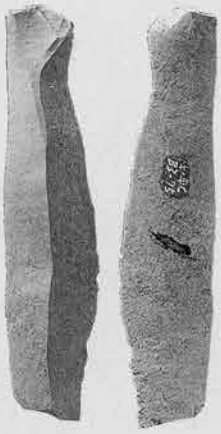
26(B3－100)

27(B3－74)

28(B3－22)

29(B3－32)

30(B3－20)


31(B3－75)

32(B3－138)

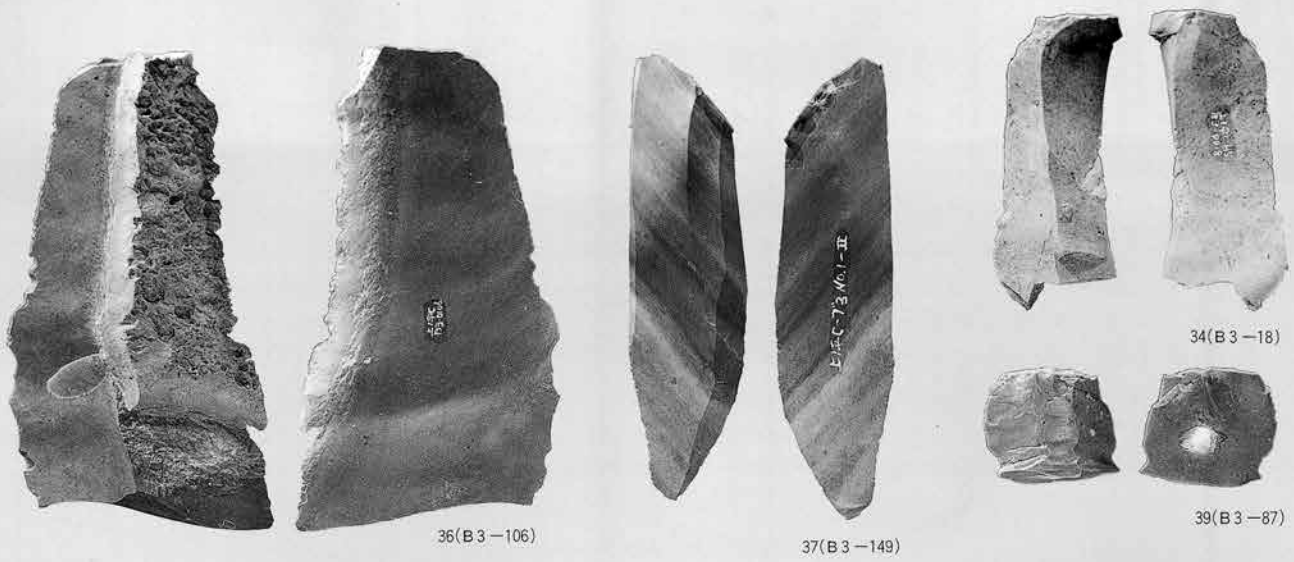
33(B3－36)

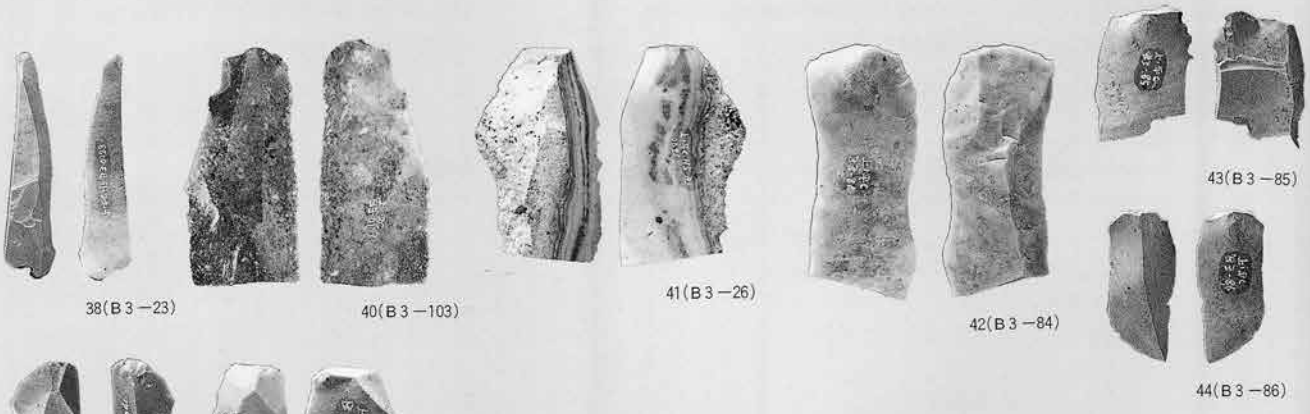
35(B3－82)

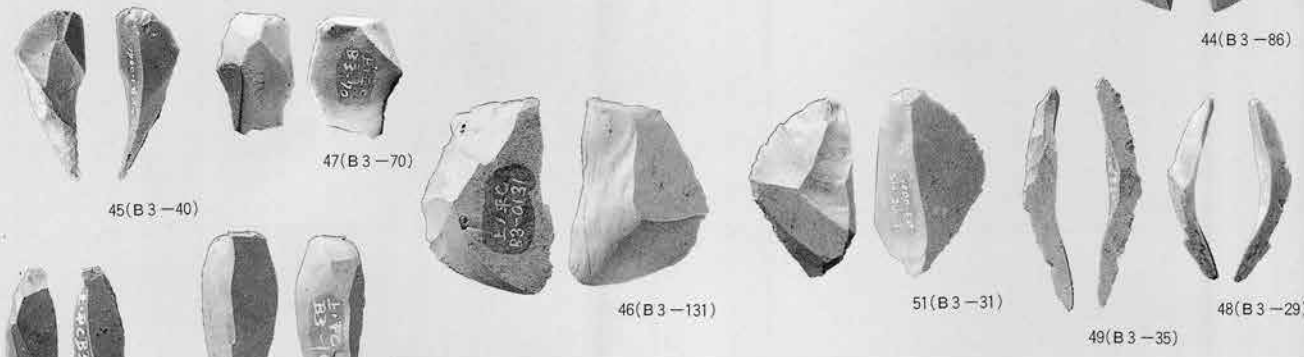
図版134

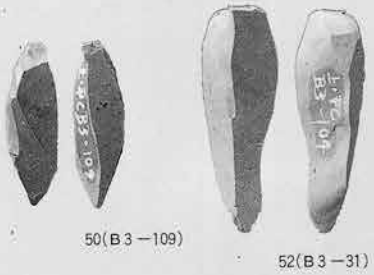
ブロック3a
出土石器

34～44　2：3
45～55　1：1


34(B3－18)
39(B3－87)
36(B3－106)
37(B3－149)


38(B3－23)
40(B3－103)
41(B3－26)
42(B3－84)
43(B3－85)
44(B3－86)


45(B3－40)
47(B3－70)
46(B3－131)
51(B3－31)
49(B3－35)
48(B3－29)


50(B3－109)
52(B3－31)

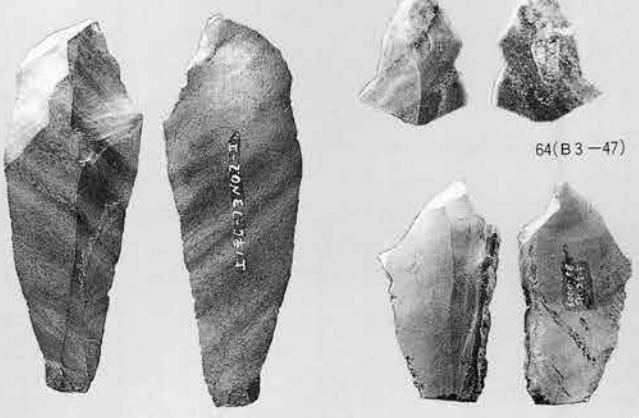
53(B3－99)

54(B3－76)
55(B3－88)

ブロック3b
出土石器

2：3

59(B3－115)
66(B3－15)
57(B3－151)


64(B3－47)
60(B3－150)

58(B3－10)
56(B3－114)
61(B3－9)

ブロック3b
出土石器

62～75　2：3
76～81　1：1

62(B3－124)

63(B3－111)

65(B3－53)

69(B3－71)

67(B3－123)

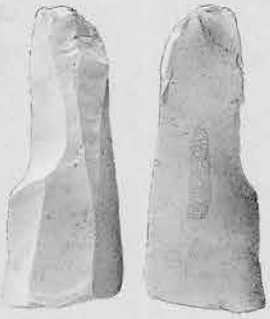
70(B3－16)

68(B3－55)

72(B3－116)

73(B3－110)

71(B3－8)


74(B3－58)

75(B3－60)

ブロック4
出土石器

82～84　2：3

76(B3－54)

77(B3－120)

80(B3－59)

79(B3－117)

78(B3－64)

83(B4－26)

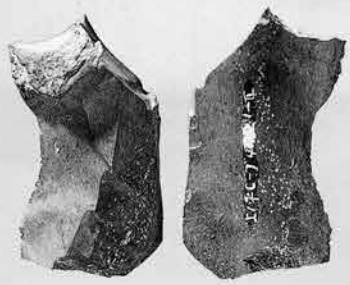
81(B3－118)

82(B4－5)

84(B4－25)

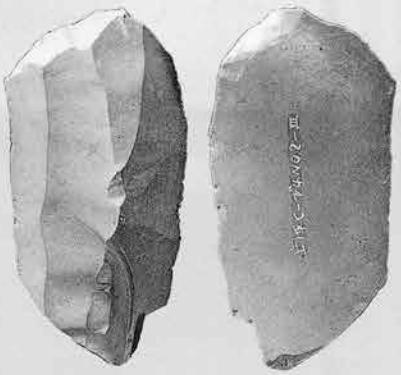
ブロック4
出土石器

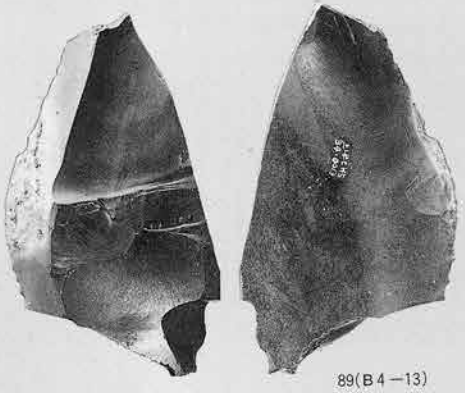
85～94　2：3
95～97　1：1


85(B4－23)

86(B4－19)

87(B4－3)

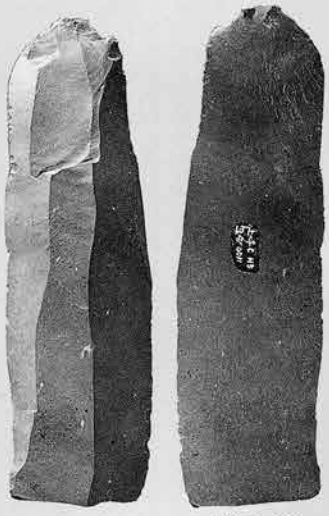

88(B4－24)


89(B4－13)

90(B4－20)

91(B4－15)

92(B4－14)


93(B4－11)

94(B4－10)

95(B4－1)

96(B4－8)

97(B4－17)

ブロック5
出土石器

98～104　2：3

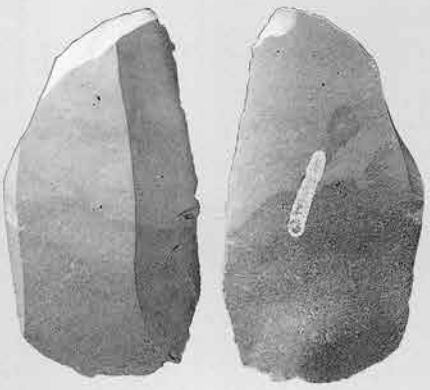
98(B5－81)

99(B5－87)

100(B5－73)

101(B5－51)

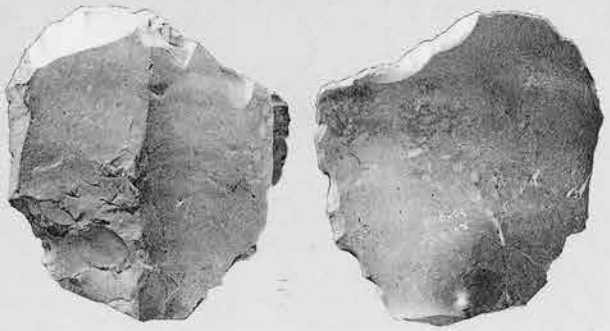
102(B5－97)


103(B5－70)

104(B5－57)

ブロック5
出土石器
2：3

105(B5－82)



106(B5－10)

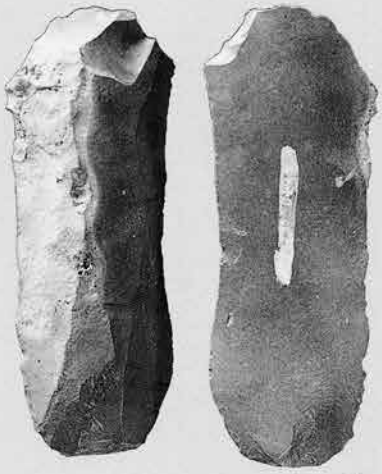
107(B5－47)

108(B5－9)

109(B5－45)

111(B5－198)

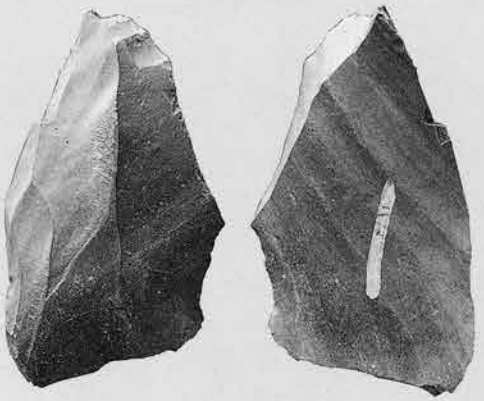
112(B5－1)



110(B5－69)

113(B5－30)

114(B5－12)



115(B5－77)

117(B5－22)

116(B5－54)

118(B5－43)

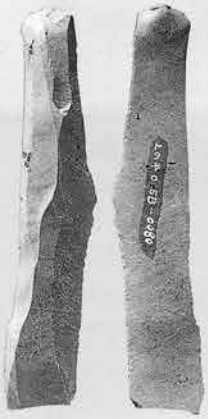
図版138

ブロック5
出土石器

119～128　2：3
129～149　1：1

119(B5－41)

120(B5－8)


121(B5－80)

122(B5－85)

123(B5－44)

124(B5－95)

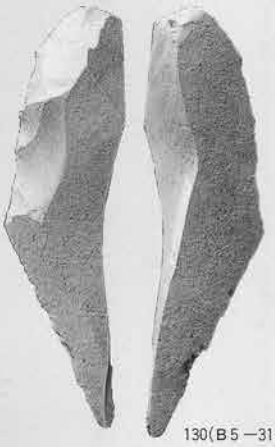
126(B5－35)

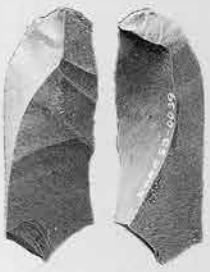
125(B5－42)

127(B5－5＋48)

128(B5－13)

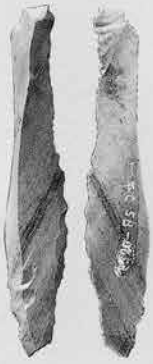
129(B5－132)


130(B5－31)


131(B5－36)

132(B5－14)

133(B5－18)


134(B5－53)

135(B5－84)

138(B5－64)

137(B5－50)

136(B5－49)

144(B5－65)

139(B5－66)

140(B5－4)

143(B5－74)

145(B5－193)

146(B5－133)

141(B5－83)

142(B5－38)

147(B5－55)

148(B5－40)

149(B5－62)

ブロック5
出土石器

150～153　1：1

ブロック7a
出土石器

154～175　2：3

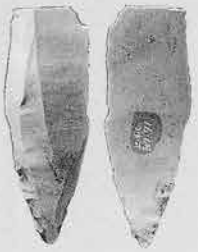
150(B5－23)

151(B5－34)

152(B5－67)

153(B5－72)

154(B7－51)


155(B7－71)

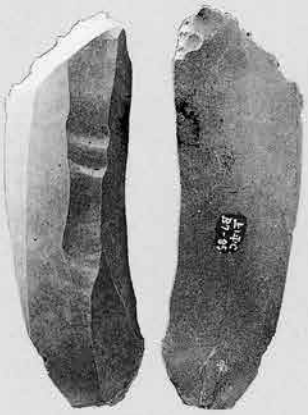
156(B7－50)

157(B7－30)

158(B7－68)

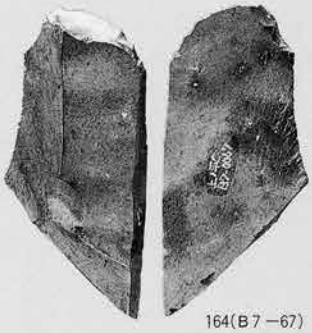
159(B7－41)

160(B7－15)


161(B7－85)

162(B7－20)

163(B7－8)


164(B7－67)

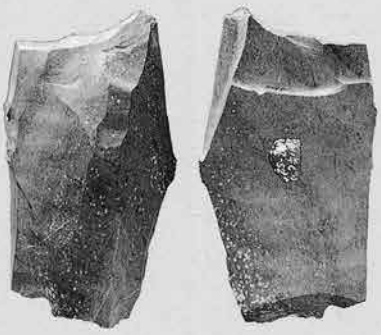
165(B7－66)

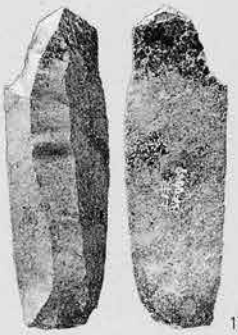
166(B7－78)

167(B7－18)

168(B7－124)

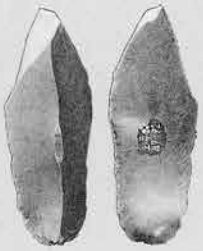
169(B7－88)


170(B7－52)


171(B7－49)

172(B7－87)

174(B7－25)


175(B7－92)

図版140

ブロック7a
出土石器

173～187　2：3
188～197　1：1

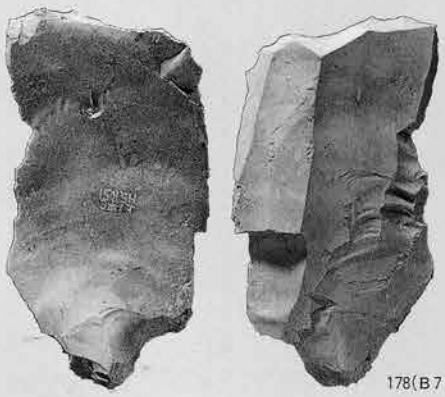
173(B7－86)

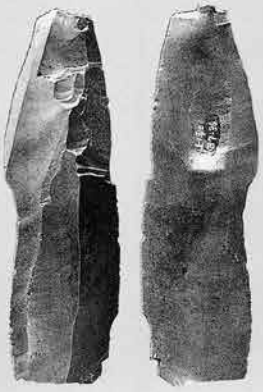
176(B7－57)

177(B7－12)

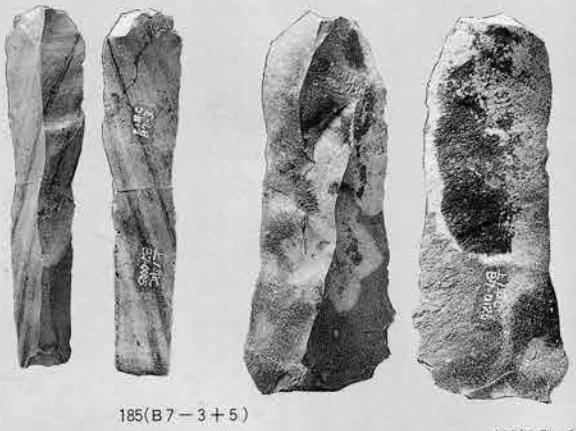
179(B7－63)

180(B7－4)

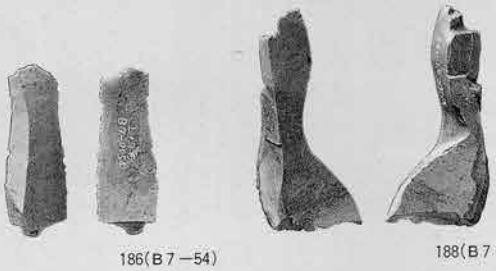

178(B7－132)


181(B7－36)

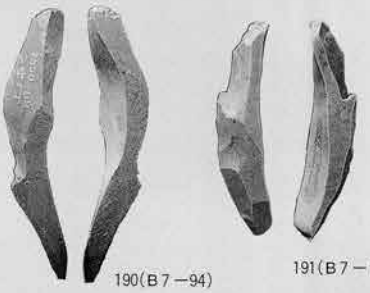
182(B7－60)


185(B7－3＋5)
183(B7－126)

187(B7－24)
184(B7－43)


186(B7－54)
188(B7－123)

189(B7－90)


190(B7－94)
191(B7－1)

192(B7－89)

193(B7－73)

194(B7－42)

195(B7－93)

196(B7－96)

197(B7－27)

ブロック7a
出土石器

198～202　1：1

ブロック7b
出土石器

203～218　2：3
220・221　1：1

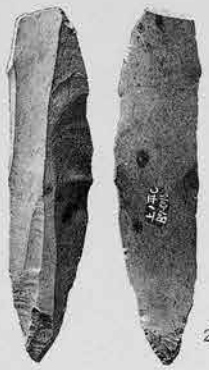
199(B7－61)

198(B7－9)

202(B7－10)

200(B7－74)

201(B7－70)

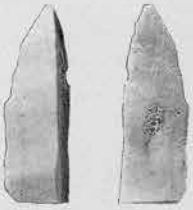

203(B7－116)

207(B7－110)

206(B7－114)　208(B7－111)

204(B7－107)

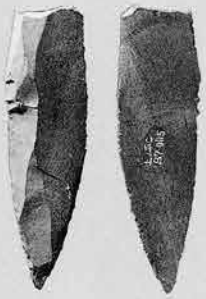
209(B7－108)


205(B7－117)

210(B7－103)

211(B7－120)

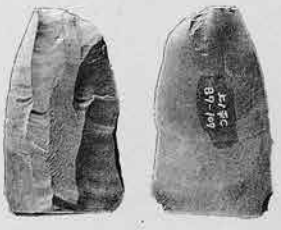
212(B7－118)


214(B7－115)

215(B7－104)

213(B7－82)

218(B7－105)


216(B7－109)

220(B7－113)

221(B7－112)

217(B7－102)

図版142

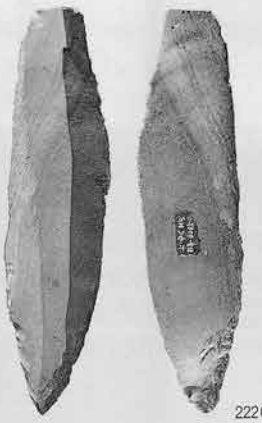
ブロック7b
出土石器

219　2：3

ブロック8
出土石器

222～234　2：3
235～240　1：1

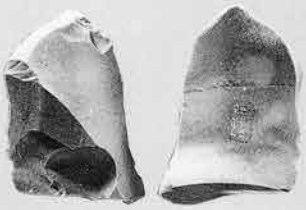
219(B7－101)


222(B8－5)

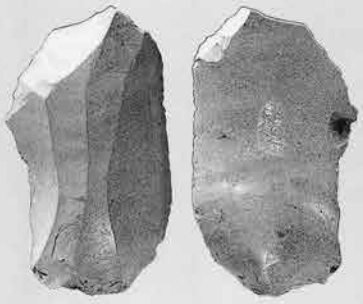
223(B8－16)

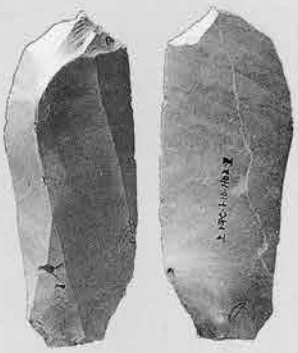
224(B8－6)

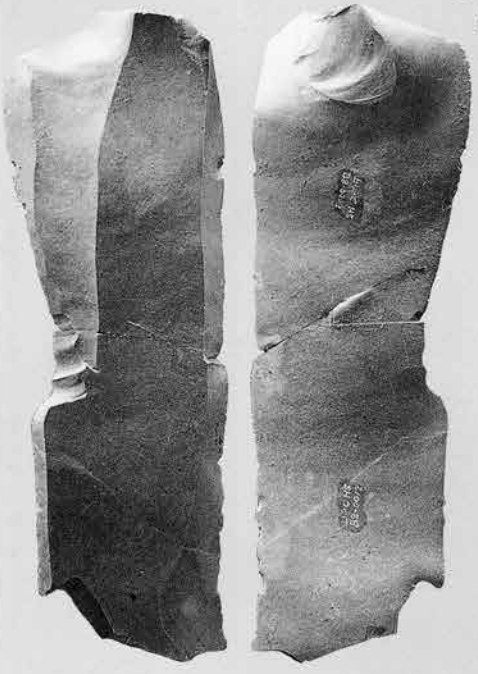
226(B8－20)

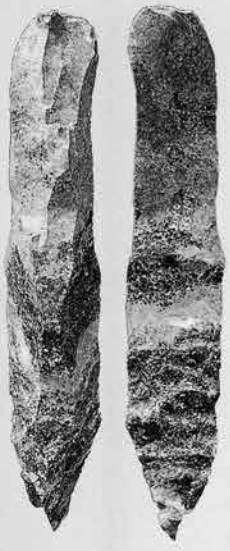

227(B8－19)

225(B8－13)


228(B8－15)


229(B8－22)


230(B8－3＋12)


231(B8－26)

232(B8－2)

233(B8－25)

234(B8－27)

235(B8－9)

236(B8－8)

237(B8－1)

239(B8－7)

238(B8－10)

240(B8－4)

ブロック外
出土石器

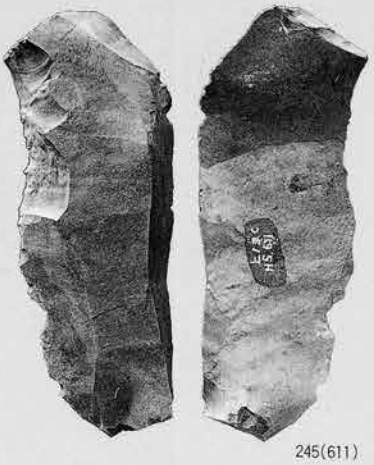
241～248　2：3
249～251　1：1

241(198)

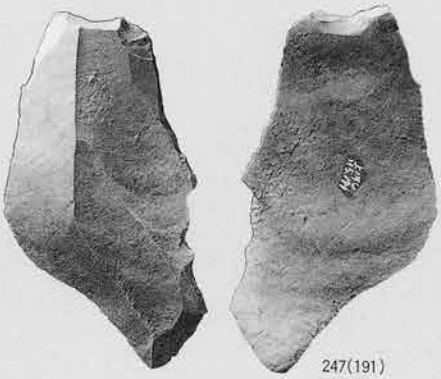
244(113)

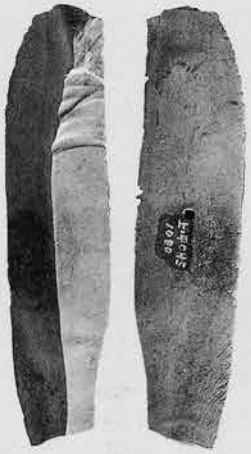
242(1098)

243(212)


245(611)

246(1087)


247(191)

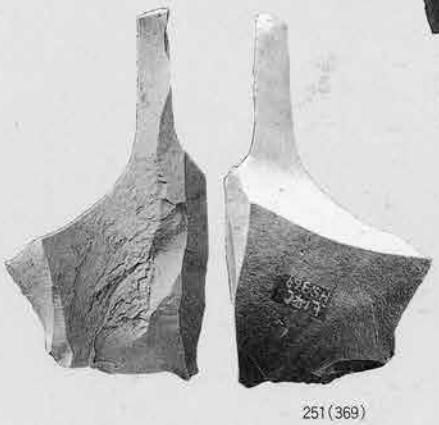

248(1080)

表面採集石器

252～258　2：3

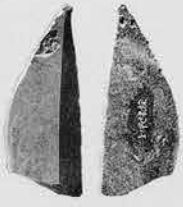
249(641)

250(1200)


251(369)

252(表採１)

253(表採２)


254(表採３)

255(表採４)

256(表採５)

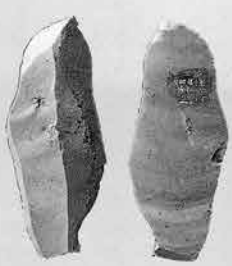
257(表採６)

258(表採７)

図版144

表面採集石器

259～266・269
2：3
267・268
1：1


259(表採８)

260(表採９)

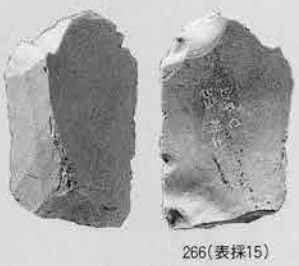
261(表採10)

262(表採11)

263(表採12)

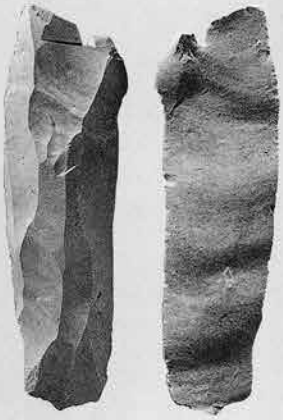
264(表採13)

265(表採14)

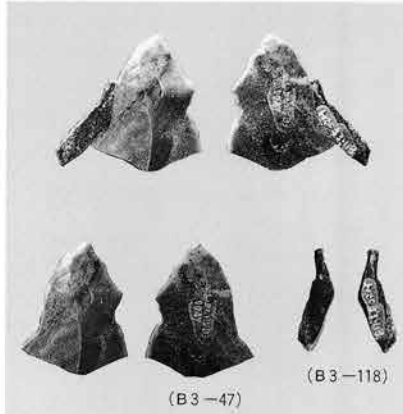

266(表採15)

267(表採16)

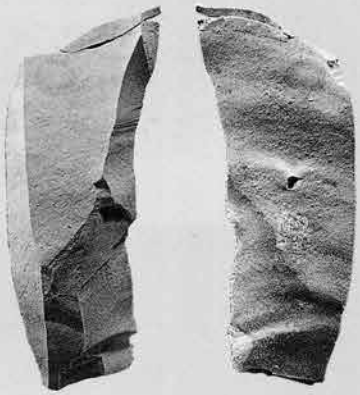
269(表採18)

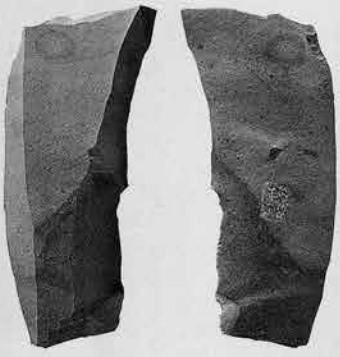

268(表採17)

接合資料１
2：3


(B３－47)
(B３－118)

接合資料２
2：3




(B３－95)

(AE11・25－b①)

(B３－88)

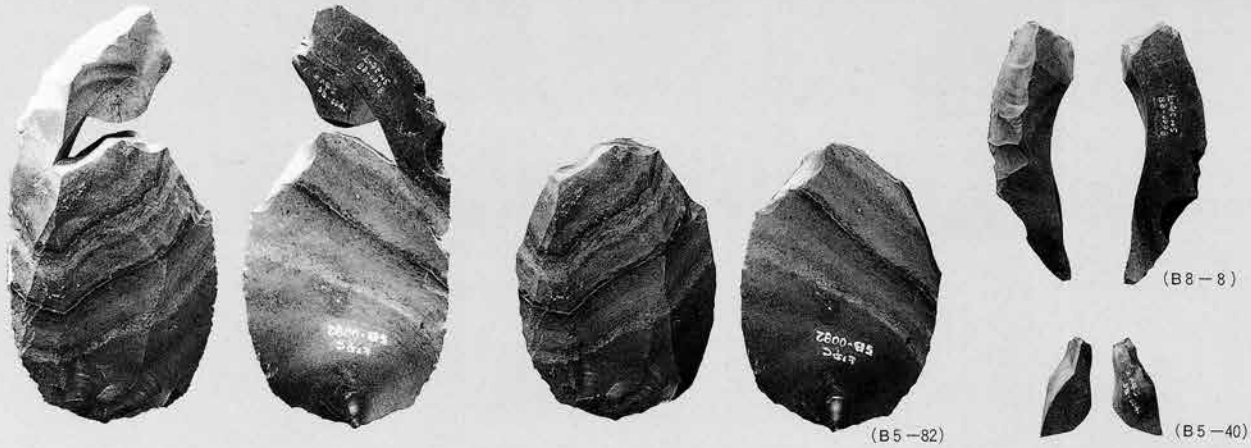
接合資料３
2：3

(B７－81)

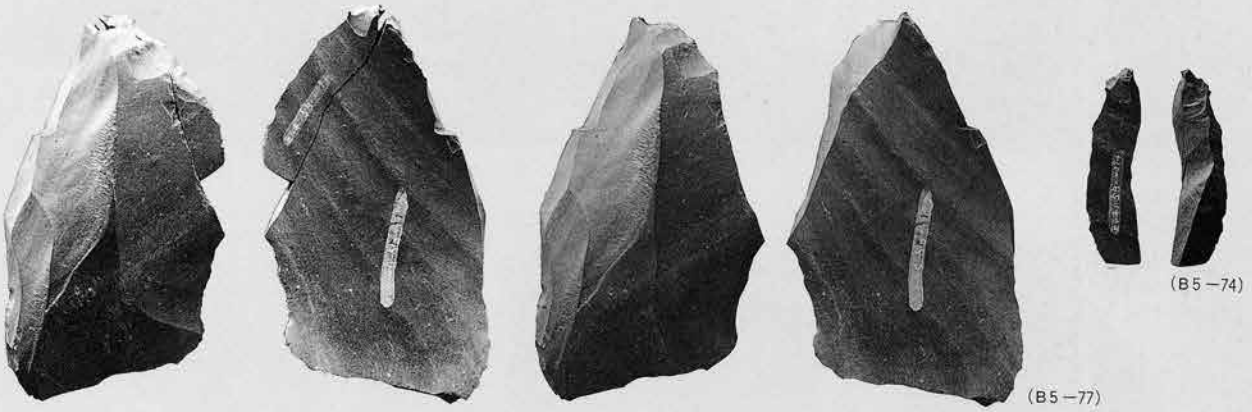
(B３－40)

(B３－46)

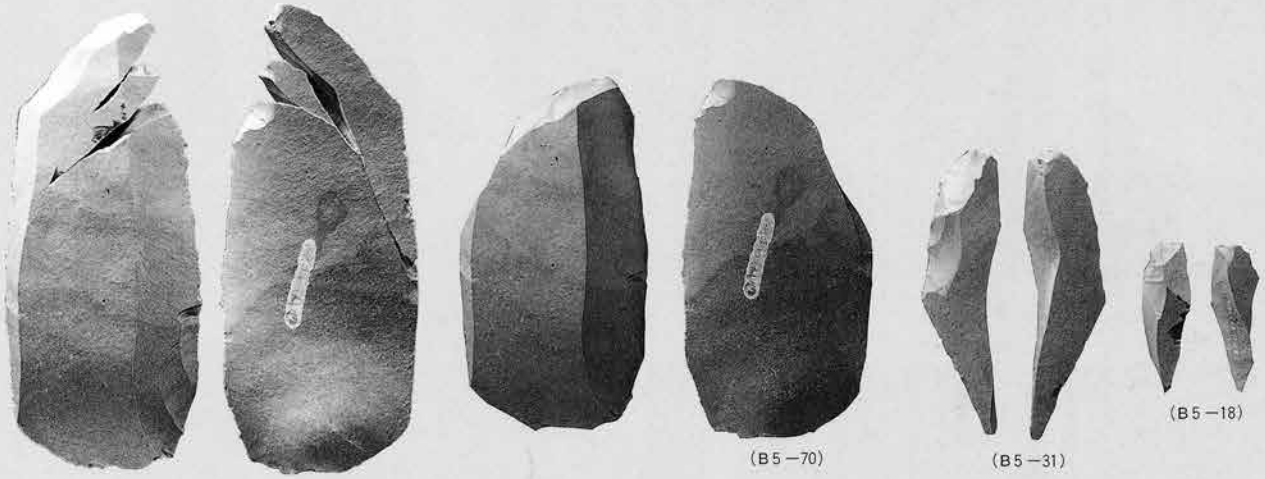
接合資料4
2：3



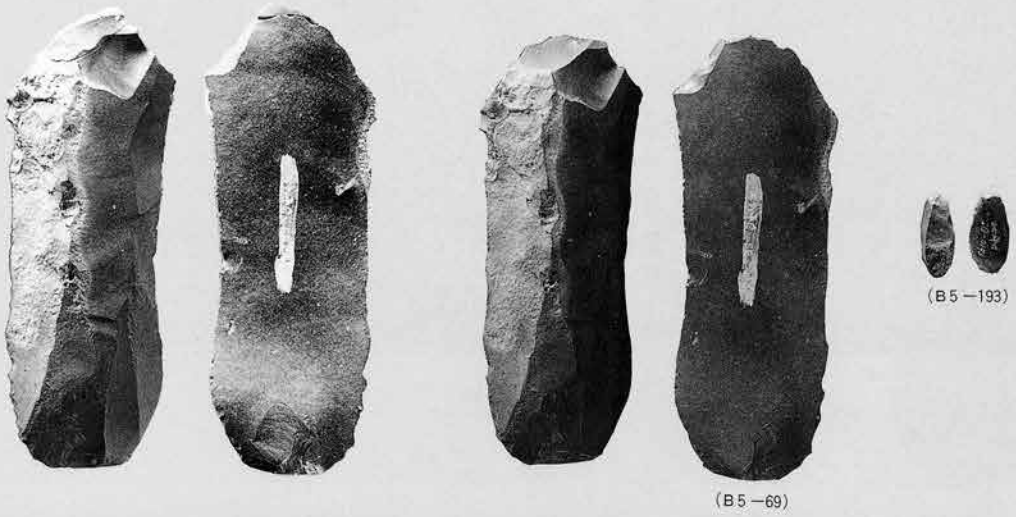
接合資料5
2：3



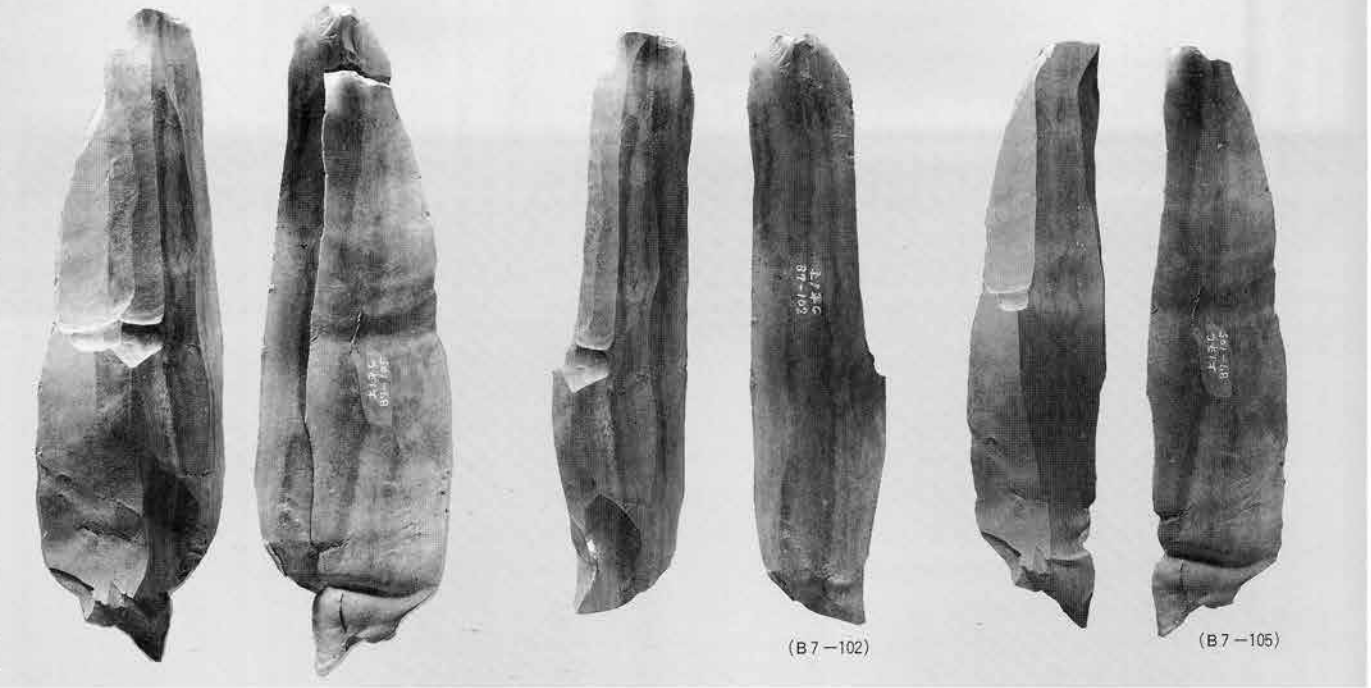
接合資料6
2：3



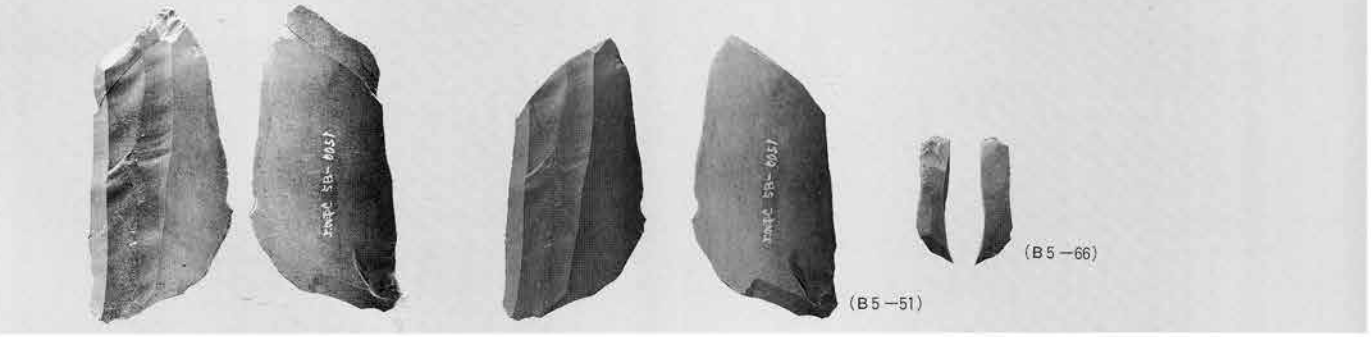
接合資料7
2：3



図版146

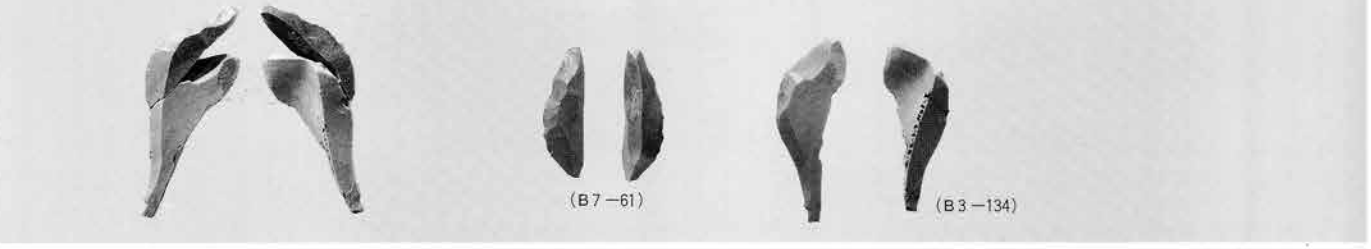


接合資料8
2：3

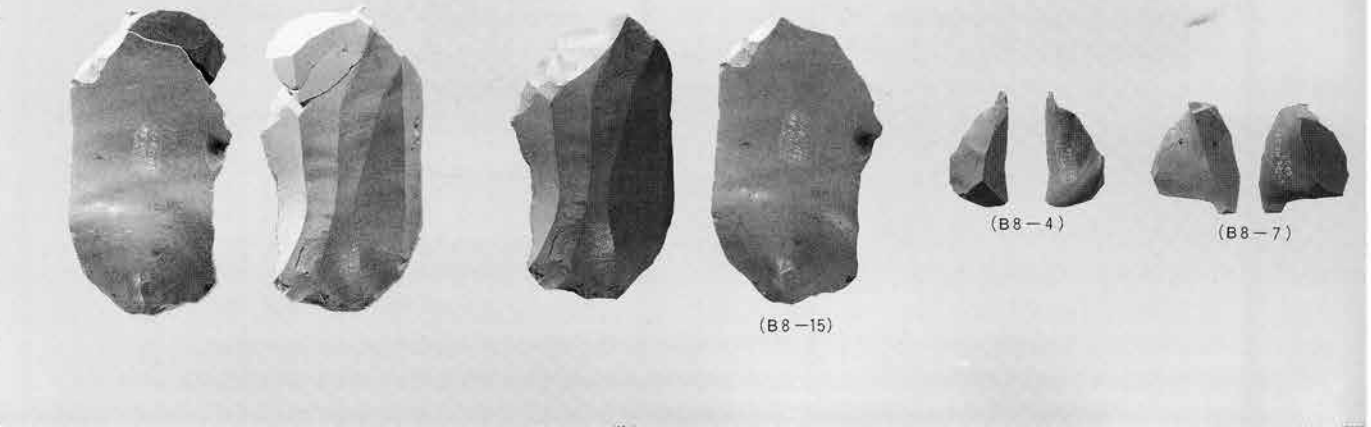


接合資料9
2：3

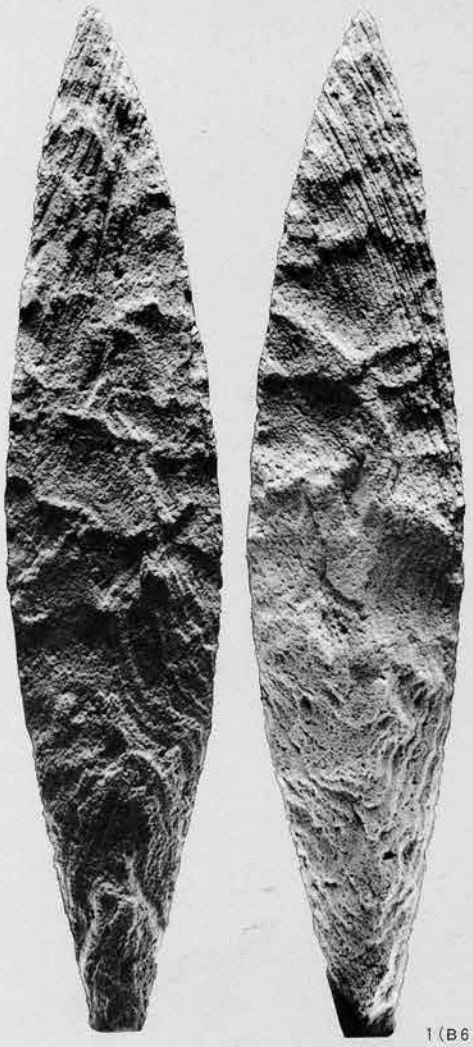
接合資料10
2：3



接合資料11
2：3

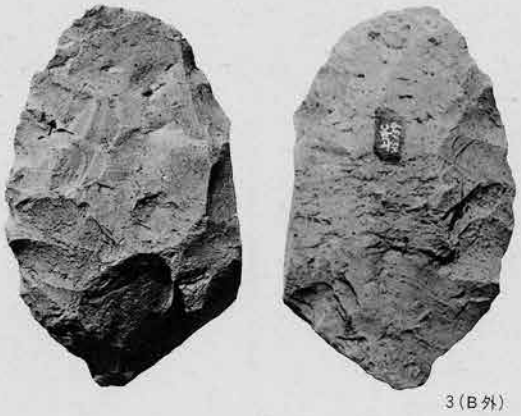


接合資料12
2：3



1（B6－60）

2（B9－22）



3（B外）

4（B1－312）

5（B1－616）

8（B1－169）

6（B1－679）

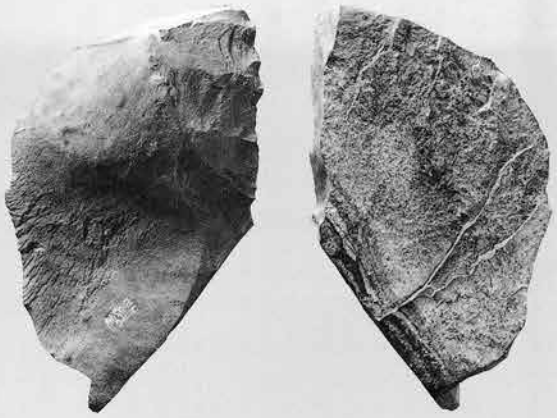
7（B1－325）

9（B1－485）

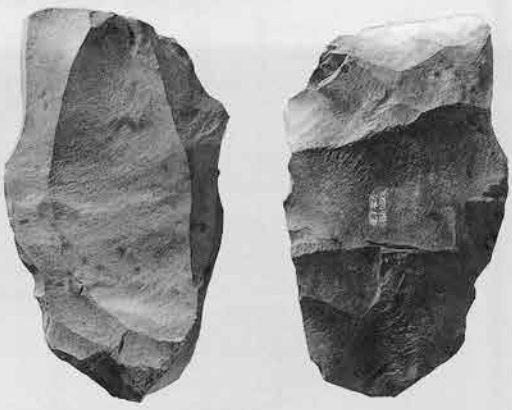
図版148

縄文時代
草創期の
トゥール・石核

1：2

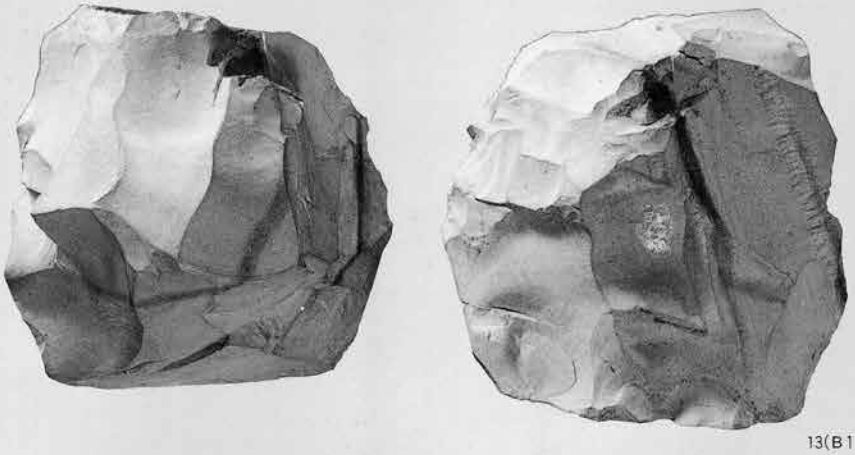


10(B1－544)



11(B1－522)

12(B1－533)



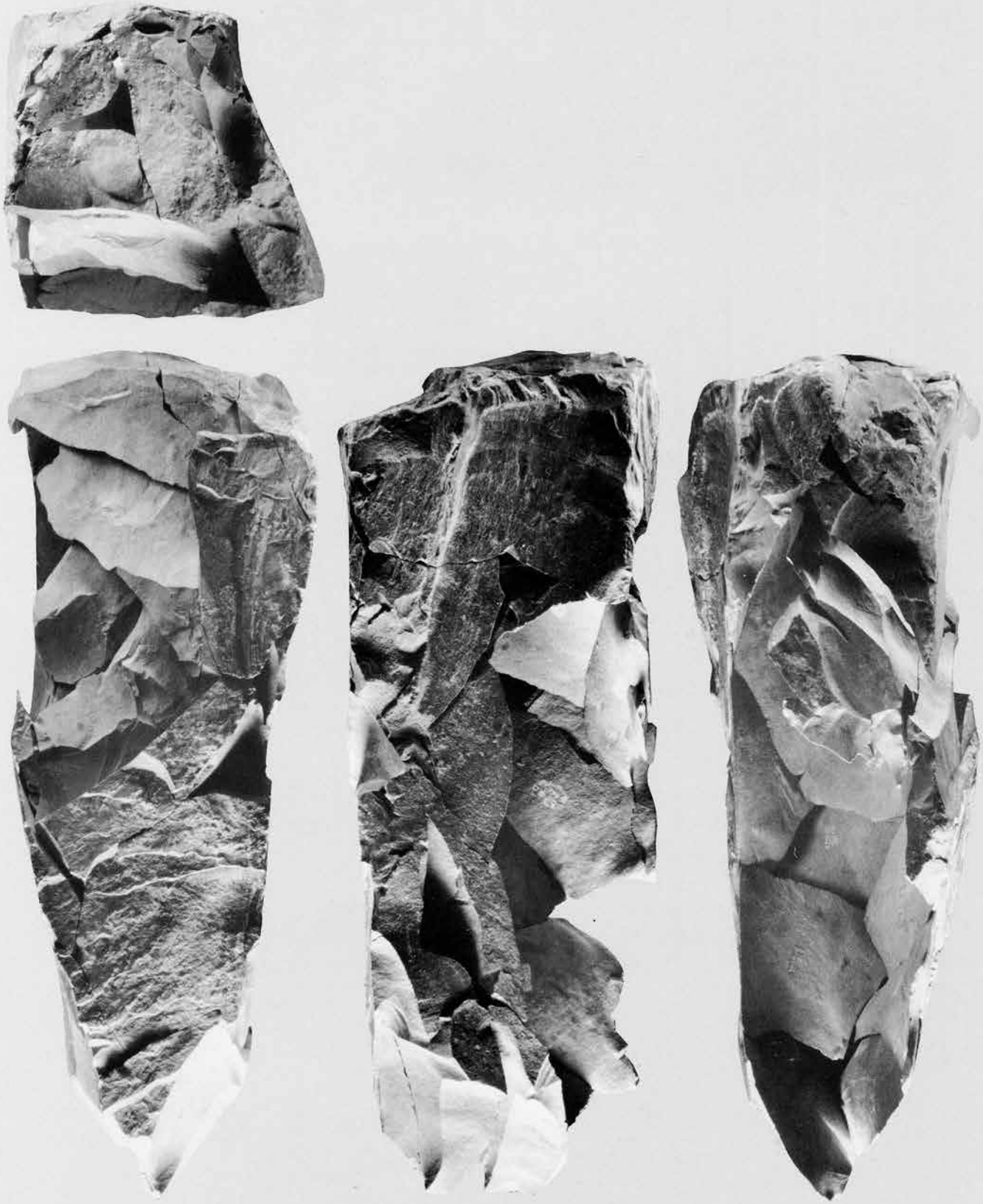
13(B1－541)

14(B1－632)

15(B6－34)

縄文時代草創期
接合資料1

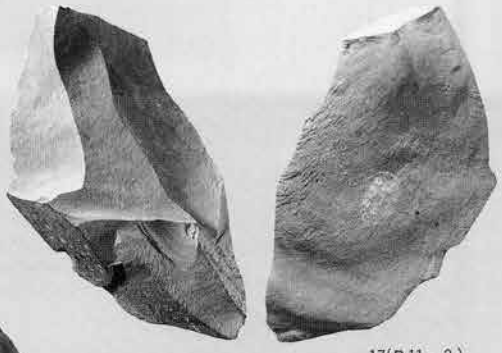
1：2



縄文時代草創期
接合資料1

1：2

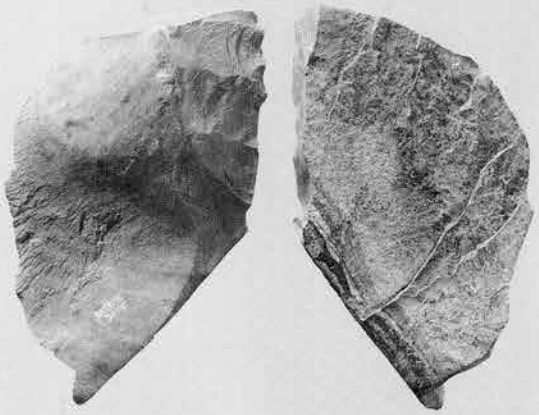
16(B1－494)



17(B11－2)

18(B1－479)

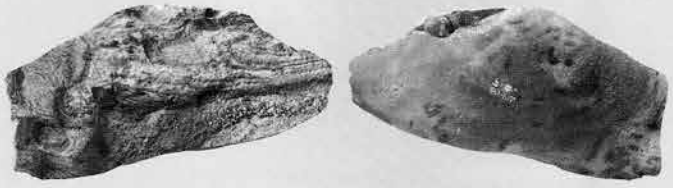
19(B1－465)



20(B1－544)

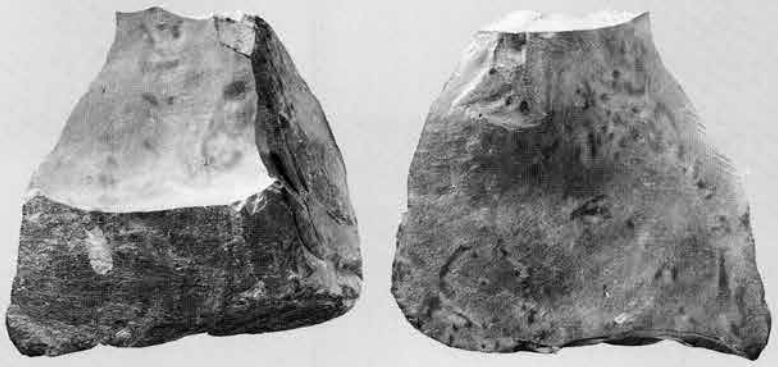
22(B1－457)

21(B1－674)

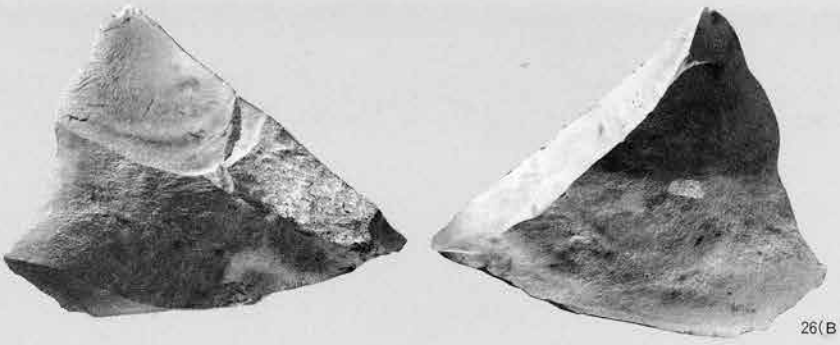


23(B1－617)

24(B1－471)

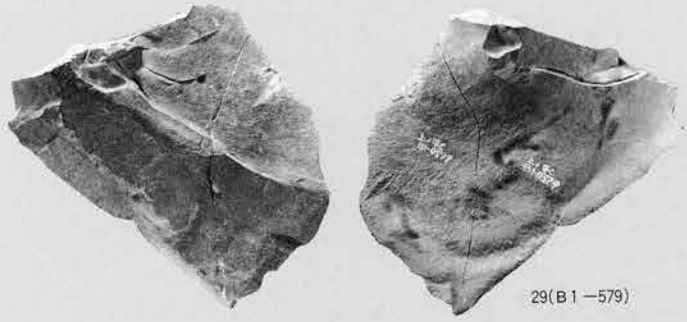


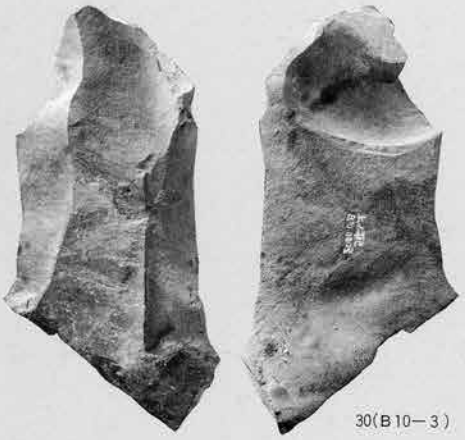
25(B6－32)


26(B1－30)

27(B1－564)

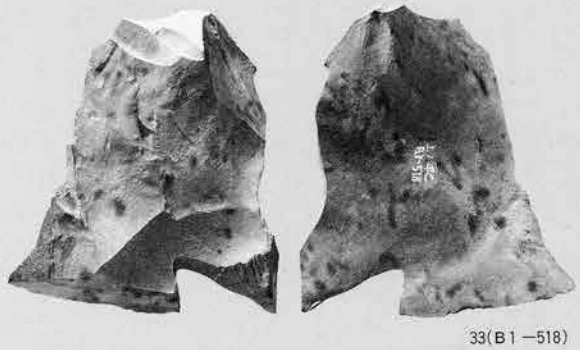
28(B1－466)

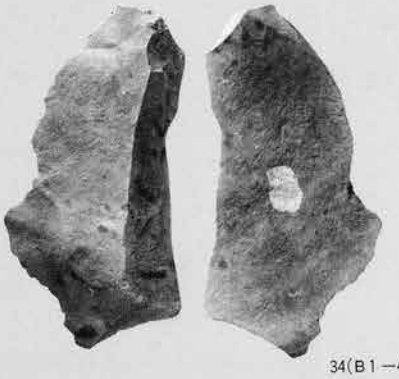

29(B1－579)


30(B10－3)

31(B1－525)

32(B1－571)


33(B1－518)


34(B1－489)

図版152

縄文時代草創期
接合資料1

1：2

35(B1－570)

38(B1－546)

36(B1－514)

37(B1－529)

39(B10－6)

40(B1－461)

41(B1－667)

42(B1－541)

43(B1－492)

45(B外－501)

44(B1－表採)

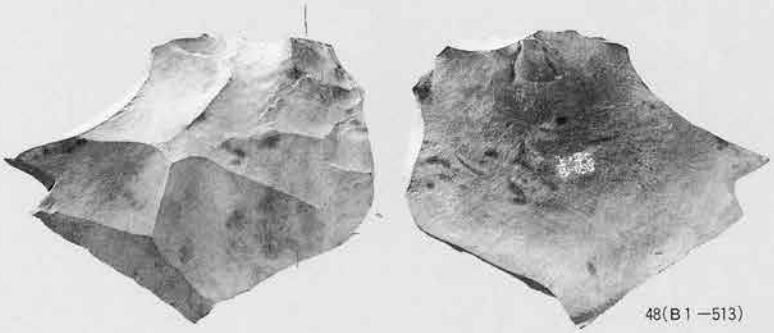
縄文時代草創期
接合資料1

1：2

図版153

46(B1－481)

47(B1－666)



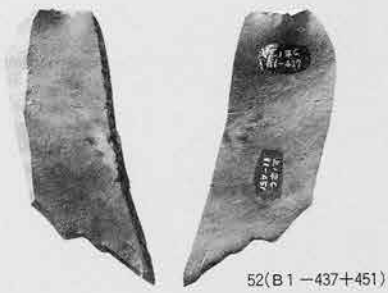
48(B1－513)

49(B10－1)

母岩1

50(B1－476)

51(B1－219)

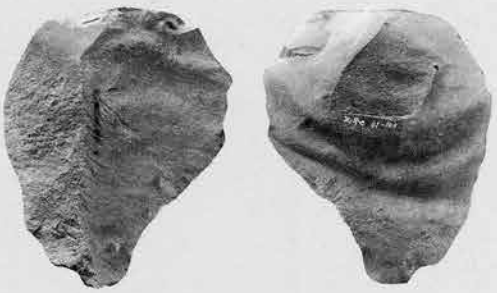


52(B1－437+451)

53(B1－177)

54(B1－184)

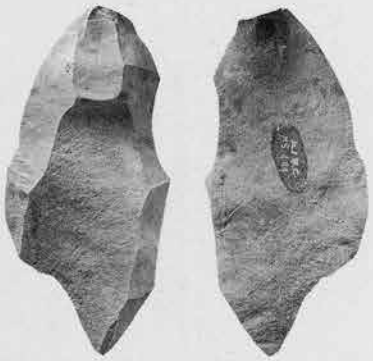
55(B1－590)



56(B1－103)

57(B1－599)

58(B10－2)



59(B11－4)

図版154

60(B11－3)

母岩1

接合資料2

縄文時代草創期
母岩1

1：2

縄文時代草創期
接合資料2

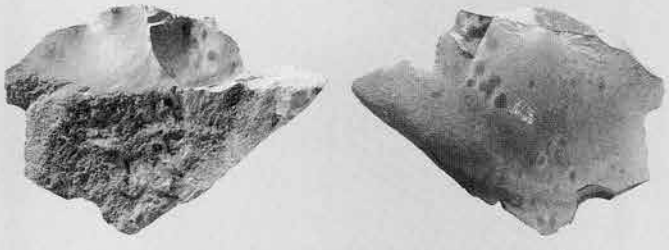
1：2

接合資料2個体1

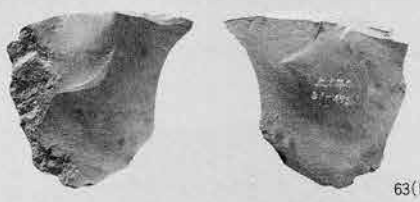
接合資料2
個体1

1：2

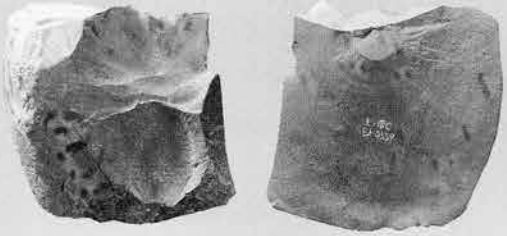
61(B1－676)



62(B1－610)



63(B1－475)



64(B1－559)

縄文時代草創期
接合資料2
個体1

1：2

65(B1－469)

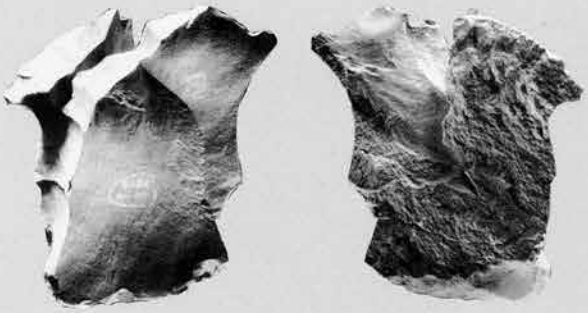
66(B1－483)

67(B1－433)

68(B1－473)

接合資料2
個体2

1：2



接合資料2個体2

69(B1－460)

70(B1－61)

71(B1－477)

母岩2

1：2

72(B1－166)

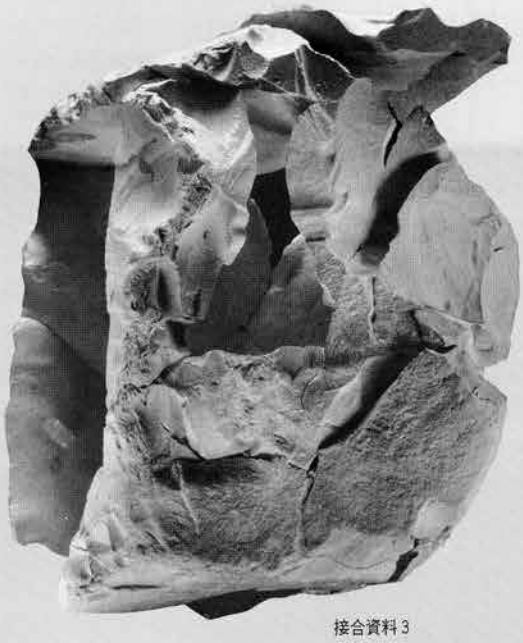
73(B1－470)

74(B1－468)

75(B1－432)

縄文時代草創期
接合資料3

1：2



接合資料3

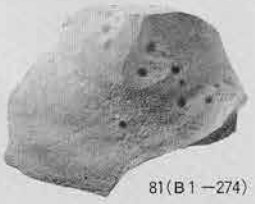
76(B1－587)

77(B1－521)

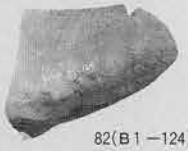
78(B1－519)

79(B1－557)

80(B外－183)



81(B1－274)



82(B1－124)

83(B1－523)

84(B1－454)

85(B1－568)

86(B1－127)

縄文時代草創期
接合資料3
1：2

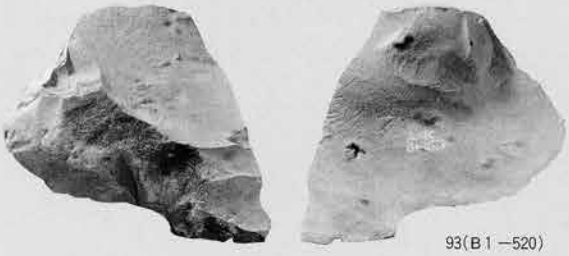
87(B1－527)

88(B1－526)

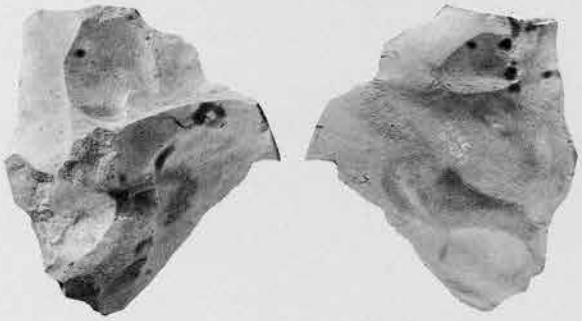
90(B1－458)

92(B1－55)

89(B1－528)



93(B1－520)



91(B1－545)

94(B1－524)

95(B1－158)

96(B6－40)

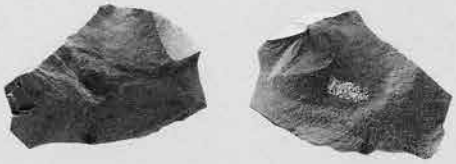
97(B外－225)

母岩3
1：2

98(B1－493＋486)

99(B1－539)

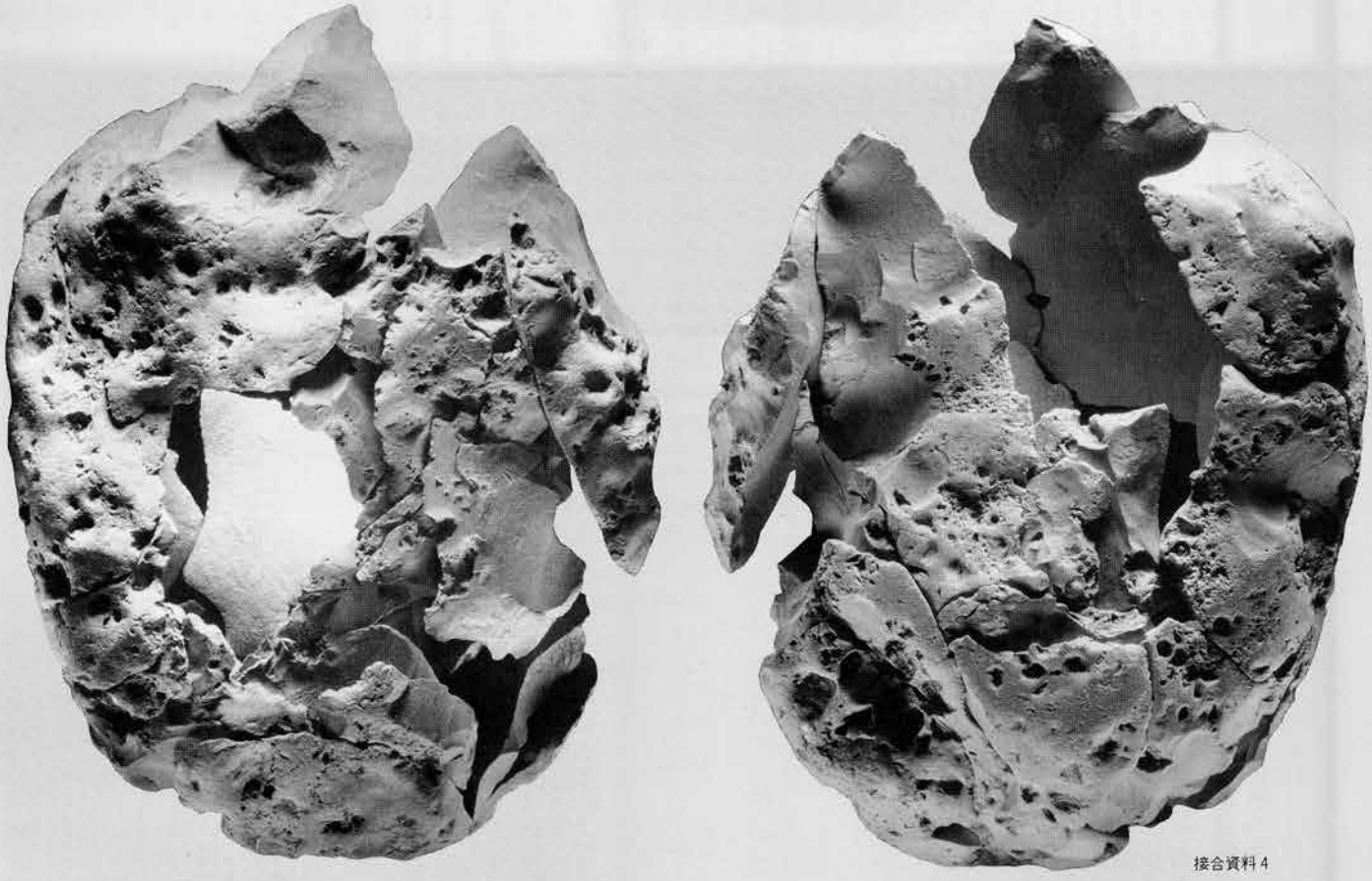
100(B1－92)



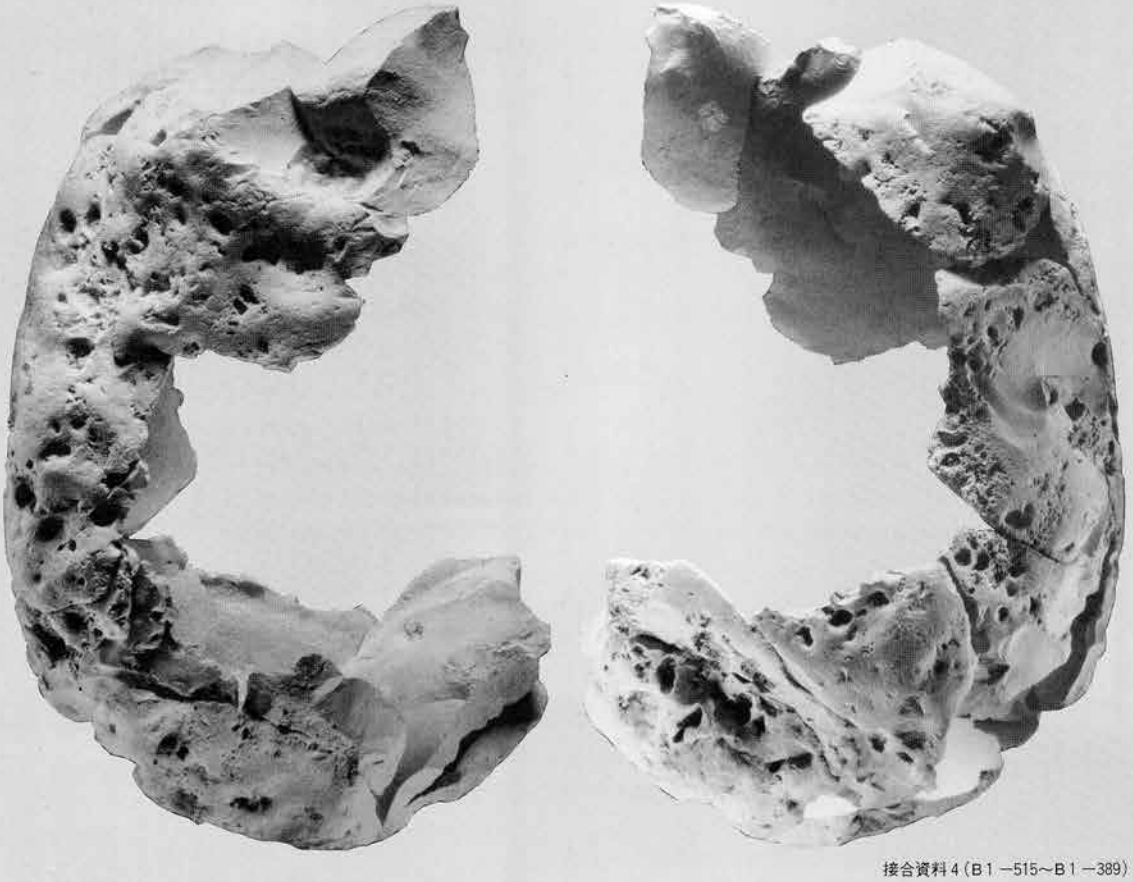
101(B1－596)

図版158

縄文時代
草創期
接合資料4
1：2



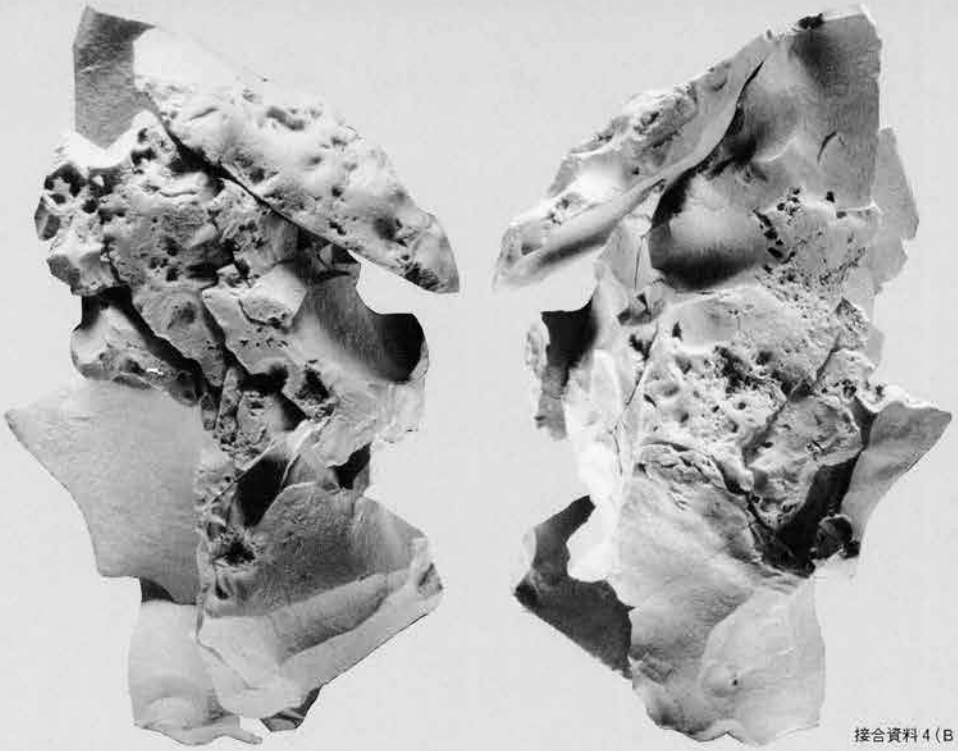
接合資料4



接合資料4（B1 −515～B1 −389）

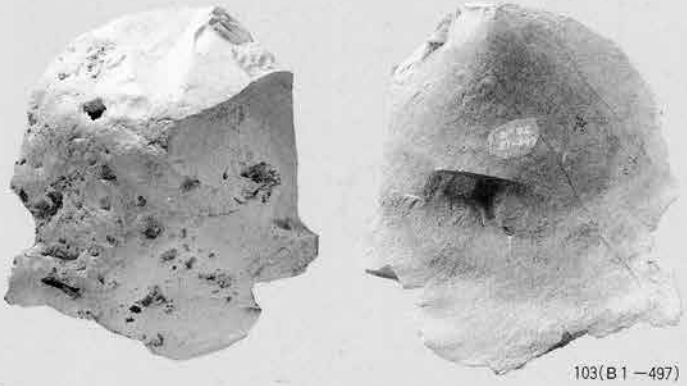
縄文時代草創期
接合資料4

1：2



接合資料4（B1－348～B6－42）

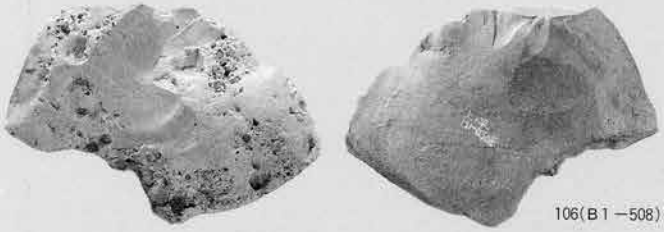
102（B1－515）



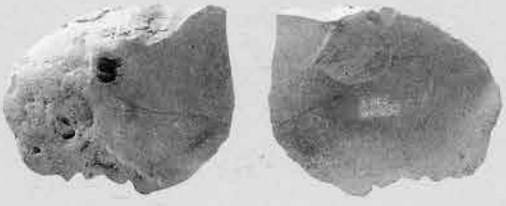
103（B1－497）

104（B1－516）

105（B1－613）



106（B1－508）



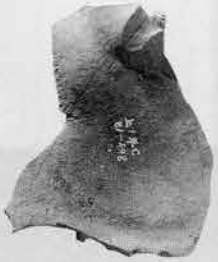
107（B1－630）

108（B1－192）

縄文時代草創期
接合資料4

1：2

109(B1－517)



110(B1－498)

111(B1－502)

112(B1－548)

113(B1－283)

114(B1－231)

115(B1－389)

116(B1－500)

117(B1－348)

118(B6－52)

119(B1－100)

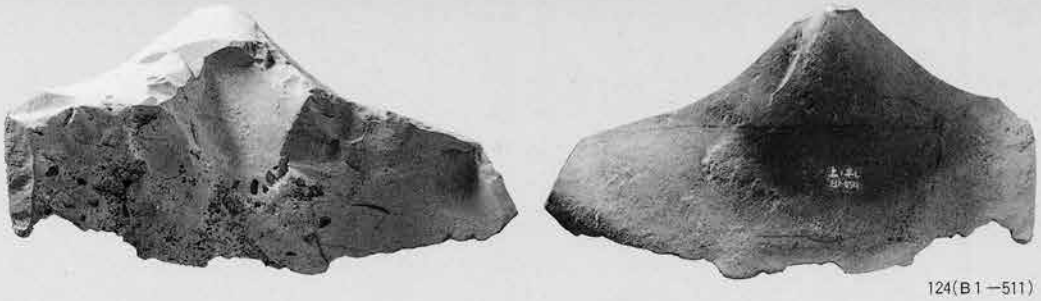
120(B1－430)

122(B1－504+658)

123(B1－509)

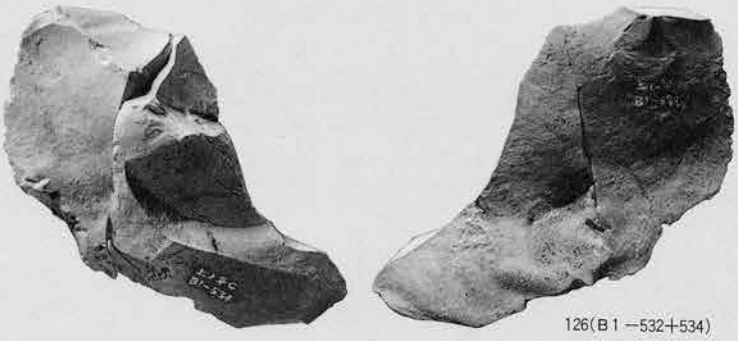
121(B1－455)

縄文時代草創期
接合資料4
1：2



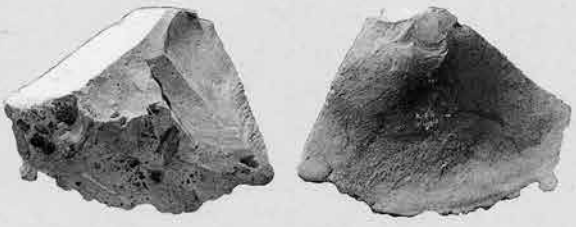
124(B1－511)

125(B6－44)

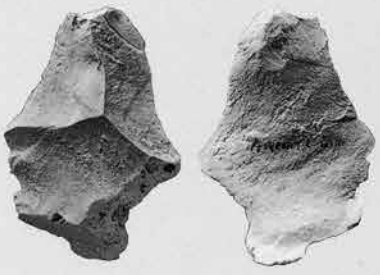


126(B1－532+534)

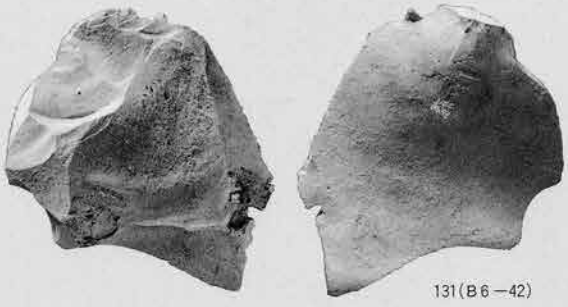
127(B1－457)



129(B1－60)



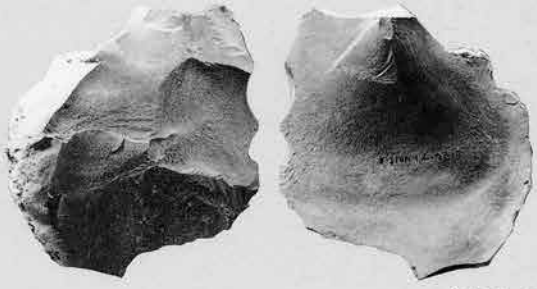
128(B1－660)



131(B6－42)

母岩4
1：2

130(B6－53)



133(B1－655)

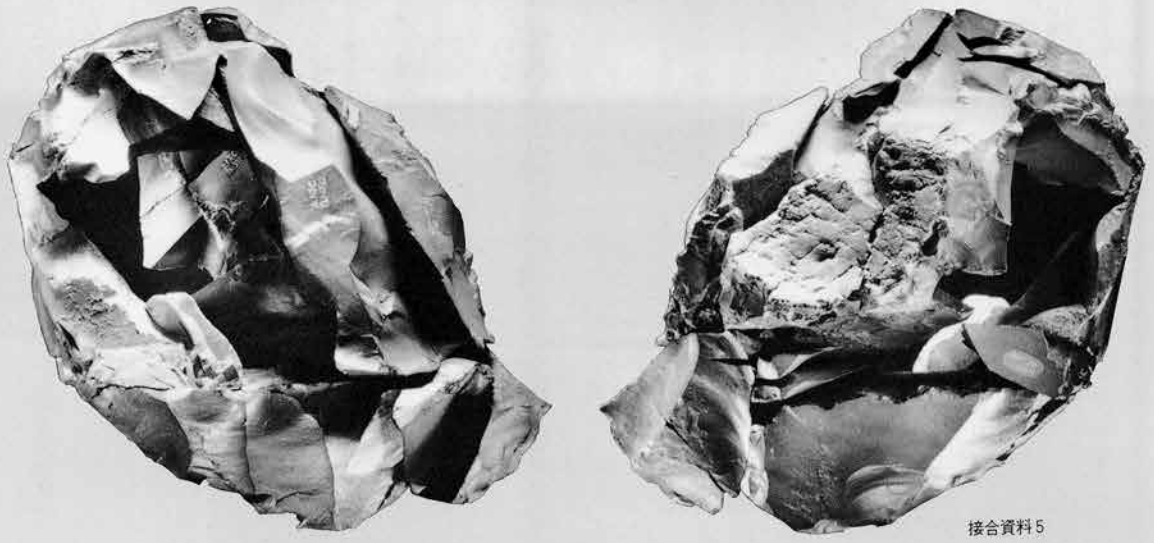
132(B6－58)

134(B10－5)

図版162

縄文時代草創期
接合資料5

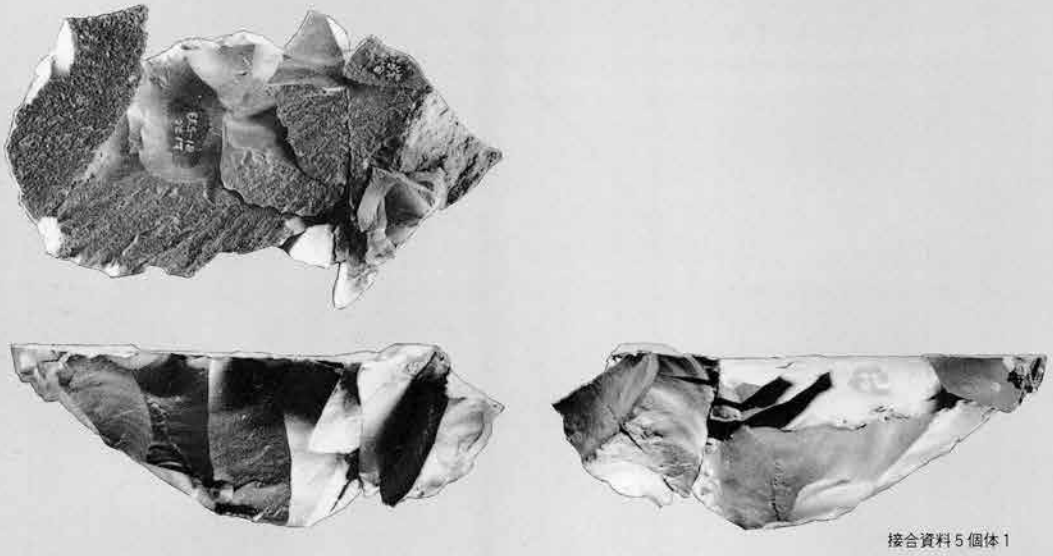
1：2



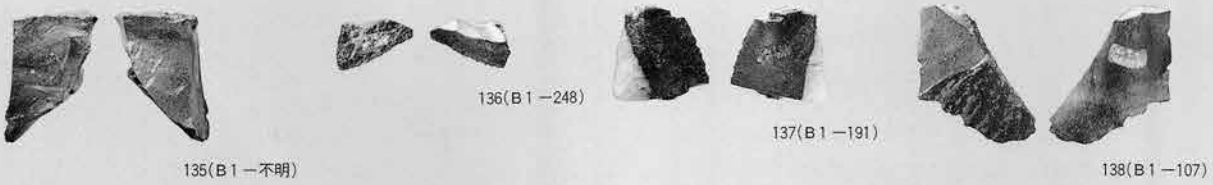
接合資料5

接合資料5
個体1

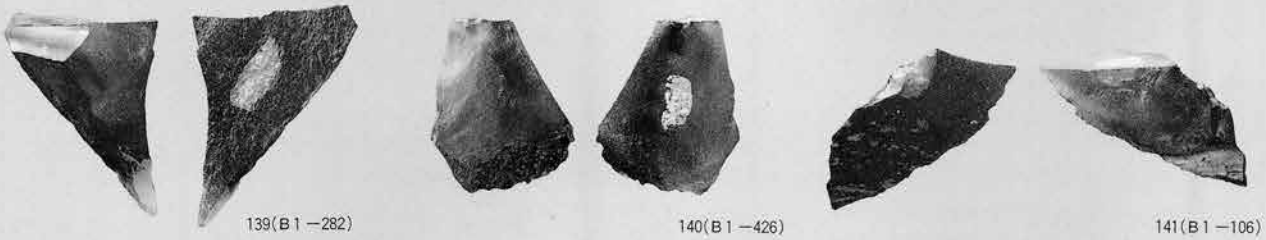
1：2



接合資料5個体1



135(B1－不明)　136(B1－248)　137(B1－191)　138(B1－107)



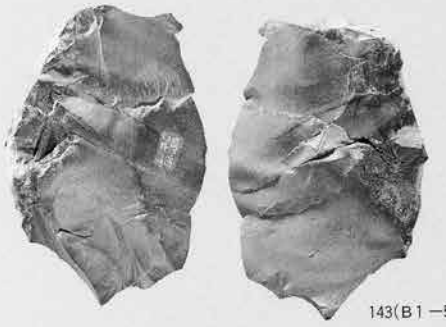
139(B1－282)　140(B1－426)　141(B1－106)

142(B1－533)

縄文時代草創期
接合資料5
個体2

1：2

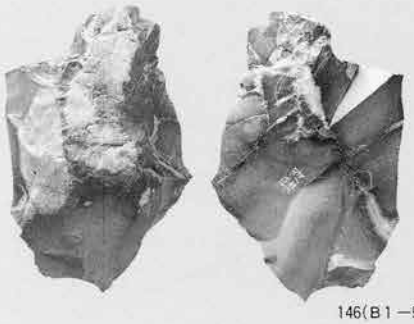
接合資料5個体2



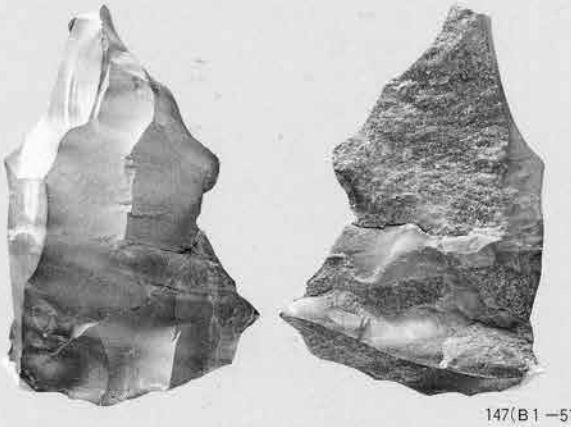
143(B1－510)

144(B1－64)

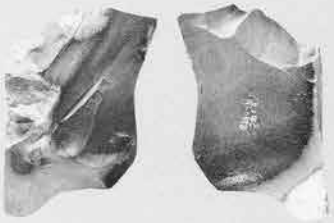
145(B1－355)



146(B1－551)



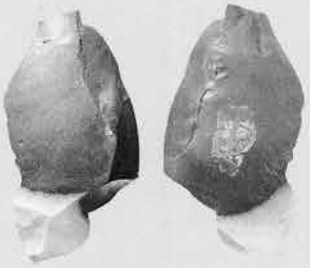
147(B1－512)



148(B1－598)

149(B1－71)

150(B1－405)



151(B1－536)

152(B1－585)

153(B6－4)

154(B1－288)

155(B1－303)

156(B1－38)

図版164

縄文時代草創期
接合資料5
個体2
1：2

157(B1－113)

158(B1－586)

接合資料5個体2

159(B1－485)

接合資料6
1：2

接合資料6

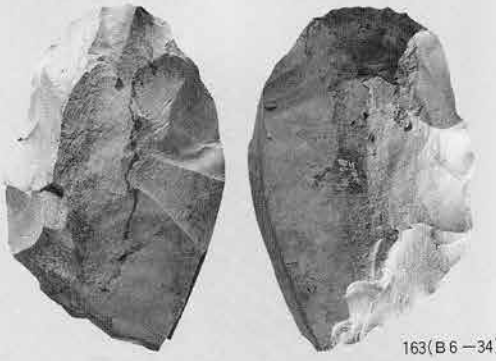
160(B1－560・209)

母岩5
1：2

161(B外－177)

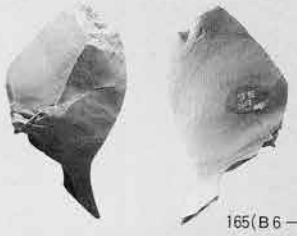
162(B1－531)

母岩6
1：2



163(B6－34)

164(B6－28)



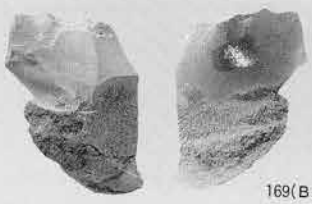
165(B6－36)

166(B6－9)

167(B外－78)

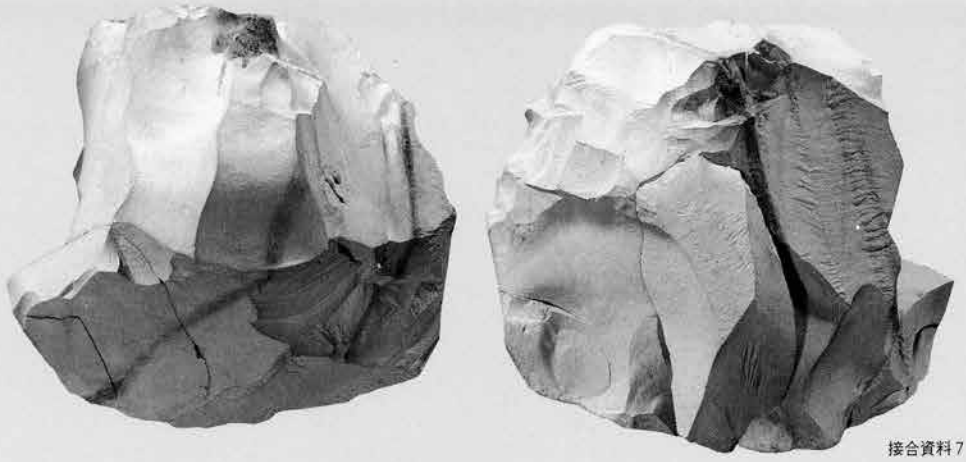
170(B6－27)

168(B6－38)



169(B6－55)

縄文時代草創期
接合資料7
1：2



接合資料7

171(B1－189)

173(B1－593)

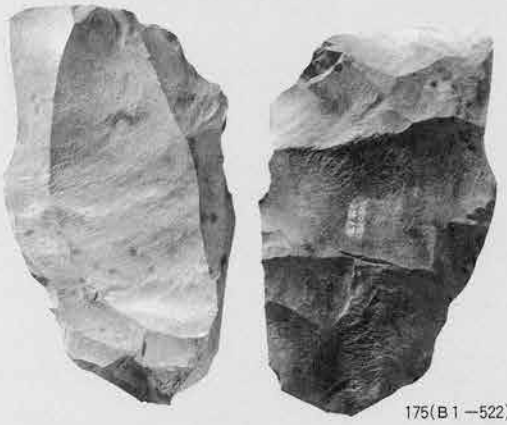
172(B1－532)

母岩7
1：2

174(B1－474)

接合資料8
1：2

接合資料8



175(B1－522)

176(B10－7)

177(B1－276)

178(B1－324)

母岩外
1：2

178(B外－120)

179(B外－132)

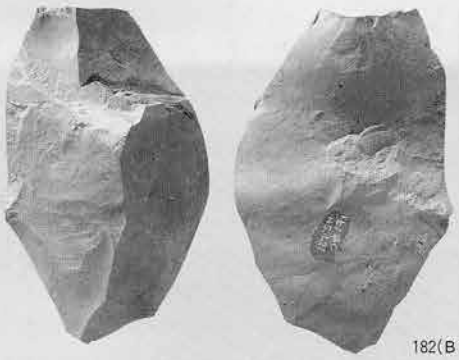
180(B1－659)

図版166

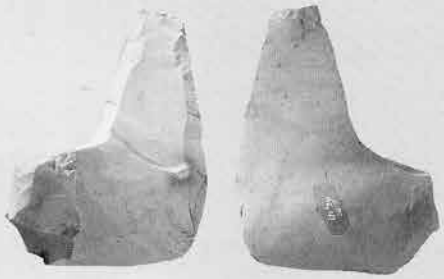
縄文時代草創期
母岩外

1：2

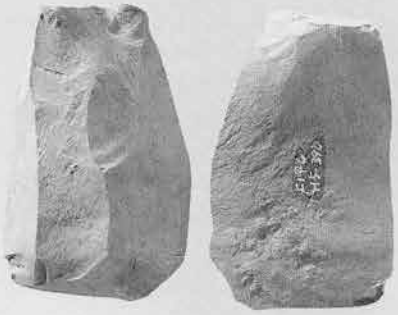
181(B外−88)



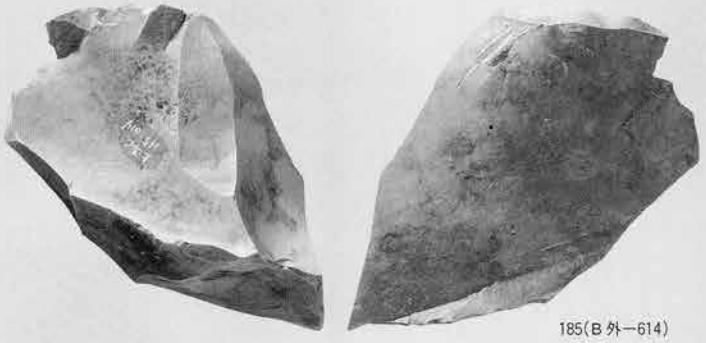
182(B11−1)



183(B外−131)



184(B外−390)

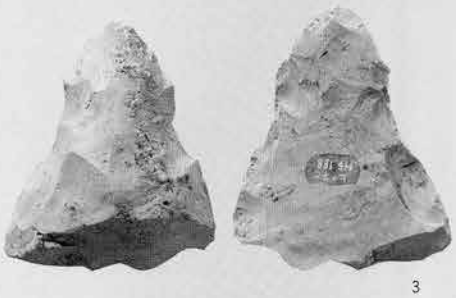


185(B外−614)

縄文時代の石器
(西地区)

1

2



3

4

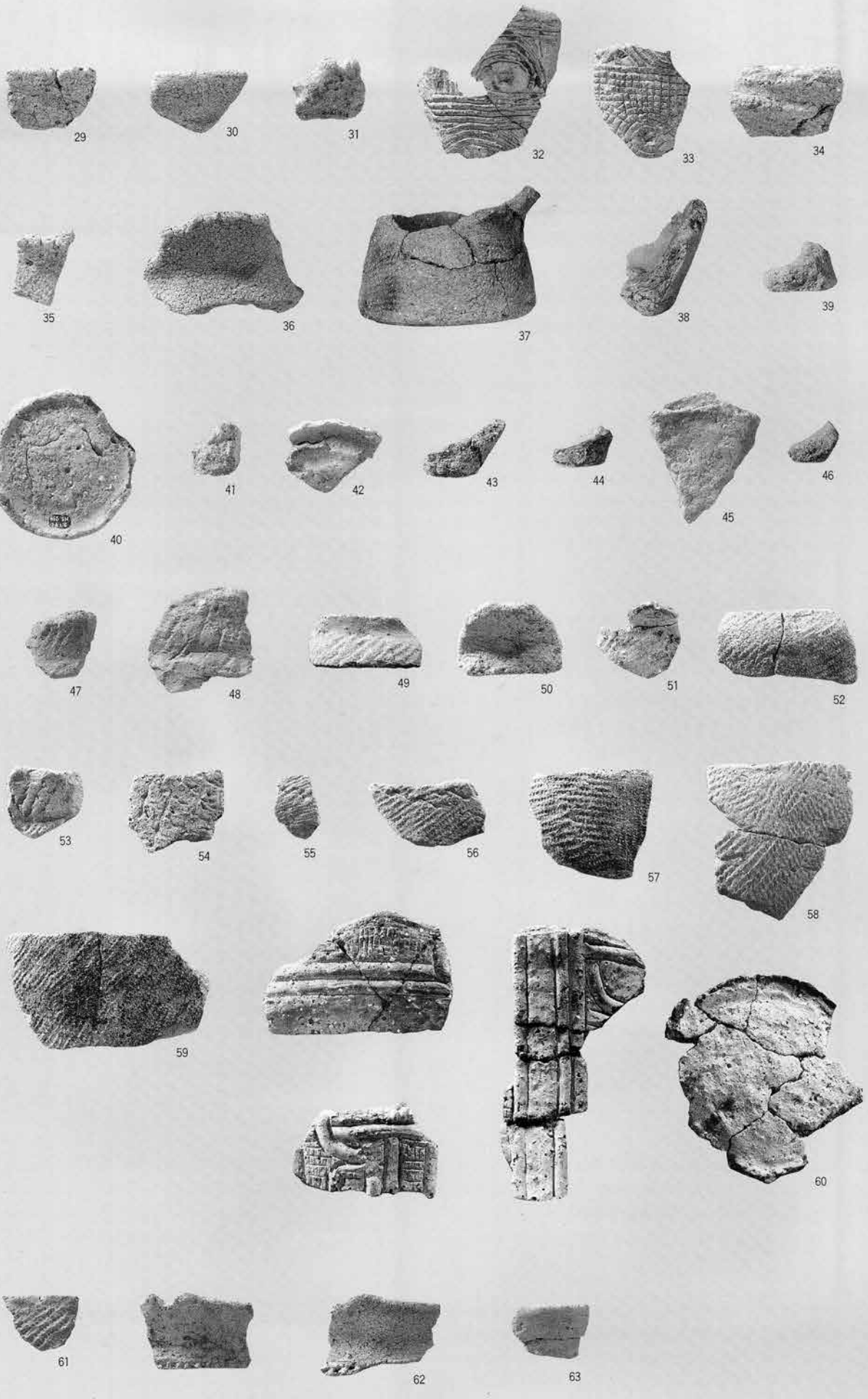
5

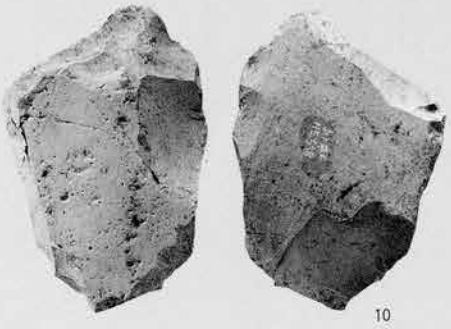
6

縄文土器

1～3・20・21
1：5
4～19・22～28
1：3

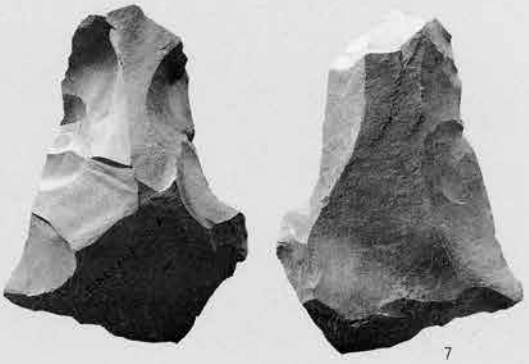
縄文土器
1：3


29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63


10

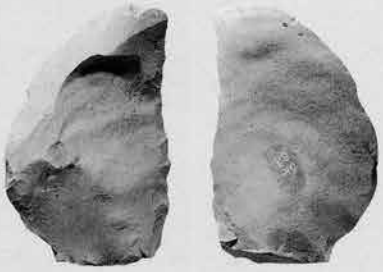
8

9


7

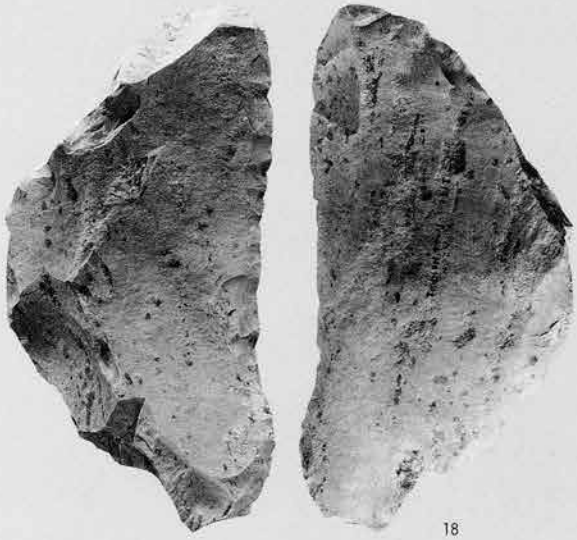
11

12

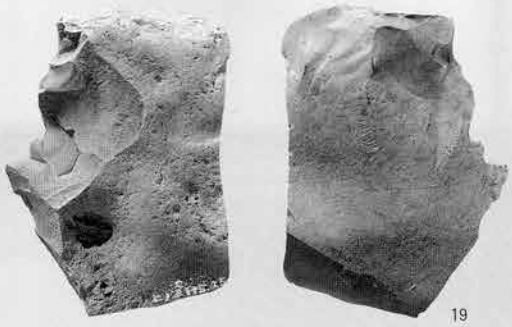

14

15

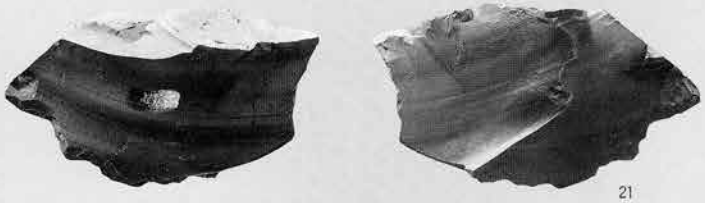
16


18

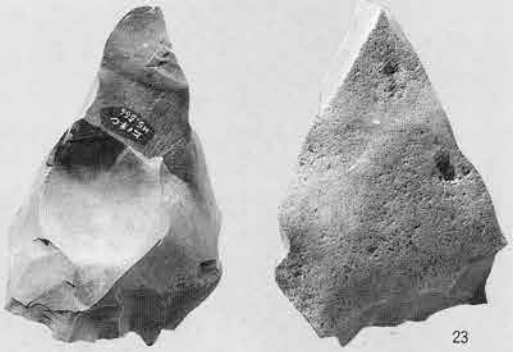
17

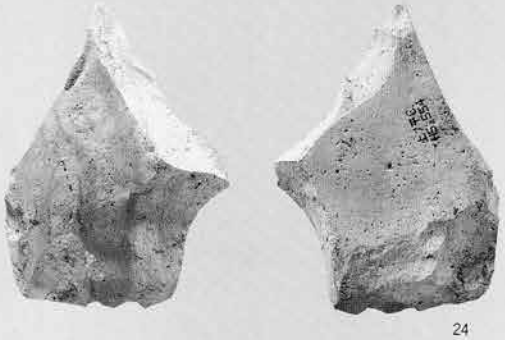

19

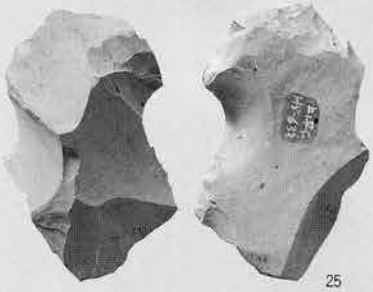
20


21

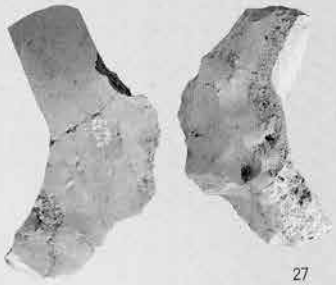
22


23

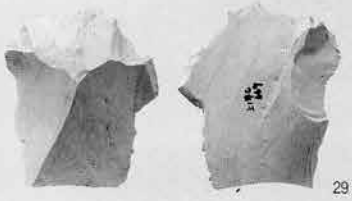

24


25

26

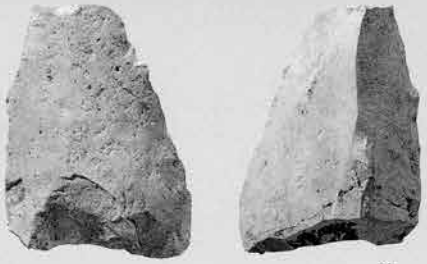

27

28


29

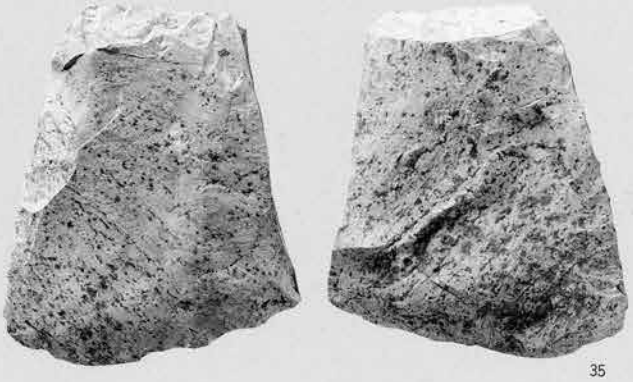
32

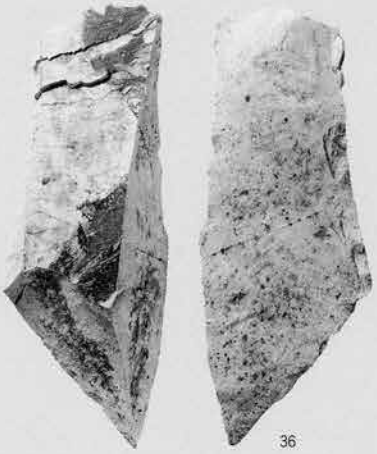
30

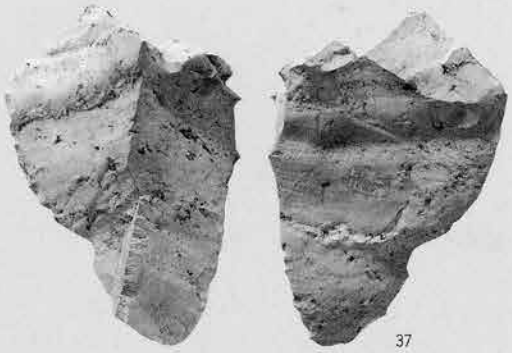

31

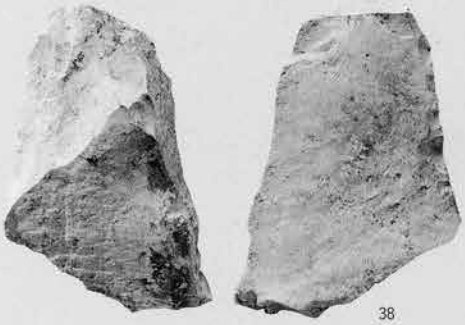
33

34


35


36


37


38

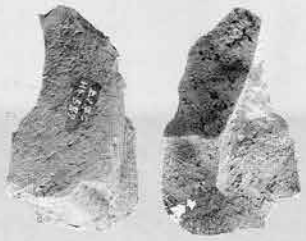
39

40

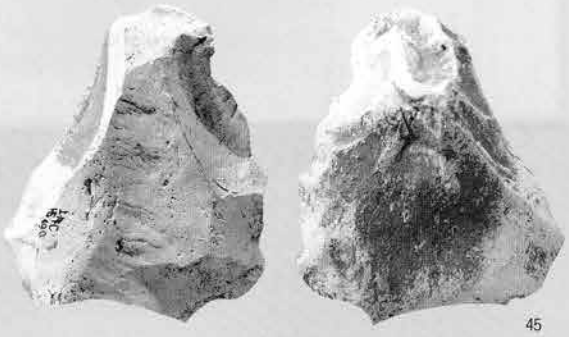
42

41

43



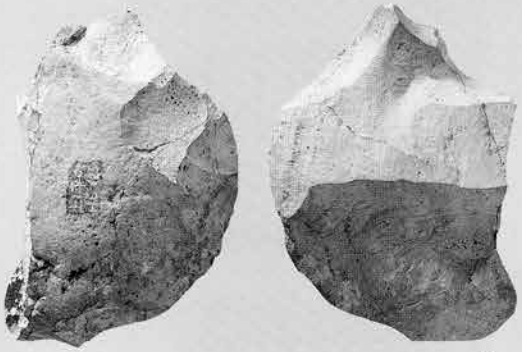
44



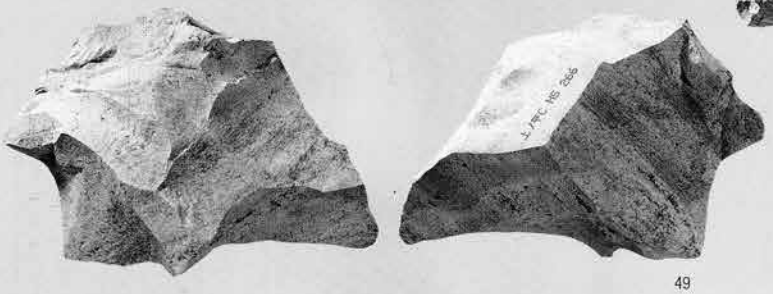
45

46

47



48



49

50

51

52

53

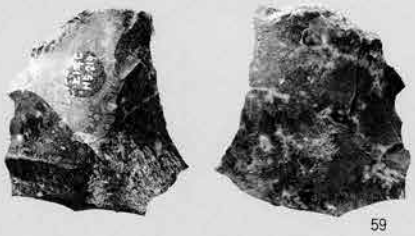
54

55

56

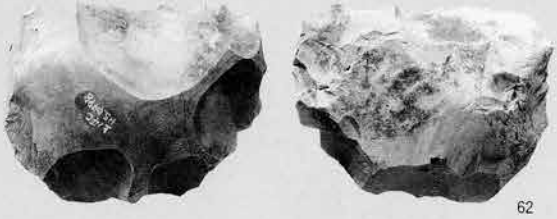
57

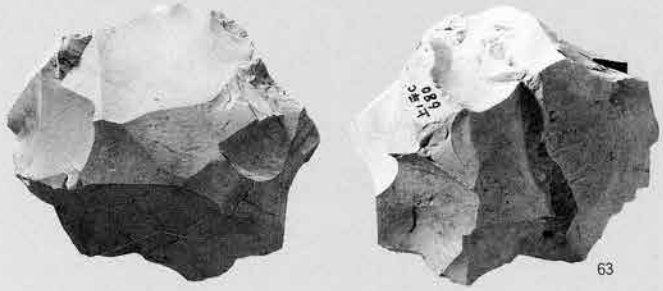
58


59

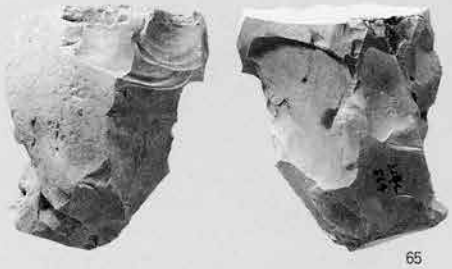
60

61


62


63

64

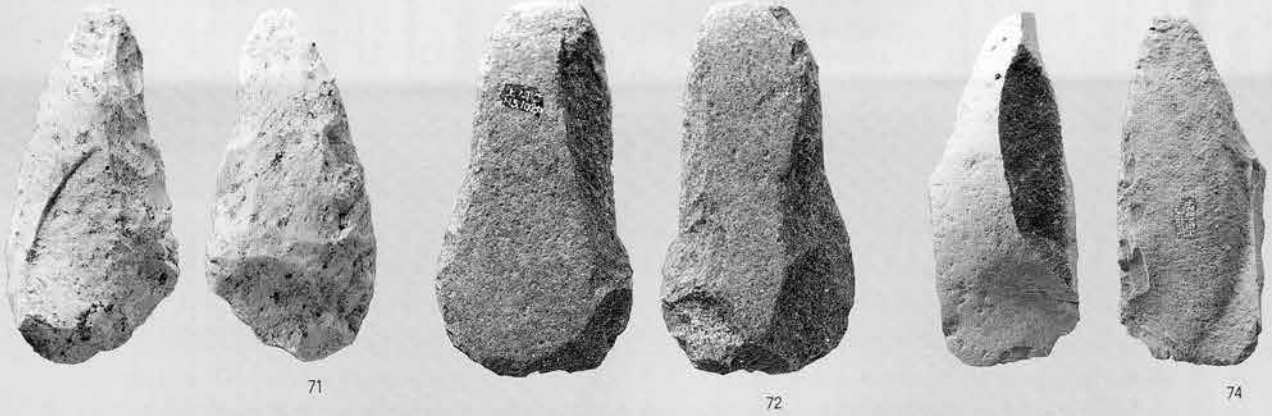

65

66 67

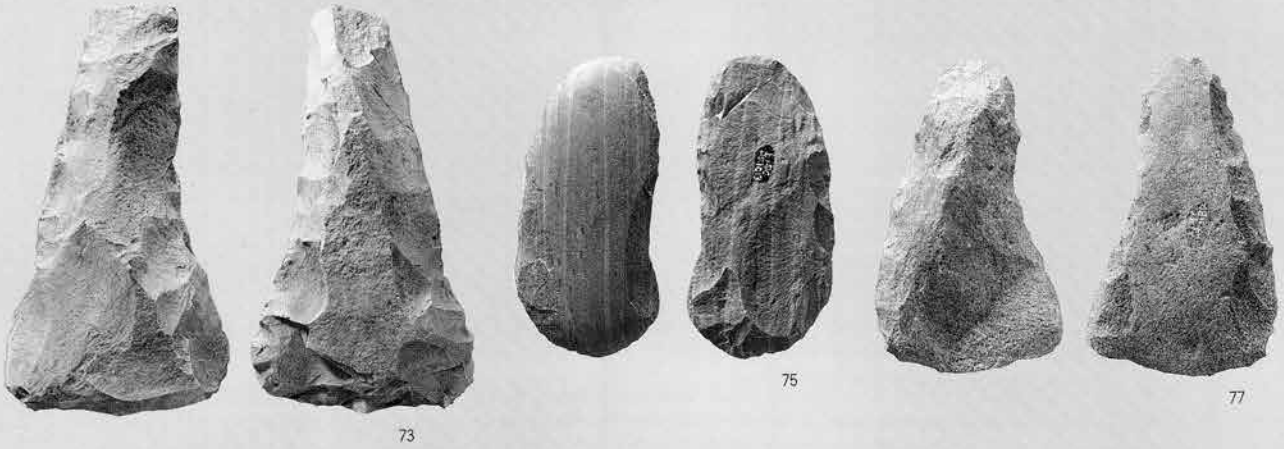
68

69

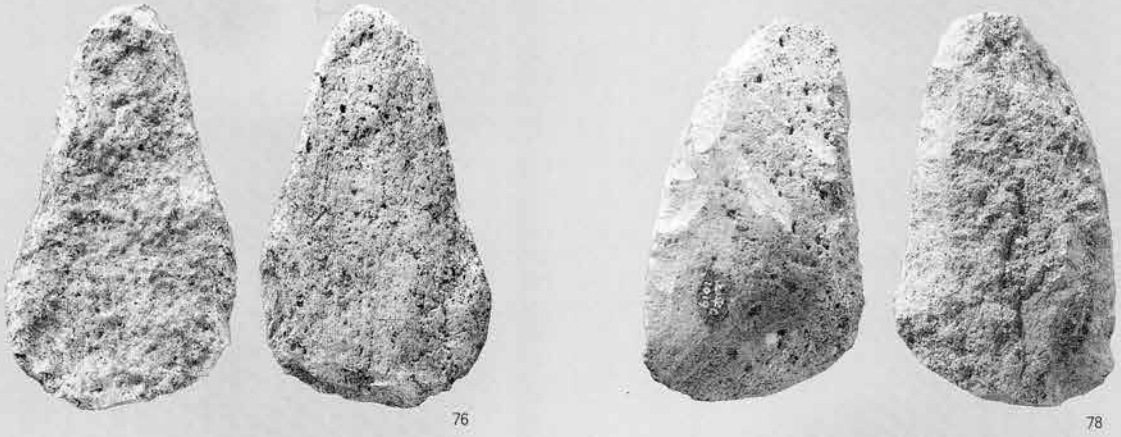
70



71 72 74



73 75 77



76 78

79 80

81

82

83

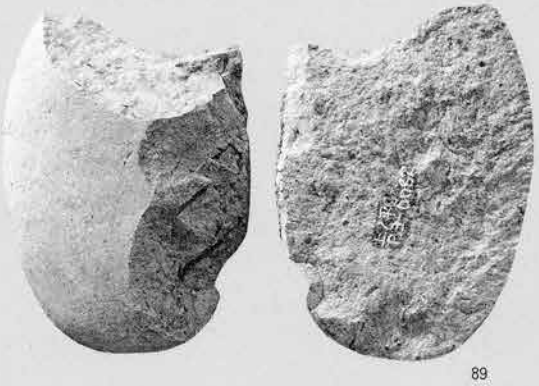
84

85

86

87

88



89

縄文時代の石器
（東地区）

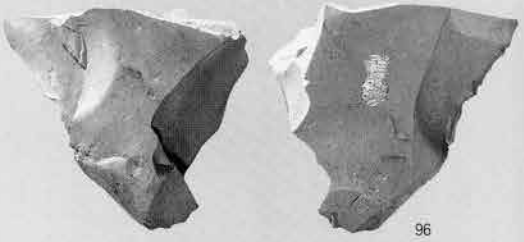
90

91

92

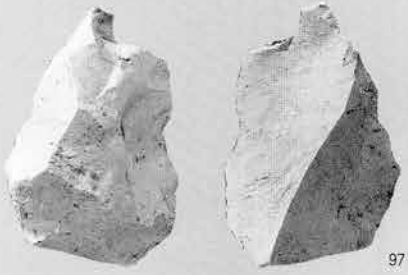
94

93



96

95



97

98

99

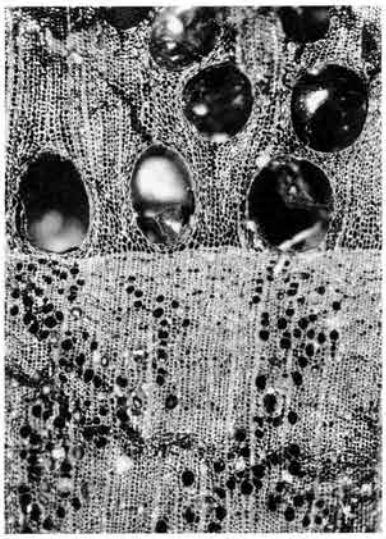
歴史時代の砥石

歴1

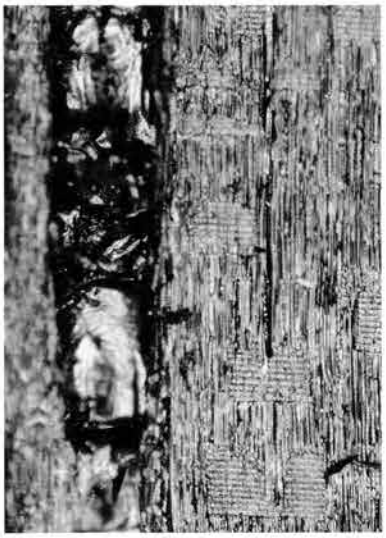
101

102

上ノ平遺跡Ｃ地点出土炭化材の顕微鏡写真



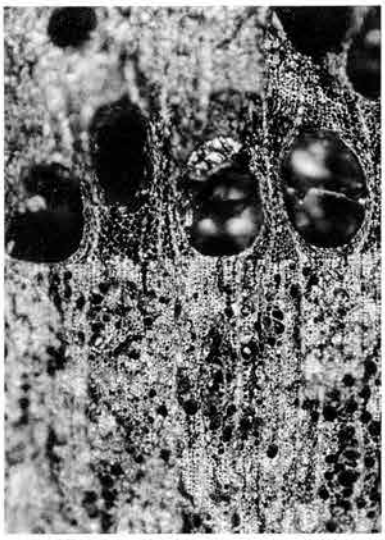
横断面 ——— :0.4mm



放射断面 ——— :0.4mm

接線断面 ——— :0.1mm

1．ＳＩ１　Pit1-b　クリ

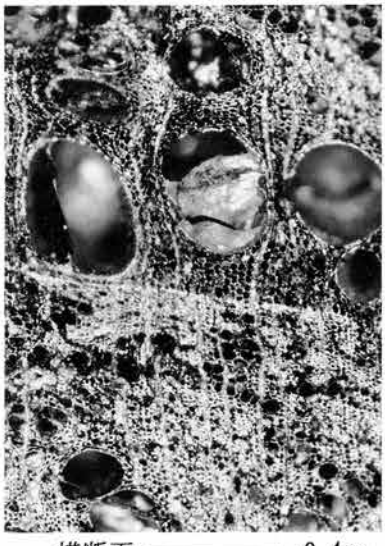


横断面 ——— :0.4mm

放射断面 ——— :0.2mm

接線断面 ——— :0.2mm

2．ＳＫ13-a　クリ



横断面 ——— :0.4mm

放射断面 ——— :0.2mm

接線断面 ——— :0.2mm

3．ＳＫ30-a　クリ

報告書抄録

書　　名	上ノ平（うえのたいら）遺跡Ｃ地点
副 書 名	磐越自動車道関係発掘調査報告書
シリーズ名	新潟県埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第73集
編著者名	沢田　敦
編集機関	財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
所 在 地	〒951 新潟県新潟市一番堀通町5923-46　TEL 025-223-5642
発行年月日	西暦　1996年３月31日

所収遺跡	所在地	コード 市町村	コード 遺跡	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査要因
上ノ平遺跡Ｃ地点	新潟県東蒲原郡三川村（にいがたけんひがしかんばらぐんみかわむら）大字上戸谷渡字上ノ山（おおあざかみとやとあざうえのやま）6270ほか	15-384	24	37度44分秒	139度19分秒	第１次調査 19901119～19901207 第２次調査 19910927～19911204 19920422～19920722 19930412～19930824	10,100㎡	道路（磐越自動車道いわき～新潟線）の建設に伴う事前調査

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上ノ平遺跡Ｃ地点	散布地	旧石器時代	ブロック７か所	石器686点（ナイフ、彫刻刀、石刃、削片など）	中世の遺構は放射性炭素年代測定による
		縄文時代草創期	ブロック５か所	石器923点（尖頭器、彫刻刀、石核、剝片など）	
		前期	竪穴住居跡１棟、ピット１	土器234点、石器368点（石鏃、石匙、篦状石器、両極石器、打製石斧、磨製石斧、不定形石器など）	
		中期	集石遺構３	礫石	
		中世	土坑47、ピット14基		

新潟県埋蔵文化財調査報告書 第73集

磐越自動車道関係発掘調査報告書

上ノ平遺跡Ｃ地点

平成８年３月30日印刷
平成８年３月31日発行

発行・編集　新潟県教育委員会
新潟市新光町４－１
電話　(025) 285-5511

(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
新潟市一番堀通町5923-46
電話　(025) 223-5642

印刷　長谷川印刷
新潟市小針１－11－８
電話　(025) 233-0321

新潟県埋蔵文化財調査報告書　第73集 『上ノ平遺跡Ｃ地点』 正誤表

頁	位置	誤	正
抄録	北緯	３７度４４分	３７度４４分０７秒
抄録	東経	１３９度１９分	１３９度１９分１２秒